

中内村前遺跡 (2)

— 5 ~ 7 区 —

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集

2003

日 本 道 路 公 団
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

中内村前遺跡 (2)

— 5 ~ 7 区 —

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集

2003

日 本 道 路 公 団
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



7-3-3号住居（周溝をもつ建物、南側に入口がある、3世紀末葉、北より）



7-3-6号住居（奥）と7-3-7号住居（手前）（周溝を持つ建物、3世紀末葉、南より）

序

東京大環状道路の一翼を担う北関東自動車道の建設の槌音はさらに中毛から東毛地区へと移り、埋蔵文化財の発掘調査も東毛地区でピークを迎えております。そうした北関東自動車道のうち高崎—伊勢崎間が供用開始となって早くも三年目を迎えました。供用区間である高崎・伊勢崎間を走るたびに、私は当初の予想を上回る交通量を実感し、北関東3県をつなぐ大動脈としての力強さを感じております。

さて、ここに平成9・10年度に発掘調査を実施した中内村前遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊を発刊することとなりました。第2分冊は遺跡の中程を南北に横切る県道藤岡大胡線から東側三百メートル附近までの遺構、遺物についての調査報告であります。掲載した埋蔵文化財は古墳時代から江戸時代にかけてのもので、集落、水田、屋敷跡など多岐にわたりますが、特に弥生時代から古墳時代へ移行する時期の集落が注目されています。報告された遺構の中にはこの時代の研究者の間で論議となっている周溝をもつ建物もあり、県内では例の少ないこの時代の井戸跡の報告もあります。恐らくは弥生時代から古墳時代への移行期の好資料として、今後の調査、研究に資することになるものと思います。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会文化財保護課、そして関係者各位に厚く御礼申し上げる次第です。また発掘調査担当者、作業員及び整理業務に携わった職員、整理補助員各位の労をねぎらい序と致します。

平成15年6月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は北関東自動車道建設に伴い事前調査された中内村前遺跡（遺跡略号KT-120）の発掘調査報告書第2分冊である。本書は中内村前遺跡5～7区に発見された遺構、及び出土遺物を対象に報告する。
2. 中内村前遺跡1～4区を対象とした第1分冊（『中内村前遺跡（1）』）は、日本道路公団及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団より平成14年3月29日付にて発行されている。また、主に中内村前遺跡8・9区を対象とした第3分冊（『中内村前遺跡（2）』）は平成16年3月刊行の予定である。
3. 中内村前遺跡は群馬県前橋市中内町及び同市西善町に所在し、遺跡地の多くを占める大字「中内」と字のうち「村前」を合わせたもので遺跡名としている。
4. 発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施したものであり、整理事業は日本道路公団の委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施したものである。
5. 発掘調査の期間・体制、及び発掘調査報告書第1分冊に係る整理期間・体制は第1分冊に記している。
6. 発掘調査報告書第2分冊に係る整理期間及び体制は次の通りである。

事務担当 小野宇三郎、吉田 豊、住谷永市、神保侑史、巾 隆之、右島和夫、萩原利通、植原恒夫、
西田健彦、相京建史、小山建夫、高橋房雄、竹内 宏、須田朋子、吉田有光、森下弘美、
阿久澤玄洋、田中賢一、今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、
北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田 茂

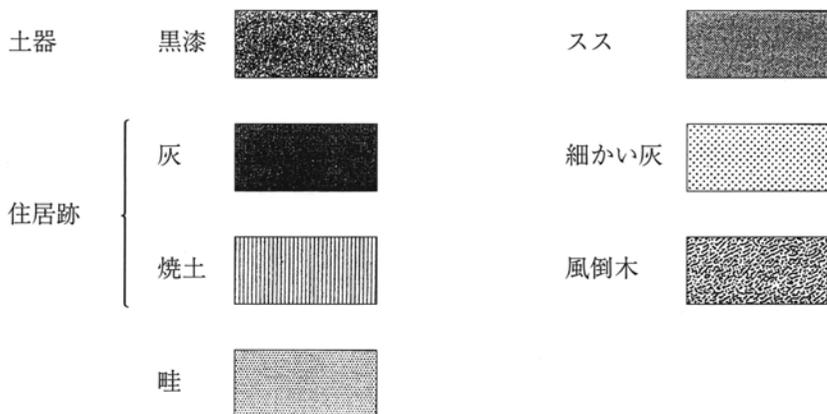
整理担当 石守 晃
7. 本書作成の担当は次の通りである。

編集・執筆 石守 晃
遺構写真撮影 航空写真撮影は技研測量株式会社が、これ以外は各発掘調査担当が行った。
遺物写真撮影 佐藤元彦
金属器処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、高橋初美
木器管理等 横倉知子、藤井文江
整理作業 高橋真樹子、今井サチ子、金子加代、高田栄子、小林町子、根井美智子
機械実測 田中精子、千代谷和子、酒井史恵
8. ①石材鑑定については飯島静男先生の御協力によって同定された。
②テフラ分析、プラント・オパール分析、花粉分析 及び放射性炭素年代測定は株式会社古環境研究所に依頼した。
9. 出土遺物、遺構図面写真の保管については、出土文化財については群馬県の所有に帰し、遺構実測図・遺構写真等については財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の管理に於いて、共に群馬県埋蔵文化財調査センター内に収納されている。
10. 本書の作成に於いては以下の方々にご協力・ご指導戴いた。記して感謝の意を表します。

（敬称略）前橋市教育委員会、飯島義男、井上唯雄、井野修二、井野誠一、金井仁史、児島良昌、
杉田茂俊、前原 豊、松島久二治

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は日本測地系平面直角座標系（所謂国家座標、旧座標）の第Ⅸ系を使用している。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位は“m”を用いた。
3. 遺構名称、遺構番号は区の番号、調査面の番号、遺構種別毎の遺構番号、遺構種別の名称の順に、前3者は間に「-」記号を入れて標記している。尚、遺構番号は調査段階のものをそのまま踏襲したが、調査段階で二重に付してしまった番号については番号の後ろにアルファベットを付して区別した。
4. 本書に於けるテフラ（火山噴出物）の略号は以下の通り
 As-A：浅間山噴出A軽石（天明3年/1783） As-B：浅間山噴出B軽石・火山灰（天仁元年/1108）
 As-C：浅間山噴出C軽石（3世紀末葉） As-YP：浅間山噴出板鼻黄色軽石（1.3～1.4万年前）
 Hr-FA：榛名山二つ岳噴出火山灰（6世紀初頭） Hr-FP：榛名山二つ岳噴出軽石（6世紀前半）
5. 遺構実測図の縮尺は下記を基準としているが、例外としたものは各図に記載している。
 竪穴住居・掘立柱建物1/60 竈・炉1/30 溝1/80
 土坑・ピット・井戸・土坑1/60
6. 遺物実測図の縮尺は下記を基準としている。
 土器・陶磁器等：甕・壺・内耳鍋・播鉢・鉢・火鉢・瓦等1/4 碗・坏・高坏・皿等1/3
 土錘等1/2
 石器・石製品等：台石・礎石・板碑・多孔石・こもあみ石等1/4
 敲石・磨石・打製石斧・砥石（小型）・スクレーパー等1/3
 紡錘車・石製品模造品等1/2 石鏃4/5
 木器・木製品：椀・曲物等1/3 杭・建築材等1/4
 古銭・金属製品：銅銭等4/5 きせる・釘等1/2 刀子・鎌・包丁等1/3
 ガラス製品等：ビン（大型）1/2 ビン（小型）・小型ガラス製品4/5
7. 土層注記中の土色には農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参考に記載している。
8. 図中のスクリーントーン（網掛け）は下記のことを示す。



目 次

口絵	
序	
例言 凡例	
目次	i
遺構番号別目次	iii
挿図目次	v
表目次	vii
写真図版目次	vii
遺構写真使用フィルム資料番号一覧	ix

第1章 中内村前遺跡の概要	1
第1節 中内村前遺跡の概要	1
第2節 1～4区（第1分冊）の概要	2
第2章 発見された遺構と遺物	3
第1節 5区の遺構と遺物	3
5-1 5区の調査概要	3
5-2 5区1面の遺構と遺物	5
溝 5/土坑 14/ピット 16/As-B下水田 17/ 遺構に伴わない遺物 20/爆裂坑 20	
5-3 5区2面の遺構と遺物	21
溝 21/土坑 22/井戸 25/Hr-FA下水田 26/ 遺構に伴わない遺物 28	
5-4 試掘調査と5区3面	29
第2節 6区の遺構と遺物	30
6-1 6区の調査概要	30
6-2 6区1面の遺構と遺物	32
溝 32〔西部 32 中部 39 東部 45〕/土坑〔西部 49 中部 53〕 ピット 67/井戸 69/As-B下水田 71/ 流水痕（五輪塔） 74/遺構外の出土遺物 75	
6-3 6-1-1号屋敷の遺構と遺物	79
溝 80/土坑 88/ピット 94/焼土遺構 95	
6-4 6-1-2号屋敷の遺構と遺物	96
溝 97/土坑 100	
6-5 6区2面の遺構と遺物	103
竪穴住居 103/掘立柱建物 161/道 163/溝 165/ 土坑 182/Hr-FA・FP泥流下水田 188/Hr-FA下水田 190	

	As-C混土水田 196／遺構外の出土遺物他 198	
6-6	6区3面の調査	202
	遺構確認調査 202／風倒木痕 202／下位層 203	
第3節	7区の遺構と遺物	205
7-1	7区の調査概要	205
7-2	7区1面の遺構と遺物	206
	道 206／溝 209／土坑 229／耕作痕・水田 230／ 窪地 234／遺構外の出土遺物 235	
7-3	7区2面の遺構と遺物	238
	竪穴住居 238／溝 243／水田 248	
7-4	7区3面の遺構と遺物	255
	竪穴住居 255／掘立柱建物 279／溝 287／ 竪穴状遺構 289／土坑 289／井戸 292／ 遺構外の遺物 295	
第3章	5～7区小結	305
第1節	自然科学分析	305
	はじめに 305／科学分析の委託と鑑定要件 305／ 『群馬県、中内村前遺跡の自然科学分析』株式会社 古環境研究所 306／ (中内村前遺跡の土層とテフラ 306／中内村前遺跡6区における放射線炭素年代測定 308／中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析 309／中内村前遺跡における花粉 分析 312／中内村前遺跡出土木材の樹種同定 314) 科学分析報告に対する所見 314	
第2節	5～7区小結	315
	5～7区の調査の概略 315／周溝を持つ建物 316	
<hr/>		
	おわりに	327

7-2-27号溝	243	6-1-26号土坑	49	6-1-87号土坑	53	6-1-155号土坑	53
7-2-28号溝	243	6-1-27号土坑	49	6-1-88号土坑	53	6-1-156号土坑	53
7-2-28b号溝	243	6-1-28号土坑	49	6-1-89号土坑	53	6-1-157号土坑	53
7-2-29号溝	243	6-1-29号土坑	49	6-1-90号土坑	53	6-1-158号土坑	53
7-2-30号溝	243	6-1-30号土坑	49	6-1-91号土坑	53	6-1-159号土坑	53
7-2-31号溝	243	6-1-31号土坑	49	6-1-92号土坑	53	6-1-160号土坑	53
7-2-32号溝	246	6-1-32号土坑	49	6-1-93号土坑	53	6-1-161号土坑	53
7-2-33号溝	246	6-1-33号土坑	53	6-1-94号土坑	53	6-1-162号土坑	53
7-2-34号溝	246	6-1-34a号土坑	53	6-1-95号土坑	53	6-1-163a号土坑	53
		6-1-34b号土坑	53	6-1-96号土坑	53	6-1-163b号土坑	96
(3面)		6-1-35号土坑	53	6-1-97号土坑	53	6-1-164号土坑	53
7-2-35号溝	287	6-1-36号土坑	53	6-1-98号土坑	53	6-1-165号土坑	53
7-2-36号溝	288	6-1-37号土坑	53	6-1-99号土坑	53	6-1-166号土坑	96
		6-1-38号土坑	53	6-1-100号土坑	53	6-1-167号土坑	53
		6-1-39号土坑	53	6-1-101号土坑	53	6-1-168号土坑	96
[土坑]		6-1-40号土坑	53	6-1-102号土坑	53	6-1-169号土坑	96
		6-1-41号土坑	53	6-1-103号土坑	53	6-1-175号土坑	53
5区		6-1-42号土坑	53	6-1-105号土坑	53	6-1-178a号土坑	53
(1面)		6-1-43号土坑	53	6-1-109号土坑	53	6-1-178b号土坑	53
5-1-1号土坑	14	6-1-44号土坑	53	6-1-112号土坑	53	6-1-179号土坑	53
5-1-2号土坑	14	6-1-45号土坑	53	6-1-113号土坑	53	6-1-180号土坑	53
5-1-3号土坑	14	6-1-46号土坑	53	6-1-114号土坑	88		
5-1-4号土坑	14	6-1-47号土坑	53	6-1-115号土坑	88	(2面)	
5-1-5号土坑	14	6-1-48号土坑	53	6-1-116号土坑	88	6-2-170号土坑	187
5-1-6号土坑	14	6-1-49号土坑	53	6-1-117号土坑	88	6-2-171号土坑	187
5-1-7号土坑	14	6-1-50号土坑	53	6-1-118号土坑	88	6-2-172号土坑	187
5-1-8号土坑	14	6-1-51号土坑	53	6-1-119号土坑	88	6-2-173号土坑	183
5-1-9号土坑	14	6-1-52号土坑	53	6-1-120号土坑	88	6-2-174号土坑	183
5-1-10号土坑	14	6-1-53号土坑	53	6-1-121号土坑	88	6-2-176号土坑	182
5-1-11号土坑	14	6-1-54号土坑	53	6-1-122号土坑	88	6-2-177号土坑	182
5-1-12号土坑	14	6-1-55号土坑	53	6-1-123号土坑	88	6-2-181号土坑	183
5-1-13号土坑	14	6-1-56号土坑	53	6-1-124号土坑	88	6-2-182号土坑	183
5-1-14号土坑	14	6-1-57号土坑	53	6-1-125号土坑	88	6-2-183号土坑	183
5-1-15号土坑	14	6-1-58号土坑	53	6-1-126号土坑	88	6-2-184号土坑	183
5-1-16号土坑	14	6-1-59号土坑	53	6-1-127号土坑	88	6-2-185号土坑	183
5-1-17号土坑	14	6-1-60号土坑	53	6-1-128号土坑	88	6-2-186号土坑	183
6区		6-1-61号土坑	53	6-1-129号土坑	88	6-2-187号土坑	183
(1面)		6-1-62号土坑	53	6-1-130号土坑	88	6-2-188号土坑	183
6-1-1号土坑	96	6-1-63号土坑	53	6-1-131号土坑	88	6-2-189号土坑	183
6-1-2号土坑	49	6-1-64号土坑	53	6-1-132号土坑	88	6-2-190号土坑	183
6-1-3号土坑	49	6-1-65号土坑	53	6-1-133号土坑	88	6-2-191号土坑	183
6-1-4号土坑	49	6-1-66号土坑	53	6-1-134号土坑	88	6-2-192号土坑	183
6-1-5号土坑	96	6-1-67号土坑	53	6-1-135号土坑	88	6-2-193号土坑	183
6-1-6号土坑	96	6-1-68号土坑	53	6-1-136号土坑	88	6-2-194号土坑	183
6-1-7号土坑	49	6-1-69号土坑	53	6-1-137号土坑	88	6-2-195号土坑	183
6-1-8号土坑	96	6-1-70号土坑	53	6-1-138号土坑	88	6-2-196号土坑	183
6-1-9号土坑	96	6-1-71号土坑	53	6-1-139号土坑	88	6-2-197号土坑	183
6-1-10号土坑	96	6-1-72号土坑	53	6-1-140号土坑	88	6-2-198号土坑	183
6-1-11号土坑	96	6-1-73号土坑	53	6-1-141号土坑	88	6-2-200号土坑	183
6-1-12号土坑	96	6-1-74号土坑	53	6-1-142a号土坑	88	6-2-201号土坑	183
6-1-13号土坑	96	6-1-75号土坑	53	6-1-142b号土坑	88	6-2-202号土坑	183
6-1-14号土坑	96	6-1-76a号土坑	53	6-1-143号土坑	88	6-2-203号土坑	183
6-1-15号土坑	96	6-1-76b号土坑	53	6-1-144号土坑	88	6-2-204号土坑	183
6-1-16号土坑	49	6-1-77号土坑	53	6-1-145号土坑	88	6-2-205号土坑	187
6-1-17号土坑	49	6-1-78号土坑	53	6-1-146号土坑	88	6-2-206号土坑	187
6-1-18号土坑	49	6-1-79号土坑	53	6-1-147号土坑	88	6-2-207号土坑	183
6-1-19号土坑	49	6-1-80号土坑	53	6-1-148号土坑	88	6-2-208号土坑	183
6-1-20号土坑	49	6-1-81号土坑	53	6-1-149号土坑	88	6-2-209号土坑	183
6-1-21号土坑	49	6-1-82号土坑	53	6-1-150号土坑	49	6-2-210号土坑	182
6-1-22号土坑	49	6-1-83号土坑	53	6-1-151号土坑	53	6-2-212号土坑	183
6-1-23号土坑	49	6-1-84号土坑	53	6-1-152号土坑	96	6-2-213号土坑	183
6-1-24号土坑	49	6-1-85号土坑	53	6-1-153号土坑	53	6-2-214号土坑	183
6-1-25号土坑	49	6-1-86号土坑	53	6-1-154号土坑	53	6-2-216号土坑	183

6-2-217号土坑	183	7-3-15号土坑	290	7-3-2号井戸	292	6-1-19号ビット	94
6-2-218号土坑	183	7-3-16号土坑	290	7-3-3号井戸	293	6-1-20号ビット	94
6-2-219号土坑	183	7-3-18号土坑	292	[ビット]		6-1-21号ビット	94
6-2-220号土坑	182	7-3-19号土坑	292			6-1-22号ビット	94
6-2-221号土坑	182	7-3-21号土坑	290	6区		6-1-23号ビット	94
		7-3-22号土坑	289	(1面)		6-1-24号ビット	67
7区		7-3-23号土坑	290	6-1-1号ビット	94	6-1-25号ビット	67
(1面)		7-3-24号土坑	292	6-1-2号ビット	94	6-1-26号ビット	67
7-1-1号土坑	228	7-3-25a号土坑	292	6-1-3号ビット	94	6-1-27号ビット	67
7-1-2号土坑	228	7-3-25b号土坑	290	6-1-4号ビット	94	6-1-28号ビット	67
7-1-3号土坑	228	7-3-27号土坑	289	6-1-5号ビット	94	6-1-29号ビット	67
7-1-4号土坑	228			6-1-6号ビット	94	6-1-30号ビット	67
7-1-5号土坑	228			6-1-7号ビット	94	6-1-31号ビット	67
7-1-6号土坑	228	[井戸]		6-1-8号ビット	94	6-1-34号ビット	67
7-1-7号土坑	228			6-1-9号ビット	94	6-1-35号ビット	67
7-1-8号土坑	228	5区		6-1-10号ビット	94	6-1-36号ビット	67
7-1-9号土坑	228	(2面)		6-1-11号ビット	94	6-1-37号ビット	67
7-1-10号土坑	228	5-2-1号井戸	25	6-1-12号ビット	94	6-1-38号ビット	67
7-1-11号土坑	228	6区		6-1-13号ビット	94	6-1-39号ビット	67
		(1面)		6-1-14号ビット	94	6-1-40号ビット	67
(3面)		6-1-1号井戸	69	6-1-15号ビット	94	6-1-41号ビット	67
7-3-12号土坑	289	7区		6-1-16号ビット	94	6-1-42号ビット	67
7-3-13号土坑	290	(3面)		6-1-17号ビット	94	6-1-43号ビット	67
7-3-14号土坑	292	7-3-1号井戸	292	6-1-18号ビット	94		

挿図目次

第1図	中内村前遺跡位置図と調査区設定位置図	1	第29図	6区1面西部の土坑群(その1)	50・51
第2図	1～4区遺構分布図	2	第30図	6区1面西部の土坑群(その2)	52・53・54
――	5区1～3面概念図	3	第31図	6区1面中部の土坑群(その1)	55
第3図	5-1-1号溝	4	第32図	6区1面中部の土坑群(その2)	56・57
第4図	5-1-2・3・4号溝	6・7	第33図	6区1面中部の土坑群(その3)	58・59
第5図	5-1-5・6号溝	8・9	第34図	6区1面中部の土坑群(その4)	60・61
第6図	5-1-7号溝	10・11	第35図	6区1面中部の土坑群(その5)	62・63
第7図	5-1-8・9・10・11・12号溝	12・13	第36図	6区1面中部の土坑群(その6)	64・65
第8図	5区1面の土坑	14・15	第37図	6区1面中部の土坑群(その7)	66
第9図	5区1面のビット	16	第38図	6区1面のビット群(その1)	67
第10図	5区1面As-B下水田と畦部分図		第39図	6区1面のビット群(その2)	68
	4・5区As-B下水田位置図	18・19	第40図	6-1-1号井戸	69
第11図	5区1面の遺構に伴わない出土遺物		第41図	6区1面As-B下水田(その1)	70・71
	伊勢崎空襲時の爆裂坑	20	第42図	6区1面As-B下水田(その2)と出土遺物	72・73
第12図	5-2-1号溝	21	第43図	6区1面南西部の流水痕	74
第13図	5区2面の土坑群(その1)	22	第44図	6区1面南西部出土の石塔類	75
第14図	5区2面の土坑群(その2)	23	第45図	6区1面遺構外の出土遺物(その1)	76
第15図	5区2面の土坑群(その3)	24	第46図	6区1面遺構外の出土遺物(その2)	77
第16図	5-2-1号井戸及び出土遺物	25	第47図	6区1面遺構外の出土遺物(その3)	78
第17図	5区2面Hr-FA下水田全体図	25	第48図	6区1面遺構外の出土遺物(その4)	79
第18図	5区2面Hr-FA下水田面	26・27	第49図	6-1-1号屋敷全体図	79
第19図	5区2面遺構に伴わない遺物	28	第50図	6-1-20・21・33・35号溝(その1)	80・81
第20図	5区試掘グリッド配置図	29	第51図	6-1-20・21・33・35号溝(その2)	82・83
――	6区1～3面概念図	30・31	第52図	6-1-20号溝出土遺物(その1)	84・85
第21図	6区1面西端部の溝群	32～35	第53図	6-1-20号溝出土遺物(その2)	86
第22図	6-1-3・4号溝	36・37	第54図	6-1-21号溝出土遺物	87
第23図	6-1-22・23・24号溝	38・39	第55図	6-1-1号屋敷内の土坑群(その1)	89
第24図	6区1面中部の溝群(その1)	40・41	第56図	6-1-1号屋敷内の土坑群(その2)	90・91
第25図	6区1面中部の溝群(その2)		第57図	6-1-1号屋敷内の土坑群(その3)	92
	及び6-1-31・32号溝	42・43	第58図	6-1-1号屋敷内のビット群(その1)	93
第26図	6-1-37・40・42号溝	44・45	第59図	6-1-1号屋敷内のビット群(その2)	94
第27図	6-1-38・39号溝	46・47	第60図	6-1-焼土遺構	95
第28図	6-1-41・43号溝	48・49	第61図	6-1-2号屋敷全体図	96

第62図	6-1-2号屋敷内の溝群 (その2)	97~99	第129図	6-2-62号住居と出土遺物	154
第63図	6-1-2号屋敷内の土坑群 (その1)	100・101	第130図	6-2-63号住居と出土遺物	154
第64図	6-1-2号屋敷内の土坑群 (その2)	102	第131図	6-2-64号住居と出土遺物	155
第65図	6-2-1号住居と出土遺物 (その1)	103	第132図	6-2-65号住居と出土遺物	156
第66図	6-2-1号住居と出土遺物 (その2)	104	第133図	6-2-65号住居	157・158
第67図	6-2-2号住居と出土遺物 (その1)	105	第134図	6-2-66号住居	159・160
第68図	6-2-2号住居と出土遺物 (その2)	106	第135図	6-2-66号住居と出土遺物	161
第69図	6-2-3号住居と出土遺物 (その1)	107	第136図	6-2-1号掘立柱建物	162・163
第70図	6-2-3号住居と出土遺物 (その2)	108	第137図	6区2面の道遺構	164・165
第71図	6-2-4号住居と出土遺物 (その1)	108	第138図	6-2-45・65・67・71号溝と出土遺物	166・167
第72図	6-2-4号住居と出土遺物 (その2)	109	第139図	6-2-46・47・49・52・53号溝	168~170
第73図	6-2-5号住居と出土遺物	110	第140図	6-2-50号溝	171
第74図	6-2-6号住居と出土遺物 (その1)	111	第141図	6-2-51・62・63号溝	172・173
第75図	6-2-6号住居と出土遺物 (その2)	112	第142図	6-2-54・59・66号溝	174~176
第76図	6-2-7号住居と出土遺物	112	第143図	6-2-55・61号溝と出土遺物	176・177
第77図	6-2-8号住居と出土遺物 (その1)	113	第144図	6-2-56・58号溝と出土遺物	178・179
第78図	6-2-8号住居と出土遺物 (その2)	114	第145図	6-2-60・64・69・70・72号溝と出土遺物	180・181
第79図	6-2-9号住居と出土遺物	114	第146図	6区2面西部の土坑群	182
第80図	6-2-10号住居と出土遺物 (その1)	115	第147図	6区2面北部の土坑群	183
第81図	6-2-10号住居と出土遺物 (その2)	116	第148図	6区2面中部北寄りの土坑群	184
第82図	6-2-11号住居及び6-2-12号住居	117	第149図	6区2面中部中程の土坑群	185
第83図	6-2-13号住居と出土遺物	118・119	第150図	6区2面中部南寄りの土坑群と出土遺物	186
第84図	6-2-16号住居 (その1)	119	第151図	6区2面東部の土坑群と出土遺物	187
第85図	6-2-16号住居 (その2) と出土遺物	120	第152図	6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田	188・189
第86図	6-2-17号住居と出土遺物	121	第153図	6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田	190・191
第87図	6-2-18号住居 (その1)	121	第154図	6-2-1・2号Hr-FA下水田	192・193
第88図	6-2-18号住居 (その2)	122	第155図	6-2-3号Hr-FA下水田	195
第89図	6-2-19号住居と出土遺物	122・123	第156図	6-2-1号As-C混土水田	197
第90図	6-2-20号住居と出土遺物	124	第157図	6区グリッド設定図	198
第91図	6-2-21号住居 (左)・22号住居 (右) と出土遺物	125	第158図	6区2面遺構外の出土遺物 (その1)	199
第92図	6-2-23号住居 (上)・24号住居 (下)	126	第159図	6区2面遺構外の出土遺物 (その2)	200
第93図	6-2-25号住居	127	第160図	6区2面遺構外の出土遺物 (その3)	201
第94図	6-2-26号住居	127	第161図	6区3面全体図	202・203
第95図	6-2-27号住居	128	第162図	6区3面の風倒木と土層堆積柱状図	204
第96図	6-2-28号住居と出土遺物	129	---	7区1~3面概念図	205
第97図	6-2-29号住居	130	第163図	7-1-1~8・10号道	206・207
第98図	6-2-30号住居と出土遺物	131	第164図	7-1-9・11号道	208
第99図	6-2-31号住居と出土遺物 (その1)	132	第165図	7-1-1号溝	209・210
第100図	6-2-31号住居と出土遺物 (その2)	133	第166図	7-1-5号溝	211
第101図	6-2-32号住居と出土遺物	133	第167図	7-1-2~4・10・11・24号溝と出土遺物	212・213
第102図	6-2-33号住居と出土遺物	134	第168図	7-1-6~8号溝と出土遺物 (その1)	214・215
第103図	6-2-34号住居と出土遺物	135	第169図	7-1-7・8・12・25号溝と出土遺物 (その2)	216・217
第104図	6-2-35号住居と出土遺物	136	第170図	7-1-9号溝	218・219
第105図	6-2-36号住居 (左)・37号住居 (右) と出土遺物	137	第171図	7-1-13~15号溝と出土遺物 (その1)	220・221
第106図	6-2-38号住居と出土遺物	138	第172図	7-1-13・14・23号溝と出土遺物 (その2)	222・223
第107図	6-2-39号住居と出土遺物	138	第173図	7-1-16~19号溝と出土遺物 (その1)	224・225
第108図	6-2-40号住居と出土遺物	139	第174図	7-1-16~22号溝 (その2)	226・227
第109図	6-2-41号住居と出土遺物	140	第175図	7区1面の土坑群と出土遺物 (その1)	228
第110図	6-2-42号住居と出土遺物	140	第176図	7区1面の土坑群 (その2)	229
第111図	6-2-43号住居	141	第177図	7区1面中世耕作痕	230・231
第112図	6-2-44号住居と出土遺物	142	第178図	7区1面中世水田	232
第113図	6-2-45号住居	143	第179図	7区1面As-B下水田と出土遺物	234
第114図	6-2-46号住居と出土遺物	143	第180図	7区1面窪地	235
第115図	6-2-47号住居	144	第181図	7区1面遺構外出土遺物分布状況	236
第116図	6-2-48号住居と出土遺物	145	第182図	7区1面遺構外出土遺物	237
第117図	6-2-49号住居	146	第183図	7-2-1号住居と出土遺物	238
第118図	6-2-50号住居	147	第184図	7-2-2号住居と出土遺物	239
第119図	6-2-51号住居と出土遺物	147	第185図	7-2-5号住居	240
第120図	6-2-52号住居と出土遺物	148	第186図	7-2-5号住居出土遺物	241
第121図	6-2-53号住居	148	第187図	7-2-12・13号住居	242
第122図	6-2-54号住居竈	149	第188図	7-2-26・29号溝と出土遺物 (その1)	243
第123図	6-2-55号住居	149	第189図	7-2-26~31号溝と出土遺物 (その2)	244・245
第124図	6-2-56号住居と出土遺物	150	第190図	7-2-32~34号溝と出土遺物	246・247
第125図	6-2-57号住居と出土遺物	151	第191図	7区2面Hr-FA・FP泥流埋没水田と出土遺物	248・249
第126図	6-2-59号住居と出土遺物	152	第192図	7区2面Hr-FA下水田全体図	251
第127図	6-2-60号住居	152	第193図	7区2面Hr-FA下水田面	252・253
第128図	6-2-61号住居	153	第194図	7-3-3号住居	256~258

第195図	7-3-3号住居出土遺物 (その1)	259	第219図	7-3-1号竪穴状遺構	289
第196図	7-3-3号住居出土遺物 (その2)	260	第220図	7区3面の土坑群と出土遺物 (その1)	289
第197図	7-3-3号住居出土遺物 (その3)	261	第221図	7区3面の土坑群と出土遺物 (その2)	290
第198図	7-3-3号住居出土遺物 (その4)	262	第222図	7区3面の土坑群と出土遺物 (その3)	291
第199図	7-3-3号住居出土遺物 (その5)	263	第223図	7区3面の土坑群 (その4)	292
第200図	7-3-3号住居出土遺物 (その6)	264	第224図	7-3-1・2号井戸と出土遺物	293
第201図	7-3-4号住居と出土遺物	265	第225図	7-3-3号井戸と出土遺物	294
第202図	7-3-6号住居と出土遺物	266・267	第226図	7区3面遺構外取り上げ遺物出土グリッド概念図	295
第203図	7-3-7号住居	268~270	第227図	7区3面遺構外出土遺物分布図	296
第204図	7-3-7号住居出土遺物 (その1)	271	第228図	7区3面遺構外の出土遺物 (その1)	297
第205図	7-3-7号住居出土遺物 (その2)	272	第229図	7区3面遺構外の出土遺物 (その2)	298
第206図	7-3-7号住居出土遺物 (その3)	273	第230図	7区3面遺構外の出土遺物 (その3)	299
第207図	7-3-8号住居と出土遺物	274・275	第231図	7区3面遺構外の出土遺物 (その4)	300
第208図	7-3-9号住居と出土遺物	276	第232図	7区3面遺構外の出土遺物 (その5) (73~79PL110)	301
第209図	7-3-10号住居	277	第233図	7区3面遺構外の出土遺物 (その6)	302
第210図	7-3-11号住居と出土遺物	278	第234図	7区3面遺構外の出土遺物 (その7) (111はPL110)	303
第211図	7-3-1号掘立柱建物	279	第235図	7区3面遺構外の出土遺物 (その8)	304
第212図	7-3-2号掘立柱建物	281	第236図	科学分析サンプリング位置図	305
第213図	7-3-3号掘立柱建物と出土遺物	282	第237図	科学分析土層柱状図、プラント・オパール分析結果、花粉分析ダイアグラム	310・311
第214図	7-3-4号掘立柱建物	283	第238図	「周溝を持つ建物」の推定復元	317
第215図	7-3-5号掘立柱建物	284	第239図	群馬県地域の周溝をもつ建物 (その1)	319
第216図	7-3-6号掘立柱建物	285	第240図	群馬県地域の周溝をもつ建物 (その2)	321
第217図	7-3-7・8号掘立柱建物	287	第241図	群馬県地域の周溝をもつ建物の分類	324・325
第218図	7-3-35・36号溝と出土遺物	288			

表目次

第1表	中内村前遺跡におけるテフラ検出分析結果	307	遺物一覧	5区遺構外の出土遺物	331・332
第2表	中内村前遺跡における屈折率測定結果	308	遺物一覧	6区1面出土遺物	333~345
第3表	群馬県、中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析結果	310	遺物一覧	6区2面出土遺物	346~369
第4表	中内村前遺跡における花粉分析結果	313	遺物一覧	7区1面出土遺物	370~375
第5表	中内村前遺跡の樹種同定結果	314	遺物一覧	7区2面出土遺物	375~385
遺物一覧	5区1面出土遺物	330	遺物一覧	7区3面出土遺物	379~401
遺物一覧	5区2面出土遺物	330・331			

写真図版目次

口 絵	7-3-3号住居全景		6-1-1号屋敷と6-1-32号溝 (手前)	
PL1	5区1面全景 5区1面西部全景		6-1-1号屋敷内土坑群 6区1面中部土坑群	
PL2	5-1-5号溝土層 5-1-5号溝全景 5-1-5号溝全景	PL11	6区1面西端部溝群 6区1面As-B下水田面 6-1-3号溝全景	
	5-1-7号溝土層 5-1-7号溝全景 5-1-9・10号溝全景		6-1-4・13・19号溝全景 6-1-4・22・23号溝全景	
PL3	5-1-9・10号溝全景 5-1-11号溝土層 5-1-11号溝全景		6-1-4・13・19号溝 6-1-5号土坑全景	
	5-1-12号溝全景 5-1-11号土坑全景	PL12	6-1-14~16・38号溝全景 6-1-13号溝全景	
PL4	5-1-12号土坑全景 5-1-14号土坑全景 5-1-15号土坑全景		6-1-20・32号溝全景 6-1-20・21・32号溝全景	
	5-1-16号土坑全景 5-1-17号土坑全景 5-1-1号爆裂坑全景		6-1-20・21号溝全景 6-1-13・31・44号溝全景	
PL5	5区2面東部全景 5区2面東部全景	PL13	6-1-31・32・38号溝全景 6-1-39・42号溝全景	
PL6	5-2-1・2号溝全景 5-2-Hr-FA下水田 5-2-北部全景		6-1-31・37~39・42号溝全景 6-1-38・41号溝全景	
	5-2-Hr-FA水田北部 5-2-Hr-FA下水田東部		6-1-40号溝全景 6-1-39・42号溝全景 6-1-43号溝全景	
	5-2-Hr-FA下水田南部 5-2-Hr-FA下水田南部	PL14	6-1-41号溝全景 6-1-37~40・42号溝全景	
	5-2-1号井戸		6-1-31・37・39・42号溝全景 6区1面西半北部土坑群	
PL7	5区出土遺物		6区1面西半北部土坑群 6-1-16号土坑全景	
PL8	6区1面西半部全景 6区1面西半部土坑群		6-1-147号土坑全景	
PL9	6-1-1号屋敷全景 6-1-1号屋敷全景	PL15	6-1-164号土坑全景 6-1-165号土坑全景	
PL10	6区1面西南部全景 6-1-2号屋敷内東部溝・土坑群		6-1-180号土坑全景 6-1-147号土坑全景	
	6-1-2号屋敷内西部溝・土坑群 6区1面東部溝群		6-1-164号土坑全景 6-1-165号土坑全景	
	6区1面西半部中部土坑群		6-1-166号土坑全景 6-1-167号土坑全景	

PL16	6-1-168号土坑全景 6-1-169号土坑全景 6-1-179号土坑全景 6-2-182号土坑全景 6-1-1号井戸全景 6-1-8号ピット全景 6区1面五輪塔等出土状況 6区1面銅銭等出土状況		6-2-59号住居掘り方全景 6-2-60号住居全景 6-2-62号住居全景 6-2-61号住居全景 6-2-62号住居竈全景 6-2-61号住居掘り方全景
PL17	6区1面東部As-B下水田面 6区1面東部As-B下水田面全景 6区1面西端部As-B下水田面 6区1面西端部As-B下水田面 6区1面西端部As-B下水田面	PL34	6-2-65号住居全景 6-2-65号住居周溝 6-2-65号住居周溝遺物出土状況 6-2-65号住居遺物出土状況 6-2-65号住居遺物出土状況 6-2-65号住居周溝遺物出土状況 6-2-66号住居遺物出土状況 6-2-66号住居全景
PL18	6区2面竪穴住居分布状況 6-2-1号住居全景 6-2-1号住居掘り方全景 6-2-2号住居竈全景 6-2-2号住居全景	PL35	6-2-66号住居周溝遺物出土状況 6-2-66号住居覆土断面 6-2-1号掘立柱建物全景 6-2-1号道全景 6区2面航空写真
PL19	6-2-2号住居掘り方全景 6-2-3号住居全景 6-2-4号住居全景 6-2-3号住居竈全景 6-2-4号住居掘り方全景 6-2-4号住居竈全景 6-2-5号住居全景 6-2-5号住居掘り方全景	PL36	6区2面全景 6-2-45・54号溝切り合い断面 6-2-46・47号溝切り合い断面 6-2-45・49号溝切り合い断面 6-2-48・49・53号溝切り合い断面 6-2-4号道・51号溝切り合い断面 6-2-51号溝・176号土坑切り合い断面
PL20	6-2-5号住居竈掘り方 6-2-6号住居全景 6-2-6号住居竈全景 6-2-6号住居掘り方全景 6-2-8号住居全景 6-2-7・8号住居全景 6-2-8号住居竈 6-2-9号住居掘り方全景	PL37	6-2-62号溝・210号土坑切り合い断面 6-2-62・63号溝切り合い断面 6-2-71号溝覆土断面 6-2-170号土坑全景 6-2-171号土坑全景 6-2-172号土坑覆土断面 6-2-173号土坑全景 6-2-174号土坑覆土断面
PL21	6-2-9号住居竈 6-2-10号住居全景 6-2-10号住居掘り方全景 6-2-10号住居竈 6-2-12・21号住居全景 6-2-12号住居竈 6-2-13号住居全景 6-2-13号住居掘り方全景	PL38	6-2-49・54号溝切り合い断面 6-2-54号溝・178号土坑切り合い断面 6-2-171号土坑覆土断面 6-1-175号土坑全景 6-2-176号土坑全景 6-2-177号土坑全景 6-1-179号土坑全景 6-1-180号土坑覆土断面
PL22	6-2-16・18号住居全景 6-2-16号住居竈全景 (遺物出土状況) 6-2-16号住居遺物出土状況 (竈前) 6-2-16号住居竈掘り方全景 6-2-1・17・22号住居全景 6-2-18号住居全景 6-2-19号住居全景 (遺物出土状況) 6-2-19号住居掘り方全景	PL39	6-2-181号土坑全景 6-2-182号土坑全景 6-2-183号土坑全景 6-2-184号土坑全景 6-2-185号土坑全景 6-2-186号土坑全景 6-2-187号土坑全景 6-2-189号土坑全景
PL23	6-2-19号住居竈全景 6-2-19・20号住居 (掘り方) 全景 6-2-22号住居全景 6-2-20号住居竈全景 6-2-17・22号住居掘り方全景 6-2-23号住居竈全景 6-2-24号住居竈掘り方全景 6-2-23号住居竈全景	PL40	6-2-200号土坑全景 6-2-202号土坑全景 6-2-205号土坑全景 6-2-205号土坑出土遺物 6-2-208号土坑全景 6-2-208号土坑出土遺物 6-2-213号土坑全景 6-2-214号土坑全景
PL24	6-2-25号住居全景 6-2-25号住居竈全景 6-2-26号住居全景 6-2-26号住居竈全景 6-2-27号住居全景 6-2-27号住居竈全景 6-2-28号住居掘り方全景 6-2-28号住居竈全景	PL41	6-2-191号土坑全景 6-2-192号土坑全景 6-2-193号土坑全景 6-2-191~196号土坑全景 6-2-196号土坑全景 6-2-198号土坑全景 6-2-190・197号土坑
PL25	6-2-29号住居全景 6-2-29号住居竈 6-2-30・31号住居全景 6-2-30・31号住居掘り方全景 6-2-30号住居竈覆土断面 6-2-30号住居竈掘り方覆土断面 6-2-32号住居全景 6-2-32号住居竈全景	PL42	6区2面Hr-FA・FP泥流下水田全景 6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田全景 6-2-46号溝と1号Hr-FA・FP泥流下水田 6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田全景 6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田航空写真
PL26	6-2-33号住居全景 6-2-33号住居掘り方全景 6-2-33号住居竈全景 6-2-33号住居竈掘り方全景 6-2-34号住居竈全景 6-2-34号住居竈掘り方全景 6-2-35号住居全景 6-2-35号住居掘り方全景	PL43	6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田航空写真 6区2面Hr-FA下水田航空写真 6-2-1号Hr-FA下水田全景 6-2-1号Hr-FA下水田面足跡 6-2-1号Hr-FA下水田面足跡 6-2-1号Hr-FA下水田面足跡 (接写)
PL27	6-2-36号住居竈セクション 6-2-32・34・36・37・38号住居 6-2-37号住居竈掘り方全景 6-2-39号住居全景	PL44	6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田航空写真 6区2面Hr-FA下水田航空写真 6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田航空写真 6区2面Hr-FA下水田航空写真 6-2-1号Hr-FA下水田全景 6-2-1号Hr-FA下水田面足跡 6-2-1号Hr-FA下水田面足跡
PL28	6-2-39号住居全景 6-2-30・39・40号住居全景 6-2-40号住居全景 6-2-39・40号住居掘り方全景 6-2-40号住居竈全景 6-2-40号住居竈掘り方全景 6-2-41号住居全景 6-2-41号住居竈全景	PL45	6-2-2号Hr-FA下水田全景 6-2-2号Hr-FA下水田面 6-2-2号Hr-FA下水田面 6-2-2号Hr-FA下水田面 6-2-2号Hr-FA下水田面
PL29	6-2-42号住居掘り方全景 6-2-42号住居竈全景 6-2-43号住居全景 6-2-44号住居全景 6-2-44号住居竈全景 6-2-44号住居竈掘り方全景 6-2-45号住居掘り方覆土 6-2-46号住居掘り方覆土	PL46	6-2-3号Hr-FA下水田面 6区2面全景
PL30	6-2-46号住居竈全景 6-2-47号住居竈全景 6-2-47号住居掘り方全景 6-2-48号住居全景 6-2-48号住居竈覆土断面 6-2-48号住居全景 6-2-49号住居全景 6-2-49号住居掘り方全景	PL47	6区2面遺構外出土遺物出土状況 6区2面確認状況 6区3面試掘状況 6区3面風倒木確認状況 6区3面下位層確認調査状況
PL31	6-2-50号住居全景 6-2-50号住居竈全景 6-2-51号住居全景 6-2-51号住居竈全景 6-2-51号住居貯蔵穴 6-2-52号住居全景 6-2-52号住居竈掘り方全景 6-2-52号住居全景	PL48	6-1-溝・土坑出土遺物
PL32	6-2-53号住居全景 6-2-53号住居竈全景 6-2-54号住居竈全景 6-2-48・55号住居掘り方全景 6-2-48・56号住居全景 6-2-55号住居覆土断面 6-2-56号住居竈全景 6-2-56号住居竈掘り方全景	PL49	6区1面出土遺物 (1)
PL33	6-2-57号住居全景 6-2-57号住居竈全景	PL50	6区1面出土遺物 (2)
		PL51	6区1面出土遺物 (3)
		PL52	6区1面出土遺物 (4)
		PL53	6区1面出土遺物 (5)
		PL54	6-1-溝出土遺物 (1)
		PL55	6-1-溝出土遺物 (2)
		PL56	6-1-溝出土遺物 (3)
		PL57	6-1-溝出土遺物 (4)
		PL58	6-2-溝・土坑・1号住居出土遺物
		PL59	6-2-2・3号住居出土遺物
		PL60	6-2-3・4・5号住居出土遺物

PL61	6-2-5・6・8号住居出土遺物	7-3-7号住居周溝遺物出土状況	
PL62	6-2-8～10・13号住居出土遺物	7-3-7号住居周溝遺物出土状況 7-3-8号住居全景	
PL63	6-2-13・16・17・19号住居出土遺物	7-3-9号住居全景 7-3-10号住居全景	
PL64	6-2-19～22・28号住居出土遺物	7-3-11号住居全景	
PL65	6-2-30～34号住居出土遺物	PL85	7-3-1号掘立柱建物全景 7-3-2号掘立柱建物全景
PL66	6-2-34～42・44・46・48号住居出土遺物	7-3-5号掘立柱建物全景 7-3-6号掘立柱建物全景	
PL67	6-2-48・51・52・56・57・59・62～65号住居出土遺物	7-3-7号掘立柱建物全景 7-3-35号溝全景	
PL68	6-2-65号住居出土遺物	7-3-3号掘立柱建物全景 7-3-1号竪穴住居全景	
PL69	6-2-66号住居・溝出土遺物	PL86	7-3-14号土坑全景 7-3-12号土坑全景 7-3-23号土坑全景
PL70	6-2-溝・土坑出土遺物	7-3-24号土坑全景 7-3-25b号土坑全景	
PL71	6区グリット出土遺物(1)	7-3-2号井戸覆土断面全景	
PL72	6区グリット出土遺物(2)	7-3-1号井戸全景 7-3-3号井戸全景	
PL73	6区グリット出土遺物(3)	PL87	7-1-溝・土坑出土遺物
PL74	7区1面道群 7-1-1号溝全景 7-1-2～4号溝全景	PL88	7-1-表土出土遺物
	7-1-2号溝全景 7-1-4号溝全景 7-1-5号溝全景	PL89	7-1-表土・7-2-2号住居出土遺物
	7-1-8号溝全景 7-1-9号溝全景	PL90	7-2-5号住居出土遺物
PL75	7-1-13・14・25号溝全景 7-1-16・17・18号溝全景	PL91	7-2-住居・溝他出土遺物
	7-1-1号土坑全景 7-1-2号土坑全景 7-1-3号土坑全景	PL92	7-3-3号住居出土遺物(1)
	7-1-4号土坑全景 7-1-5号土坑全景 7-1-6号土坑全景	PL93	7-3-3号住居出土遺物(2)
PL76	7-1-7号土坑全景 7-1-8・9号土坑全景	PL94	7-3-3号住居出土遺物(3)
	7-1-10号土坑全景 7区1面中世耕作痕 7区1面中世耕作痕	PL95	7-3-3号住居出土遺物(4)
	7区1面中世耕作痕 7区1面中世水田面	PL96	7-3-3号住居出土遺物(5)
	7区1面中世水田面	PL97	7-3-3号住居出土遺物(6)
PL77	7区1面中世水田 7区1面中世水田 7区1面As-B下水田	PL98	7-3-3号住居出土遺物(7)
PL78	7区2面全景 7区2面全景(東より)	PL99	7-3-3・4・6号住居出土遺物
PL79	7-2-1号住居全景 7-2-1号住居竈全景	PL100	7-3-7号住居出土遺物
	7-2-2号住居全景 7-2-2号住居竈全景	PL101	7-3-7・8号住居出土遺物
	7-2-5号住居全景 7-2-5号住居竈全景	PL102	7-3-住居・掘立・溝・土坑出土遺物
	7-2-12号住居竈掘り方全景 7-2-5号住居竈掘り方全景	PL103	7-3-2・3号井戸出土遺物
PL80	7-2-13号住居 7-2-14号住居焼土(竈?)検出状況	PL104	7区グリット出土遺物(1)
	7-2-26～30号溝全景 7-2-32号溝全景	PL105	7区グリット出土遺物(2)
	7区2面Hr-FA・FP下水田全景	PL106	7区グリット出土遺物(3)
PL81	7区2面Hr-FA・FP泥流水田及びHr-FA下水田	PL107	7区グリット出土遺物(4)
	7区2面Hr-FA・FP泥流水田及びHr-FA下水田(西より)	PL108	7区グリット出土遺物(5)
PL82	7区2面Hr-FA下水田	PL109	7区グリット出土遺物(6)
PL83	7-3号住居全景 7-3-3号住居周溝遺物出土状況	PL110	7区グリット出土遺物(7)
	7-3-3号住居周溝遺物出土状況 7-3-3号住居周溝土層断面	PL111	7区グリット出土遺物(8)
	7-3-4号住居全景 7-3-6号住居全景		科学分析
	7-3-6号住居遺物出土状況	PL112	出土木材組織顕微鏡写真(1)
	7-3-6・11号住居附近遺物出土状況	PL113	出土木材組織顕微鏡写真(2)
PL84	7-3-7号住居全景 7-3-7号住居周溝遺物出土状況	PL114	出土木材組織顕微鏡写真(3)

遺構写真使用フィルム資料番号一覧

PL 1	04-000272-12 04-000272-11	04-000157-5 04-000150-8 04-000154-7	
PL 2	01-000138-6 01-000138-28 01-000138-7 01-000138-36	PL14	04-000153-4 04-000150-4 04-000137-10 01-000199-28
	01-000138-25 01-000137-34		04-000149-7 04-000137-5 01-000201-11
PL 3	01-000138-2 01-000137-26 01-000138-14 01-000137-30	PL15	01-000199-3 01-000261-23 01-000199-25 01-000201-8
	01-000136-26		01-000198-31 01-000201-14 01-000198-27 01-000207-16
PL 4	01-000136-31 01-000137-18 01-000137-14 01-000137-10	PL16	01-000207-22 01-000258-15 04-000144-5 04-000130-6
	01-000137-6 01-000137-2		01-000207-26 01-000258-35 01-000207-13 04-000130-4
PL 5	04-000276-6 04-000276-4	PL17	04-000281-4 04-000280-10 04-000135-10 04-000135-8
PL 6	04-000134-5 04-000133-4 04-000132-6 04-000132-4		04-000135-6
	04-000276-10 04-000132-9 04-000134-9 04-000131-5	PL18	04-000151-4 04-000153-1 01-000250-10 04-000152-2
PL 8	04-000278-11 04-000279-7	PL19	04-000213-1 04-000151-9 04-000216-5 04-000219-9
PL 9	04-000279-11 04-000135-2		04-000210-1 04-000210-5 04-000216-8 04-000217-6
PL10	04-000142-5 04-000143-2 04-000143-8 04-000139-10	PL20	01-000264-31 04-000229-1 04-000226-5 04-000221-8
	04-000143-5 04-000150-5 04-000139-2 04-000139-5		04-000224-2 04-000230-1 04-000152-10 04-000228-5
PL11	04-000142-8 04-000142-10 04-000141-2 04-000142-2	PL21	04-000225-4 04-000229-9 04-000215-10 04-000212-8
	04-000141-8 04-000141-5		04-000225-8 04-000218-7 01-000250-23 04-000215-2
PL12	04-000143-4 04-000150-7 04-000136-2 04-000136-5	PL22	04-000219-6 04-000221-3 04-000220-6 04-000214-8
	04-000137-1 04-000154-6		04-000221-1 04-000224-9 04-000219-3 04-000217-7
PL13	04-000154-1 04-000154-10 04-000153-7 01-000207-5	PL23	01-000255-33 04-000220-1 01-000265-22 01-000258-18

PL24	04-000227-9	04-000225-2	04-000213-3	01-000254-15	PL41	01-000262-11	01-000262-3	01-000260-35	01-000263-29
	04-000218-4	04-000227-7	04-000226-1	04-000222-4		01-000262-7	01-000262-21	01-000262-33	
	01-000264-11	04-000226-8	04-000225-9	04-000222-1	PL42	04-000214-1	04-000211-8	04-000211-10	04-000212-4
PL25	04-000228-1	04-000227-5	04-000267-34	04-000235-1		04-000214-6			
	04-000224-4	04-000230-10	01-000270-27	04-000230-8	PL43	04-000223-2	04-000282-5		
PL26	04-000230-5	04-000229-5	04-000231-2	04-000231-6	PL44	04-000283-11	01-000290-14	01-000290-8	01-000293-24
	01-000273-32	04-000231-5	04-000232-1	04-000271-25		01-000273-16			
PL27	01-000271-16	04-000233-1	04-000231-10	04-000233-4	PL45	04-000282-1	01-000255-16	01-000254-36	01-000255-9
PL28	04-000234-6	04-000234-9	04-000233-9	01-000235-10		01-000254-21			
	04-000236-1	01-000275-10	04-000235-3	01-000273-12	PL46	04-000213-6	04-000309-6		
PL29	04-000239-10	04-000232-9	01-000232-4	04-000235-8	PL47	04-000248-6	01-000208-10	04-000288-7	01-000209-22
	04-000234-3	01-000239-2	04-000237-7	04-000241-7		01-000302-3			
PL30	04-000236-7	04-000240-3	01-000288-15	04-000239-3	PL74	04-000305-6	04-000308-9	04-000317-1	04-000321-9
	04-000236-4	04-000238-6	04-000242-1	04-000242-7		04-000307-9	04-000306-6	04-000321-8	04-000322-2
PL31	04-000240-6	04-000241-1	01-000276-7	01-000276-31	PL75	04-000301-10	04-000301-5		
	04-00238-2	04-000236-9	04-000237-4	04-000241-4	PL76	01-000296-10	04-000290-1	04-000290-4	04-000298-1
PL32	04-000239-9	04-000239-7	04-000244-6	01-000290-23		04-000289-4	04-000302-7	04-000302-3	04-000298-2
	04-000238-9	01-000288-28	01-000292-23	01-000292-3	PL77	04-000302-10	04-000291-8	04-000289-1	04-000295-1
PL33	04-000242-6	04-000240-8	04-000243-7	04-000243-10		04-000299-2	04-000291-9	04-000289-7	04-000295-3
	04-000241-9	04-000243-1	04-000244-3	01-000246-5	PL78	04-000295-6	04-000296-4	04-000299-7	04-000297-6
PL34	04-000249-1	04-000249-5	04-000245-2	04-000245-6		04-000295-10	04-000296-6	04-000299-10	04-000297-9
	04-000248-1	04-000249-8	04-000246-9	04-000288-3	PL79	04-000301-11			
PL35	01-000298-22	04-000247-3	01-000299-21	01-000252-7	PL80	04-000314-4	04-000315-11		
	04-000310-9				PL81	04-000303-7	04-000303-8	04-000318-10	04-000327-4
PL36	04-000309-6	01-000263-24	01-000256-10	01-000263-3		04-000303-3	04-000304-3	04-000317-4	04-000317-7
	01-000258-6	01-000258-10	01-000256-4		PL82	04-000328-2	04-000304-6	04-000316-10	04-000314-8
PL37	01-000287-34	01-000292-7	01-000252-3	01-000251-29		04-000314-11			
	01-000287-30	01-000251-33	01-000253-21	01-000250-17	PL83	04-000315-9			
PL38	01-000291-25	01-000251-22	01-000256-20	01-000260-7	PL84	04-000321-1	04-000323-10	04-000326-1	04-000325-7
	01-000258-12	01-000256-17	01-000256-13	01-000258-8		04-000322-6	04-000323-1	04-000326-1	04-000326-4
PL39	01-000261-19	01-000260-15	01-000261-27	01-000260-3	PL85	04-000319-10	04-000326-7	04-000327-1	04-000320-3
	01-000260-19	01-000260-11	01-000261-31	01-000261-35		04-000320-9	04-000326-10	04-000305-1	04-000320-1
PL40	01-000263-33	01-000272-16	01-000291-29	01-000291-20	PL86	04-000316-6	01-000323-13	04-000325-10	04-000318-2
	01-000268-15	01-000271-35	04-000237-8	01-000290-4		01-000317-22	01-000323-18	01-000319-35	04-000325-2

第1章 中内村前遺跡の概要

第1節 中内村前遺跡の概要

本遺跡は群馬県中南部の前橋市南部、中世までの利根川の流路右岸部に位置する。周囲は2万5千年程前の浅間山噴火に起因する前橋泥流層を基盤とし、微高地と後背湿地（谷地形）が複雑に配置する。

本遺跡の埋蔵文化財調査は北関東自動車道の建設に伴うもので、群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査を受けて、平成9年4月から平成10年12月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が本調査を実施している。この調査で縄文時代から近代、主には古墳時代前・中期と平安時代から江戸時代にかけての集落、水田等が発見されている。

本遺跡は東西に伸びる弧状の道路建設用地を調査対象とし、凡そ100m毎に南北に横断する道路に区切られた区域を一つの調査区として西側から1～9区を設定した。このうち西寄りの1～4区は既刊の第1分冊（「中内村前

遺跡（1）」）でその成果を報告している。



第1図 中内村前遺跡位置図（S=1/20万、国土地理院「宇都宮」使用）と調査区設定位置図（S=1/2500）

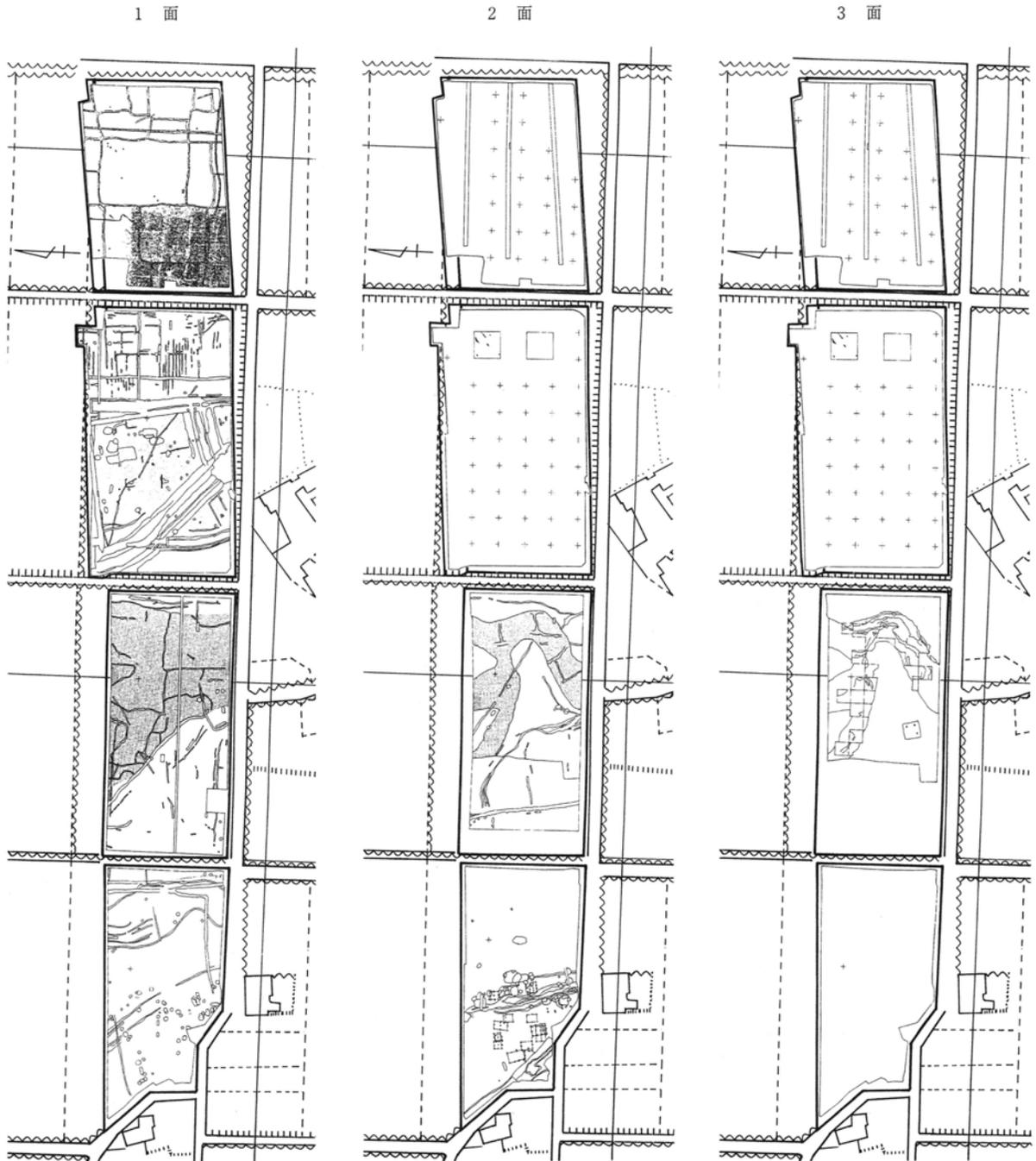
第2節 1～4区（第1分冊）の概要

本書では5～7区の成果を報告するが、本項ではその参考として既刊の1～4区の概略を述べておく。

1～4区では2区東半部と3区東部から4区にかけての低地部に平安時代末葉の（As-B下）水田が広がり、2区東寄りでは古墳時代前・中期の木製品や土器を出土する旧河道上に6世紀初頭の（Hr-FA

下）水田址を確認、調査した。

一方微高地部では、1区西寄りに平安時代の集落を、2区中部には古墳時代中期の竪穴住居1軒を調査した。また3区中・西部には鎌倉時代を中心に室町時代まで続く武士層の屋敷跡、東側の低地部には同時期と推定される中世の水田を確認した。



第2図 1～4区遺構分布図

第2章 発見された遺構と遺物

第1節 5区の遺構と遺物

5-1 5区の調査概要

5区は西側の4区から続く低地部である。5区に於いては2面の調査を実施した。

1面ではAs-B（天仁元年（1108））降下前後以降の遺構群を確認調査した。

As-B降下前後の遺構には水田址と溝1条を確認、調査した。As-B下水田は14面以上の区画からなるもので、北側にこれに給水する東西に走る溝1条を確認している。As-B降下後のAs-A降下（天明3年（1783））以前の遺構には中世段階の3条を含む溝11条、土坑10基、ピット6基があった。



この他、時期不特定の土坑9基、昭和20年8月15日未明の焼夷弾の爆裂坑3基を調査した。

2面ではHr-FA（6世紀初頭）降下以降の遺構群を調査した。しかし調査面の遺存状況から調査範囲は5区東部に限定されている。

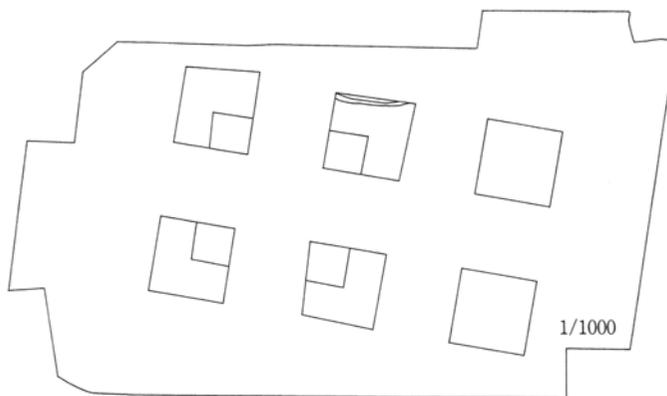
確認された遺構のうちHr-FA（6世紀初頭）降下時の遺構では62面以上の区画からなるのを確認、調査した。また水田より新しい可能性を有するが、この水田の大畦に沿って掘削された溝2条を調査した。

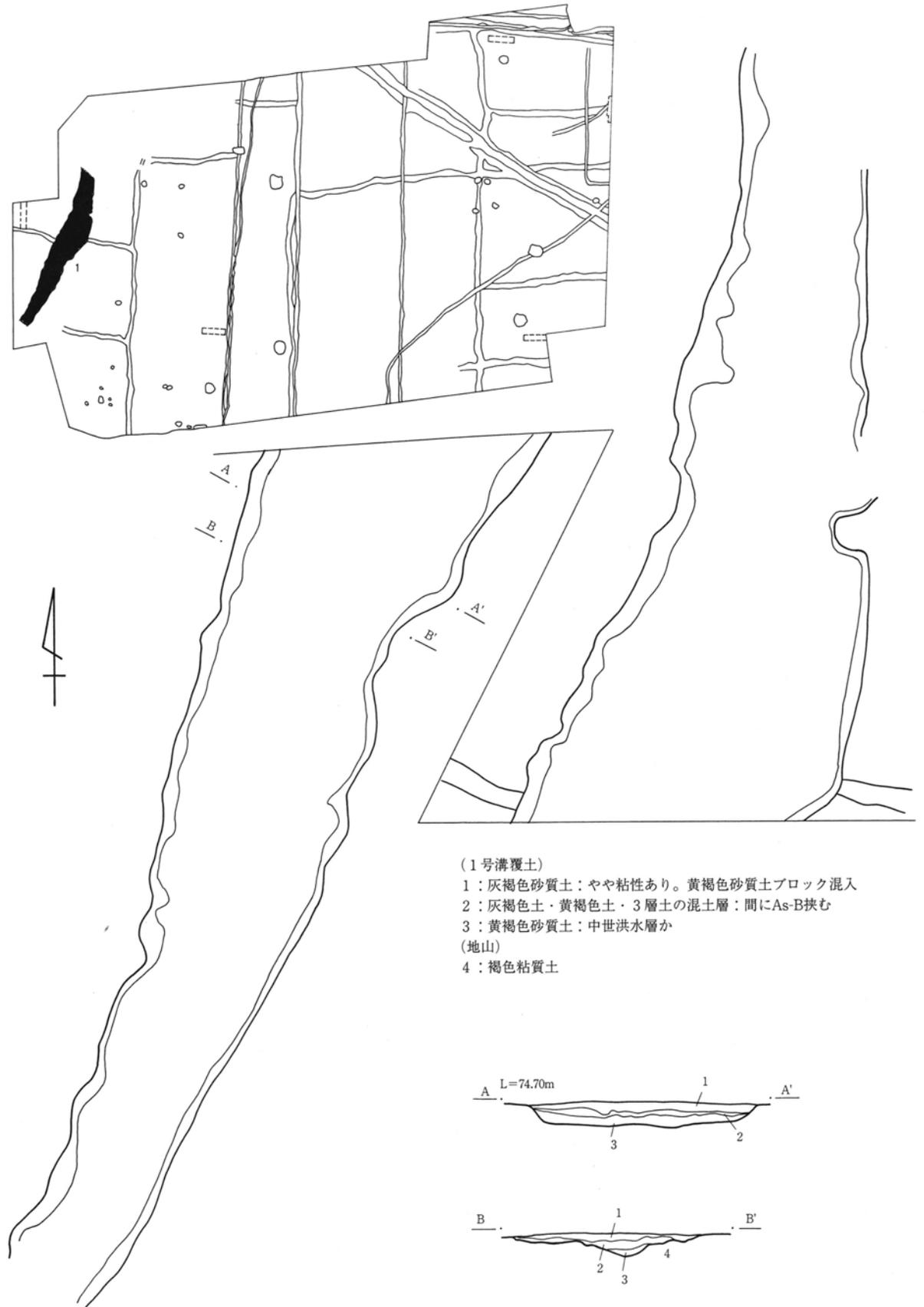


水田埋没後、平安期までの遺構としては、9世紀以降の井戸1基と、何れも時期は特定できなかったが土坑19基を確認調査した。

3面では基盤となる洪積層までの試掘調査を行った。試掘調査は10m四方のグリッド6箇所に対し、As-C混土層下の黒色土面及び洪積層面で遺構確認を試みた。

試掘調査の結果、調査区中部北寄りの黒色土面で落ち込みが見られたものの遺構を確認することはできず、古墳時代中期以前の遺構は遺存しないことを確認した。





第3図 5-1-1号溝

5-2 5区1面の遺構と遺物

(1) 5-1-1号溝 (第3図)

概要 本溝は5区西部に在る。

本溝に出土遺物は認められなかったが、As-B水田を切り、中世と推定される洪水層で埋没している。

尚、掘削意図は特定できなかった。

規模 長さ：22.8m以上 幅：380cm 深さ：15cm

構造 本溝のプランは緩い逆U字状を呈する。北から入って南南西に抜けるが、その走行は北半は後述のAs-B下水田の畦ラインに近いが南半は西に傾く。

溝の幅は一定せず、両側縁のラインはやや蛇行している。また掘削底面は平底気味で、壁面はやや開いている。

(2) 5-1-2号溝 (第4図)

概要 本溝は5区中部に位置する。後述の5-1-3号溝と切り合うが本溝の方が古い。

本溝に出土遺物は認められなかったが、As-B層を切るため概ね中世以降の所産として把握される。

本溝も掘削意図は特定できなかった。

規模 長さ：47.7m以上 幅：24cm 深さ：6cm

構造 本溝のプランは、南半は直線的に近いが北半は大きな弧を描いて東にやや傾く。

底面は平底気味で、壁面の立ち上がりは強い。

(3) 5-1-3号溝 (第4図)

概要 本溝は5区中部に位置し、As-B下水田の畦に並行に在る。また前述の5-1-2号溝を切っている。

本溝からの出土遺物は見られなかったが、As-B層を切るため、概ね中世以降の所産と判断される。

本溝の底面には鋤先痕が残るが、横2回の掘削で溝幅を決めているようであるが、掘削方向は特定できなかった。

尚、本溝の掘削目的は特定されなかった。

規模 長さ：47.6m以上 幅：32cm 深さ：10cm

構造 本溝は南北に走行し、プランは直線的である。

底面は平底気味で、壁面の立ち上がりは強い。

(4) 5-1-4号溝 (第4図)

概要 本溝は5区中部、前述の5-1-3号溝と北側で7.5m、南側で9.5m隔たった東に位置している。

本溝の出土遺物はなかったが、As-B層を切るため、概ね中世以降の所産と判断される。

本溝の底面には鋤先の痕跡が残るが、左右2回の掘削で溝幅を決め、北を向いて南に下がりながら掘削していった様子が窺える。

尚、本溝の掘削意図は把握できなかった。

規模 長さ：48.2m以上 幅：35cm 深さ：12cm

構造 本溝は南北に走行し、プランは直線的である。

底面は平底気味で、壁面の立ち上がりは強い。

(5) 5-1-5号溝 (第5図、図版2)

概要 本溝は5区北東部に位置する。後述の5-1-6・7号溝と切り合うが、本溝の方が古い。

本溝からの出土遺物はないが、覆土にAs-B層があるためAs-B降下前後の所産と判断されるが、後述するAs-B下水田の軸と走行が異なるため、As-B降下後速い段階の所産の可能性が推定される。

また覆土に流水の痕跡が見られるので、水路として使用された可能性を有する。

規模 長さ：40.8m以上 幅：112cm 深さ：9cm

構造 本溝は北西-南東走行の直線プランを呈する。

底面は平底気味で、壁面は開く。

(6) 5-1-6号溝 (第5図)

概要 本溝は5区東部に5-1-4号溝の東に14.5m離れて並走する。また、5-1-5号溝を切っている。

本溝からの出土遺物はないが、覆土にAs-Bを含むため概ね中世以降の所産として把握される。

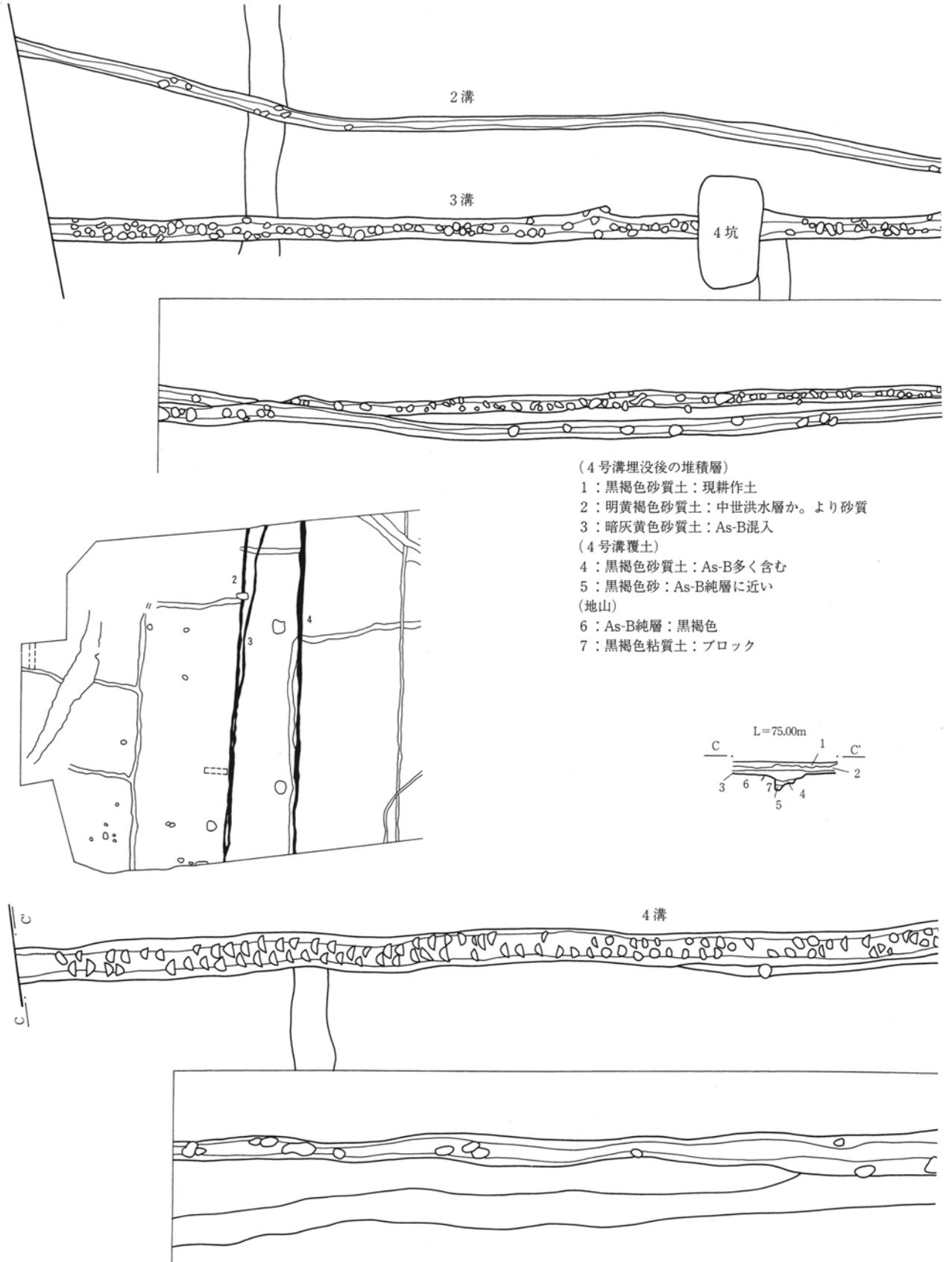
尚、本溝の掘削意図は特定できなかった。

規模 長さ：47.5m以上 幅：50cm 深さ：9cm

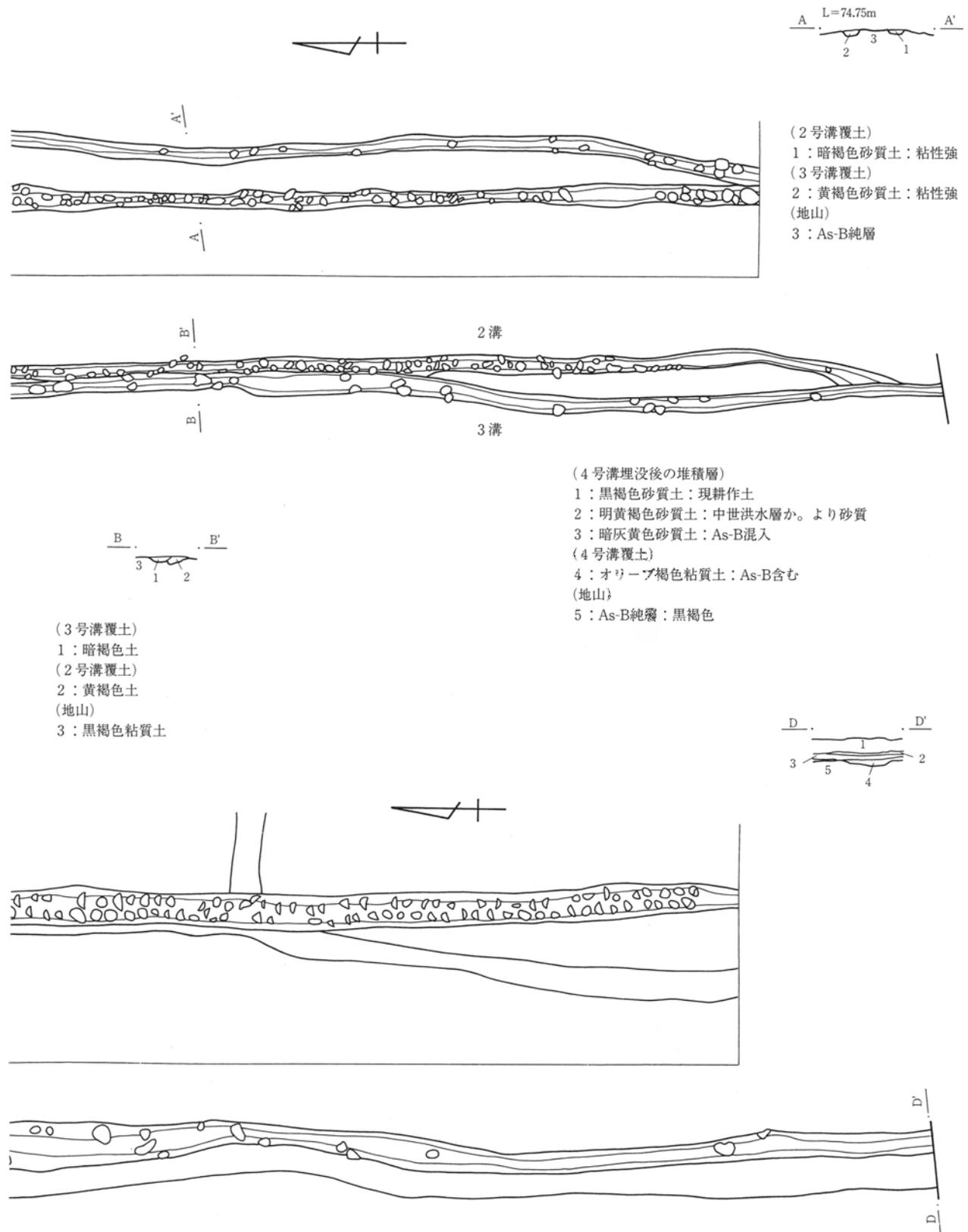
構造 本溝は南北に走行を取り、直線的なプランを呈する。

底面は平底気味で、壁面はやや開いている。

第2章 発見された遺構と遺物



第4図の1 5-1-2・3・4号溝



- (2号溝覆土)
- 1：暗褐色砂質土：粘性強
 - (3号溝覆土)
 - 2：黄褐色砂質土：粘性強(地山)
 - 3：As-B純層

- (4号溝埋没後の堆積層)
- 1：黒褐色砂質土：現耕作土
 - 2：明黄褐色砂質土：中世洪水層か。より砂質
 - 3：暗灰黄色砂質土：As-B混入
- (4号溝覆土)
- 4：オリーブ褐色粘質土：As-B含む(地山)
 - 5：As-B純層：黒褐色

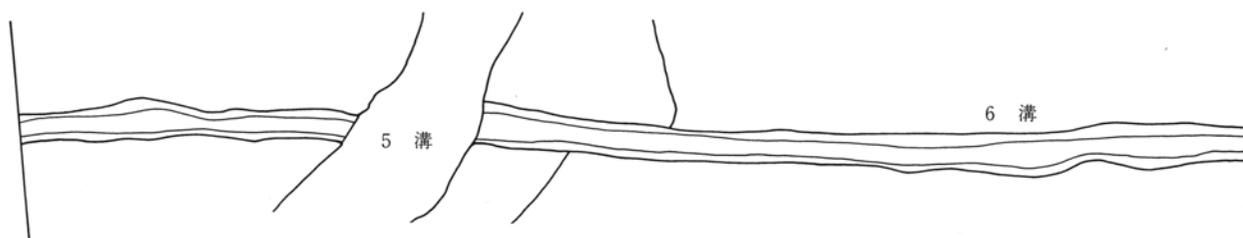
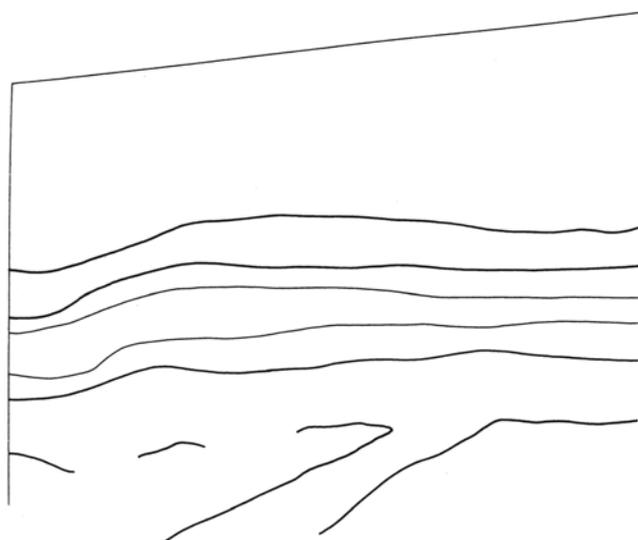
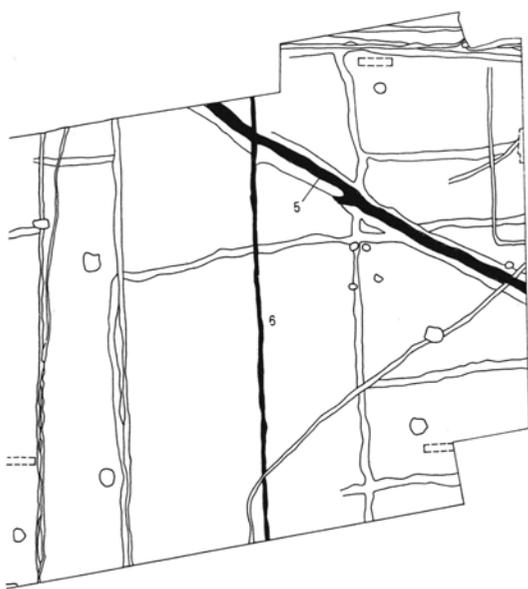
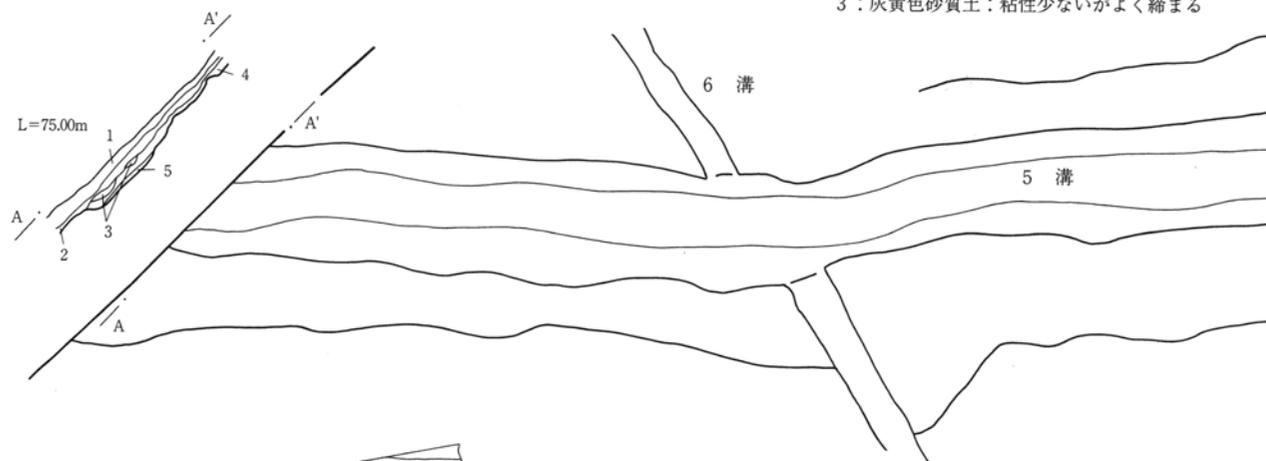
- (3号溝覆土)
- 1：暗褐色土
- (2号溝覆土)
- 2：黄褐色土(地山)
 - 3：黒褐色粘質土

第4図の2 5-1-2・3・4号溝

第2章 発見された遺構と遺物

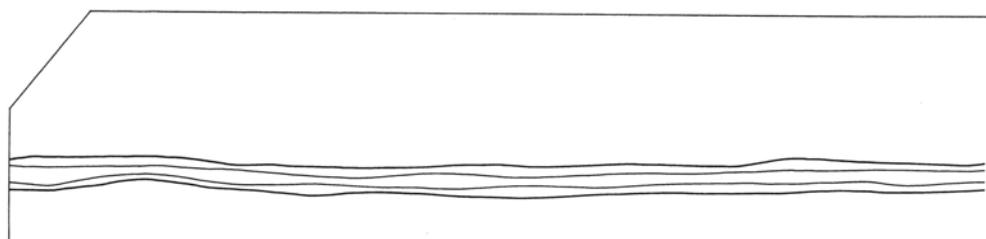
(5号溝埋没後の堆積層)

- 1: 明黄褐色砂質土: 中世洪水層か。より砂質
- 2: 暗灰黄色砂質土: As-B混入
- 3: 灰黄色砂質土: 粘性少ないがよく締まる



(6号溝覆土)

- 1: オリーブ褐色粘質土
: As-B混入
- 2: 暗オリーブ褐色粘質土
: As-B混入



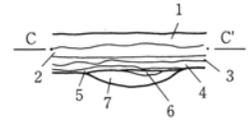
第5図の1 5-1-5・6号溝

第1節 5区の遺構と遺物

(5号溝覆土)

4: As-B純層: 黒褐色

5: 暗灰黄色砂質土: 水性堆積。溝底堆積層



(5号溝埋没後の堆積層)

1: 灰黄色粘質土: 現耕作土

2: 暗灰黄色土: As-B混入

3: 暗灰色粘質土: 砂やや多し

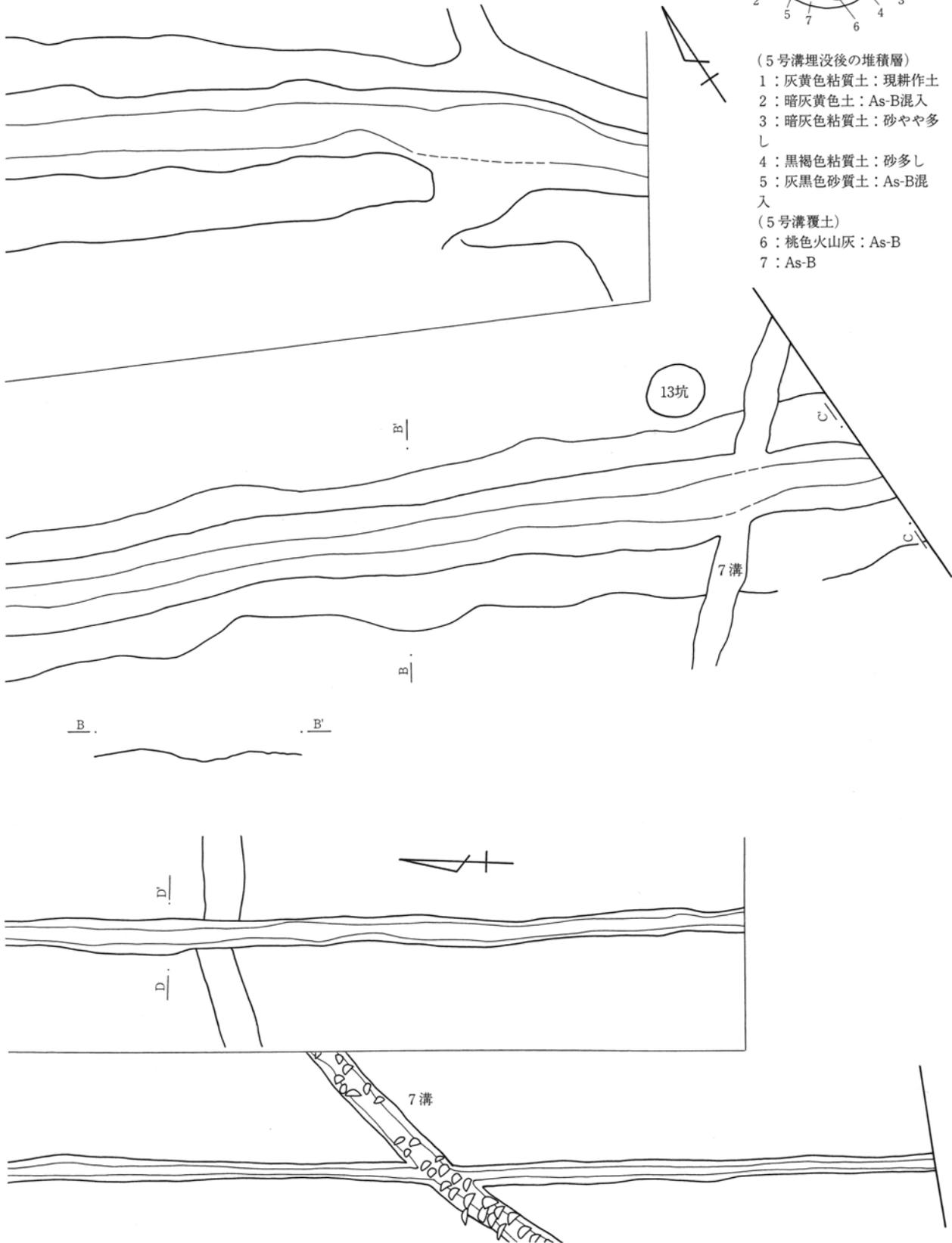
4: 黒褐色粘質土: 砂多し

5: 灰黒色砂質土: As-B混入

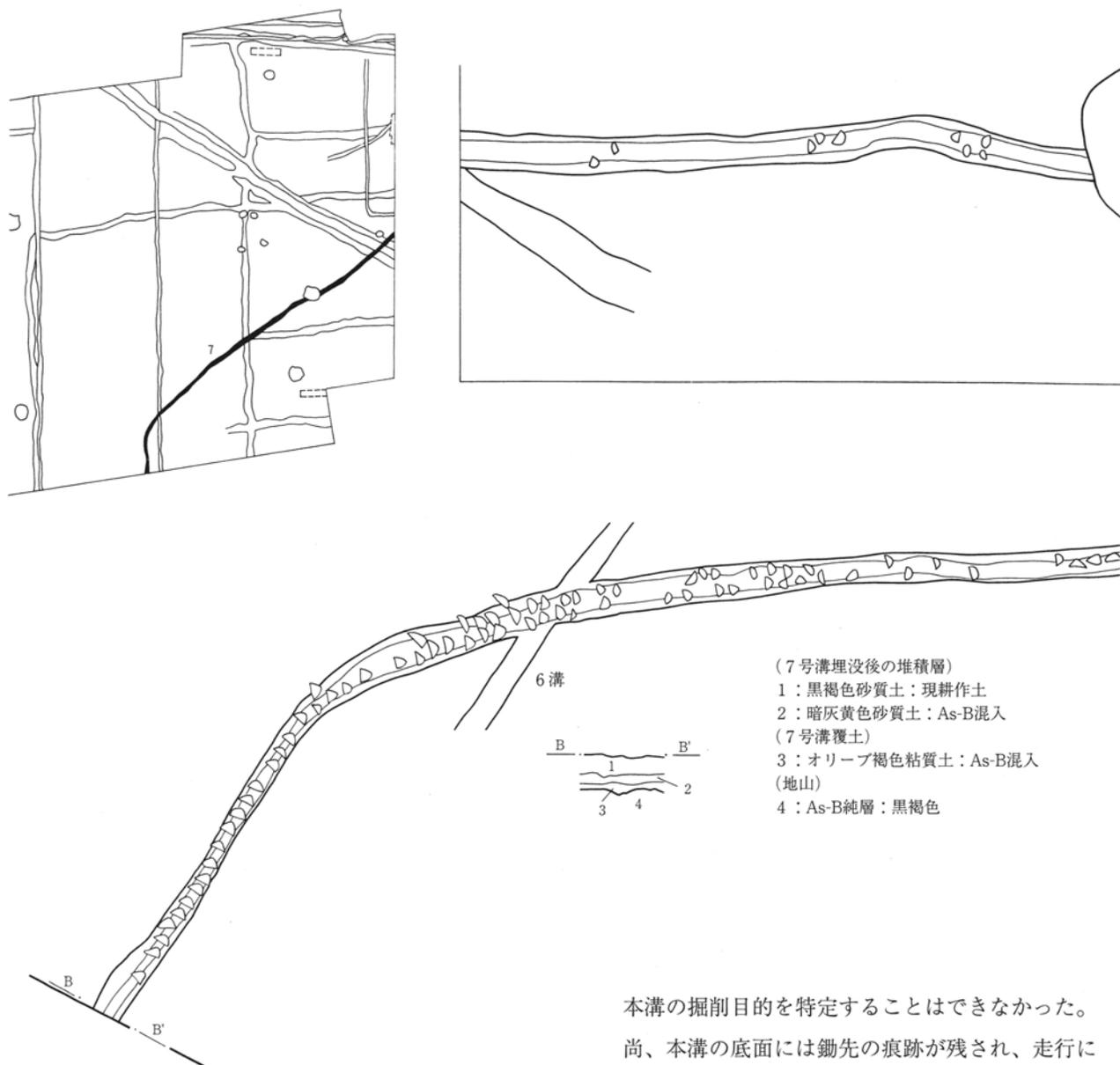
(5号溝覆土)

6: 桃色火山灰: As-B

7: As-B



第5図の2 5-1-5・6号溝



第6図の1 5-1-7号溝

(7) 5-1-7号溝 (第6図、図版2)

概要 本溝は5区南東部に位置し、前述の5-1-5・6号溝と重複する。前者に対しては本溝の方が新しいと判断されるが、後者との新旧を特定することはできなかった。また本溝は位置的に6区1面の6-1-11号溝につながる可能性を有している。

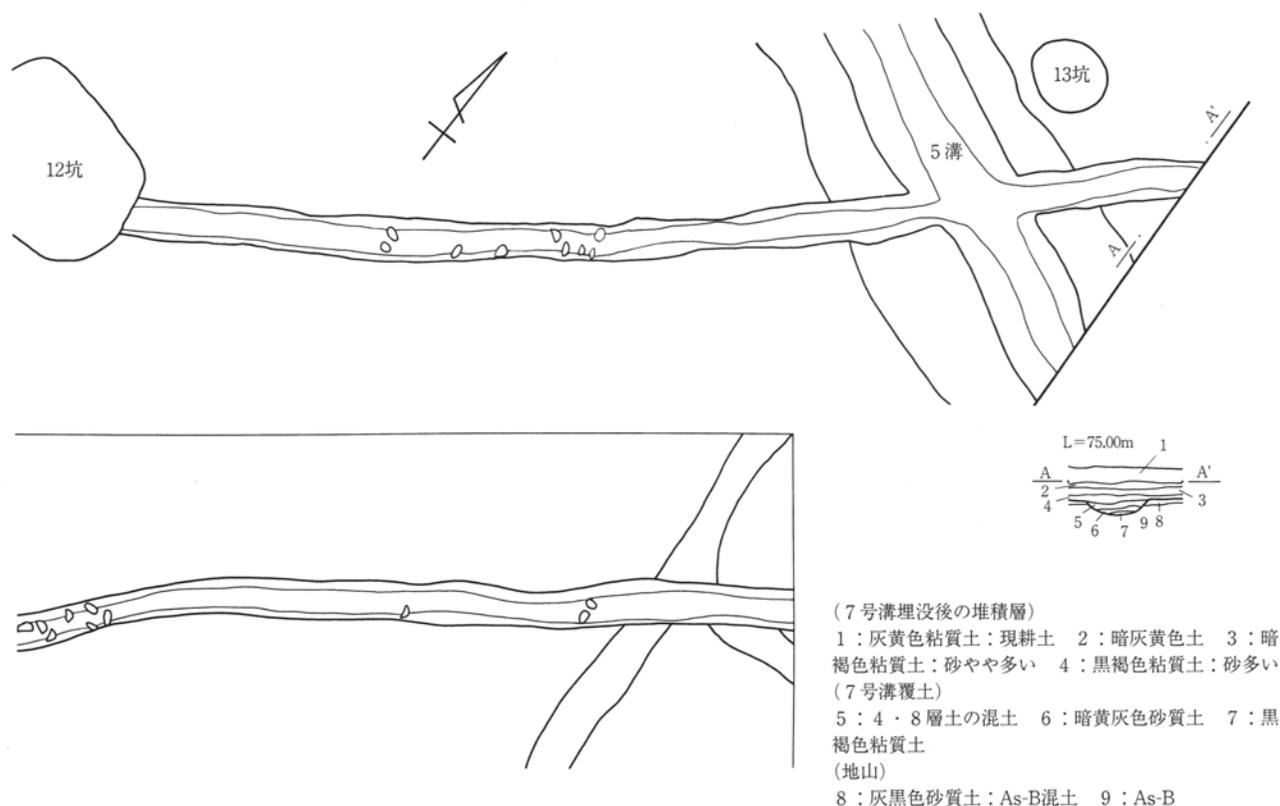
本溝からの出土遺物は認められず時期特定には至らなかったが、覆土にAs-Bを含むため概ね中世以降の所産として把握される。

- (7号溝埋没後の堆積層)
- 1：黒褐色砂質土：現耕作土
 - 2：暗灰黄色砂質土：As-B混入
- (7号溝覆土)
- 3：オリブ褐色粘質土：As-B混入 (地山)
 - 4：As-B純層：黒褐色

本溝の掘削目的を特定することはできなかった。尚、本溝の底面には鋤先の痕跡が残され、走行に対し左右1～2列の掘削の痕跡を見ることができ。その痕跡の観察から、溝の掘削者は北東を向いて南西に、或いは北を向いて南に下がりながら掘削していったことが確認される。

規模 長さ：43.8m以上 幅：48cm 深さ：14cm
構造 本溝は調査区南端では南北に走行を取るが、5m程北に延びて北東に走行を転じている。プランは南部では直線的であるが、屈曲部以北の南西-北東走行部分では直線的であるものの西寄りでは若干北に、東部では若干南に膨らんでいる。

掘削形態は、底面は横断面形でやや丸みを持っている。壁面はやや開いている。



第6図の2 5-1-7号溝

(8) 5-1-8号溝 (第7図)

概要 本溝は5区北東隅部北壁際に位置する溝のうち1条である。5-1-9号溝と絡まるように走行し同溝と重複関係にあるが、覆土の観察所見から本溝の方が古いことを確認している。

本溝からの出土遺物は認められなかったが、As-Bによって覆われていたことから、As-B降下時点の遺構のひとつであることを確認している。

また掘削位置の検討から、本溝は後述するAs-B下水田に伴う水路と解釈している。

規模 長さ：26.0m以上 幅：112cm 深さ：9cm

構造 本溝は東西に走行を取り、直線的なプランを呈している。

底面は平底気味であるが凹凸があり、壁面のラインもやや揺れが見られる。

(9) 5-1-9号溝 (第7図、図版2・3)

概要 本溝も5区北東隅部北壁際に位置している。

本溝は5-1-8号溝と切り合い関係にあるが、覆土の観察から本溝が8号溝を切っていることを確認している。また本溝は調査区東端部で一旦途切れているが、ここに北東-南西走行の溝が接続する。この溝との新旧は不明であるが、或いは本溝が走行を変じたものである可能性も残されている。

本溝からの出土遺物は見られなかったが、覆土にAs-Bを含み、中世と推定される洪水層で埋没しているため、中世の所産として把握している。

尚、本溝の掘削目的は詳らかでないが、北側に1.4m程離れる5-1-10号溝とは並行な位置関係にあるため、道路の側溝である可能性を有する。

規模 長さ：20.2m以上 幅：48cm 深さ：11cm

構造 本溝は東西走行の直線的なプランを呈するが、調査区北端で走行を北東に変じているという可能性がある。

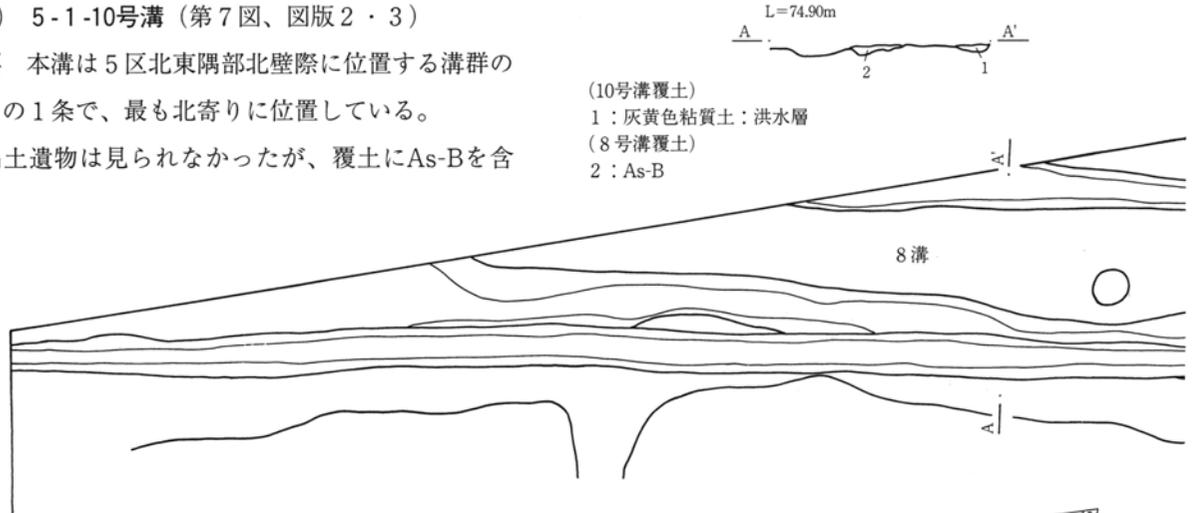
掘削形態は、底面の横断面形は若干の丸みを持ち、壁面はやや開き気味である。

第2章 発見された遺構と遺物

(10) 5-1-10号溝 (第7図、図版2・3)

概要 本溝は5区北東隅部北壁際に位置する溝群のうち1条で、最も北寄りに位置している。

出土遺物は見られなかったが、覆土にAs-Bを含



み、中世と推定される洪水層で埋没していることから、概ね中世の所産として把握している。

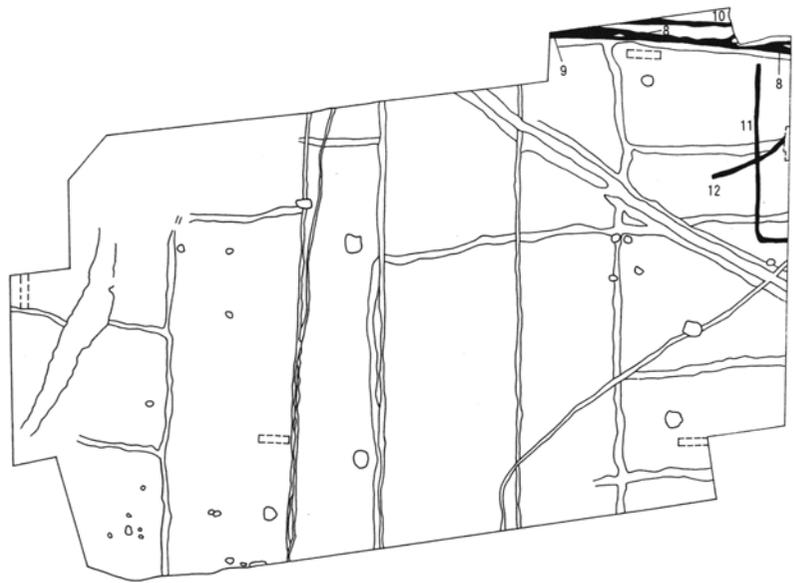
本溝の掘削目的については、南側に1.4m程離れて並行な位置関係に5-1-9号溝があるため、道路の側溝である可能性が考えられる。

規模 長さ: 10.3m以上 幅: 56cm

深さ: 10cm

構造 本溝は東西に走行を取り、直線的なプランを呈している。

底面の横断面形は若干の丸みを見せており、壁面はやや開き気味である。



第7図の1 5-1-8・9・10号溝

(11) 5-1-11号溝 (第7図の2、図版3)

概要 本溝は5区東端部に位置する。後述する5-1-12号溝と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

本溝からの出土遺物はなく、覆土から概ね中世以降の所産と把握されるに過ぎない。尚、調査区壁面の土層観察から、前述の5-1-7号溝より本溝の方が新しいことを確認している。

本溝は形態的に土地区画の溝と想定され、位置的に6区1面の8号溝に続く可能性を有している。同溝へは位置的に5-1-7号溝も接続の可能性を有しているが、平面形態、プランから推して本溝の方がその可能性は高いものと思慮される。

規模 長さ: 21.4m以上 幅: 28cm 深さ: 5cm

構造 本溝はL字形プランを呈する。が、9号溝は調査区東端部で走行を東に変ずる。

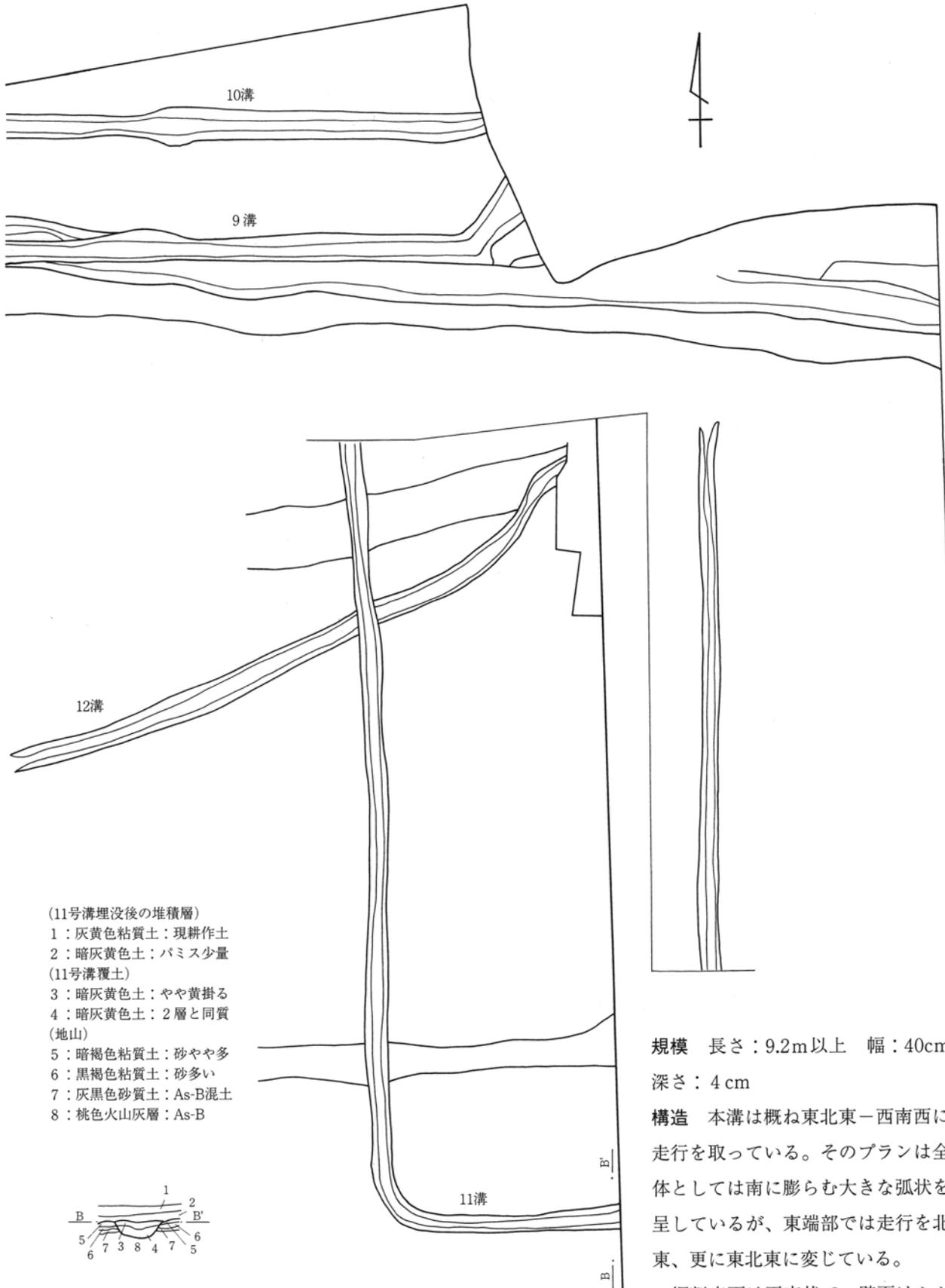
掘削形態はともに底面の横断面形は若干の丸みを持ち、壁面はやや開き気味である。

(12) 5-1-12号溝 (第7図、図版3)

概要 本溝も5区東端部に位置する。前述の5-1-11号溝と切り合うが、新旧関係は不明である。

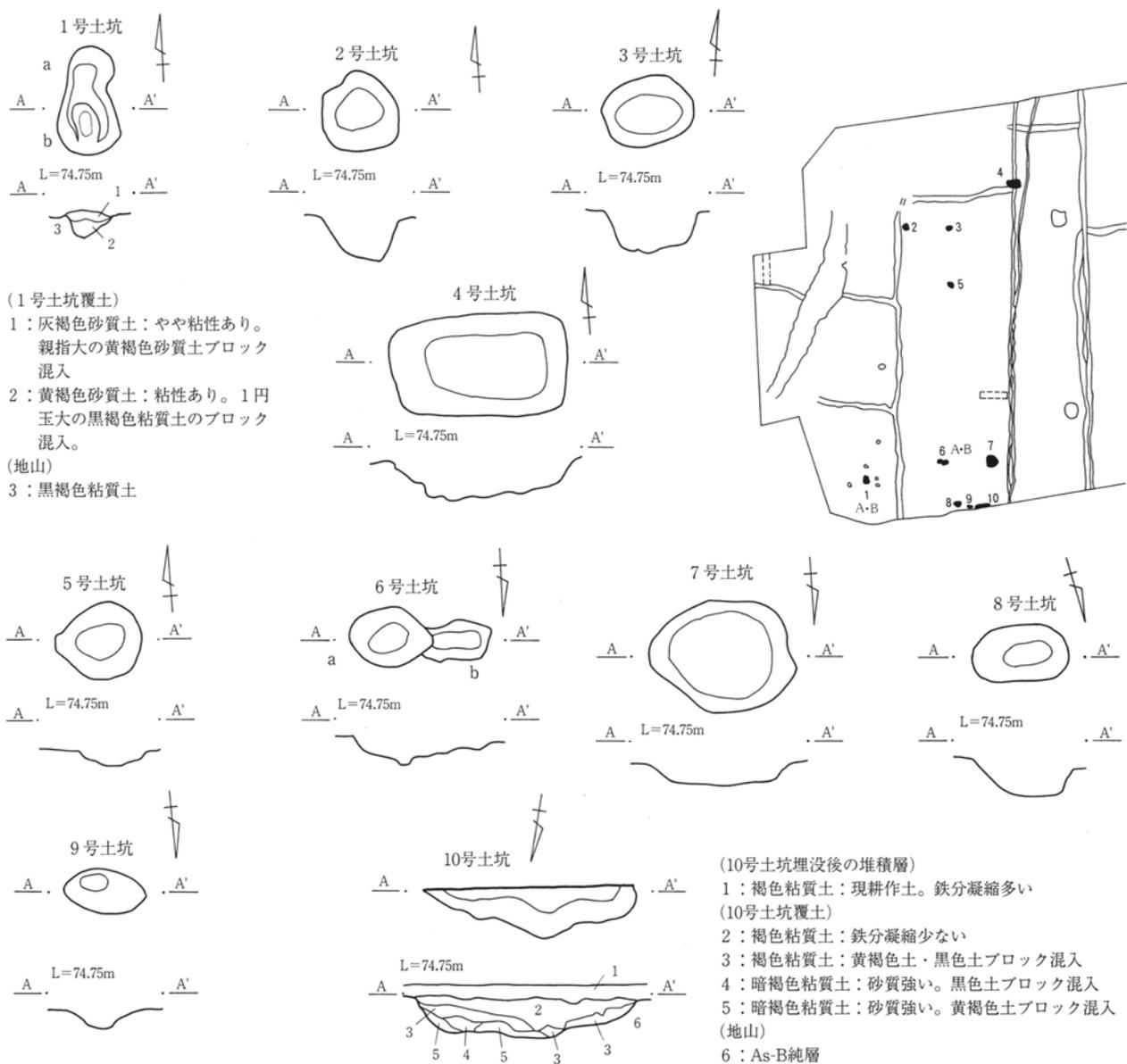
出土遺物はなく、覆土の記録化にも失敗しているため時期は特定できていない。しかしその走行からは5-1-7号溝との関連も考慮される。

本溝の掘削意図は特定できなかった。



第7図の2 5-1-8・9・10・11・12号溝

第2章 発見された遺構と遺物



第8図の1 5区1面の土坑

(13) 5区1面の土坑群 (第8図、図版3・4)

概要 5区1面では19基の土坑を確認、調査した。土坑群のうち5-1-1~10号土坑は西半部、5-1-11~17号土坑は東半部に在る。その分布は2~4号土坑、6~10号土坑、14~17号土坑がそれぞれやや集まるものの、全体としては広範囲に分散している。

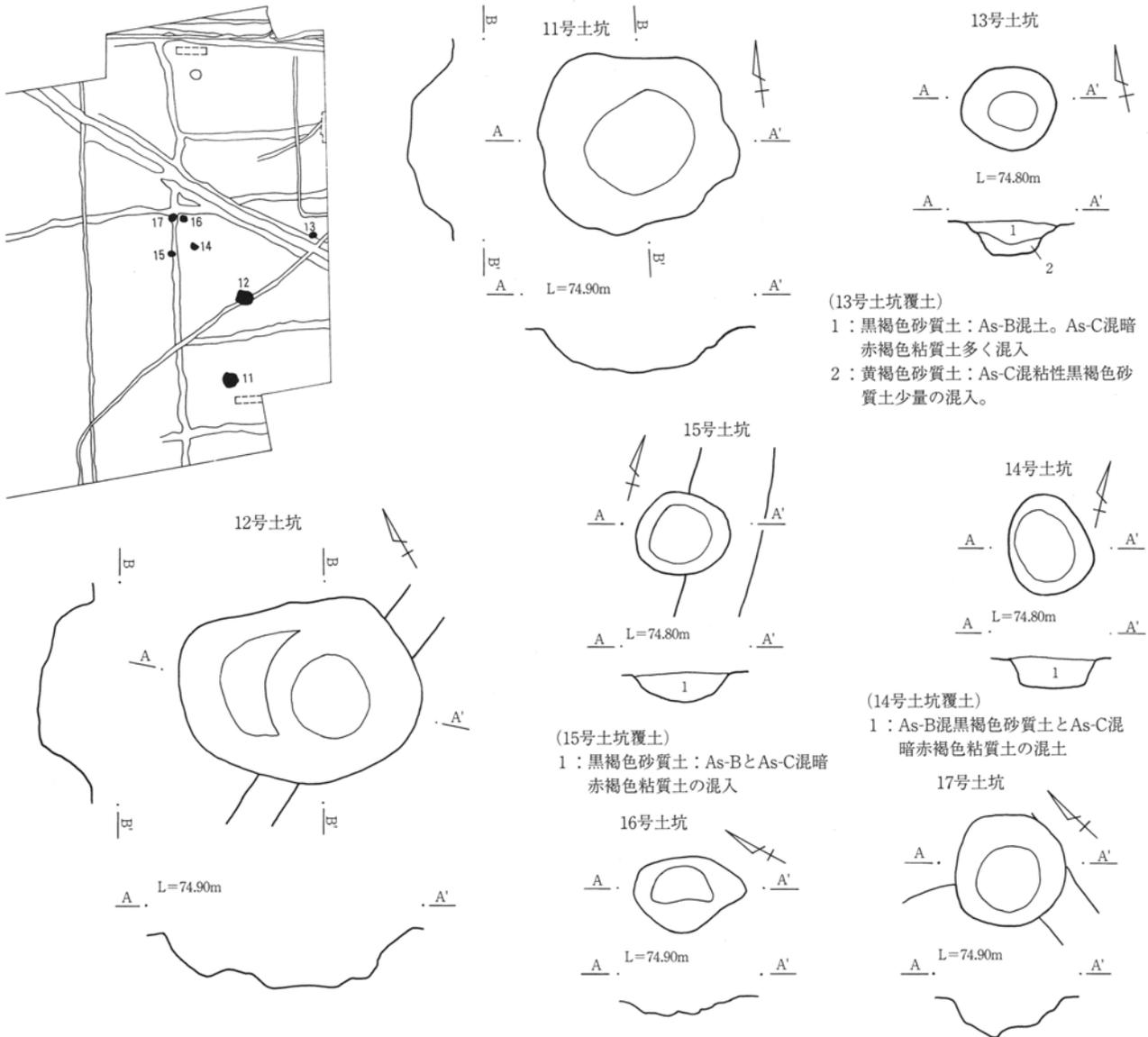
これらの土坑に出土遺物は見られなかった。また、1・10・13~17号土坑は覆土にAs-Aを含まないため江戸時代中期以前の所産、10・13~17号土坑は覆土As-Bを含むため中世以降の所産として把握される。しかし、他の土坑は覆土の記録がなされなかつ

たために時期特定には至らなかった。

またこれらの土坑の掘削意図について特定することもできなかった。

- 規模** (1号土坑) a 径: 35以上×43cm 深さ: 不明 b 径: 60以上×55cm 深さ: 36cm以上
 (2号土坑) 径: 70×70cm 深さ: 38cm
 (3号土坑) 径: 84×60cm 深さ: 38cm
 (4号土坑) 径: 160×90cm 深さ: 22cm
 (5号土坑) 径: 76×68cm 深さ: 17cm
 (6号土坑) a 径: 75×50cm 深さ: 9cm
 b 径: 55×35cm 深さ: 20cm

第1節 5区の遺構と遺物



(13号土坑覆土)

- 1：黒褐色砂質土：As-B混土。As-C混暗赤褐色粘質土多く混入
- 2：黄褐色砂質土：As-C混粘性黒褐色砂質土少量の混入。

(14号土坑覆土)

- 1：As-B混黒褐色砂質土とAs-C混暗赤褐色粘質土の混土

(15号土坑覆土)

- 1：黒褐色砂質土：As-BとAs-C混暗赤褐色粘質土の混入

第8図の2 5区1面の土坑

- (7号土坑) 径：120×100cm 深さ：20cm
- (8号土坑) 径：86×50cm 深さ：33cm
- (9号土坑) 径：75×40cm 深さ：20cm
- (10号土坑) 径：190×45cm以上 深さ：28cm
- (11号土坑) 径：180×173cm 深さ：38cm
- (12号土坑) 径：215×168cm 深さ：48cm
- (13号土坑) 径：85×72cm 深さ：26cm
- (14号土坑) 径：90×70cm 深さ：25cm
- (15号土坑) 径：80×70cm 深さ：24cm
- (16号土坑) 径：100×65cm 深さ：12cm
- (17号土坑) 径：105×102cm 深さ：22cm

構造 5区1面の土坑群は規模についてみると10～12号土坑は大型、4・7・17号土坑は中型、他の12基の土坑は小型に分類できる。後者のうち特に1a・6b号土坑はその中でも小型である。

プランは3・9・12・14・16号土坑が楕円形、4・6b・8（・10）号土坑が隅丸長方形を呈する以外は円形乃至隅丸方形の形状を呈する。

底面についてみると1b・5・6a・9・11・17号土坑が丸底状、他の土坑は平底状を呈している。壁面はしっかり立つものが多いが、5・6b・7・9・11号土坑はやや開いている。

第2章 発見された遺構と遺物

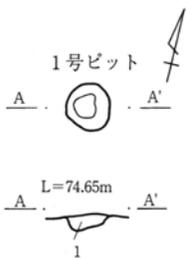
(14) 5区1面のピット群 (第9図)

概要 5区1面では5-1-1～6号ピットの6基のピットを確認、調査した。これらは何れも5区南部西端近くに位置している。この所在区域内には前述の1a・1b土坑も所在しているが、その規模から両土坑がピット群の一部を形成する可能性もある。

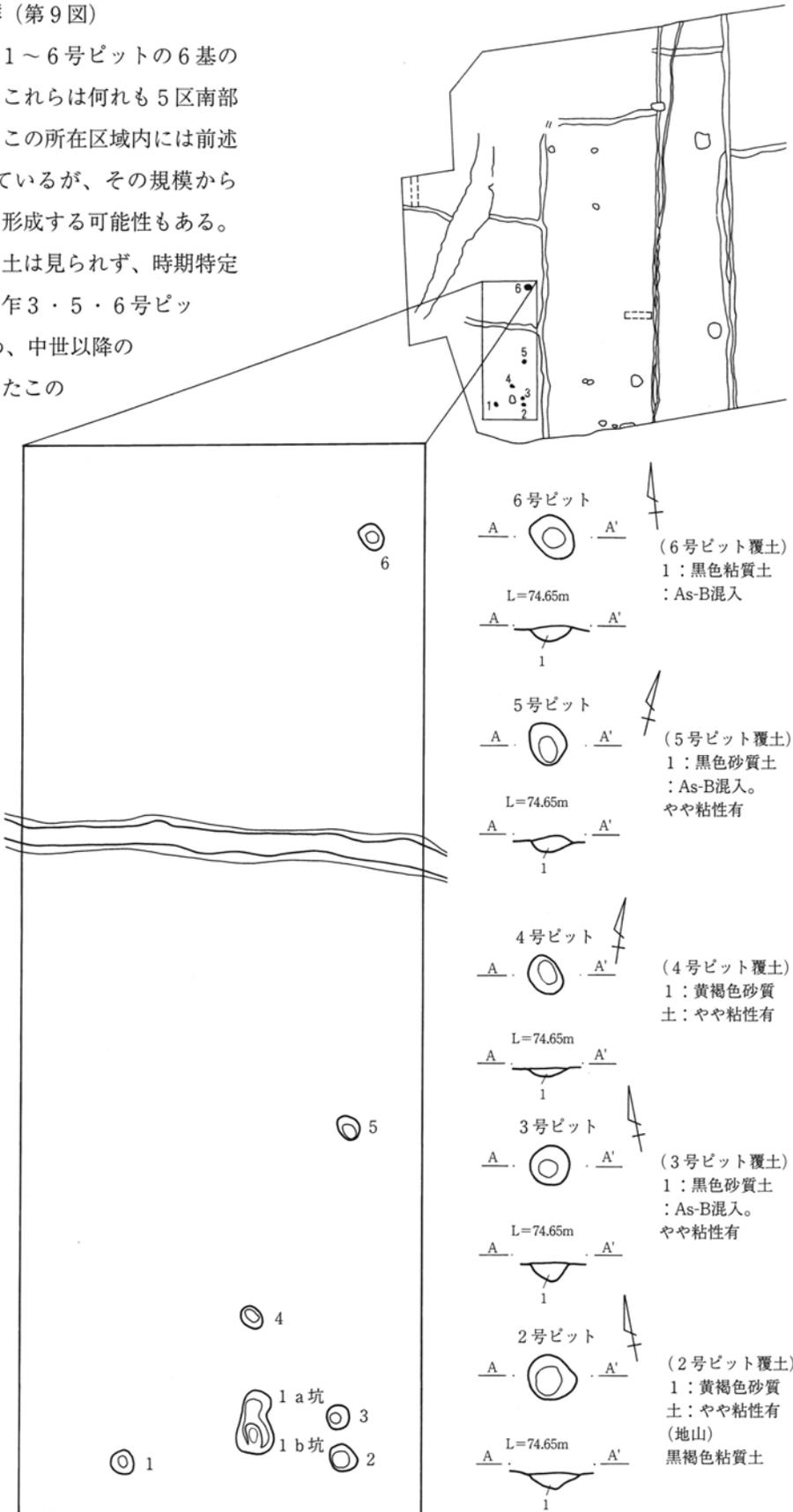
各ピットからの遺物の出土は見られず、時期特定にも至らなかった。しかし乍3・5・6号ピットは覆土にAs-Bを含むため、中世以降の

所産として把握される。またこの3基のピットを含め本ピット群のピットはAs-B下の水田土壌を掘り込んで掘削されており、覆土はAs-B純層とは異なっている。こうしたことから1・2・4号ピットも中世以降の所産として把握されるものである。

尚、各ピットは、その径から推して杭の打設痕である可能性は低い。また覆土の状態から1号ピットがその可能性を残すものの、他のピットは柱穴である



(1号ピット覆土)
1：黄褐色砂質土：やや粘性有 (地山)
黒褐色粘質土



第9図 5区1面のピット

か否かも特定できず、加えて明確に建物や柵列等を設定することはできなかった。このため建造物に伴うものである可能性は低く、一方でこうした状況も含めて、これらのピットの掘削意図を特定することもできなかった。

規模 (1号ピット) 径：40×35cm 深さ：18cm
 (2号ピット) 径：45×40cm 深さ：18cm
 (3号ピット) 径：35×35cm 深さ：17cm
 (4号ピット) 径：40×25cm 深さ：6cm
 (5号ピット) 径：40×35cm 深さ：8cm
 (6号ピット) 径：45×30cm 深さ：14cm

構造 本ピット群のピットのうち1・2号ピットは隅丸方形、3号ピットは円形、4～6号ピットは楕円形のプランを呈する。

何れのピットも確認面からの掘削が浅い。底面は1号ピットが平底であるのを除き丸底気味である。また壁面は、1号ピットは直立に近い以外は逆八字状にやや開き気味である。

(15) 5-1-As-B下水田(第10図)

概要 5区1面ではほぼ調査区の全域で、As-B降下時に埋没した水田址を確認、調査している。

水田面では土師器・須恵器片が散見されているが、本水田址はAs-Bによって埋没しているため、天仁元年(1108)以前の所産として把握される。尚、水田開削の時期については特定できなかった。

水田面は全体的に圧平される傾向にあるので、畦畔の確認できない箇所もあったため、全体の状況を明確にすることはできなかったのであるが、4区に比べ傾斜などの地形的制約が少なかったためか、全体として4区1面のAs-B下の水田址に比せば整った配置をしている。

本水田址への給水は調査区東部北端近くを東に流れる前述の5-1-8号溝からである。その南に南北走行の畦が設置されているが、この畦はN0～3°と若干傾く傾向はあるもののほぼ北に軸方向を取っている。このことから本水田址は条里方眼を踏襲した土地区画に基づいて造られたものと推定される。

規模 (東西長×南北長で表記)

(調査範囲)	84.0×50.3m
(水田面)	1 17.2×24.0m以上
	2 16.8×12.6m以上
	3 16.0×13.7m以上
	4 21.0×4.0m以上
	5 21.0×6.8m以上
	6 21.4×37.0m以上
	7 26.2×20.0m前後
	8 25.8×26.6m
	9 25.6×3.1m以上
	10 19.2×11.4m以上
	11 18.0×8.4m以上
	12 18.0×15.2m以上
	13 17.8×10.4m以上
	14 10.0×3.2m以上

構造 本水田址は黒色粘質土を耕作土とし、同じ土壌を以って畦畔を形作っている。

調査区に於ける本水田址の範囲は5-1-8号溝を北限とし、その南に南北走行の畦が3条設けられている。そして南北走行の畦と畦の間を東西の畔で区切って個々の水田区画を形成している。尚、上述のように畦畔は黒色粘質土で形作られているが、芯材の敷設や側板の設置といった畦畔の補強を行った痕跡は認められなかった。

水田面は畦畔の現況から1～14と番号を付した14面を認識している。これらの水田面の平面形態は一部菱形を呈するものもあるものの、概ね長方形のプランを呈している。

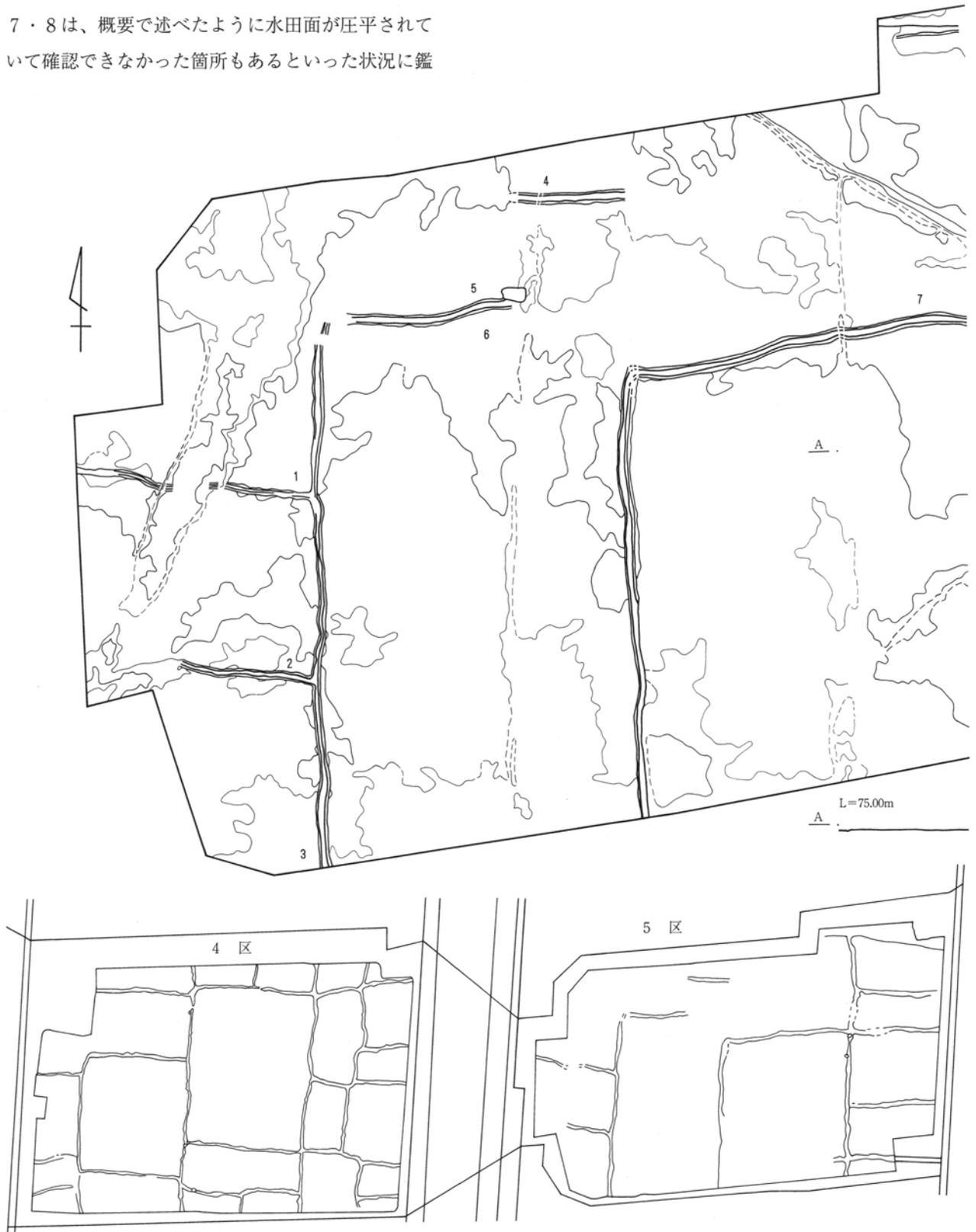
畦畔の間隔について見ると、南北方向の畦の間隔は中央と西寄りの畦で22m、中央と東寄りの畦で26m程を測ることができた。一方、東西方向の畔の間隔は6.8m以上、平均13.9cmを測ったのであるが、大型の水田面7・8では20.0m以上、平均23.3mを測り、中・小型の2・5・10・11・12・13では6.8～15.2m、10.8平均を測った。

このように個々の水田面の規模にはかなりのばらつきが想定されるのである。これは全体として南北

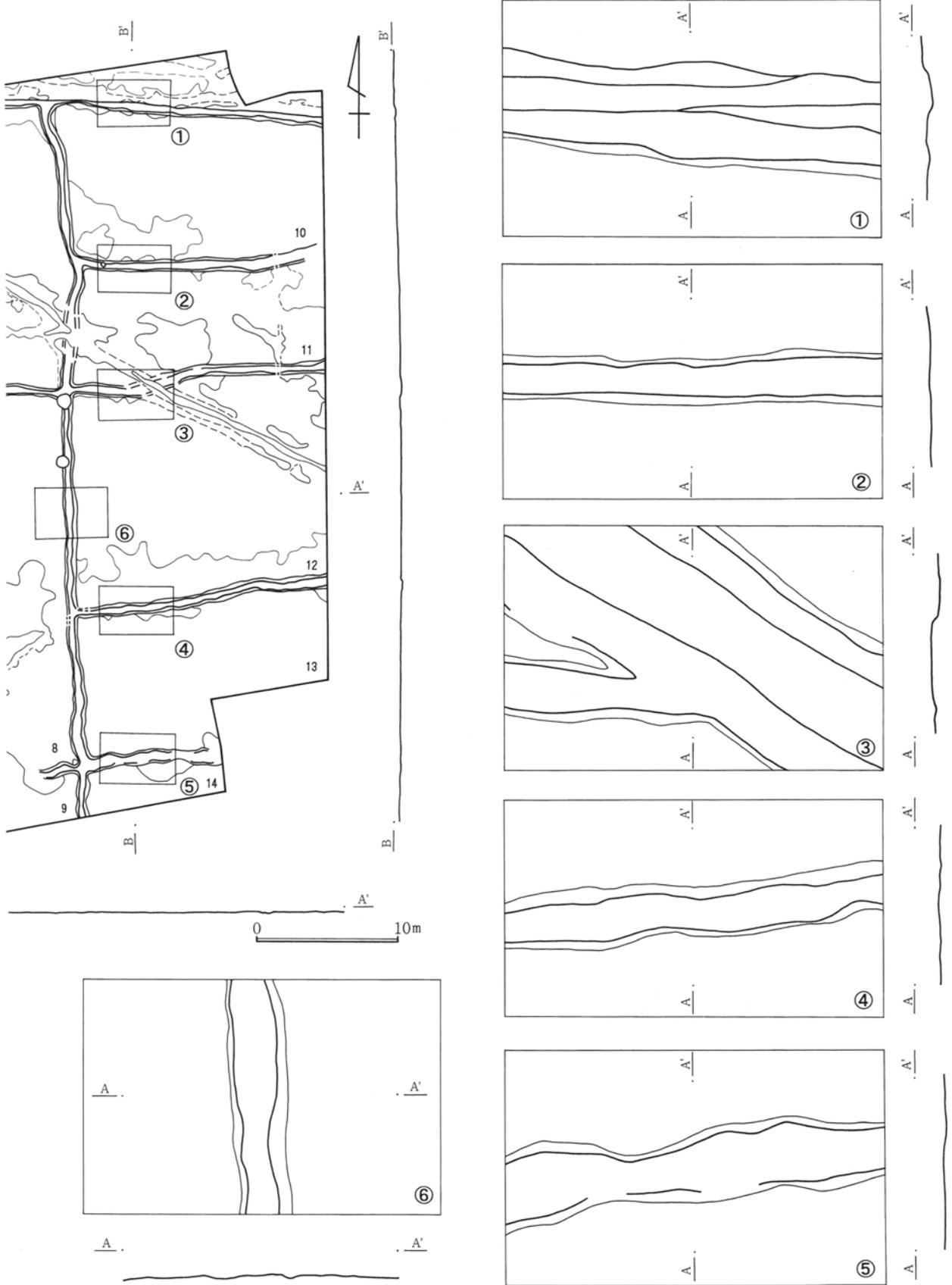
第2章 発見された遺構と遺物

走行の畦の設置が規格的であるのに対し、東西走行の畔の設置が土地の傾斜に即して設定されていたことによるものと思慮される。尚、大型の水田面6・7・8は、概要で述べたように水田面が圧平されていて確認できなかった箇所もあるといった状況に鑑

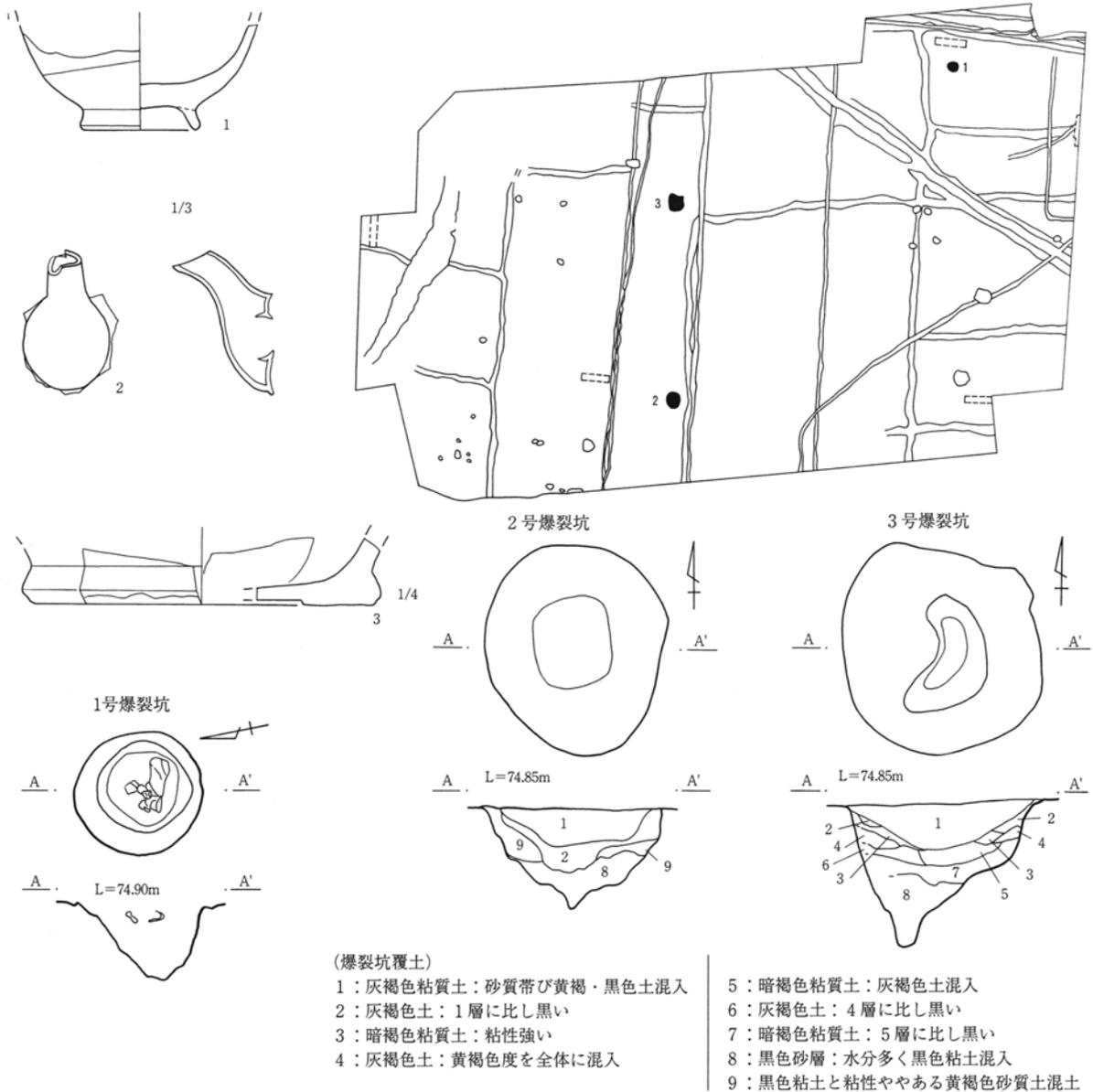
み、また両側の形状に照らして、更に分割されていた可能性もある。



第10図の1 5区1面A s-B下水田(上)と4・5区A s-B下水田位置図(下)



第10図の2 5区1面A s-B下水田と畦部分図



第11図 5区1面の遺構に伴わない出土遺物・伊勢崎空襲時の爆裂坑

(16) 5区1面の遺構に伴わない遺物

(第11図、図版7)

概要 5区1面では数量は少なかったが、近・現代の碗(1)、急須の注口(2)、甕底部(3)を含む陶磁器片、或いは土師器・須恵器片の出土を見ている。

(17) 爆裂坑(第11図)

概要 5区1面で当初18号土坑、1・2号井戸として調査した遺構が何れもM19型又はM47型の焼夷弾片を出土したため、昭和20年(1945)8月15日未明

の伊勢崎空襲(中内村前遺跡(1)298頁参照)に伴う焼夷弾の爆裂坑であることを確認した。

尚、本報告書では前・中・後者をそれぞれ5-1-1・3・2号爆裂坑と称することとした。

規模 (1号爆裂坑) 径115×110cm 深さ30cm

(2号爆裂坑) 径190×160cm 深さ82cm

(3号爆裂坑) 径195×175cm 深さ86cm

構造 1号爆裂坑はやや小型で、2・3号爆裂坑は大型であるが、共に隅丸形状のプランを呈する。

形態は何れも挿鉢状を呈する。

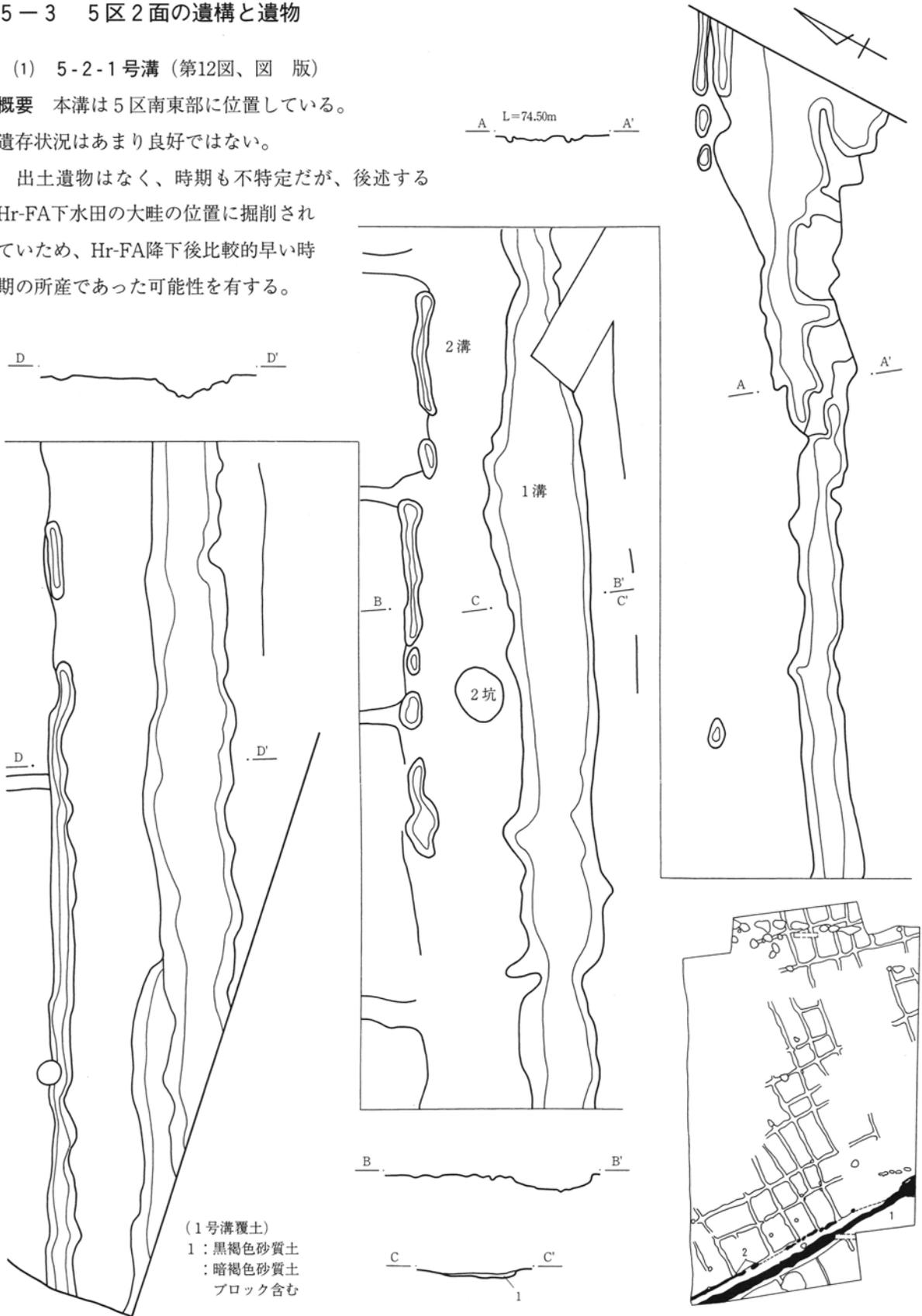
5-3 5区2面の遺構と遺物

(1) 5-2-1号溝 (第12図、図版)

概要 本溝は5区南東部に位置している。

遺存状況はあまり良好ではない。

出土遺物はなく、時期も不特定だが、後述するHr-FA下水田の大畦の位置に掘削されていたため、Hr-FA降下後比較的早い時期の所産であった可能性を有する。



第12図 5-2-1号溝

第2章 発見された遺構と遺物

本溝は底面形態から流水の可能性が考慮されるため、水路としての掘削が考えられる。尚、上述のようにHr-FA下水田の大畦の位置に在るため、Hr-FA降下後の復旧に伴うものである可能性を考えたい。
規模 長さ：34.8m以上 幅：144cm 深さ：12cm
構造 本溝のプランはほぼ直線的であるが、東部は乱れていて明瞭ではない。

全体としては底面の横断面系はやや丸みを帯びている。壁面は比較的しっかり立つ傾向にある。

(2) 5-2-2号溝 (第12図、図版6)

概要 本溝は5区南東部、5-2-1号溝の北に120cm程隔たってこれに並行して掘削されている。

遺存状況は不良であり、所々で途切れている。

出土遺物は無く、覆土の記録もないため時期は特定できなかったが、Hr-FA下水田の大畦の北端付近に在るため、Hr-FA水田耕作期か1号溝同様Hr-FA降下後早い時期の所産であったものと思慮される。

掘削意図は明瞭でないが、水田耕作に伴うものと判断したい。

規模 長さ：35.5m 幅：48cm 深さ：3cm

構造 本溝のプランはクランク状に曲がる箇所もあるが、ほぼ直線的になるものと判断される。

底面の横断面系は丸みを帯び、掘削深度が浅いため明瞭ではないが、壁面はやや開き気味である。

(3) 5区2面の土坑群(1) (第13図)

概要 5区東部に在る2面の調査範囲の南部では4基の土坑、5-2-1～4号土坑を確認、調査した。これらの土坑は比較的小型であり、その配置は分散して位置的な規則性は認められなかった。

これらの土坑からの出土遺物はなく、その時期も6世紀から11世紀の範疇で捕らえられるに過ぎない。また掘削意図についても特定できなかった。

尚、これら土坑周辺と後述する調査区北側の土坑群との間にも、Hr-FA下を掘り込む土坑状或いは柱穴状のピットが何箇所か確認されている。

規模 (1号土坑) 径：50×50cm 深さ：19cm

(2号土坑) 径：70×65cm 深さ：15cm

(3号土坑) 径：84×60cm 深さ：8cm

(4号土坑) 径：50×49cm 深さ：14cm

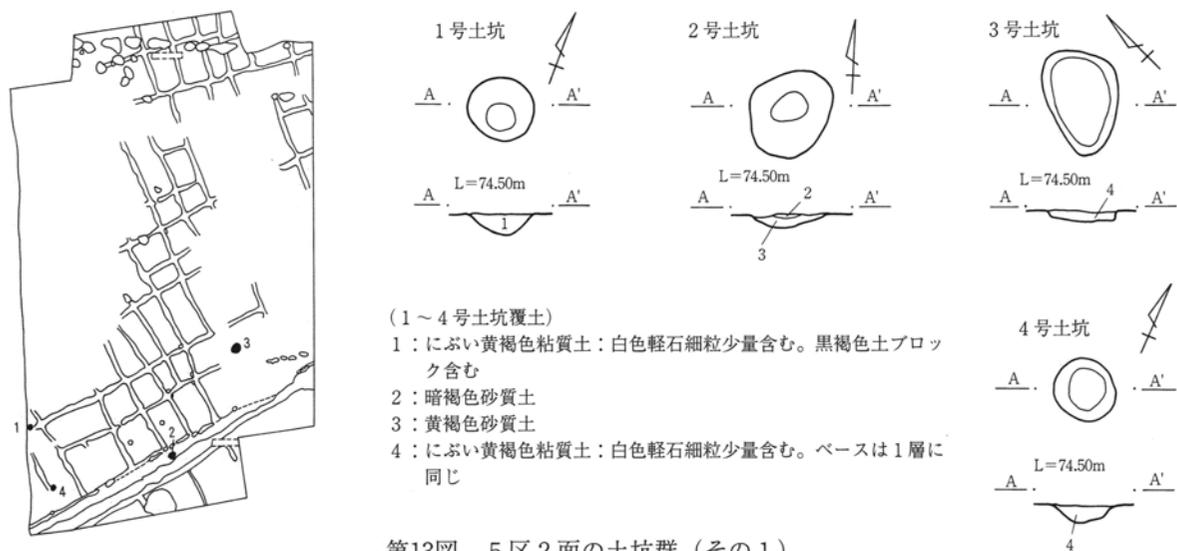
構造 土坑のプランは1・4号土坑は円形、2号土坑は隅丸方形、3号土坑は隅丸三角形を呈している。

掘削形態は、1・2・4号土坑は播鉢形、3号土坑は箱型で平底である。

(4) 5区2面の土坑群(2) (第14・15図)

概要 5区2面の調査区の北壁近くには5-2-5～19号土坑の17基の土坑が在る。

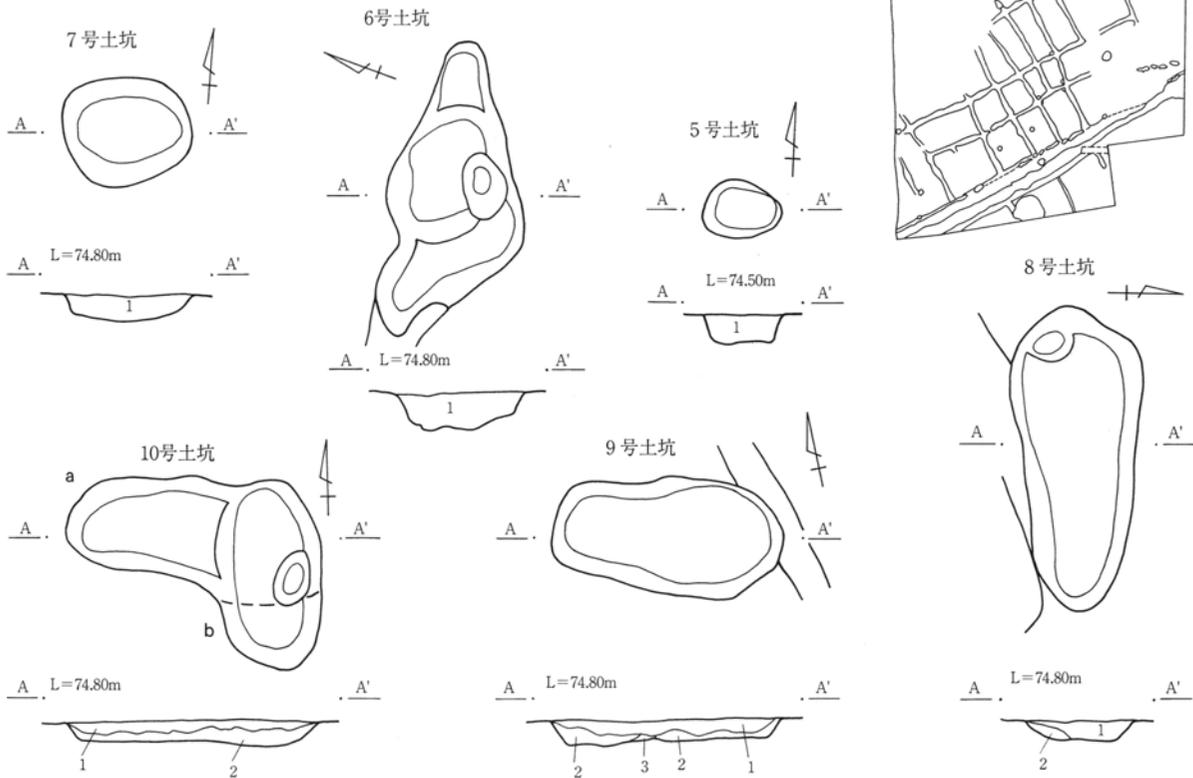
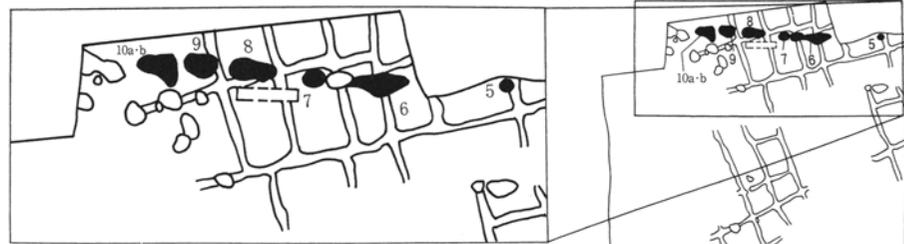
これらの土坑からの出土遺物はなく、その時期は本土坑群の各土坑がHr-FA水田を切ることから6世



第13図 5区2面の土坑群(その1)

(5～10号土坑覆土)

- 1: 褐灰色土: 軽石と黄褐色土小ブロック混入。6号土坑は黒褐色土ブロックも混入
- 2: 黒褐色土: 黄色土混入
- 3: 明黄褐色土



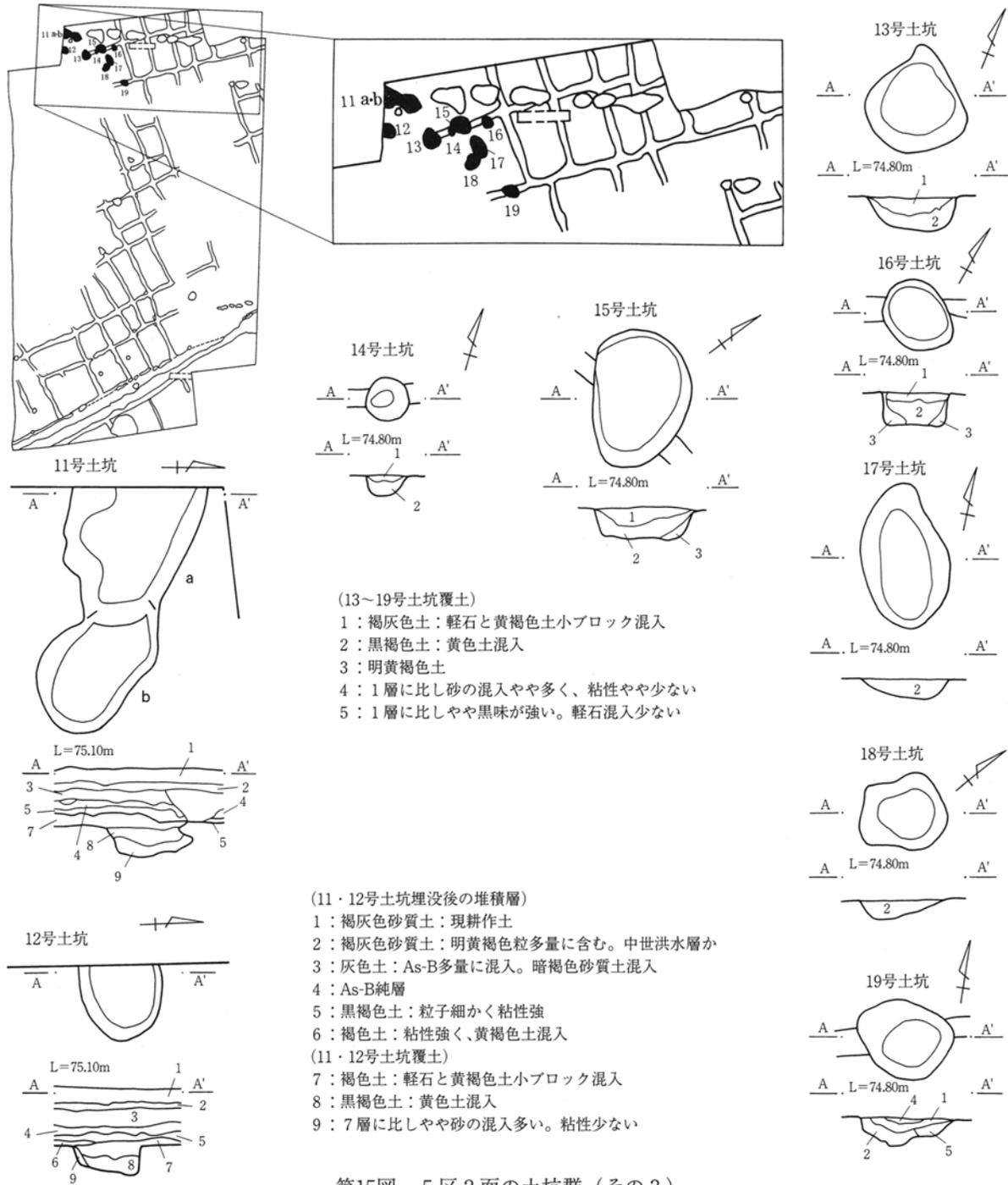
第14図 5区2面の土坑群 (その2)

紀以降で、調査面の関係から11世紀までの所産として把握されるに過ぎなかったのであるが、後述の状況から律令期の所産である可能性を考慮したい。

本土坑群の掘削意図は明瞭ではないが、5～11号土坑は凡そ東西に直線的に連なり、12～16土坑もやや不規則ではあるが東西に並ぶため、条里方眼に依拠した耕作等の掘削痕である可能性が想定される。また戦場の配置は見せないが17～19号土坑についても同様の掘削意図を考えたい。

- 規模 (5号土坑) 径: 65×48cm 深さ: 23cm
 (6号土坑) 径: 245×105cm 深さ: 25cm
 (7号土坑) 径: 105×90cm 深さ: 23cm
 (8号土坑) 径: 242×106cm 深さ: 18cm

- (9号土坑) 径: 190×93cm 深さ: 23cm
 (10号土坑) a 径: 205×80cm 深さ: 11cm
 b 径: 150×90cm 深さ: 21cm
 (11号土坑) a 径: 130×110cm 深さ: 30cm
 b 径: 110×105cm 深さ: 10cm
 (12号土坑) 径: 73cm以上×70cm 深さ: 26cm
 (13号土坑) 径: 100×95cm 深さ: 33cm
 (14号土坑) 径: 42×41cm 深さ: 16cm
 (15号土坑) 径: 130×95cm 深さ: 23cm
 (16号土坑) 径: 68×72cm 深さ: 25cm
 (17号土坑) 径: 136×85cm 深さ: 17cm
 (18号土坑) 径: 85×75cm 深さ: 24cm
 (19号土坑) 径: 90×75cm 深さ: 25cm



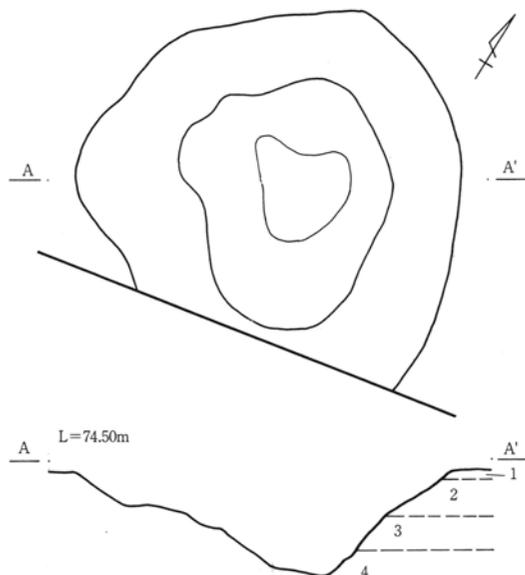
第15図 5区2面の土坑群 (その3)

構造 本土坑群のうち14号土坑が小型、6・8・9・11号土坑が大型で、他は中規模なものである。尚、6号土坑は3基の土坑から成る可能性を有している。

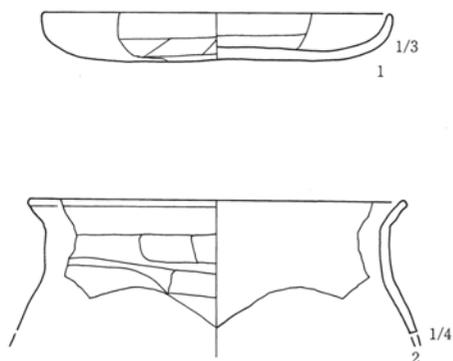
またプランは7・13・16・18・19号土坑が隅丸方形、14号土坑が円形、6号土坑が不整形を呈する他は、概ね楕円形若しくは長円形のプランを呈する。尚6号土坑の中心部は楕円形プランを呈している。

掘削形態が17・18・19は播鉢状を呈している他は箱型に近い形状を呈しているが底面は、6・7・11 a・14・17・18・19号土坑が丸底状である他は、概ね平底状である。

壁面は11 b・17号土坑はやや開き気味であるが、他の土坑は比較的是っきりと立ち上がり、特に5・12・16号土坑は直立かそれに近いものである。



第16図 5-2-1号井戸及び出土遺物



- (1号井戸地山層土)
- 1：黒色粘質土：上半はAs-C含む。粘性非常に強い
 - 2：灰黄色粘質土：鉄分沈着。粘性非常に強い
 - 3：灰色粘質土：鉄分沈着。粘性非常に強い
 - 4：灰色砂質土：やや難く締る砂質強いシルト。湧水層

(5) 5-2-1号井戸 (第16図、図版6・7)

概要 5-2-1号井戸は2面の調査範囲中、南壁際の中央に位置している。

本井戸からは9世紀後半期の坏(1)、甕(2)など土師器を中心に、僅かな須恵器を含む土器片が出土している。覆土の記録は残せなかったが、出土遺物から本井戸は9世紀後半以降の所産として把握され、一方で大きく下る時期のものではないものと判断している。

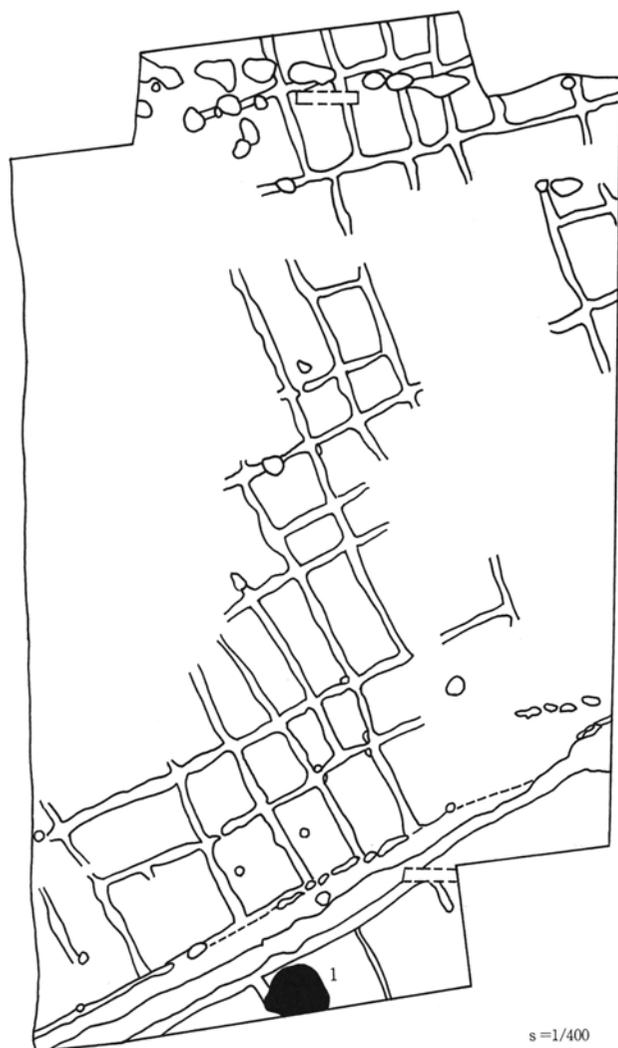
本井戸は浅く、その形態から南東・南西の中段テラスを足場とした可能性が考えられる。また湧水層は最下層の灰色砂質土(4層)であるが、アグリが形成されていないため、比較的短い期間での使用であったものと判断される。

尚、少なくとも調査範囲に於いて周辺に住居遺構は確認されていないので、農耕用の溜井と判断される。

規模 径：293×285cm 深さ：84cm

構造 本井戸は一部が調査区外に出るため全体の形状は把握できなかったが、概ね楕円形様のプランを呈する。

掘削形態は播鉢状を呈し、底面は平底であるが、西側に若干のテラスが見られる。



第17図 5区2面H r-F A下水田全体図

s=1/400

(6) 5-2-Hr-FA下水田

(第17・18図、図版6)

概要 5区2面の調査範囲である区東部ではHr-FA下水田を表出した。しかし水田面は上下に圧平されていて遺存状況は良好とは言えず、畦畔は調査面の中でより低い箇所を中心に調査範囲の半分程度で確

認できたに過ぎなかった。

本水田址はHr-FAに被覆されているため6世紀初頭まで使用された水田であることは確認されたのであるが、その初源は特定できなかった。

本水田址は所謂小区画水田である。耕作面は現状では調査した範囲のうち東西それぞれの中央付近が



第18図の1 5区2面Hr-FA下水田面

やや低くなっているが、当時は北から南に非常に緩やかに傾斜する地形であったものと推定される。

本水田址は東西31m、南北54mの範囲で確認、調査されているが、調査区南寄りには東北東-西南西走行の大畦が設けられ、確認された殆どの水田区画

は大畦の北側に位置していた。また前述の5-2-1・2号溝がこの位置に掘削されているものの、この大畦に明らかに沿うような水路を確認することはできず、また調査区北寄りに於いても水田址に伴う水路を確認することはできなかった。



第18図の2 5区2面H r-F A下水田面

第2章 発見された遺構と遺物

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

- [水田区画径]
- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 : (280) × (168) cm | |
| 2 : 220 × (208) cm | 3 : 280 × (228) cm |
| 4 : 272 × (264) cm | 5 : (380) × (320) cm |
| 6 : (204) × (124) cm | 7 : 400 × (188) cm |
| 8 : 224 × 352 cm | 9 : 180 × 293 cm |
| 10 : 260 × 460 cm | 11 : 276 × 448 cm |
| 12 : (384) × 432 cm | 13 : (200) × (164) cm |
| 14 : (608) × (216) cm | 15 : 248 × (220) cm |
| 16 : 380 × (288) cm | 17 : 360 × 572 cm |
| 18 : (100) × (160) cm | 19 : 280 × (200) cm |
| 20 : (40) × (80) cm | 21 : 308 × 432 cm |
| 22 : (220) × (680) cm | 23 : (160) × (360) cm |
| 24 : (164) × (320) cm | 25 : 248 × 372 cm |
| 26 : 272 × (680) cm | 27 : (32) × (688) cm |
| 28 : (60) × (712) cm | 29 : 264 × 232 cm |
| 30 : 248 × 244 cm | 31 : 340 × 268 cm |
| 32 : (90) × (40) cm | 33 : (60) × (56) cm |
| 34 : (266) × (244) cm | 35 : 304 × 290 cm |
| 36 : 336 × 304 cm | 37 : (180) × 192 cm |
| 38 : 304 × 180 cm | 39 : 232 × 540 cm |
| 40 : 288 × 640 cm | 41 : 268 × 620 cm |
| 42 : 208 × 612 cm | 43 : 208 × 572 cm |
| 44 : 244 × 464 cm | 45 : 280 × (400) cm |
| 46 : 668 × (132) cm | 47 : (72) × (148) cm |
| 48 : (352) × 308 cm | 49 : 200 × 300 cm |
| 50 : 148 × 312 cm | 51 : 320 × 256 cm |
| 52 : 303 × 320 cm | 53 : 620 × 328 cm |
| 54 : (284) × 480 cm | 55 : 272 × 488 cm |
| 56 : 292 × 440 cm | 57 : 340 × 432 cm |
| 58 : 296 × 460 cm | 59 : 224 × 508 cm |
| 60 : 276 × 868 cm | 61 : (324) × (664) cm |
| 62 : (104) × (208) cm | 63 : 420 × (464) cm |
| 64 : 560 × (400) cm | 65 : (600) × (200) cm |

[大畦] 長さ: 35.12m 幅: 284cm

[畦畔] 下幅: 48cm以下

[水口幅] 水田面26-30間: 上幅: 44cm

水田面52-57間: 上幅: 28cm

構造 本水田址はAs-Cを混入する黒色粘質土を耕作土とし、同じ土壌を以って畦畔を作っている。

本水田址では調査区南寄りに東北東-西南西方向の大畦を造り、大畦の北側で61面、南側で4面の水田区画を確認している。これらは更に細分される可能性を持つものも含まれるが、平面形は概ね長方形若しくは方形を呈している。

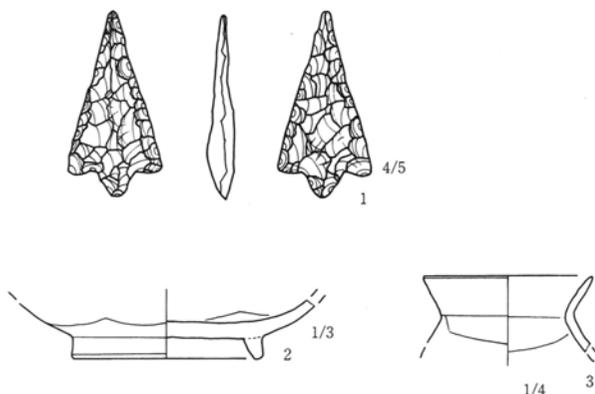
大畦北側の区域のうち北半部ではより真の東西南北に近い方向で、南半部及び大畦の南側では大畦に並行若しくは直交する方向で、それぞれ幅60cm以下の畦畔を設置している。これらの畦畔の間隔は南北方向のものでは凡そ3m程を測るが、東西方向のものでは3~5mとばらつきが見られるため、本水田址では南北方向の畦を作った後、その間を東西方向の畦で区切って水田区画を造ったものと想定される。

また、水口は何れも南北に並ぶ水田面26と30、52と57の間に確認できたに過ぎなかった。これらの水口は共にやや西に偏った位置に設けられている。

(7) 5区2面遺構に伴わない遺物

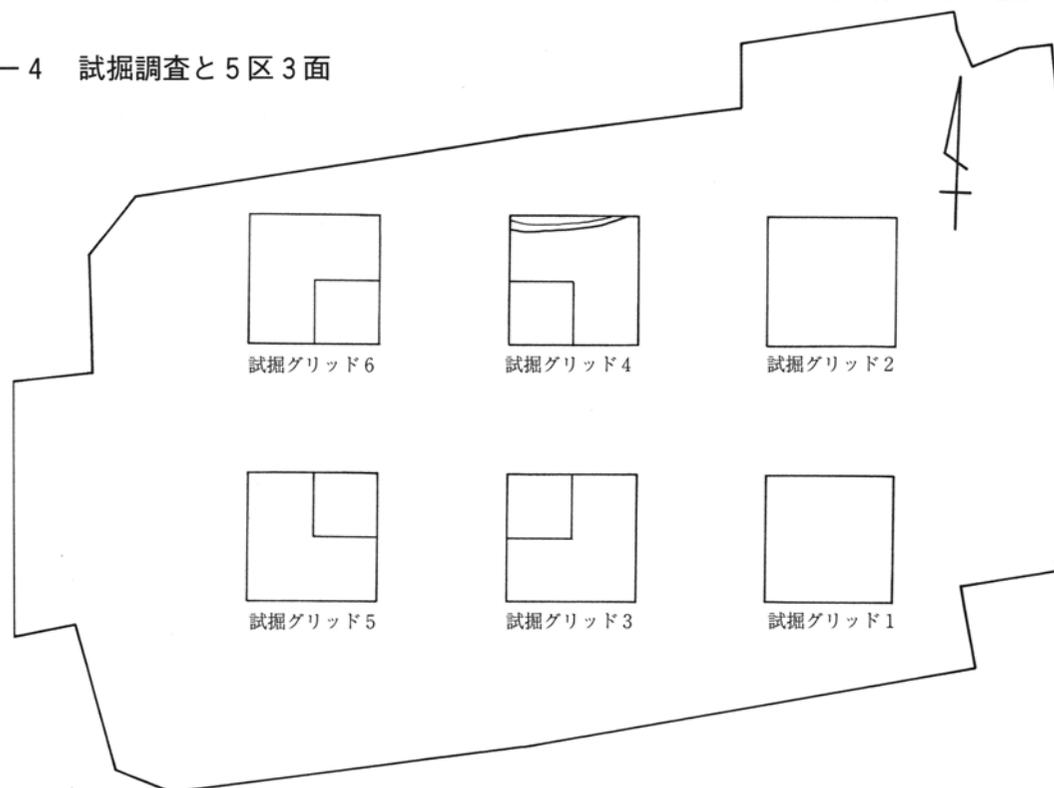
(第19図、図版7)

概要 5区2面の調査に於いては、土師器を中心に古墳時代から平安時代に至る時期の土師器、須恵器、など若干の遺物の出土を見ている。これらの中には墨の付着する10世紀前半期の灰釉陶碗(2)の他、有茎の石鏃(1)や3世紀末~4世紀の土師器甕片(3)など下位面の所産の遺物も含まれている。



第19図 5区2面遺構に伴わない遺物

5-4 試掘調査と5区3面



第20図 5区試掘グリッド配置図

概要 記載の順序が前後するが、5区に於いてはAs-B下水田の調査終了後、下位層の遺構確認のための試掘調査を実施している。

試掘調査は10m四方の試掘グリッドを250～259-080～089グリッド（以下「試掘グリッド1」とする）、270～279-080～089グリッド（以下「試掘グリッド2」とする）、250～259-100～109グリッド（以下「試掘グリッド3」とする）、270～279-100～109グリッド（以下「試掘グリッド4」とする）、250～259-120～129グリッド（以下「試掘グリッド5」とする）、270～279-120～129グリッド（以下「試掘グリッド6」とする）の6ヶ所を設定して実施した。

このうち試掘グリッド1・2はAs-B下水田耕作土下面とHr-FA層下面、As-Cを混入する黒色土下の黒色土上面、及びその下位の洪積層上面について

遺構確認を行った。その結果Hr-FA面を第2面として調査を行ったのであるが、この調査所見については前述の5-3項に述べてきた通りである。

尚、試掘グリッド3～6についても同様の確認面を想定して試掘調査を実施したがHr-FA面は失われていて確認することができなかった。

5区の3面となる2面より下位の遺構については、上述のようにAs-C混黒色土下面を確認面として遺構確認を試みたが、若干の土師器片の出土が見られ、また試掘グリッド4の北寄りに落ち込みを確認したものの、試掘グリッド1～6の全ての試掘グリッドで遺構を確認することはできなかった。

また、更に下位の面である洪積層上面に対しても遺構確認のための柵掘りを試みたが、遺構を確認することはできず、3面に対する調査は試掘調査に留めて完了することとなった。

第2節 6区の遺構と遺物

6-1 6区の調査概要

6区は地形的に西・中・東の3つの区域に区分される。このうち最も西の区画は4・5区から続く低地部であるが、本区の範囲が最も低くなっている。中央の区画は微高地であり。東の区画は7区に(ノ)

続く低地部となっている。

6区に於ける遺構の状況は微高地部と低地部とで異なっているのであるが、全体として調査は3面の確認・調査面を以って実施した。

1面ではAs-B(天仁元年(1108))降下以降の遺構群を確認調査した。

(ハ)た。また屋敷に伴うと判断されるピット23基を確認したが、建物は想定できなかった。(ノ)

このうち後述の屋敷遺構を除く区域には、溝42条、土坑120基、ピット19基、井戸1基、As-B下水田を確認したが、このうちAs-B降下(1108)以前の遺構は水田址とこれに伴う水路を含む溝5条であった。水田面は西部と東部に確認したが、畦畔を伴った遺構は西部



で僅かに確認しただけであった。As-B降下後からAs-A降下(1783)前の遺構には溝31条、土坑120基、ピット15基があったが、このうち中世の遺構は溝4条、土坑46基で、その多くは室町時代以降の所産として把握された。また近世後期以降のものにはピット1基があり、時期不特定の遺構には溝6条とピット1基があった。

南側の屋敷遺構は浅い一重の溝で囲まれた15世紀後半以降と解釈されるもので、屋敷との共絆が確認できた6基を含む16基の土坑や郭内を東西に区画する溝1状を確認した。尚、南北の屋敷は鉤形の浅い溝でつながれ、その間も郭状の空間になっている。

屋敷遺構は中部の北寄りと南寄りに各1ヶ所、それぞれ一部を調査したが、北側の屋敷は回字形の屋敷で内堀・外堀を伴うものであった。15世紀を中心とする14世紀以降の中世の所産と判断された屋敷内には土坑32基を確認したが、このうち24基は屋敷遺構に伴うことを確認し、1基は近世後期以降のものであつ(ノ)



2面では古墳時代から平安時代にかけての遺構群を確認、調査した。

このうちHr-FA降下（6世紀初頭）以降の遺構としては竪穴住居61軒、掘立柱建物1棟、道遺構4条、溝26条、土坑47基、Hr-FA・FP泥流被覆された水田面を調査した。竪穴住居は何れも竈を有するもので6区中南部の微高地に集中して確認し、9世紀前半期のもの16軒、同後半期のものが10軒を含む58軒は律令期の所産として確認した。また、掘立柱建物は平安期、道遺構は7世紀～律令期のもので、条里方眼に依拠した土地区画の行われる以前の所産。溝は6世紀初頭のもの1条で、条里方眼に依拠する以前のものが12条、集落を巻くように掘削されたものを含むそれ以降の溝は12条を数えた。また土坑は36基が古墳～平安時代のもので、うち6基が律令期の所産として確認した。また東西の低地部では、Hr-FA・FP泥流下に小区画の水田面を確認、調査した。

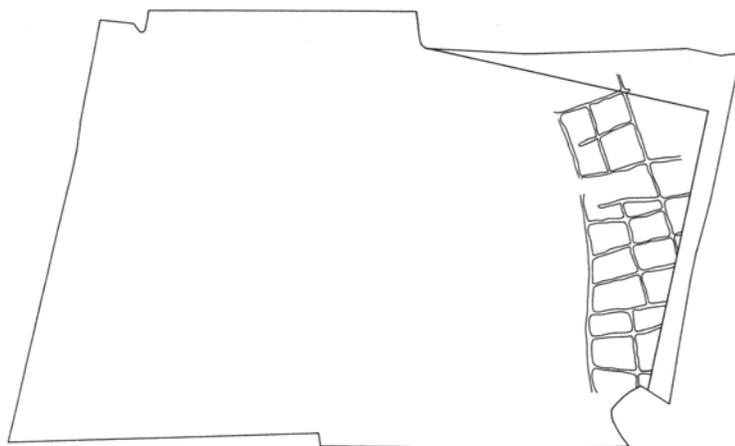
このHr-FA・FP泥流下水田の下位からは、西側の谷地に於いて小区画、東側の谷地では極小区画の規格を有するHr-FAで覆われた水田址を確認し、西

3面はAs-C降下（3世紀後葉）以前の遺構を対象として確認調査を行った。

調査は弥生時代以前の黒色土を除去して基盤層となる洪積層上面を確認面として行ったが、37基の風倒木痕を確認した他は3面に属するような明瞭な遺構を確認することはできなかったため、遺構確認に止めて調査を終了した。



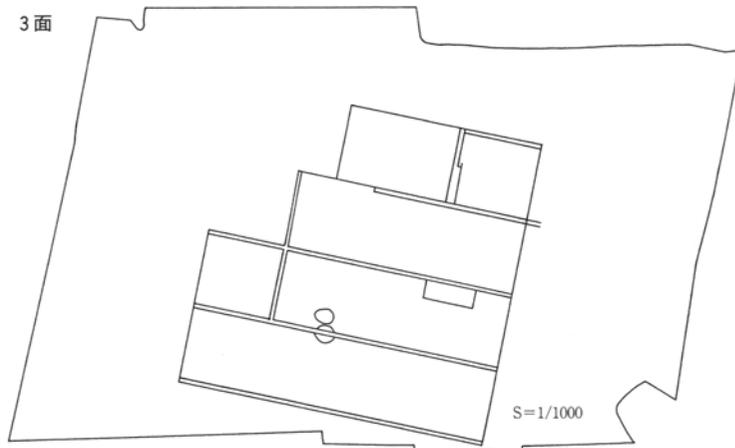
Hr-FA-FP泥流下水田



FA下水田

側低地部ではその下位にAs-C降下後の復旧水田に伴う小区画水田の畦畔の痕跡を発見した。

また、3世紀末葉の弥生～古墳時代への移行期の周溝を伴う大型の竪穴住居2軒と溝1条と土坑1基も確認、調査した。



3面

S=1/1000

6-2 6区1面の遺構と遺物

[6区西部の溝群]

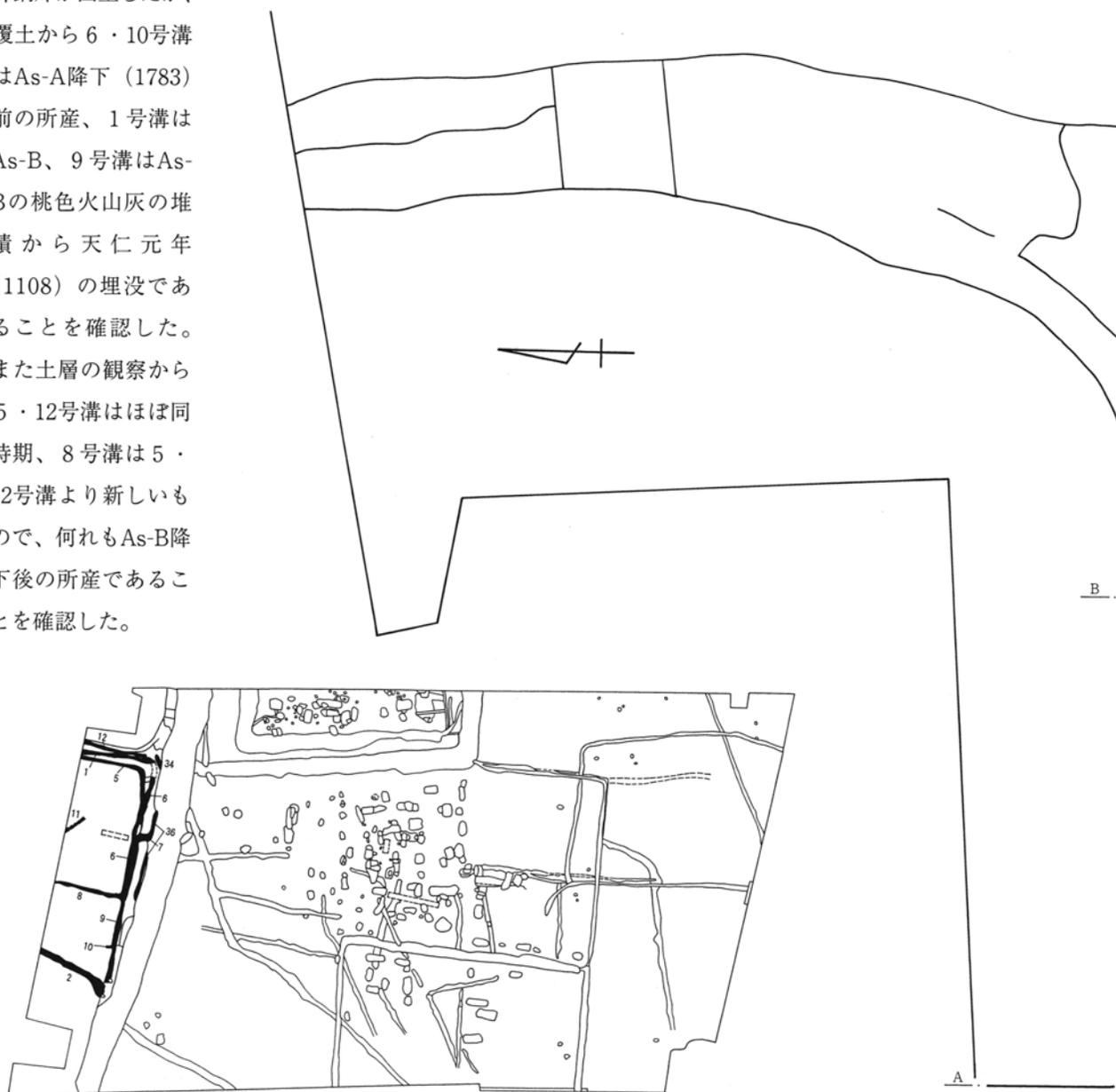
(1) 6-1-1・2・5・6・8・9・10・12号溝
(第21図)

概要 6-1-1・2・5・6・8・9・10・12号溝は6区西端近くに在る。本溝群の東には圃場整備前の用水路が南北に走り、本溝群と絡んでAs-A降下後の溝群が掘削されている。

6号溝からは土師器片、9号溝からは土師器・内耳鍋片が出土したが、覆土から6・10号溝はAs-A降下(1783)前の所産、1号溝はAs-B、9号溝はAs-Bの桃色火山灰の堆積から天仁元年(1108)の埋没であることを確認した。また土層の観察から5・12号溝はほぼ同時期、8号溝は5・12号溝より新しいもので、何れもAs-B降下後の所産であることを確認した。

これらの溝の掘削意図は特定できなかったが、その走行や配置から土地区画に伴うものと解釈したい。また、2号溝は両側に堤状の盛り上がりを伴うため、As-B下水田に伴う水路の可能性を考慮したい。

また、本溝群に絡む前述のAs-A降下以降の溝群が本溝群と同様の走行であるため、6区西端域では長期に亘り同質の溝の掘削が繰り返されていた可能性が考慮される。



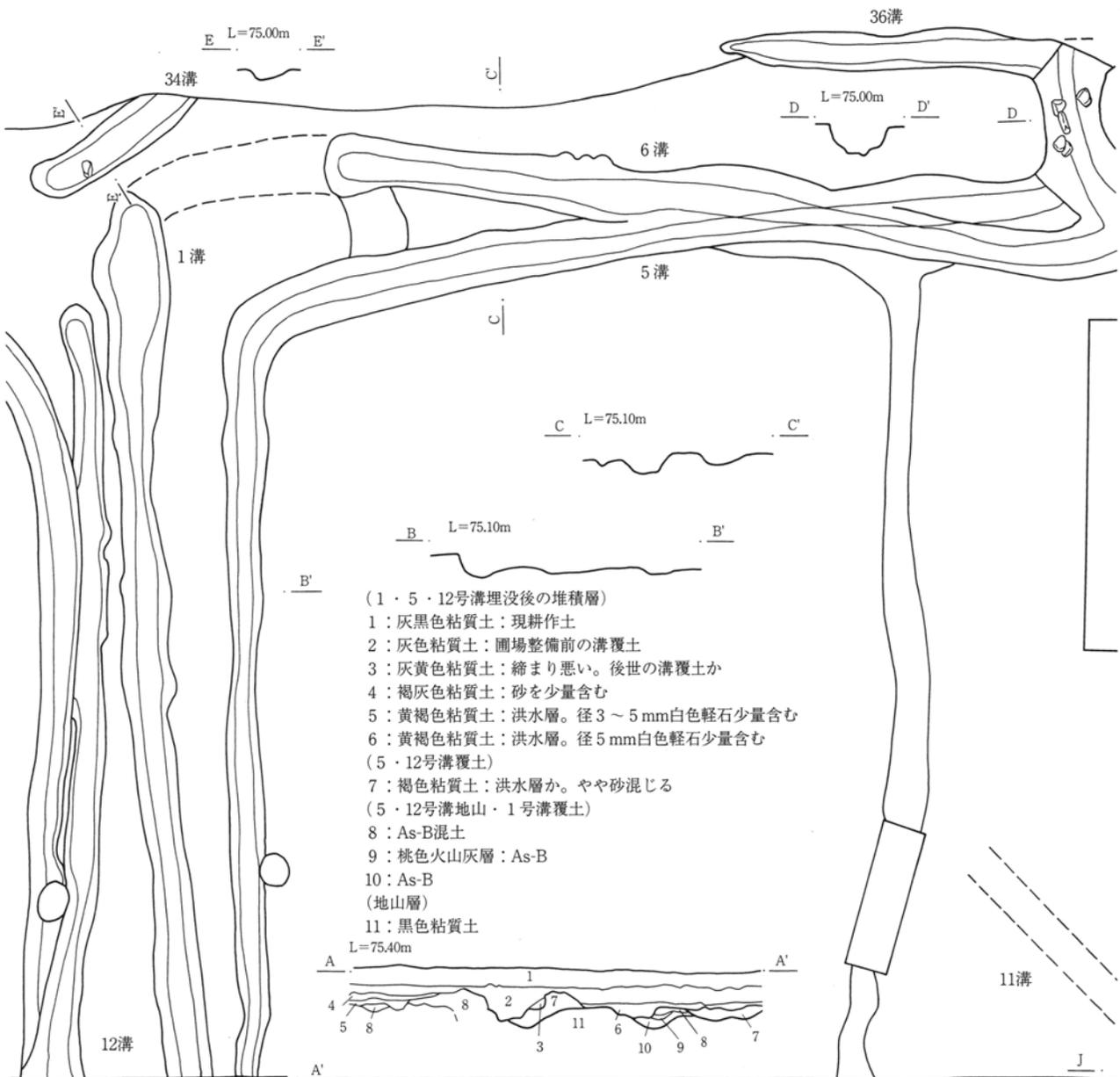
第21図の1 6区1面西端部の溝群

規模 (1号溝)長さ:10.8m 幅:64cm 深さ:11cm
 (2号溝)長さ:12.3m 幅:176cm 深さ:11cm
 (5号溝)長さ:28.8m 幅:40cm 深さ:14cm
 (6号溝)長さ:18.0m 幅:96cm 深さ:10cm
 (8号溝)長さ:10.8m 幅:66cm 深さ:12cm
 (9号溝)長さ:12.8m 幅:80cm 深さ:11cm
 (10号溝)長さ:0.8m 幅:24cm 深さ:10cm
 (12号溝)長さ:9.3m 幅:48cm 深さ:10cm

構造 本溝群は5号溝がL字形を呈し、2号溝が東

部で走行をやや南に変ずる他は、全体として直線的なプランを呈している。1号溝がN86°、2号溝はN103°で東部はN130°、L字形の5号溝はN88°及びN348°、6号溝はN5°、8号溝はN92°、10号溝はN82°、12号溝はN89°の軸方向を取る。

溝の底面は横断面形が何れも船底形か丸底形である。壁面は10号溝はややしっかりと立つが、他の溝はやや開き気味である。尚、2号溝は南北両側に幅60cm前後、高さ4cmの堤を伴っている。



第21図の2 6区1面西端部の溝群

第2章 発見された遺構と遺物

(2) 6-1-7・36号溝 (第21図)

概要 6-1-7・36号溝は前述の6-1-1・2・5・6・8・9・10・12号溝群の東側に位置している。

両溝とも出土遺物は見られず、時期の特定には至らなかった。尚、覆土の状態からAs-A降下以前の所産としては調査段階に確認されている。

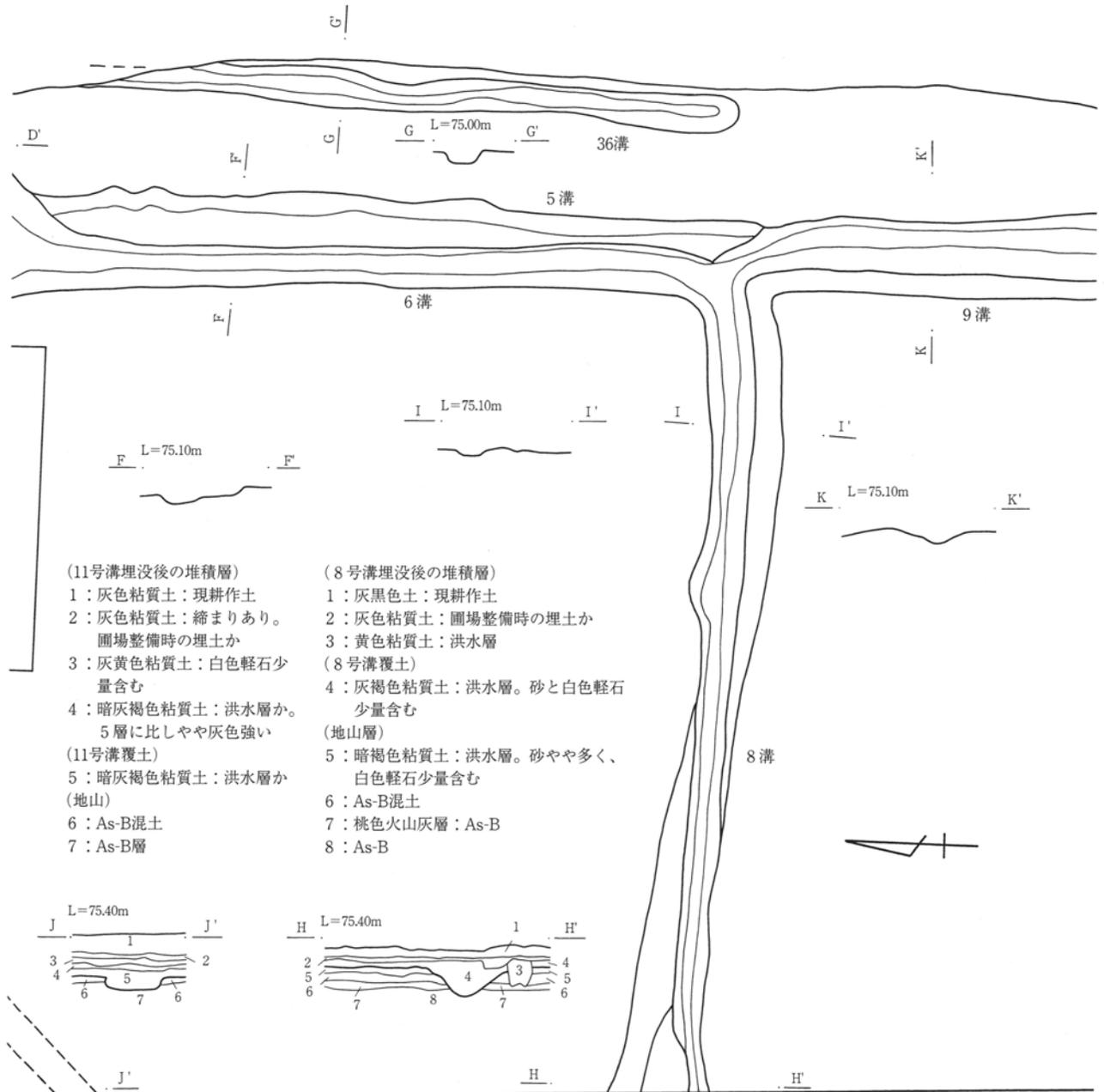
7・36号溝の走行は概ね1・5号溝等と近似しているため、前述の溝群と同様に土地区画に伴って掘削されたものと判断される。尚、両溝とも東寄り

南北走行の圃場整備段階の用水路に切られており、36号溝は前述の5・6号溝に近いと想定され、土地の変換点近くに掘削されていた可能性が考えられる。

規模 (7号溝)長さ:1.2m 幅:68cm 深さ:32cm
(36号溝)長さ:13.8m 幅:56cm 深さ:10.0cm

構造 7・36号溝のプランは直線的で、前者はN3°、後者はN75°の走行を示している。

掘削形態は1・5号溝等に近似している。



第21図の3 6区1面西端部の溝群

(3) 6-1-11・34号溝 (第21図)

概要 6-1-11・34号溝は6区西部に所在する。

11・34号溝からの出土遺物はなく時期特定には至らなかったが、覆土から両溝ともAs-A降下以前の所産で、11号溝はAs-B降下後の洪水層土での埋没を確認している。尚、11号溝は堆積層の比較から前述の6-1-5・12号溝とほぼ同時期のと判断される。

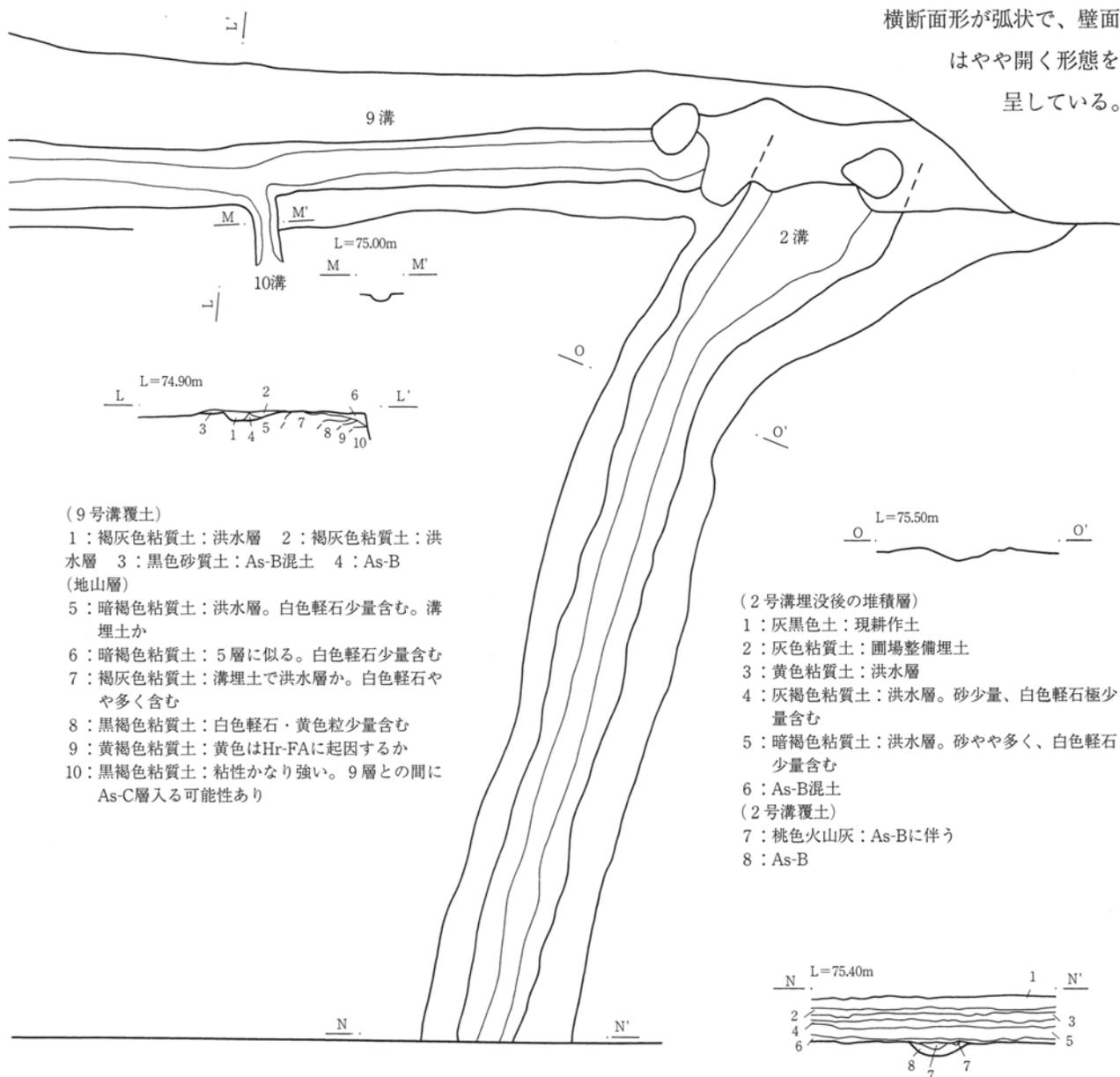
両溝の軸方向は6区西端部の他の溝と異なっている。また11号溝はAs-B下水田面に若干の工具痕らしい窪みが10m程の範囲で残る程度で平面的に捕ら

えられず、34号溝も近現代の用水路に切られるなど遺存状況が悪いこともあって、共に掘削意図は特定できなかった。

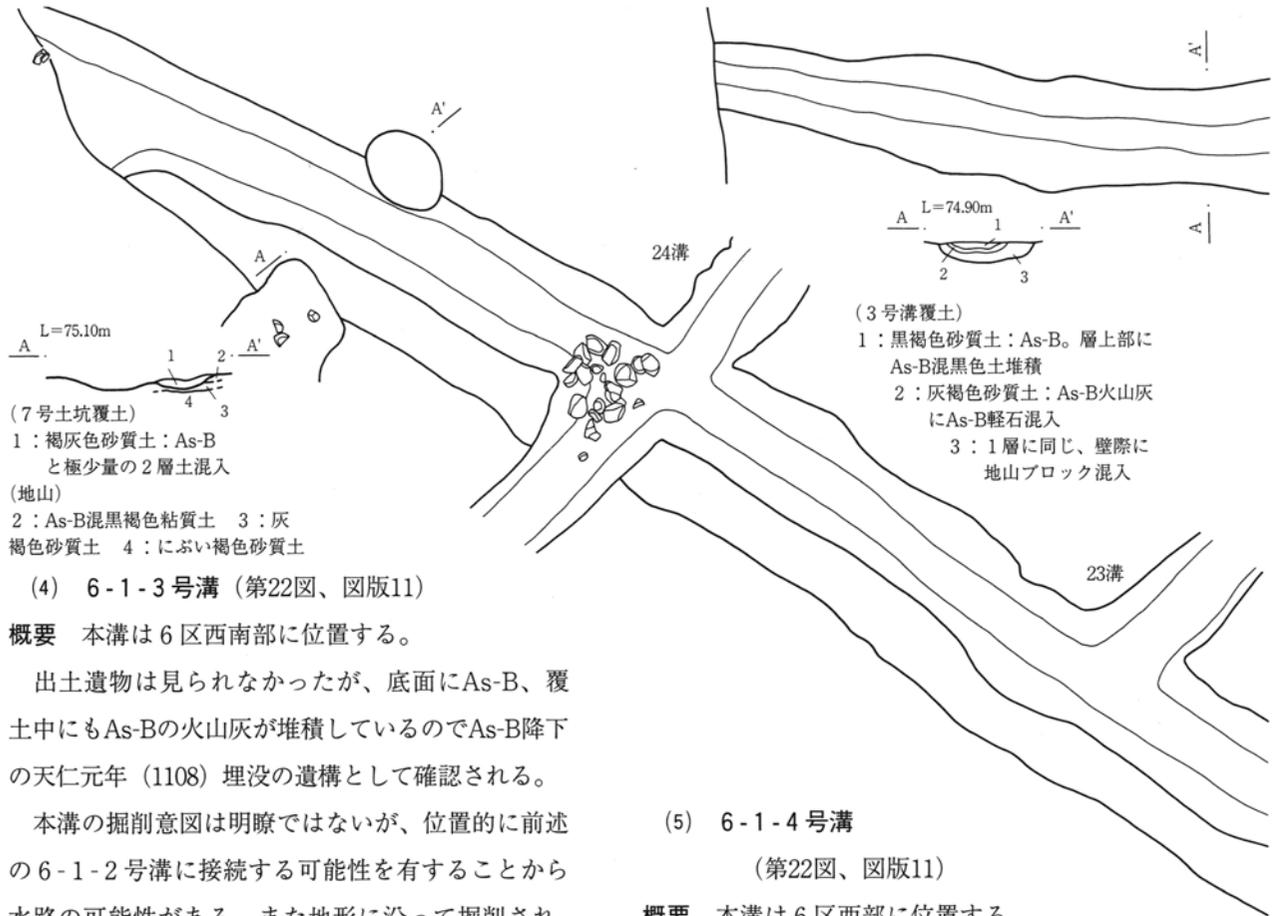
規模 (11号溝)長さ:2.0m 幅:68cm 深さ:32cm (34号溝)長さ:2.2m 幅:56cm 深さ:90cm

構造 11号溝は北東—南西方向に走行を取り、そのプランは概ね直線的であったと想定される。34号溝は北西—南東方向に走行を取り、調査できた範囲は小さいが、そのプランは直線的である。

11号溝の形態は明瞭でないが、断面観察からは箱堀状であることが確認される。また34号溝は底面の横断面形が弧状で、壁面はやや開く形態を呈している。



第21図の4 6区1面西端部の溝群



(7号坑覆土)
 1：褐灰色砂質土：As-B
 と極少量の2層土混入
 (地山)
 2：As-B混黒褐色粘質土 3：灰
 褐色砂質土 4：にぶい褐色砂質土

(3号溝覆土)
 1：黒褐色砂質土：As-B。層上部に
 As-B混黒色土堆積
 2：灰褐色砂質土：As-B火山灰
 にAs-B軽石混入
 3：1層に同じ、壁際に
 地山ブロック混入

(4) 6-1-3号溝 (第22図、図版11)

概要 本溝は6区西南部に位置する。

出土遺物は見られなかったが、底面にAs-B、覆土中にもAs-Bの火山灰が堆積しているためAs-B降下の天仁元年(1108)埋没の遺構として確認される。

本溝の掘削意図は明瞭ではないが、位置的に前述の6-1-2号溝に接続する可能性を有することから水路の可能性がある。また地形に沿って掘削され、条里方眼に依拠していない。

規模 長さ：19.2m 幅：128cm 深さ：24cm

構造 本溝は直線的なプランを呈するが、走行は西北西—東南東を向く。

底面は横断面形がやや丸みを持ち、一方、壁面の開きは弱い。

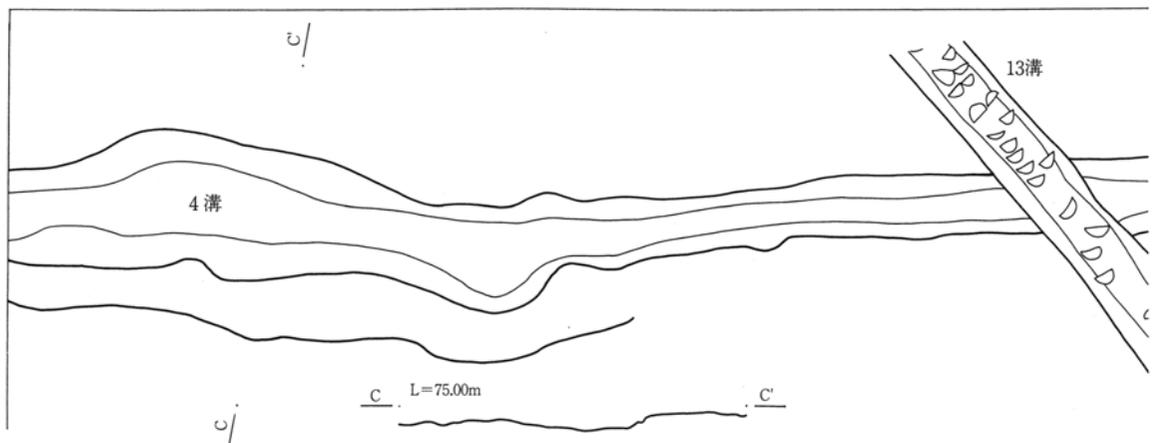
(5) 6-1-4号溝

(第22図、図版11)

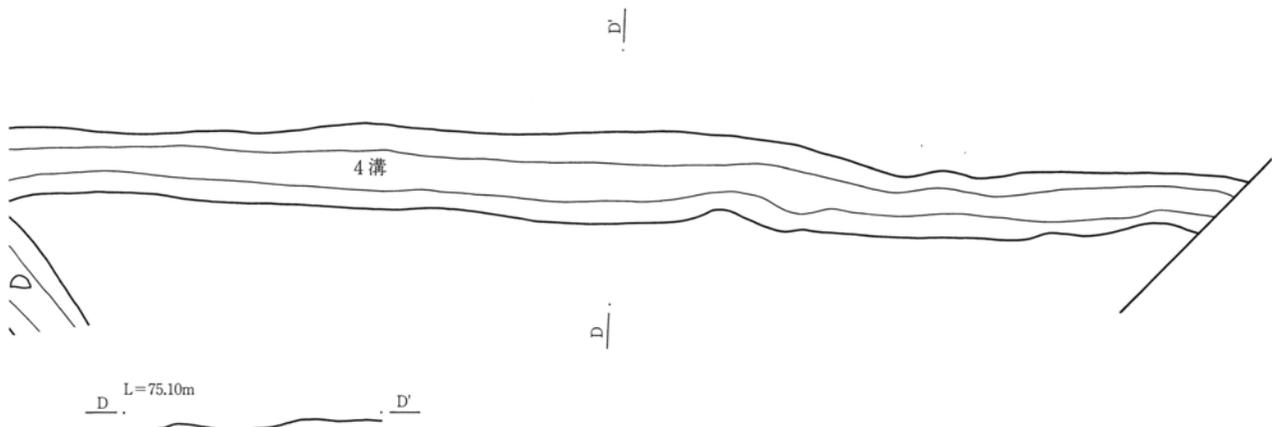
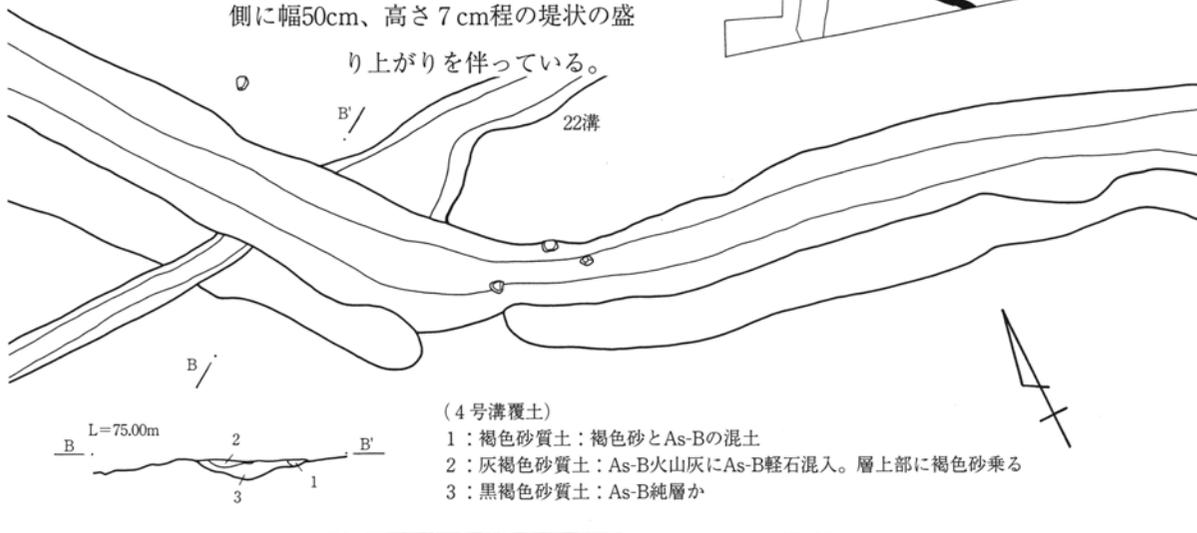
概要 本溝は6区西部に位置する。

南側は前述の6-1-3号溝の走行方向に近い。

本溝からは坏や甕といった土師器片の出土が見られたものの時期の特定には至らなかった。しかし本溝も3号溝同様に底面にAs-Bが堆積し、覆土中にはAs-Bの火山灰も見られるためAs-B降下の天仁元年(1108)に埋没した遺構として把握できる。



第22図の1 6-1-3・4号溝



第22図の2 6-1-3・4号溝

第2章 発見された遺構と遺物

(6) 6-1-22・23号溝 (第23図、図版11)

概要 6-1-22・23号溝は6区西部中程に位置する。共に6-1-4号溝と切り合い、22号溝がこれを切っているが、23号溝と4号溝との新旧関係を特定することはできなかった。

22・23号溝からは土師器坏・甕片が出土しているが時期特定には至らなかった。また、覆土から22号溝はAs-B降下後の所産であることが確認されたが、23号溝は覆土の記録もなく、As-A降下以前の所産として把握できるに過ぎない。尚、23号溝は22号溝に概ね並走するように在ることから同時期である可能性が考えられる。22・23号溝には流水の痕跡はなく、掘削意図も特定で

きなかった。尚、22号溝は後述する6-1-13号溝(6区1面の2号屋敷西側の側溝)に付き当たって止まるため、2

号屋敷との関連も考慮される。

規模 (22号溝) 長さ: 20.4m 幅: 64cm
深さ: 9cm

(23号溝) 長さ: 18.4m 幅: 80cm
深さ: 11cm

構造 22・23号溝は何れも直線的なプランを呈する。走行は、両溝共に西北西-東南東方向を向いている。

掘削底面は何れの溝も平底気味であるが、溝幅の狭まる部分では何れも船底形を呈している。壁面はやや開き気味である。

(7) 6-1-24号溝 (第23図)

概要 本溝は6区西部中程に位置する。6-1-4号溝と切り合うが、新旧関係を特定することはできなかった。

出土遺物はなく時期特定には至らなかった。また、覆土の記録も残せなかったのでAs-A降下以前の所産である

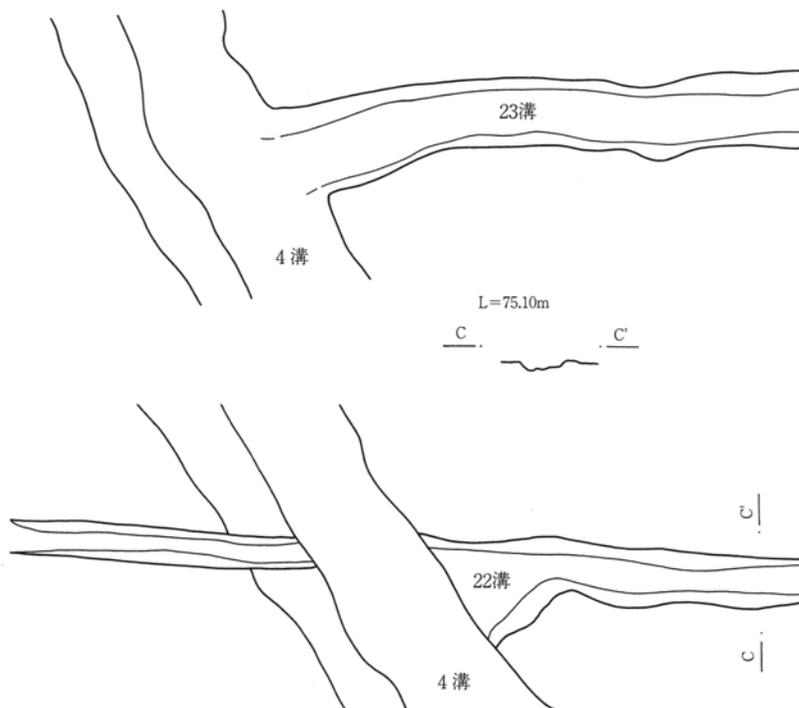
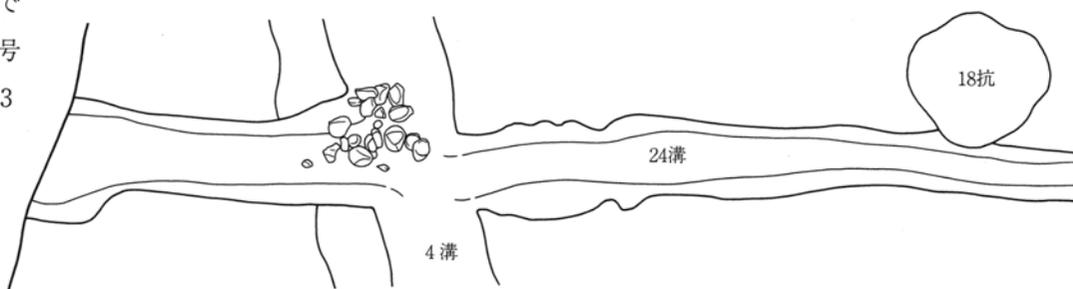
ことを確認できたに過ぎない。

本溝には流水の痕跡は見られず、掘削意図を特定することはできなかった。尚、本溝は近現代の水路の西側には延びていないことから、前述の6-1-36号溝と同様の何らかの制約を受けていたものと思慮される。

規模 長さ: 16.4m 幅: 80cm 深さ: 12cm

構造 本溝はほぼ東西方向に走行を取り、概ね直線的なプランを呈している。

掘削の形状は箱堀状を呈するが、溝幅の狭まる部分では何れも船底形を呈するものとなっている。尚、壁面はやや開き気味である。



第23図の1 6-1-22・23・24号溝

〔6区中部の溝群〕

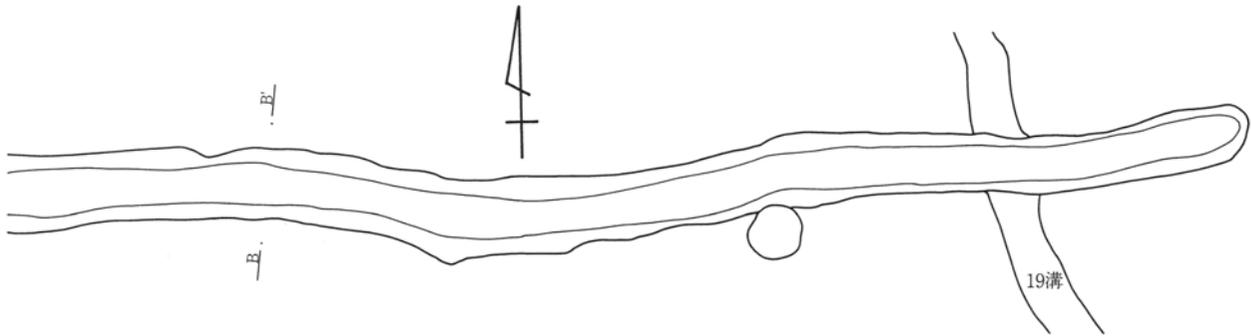
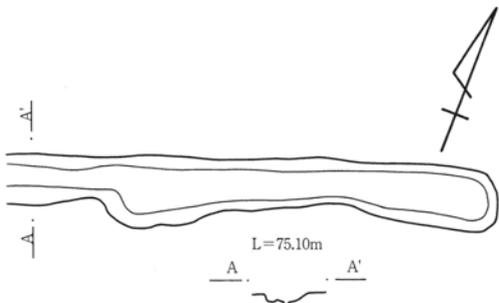
(8) 6-1-15・16・18・19・26・29・38b号溝

(第24・25図、図版12・13・48)

概要 6-1-15・16・18・19・26・29・38b号溝は6区中部に所在する溝群である。このうち15号溝は6-1-14号と、19号溝が6-1-13・23号溝と、26号溝が13・25号溝と切り合い関係にあるが、前者は15号溝が14号溝を切ることを確認できたものの、他は新旧を特定することはできなかつた。尚、遺構番号を二重登録してしまったため遺構番号に“b”を付した38b号溝は後述する区東部の6-1-38号溝とは別のものである。

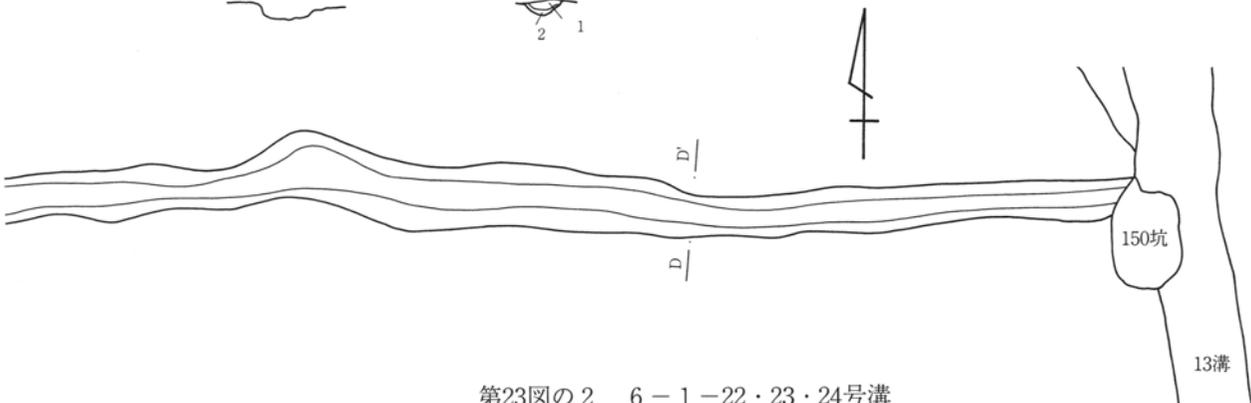
これらの溝のうち15・16・26・29号溝からは土師器或いは須恵器片や敲石（16溝-1）、打製石斧（29溝-1）が出土したものの、時期の特定には至らなかった。尚、覆土から6区1面中部の各溝はAs-B降下後、As-A降下以前の所産として把握されるものである。また15・16号溝はAs-B混土中に掘削され洪水層で埋没するものである。

これらの溝の規模は近似しており、15・18・19・



(22号溝覆土)

- 1：黄褐色砂質土と灰褐色洪水層土の混土：層上位に後者多く入る
- 2：黒褐色砂質土：層上位にAs-B混入



第23図の2 6-1-22・23・24号溝

第2章 発見された遺構と遺物

26・29・38溝はその走行が並行又は縦列に配置され、16号溝はこれらに直行する走行で位置している。本溝群の掘削目的は明瞭でないが、1.8~5.5mの間隔で並走行する状況等から、(後述する6-1-38号溝を含め)耕作に伴うものではないかと思慮されるものである。

規模 (15号溝) 長さ: 11.5m 幅: 50cm 深さ: 14cm

(16号溝) 長さ: 10.7m 幅: 45cm 深さ: 10cm

(18号溝) 長さ: 8.0m 幅: 48cm 深さ: 7cm

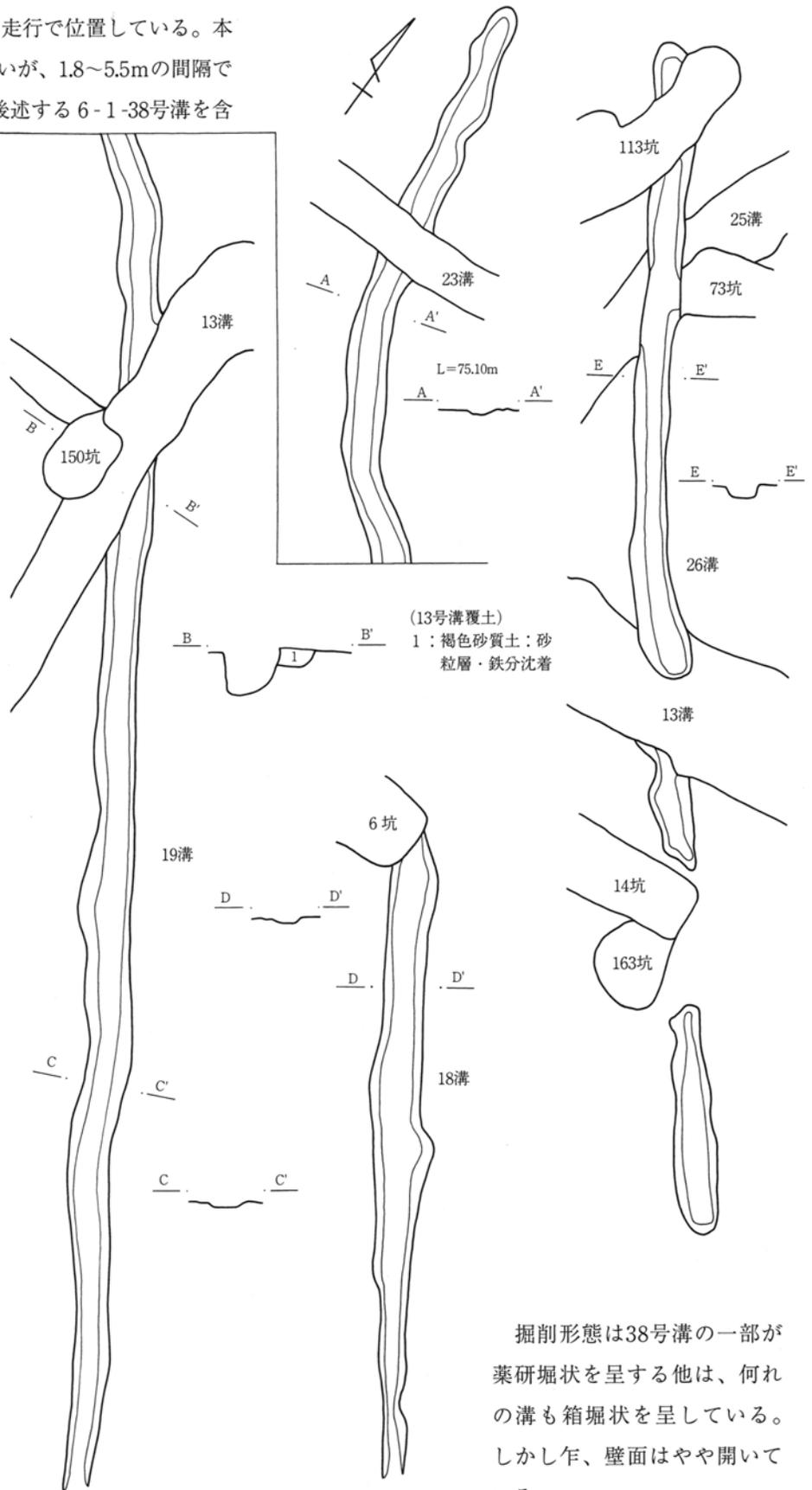
(19号溝) 長さ: 23.2m 幅: 48cm 深さ: 6cm

(26号溝) 長さ: 10.2m 幅: 48cm 深さ: 12cm

(29号溝) 長さ: 8.5m 幅: 44cm 深さ: 8cm

(38号溝) 長さ: 4.8m 幅: 32cm 深さ: 16cm

構造 本溝群の溝は直線的プランをとり、19号溝北端部が南北に、16号溝が北東-南西に走行を向ける他は、北西-南東方向に走行を取っている。また上述のように15・26・29号溝は延長線上に在り、15・18号溝間は5.5m、15・38b号溝間は0.8m、18・19号溝間は3.5m隔たっている。



掘削形態は38号溝の一部が薬研堀状を呈する他は、何れの溝も箱堀状を呈している。しかし乍、壁面はやや開いている。

第24図の1 6区1面中部の溝群(その1)

(9) 6-1-25号溝 (第24図)

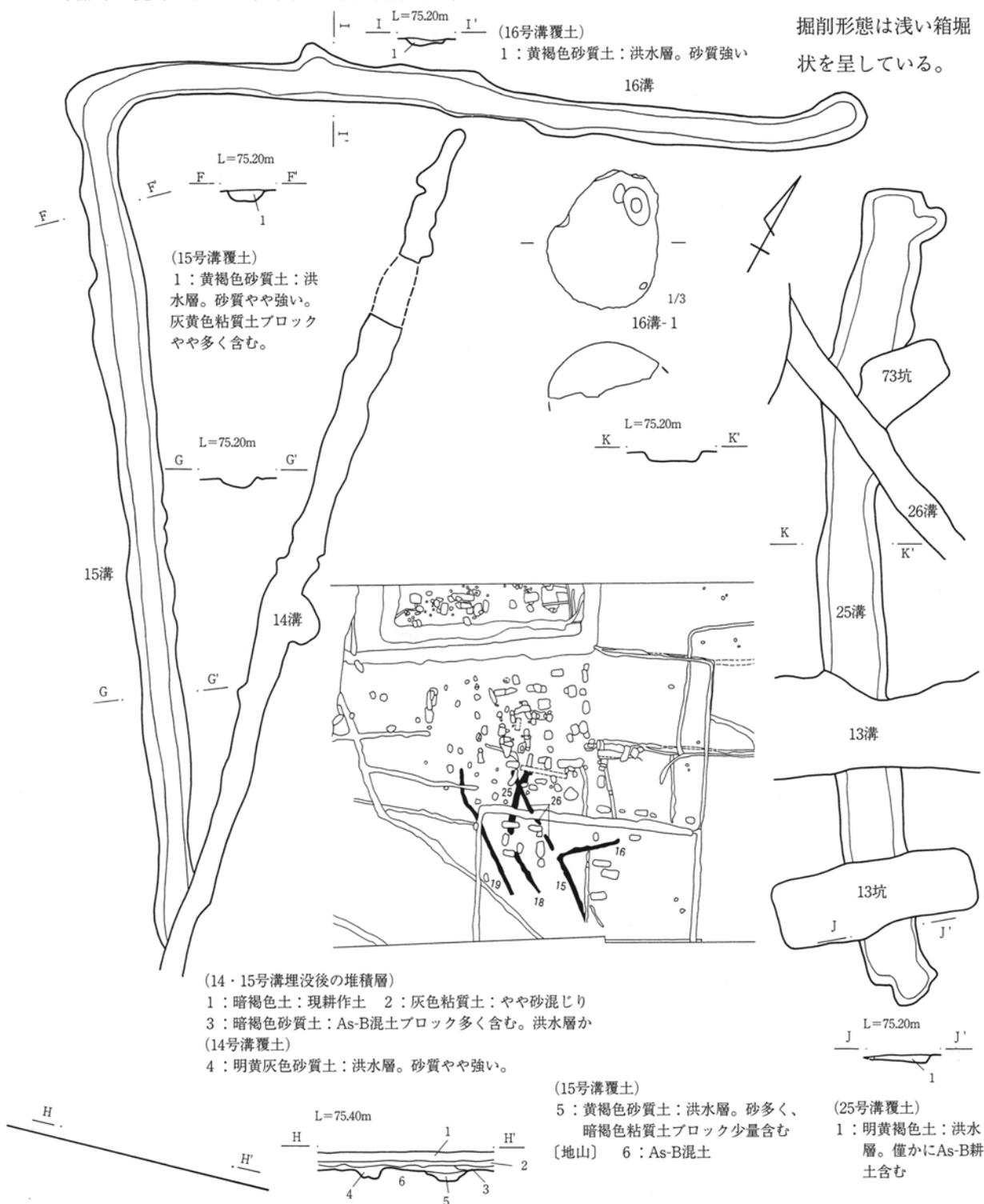
概要 本溝は6区中部に在るが、周辺の溝と形態・走行に相違がある。6-1-13号土坑を切るが、6-1-13・26号溝・73号土坑との新旧は不明である。
土師器坏・甕片を出土し、中世～近世中期の洪水

層のうち上位のもので埋没しているが、時期特定には至らず、掘削意図も特定できなかった。

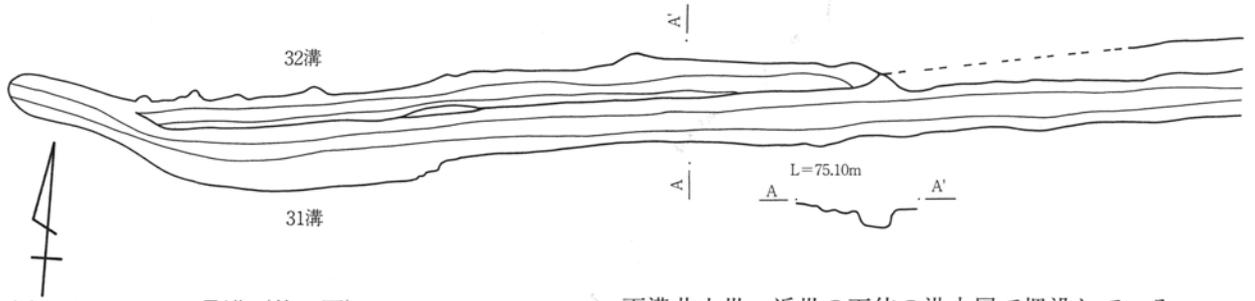
規模 長さ：10.8m 幅：88cm 深さ：14cm

構造 本溝は概ね南北に走行を取るが、そのプランは西方に弱く張り出す弧を描いている。

掘削形態は浅い箱堀状を呈している。



第24図の2 6区1面中部の溝群 (その1)



(10) 6-1-27・30号溝 (第25図)

概要 6-1-27・30号溝は6区中部に近接して位置する。共に後述する2号屋敷遺構北辺の6-1-13号溝に接するが新旧関係等は特定できなかった。

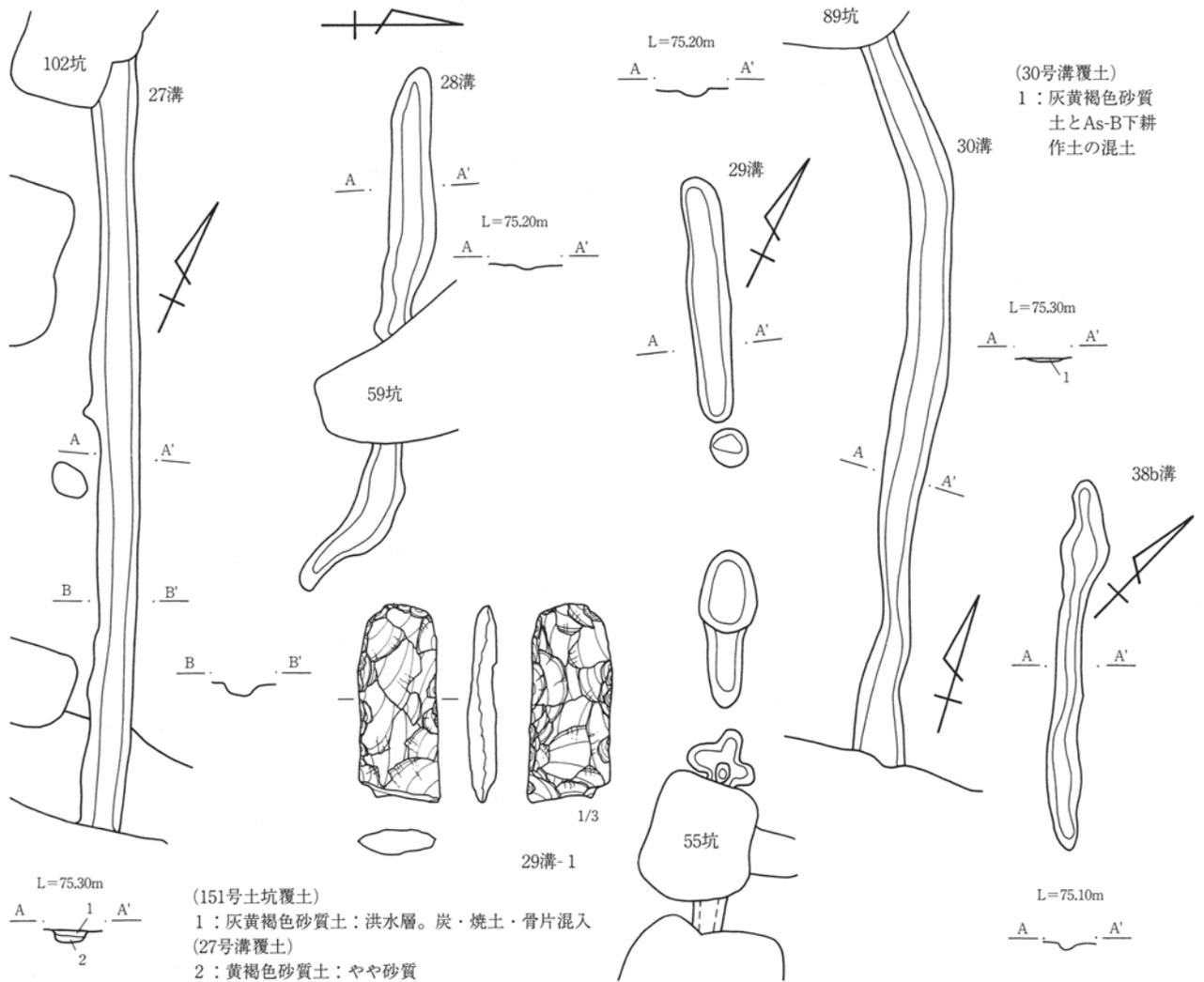
30号溝に出土遺物はなく、27号溝からは土師器片が出土したものの時期特定には至らなかった。尚、

両溝共中世～近世の下位の洪水層で埋没している。また、共に掘削意図も特定できなかった。

規模 (27号溝) 長さ：8.8m 幅：48cm 深さ16cm

(30号溝) 長さ：8.8m 幅：64cm 深さ：8cm

構造 27・30号溝は北北西－南南東に走行を取るが、30号溝は北端部で走行を北西に転じている。



第25図の1 6区1面中部の溝群 (その2) 及び6-1-31・32号溝

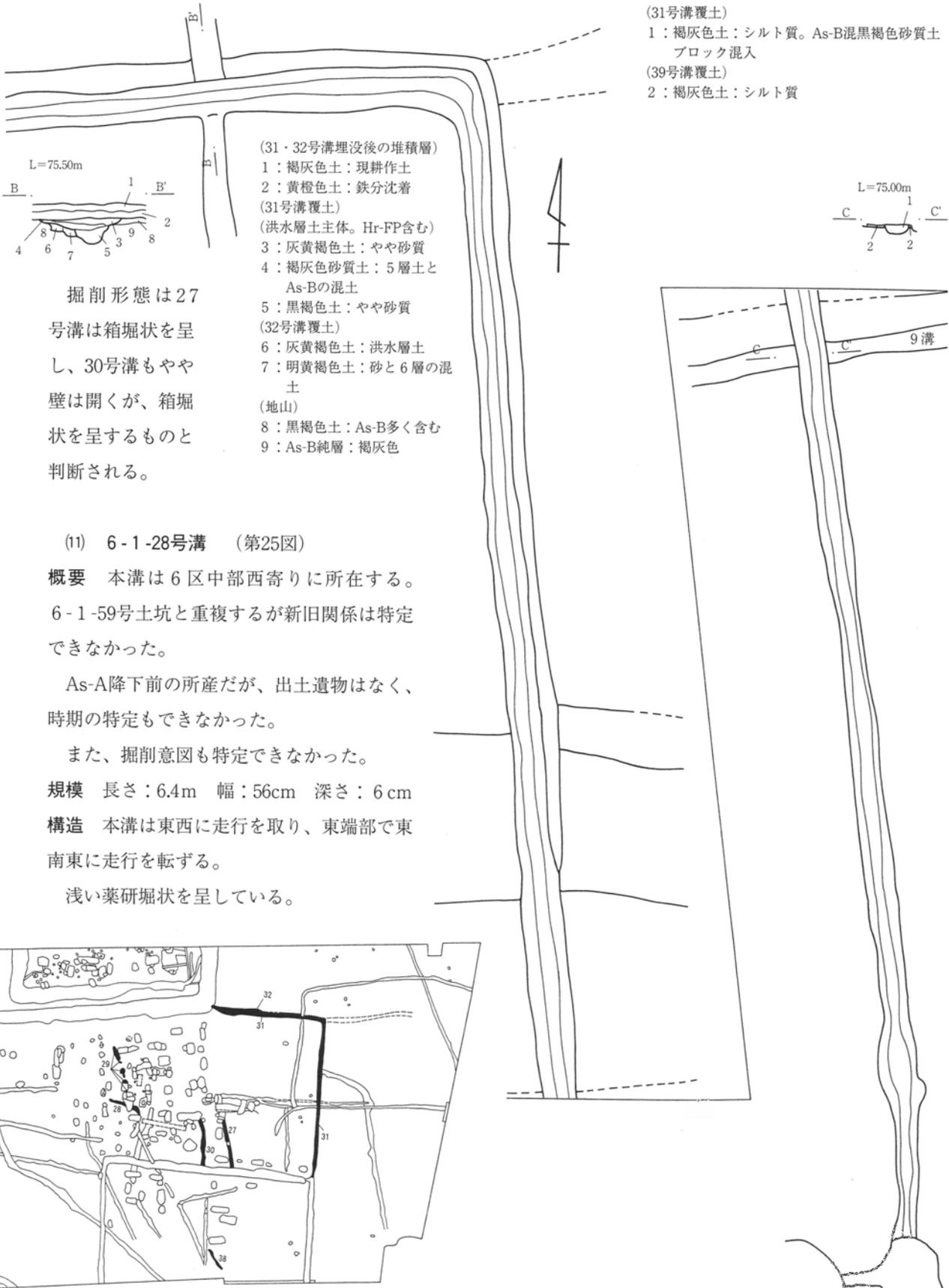
第2節 6区の遺構と遺物

(31号溝覆土)

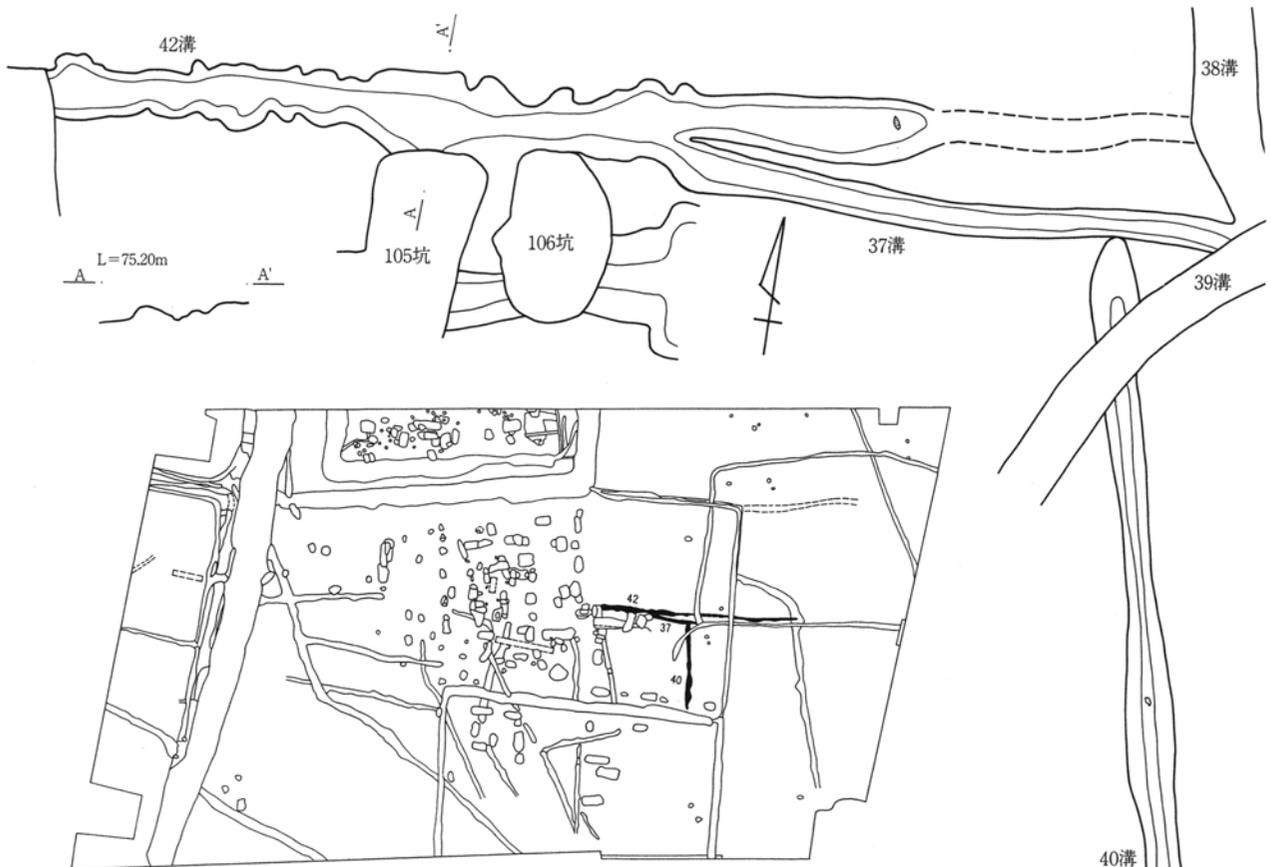
1：褐灰色土：シルト質。As-B混黒褐色砂質土
ブロック混入

(39号溝覆土)

2：褐灰色土：シルト質



第25図の2 6-1-31・32号溝



(12) 6-1-31・32号溝(第25図、図版10・12~14)
概要 6-1-31・32号溝は6区中部東寄りに所在する。両溝は重なっているが、31号溝の方が新しい。また、6-1-38・39・42・43号溝と重複関係にあるが、38号溝には切られ、39号溝を切っているが、42・43号溝との新旧を特定することはできなかった。31号溝からは土師器坏・甕、須恵器甕等の破片が出土しているが、時期を特定することはできなかった。尚、覆土の状態から31・32号溝は中世段階の遺構として把握される。

31・32号溝は後述する1号屋敷遺構との南東隅部に始まり、鉤型に走行して2号屋敷遺構の北東部に至っている。1号屋敷遺構南片の6-1-20号溝の軸に対してはやや南触れるが、2号屋敷遺構東の6-1-44号溝とは直線的に連なっている。従って両屋敷遺構間の東及び北東部を画する溝と判断されるが、対応する溝が確認されなかったため本溝が囲む区域は屋敷遺構としては取り扱わなかった。

規模 (31溝) 長さ：48.4m
 幅：56cm 深さ21cm

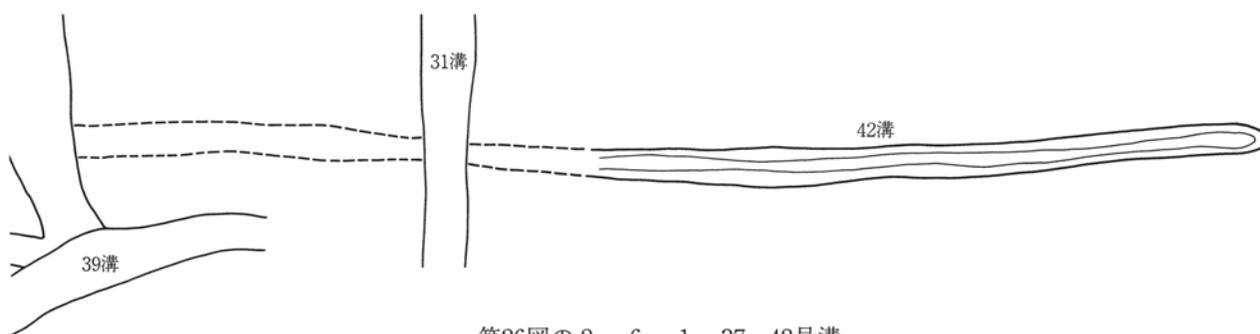
(32溝) 長さ：29.8m 幅：40cm 深さ：12cm

構造 31・32号溝は凡そ東西に走行する部分と南北に走行する部分があり、これが北東部をコーナーにつながる鉤型のプランを呈している。しかし、両溝共に北西端部は1号屋敷遺構の周溝南東部の位置にあわせるように西北西に走行を変じて接合させている。

また31号溝についてみると、溝幅が北西端部の走行を変えずの箇所と南北走行部分の南半部は徐々に狭くなる傾向がある。

両溝は共に溝の規模としてはさして大きくはなかったが、掘削形態は箱堀状を呈している。

第26図の1 6-1-37・40・42号溝



第26図の2 6-1-37・42号溝

〔6区東部の溝群〕

(13) 6-1-37・42号溝 (第26図、図版13・14)

概要 6-1-37・42号溝は6区東部に位置する溝であり、両溝は西部で重複する。その新旧関係は特定できなかったが、37号溝が42号溝から分岐するような位置関係にあるため、同時期の所産である可能性も考慮される。また37号溝は6-1-38・39・42号溝と、42号溝は6-1-31・38・43号溝とも重複関係にあるが、何れの溝についてもその新旧関係を特定することはできなかった。

両溝からの出土遺物はなく、時期を特定するには至らなかった。加えて覆土の細かい記録も残せなかったため時期の判定につなげることのデータはなく、共にAs-B降下(1108)後、As-A降下(1783)以前の所産として把握できるに過ぎなかった。

また、37・42号溝の掘削目的等も特定することはできなかった。しかし乍、そのプランから推して42号溝から37号溝が分岐していたとすれば水路の可能性を考慮することはできる。

規模 (37溝) 長さ:9.4m 幅:40cm 深さ3cm

(42溝) 長さ:25.7m 幅:40cm 深さ:10cm

構造 37・42号溝は凡そ東西に走行し、全体としては直線的なプランを呈しつつも、緩やかな蛇行を見せている。尚、37号溝は西端部で、42号溝に接合させるようにその走行を北に振っており、その幅員は先細りとなっている。

両溝共に底面形態は船底形を呈し、壁面は全体として大きく開いてはいないが、42号溝の西部ではやや開き気味となっている。

(14) 6-1-40号溝 (第26図、図版13・14)

概要 本溝は6区東部西寄りに位置する。北端が6-1-37号溝に接しており、また北部で後述の6-1-39号溝とクロスしているが、新旧関係を特定することはできなかった。

遺物の出土はなく、土層の記録も残せなかったので時期を特定することはできなかった。

尚、掘削目的も特定することはできなかった。

規模 長さ:11.6m 幅:48cm 深さ:2cm

構造 本溝は北北西-南南東に走行を取る。全体としては直線的だが、南部で弱い蛇行が認められる。

掘削形態は船底形を呈するが、壁面は開き気味である。

(15) 6-1-38・39号溝 (第27図、図版12~14)

概要 6-1-38・39溝は6区東部北半に位置する。38号溝の南端が39号溝と接しているが、38号溝の方が新しい。また38号溝は6-1-31・32・37・41・42号溝と、39号溝が6-1-31・37・38・43号溝と重複関係にあるが、38号溝が32号溝を切る以外は新旧関係を特定することができなかった。

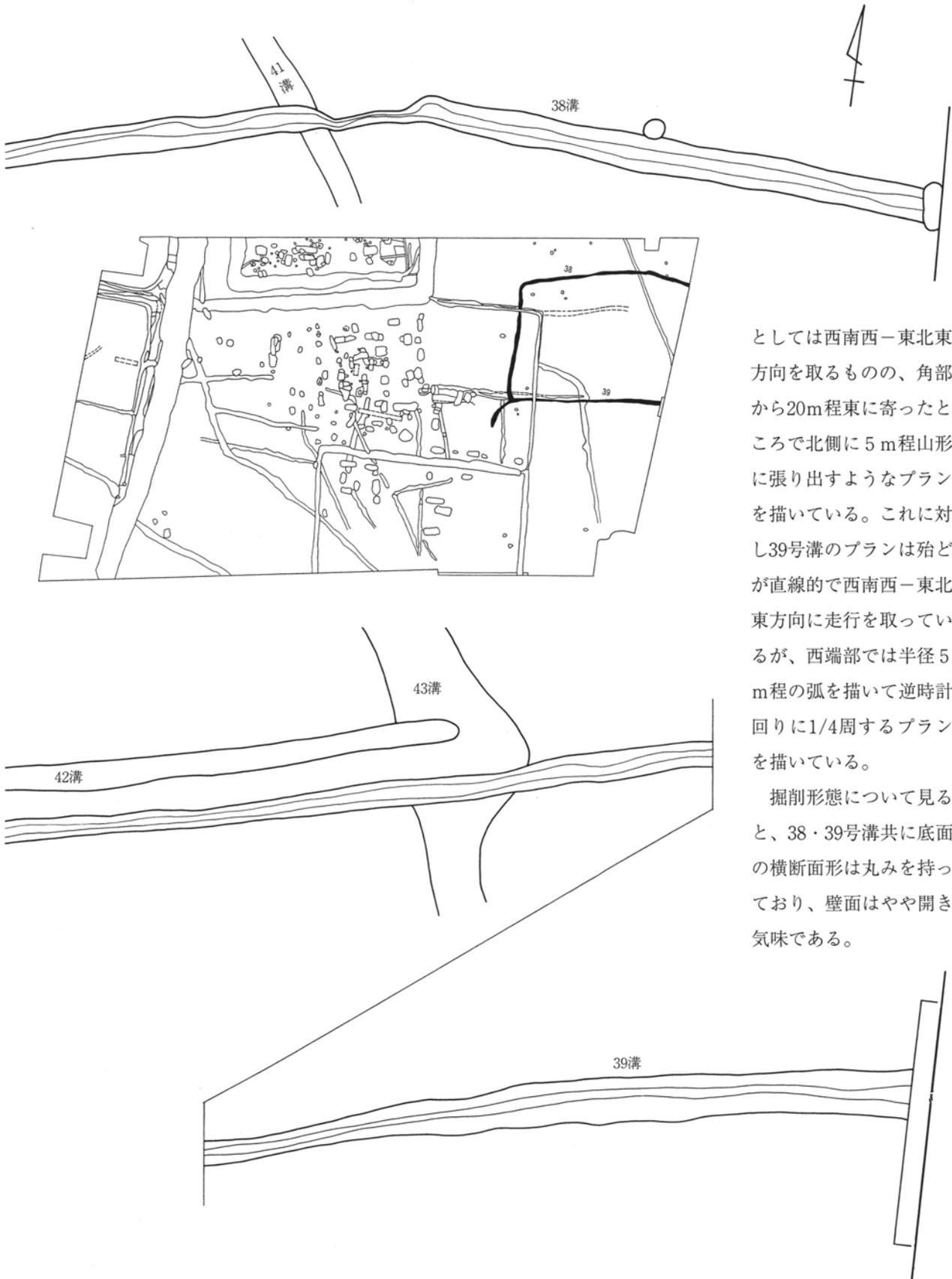
38・39号溝からの出土遺物はなく、時期の特定には至らなかった。しかし両溝は中世~近世中期の洪水層のうち何れも下位の洪水層土に絡む土壤で埋没しているため、概ね中世の所産として把握できるのではないかと考えている。

38・39号溝の掘削意図を明瞭に特定することはできなかったのであるが、38号溝については鉤形のプランを呈していることと比較的長い距離に亘って掘



削されていることから土地
区画に伴う溝である可能性が考えら
れる。一方、39号溝については比較
的長い距離を掘削していることから
土地区画に伴うものであった可能性
も考慮されるのであるが、覆土が砂
質であること、プランが西端部で弧
を描き乍ら走行を変じていることか
ら寧ろ水路であった可能性が考慮さ
れるのである。

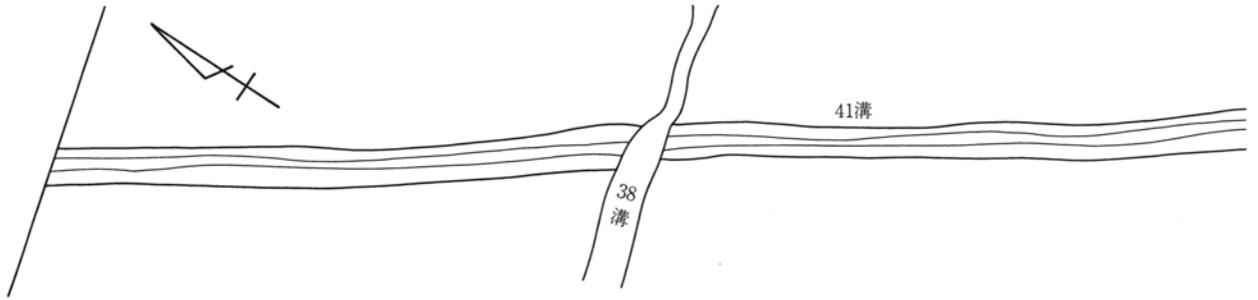
第27図の1 6-1-38・39号溝



としては西南西-東北東方向を取るものの、角部から20m程東に寄ったところで北側に5m程山形に張り出すようなプランを描いている。これに対し39号溝のプランは殆どが直線的で西南西-東北東方向に走行を取っているが、西端部では半径5m程の弧を描いて逆時計回りに1/4周するプランを描いている。

掘削形態について見ると、38・39号溝共に底面の横断面形は丸みを持っており、壁面はやや開き気味である。

第27図の2 6-1-38・39号溝



(16) 6-1-41号溝 (第28図、図版13・14)

概要 本溝は6区北東隅部付近に位置する。6-1-38号溝と切り合うが、新旧関係は確認できなかった。

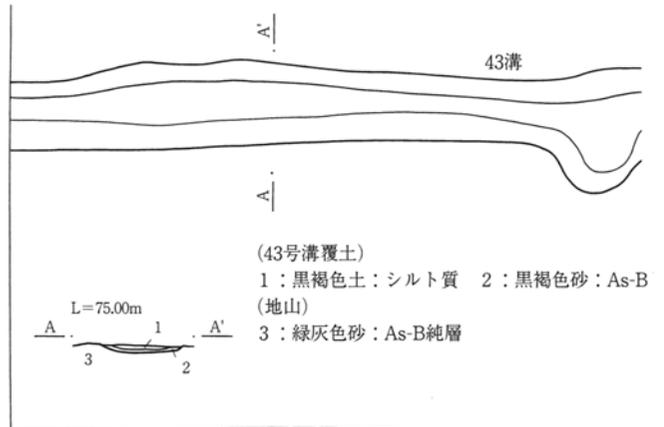
本溝からの出土遺物はなく、土層の記録も残せなかったので、本溝は中世～近世中期の所産として把握できるに過ぎなかった。

また掘削目的も特定することができなかった。

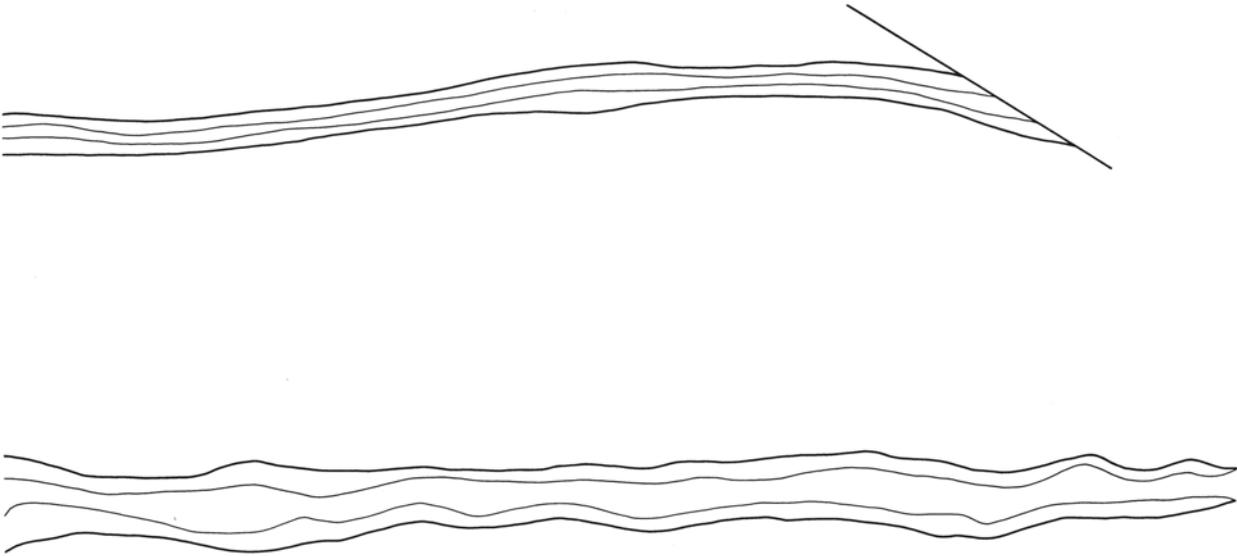
規模 長さ：24.0m 幅：40cm 深さ：3cm

構造 本溝は北西－南東方向に走行を取り、概ね直線的なプランを呈するが、南部には極めて緩やかな蛇行も認められる。

掘削形態は薬研堀状を呈する。



第28図の1 6-1-41・43号溝



第28図の2 6-1-41・43号溝

(17) 6-1-43号溝 (第28図、図版13)

概要 本溝は6区東部中程に位置している、凡そ南北走行の溝遺構である。その北寄りで東西走行の6-1-39・42号溝と、前者にたいしては直交、後者に対しては西接する位置関係にあり、切り合い関係にあるが、何れの溝に対しても新旧関係を確認することはできなかった。

本溝からの出土遺物は認められなかったが、底面近くに二次堆積のAs-B層が確認されているため、As-B降下 (A.D.1108) 後の比較的早い段階の所産であったものと判断している。

本溝の掘削目的を特定することはできなかったが、壁面が湾曲していること、また覆土に二次堆積のAs-B層が確認されている状況等から、水路であった可能性を考えている。

規模 長さ：32.8m 幅：88cm 深さ：2cm

構造 本溝はへ字形のプランを呈しており、北部では西北西-東南東、中・南部では北北西-南南東に走行を取っている。全体として蛇行はしていないが、壁面ラインはやや波打っていて不整形である。

掘削形態は箱堀状を呈するものであるが、壁面は若干開き気味である。

〔6区の土坑群〕

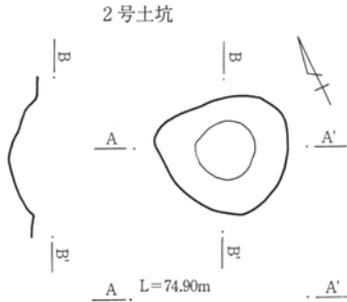
(18) 6区1面西部の土坑群

(第29・30図、図版14・48・49)

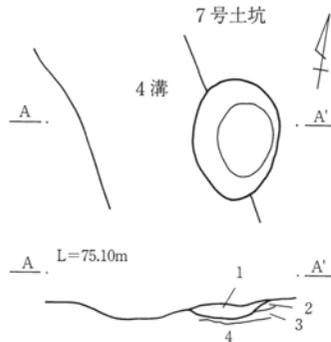
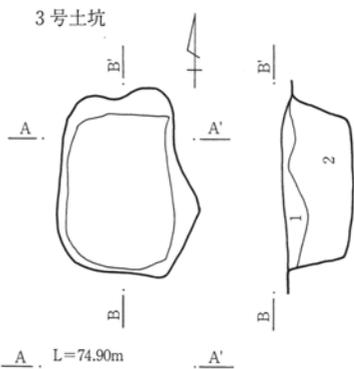
概要 6区1面西部では中南部に6-1-2・3・4号土坑、北東寄りに7・16~32・150号土坑が分布している。このうち21~25号土坑は重複しているが、切り合い関係と土層観察から21←23←24←25←22号土坑の順に新しいことを確認した。

西部の土坑群のうち3・27・30号土坑からは僅かな量の土師器甕片の出土を見ているが、7号土坑を除く他の土坑からの遺物の出土は見られず、3・27・30号土坑を含め時期の特定には至らなかった。一方7号土坑からはかわらけ2点(1、2)と銭が出土している。このうちかわらけは灯明皿として使用した15世紀末~16世紀のものである。従って7号土坑は概ね室町時代後半期の所産として把握される。また銭は本銭と思われる大定通宝(3)や模鑄銭(17)と接合するの開元通宝らしき破片(4)や、何れも模鑄銭の元祐通宝(5)、元符通宝(6)、元(符)通宝(7)、政和通宝(8)、洪武通宝(9)、永楽通宝(10)、朝鮮通宝(11)、□□通宝(12)、銭種不詳の銭(13~17)など17枚の銭貨の出土を見ている。

第2章 発見された遺構と遺物

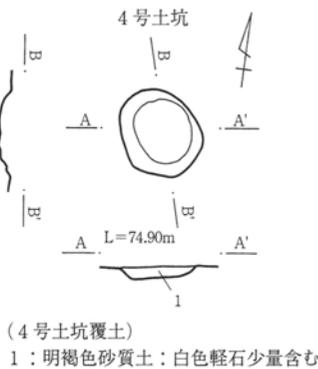


- (2号土坑覆土)
 1: As-B混土: 褐色・黄褐色粘質土含む
 (3号土坑覆土)
 1: 明褐色砂質土: 白色軽石やや多く含む
 2: As-B混土: 暗褐・黄褐色粘質土多量

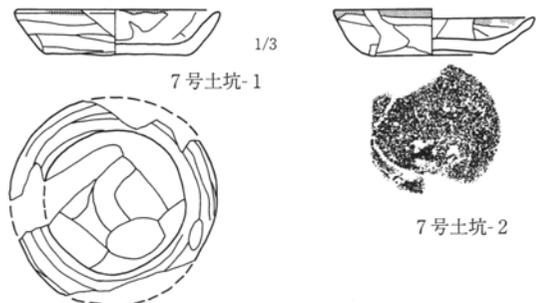


- (7号土坑覆土)
 1: 褐灰色砂質土: 2層土極少量混入(地山)
 2: 黒褐灰色粘質土: As-B少量混入。As-B下耕土か
 3: 灰褐色砂質土: やや粘性有。洪水層土
 4: にぶい褐色砂質土: 西に向かい褐色粘質に変化

また7号土坑を除く土坑はAs-B降下以降でAs-A降下以前(1108~1783)の所産と把握されるものであるが、このうち16・(18)・19・21・28・29・30・32号土坑は中近世の洪水層土のうち上位のもの、22~25・



- (4号土坑覆土)
 1: 明褐色砂質土: 白色軽石少量含む

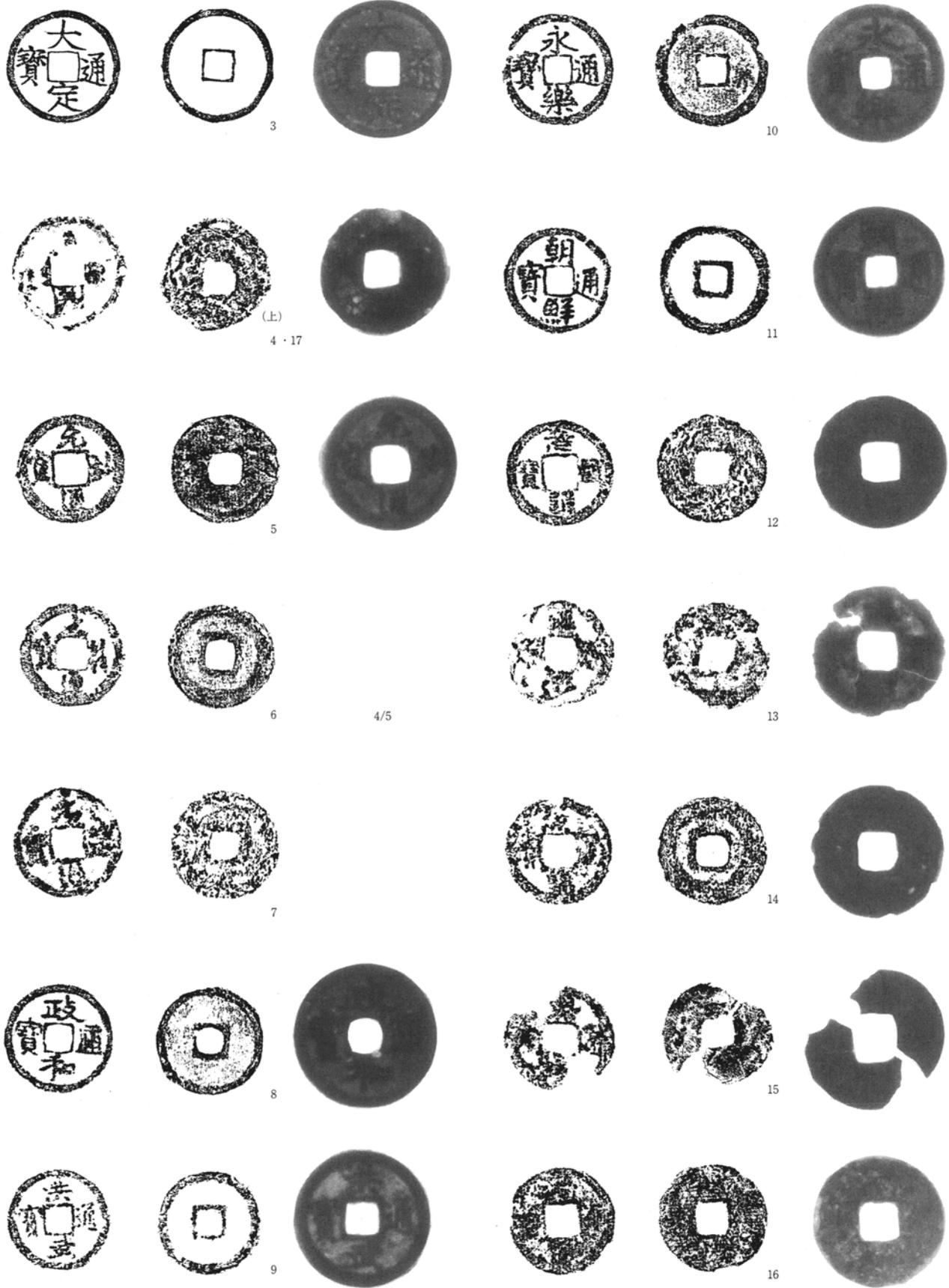


第29図の1 6区1面西部の土坑群(その1)

31号土坑は同じく下位の洪水層関連している。特に後者は後述の6-1-1号屋敷との関連から、15世紀後半以降の中世の所産として把握したい。

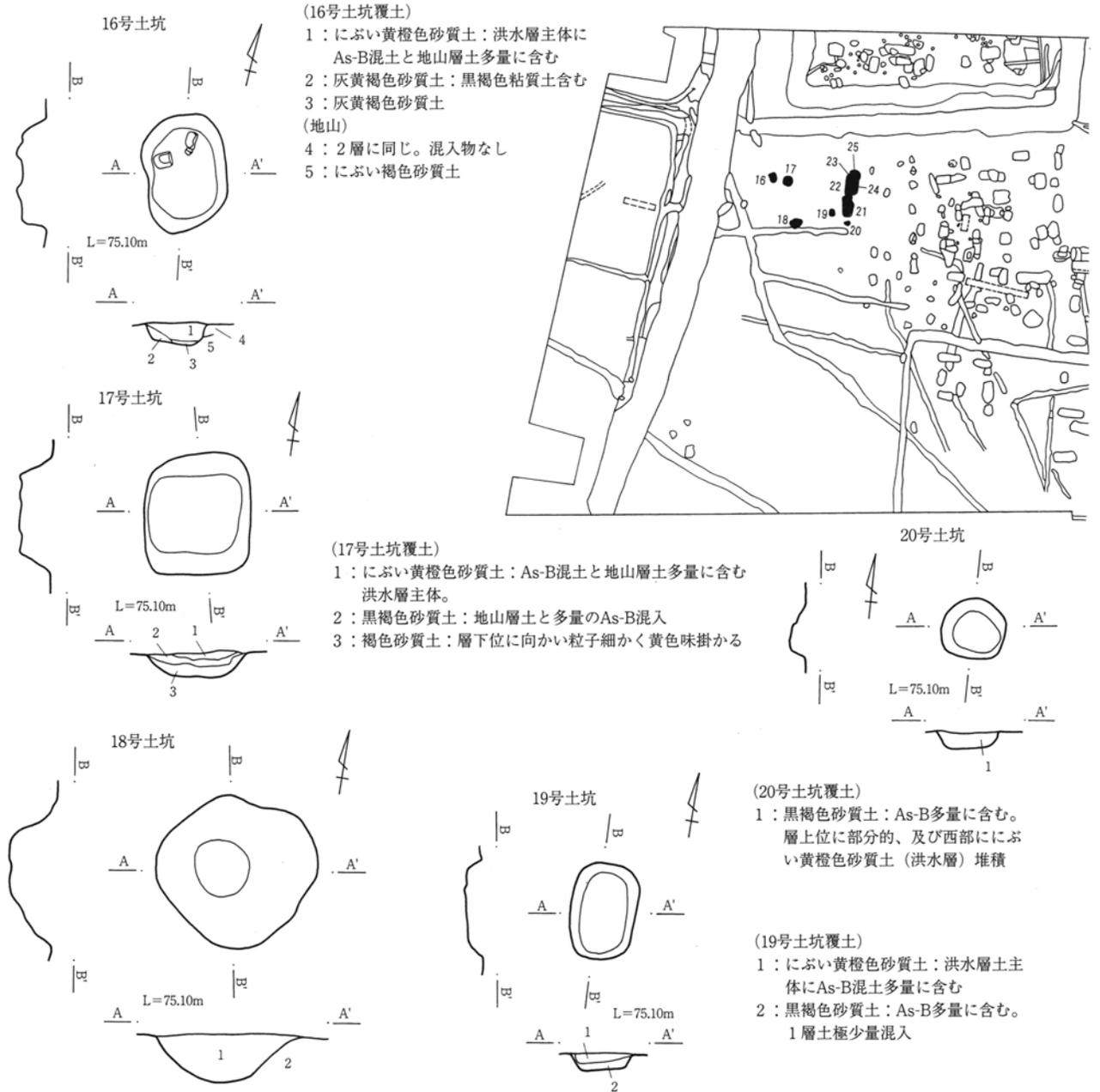
これらの土坑は長方形プランのものが多く、3・21・22・25号土坑はやや大型であった。掘削意図は何れも特定できなかったが、7号土坑はかわらけや古銭の出土から土壙墓の可能性が考えられる。

- 規模 (2号土坑) 径: 105×9 深さ: 20cm
 (3号土坑) 径: 148×88cm 深さ: 52cm
 (4号土坑) 径: 72×62cm 深さ: 10cm
 (7号土坑) 径: 90×72cm 深さ: 24cm
 (16号土坑) 径: 108×80cm 深さ: 24cm
 (17号土坑) 径: 112×98cm 深さ: 27cm
 (18号土坑) 径: 152×136cm 深さ: 41cm



第29図の2 6区1面西部の土坑群(その1)-7号土坑出土銭-

第2章 発見された遺構と遺物

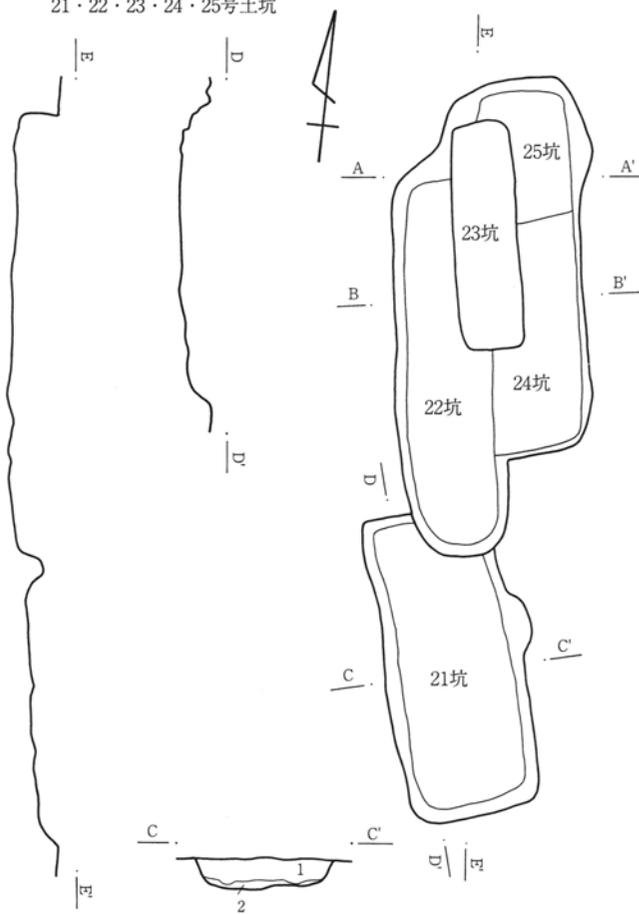


第30図の1 6区1面西部の土坑群(その2)

(18号土坑覆土)(洪水層か)
 1：にぶい黄橙色砂質土：軽石少量。鉄分沈着。(地山)
 2：黒褐色砂質土：As-B多量。As-B下耕作土か

- (19号土坑) 径：88×61cm 深さ：13cm
- (20号土坑) 径：60×55cm 深さ：12cm
- (21号土坑) 径：250×114cm 深さ：22cm
- (22号土坑) 径：320×(80)cm 深さ：36cm
- (23号土坑) 径：180×52cm 深さ：36cm
- (24号土坑) 径：(184)×80cm 深さ：16cm
- (25号土坑) 径：112×(108)cm 深さ：40cm
- (26号土坑) 径：136×86cm 深さ：37cm
- (27号土坑) 径：123×70cm 深さ：37cm
- (28号土坑) 径：100×64cm 深さ：18cm
- (29号土坑) 径：100×53cm 深さ：25cm
- (30号土坑) 径：82×55cm 深さ：27cm
- (31号土坑) 径：90×30cm 深さ：19cm
- (32号土坑) 径：50×49cm 深さ：24cm
- (150号土坑) 径：120×70cm 深さ：52cm

21・22・23・24・25号土坑



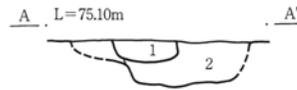
(21号土坑覆土)

- 1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土。As-B混土と地山層土多量に含む
- 2：黄褐色砂質土：砂層。層上位に1層土極少量含む

第30図の2 6区1面西部の土坑群（その2）

構造 西部の土坑群のプランについてみると、概ね円形・楕円形プランを呈するもの、正方形・隅丸正方形プランを呈するもの、長方形・隅丸長方形プランを呈するものの3形態に分類することができた。このうち前者には2・17・18号土坑、中者には4・7・20・32号土坑、後者には3・16・19・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・150号土坑があるが、全体としては長方形・隅丸長方形プランのものが多く分かる。

底面形態については18・31・32号土坑が丸底を呈する外は、平底若しくは平底気味を呈するものであった。それに伴って掘削形態は箱型を呈するものが多かったのであるが、2・4・17・18・30号土坑の壁面は開き気味であった。

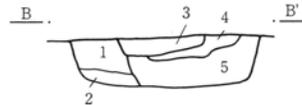


(23号土坑覆土)

- 1：灰黄褐色砂質土：洪水層主体

(25号土坑覆土)

- 2：褐灰色砂質土：洪水層主体。As-B混土・明黄褐色土混入



(22号土坑覆土)

- 1：灰黄褐色砂質土：洪水層主体。As-B混土と黄褐色土含む

- 2：黒褐色粘質土と明黄褐色砂質土の混土

(23号土坑覆土)

- 3：ベースは1層と同じだが、夾雑物は含まない

(24号土坑覆土)

- 4：ベースは1層と同じだが、明黄褐色土混入

(25号土坑覆土)

- 5：ベースは1層と同じ。層下にAs-B混土と地山層土混入

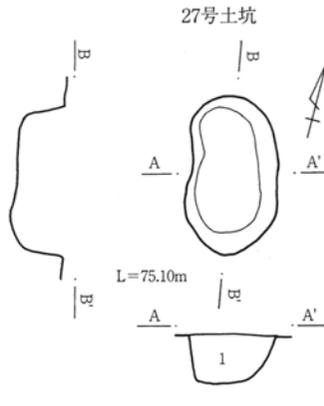
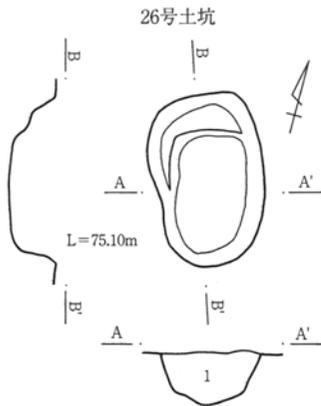
(19) 6区1面中部の土坑群

(第31~36図、図版15・49)

概要 本項では6区1面中部の土坑群のうち、後述する6-1-1・2号屋敷に挟まれた区域、即ち中部中程に位置する土坑群について述べる。

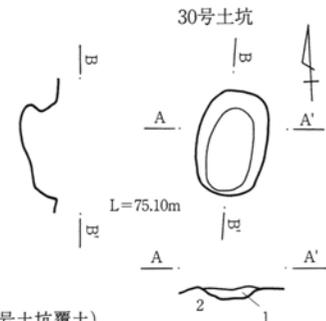
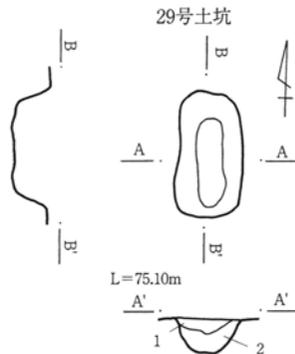
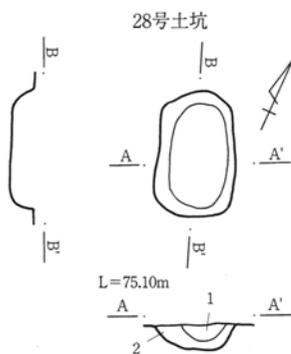
この区域では32×23mという狭い範囲に6-1-33・34a・34b・35~44・46~75・76a・76b・77~80・82~92・95~106・109~113・151・153~162・163a・164~167・175・178a・178b・179・180号の97基の土坑が集中して分布しているのが確認された。これらの土坑は中・北部では後述する6-1-1号屋敷の外堀の軸方向、南部では同じく6-1-2号屋敷の堀の軸方向に準拠しており、土地利用上の規制があったようである。1号屋敷に近い区域では中西部で50・51、52・77、55~59、63・64・110・111号土坑等幾つかの重複する土坑群が南北方向に並ぶ配列が見られ、東部北側では162・161・82・83・85・84号土坑、中部では159・156・155・75号土坑が南北方向に、北部では46・109・47・48・49号土坑が東西方向に配列しているのが確認された。2号

第2章 発見された遺構と遺物



(26・27号土坑覆土)

1：明褐色土：As-B・As-B下耕土・As-C下黒色土含む。洪水層起源の土で人為的埋土



(28号土坑覆土)

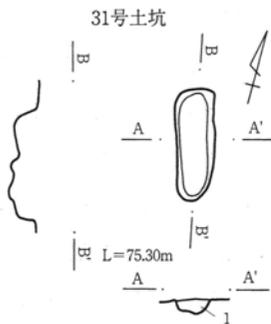
1：にぶい黄橙色土：洪水層土。As-B混土含む。人為的埋土
2：褐色土：明黄褐色洪水層土・As-B混土・As-B下耕土混入。人為的埋土

(29号土坑覆土)

1：にぶい黄橙色土：洪水層土。As-B下耕土含む
2：褐色土：As-B・As-B下耕土・As-C下黒色土含む。人為的埋土

(30号土坑覆土)

1：にぶい黄橙色土：洪水層。As-B下耕土含む(地山)
2：黒褐色砂質土から褐色土への漸移層

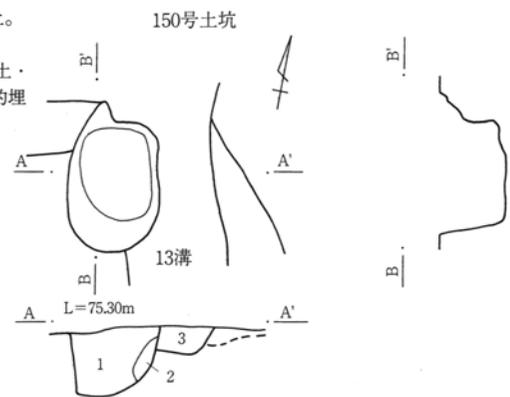


(31号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土(洪水層土)とAs-B下耕土の混土

(32号土坑覆土)

1：にぶい黄橙色砂質土：洪水層土
2：黒褐色砂質土：1層土とAs-B下耕土との混土



(150号土坑覆土)

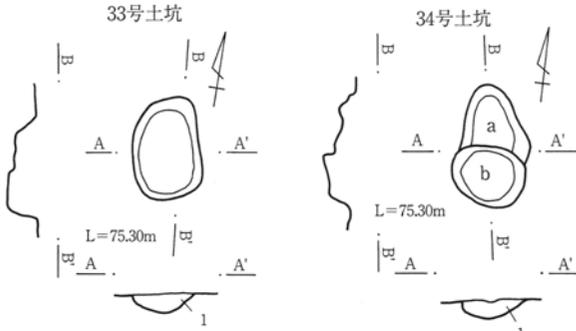
1：灰黄褐色砂質土：As-C混黒色土多量に混入
2：1層土にAs-C混黒色土の崩落土混入(13号溝覆土)
3：褐色砂質土：砂粒層、鉄分沈着

屋敷に近い区域では中部で95・96・101・103・102・104土坑が南北方向、中東部では97・98・105・106号土坑が東西に並ぶのが見られ、南東部では2号屋敷遺構の北堀に沿うように153・112・165・164・167号土坑が並んで確認されている。

第30図の3 6区1面西部の土坑群(その2)

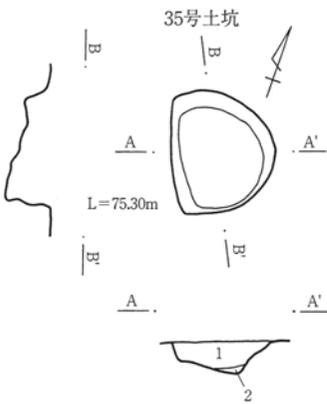
これらの土坑のうち38と39・40、42と41、46と109、48と49、51と50、53と52、55と54、59と56、56と57、76aと60・76b、77と60、60と62、63と64、

110と64・111、66と65、67と68、78と79、84と85、88と87、163aと88、95と96、97と98、100と99、102と103、103と101、178aと178b号の各土坑は切り合い関係にあり、それぞれ前者の方が新しい。この他

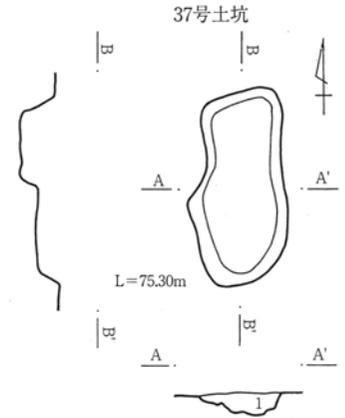
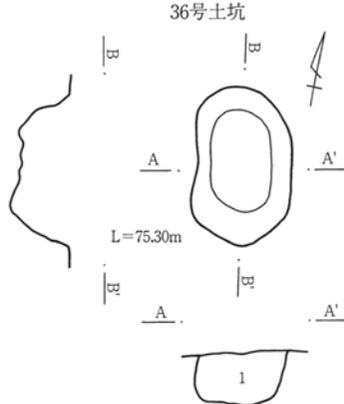


(33号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層主体にAs-B下耕作土少量混入

(34号土坑覆土)
1: 33号土坑-1層に明黄褐色土混入



(35号土坑覆土)
1: 33号土坑-1層に同じ
2: 明褐色砂質土: 鉄分多量に沈着



(36・37号土坑覆土)
1: 黒褐色砂質土: 洪水層主体にAs-B混土・As-B下耕作土入る混土層

第31図 6区1面中部の土坑群(その1)

39と40、47と48、58と59、100と101、97・98と105、161と162号の各土坑も重複しており、59号土坑が58号土坑、100号土坑が101号土坑を切っていた可能性があるものの、これらについてはその新旧関係を特定するには至らなかった。また151号土坑が6-1-27号溝を、178a号土坑が6-2-54号溝を切っており、178b土坑は54号溝の新しい段階のものと同時期であることを確認している。

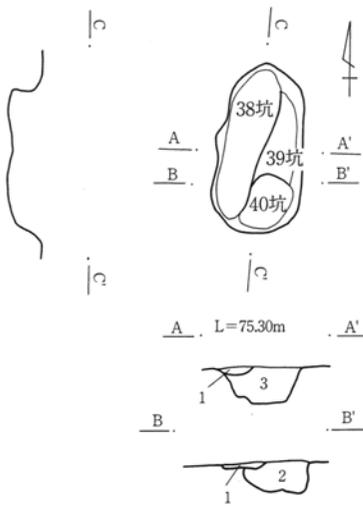
これらの土坑のうち重複する56~59号土坑からはこも編み石への転用も考えられる磨石(56他-1)、同じく60及び76号土坑からは10世紀前半期に比定される灰釉陶器高台付碗(60・76-1)、179号土坑か

らは9世紀前半の須恵器坏(179-1)が出土した他、33・35・37・41・42・43・47・53~60・65~70・72・76・79・80・84~86・89・99・100・103・105・113・151・153・156・179号土坑からは土師器片か須恵器片、或いはその双方が出土し、47号土坑からは灰釉陶器片も出土しているが、何れの何処についても時期特定には至らなかった。

これらの土坑はAs-B降下以降、As-A降下以前の中近世の所産として把握されるものであるが、覆土の観察と重複関係から、このうち33・34a・35・46・50・56・59・63・64・69・70・73・82~90・92・95~103・105・106・109・112・113・151・

第2章 発見された遺構と遺物

38・39・40号土坑



(38号土坑覆土)

1：にぶい黄橙色砂質土：洪水層主体。
As-B混土と明黄褐色土含む

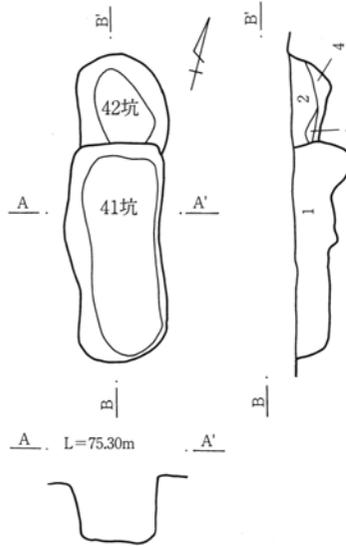
(39号土坑覆土)

2：褐灰色砂質土：洪水層主体。As-B混土と地山明黄褐色土含む

(40号土坑覆土)

3：1層に同じだがAs-B混土混入少ない

41・42号土坑



(41号土坑覆土)

1：褐灰色砂質土：洪水層。明黄褐色土・As-B下耕土多量に入る

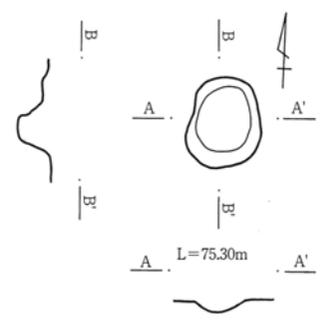
(42号土坑覆土)

2：褐灰色砂質土：洪水層。明黄褐色土・As-B下耕土多量に入る

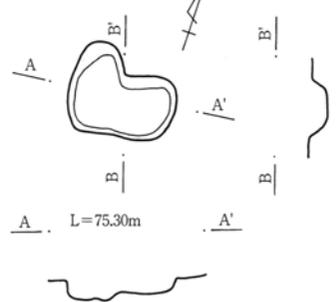
3：黒褐色砂質土：As-B下耕土の崩落層

4：2層に同じだが、鉄分の沈着多い

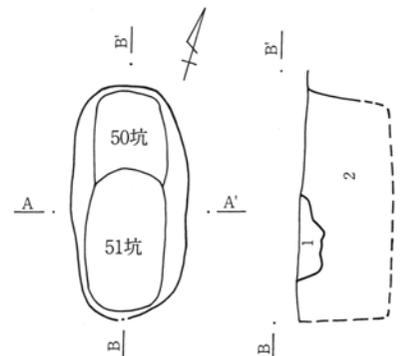
43号土坑



44号土坑



50・51号土坑

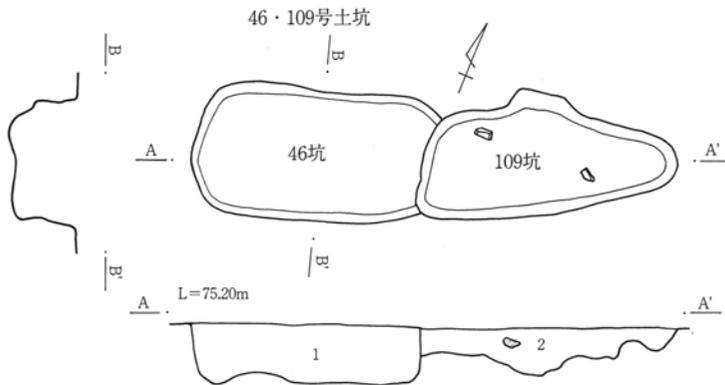


(50号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土少量混入

(51号土坑覆土)

2：にぶい黄橙色砂質土：洪水層。軽石微量に含む。



(46号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層主体。黒色土（As-C混土か）少量混入

(109号土坑覆土)

2：1層に同じだが、黒色土多く混入

153・155・164号土坑は中近世洪水層のうち下位の洪水層土、37・40・42・48・49・51・54・55・60・62・71・72・74~77・79・80・110・178b号土坑は上位の洪水層に関連するものとして把握される。前者は6-1-1号屋敷との関連から15世紀後半以降の中世に属する遺構と判断される。

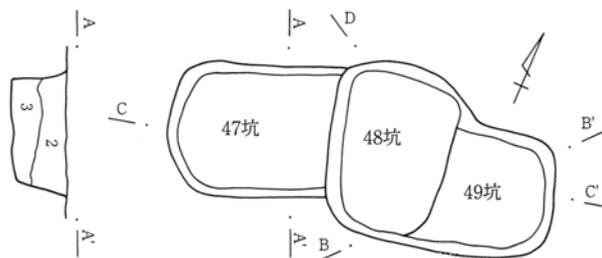
またこれらの土坑の掘削意図は、151号土坑が焼

第32図の1 6区1面中部の土坑群（その2）

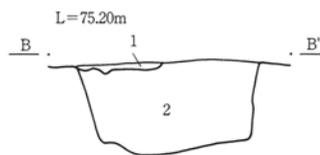
土・炭・骨の遺存から火葬土坑であると想定され、167号土坑が昭和20年（1945）8月15日未明の伊勢崎空襲に伴う焼夷弾の爆裂坑であることが確認されたが、他の土坑は特定することができなかった。

第2節 6区の遺構と遺物

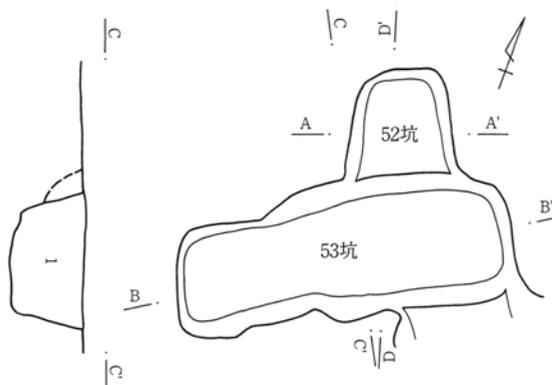
47・48・49号土坑



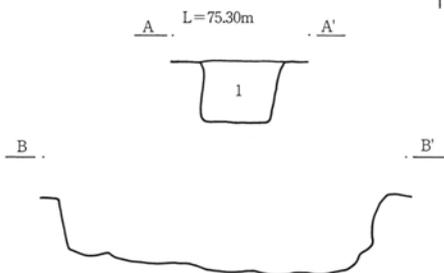
(48号土坑覆土)
 1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土少量混入
 (47・49号土坑覆土)
 2：褐灰色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土・明黄褐色土混入
 3：1層に同じ。As-B下耕土多量に混入



52・53号土坑

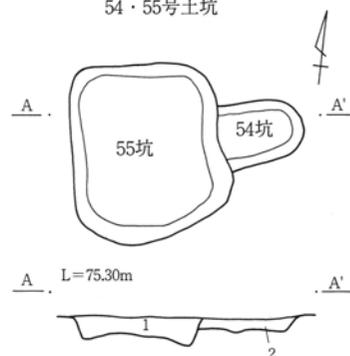


(52・53号土坑覆土)
 1：褐灰色砂質土：洪水層主体。As-B下耕土・明黄褐色土少量混入



(55号土坑覆土)
 1：褐灰色砂質土：洪水層。明黄褐色土・As-B下耕土多量に入る
 (54号土坑覆土)
 2：にぶい黄褐色砂質土：洪水層。層上位にAs-B混土・As-B下耕土混入

54・55号土坑



規模 (33号土坑) 径：76×52cm 深さ：15cm

(34a号土坑) 径：(48)×44cm 深さ：11cm

(34b号土坑) 径：56×48cm 深さ：16cm

(35号土坑) 径：96×84cm 深さ：36cm

(36号土坑) 径：124×76cm 深さ：47cm

(37号土坑) 径：156×80cm 深さ：27cm

(38号土坑) 径：128×(28) cm 深さ：29cm

(39号土坑) 径：(76)×(28) cm 深さ：29cm

(40号土坑) 径：48×32cm 深さ：29cm

(41号土坑) 径：172×64cm 深さ：48cm

(42号土坑) 径：(72)×68cm 深さ：38cm

第32図の2 6区1面中部の土坑群(その2)

(43号土坑) 径：72×56cm 深さ：24cm

(44号土坑) 径：84×48cm 深さ：11cm

(46号土坑) 径：(184)×104cm 深さ：45cm

(47号土坑) 径：(128)×104cm 深さ：60cm

(48号土坑) 径：140×96cm 深さ：67cm

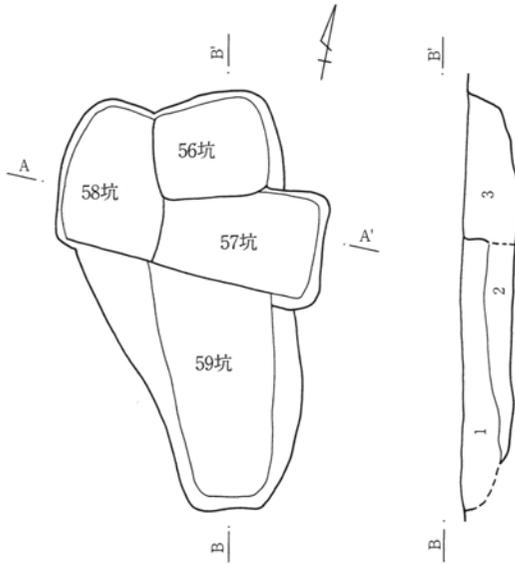
(49号土坑) 径：188×102cm 深さ：77cm

(50号土坑) 径：88×(64) cm 深さ：66cm

(51号土坑) 径：184×92cm 深さ：66cm

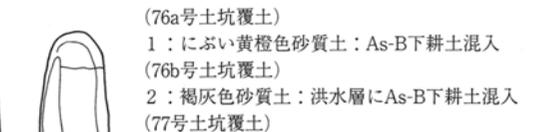
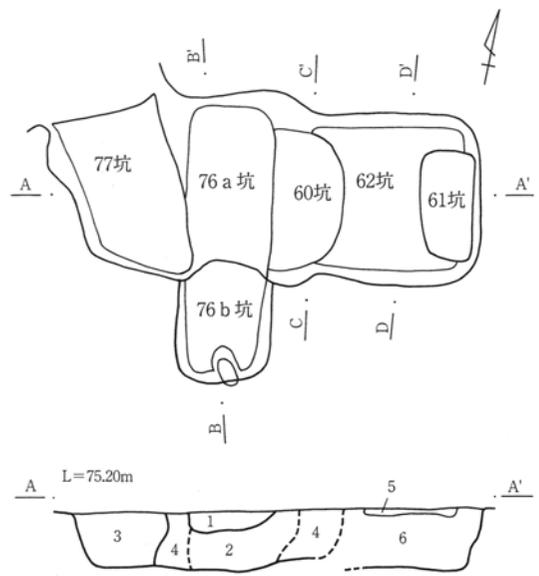
第2章 発見された遺構と遺物

56・57・58・59号土坑

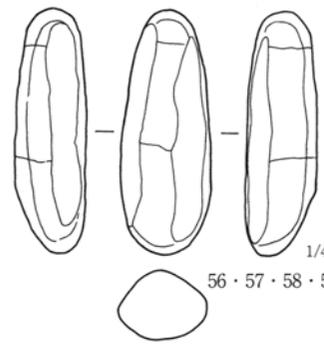


- (59号土坑覆土)
 1：褐灰色砂質土：洪水層土にAs-B下耕土少量混入
 2：1層に同じ。As-B下耕土混入少ない
 (56号土坑覆土)
 3：1層に同じ。1層に比しAs-B下耕土ブロック径小さい

60・61・62・76・77号土坑

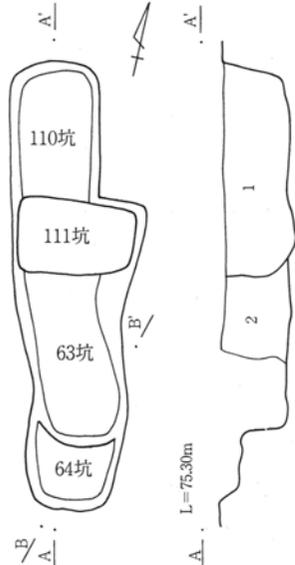


- (76a号土坑覆土)
 1：にぶい黄橙色砂質土：As-B下耕土混入
 (76b号土坑覆土)
 2：褐灰色砂質土：洪水層にAs-B下耕土混入
 (77号土坑覆土)
 3：褐灰色砂質土：洪水層にAs-B下耕土少量混入
 (60号土坑覆土)
 4：褐灰色砂質土：現場では3層と同一層として処理。As-B下耕土主体か



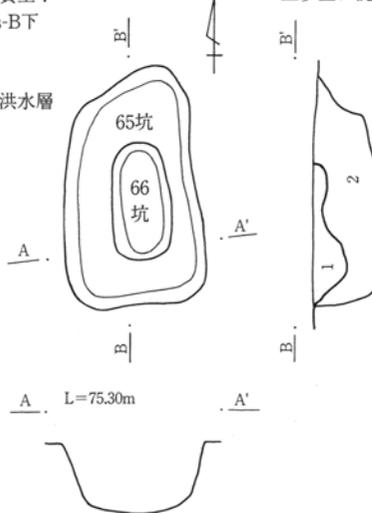
- 56・57・58・59号土坑-1 (62号土坑覆土)
 5：にぶい黄橙色砂質土：As-B下耕土混入
 6：褐灰色砂質土：洪水層土にAs-B下耕土少量入

63・64・110・111号土坑



- (110号土坑覆土)
 1：灰黄褐色砂質土：洪水層主体。明黄褐色土・As-B下耕土少量混入
 (63号土坑覆土)
 2：1層に同じだがAs-B下耕土は少ない
 3：にぶい黄褐色砂質土：洪水層主体。As-B下耕土少量混入
 (64号土坑覆土)
 4：褐灰色砂質土：洪水層

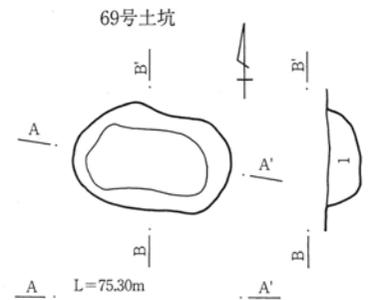
65・66号土坑



- (66号土坑覆土)
 1：黒褐色砂質土：洪水層主体にAs-B下耕土少量混入
 (65号土坑覆土)
 2：黒褐色砂質土：洪水層主体。As-B下耕土と明黄褐色土多量に混入

(69号土坑覆土)

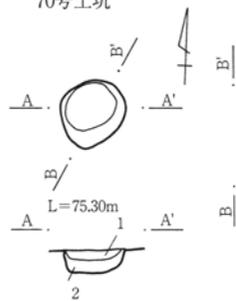
- 1：灰黄褐色砂質土：洪水層。As-B下耕土少量混入



第33図の1 6区1面中部の土坑群 (その3)



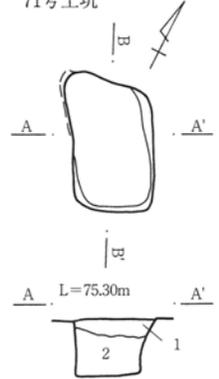
70号土坑



(70号土坑覆土)

- 1 : 灰黄褐色砂質土：洪水層。As-B下耕土・明黄褐色土少量含む
- 2 : 黒褐色砂質土：洪水層。夾雑物1層に同じで微量

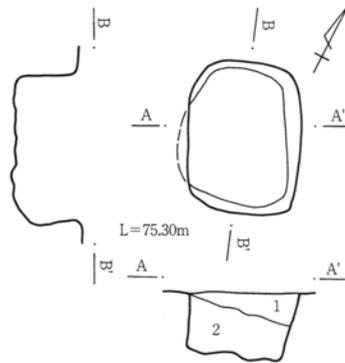
71号土坑



(71号土坑覆土)

- 1 : にぶい黄褐色砂質土：洪水層。As-B下耕土少量混入
- 2 : 黒褐色砂質土：洪水層。As-B下耕土混入

72号土坑



(72号土坑覆土)

- 1 : にぶい黄褐色砂質土：洪水層。層下にAs-B下耕土少量混入
- 2 : 黒褐色砂質土：As-B下耕土と1層土入る混土

(52号土坑) 径：(84)×80cm 深さ：52cm

(53号土坑) 径：272×108cm 深さ：69cm

(54号土坑) 径：(68)×48cm 深さ：11cm

(55号土坑) 径：(140)×119cm 深さ：24cm

(56号土坑) 径：(100)×(80) cm 深さ：42cm

(57号土坑) 径：(132)×(80) cm 深さ：44cm

(58号土坑) 径：(120)×(84) cm 深さ：61cm

(59号土坑) 径：(184)×132cm 深さ：44cm

(60号土坑) 径：124×(56) cm 深さ：44cm

(61号土坑) 径：84×44cm 深さ：52cm

(62号土坑) 径：130×(132) cm 深さ：52cm

(63号土坑) 径：(140)×72cm 深さ：53cm

(64号土坑) 径：(70)×52cm 深さ：16cm

(65号土坑) 径：190×108cm 深さ：52cm

(66号土坑) 径：92×48cm 深さ：52cm

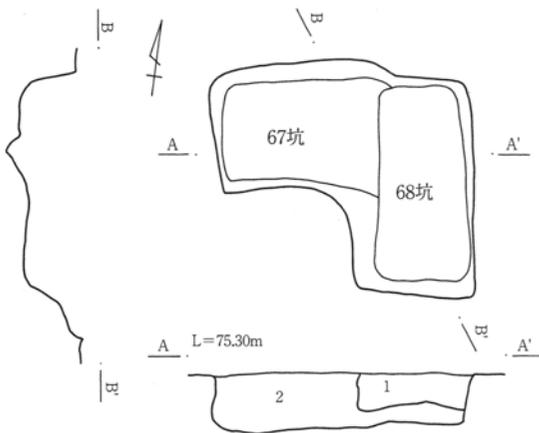
(67号土坑) 径：203×98cm 深さ：45cm

(68号土坑) 径：172×86cm 深さ：44cm

(69号土坑) 径：128×76cm 深さ：32cm

(70号土坑) 径：52×52cm 深さ：16cm

67・68号土坑



(68号土坑覆土)

- 1 : 褐灰色砂質土：洪水層土にAs-B下耕土多量、明黄褐色少量混入

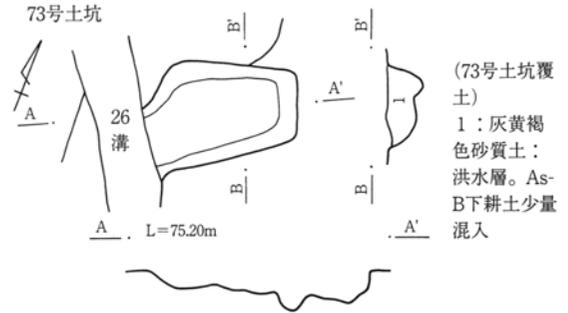
(67号土坑覆土)

- 2 : 1層に同じだが1層に比しAs-B下耕土の径小さい

第33図の2 6区1面中部の土坑群(その3)

第2章 発見された遺構と遺物

- (71号土坑) 径：112×64cm 深さ：44cm
- (72号土坑) 径：122×88cm 深さ：47cm
- (73号土坑) 径：(120)×68cm 深さ：16cm
- (74号土坑) 径：88×52cm 深さ：19cm
- (75号土坑) 径：100×68cm 深さ：28cm
- (76a号土坑) 径：(136)×68cm 深さ：48cm
- (76b号土坑) 径：(96)×76cm 深さ：40cm
- (77号土坑) 径：(140)×96cm 深さ：59cm
- (78号土坑) 径：92×(74)cm 深さ：27cm
- (79号土坑) 径：190×118cm 深さ：49cm
- (80号土坑) 径：172×68cm 深さ：60cm
- (82号土坑) 径：96×78cm 深さ：38cm
- (83号土坑) 径：214×92cm 深さ：63cm
- (84号土坑) 径：(92)×90cm 深さ：68cm
- (85号土坑) 径：200×116cm 深さ：68cm
- (86号土坑) 径：162×122cm 深さ：56cm
- (87号土坑) 径：164×(128)cm 深さ：29cm
- (88号土坑) 径：200×(68)cm 深さ：18cm
- (89号土坑) 径：400×124cm 深さ：24cm
- (90号土坑) 径：114×(60)cm 深さ：11cm
- (91号土坑) 径：(116)×(60)cm 深さ：11cm
- (92号土坑) 径：92×64cm 深さ：29cm
- (95号土坑) 径：152×(56)cm 深さ：8cm
- (96号土坑) 径：172×96cm 深さ：19cm
- (97号土坑) 径：416×152cm 深さ：26cm
- (98号土坑) 径：384×(48)cm 深さ：28cm
- (99号土坑) 径：(58)×54cm 深さ：22cm
- (100号土坑) 径：40×32cm 深さ：30cm
- (101号土坑) 径：110×(74)cm 深さ：7cm
- (102号土坑) 径：112×(56)cm 深さ：24cm
- (103号土坑) 径：130×58cm 深さ：22cm
- (104号土坑) 径：183×102cm 深さ：14cm
- (105号土坑) 径：190×80cm 深さ：22cm
- (106号土坑) 径：182×108cm 深さ：25cm
- (109号土坑) 径：(150)×65cm 深さ：30cm
- (110号土坑) 径：180×70cm 深さ：53cm
- (111号土坑) 径：104×60cm 深さ：71cm
- (112号土坑) 径：96×55cm 深さ：6cm

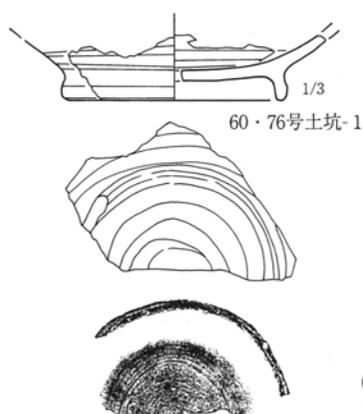


第34図の1 6区1面中部の土坑群(その4)

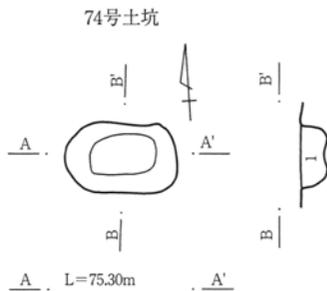
- (113号土坑) 径：304×72cm 深さ：45cm
- (151号土坑) 径：236×88cm 深さ：72cm
- (153号土坑) 径：236×88cm 深さ：72cm
- (154号土坑) 径：236×88cm 深さ：72cm
- (155号土坑) 径：144×124cm 深さ：41cm
- (156号土坑) 径：116×76cm 深さ：44cm
- (157号土坑) 径：100×60cm 深さ：24cm
- (158号土坑) 径：132×92cm 深さ：40cm
- (159号土坑) 径：180×164cm 深さ：76cm
- (160号土坑) 径：184×108cm 深さ：47cm
- (161号土坑) 径：198×74cm 深さ：49cm
- (162号土坑) 径：(104)×64cm 深さ：43cm
- (163a号土坑) 径：134×88cm 深さ：61cm
- (164号土坑) 径：90×57cm 深さ：6cm
- (165号土坑) 径：207×88cm 深さ：74cm
- (167号土坑) 径：133×120cm 深さ：66cm
- (175号土坑) 径：108×68cm 深さ：20cm
- (178a号土坑) 径：(95)×(95)cm 深さ：24cm
- (178b号土坑) 径：60×(44)cm 深さ：24cm
- (179号土坑) 径：148×100cm 深さ：29cm
- (180号土坑) 径：228×108cm 深さ：37cm

構造 1・2号屋敷に挟まれた6区中部所在土坑のプランは、全体として短軸1に対して長軸1.5～2程の比率を持つ長方形・隅丸長方形或いは長円形プランのものが多かったが、正方形か隅丸正方形、短い長方形か隅丸長方形、寸の長い長方形か隅丸長方形、長円形、円形か楕円形の凡そ5形態に分類することができた。このうち55・70・99・100・159号土坑は正方形か隅丸正方形を呈しており、33・44・48・

第2節 6区の遺構と遺物



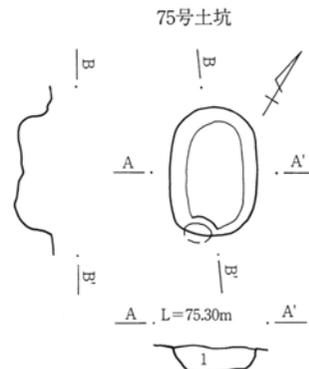
60・76号土坑-1



74号土坑

(74号土坑覆土)

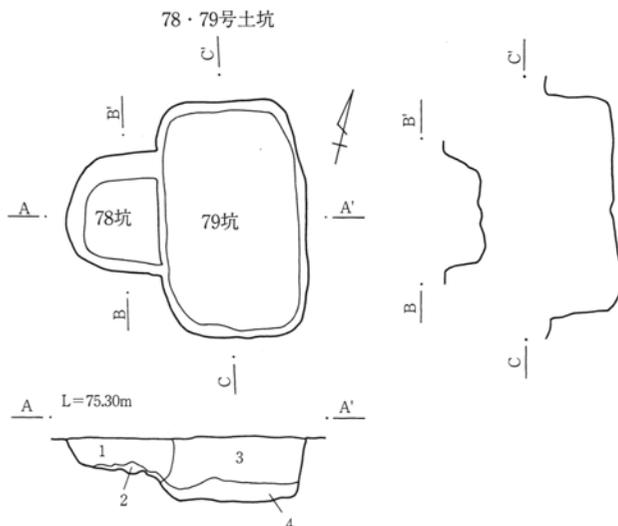
1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層。As-B下耕土多量に混入



75号土坑

(75号土坑覆土)

1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土にAs-B下耕土少量、東下部に明黄褐色土混入



78・79号土坑

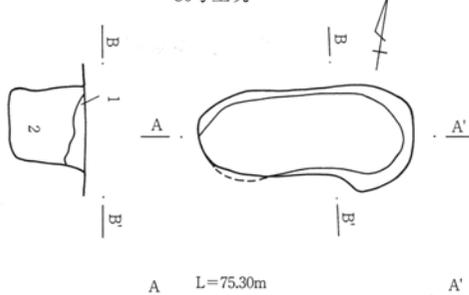
(78号土坑覆土)

1：褐灰色砂質土：洪水層土にAs-B混土・明黄褐色土少量混入
2：ベースは1層と同じだが混入物含まない

(79号土坑覆土)

3：1層と同じだがAs-B下耕土も混入する
4：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土

80号土坑



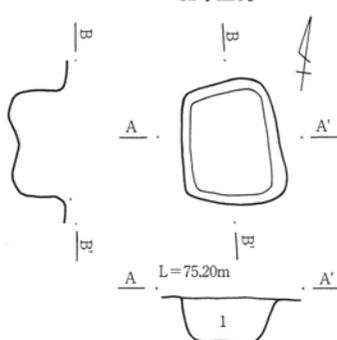
(80号土坑覆土)

1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土主体にAs-B下耕土少量混入
2：黒褐色砂質土：洪水層土とAs-B下耕土の混土

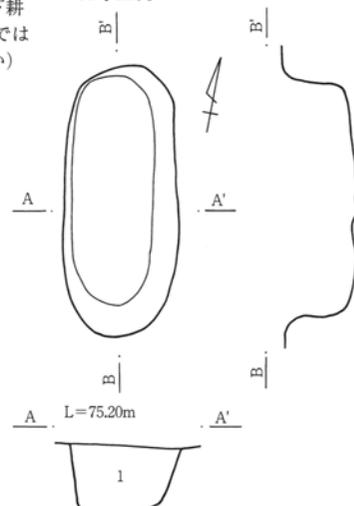
(82・83号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土・明黄褐色土多量に混入。(82号土坑ではAs-B下耕土は層上位に多く下位に少ない)

82号土坑



83号土坑

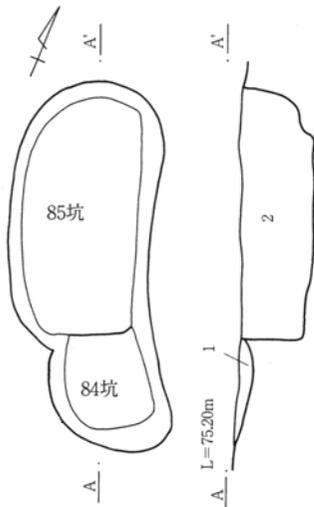


71・72・74・75・79・82・86・
92・101・102・103・104・
155・156・157・160・162・
175・179号土坑は寸の短い長方

第34図の2 6区1面中部の土坑群(その4)

第2章 発見された遺構と遺物

84・85号土坑



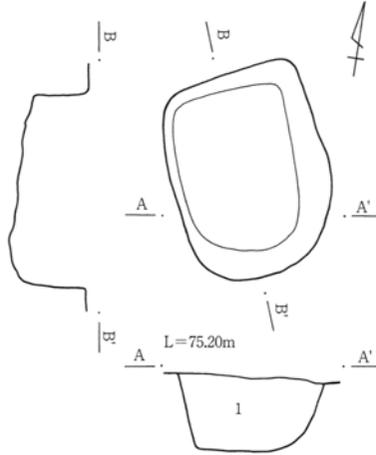
(84号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層土とAs-B下耕土の混土

(85号土坑覆土)

2：黒褐色砂質土：As-B混土と洪水層土に明黄褐色土少量混入

86号土坑

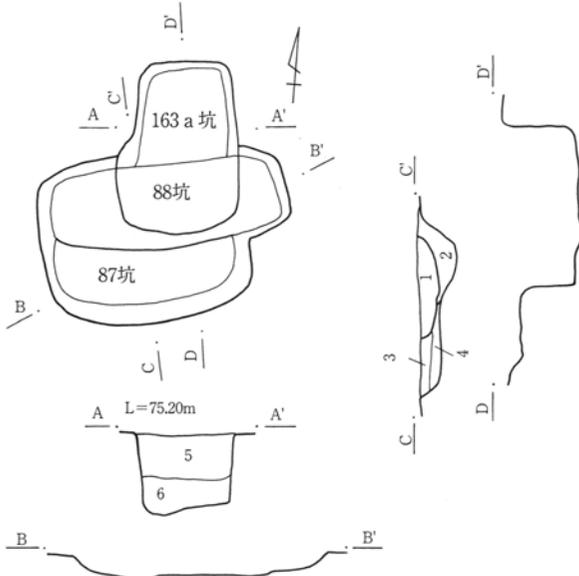


(86号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土・明黄褐色土多量に混入。(82号土坑ではAs-B下耕土は層上位に多く下位に少ない)



87・88・163号土坑



(88号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層。軽石微量混入

2：褐灰色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土微量に混入

(87号土坑覆土)

3：褐灰色砂質土：洪水層土

4：2層と同一層に分層。色調若干明るい

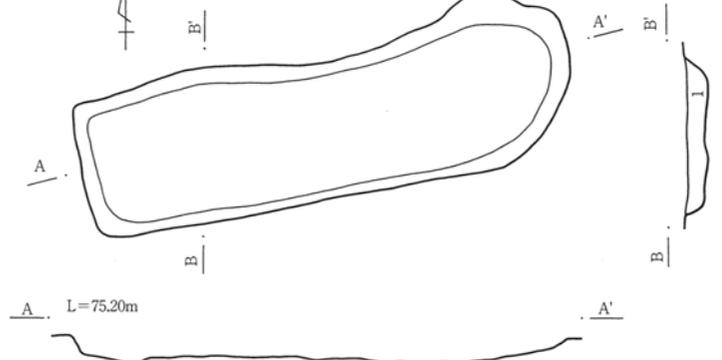
(163号土坑覆土)

5：黒褐色砂質土：洪水層とAs-B下耕土の混土。黄褐色土少量混入

6：5層に似るがAs-B下耕土の割合高い

形が隅丸長方形プラン、37・41・46・49・50・52・53・68・85・87・88・89・91・95・96・97・98・105・109・113・153・161・165・180号土坑は寸の長い長方形か隅丸長方形、34a・36・38・47・51・54・67・73・80・83号土坑は長円形を、34b・35・40・43・90・106・112・114・154・158・164・167・178号土坑は円形か楕円形プランを呈するものであった。また遺構同士の重複等があってそのプランを明瞭には確認できなかったが、78・84・88・163号土坑は正方形・或いは寸の短い長方形様のプラン、39号土坑は長円形プラン、151号土坑は円形プランを呈するものと想定されるものであった。

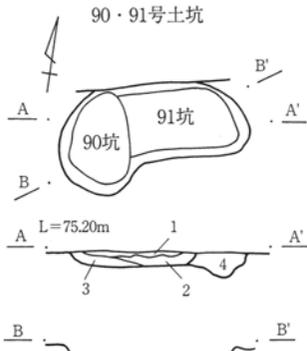
89号土坑



(89号土坑覆土)

1：灰黄褐色砂質土：洪水層土にAs-B下耕土少量、軽石微量に混入

第35図の1 6区1面中部の土坑群(その5)

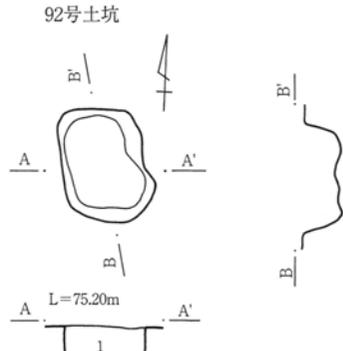


(90号土坑覆土)

- 1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層
- 2: 黒褐色砂質土: As-B下耕土。1層土少量混入
- 3: 黒褐色砂質土: As-B下耕土。

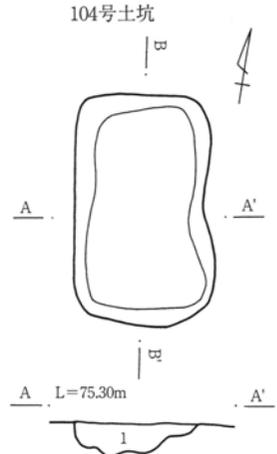
(91号土坑覆土)

- 4: 2層土に明褐色土微量に混入。鉄分沈着



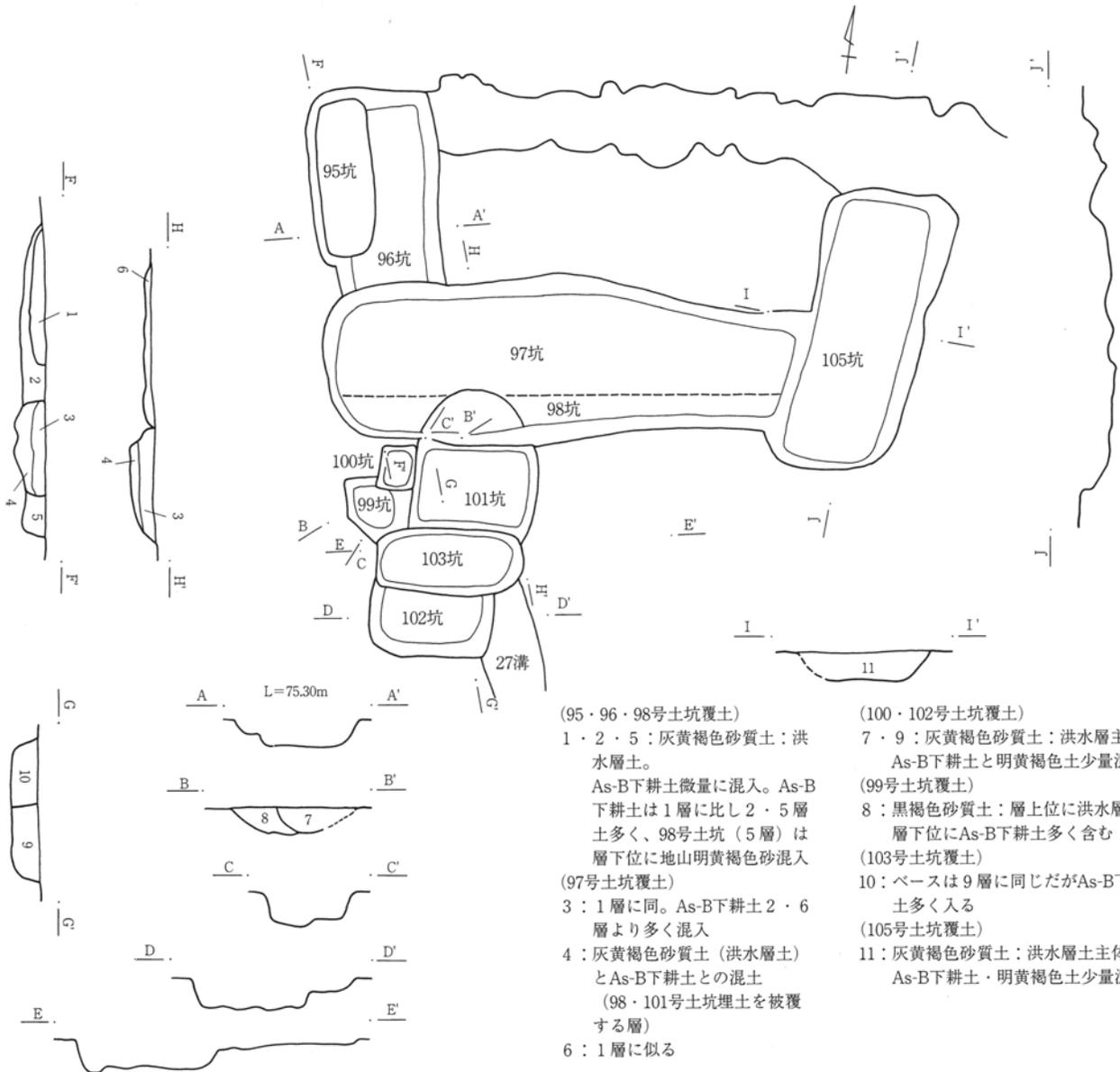
(92号土坑覆土)

- 1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土にAs-B下耕土少量混入。



(104号土坑覆土)

- 1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土で軽石微量に混入



(95・96・98号土坑覆土)

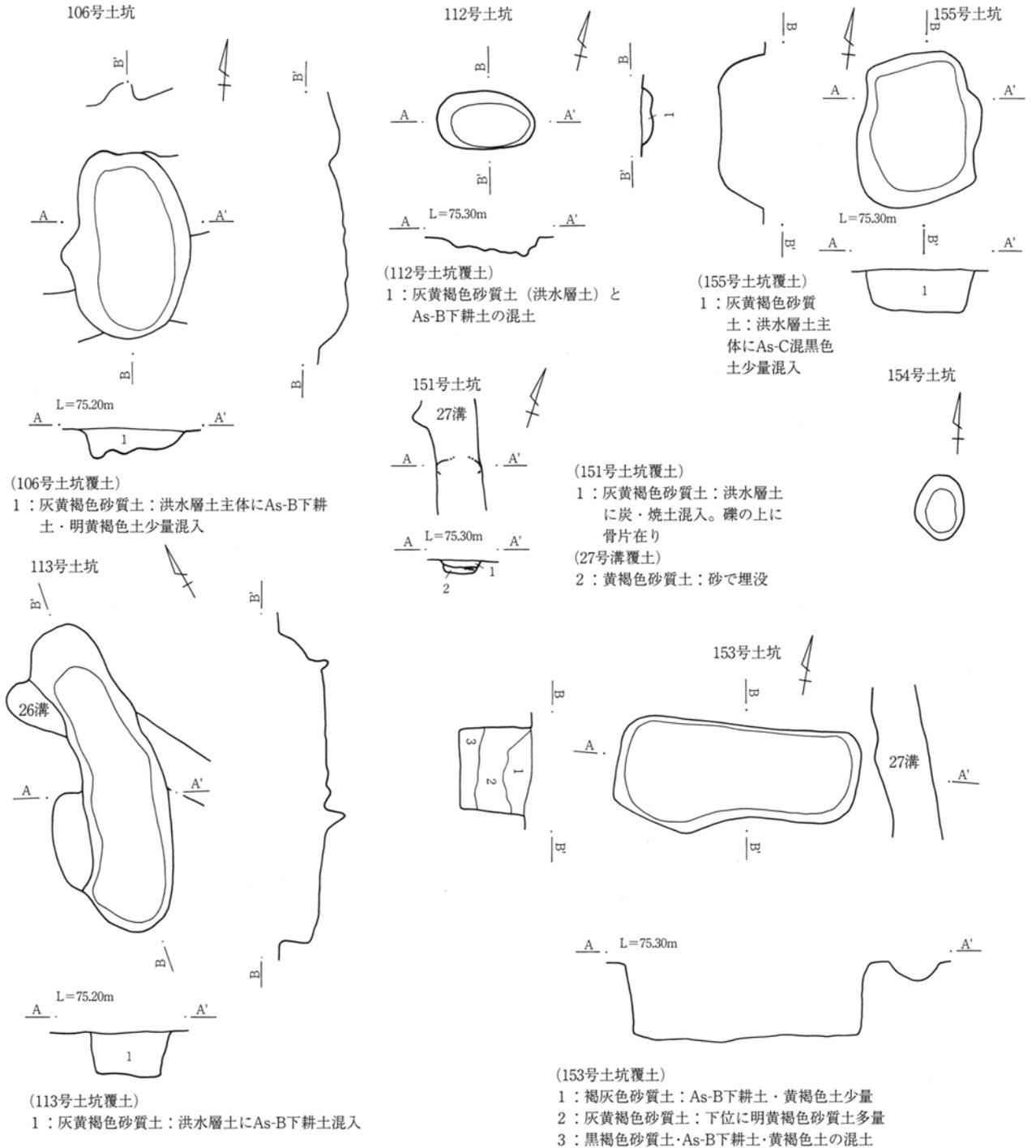
- 1・2・5: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土。
- As-B下耕土微量に混入。As-B下耕土は1層に比し2・5層土多く、98号土坑(5層)は層下位に地山明黄褐色砂混入
- (97号土坑覆土)
- 3: 1層に同。As-B下耕土2・6層より多く混入
- 4: 灰黄褐色砂質土(洪水層土)とAs-B下耕土との混土
- (98・101号土坑埋土を被覆する層)
- 6: 1層に似る

(100・102号土坑覆土)

- 7・9: 灰黄褐色砂質土: 洪水層主体。
- As-B下耕土と明黄褐色土少量混入
- (99号土坑覆土)
- 8: 黒褐色砂質土: 層上位に洪水層土、層下位にAs-B下耕土多く含む
- (103号土坑覆土)
- 10: ベースは9層に同じだがAs-B下耕土多く入る
- (105号土坑覆土)
- 11: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土主体にAs-B下耕土・明黄褐色土少量混入

第35図の2 6区1面中部の土坑群(その5)

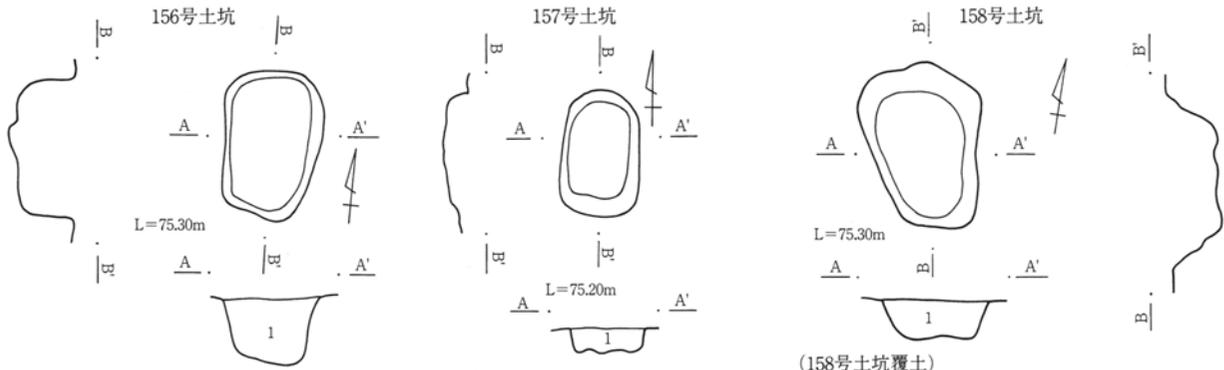
第2章 発見された遺構と遺物



第36図の1 6区1面中部の土坑群(その6)

その規模については長・短軸の合計が1m未満のものを小型、2m未満のものを中型、それ以上のものを大型として分類すると、小型のものでは34a・34b・40・61・70・99・100号土坑の7基、中型のものは最も多く33・35・36・37・38・41・42~44・

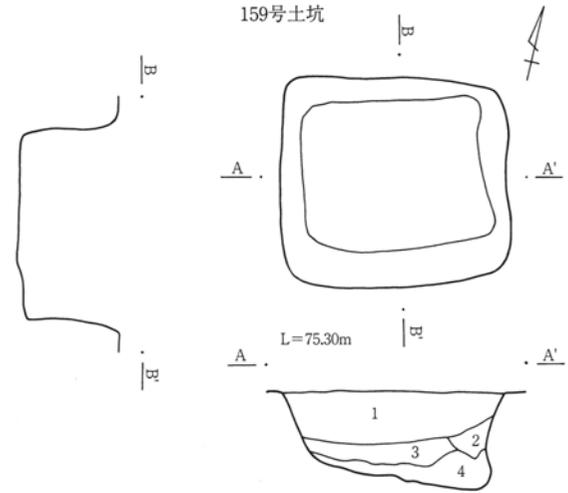
47~51・55・60・62~64・66~69・71~75・76b・77・78・80・82・84・87・90・91・92・95・96・101~106・110~114・153・155~159・162~164・167・175号土坑の54基を数えることができた。また大型では46・53・59・65・68・76a・79・83・85・



(156号土坑覆土)
1：灰黄褐色砂質土：洪水層土主体。As-B下耕土・As-C混黒色土・明黄褐色土少量混入

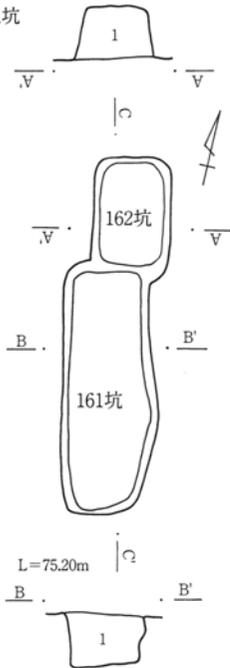
(157号土坑覆土)
1：灰黄褐色砂質土：洪水層土。白色軽石微量に混入

(158号土坑覆土)
1：灰黄褐色砂質土：洪水層土微量に混入



(159号土坑覆土)
1：褐灰色砂質土（洪水層）とAs-B下耕土・黄褐色砂の混土
2：褐灰色砂質土にAs-C混黒色土微量に混入
3：黒褐色砂質土：As-C混黒色土・褐灰色砂少量
4：褐灰色砂質土：As-C混黒色土多量に混入

161・162号土坑



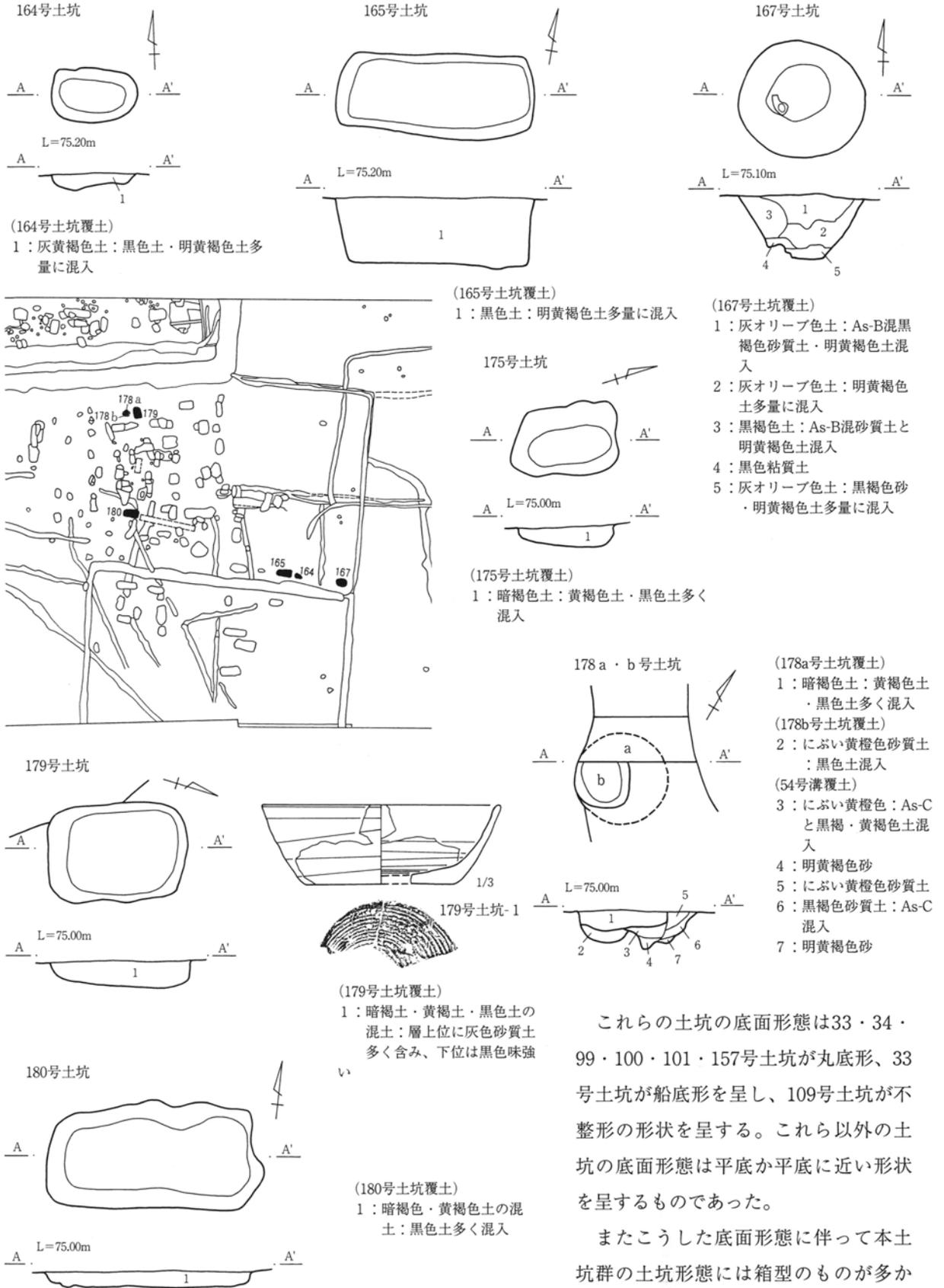
(160号土坑覆土)
1：灰黄褐色砂質土：洪水層土主体にAs-C混黒色土混入
2：黒褐色砂質土：洪水層土主体にAs-C混黒色土多量に混入

(161・162号土坑覆土)
1：黒色砂質土：As-B下耕土に褐灰色洪水層土少量混入

86・88・89・97・104～106・113・115・153
～155・159・160・161・165・179・180号土坑の23基を数えたが、このうち特に89・97・154・180号土坑は長短軸の合計が4m近い大きなものであった。このようにその規模にはばらつきが見られた。

第36図の2 6区1面中部の土坑群（その6）

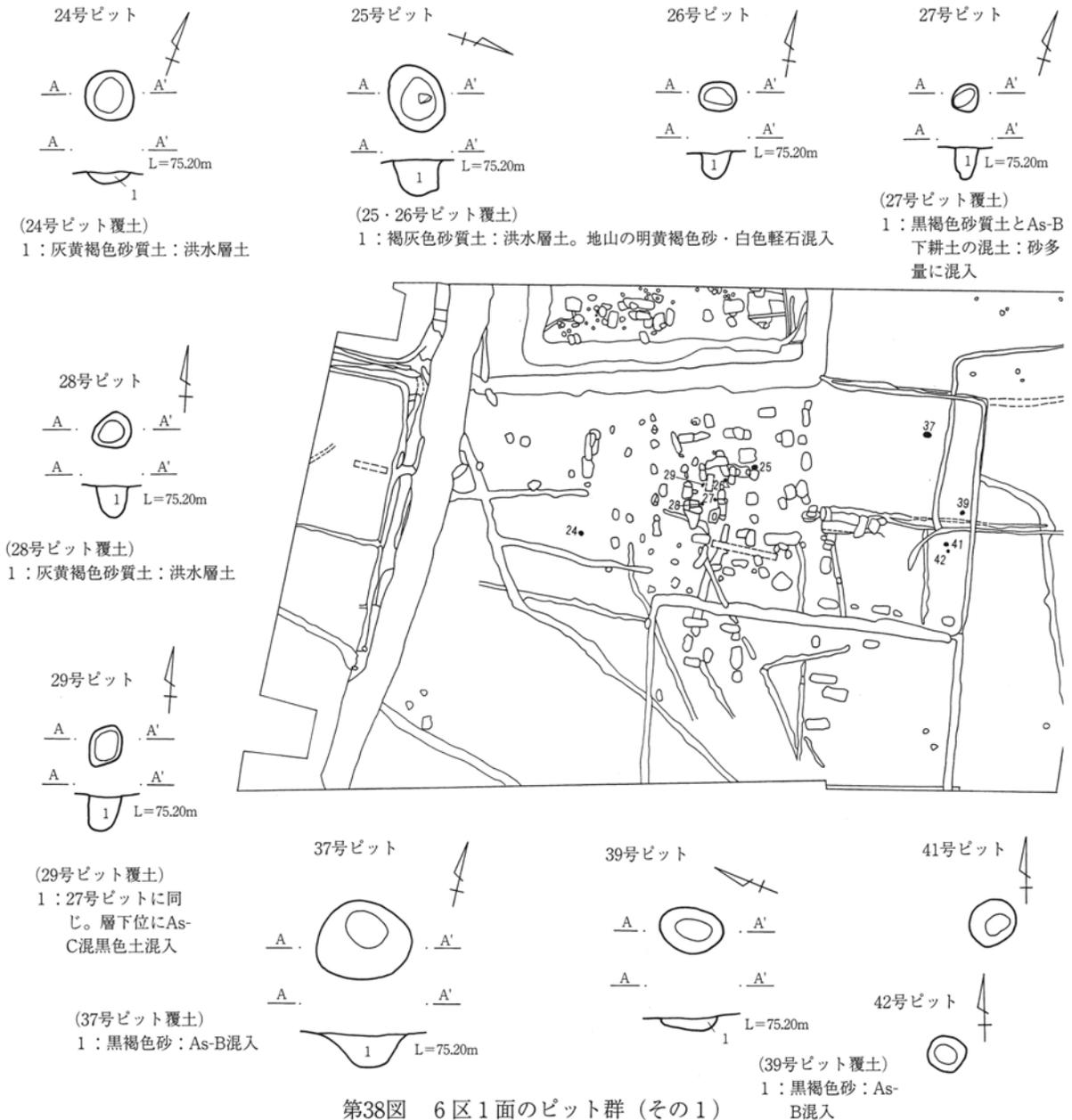
第2章 発見された遺構と遺物



第37図 6区1面中部の土坑群(その7)

これらの土坑の底面形態は33・34・99・100・101・157号土坑が丸底形、33号土坑が船底形を呈し、109号土坑が不整形の形状を呈する。これら以外の土坑の底面形態は平底か平底に近い形状を呈するものであった。

またこうした底面形態に伴って本土坑群の土坑形態には箱型のものが多かったが、33・34・37・54・99・102号土坑の壁面は開き気味であった。



第38図 6区1面のピット群 (その1)

(20) 6区1面のピット群

(第38・39図)

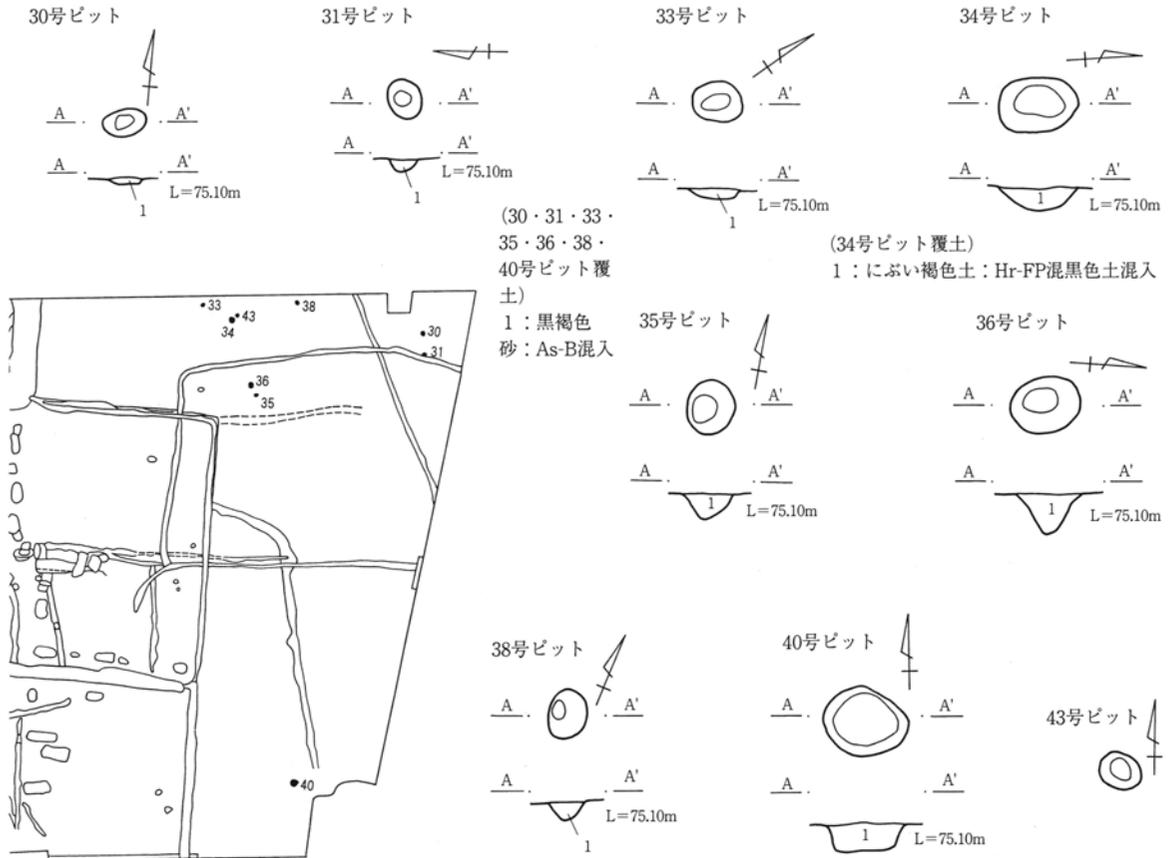
概要 6区1面では小型ピットが散見されたが、本項ではこのうち後述する6-1-1号屋敷に含まれるもの以外のものについて報告する。

調査されたピットのうち西部ではその東寄りでも6-1-24号ピット1基が確認されたに過ぎなかった。中部では6-1-25~29・37・39・41・42号ピット、東部では30・31・33~36・38・40・43号ピットのそれぞれ9基ずつのピットが確認、調査されている。

中部に於けるピットの分布は25~29号ピット、41・42号ピットは比較的近い位置に集まって位置しているが、東部のピットは40号ピットを除き調査区北端近くに位置している。

これらのピットからの出土遺物は無く、時期の特定には至らなかった。覆土の観察からは34号ピットは近世の所産と判断されている。しかし41~43号ピットは覆土の記録化も行い得なかったため時期を想定することもできなかった。またこの4基以外のピットについてはAs-B降下以後、As-A降下以前の中

第2章 発見された遺構と遺物



第39図 6区1面のピット群 (その2)

近世の所産として把握できたに過ぎなかった。

これらのピットの掘削意図については特定することはできなかったが、35・36号ピットはその形態から杭の打設痕である可能性を有しており、柱穴であるものが多いと思慮される。尚、これらのピットについては建物、或いは柵等を設定することはできなかった。

規模 (24号ピット) 径：43×42cm 深さ：14cm

(25号ピット) 径：60×48cm 深さ：29cm

(26号ピット) 径：32×28cm 深さ：29cm

(27号ピット) 径：25×20cm 深さ：26cm

(28号ピット) 径：35×30cm 深さ：29cm

(29号ピット) 径：32×28cm 深さ：31cm

(30号ピット) 径：32×20cm 深さ：11cm

(31号ピット) 径：32×28cm 深さ：10cm

(33号ピット) 径：40×32cm 深さ：13cm

(34号ピット) 径：60×44cm 深さ：19cm

(35号ピット) 径：44×40cm 深さ：19cm

(36号ピット) 径：56×44cm 深さ：34cm

(37号ピット) 径：84×68cm 深さ：41cm

(38号ピット) 径：40×32cm 深さ：18cm

(39号ピット) 径：56×40cm 深さ：11cm

(40号ピット) 径：68×52cm 深さ：3cm

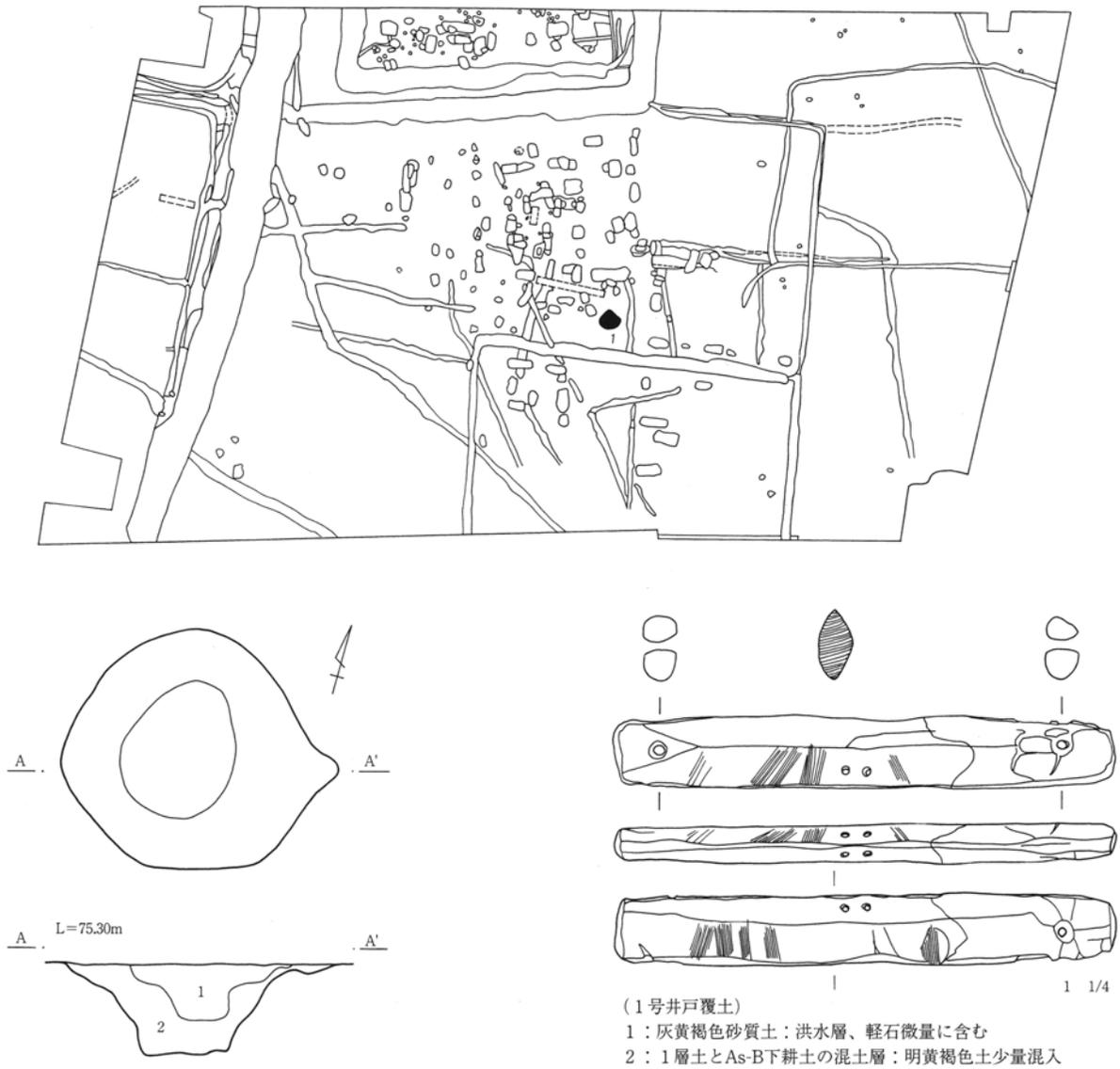
(41号ピット) 径：40×40cm 深さ：13cm

(42号ピット) 径：30×32cm 深さ：11cm

(43号ピット) 径：36×28cm 深さ：12cm

構造 これらのピットのプランについて見ると、29・35・41・42・43号ピットは隅丸方形を呈し、これ以外のピットは円形若しくは楕円形のプランを呈するものであった。

底面の形態は33・39・40号ピットが平底、35・36号ピットは円錐形を呈し、これ以外のピットは丸底形を呈している。壁面は各ピット共しっかり立ち上っている。



第40図 6-1-1号井戸

(21) 6-1-1号井戸 (第40図、図版16・49)

概要 本井戸6区中部の2つの屋敷遺構に挟まれた区域に在って、2号屋敷遺構の直ぐ北側に位置している。本井戸に切り合う遺構は無く、周囲の遺構分布もやや薄い。

つるべ把手らしい板材(1)が出土した他、土師器坏・甕や軟質陶器の鉢の破片が僅かに出土しただけで、明確な時期特定には至らなかった。尚、本井戸は中近世に属する洪水層のうち下位のもので埋没しているため6-1-1号屋敷の所見に照らして15世紀後半以降の中世段階の遺構と認識される。

本井戸は掘削深度が浅いため、使用時には水位の高かったことが窺われる。また、アグリは認められず、透水層も記録化が行われなかったため特定できなかったが、透水層は洪積層中の砂質土ではなかったかと推定される。

規模 径：232×200cm 深さ76cm

構造 本井戸はやや楕円形に近い円形プランを呈している。

掘削形態は朝顔形を呈しており、井筒部分は径1.2×1.2m程で、高さは僅かに30cm程と浅いものであった。



第41図の1 6区1面A s-B下水田 (その1)

(22) 6-1-As-B下水田

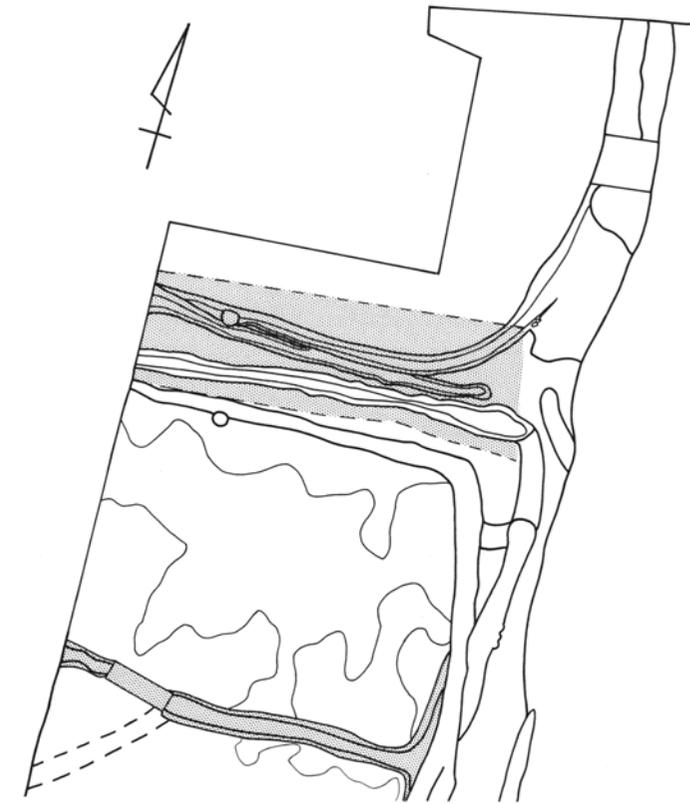
(第41・42図、図版17・71)

概要 6区に於いては、東部及び西部でAs-Bに被覆された水田址を確認、調査した。

本水田址の水田面や覆土からは9世紀の土師器甕(1)や須恵器坏(2)等の土師器・須恵器片、或いは石匙(3)の出土が見られたのであるが、その時期については水田面がAs-Bに被覆されることから天仁元年(1108)を下限とするもので、下位層との関連から律令期の所産と認識される。

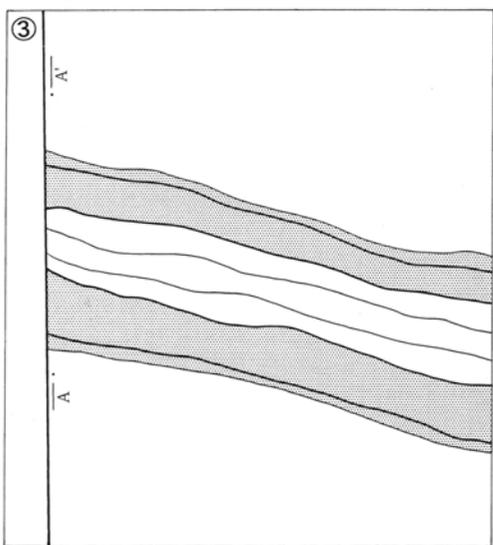
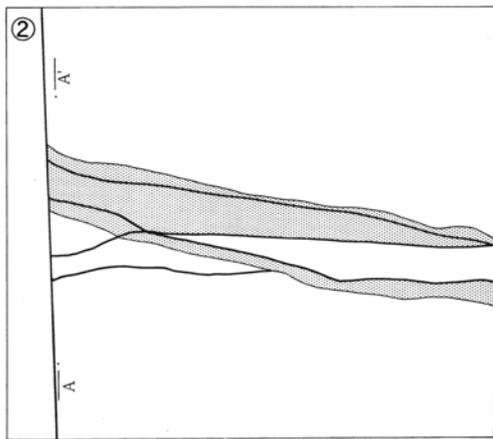
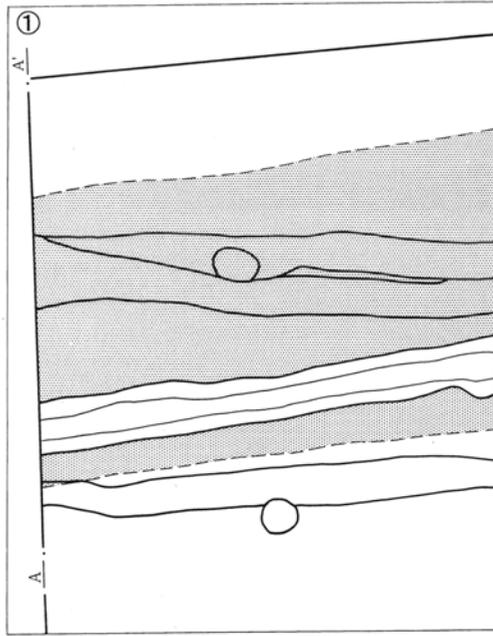
さて本水田址は上下に圧平されて遺存状況は悪く、畦畔が不明瞭な箇所も多かったため全容は詳らかにできなかったのであるが、そのプランについては西部の中部寄りの区画では地形による制約を受けているようであるが、これを除くと概ね条里方眼に依拠して造られたものと想定される。

尚、本水田址への給排水については西部に於い



ては6-1-1・2・3・4号溝を以て行われていることが確認され、特に東寄りの矢印で示した水口は4号溝からの給水を示すものと思われる。しかし乍、東部に於ける給排水の状況は確認されなかった。

第41図の2 6区1面As-B下水田(その1)



規模 (東西長×南北長、()内は残存長)

[調査範囲] 57.6×57.4m

[水田区画径] 1 : (962) × (760) cm

2 : (988) × 1040cm 3 : (961) × 1189cm

[大畦] 幅 : 313cm

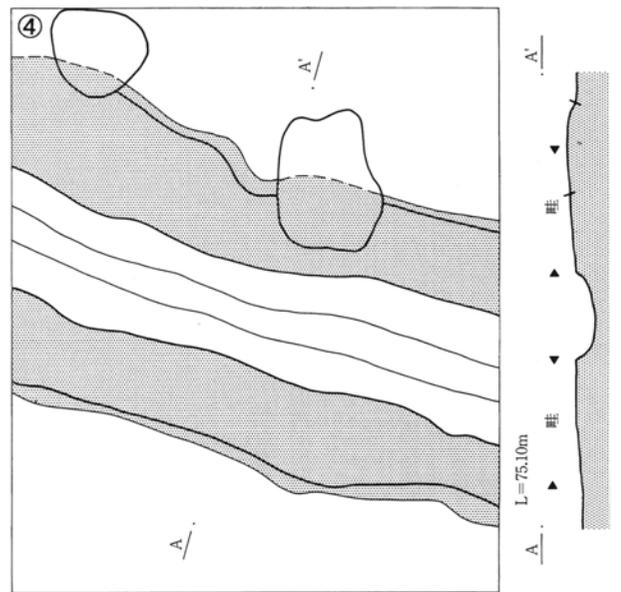
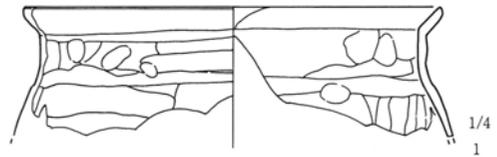
[畦畔] 下幅 : 88cm以下

[水口幅] 上幅 : 92cm

構造 本水田址は黒色粘質土を耕作土とし、畦畔もこれで作る。

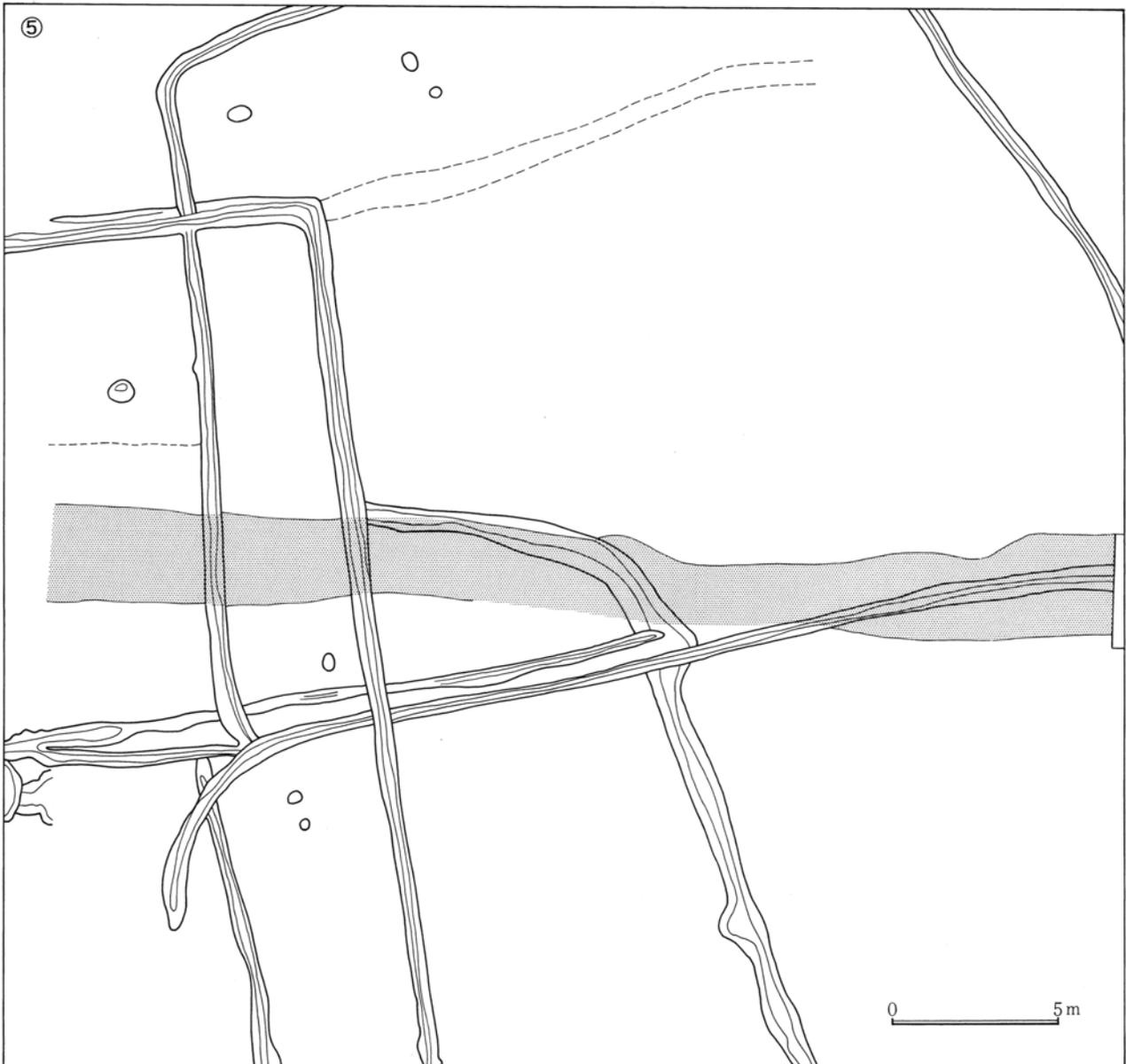
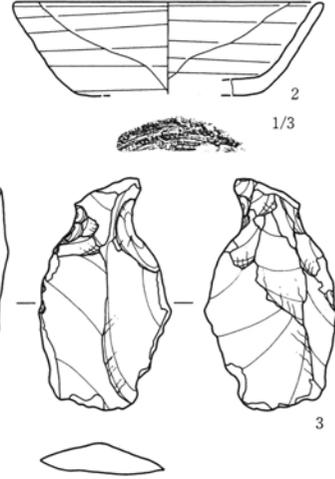
東部に於いては中程に95°に傾く大畔が確認され、西部では90°を向く大畔と想定されるものが北寄りにやはり東西走向に確認されている。

一方、個々の水田区画は殆ど確認できなかったが、西部西寄りでは同じような規模・規格を呈する東西に長い長方形プランの区画3面を確認している。しかし西部東寄りに於いては上述のように地形による規制があったようで、南東から東南東に屈曲する3号溝と東南東に流下する4号溝の間を区切って不整形プランの区画が造り出されていたものと想定される。尚、東部の状況は不明である。



第42図の1 6区1面A s-B下水田(その2)と出土遺物

第2節 6区の遺構と遺物



第42図の2 6区1面A s-B下水田(その2)と出土遺物

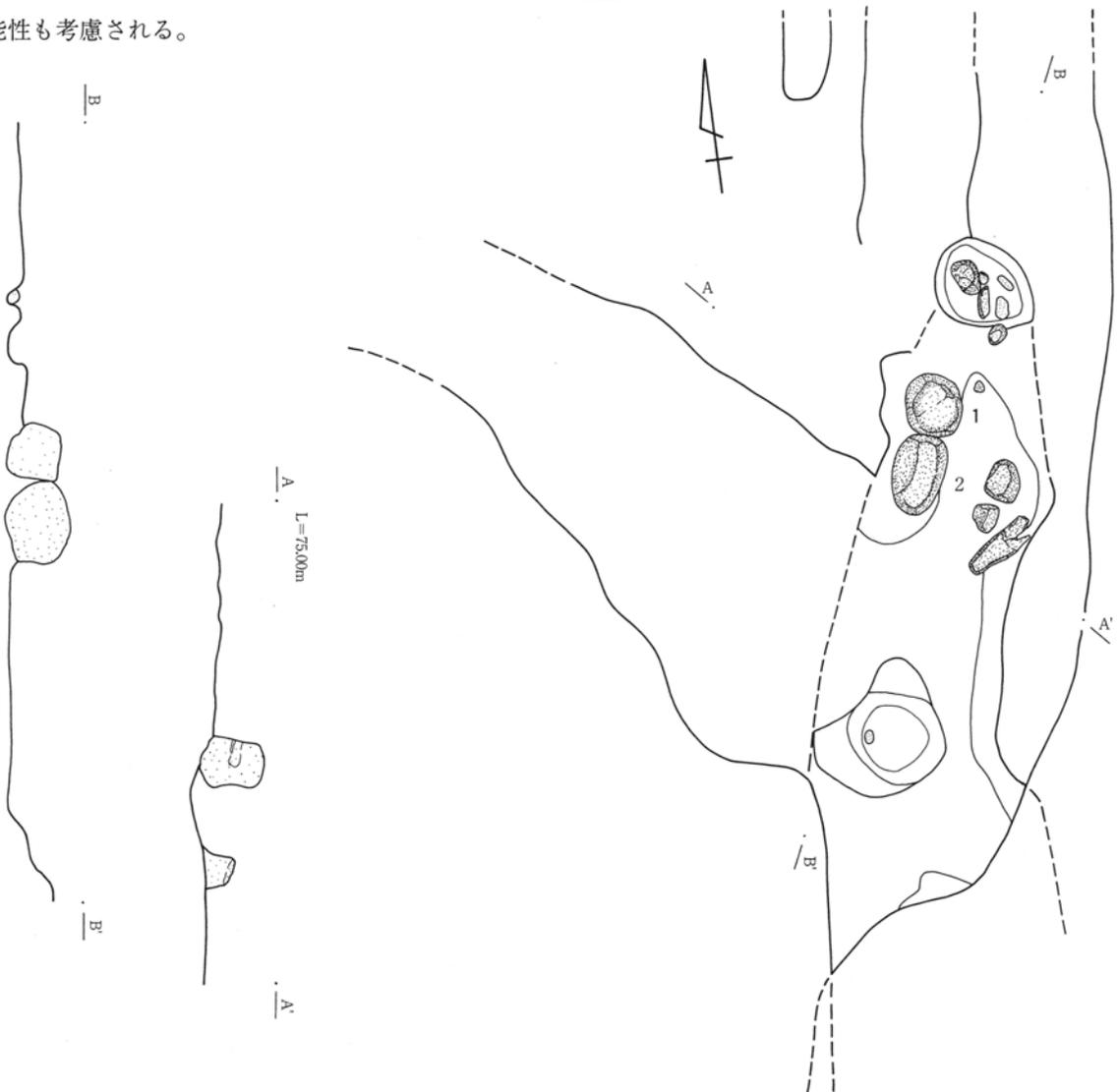
第2章 発見された遺構と遺物

(23) 6-1-石塔類(第43・44図、図版16・49・50)

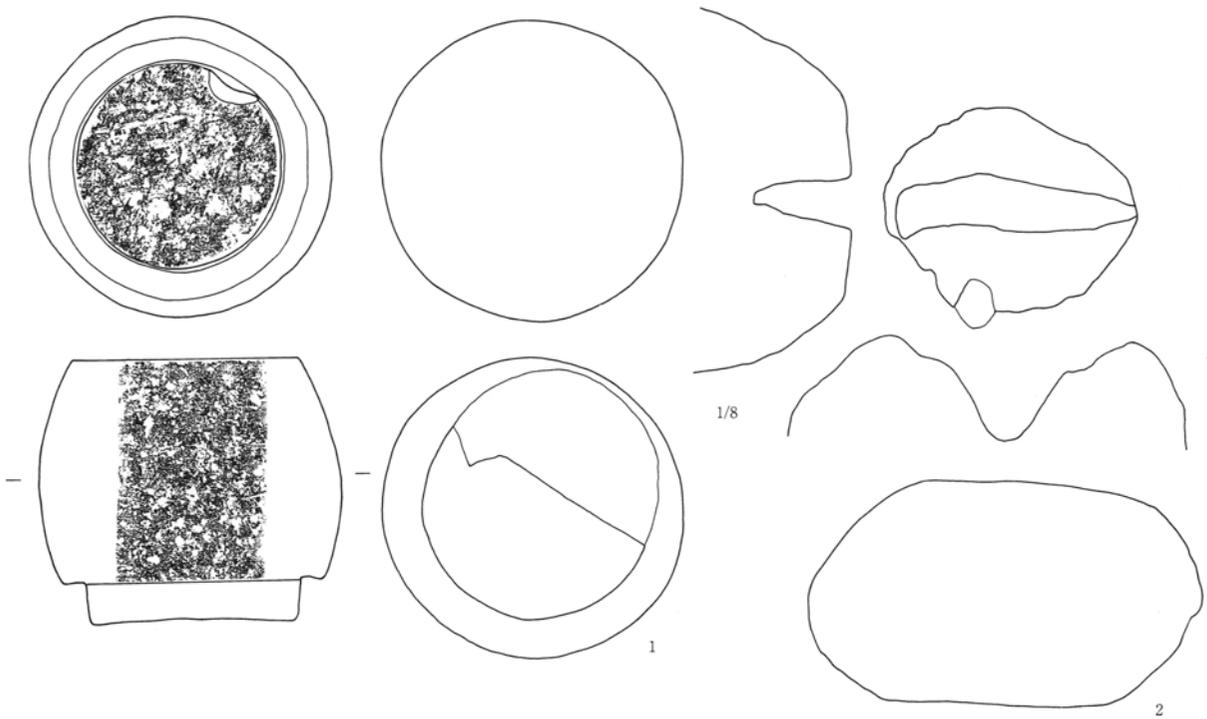
概要 6区1面の南西部、6-1-2・10号溝の交差点付近で五輪塔の空風輪の風輪部分(1)と板碑の台座(2)が出土している。

出土箇所は圃場整備前の南北走行の用水路西肩に当たり、この水路よりは古い段階の流水の痕跡が確認されている地点に当たる。この流水の痕跡は南北4m、東西1.3mの範囲に確認され、ピット様の窪地2カ所を伴っており、東側は圃場整備前の用水路に切られている。

この五輪塔及び板碑の台座が元々この位置に設置されていたものか否かは特定されなかったが、石材としての大きさから堰の材として転用されていた可能性も考慮される。



第43図 6区1面南西部の流水痕



第44図 6区1面南西部出土の石塔類

(24) 6区1面遺構外の出土遺物

(第45～48図、図版49～53)

概要 6区1面からは遺構外の出土遺物があったが、土器類では土師器・須恵器・軟質陶器片等の出土が見られた。これらのうち土師器としては8世紀後半期(1)や9世紀前(2～7)・後半期(8)の坏や、漆がやや厚く付着した平安期の所産らしい坏(9)も見られた。この他、4世紀前半期(14)や6世紀前半期(15)の高坏、9世紀後半期の台付甕片(16)があり、竈の天井材らしい被熱した粘質土の付着する9世紀のものかと思われる甕の小片(17)の出土も見られた。

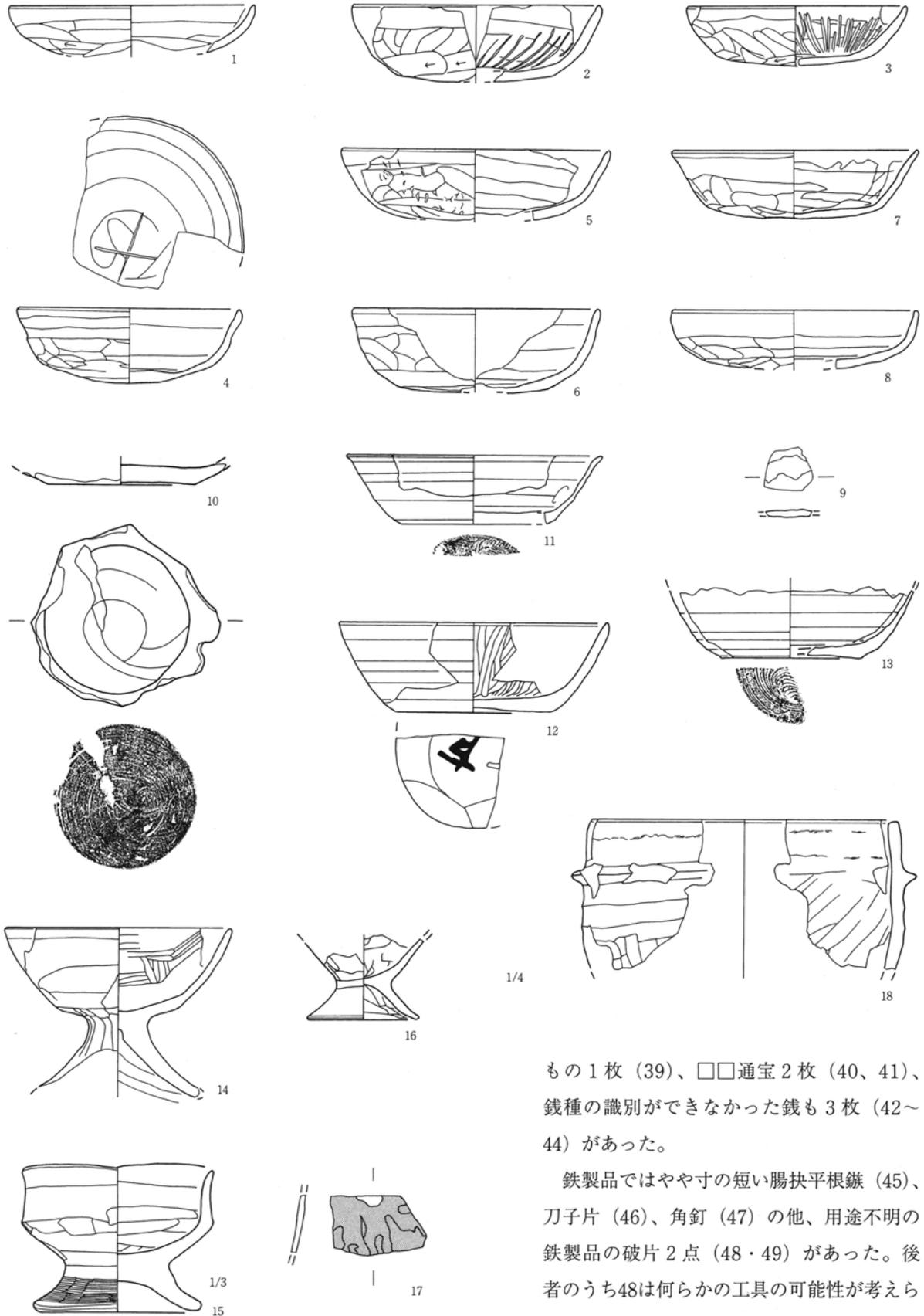
須恵器としては8世紀前半期(10)や9世紀後半期(11)の坏、10世紀後半期(12)や11世紀前半期(13)の碗が見られた他、羽釜片(18)や、注目されるものとしては8世紀前半期と判断される把手付きの小型の平瓶(19)も見られた。

中世の遺物としては15世紀後半期の所産と判断されるかわらけ(20)や、14世紀後半(21)、15世紀前半期(22)とそれぞれ判断される使用痕の顕著な軟質陶器鉢の破片が見られた。

一方、石器・石製品の類には小型の無茎石鎌(23)や砥石片(24・25)があったが、24の砥石は過度の使用で折れる程薄くなるまで使われている。この他にもあみ石としての転用されたい敲石(26～29)。或いは磨石(30)、台石(31)、こもあみ石(32～34)の出土も見られたが、台石は破片ではあるものの表面に煤や鉄片の付着が見られ、小鍛冶での使用が窺われるものであった。

金属製品には銭と鉄製品があり、銭は10枚を数えた。このうち永楽通宝(35)の破片は本銭であるが、他は模鑄銭かその可能性が高い。銭種が確認できたものでは朝鮮通宝(36)、祥符元宝(37)、皇宗通宝(38)各1枚があり、この他、洪武通宝と判断される

第2章 発見された遺構と遺物



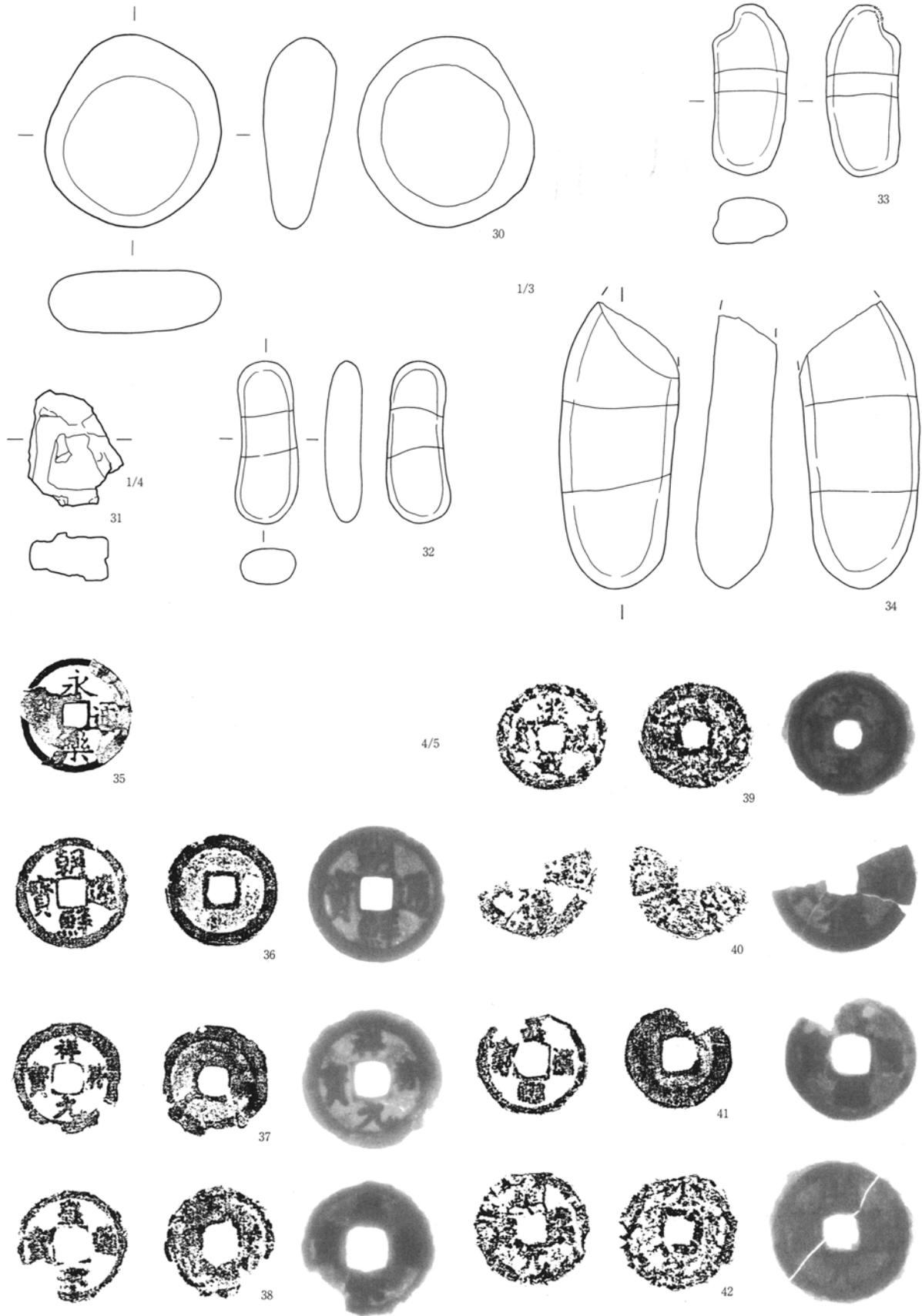
第45図 6区1面遺構外の出土遺物（その1）

もの1枚(39)、□□通宝2枚(40、41)、
 銭種の識別ができなかった銭も3枚(42～
 44)があった。

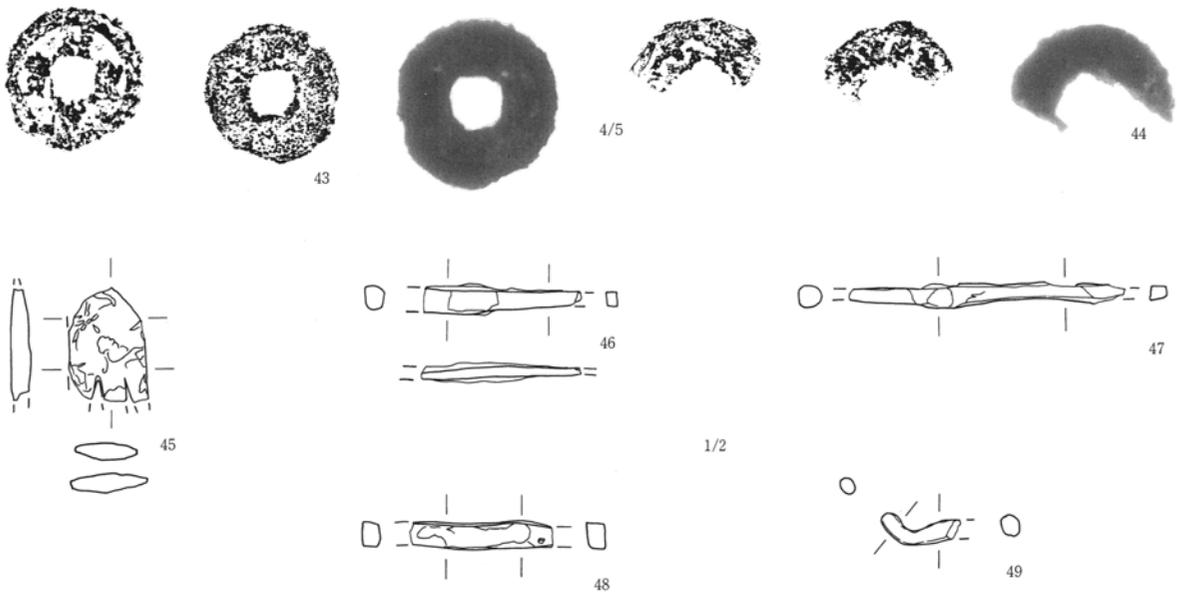
鉄製品ではやや寸の短い腸扶平根鏃(45)、
 刀子片(46)、角釘(47)の他、用途不明の
 鉄製品の破片2点(48・49)があった。後
 者のうち48は何らかの工具の可能性が考えら
 れ、49はフックのようなものであった可能性
 が想定される形状であった。



第46図 6区1面遺構外の出土遺物(その2)



第47図 6区1面遺構外の出土遺物(その3)



第48図 6区1面遺構外の出土遺物（その4）

6-3 6-1-1号屋敷の遺構と遺物

概要 6-1-1号屋敷は調査時点から6区1面北部に館として認識されていた遺構である。

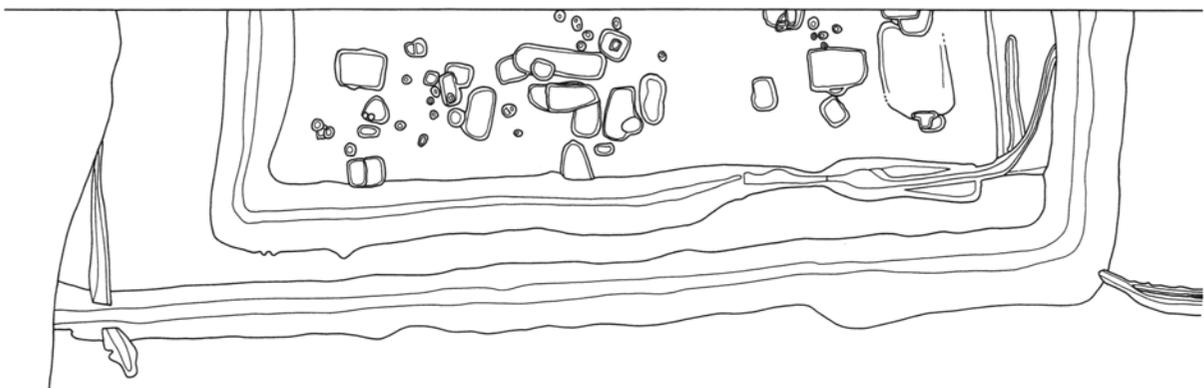
1号屋敷はその過半が北側調査区外に在り、西端は近現代の用水堀に切られるためその全容は明らかでないが、凡そ二重堀を持つ回字形プランを基調とした屋敷遺構として認識している。その規模は確認範囲の状況から40m四方前後の規模を持つ小型の屋敷遺構と推定される。

屋敷の遺構は堀・溝、土坑等で構成されるが、

堀・溝以外の遺構は内堀の内側に限られ、凡そ西半部に多く分布している。

1号屋敷の外堀南西隅には前述の6-1-31・32号溝が接続し、これを介して南の6-1-2号屋敷に接続している。しかしその走行は31・32号溝、2号屋敷に対し8°程西に傾いている。

本屋敷の時期は明瞭ではないが、出土遺物から15世紀後半以降に埋没したものと判断している。また初源の時期は特定できなかったため。本屋敷の存続



第49図 6-1-1号屋敷全体図

第2章 発見された遺構と遺物

時期も明確には特定できなかったのであるが、周堀である6-1-20・21号溝の出土遺物から14世紀以降で15世紀を中心とする時期の遺構として把握できるものと思慮される。

(21号溝埋没後の堆積層)

- 1：褐灰色土：As-A含む現耕作土
 - 2：黄橙色土：鉄分沈着、やや砂質。As-B・Hr-FP含む
 - 3：暗褐色砂質土：As-B多く含む。Hr-FP含む鉄分沈着
- (21号溝覆土)
- 4：黒褐色土：やや砂質。As-B・Hr-FP含む
 - 5：黒褐色土粘質土：As-B含む



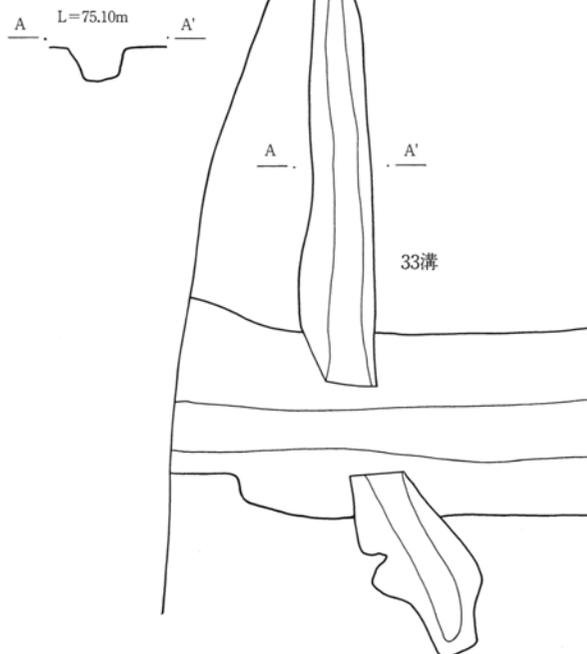
〔6区1号屋敷外堀〕

(1) 6-1-1・20号溝(第50～53図、図版12・53～56)

概要 本溝は6区中西部に在って、調査区北端に位置する。北東側は調査区外に出、西側は近現代の用水路に削られるため全容は不明である。

本溝からは古墳時代後期の土師器坏(1)など土師・須恵器片や、敲石(23、24)、磨石(25)なども出土している。しかし、龍泉窯系の青磁碗(2～3)、15世紀の軟質陶器鉢(5～10)、焼締陶器甕(11)、平瓦(12)など中世の陶磁器片や、鉢(13、14)、石臼(15、16)、五輪塔の風輪(17)、砥石(18～22)といった石製品の類の出土も見られたため本溝の埋没は15世紀後半以降と解釈されるが、一方概ね中世の範疇に留まるものとも判断される。

本溝は6-1-1号屋敷の外堀として認識される溝である。尚、南面の東寄りで、それ以东に比べ西側の幅員の狭くなる箇所があるが、この位置は後述する6-1-21号溝の幅員が狭まる箇所に対応する所で虎口になるものと思われる。また東側の幅員が増しているのは、2号溝の項で後述するように東面の防御構造が南・西面のそれと異なるためであると思慮される。

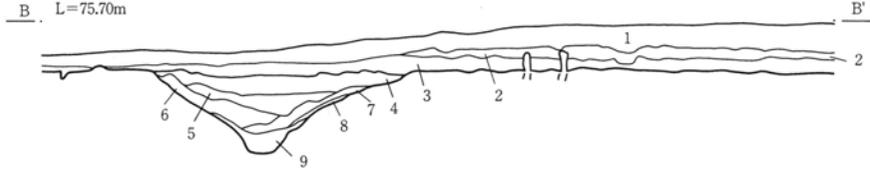


第50図の1 6-1-20・21・33・35号溝(その1)

規模 長さ 51.6m 幅 320cm 深さ 90cm

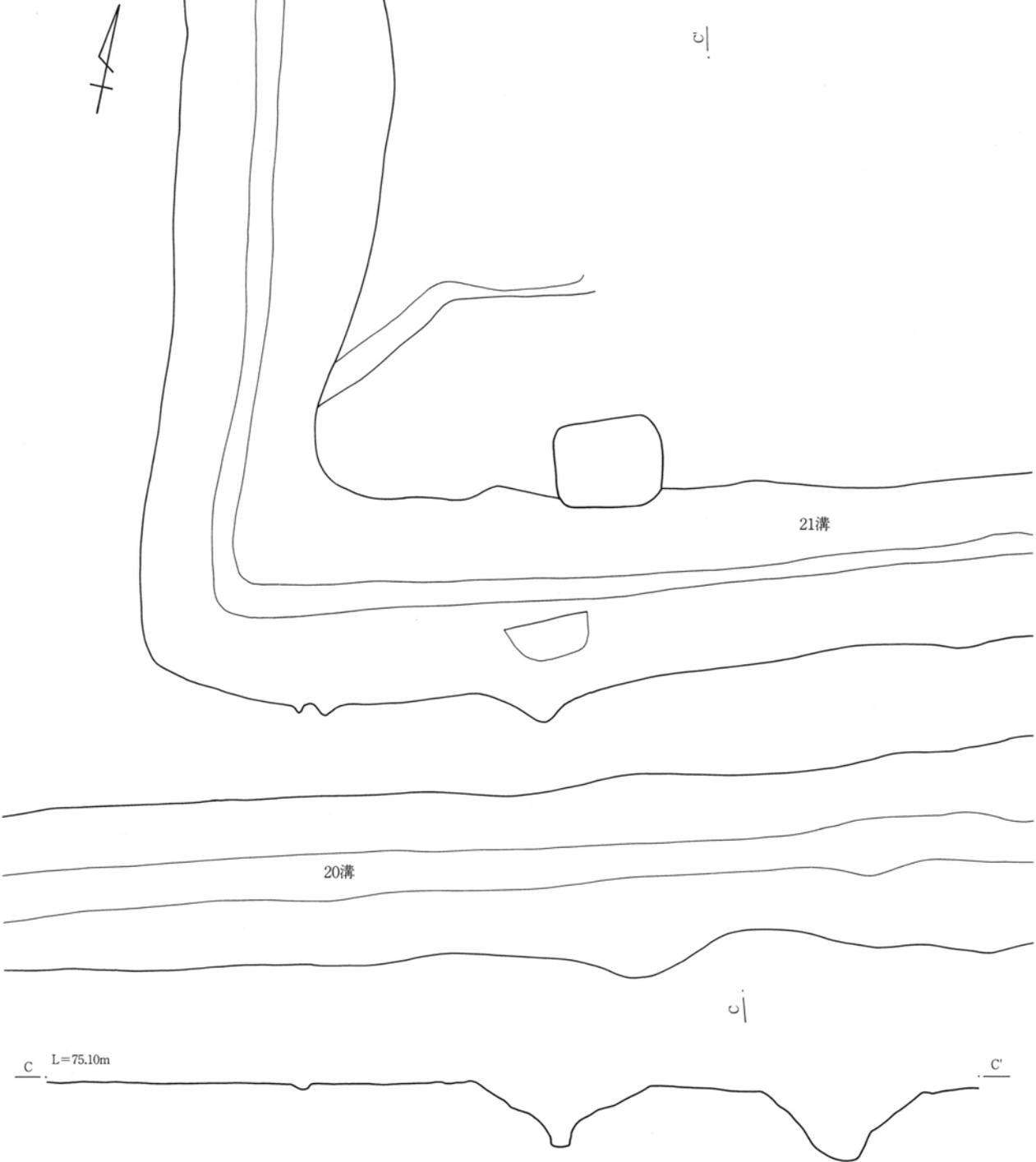
第2節 6区の遺構と遺物

B L=75.70m



- 6：褐色土：地山黒色土と明黄褐色土の混土層。土塁の崩落土の可能性有
- 7：黒褐色土：やや粘質。As-Bと少量の地山明黄褐色土含む
- 8：褐灰色土：やや粘質。As-B含む
- 9：黒褐色土：粘性強い地山の明黄褐色土少量含む

B B'



C L=75.10m

第50図の2 6-1-20・21・33・35号溝(その1)

第2章 発見された遺構と遺物

(20号溝埋没後の堆積層)

1：褐灰色土：As-A混現耕土 2：1・4層土混土。鉄分沈着 3：2層に同じ。鉄分少 4：黄橙色土：鉄分沈着、やや砂質。As-B・Hr-FP含む 5：暗褐色砂質土：As-B多く含む。Hr-FP含む鉄分沈着

(20号溝覆土)

6：灰褐色土：やや砂質。鉄分沈着
7：褐灰色土：Hr-FPと多くの砂粒混入

8：灰黄褐色土：Hr-FPと一部にAs-B下耕土含む

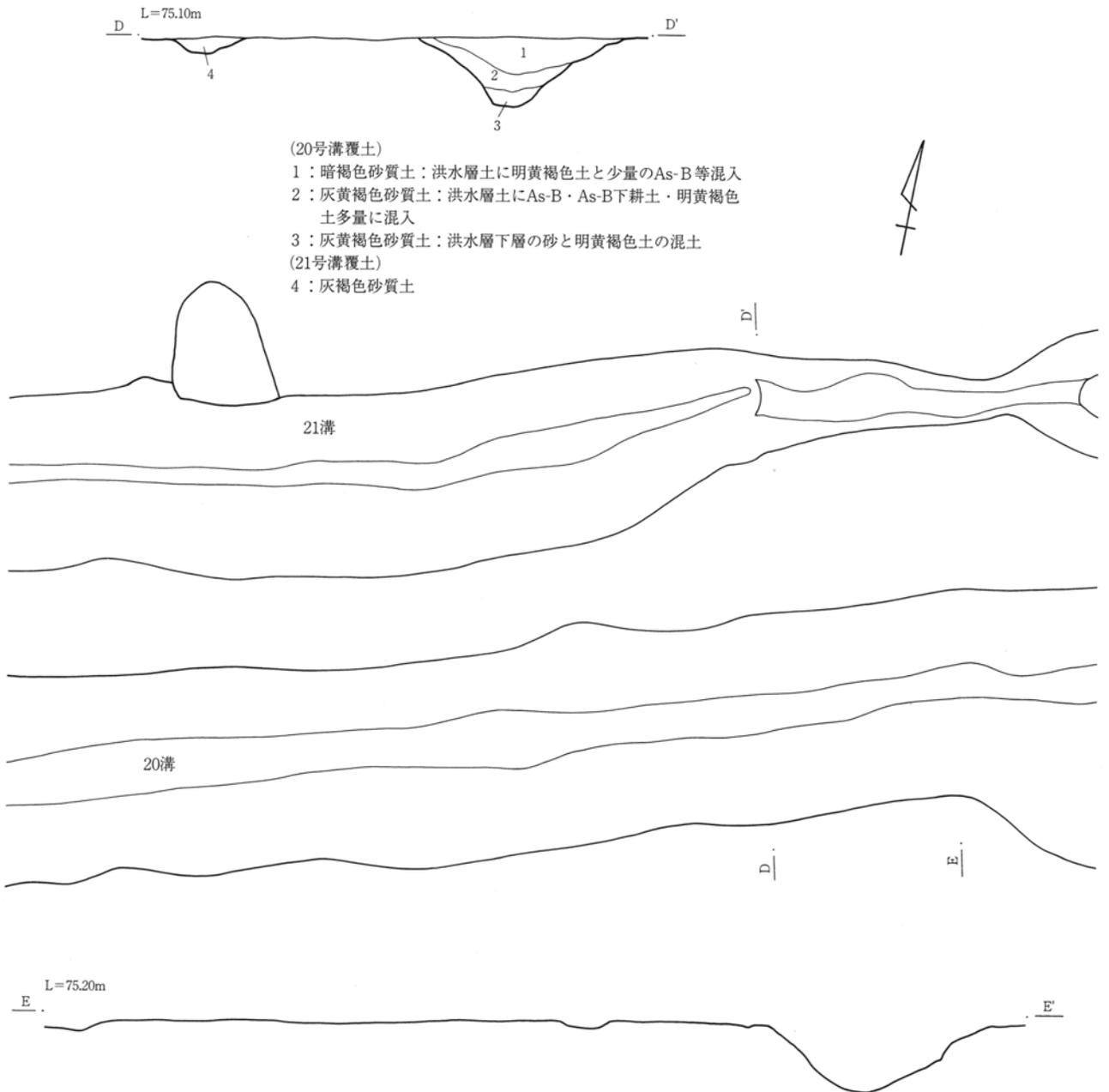
9・14：黒褐色土：やや砂質。少量の黄褐色土・As-C混土、多量の砂粒含む。9層はHr-FP含む。11層は崩落土

10：黒褐色土：As-C混黒色土少量混入。砂粒多し

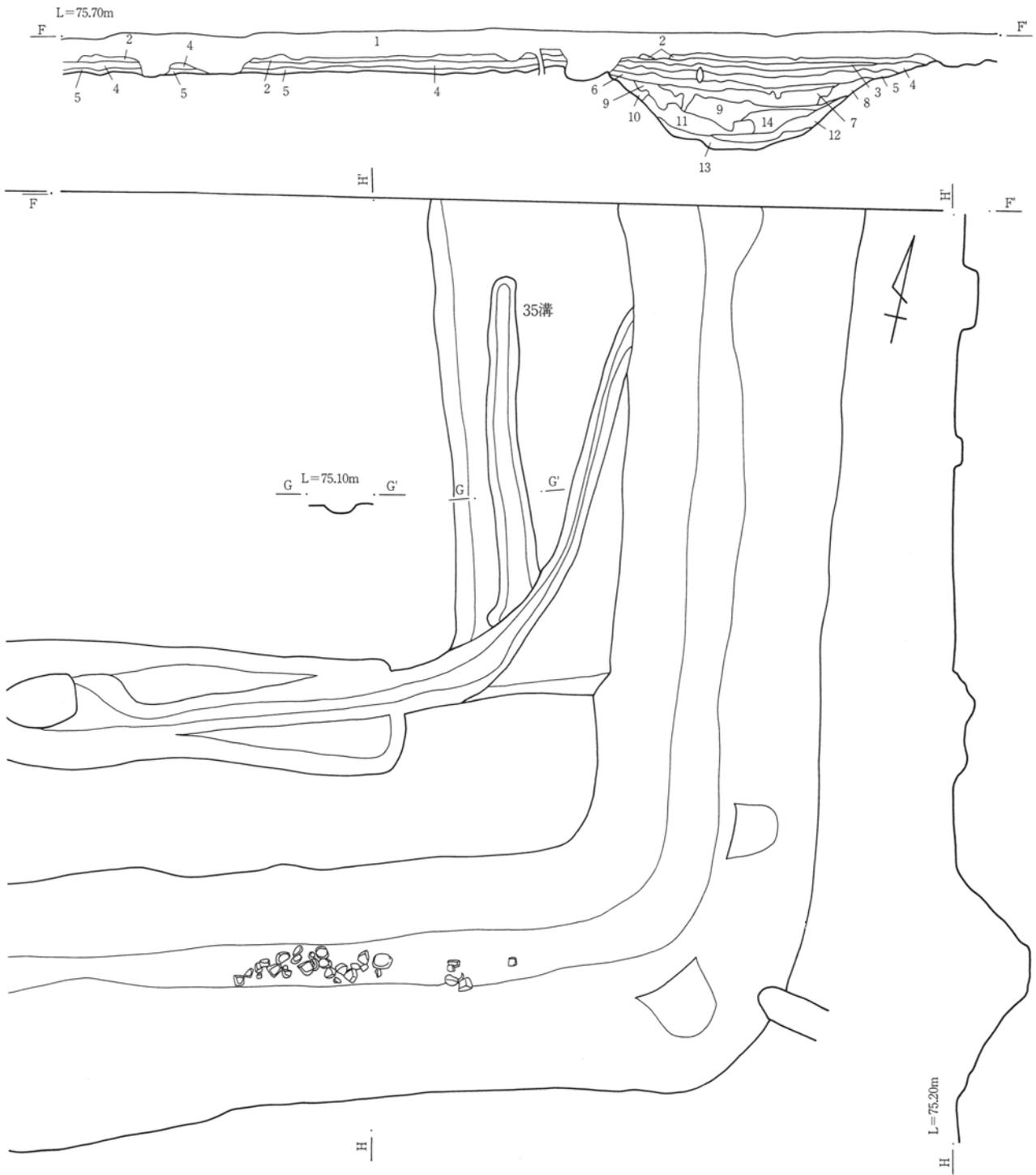
11：にぶい黄橙色土とAs-C混黒色土・As-B下耕土の混土

12：褐灰色粘質土：粘性強。砂粒多量に混入

13：黒色土：軟質。As-Cと多量の砂粒混入



第51図の1 6-1-20・21・33・35号溝 (その2)



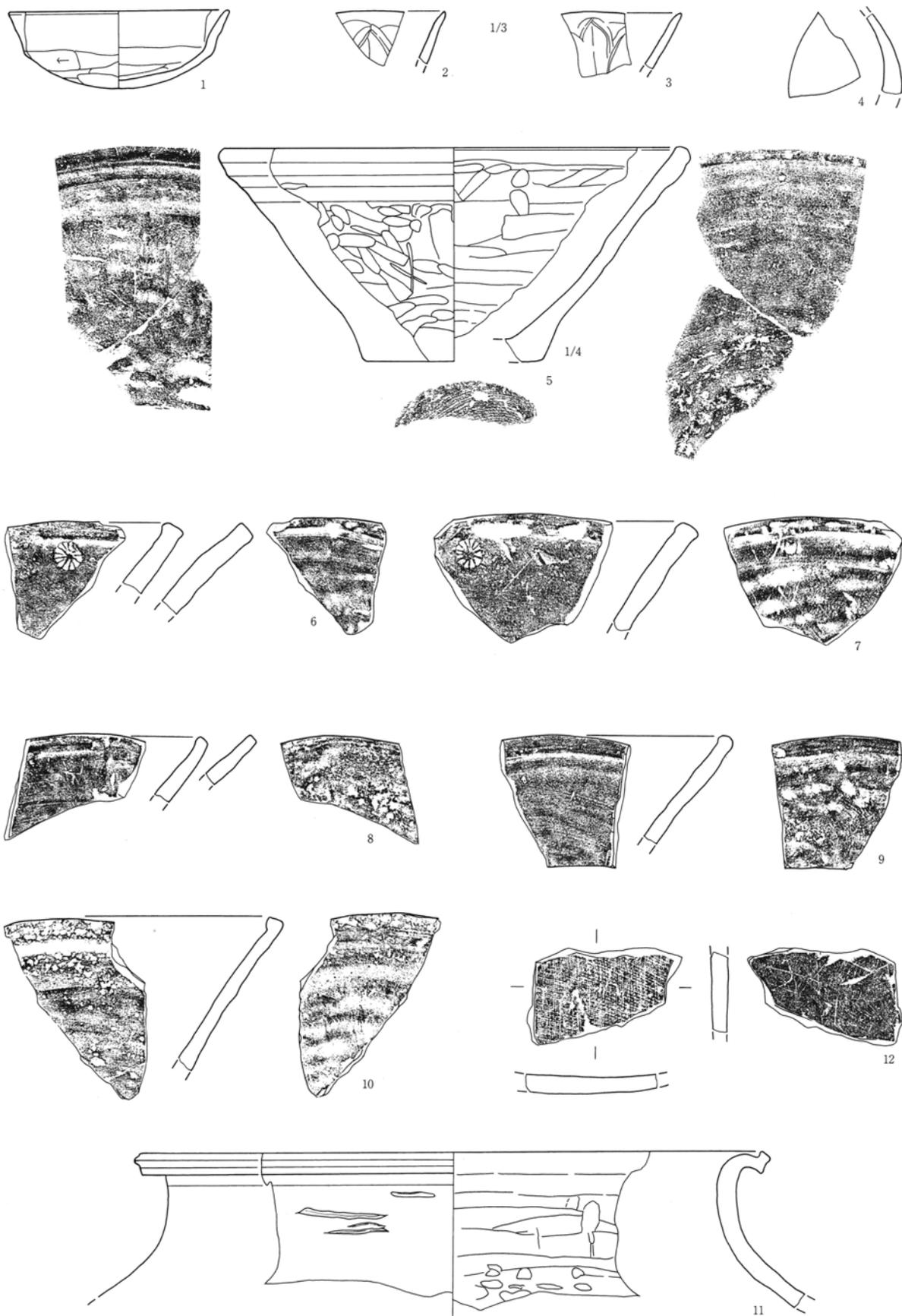
第51図の2 6-1-20・21・33・35号溝 (その2)

構造 本溝は南面する箇所を中心にの部分进行调查したに過ぎなかったが、屋敷の外堀として方形のプランを呈するものと思慮される。その形状は比較的整

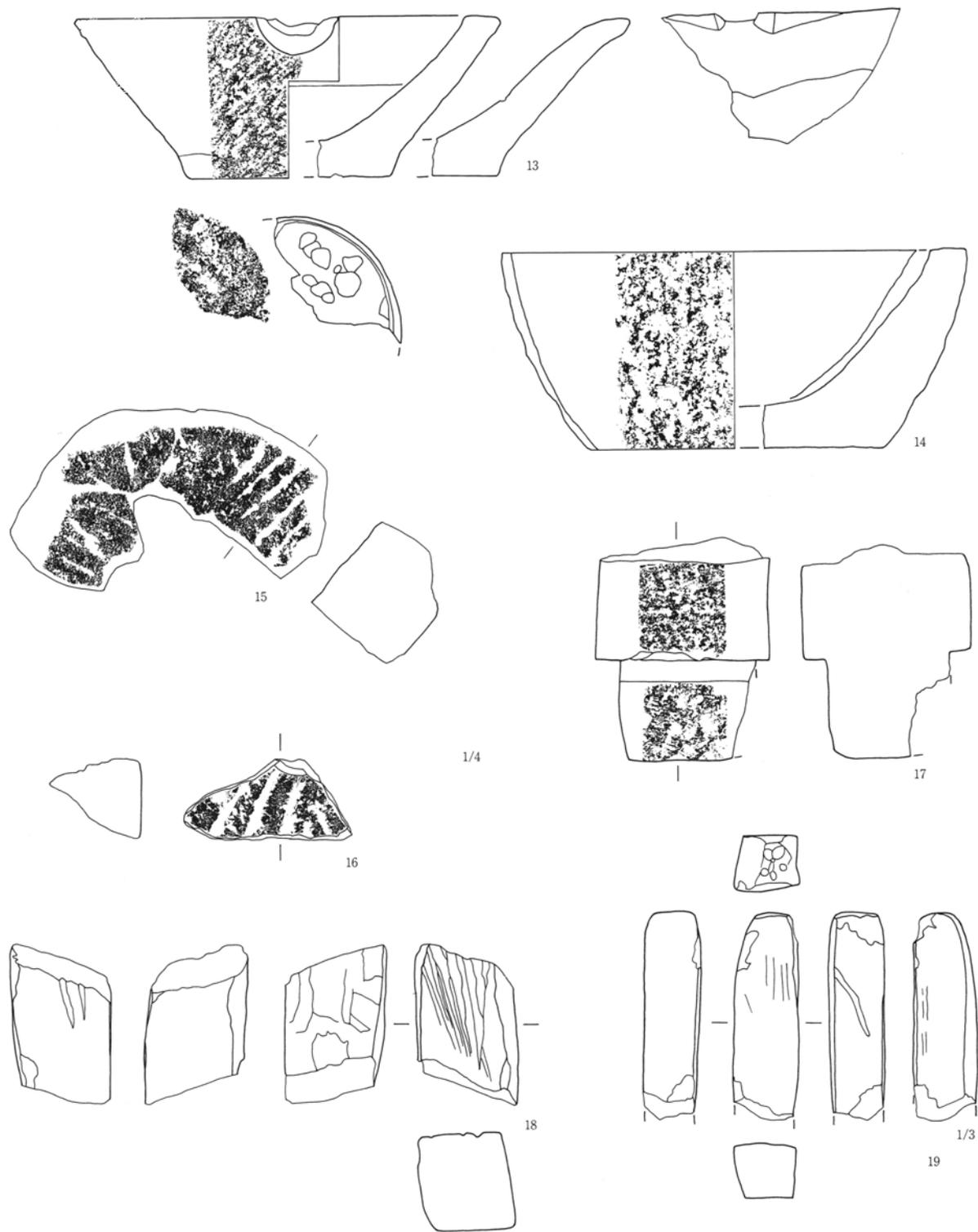
っているが、南側東寄り、東部に比べ、中・西部の幅員が80cm程狭まっている。

その掘削形態は薬研堀状を呈する。

第2章 発見された遺構と遺物



第52図の1 6-1-20号溝出土遺物(その1)



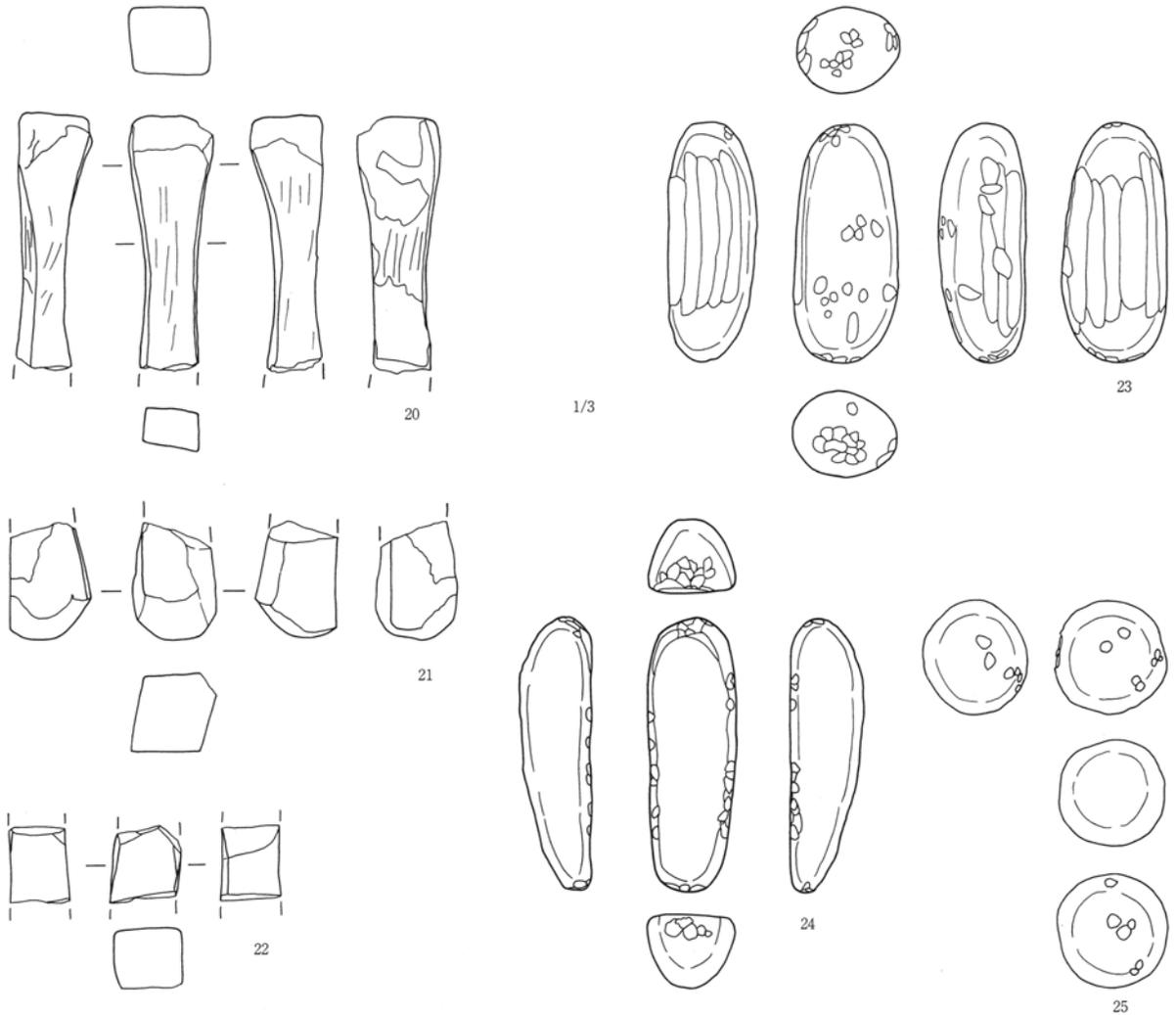
第52図の2 6-1-20号溝出土遺物(その1)

〔6区1号屋敷内堀〕

(2) 6-1-1・21号溝(第50・51・54図、図版12・56~58)

概要 本溝は6-1-21号溝の内側に位置し、北側は調査区外に出ていて詳らかでない。また東部では幅

員の狭い溝となる箇所があるが、ここは主たる南・西面部分の東端底部に掘り込まれていて走行も若干異なるので、本体たる溝とは別遺構の可能性を有し



第53図 6-1-20号溝出土遺物（その2）

ている。また東部で重なる6-1-20・35号溝との新旧は特定できなかったが、後述する防御構造の検討から20号溝と本溝とは同時期のものであるものと判断している。

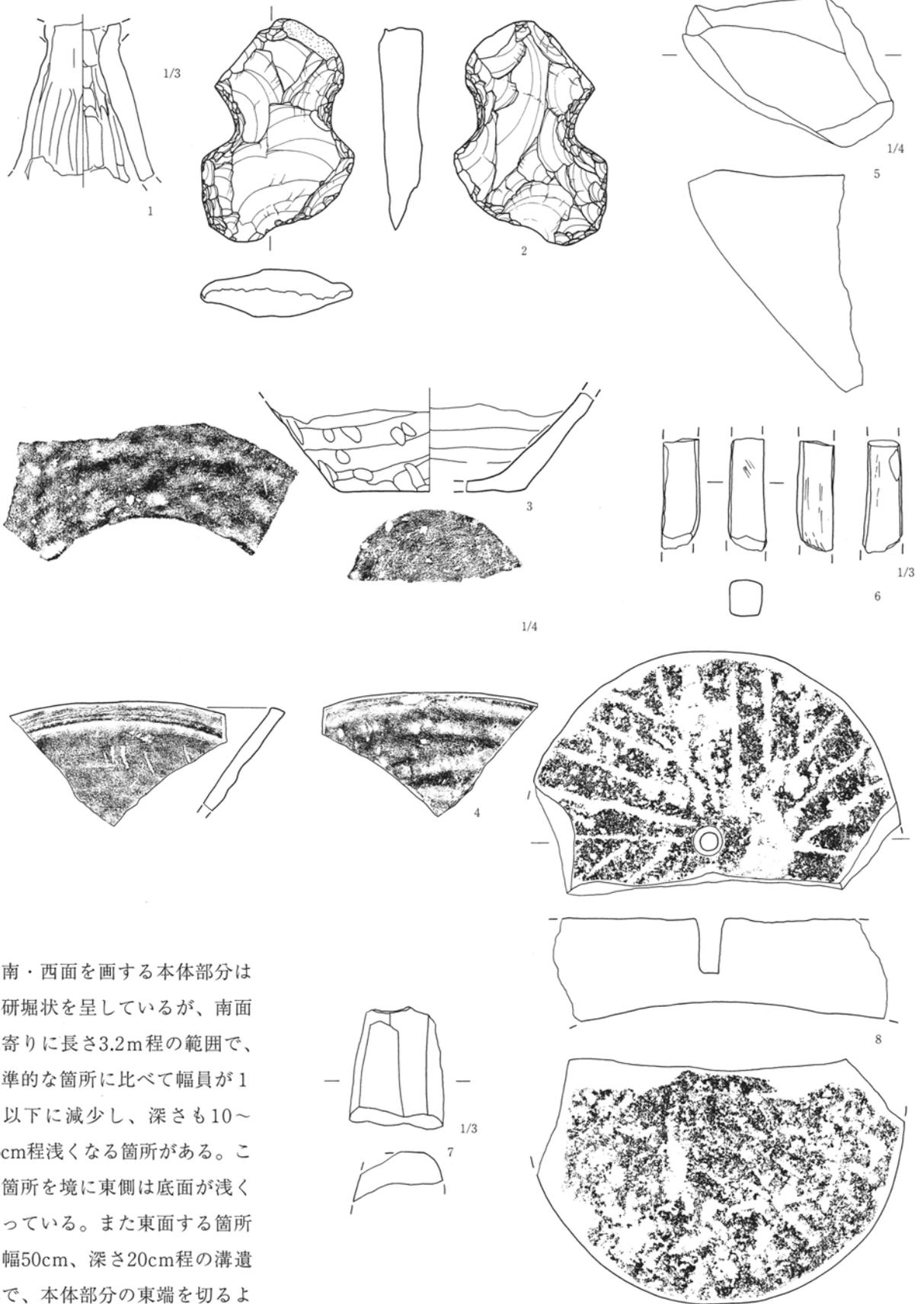
さて、本溝からは土師器高坏（1）など土師・須恵器の破片や打製石斧（2）、或いは14・15世紀の中世の軟質陶器鉢（3、4）、砥石（5、6）や台石（7）石臼（8）の出土も見られた。これらの出土遺物からの時期特定は難しいが、概ね15世紀後半以降に埋没した遺構として把握できよう。

本溝は6-1-1号屋敷の内堀に当たるが、外堀である20号溝から1.2~1.4m程隔たって掘削されている。本溝の中で本体たるしっかりした掘削の施される部分は東南コーナー近くで途絶えており、この部

分で20号溝も幅員を増していることから東面では堀1条、南・西面では堀2条と、異なった防御構造が施されていたことが窺われる。また、南面側東寄りでは3.2m程の範囲で幅員が減少し浅くなる箇所があるが、20号溝でもここに対応する箇所では幅員の変化があるので、この箇所が平入り構造の虎口であったものと判断される。

規模 長さ 44m 幅 240cm 深さ 72cm

構造 本溝は本体となる部分はL字形プランを呈して東西・南北に走行を取る。東端部は本体東部に始まり20号溝に至る、幅員の狭い別遺構とも考えられる溝となっていて、その走行は本体に重なる付近では本体よりやや北に傾き、本体を出てからは走行を北北東に変じている。



南・西面を画する本体部分は薬研堀状を呈しているが、南面東寄りに長さ3.2m程の範囲で、標準的な箇所比べて幅員が1m以下に減少し、深さも10～25cm程浅くなる箇所がある。この箇所を境に東側は底面が浅くなっている。また東面する箇所は幅50cm、深さ20cm程の溝遺構で、本体部分の東端を切るように始まり東に突き出している。

第54図 6-1-21号溝出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

(2) 6-1-1・35号溝 (第50・51図)

概要 6-1-1号屋敷東面では6-1-21号溝内側には幅2～2.6m、高さ20cm弱の段差がこれに沿うように在るが、本溝はその西寄り、21号溝から1.6m程の位置に掘削されている。

南端で21号溝東部の小溝部分に重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。また本溝は21号溝以南には延びず、寧ろ南端部の形状から21号溝のライン上を西に向かう可能性あり、この場合21号溝の幅員減少箇所が本溝に起因する可能性も考えられるのである。

本溝からの出土遺物は無く、覆土の観察から概ね中近世の所産として把握できるに過ぎなかった。但し21号溝に重なっていたならば、21号溝の断面観察から本溝の方が古いものと判断できるのである。

また本溝の掘削意図も特定できなかったのであるが、走行が21号溝に重なるとするならば、本溝は1号屋敷の古い段階の周溝として想定することができ、15世紀後半以前の可能性も考慮されるのである。

規模 長さ 4.6m 幅 48cm 深さ 13cm

構造 本溝は概ね走行を南北方向に取り、直線的なプランを呈する。

箱堀状だが、底面の横断面形は丸みを帯びる。

〔6区1号屋敷内所在の溝〕

(3) 6-1-1・33号溝 (第50・51図)

概要 本溝は屋敷遺構西部に位置する。外堀と内堀の間に掘削され、概ね南北に走行を取っているが、南端が外堀を渡っているので6-1-1号屋敷に伴わない可能性が高いように思われる。

本溝からは土師器・須恵器片が若干出土したが、時期特定には至らず、覆土から概ね中近世の所産と把握できるに過ぎなかった。

また掘削意図も特定できなかった。

規模 長さ 6.4m 幅 80cm 深さ 42cm

構造 本溝は北北西—南南東に走行を取り、南部では南東に走行を変ずる逆く字状のプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

〔6区1号屋敷内所在遺構〕

(4) 6-1-1号屋敷内所在土坑群

(第55～57図、図版14・15)

概要 6-1-1号屋敷では内郭部分で6-1-114～141・142a・142b・143～149号土坑の36基の土坑を調査した。このうち重複関係にある土坑を見てみると118・132・135・145・147号土坑がそれぞれ119・131・134・146・148号土坑を切っており、明瞭ではないが120号土坑も121号土坑を切るものと推定される。また122・123・124号土坑、128・127・126号土坑ではそれぞれ後者の方が新しく、126号土坑は更に125号土坑も切っている。この他5基の土坑が重複する140・141・142a・143・144号土坑では141号土坑と140・142a・143号土坑との新旧関係は特定できなかったが、142a号土坑を141・143号土坑が、143号土坑を144号土坑が切っているのを写真判定によって確認した。

これらの土坑のうち、114・115・116・125・126・149号土坑からは少量の土師器或いは須恵器片が出土したが時期特定には至らなかった。一方覆土からは148号土坑はAs-A降下後早い段階と推定されたのであるが、その他5基が黒褐色の洪水層土、2基が黒褐色土で被覆されている。その他6区1面に標識となる中近世の洪水層のうち132号土坑が上位のもので被覆されている以外の28基、即ち全体の76%が下位のもので被覆されていたのであるが、こうした下位洪水層被覆の土坑は1号屋敷の所見から15世紀後半以降の中世の所産であると判断される。

尚、これらの土坑の掘削意図を特定することはできなかった。

規模 (114号土坑) 径：110×96cm 深さ：23cm

(115号土坑) 径：195×150cm 深さ：34cm

(116号土坑) 径：88×61cm 深さ：22cm

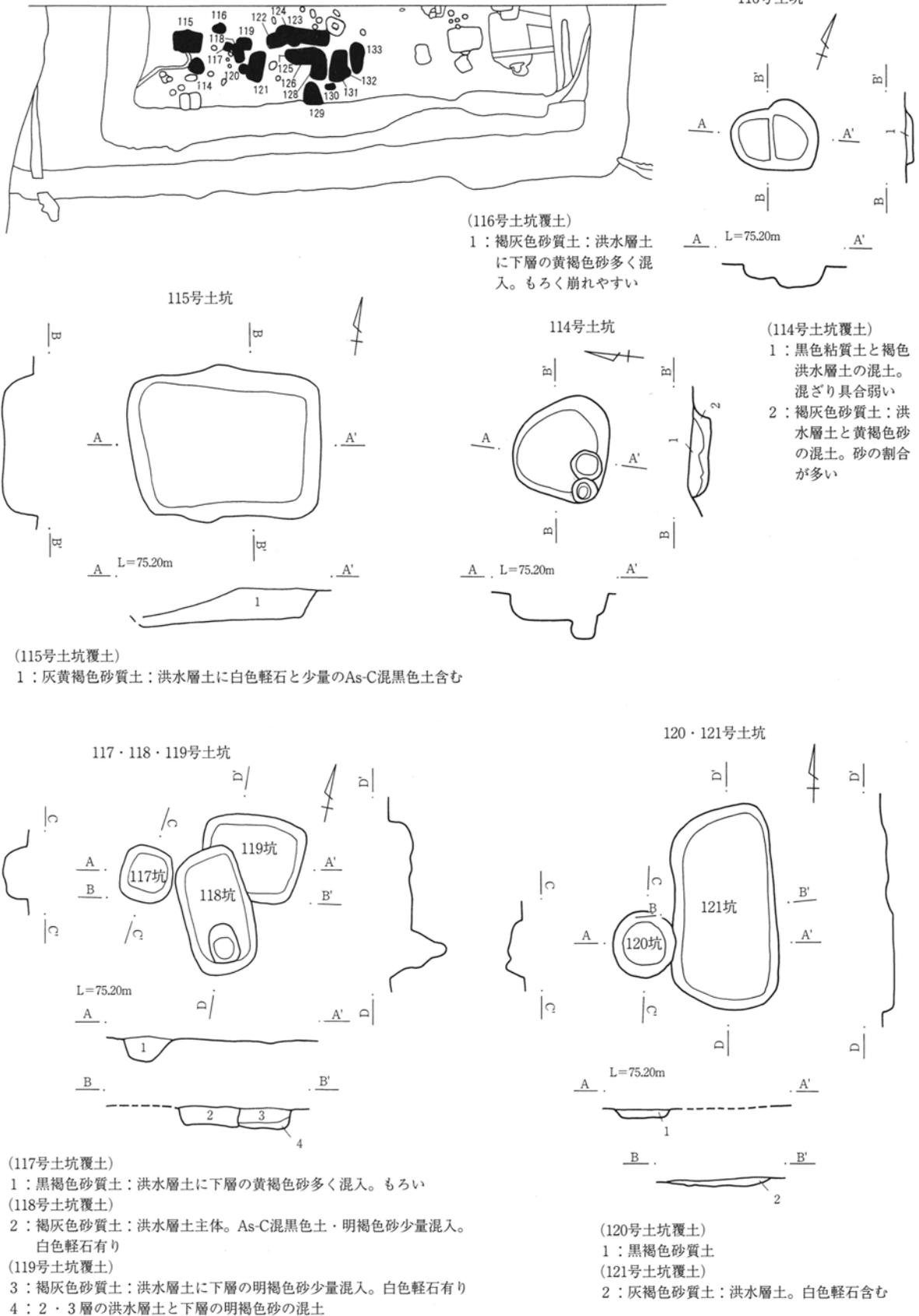
(117号土坑) 径：56×53cm 深さ：20cm

(118号土坑) 径：128×70cm 深さ：17cm

(119号土坑) 径：108×88cm 深さ：18cm

(120号土坑) 径：67×62cm 深さ：13cm

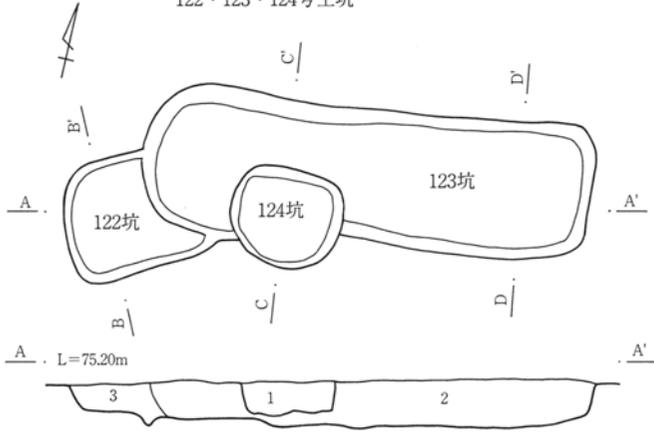
(121号土坑) 径：210×103cm 深さ：11cm



第55図 6-1-1号屋敷内の土坑群 (その1)

第2章 発見された遺構と遺物

122・123・124号土坑



(124号土坑覆土)

1：黒褐色砂質土：洪水層土主体。As-C混黒色土混入

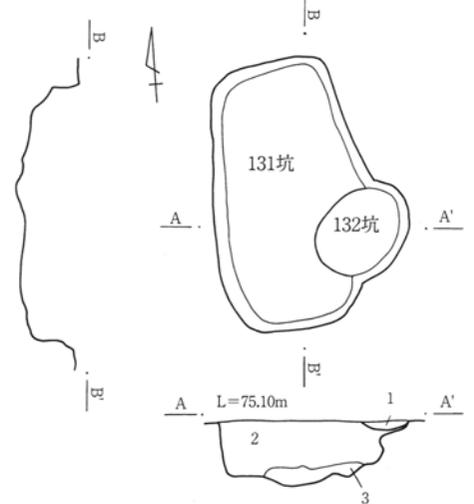
(123号土坑覆土)

2：1層に同じだが、1層に比しAs-C混黒色土の径が小さく多く混入

(122号土坑覆土)

3：灰褐色砂質土：洪水層土主体。少量のAs-C混黒色土等混入

131・132号土坑



(132号土坑覆土)

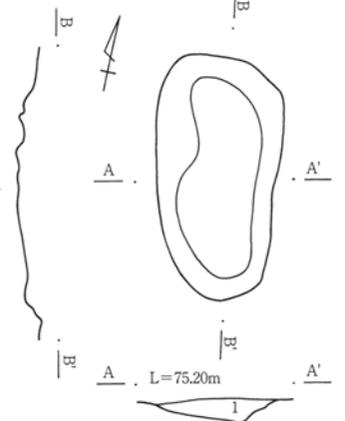
1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土

(131号土坑覆土)

2：褐灰色砂質土：洪水層土主体。As-C混黒色土多量に混入

3：2層に同じ。2層に比し黒色土多し

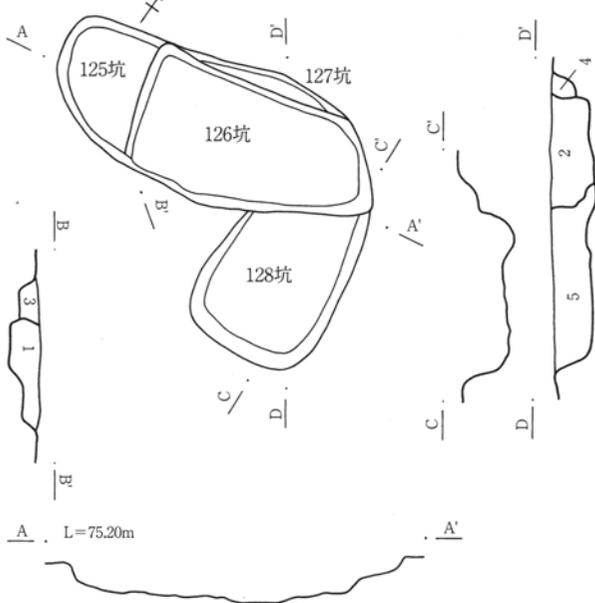
133号土坑



(133号土坑覆土)

1：褐灰色砂質土：洪水層土主体

125・126・127・128号土坑



(126号土坑覆土)

1：褐灰色砂質土：As-C混黒色土と少量の白色軽石混入

2：3層に同じだが3層に比し黄褐色砂少量。白色軽石有り

(125号土坑覆土)

3：褐灰色砂質土：黄褐色砂混入

(127号土坑覆土)

4：灰黄褐色砂質土：黄褐色砂入

(128号土坑覆土)

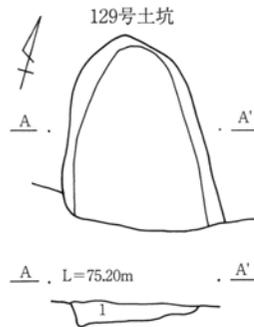
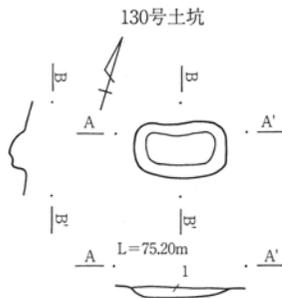
5：3層にAs-C混黒色土少量入

(129号土坑覆土)

1：黒褐色砂質土：洪水層土。白色軽石混入

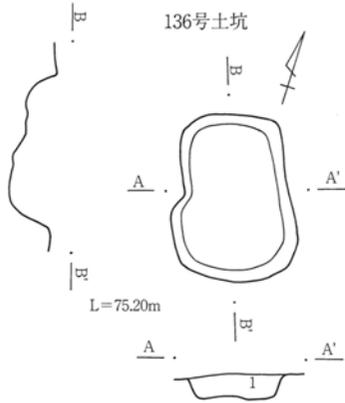
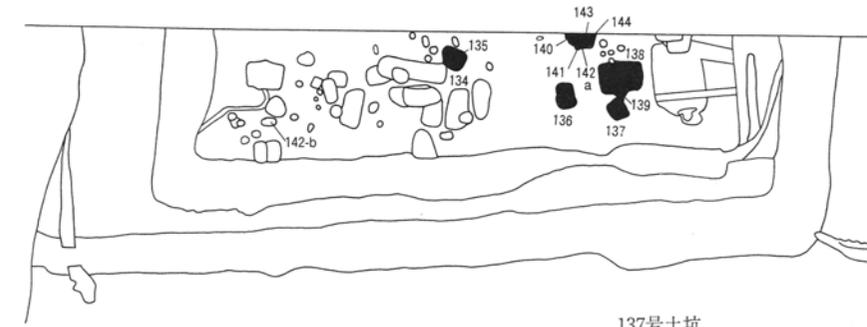
(130号土坑覆土)

1：褐灰色砂質土：洪水層土主体。白色軽石微量に含む

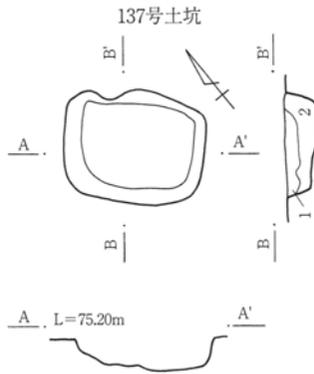


第56図の1 6-1-1号屋敷内の土坑群(その2)

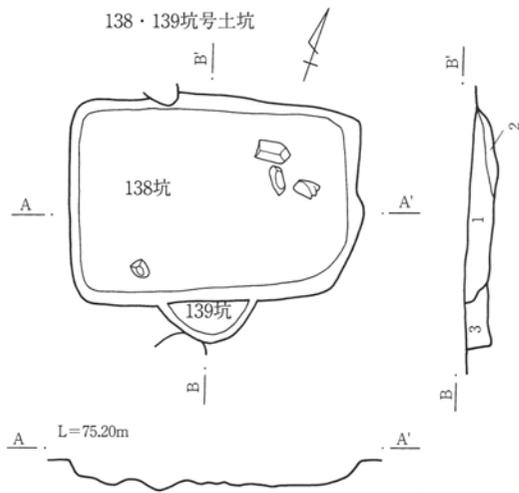
第2節 6区の遺構と遺物



(136号土坑覆土)
1: 黒褐色砂質土: 洪水層土。白色軽石混入

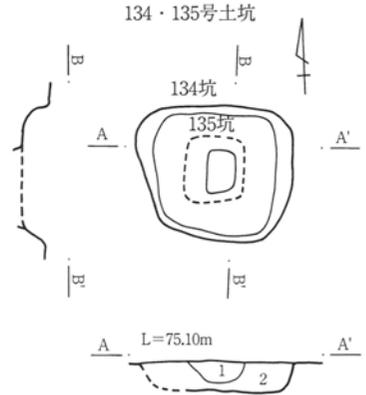


(137号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土と地山褐色土の混土軽石有。
2: 1層に似るが褐色土の割合高い。層下に地山As-C混黒色土少量混入

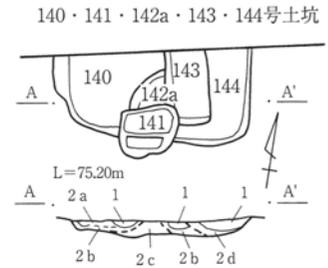


(138号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 白色軽石少量混入。鉄分沈着。3層に比し硬い
2: 1層にAs-C混黒色土少量
(139号土坑覆土)
3: 褐灰色砂質土: 洪水層土主体に白色軽石と微量のAs-C混黒色土混入

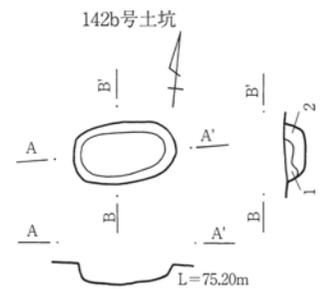
(142b号土坑覆土)
1: 褐灰色砂質土: 洪水層土にAs-B下耕土混入
2: 黒褐色砂質土: As-B下耕土。下に黄褐色砂少量混入



(135号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土。軽石含む
(134号土坑覆土)
2: 褐灰色砂質土: 洪水層土主体。As-C混黒色土多量に混入



(140・142a・143・144号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土に白色軽石微量入
2: 1層土と地山As-C混黒色の混土 (2層内は整理時に分層)
2a: 1層土やや多い 2b: 黒色土やや多い
2c: 1層土黒色土半々 2d: 1層土多い

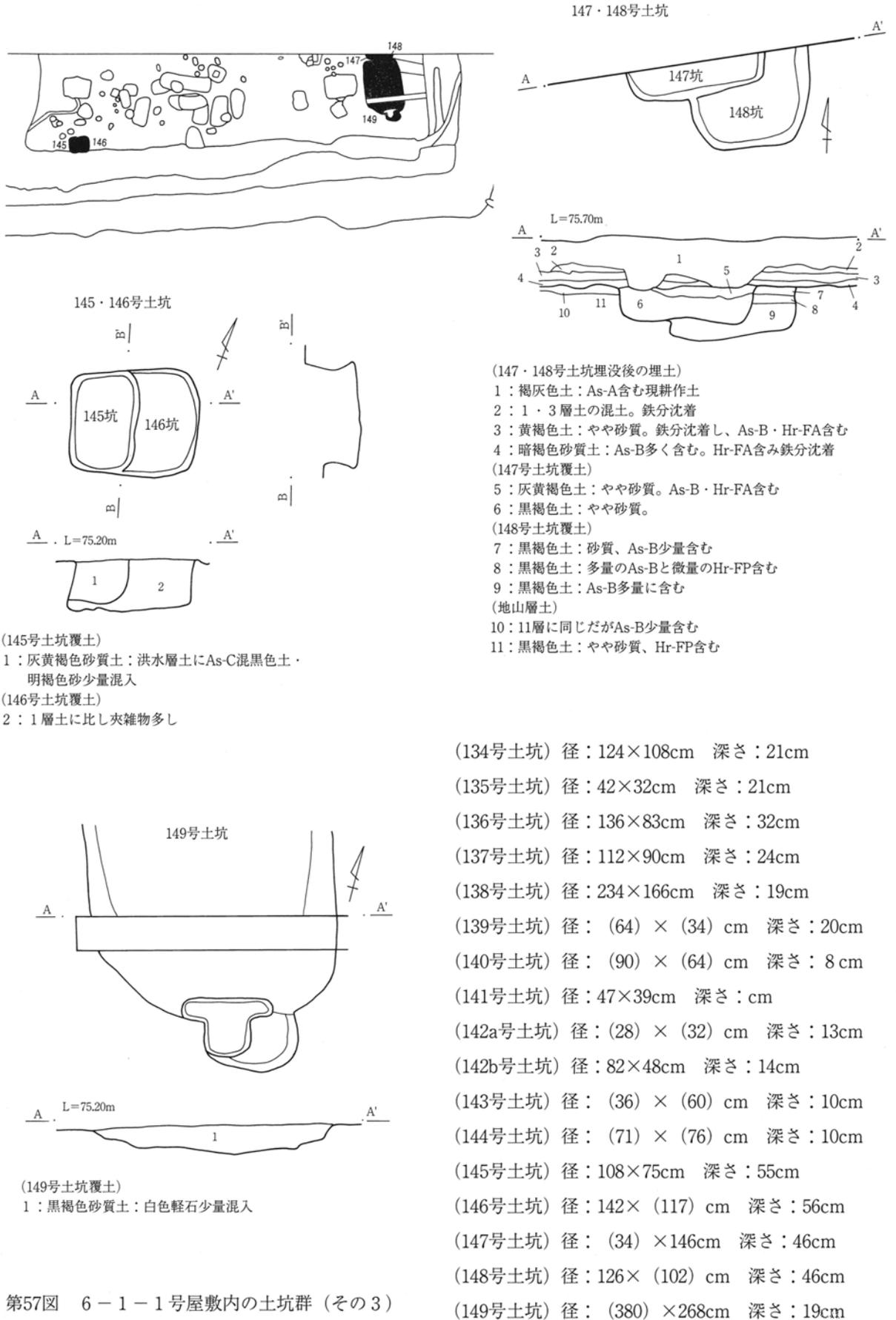


第56図の2 6-1-1号屋敷内の土坑群 (その2)

- (122号土坑) 径: 120×100cm 深さ: 32cm
- (123号土坑) 径: 356×100cm 深さ: 34cm
- (124号土坑) 径: 88×78cm 深さ: 34cm
- (125号土坑) 径: (72)×88cm 深さ: 24cm
- (126号土坑) 径: 196×104cm 深さ: 32cm
- (127号土坑) 径: (112)×(16)cm 深さ: 19cm

- (128号土坑) 径: 140×108cm 深さ: 44cm
- (129号土坑) 径: (152)×114cm 深さ: 21cm
- (130号土坑) 径: 74×44cm 深さ: 11cm
- (131号土坑) 径: 214×106cm 深さ: 51cm
- (132号土坑) 径: 76×(72)cm 深さ: 12cm
- (133号土坑) 径: 194×92cm 深さ: 17cm

第2章 発見された遺構と遺物



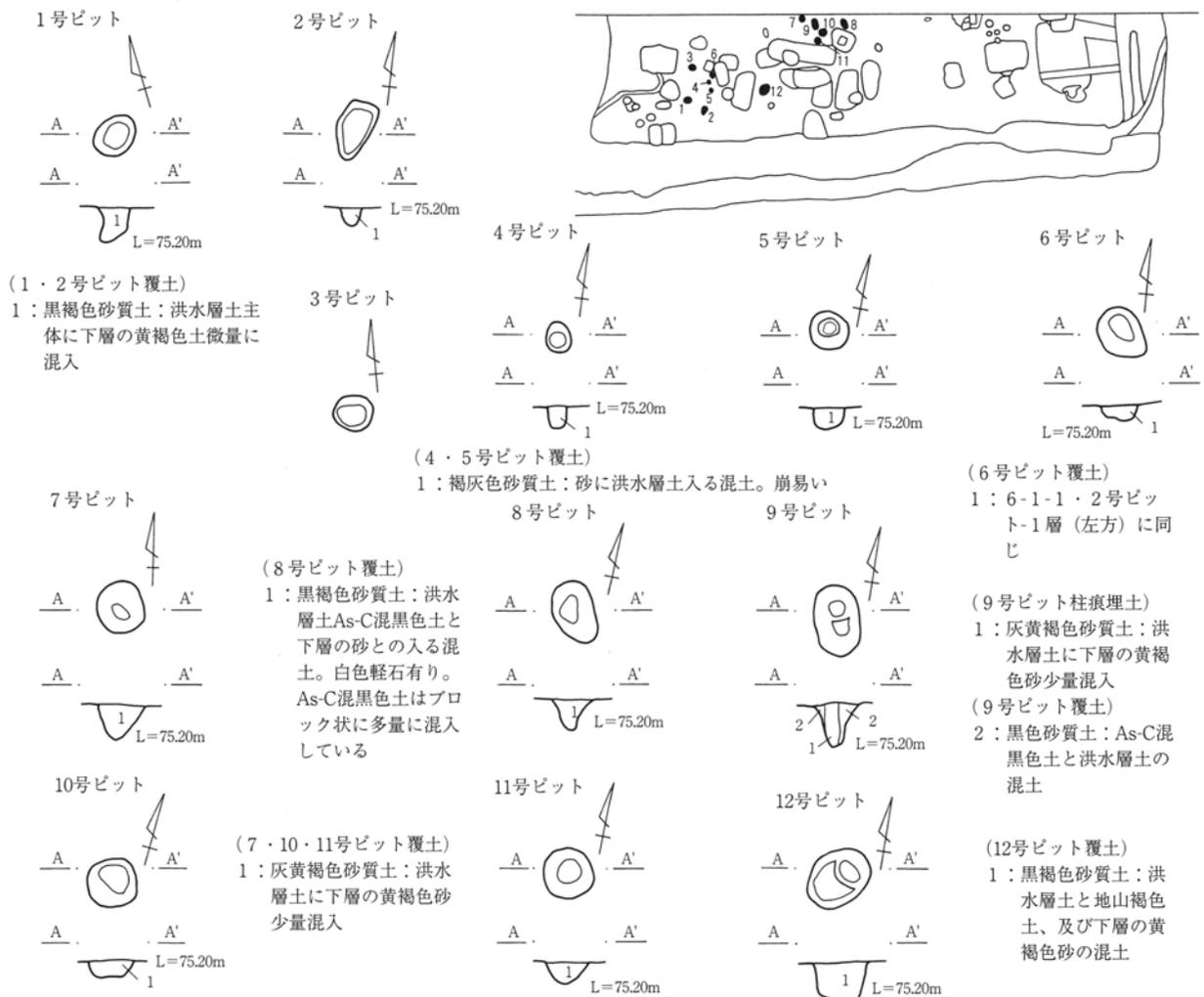
第57図 6-1-1号屋敷内の土坑群 (その3)

構造 1号屋敷内所在土坑で円形プランを呈するものは120号土坑、楕円形プランのものは116・132・133・142b土坑の4基、方形と円形プランの中間形態が114・124号土坑、方形のものが117、134号土坑であり、寸の短い長方形プランのものが115・119・130・135・136・137・138・141号土坑の8基、寸の長い長方形プランのものは118・121・123・126・128・131・145号土坑の7基であったが、寸の長い長方形プランのものうち123号土坑は短冊形を呈するものであった。また切り合い等でプランは明瞭ではなかったが、127・129・139・142a号土坑は楕円形、122・125・140・143・144・146・147~149号土坑は長方形で、143・144号土坑は寸の長いものであったものと推定される。このように全体的に1号屋敷内所在土坑は長方形プランのものが多かった。

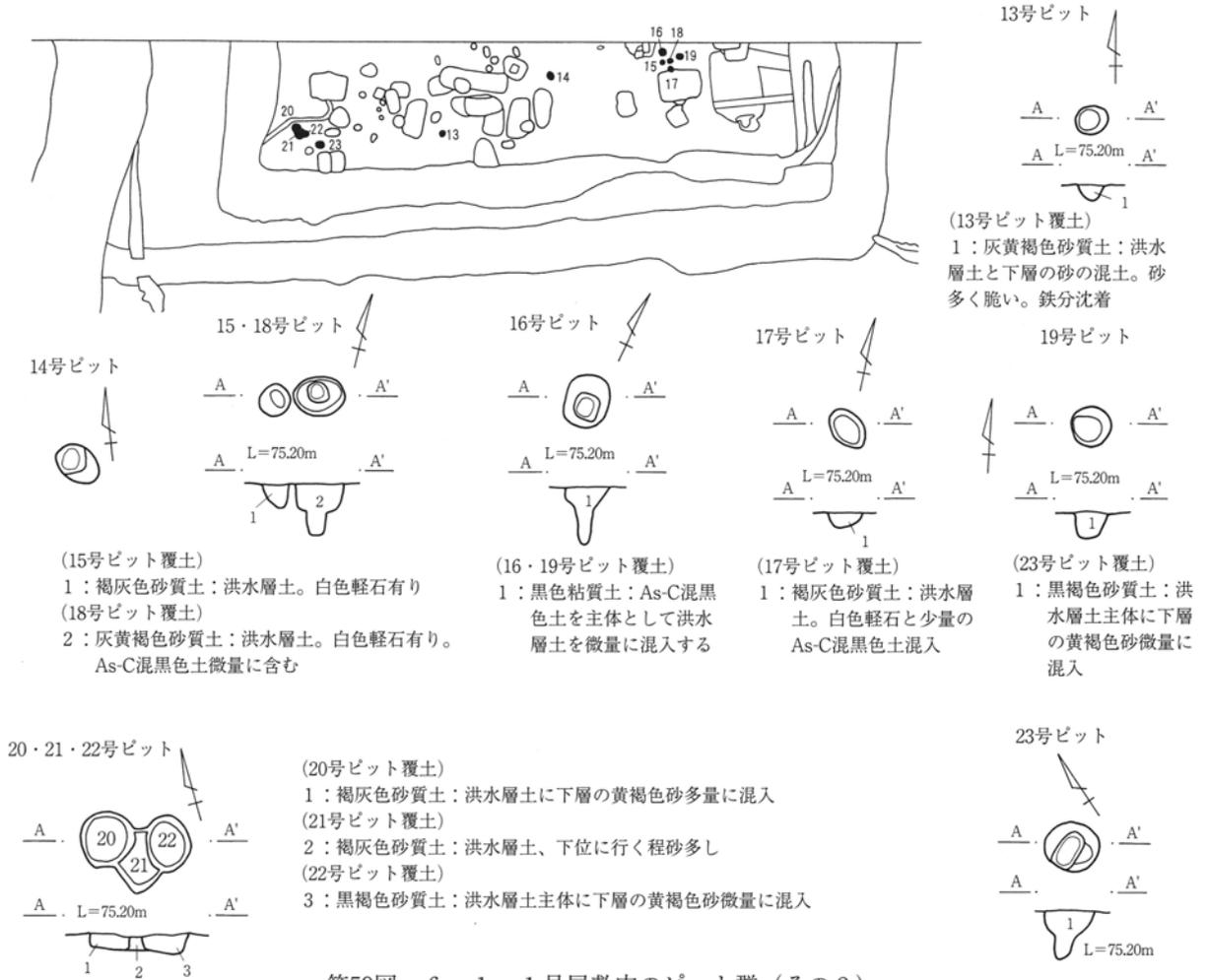
一方、その規模については長軸と短軸の合計が1m未満のものを小型、2m未満のものを中型、それ以上のものを大型とすると、小型ものには125・132・135・141・146・148号土坑の6基、中型のものでは116~120・124・130・142b・145・147号土坑の10基、大型のものでは114・115・121・123・126・128・131・133・134・136~138号土坑の12基があったが、特に115・121・123・126・131・138号土坑は長短軸の計が4m近い大きなものであった。

また底面形態は117・125・126・132・142a・142b・149号土坑が丸底形、133号土坑が船底形を呈する以外は平底か平底に近い形態を呈していた。

本土坑群の各土坑の形態には箱型のものが多かったが、121・130・133号土坑の壁面は開き気味であった。



第58図 6-1-1号屋敷内のピット群(その1)



第59図 6-1-1号屋敷内のピット群 (その2)

(5) 6-1-1号屋敷内所在ピット群

(第58～59図、図版16)

概要 6-1-1号屋敷では内郭部分で6-1-1～23号ピットの23基のピットを確認、調査している。これらのピットについては20～22号ピットが重複して20・22号ピットが21号ピット切るのを確認した以外に重複するものは認められなかった。

ピットの分布は東部北寄り、中部北寄り、西部中央と西部南西部の4ヶ所にやや集中する傾向は見られるものの、その分布にはっきりした規則性等を見出すことはできなかった。

また、これらのピットからの遺物の出土は認められず時期特定は至らなかった。但しピットの多くは中近世の洪水層のうち下位の洪水層土で被覆されていることから、土坑で判断したのと同様に屋敷に関

連した15世紀後半以降の中世の所産として概ね把握されるのではないかと考えている。

ピットの掘削意図については9号ピットに柱痕が見られ、16・18・22号ピットの下位も柱痕として認識されることから、9・16・18・22号ピットは柱穴と判断されるのであるが、その規模・形態から推してから他のピットも柱穴として使用されたものが多いものと想定される。また1号屋敷の内堀である21号溝に沿って配列する22・1・13号ピットなど、(小土坑を併せた)一部のピットの配置については柱列として認めうるものもあったのであるが、調査範囲が限定されていることもあって明確に建物等を設定することはできなかった。尚、上述の22・1・13号ピットからなる柱穴列は位置的に柵であった可能性も考えられる。

- 規模 (1号ピット) 径：39×30cm 深さ：13cm
 (2号ピット) 径：48×30cm 深さ：22cm
 (3号ピット) 径：32×30cm 深さ：24cm
 (4号ピット) 径：24×22cm 深さ：10cm
 (5号ピット) 径：32×32cm 深さ：42cm
 (6号ピット) 径：44×36cm 深さ：15cm
 (7号ピット) 径：40×40cm 深さ：32cm
 (8号ピット) 径：52×34cm 深さ：26cm
 (9号ピット) 径：58×36cm 深さ：35cm
 (10号ピット) 径：42×40cm 深さ：7cm
 (11号ピット) 径：42×40cm 深さ：19cm
 (12号ピット) 径：55×42cm 深さ：34cm
 (13号ピット) 径：26×22cm 深さ：14cm
 (14号ピット) 径：36×28cm 深さ：18cm
 (15号ピット) 径：26×24cm 深さ：22cm
 (16号ピット) 径：44×36cm 深さ：48cm
 (17号ピット) 径：30×28cm 深さ：12cm
 (18号ピット) 径：32×30cm 深さ：42cm
 (19号ピット) 径：32×32cm 深さ：23cm
 (20号ピット) 径：46×44cm 深さ：15cm
 (21号ピット) 径：(42) × (30) cm 深さ：12cm
 (22号ピット) 径：44×36cm 深さ：13cm
 (23号ピット) 径：44×40cm 深さ：20cm

構造 ピットの規模は、径が23～48.5cmを測り平均36.14cm(標準偏差10.6)、深さは7～48cmで平均は22.5cm(標準偏差11.3)と比較的均質なものであった。また全体として中世の柱穴として認識されるものであった。

そのプランは方形、円形、楕円形等様々であったが、円形・方形プランに大別すると方形プランに属するものは1・2・6・7・8・10・14・16・21・23号ピットの10基、他は円形プランに属するものは13基であった。

掘削底面は6・10・12・20・22号ピットが平底状を呈する以外は丸底状の形状であった。

尚、柱痕の確認された8号ピット及び柱痕と認識される掘削形態を残す16・18・22号ピットから柱の太さは4～5寸であったものと想定される。

(6) 6-1-焼土遺構(第60図)

概要 本遺構は6-1-1号屋敷の内郭南東隅地各位に位置する。前述の6-1-149号土坑と重複するが、その新旧関係は特定できなかった。

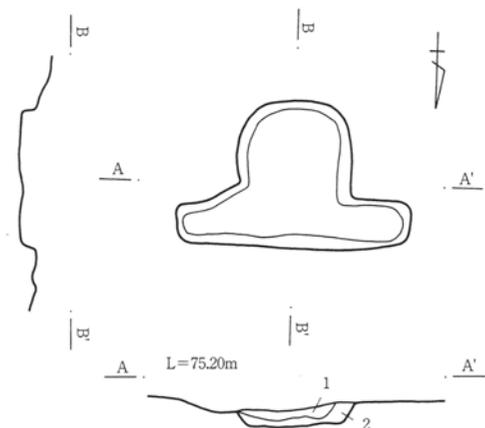
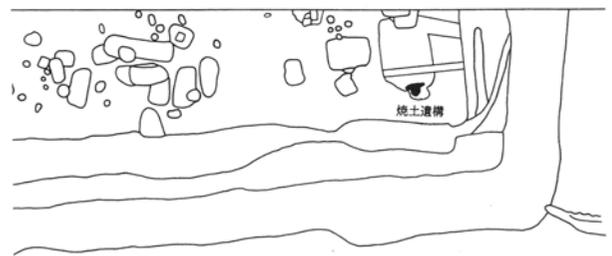
本土坑からの出土遺物は認められず、時期の特定もできなかったが、本土坑は1号屋敷の遺構確認面直上の堆積層土に依拠しており、1号屋敷に伴うものである可能性が高い。

本遺構の形態的は火葬土坑のそれではないが、覆土中に焼土・炭化物・焼骨が残されることから、火葬に用いられたものと判断される。尚、焼骨がヒトのものであるか否かは現時点では特定されていない。

規模 径：98×64cm 深さ：9cm

構造 本遺構はT字形のプランを呈するが、縦棒の位置は太くなっている。

掘削底面は平らで、壁の立ち上がりははっきりしている。



(焼土遺構覆土)

- 1：暗褐色土：焼土、灰、炭化物を多量に含む。骨片を含む
- 2：暗褐色土：極僅かに焼土・炭化物を含む

第60図 6-1-焼土遺構

6-4 6-1-2号屋敷の遺構と遺物

概要 6-1-2号屋敷は6区1面中部南寄りに位置する屋敷遺構である。本屋敷は堀に囲われた屋敷ではないため調査時点では館或いは屋敷としては扱われていなかったものであるが、しっかりした掘削の溝で囲われており、高知県南国市の田村屋敷群の屋敷遺構の例に鑑みて整理段階で屋敷遺構として認定したものである。

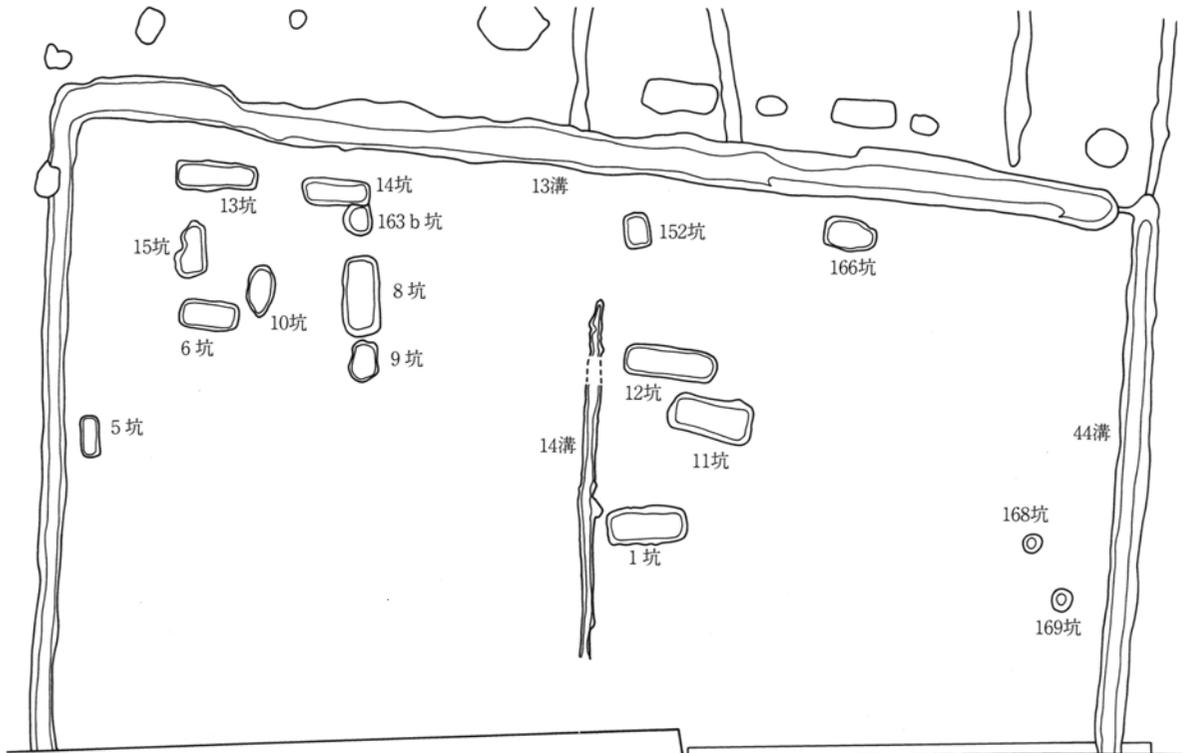
本溝は位置的に北側の6-1-1号屋敷とは24m程しか隔たっていない近距離に位置しているのであるが、本屋敷の東堀に当る6-1-14号溝が6-1-31・32号溝を介して1号屋敷の外堀である6-1-20号溝と有機的に接続して一体の構造となっている。しかし溝の走行は1号屋敷に対し本屋敷の方が8°東に傾いていることから建築時期の違いのあることが窺われるのであるが、その時期ははっきりしない。尚、埋没時期は本屋敷の方が新しい。

2号屋敷はその半ばが南側の調査区外に出ているため全容は明らかではない。周堀は上述のように堀

というよりは溝と呼ぶような規模のものであった。屋敷の規模は、調査範囲での測定から東西37mを測ったのであるが、南北もほぼ同様の規模を呈するものと想定し、単郭方形プランの小型の屋敷遺構であったものと判断している。

屋敷の遺構は堀・溝、土坑で構成されるが、屋敷を囲む溝の他、郭中央には郭を東西に分かつ溝が掘削されている。土坑は中央と西北部にまとまが見られた。

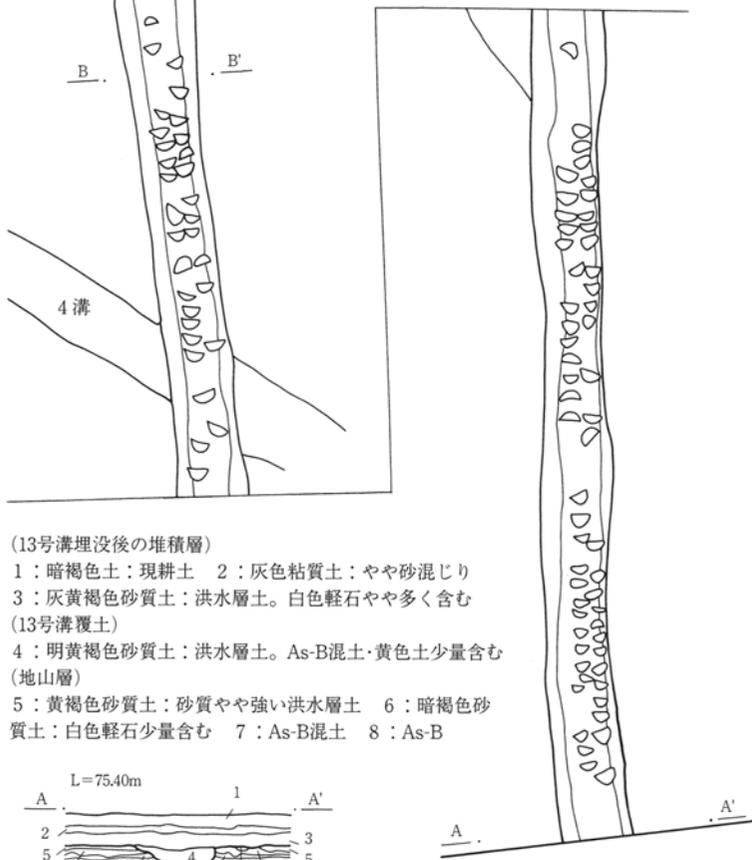
本屋敷からの出土遺物は古代のものに限られ、その時期を明瞭にすることはできなかったのであるが、上述のように31・32号溝と併せて1号屋敷と一体となるよう接続されている状況から15世紀後半以降の所産ではないかと判断している。尚、周堀の覆土は6区1面に認識される中近世の洪水層のうち上位のもので埋没していることから、下位のもので埋没している1号屋敷よりは後世まで残っていた可能性が思慮されるのである。



第61図 6-1-2号屋敷全体図



B L=75.10m B'



(13号溝埋没後の堆積層)

- 1：暗褐色土：現耕土 2：灰色粘質土：やや砂混じり
- 3：灰黄褐色砂質土：洪水層土。白色軽石や多く含む
- (13号溝覆土)
- 4：明黄褐色砂質土：洪水層土。As-B混土・黄色土少量含む
- (地山層)
- 5：黄褐色砂質土：砂質やや強い洪水層土 6：暗褐色砂質土：白色軽石少量含む 7：As-B混土 8：As-B

L=75.40m

第62図の1 6-1-2号屋敷内の溝群 (その2)

〔6区2号屋敷周溝〕

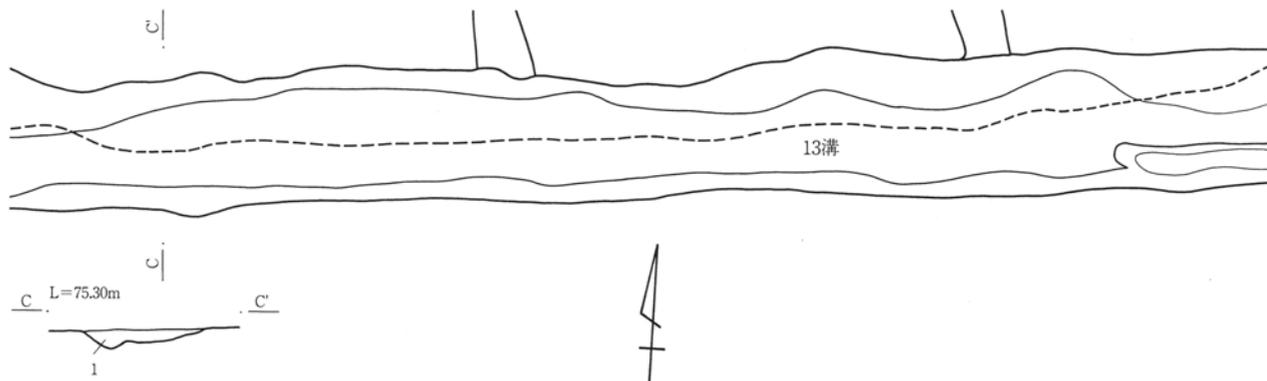
(1) 6-1-13号溝 (第62図、図版12)

概要 本溝は6-1-2号屋敷の西・北側を画する溝遺構である。東端部で6-1-44号溝と同溝の北端部から西に延びる細い溝部分に接続している。本溝とこの44号溝は埋没土も同じで同時期の所産と判断されるものである。

また本溝は6-1-4・19・22・25・26・27・30号溝と重複するが、新旧関係を特定することはできなかったが、6-1-150号土坑に対しては本溝の方が古いことを確認している。

本溝からは土師器の甕や坏の破片を中心に土師器碗や須恵器碗・甕片の出土が見られたものの時期特定には至らなかった。尚、東端部の覆土の状態から最終的に本溝は、6区1面に見られる中近世の洪水層のうち上位のもので埋没したことが確認されている。

第2章 発見された遺構と遺物



(13号溝覆土)

1: 黒褐色砂質土: 白色軽石含む

また、本溝の西部南北走行部分全域で二列の鋤先痕が並んでいるのが確認されている。この鋤先痕から掘削は南向きで行われていること、従って南から北に掘り進めていったこと。底部の幅は鋤2刺分の幅を以て決めていたことが分かる。

規模 長さ: 57.6m 幅: 160cm

深さ: 64cm

構造 本溝は北西に隅部を持つ鉤状のプランを呈する。屈曲部以外は直線的なプランを有している。また東端部は前述のように44号溝手前で途絶えている。

溝の形態は箱堀状を呈しているが、底面の横断面形は丸く、壁面はやや開き気味である。

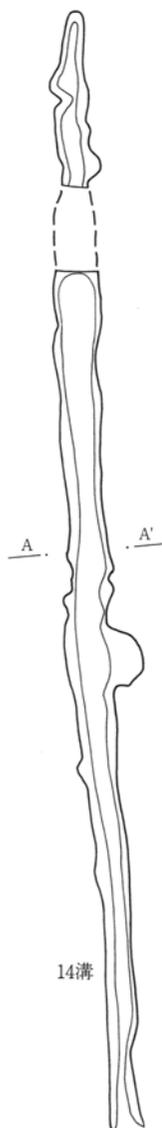
(2) 6-1-44号溝 (第62図、図版12)

概要 本溝は6-1-2号屋敷の東辺を画する溝遺構である。北端部で北から来る6-1-31号溝と縦列に接続し、また西壁が西に張り出して小溝を作り、上述の6-1-13号溝の中心軸上でこれと接続している。尚、13・31号溝と本溝とは埋土の比較等から同時期の遺構として把握している。

本溝からは土師器の坏・甕片を中心に須恵器の甕や碗の破片を含む比較的多く遺物の出土が見られたが、これらの遺物から本溝の時期特定には至らなかった。



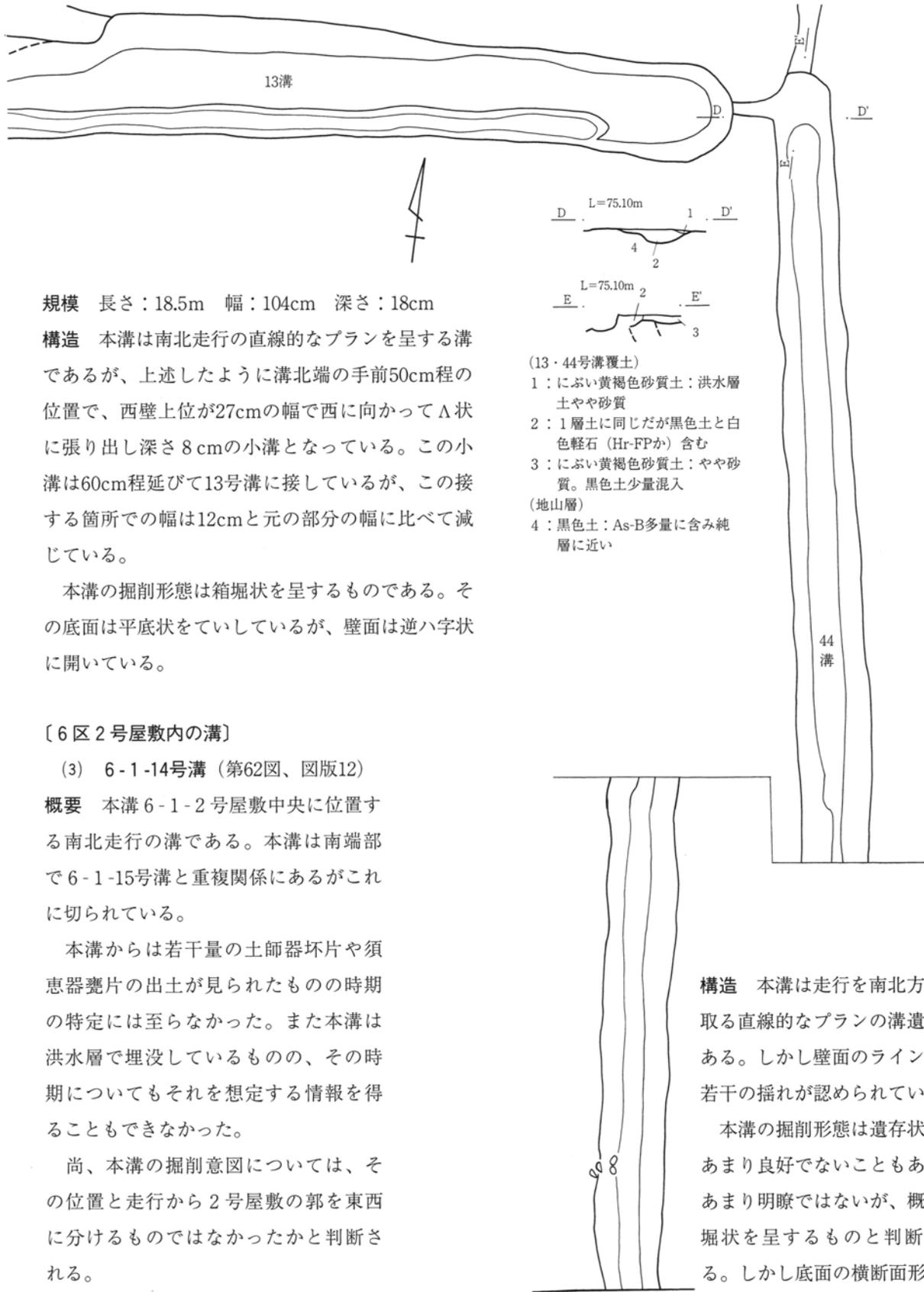
L=75.20m
A A'



14号溝

しかし覆土の観察から本溝は中近世の洪水層のうち上位の洪水層土で埋没しているのを確認している。その上限は明らかではないものの、その走行の違いから6-1-1号屋敷の建設とは異なった時期に掘削され、31号溝とは近い時期の掘削であろうと判断され、恐らくは本溝を含む2号屋敷や31・32号溝に区切られる1・2号屋敷の中間区域の方が新しいだろうと想定される。

第62図の2 6-1-2号屋敷内の溝群 (その2)



規模 長さ：18.5m 幅：104cm 深さ：18cm
構造 本溝は南北走行の直線的なプランを呈する溝であるが、上述したように溝北端の手前50cm程の位置で、西壁上位が27cmの幅で西に向かって△状に張り出し深さ8cmの小溝となっている。この小溝は60cm程延びて13号溝に接しているが、この接する箇所での幅は12cmと元の部分の幅に比べて減じている。
 本溝の掘削形態は箱堀状を呈するものである。その底面は平底状をていしているが、壁面は逆八字状に開いている。

- (13・44号溝覆土)
 1：にぶい黄褐色砂質土：洪水層土や砂質
 2：1層土に同じだが黒色土と白色軽石（Hr-FPか）含む
 3：にぶい黄褐色砂質土：やや砂質。黒色土少量混入（地山層）
 4：黒色土：As-B多量に含み純層に近い

〔6区2号屋敷内の溝〕

(3) 6-1-14号溝（第62図、図版12）

概要 本溝6-1-2号屋敷中央に位置する南北走行の溝である。本溝は南端部で6-1-15号溝と重複関係にあるがこれに切られている。

本溝からは若干量の土師器坏片や須恵器甕片の出土が見られたものの時期の特定には至らなかった。また本溝は洪水層で埋没しているものの、その時期についてもそれを想定する情報を得ることもできなかった。

尚、本溝の掘削意図については、その位置と走行から2号屋敷の郭を東西に分けるものではなかったかと判断される。

規模 長さ：18.5m 幅：104cm

深さ：18cm 第62図の3 6-1-2号屋敷内の溝群（その2）

構造 本溝は走行を南北方向に取る直線的なプランの溝遺構である。しかし壁面のラインには若干の揺れが認められている。

本溝の掘削形態は遺存状況があまり良好でないこともあってあまり明瞭ではないが、概ね箱堀状を呈するものと判断される。しかし底面の横断面形はやや丸みを持ち、壁面はやや開き気味である。

第2章 発見された遺構と遺物



[6区2号屋敷内所在遺構]

(4) 6-1-2号屋敷内所在土坑群

(第63・64図、図版10・58)

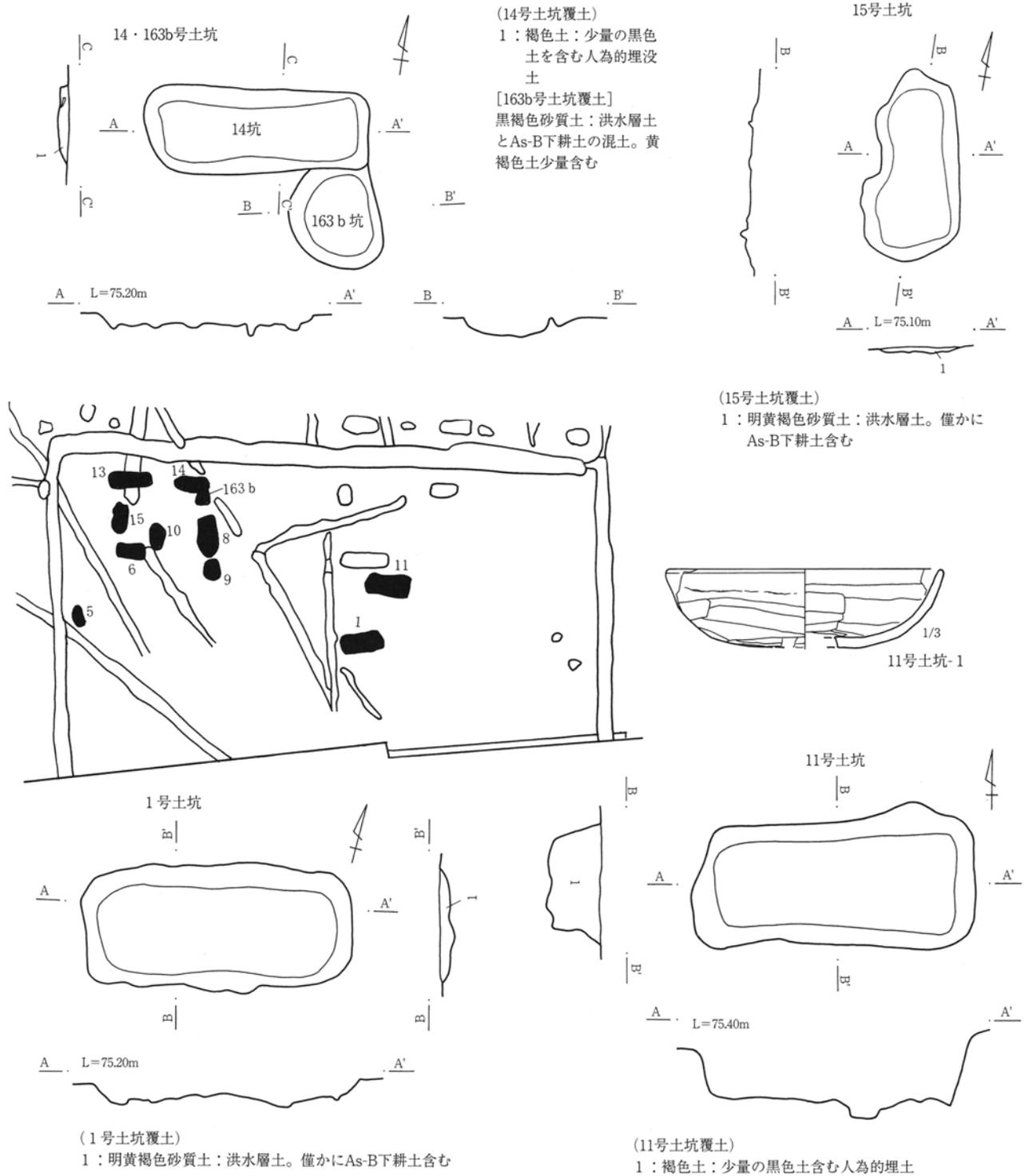
概要 6-1-2号屋敷では6-1-1-5・6・8～15・152・163・166-168・169号土坑の16基の土坑を調査した。その分布は北西隅部と東半部西寄りに集まる傾向があった。また14・163号土坑は重複するが新旧は特定できなかった。

1・11・162・165号土坑からは9世紀前半期の土師器坏片(1坑-1)を含む少量の土師・須恵器片が出土したが、時期の特定はできなかった。尚、152号土坑からは15・16世紀の瀬戸産の焼締陶器卸皿片(1)が出土し、152号土坑と1・5・6・10・13号土坑は6区1面で確認される中近世の洪水層のうち下位もので被覆しているの、15世紀以降の中世段階の所産として把握される。また、これ以外の土坑は時期も想定はできなかった。

尚、これらの掘削目的も特定できなかった。

第63図の1 6-1-2号屋敷内の土坑群(その1)

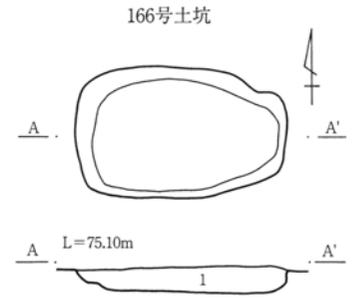
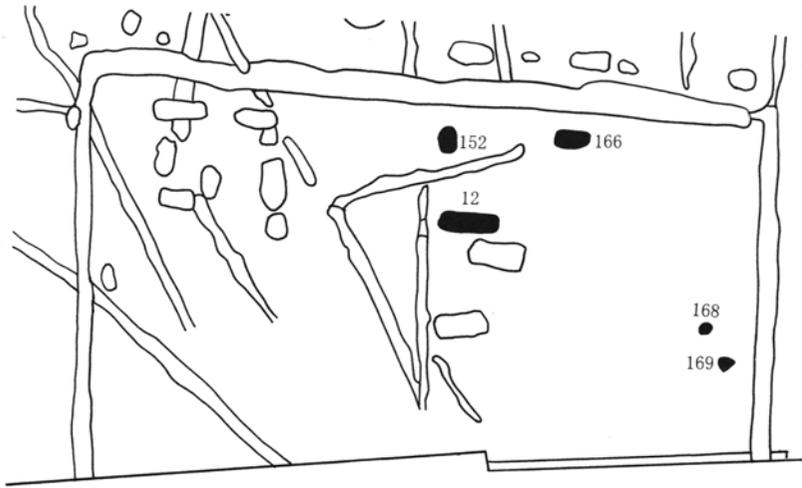
第2節 6区の遺構と遺物



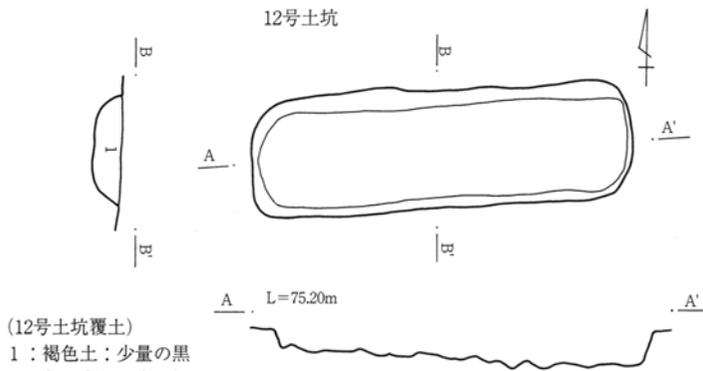
第63図の2 6-1-2号屋敷内の土坑群(その1)

規模 (1号土坑) 径: 266×166cm 深さ: 15cm	(9号土坑) 径: 134×82cm 深さ: 16cm
(5号土坑) 径: 136×60cm 深さ: 13cm	(10号土坑) 径: 168×86cm 深さ: 19cm
(6号土坑) 径: 197×97cm 深さ: 6cm	(11号土坑) 径: 284×122cm 深さ: 69cm
(8号土坑) 径: 258×120cm 深さ: 38cm	(12号土坑) 径: 308×94cm 深さ: 15cm

第2章 発見された遺構と遺物



(166号土坑覆土)
1: 灰黄褐色土・黒色土・明黄褐色土の混土

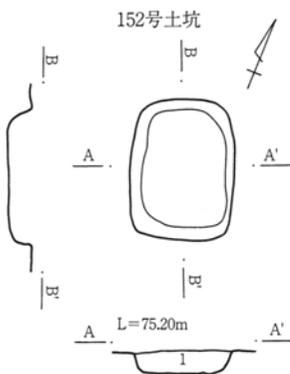


(12号土坑覆土)
1: 褐色土: 少量の黒色土含む人為的埋土

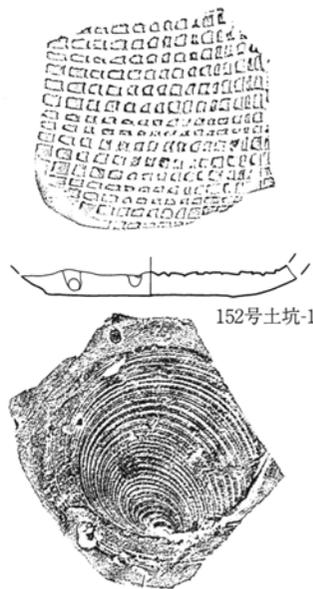
168号土坑



169号土坑



(152号土坑覆土)
1: 灰黄褐色砂質土: 洪水層土。白色軽石微量に含む



152号土坑-1

- (152号土坑) 径: 110×84cm 深さ: 12cm
- (163b号土坑) 径: (98)×8cm 深さ: 17cm
- (166号土坑) 径: 170×104cm 深さ: 13cm
- (168号土坑) 径: 60×60cm 深さ: 22cm
- (169号土坑) 径: 78×68cm 深さ: 20cm

構造 2号屋敷内の土坑のプランを見ると169号土坑が円形、10・163号土坑が楕円形、9・152号土坑が寸の短い長方形プランで、他の9基は寸の長い長方形プランであった。

その規模は長短軸の径の合計が1~2mのものが5・152・169号土坑の3基、2~3mのものが6・9・10・15号土坑の4基、他の6基が3m以上と6-1-1号屋敷に比べても比較的大型のもの多かった。

また掘削形態は箱型を呈するものが多く、1・8・12・13・14土坑の底面に凹凸が多く見られたものの、全体として平底形を呈していた。

第64図 6-1-2号屋敷内の土坑群 (その2)

- (13号土坑) 径: 264×98cm 深さ: 16cm
- (14号土坑) 径: 218×83cm 深さ: 7cm
- (15号土坑) 径: 188×76cm 深さ: 12cm

6-5 6区2面の遺構と遺物

〔竪穴住居〕

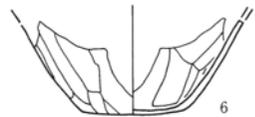
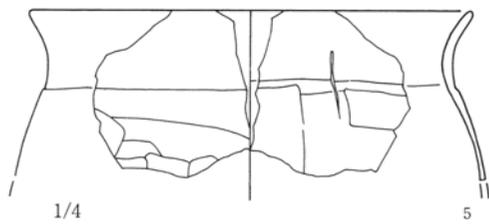
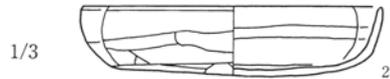
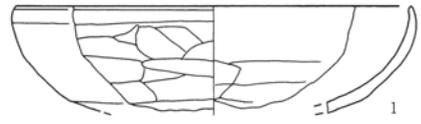
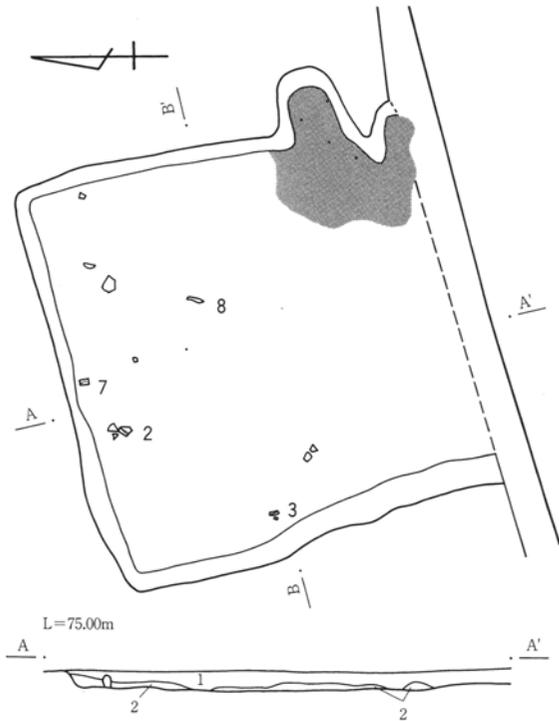
概要 6区2面に於ける竪穴住居は6区中南部東寄りに集中的に分布している。

遺構の遺存状態も余り良くなく、調査期間の関係で一部断面観察を省略する等荒い調査となったため、遺構データとしては充分なものを提示できない。

(1) 6-2-1号住居 (第65・66図、図版18・58)

概要 本住居は6区2面の竪穴住居集中域の中央南端部に位置し、6-2-17・63・70号住居、6-1-45・65・71号溝と重複するが、本住居は各溝と63号住居に対し新しく、遺構確認状況から推して恐らくは17・70号住居に対しても新しい。

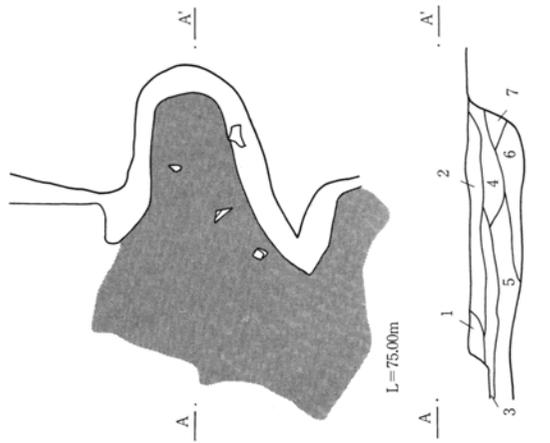
本住居からは8・9世紀段階の土師器坏片(1~3)、須恵器蓋片(4)、土師器甕片(5・6)等土師器・須恵器片の出土を見た他、砥石(7)と角釘(8)も出土している。このうち土師器坏1点(1)と甕は掘り方の出土である。このうち1/2の破片が残る土師器坏(2)が床面での出土であるので、本住居は9世紀前半の所産として把握される。



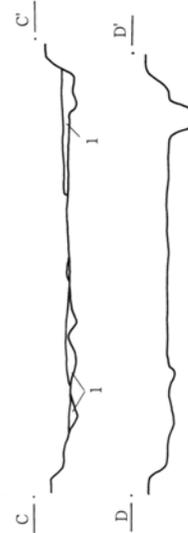
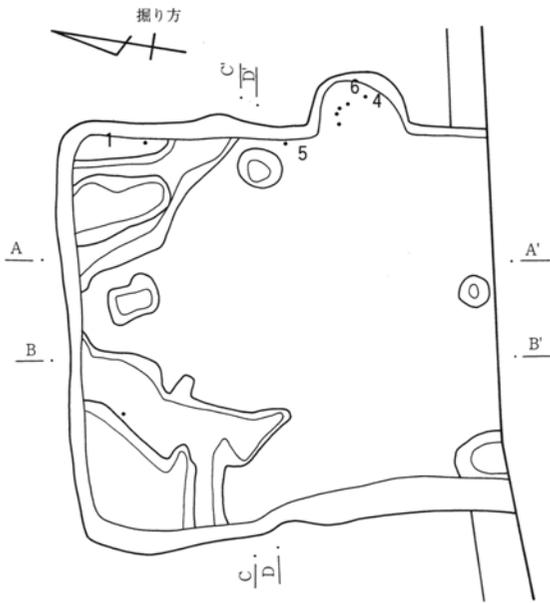
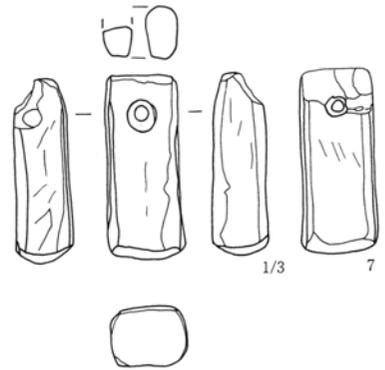
- (1号住居覆土)
 1: 黒褐色土: 褐灰色土と焼土粒含む
 2: 黒褐色土: 暗灰黄褐色土含む

第65図 6-2-1号住居と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物



- (1号住居竈覆土)
- 1: 暗褐色土: 少量の焼土粒含む
 - 2: 暗褐色土: 焼土と灰色土 (竈構築材が) 含む
 - 3: 灰・炭化物層: 焼土含む
 - 4: 暗褐色土: 多量の焼土含む
 - 5: 暗褐色土と灰褐色土の混土
 - 6: 暗褐色土: 多量の焼土と炭化物含む
 - 7: 暗褐色土

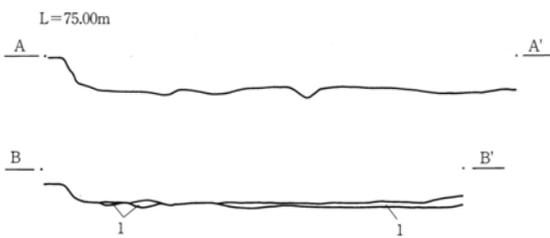


構造 本住居は浅い掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床面を作り出している。

竈は東壁に作られているが、その位置は中央からやや南寄りと想定される。

竈は焼面が壁面ラインを跨ぐ位置に設けられ、袖は袖材を持たず、天井は灰色土で造られた可能性を有している。

床面に於いては調査範囲の中で柱穴・貯蔵穴は確認されず、柱穴は掘り片面に於いても確認されなかったので柱を持たない構造の竪穴住居と判断される。



- (1号住居掘り方覆土)
- 1: 暗褐色土: 灰褐色土と少量の焼土粒含む

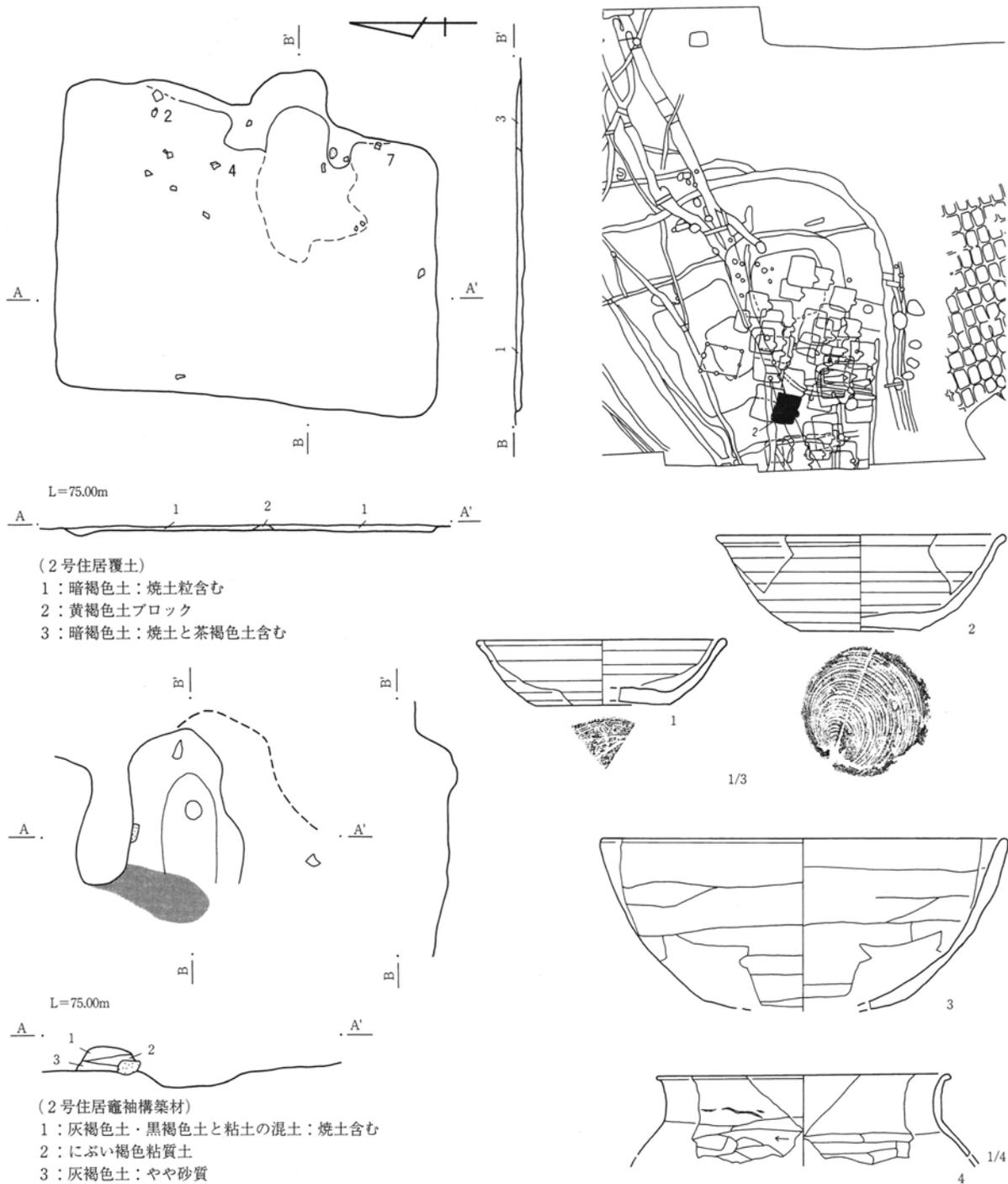
第66図 6-2-1号住居と出土遺物 (その2)

規模 径: 340×(330) cm 深さ: 13cm
 [竈] 幅: 90cm 奥行き: 87cm
 [右袖] 幅: 36cm 長さ: 45cm

(2) 6-2-2号住居(第67・68図、図版18・19・59)

概要 本住居は竪穴住居集中域の南寄りに位置する。6-2-6・12・21号住居と重複関係にあるが、遺構確認の順位等から本住居の方が新しいと判断される。

本住居からは7世紀後半以降の時期の多くの土



第67図 6-2-2号住居と出土遺物(その1)

師・須恵器片の出土を見たのであるが、このうち須恵器杯(1・2)は床面から、土師器碗(3)と甕〔4〕は竈内から、土師器杯(5・6)と須恵器杯(7)は掘り方からの出土している。土師器碗は流れ込みか竈構築材への転用等と思われるが、こうした遺物の出土状況及び観察所見から本住居は9世紀後半期の所産として把握される。尚、土師器碗(3)

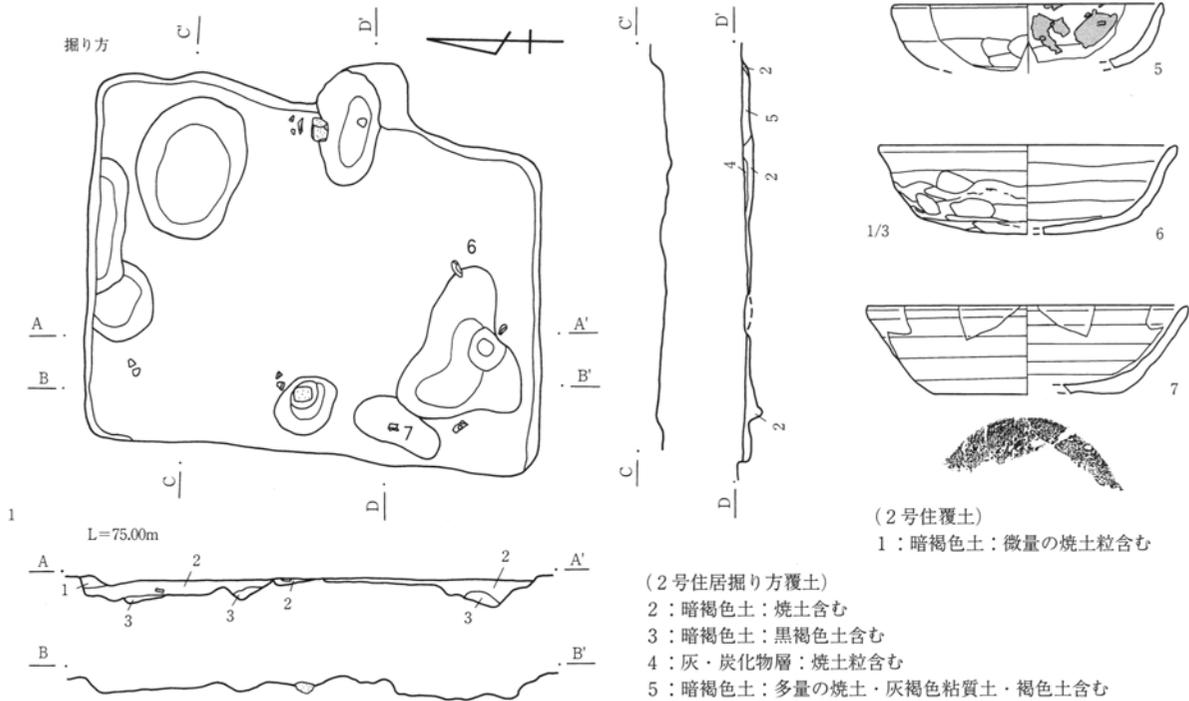
は流れ込み、土師器甕(4)は竈の甕の固定に用いられたものと思慮される。

規模 径: 344×333cm 深さ: 10cm

〔竈〕 幅: 94 奥行: 164cm

〔左袖〕 幅: 20cm 長さ: 20cm

〔右袖〕 幅: 34cm 長さ: 36cm



第68図 6-2-2号住居と出土遺物(その2)

構造 本住居は横長の台形様のプランを呈する。

掘り方を有し、これを褐色土等の土壌で埋め戻して床面を造り出している。

竈は東壁中央のやや南寄りに設置されている。壁面ラインを跨ぐ位置に楕円形の浅い掘り方を掘削し、これを埋め戻してやや内寄りを燃焼部としている。袖は粘土や褐灰色土、にぶい褐色粘質土を用いて造られている。燃焼部には支脚の設置痕も見られる。

床面には柱穴・貯蔵穴は認められず、これらは掘り方面に於いても確認できなかった。

(3) 6-2-3号住居(第69・70図、図版19・59・60)

概要 本住居は竪穴住居集中域の南西部に位置し、6-2-4・6・10・41号住居と重複する。何れの住居に対してもその新旧は特定できなかったが4・6・10号住居とは概ね同時期の所産と思慮され、4号住居よりは若干新しい可能性を有する。

本住居からは多くの土師器片や若干の須恵器片等の出土が見られたが、床面付近からは須恵器甕(1)、土師器甕(2)、砥石(3)、こも編み石(4)、或いは粘土塊が、また竈からは須恵器坏(5)、掘り

方からは土師器坏(6)、土師器碗(7)、土師器甕(8)等の出土があった。またこれらの遺物から、本住居は概ね9世紀後半頃の所産として把握される。尚、4号住居の須恵器高台付碗(4住-4)は本住居に属する可能性がある。

規模 径: 282×332cm 深さ: 6cm

〔竈〕 幅: 144 奥行: 64cm

〔左袖〕 幅: 64cm 長さ: 23cm

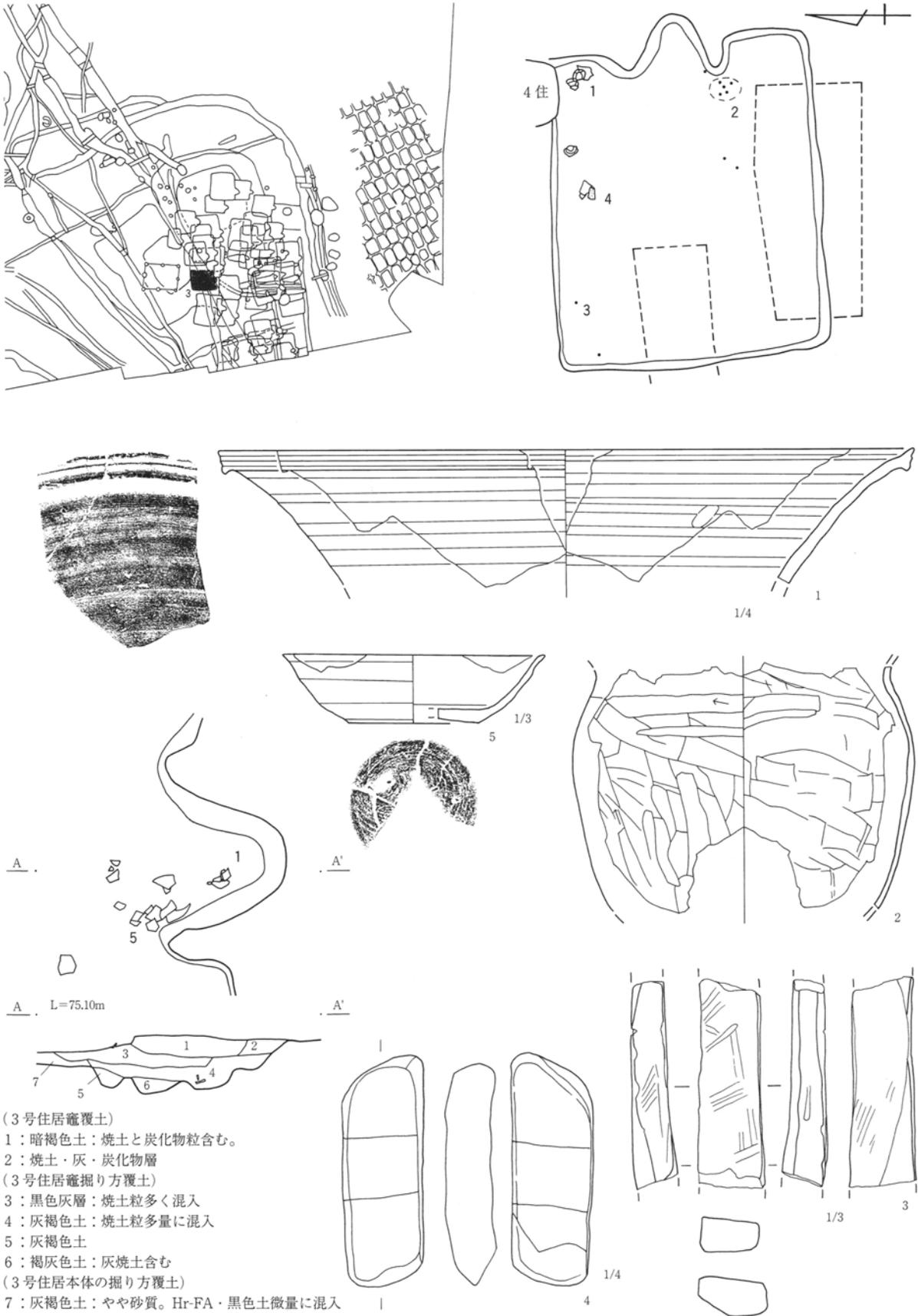
〔右袖〕 幅: 34cm 長さ: 38cm

〔竈掘り方〕 径: 90×99cm 深さ: 10cm

構造 本住居は縦長の長方形プランを呈し、掘り方を褐色土等で埋め戻して床面を造っている。

竈は東壁中央に設けられる。壁のラインを跨いで楕円形の掘り方を掘削し、これに焼土を含む褐色土等で埋め戻して燃焼部を造る。袖の構造は記録できなかったため不明であるが床面に粘土塊の出土を見たので、粘土等を使用した可能性が考えられる。

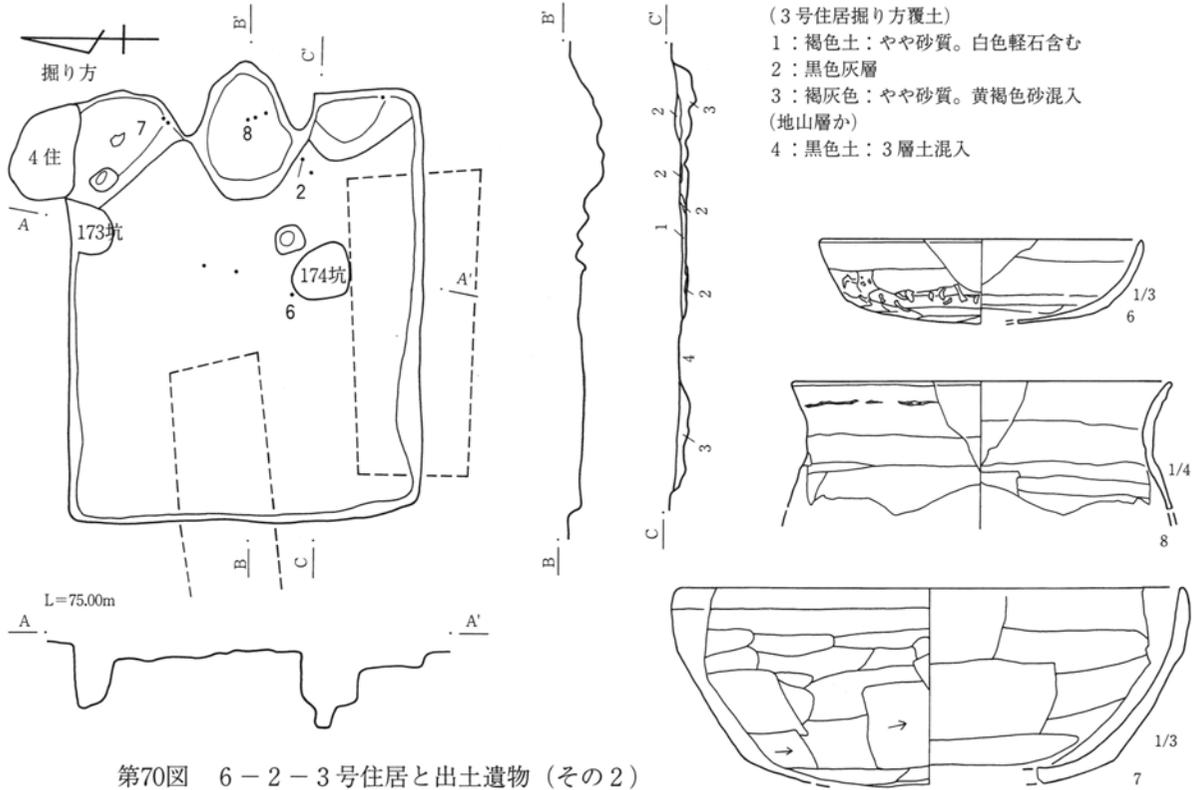
床面に於いて柱穴や貯蔵穴は確認できなかった。しかし掘り片面に於いては竈右側の壁際に貯蔵穴らしき径82×46cm、深さ8cm(8床面から24cm)の土坑を確認したが、柱穴は確認できなかった。



- (3号住居竈覆土)
- 1: 暗褐色土: 焼土と炭化物粒含む。
 - 2: 焼土・灰・炭化物層
- (3号住居竈掘り方覆土)
- 3: 黒色灰層: 焼土粒多く混入
 - 4: 灰褐色土: 焼土粒多量に混入
 - 5: 灰褐色土
 - 6: 褐灰色土: 灰焼土含む
- (3号住居本体の掘り方覆土)
- 7: 灰褐色土: やや砂質。Hr-FA・黒色土微量に混入

第69図 6-2-3号住居と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物



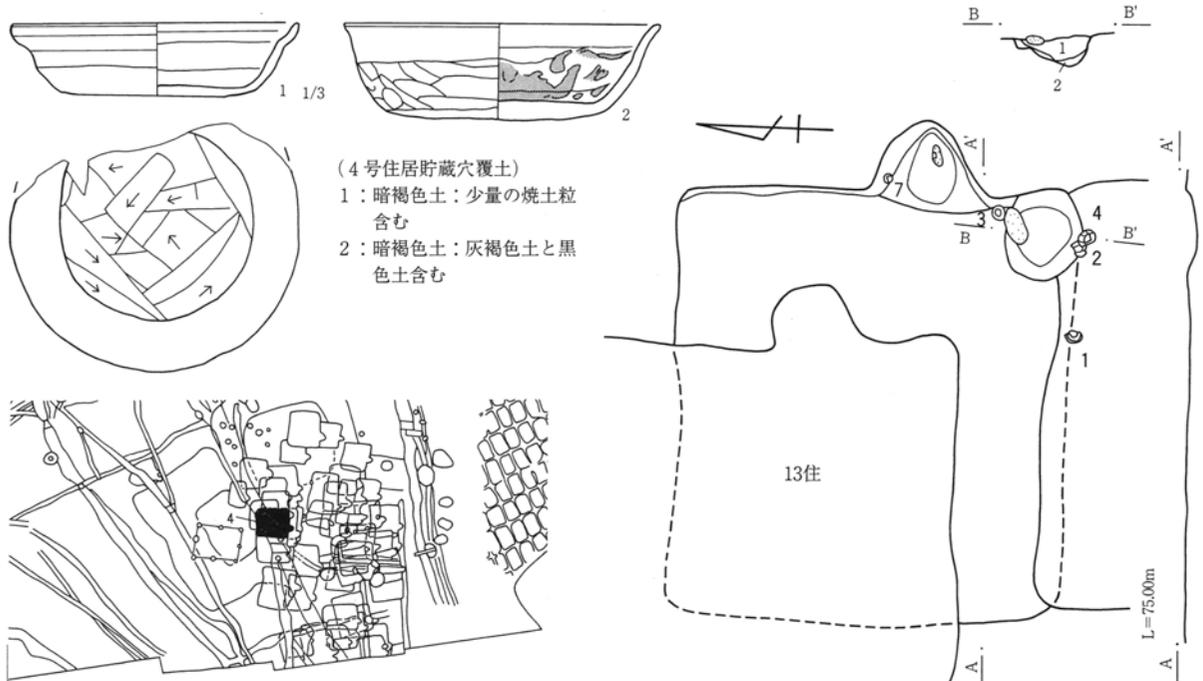
第70図 6-2-3号住居と出土遺物(その2)

(4) 6-2-4号住居(第71・72図、図版19・60)

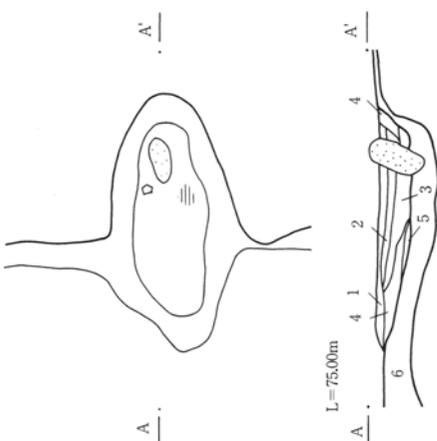
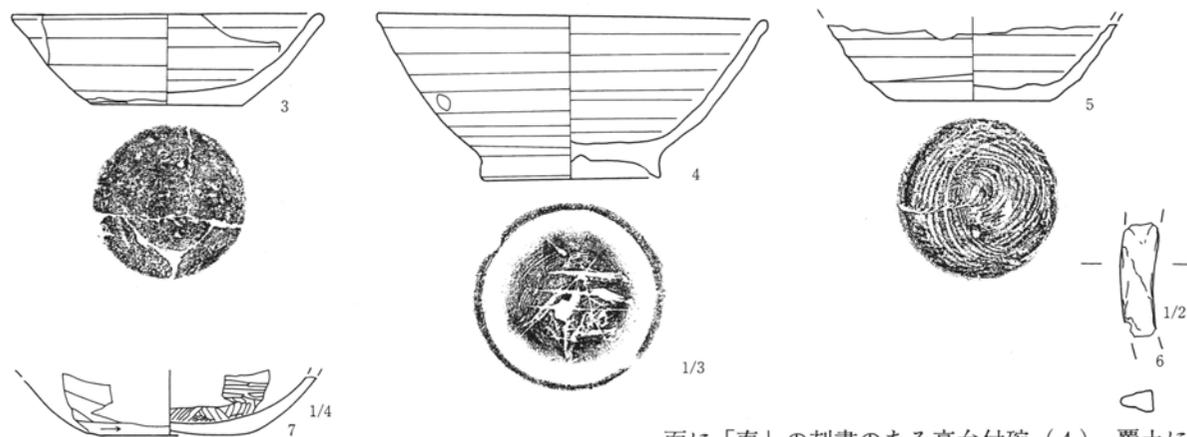
概要 竪穴住居集中域の中西部に在る本住居は6-2-5号住居を切るが、6-2-3・13・41号住居との

新旧は特定できなかった。

本住居からは土師器を中心に出土遺物も多く、床面では土師器坏(1・2)や須恵器の坏(3)と底



第71図 6-2-4号住居と出土遺物(その1)



- (4号住居竈覆土)
- 1: 暗褐色土: 焼土粒含む
 - 2: 暗褐色土: 多量の焼土含む
 - 3: 灰層: 焼土・炭化物含む
 - 4: 暗褐色土: 焼土粒少量含む
 - 5: 炭化物と暗褐色土の混土 (竈掘り方覆土)
 - 6: 暗褐色土: 焼土と黒褐色土含む

面に「奉」の刻書のある高台付碗（4）、覆土に須恵器坏（5）や刀子柄の破片らしき鉄片（6）、竈で土師器壺片（7）、掘り方に土師器甕片（8）等も見られたことから、本住居は9世紀後半期の所産として把握される。このうち土師器壺は竈材への転用が、須恵器高台付碗は出土位置から3号住居に属する可能性が考慮される。

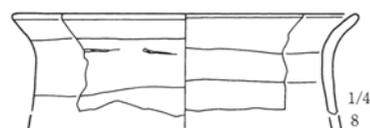
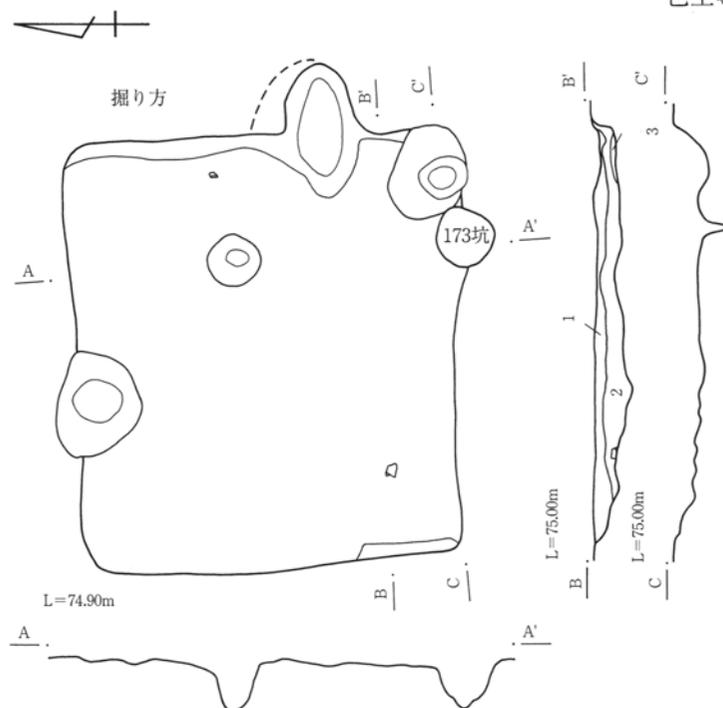
規模 径：312×342cm 深さ：2cm

〔竈〕 幅：(58)cm 奥行き：102cm

〔貯蔵穴〕 径：62×72cm 深さ：20cm

構造 本住居は縦長の長方形プランを呈する。掘り方を有し、これを焼土や炭化物を含む暗褐色土等で埋め戻して床面を造っている。

竈は東壁の南寄りに設けられ、壁のラインを跨いで掘削された縦長の楕円形プランの掘り方を焼土を含む褐色土等で埋め戻して燃焼部としている。袖や天井の構造は記録を残せなかった。貯蔵穴は隅丸方形プランを呈し、竈右側の竪穴南西隅に確認された。柱穴は掘り方面も含め確認されなかった。



- (4号住居掘り方覆土)
- 1: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒含む
 - 2: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒と黒褐色土・褐色土を含む
 - 3: 黒褐色土: 暗褐色土含む

第72図 6-2-4号住居と出土遺物 (その2)

第2章 発見された遺構と遺物

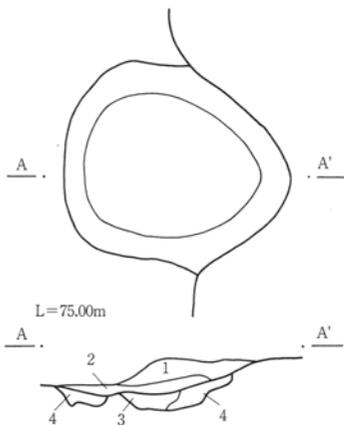
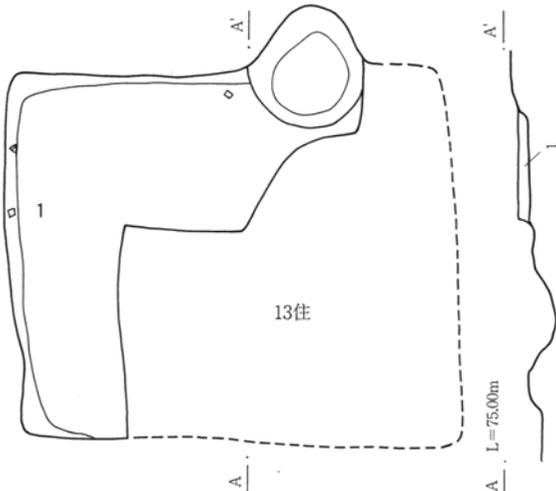
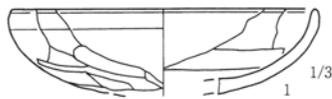
(5) 6-2-5号住居 (第73図、図版19・20・60・61)

概要 竪穴住居集中域北西部に在るが、重複する6-2-4・13・41号住居との新旧は特定できなかった。

本住居からは坏(1)等の土師器を中心に相当量の土器片が出土したが時期特定には至らず、遺構形態と併せて律令期の所産とできるに過ぎなかった。また床下土坑から古墳時代前期の甕(2・3)も出土したが、この土坑は本住居とは別遺構の可能性が高い。

規模 径：360×311cm 深さ：9cm

[竈] 幅：90cm 奥行き：98cm



(5号住居竈覆土)

1：暗褐色土：焼土・炭化物粒含む

2：暗褐色土：多量の焼土及び灰を含む

(竈掘り方覆土)

3：暗褐色土

4：黒褐色土：焼土粒多く含み黒色土混入

(5号住居覆土)

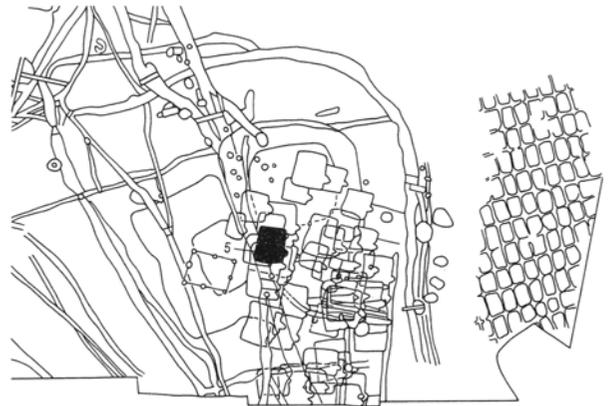
1：黒褐色土：黒色土・黄褐色砂・白色軽石含む

[床下土坑] 径：128×100cm 深さ：4cm

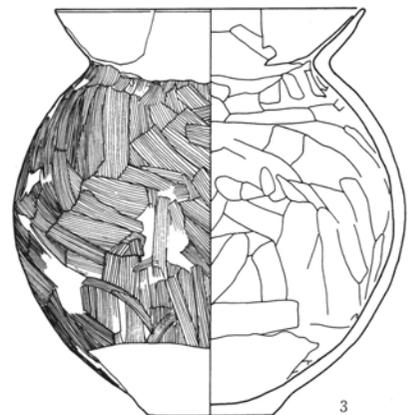
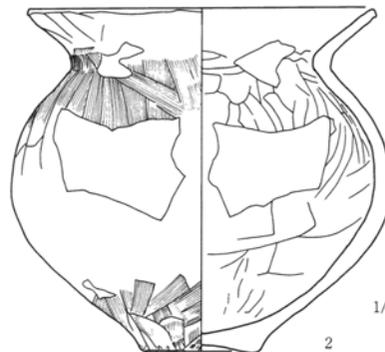
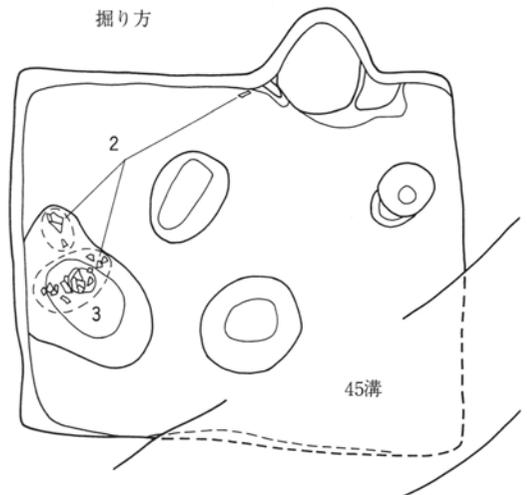
構造 本住居は横長の長方形プランを呈し、浅い掘り方を有する。

竈は東壁南寄りに造られ、壁に入った箇所を中心とした楕円形プランの掘り方を掘削し、焼土を含む黒褐色土等で埋め戻し燃焼面を作っている。

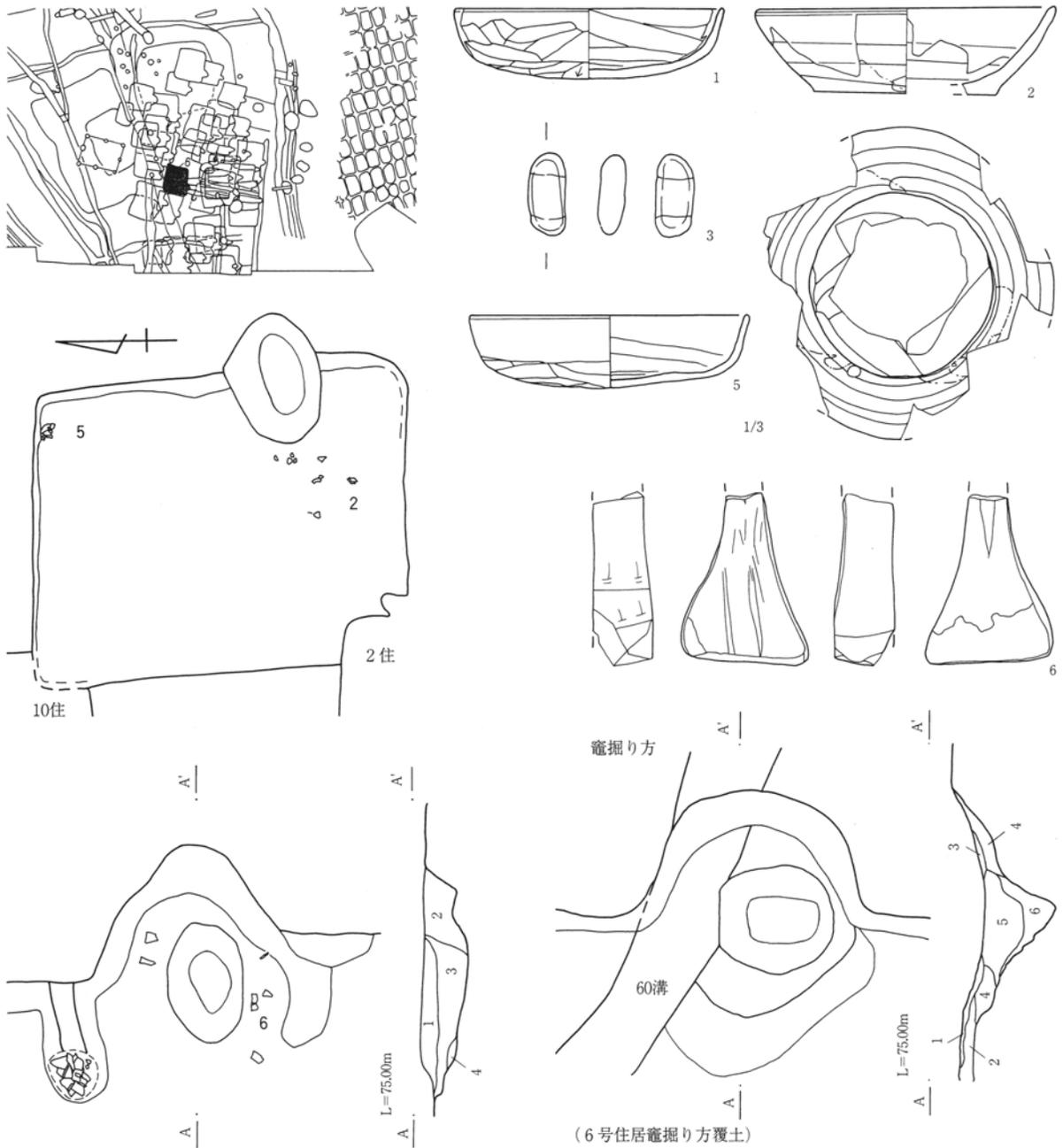
尚、貯蔵穴や柱穴を確認することはできなかった。



掘り方



第73図 6-2-5号住居と出土遺物



(6号住居竈覆土)
 1: 暗褐色土: 少量の焼土粒含む
 2: 赤褐色土: 焼土層。暗褐色土を含む
 3: 暗褐色土: 1層と同様であるが、焼土粒の粒径大きい
 4: 黒褐色土: 灰粒・焼土粒混入

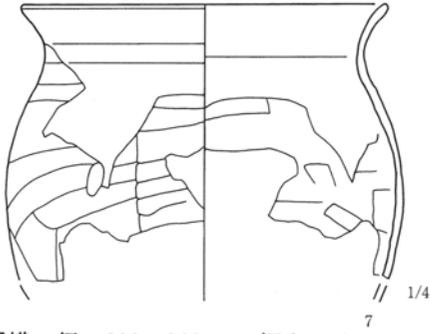
(6号住居竈掘り方覆土)
 1: 黒色灰層
 2: 灰黄褐色砂質土
 3: 黒褐色土: 焼土と灰粒多く混入
 4: 暗褐色砂質土: 焼土粒混入
 5: 暗黄褐色土: 焼土・灰と炭物粒混入ししまりにかける
 6: 黒褐色粘質土: 焼土粒若干混入

第74図 6-2-6号住居と出土遺物(その1)

(6) 6-2-6号住居(第74・75図、図版20・61)
概要 本住居は竪穴住居集中域南西部に位置し、6-2-2・3・12・21号住居と重複するが新旧を明瞭にすることはできなかった。
 本住居では覆土からの土師器(1)や須恵器(2)

の坏、小型のこも編み石(3)やスラグとも思われる鉄片(4)、床面の土師器坏(5)、竈からの砥石(6)、掘り方からの土師器甕(7)等を土師器を中心に相当量の土器片が出土した。本住居はこうした出土遺物から9世紀前半期の所産として把握される。

第2章 発見された遺構と遺物



規模 径：232×268cm 深さ：6cm

〔竈〕 幅：129cm 奥行き：165cm

〔左袖〕 幅：27cm 長さ：54cm

〔右袖〕 幅：18cm 長さ：40cm

〔竈掘り方〕 径：(102)×108cm 深さ：34cm

構造 横長の長方形プランを呈し、掘り方を有する。

竈は東壁の南寄りにあり、壁を跨いで掘削される柱穴状掘り込みを伴う楕円形プランの掘り方を焼土・灰・墨を含む暗黄褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。この燃焼部を包み込むように袖が造られるが袖構築材等の記録は残せなかった。

尚、貯蔵穴や柱穴は確認できなかった。

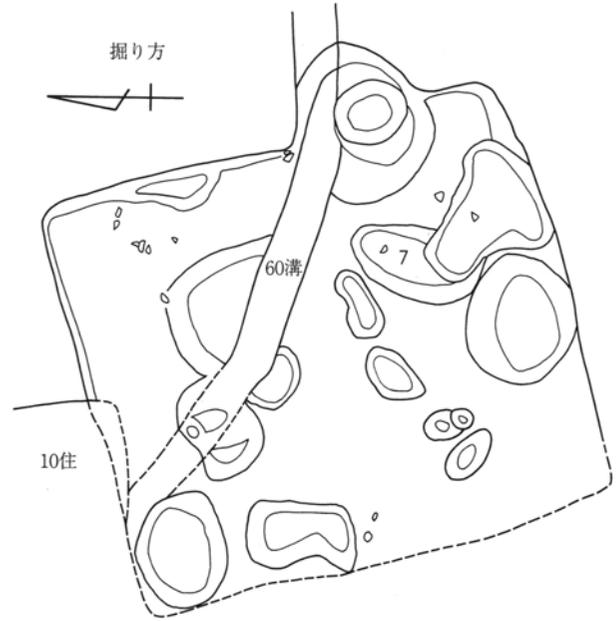
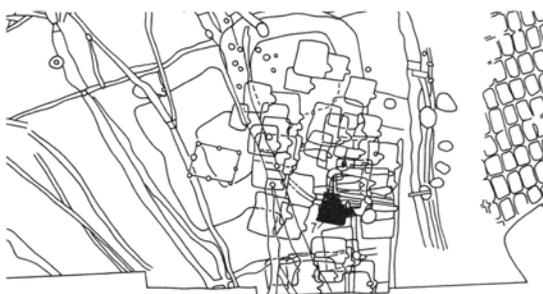
(7) 6-2-7号住居 (第76図、図版20)

概要 本住居は竪穴住居集中域中南部に在る。6-2-11号住居には切られるが、重複する6-2-8・57号住居との新旧は不明である。

土師器を中心に100点以上の土器片を出土するものの、時期特定には至らなかった。確認順序から57号住居より新しいと判断されるため9世紀後半以降の所産として把握される。

規模 径：310×316cm 深さ：6cm

〔竈〕 幅：(60cm) 奥行き：(85cm)

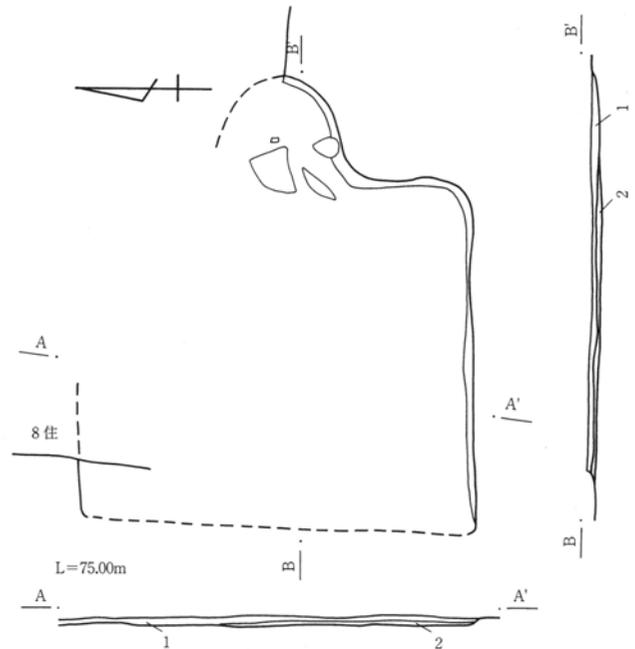


第75図 6-2-6号住居と出土遺物 (その2)

構造 本住居は正方形プランを呈し、浅い掘り方を暗褐色土等で埋め戻して床を造る。

竈は東壁中程に設けられるが遺存が悪く構造等は不明。

また柱穴・貯蔵穴も確認されなかった。



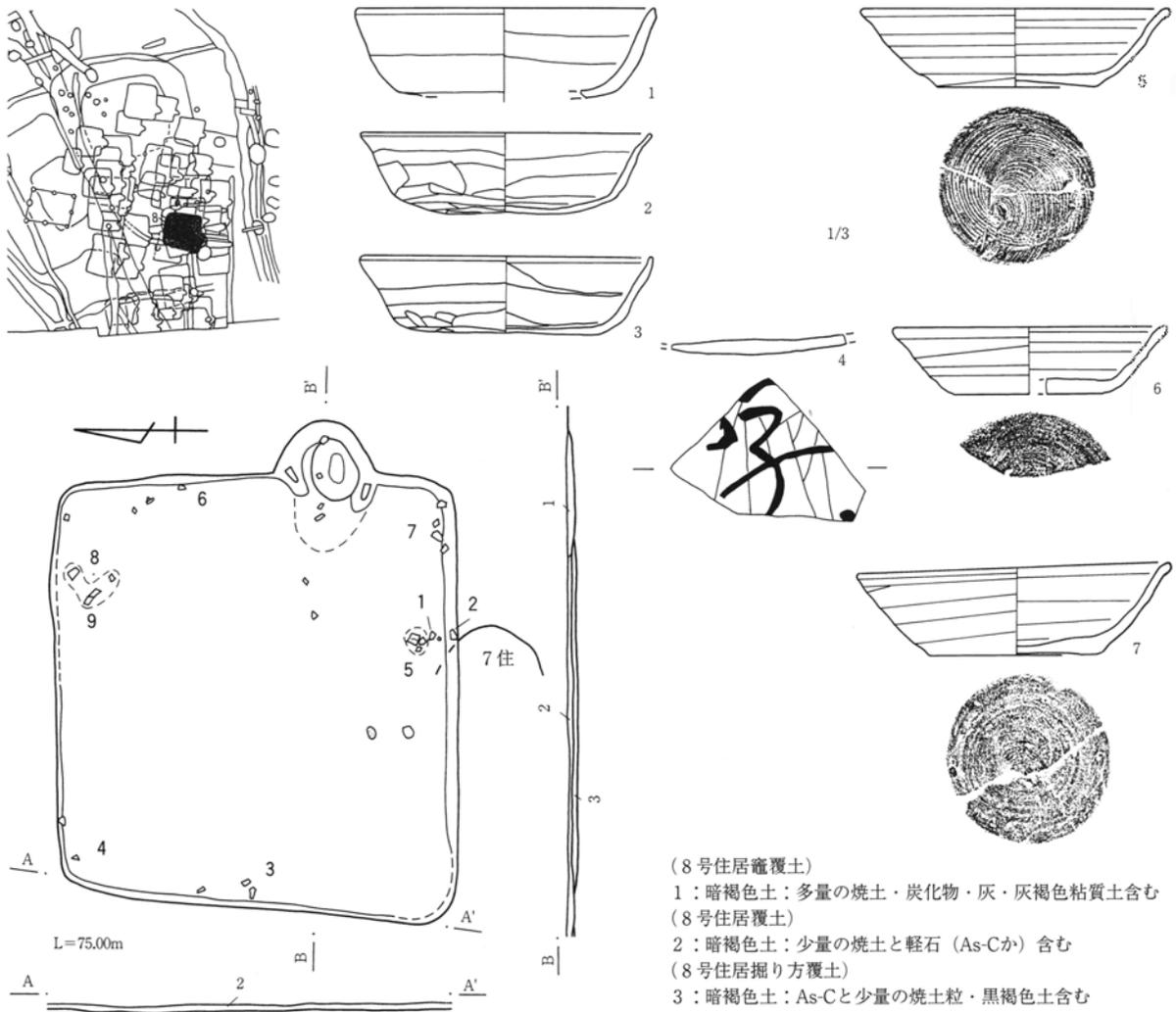
(7号住居覆土)

1：暗褐色土：少量の焼土と軽石含む

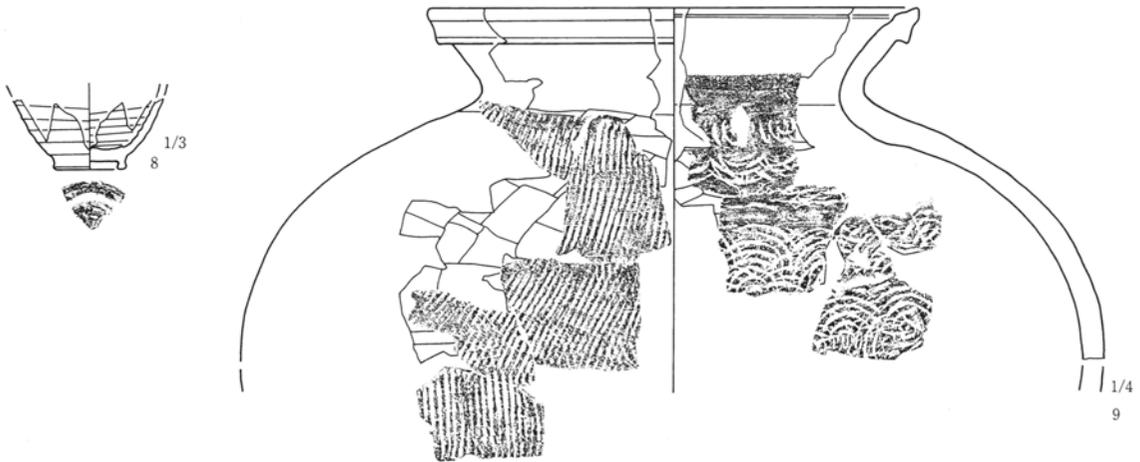
(7号住居掘り方覆土)

2：暗褐色土：As-Cと黒褐色土含む

第76図 6-2-7号住居



- (8号住居竈覆土)
- 1：暗褐色土：多量の焼土・炭化物・灰・灰褐色粘質土含む
 - (8号住居覆土)
 - 2：暗褐色土：少量の焼土と軽石 (As-Cか) 含む
 - (8号住居掘り方覆土)
 - 3：暗褐色土：As-Cと少量の焼土粒・黒褐色土含む



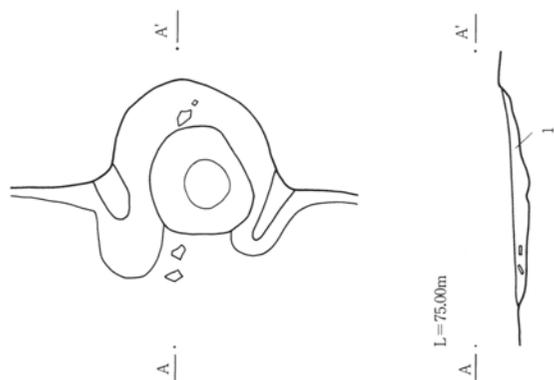
第77図 6-2-8号住居と出土遺物 (その1)

(8) 6-2-8号住居(第77・78図、図版20・61・62)
 概要 本住居は竪穴住居集中域南東部に位置する。
 6-2-7・44・47・51・57・67号住居と重複関係に

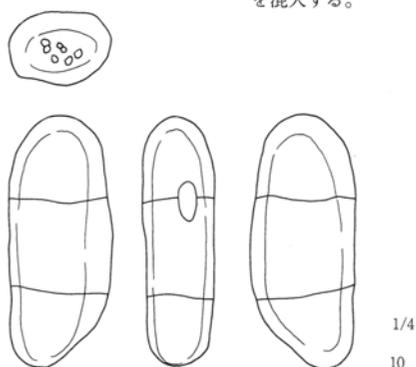
ある。確認順位から本住居が新しいものとも思われるが、新旧を特定することはできなかった。

本住居からは土師器を中心に多くの土器片の出土

第2章 発見された遺構と遺物



(8号住居竈掘り方覆土)
1: 暗褐色土: As-Cと多量の焼土を混入する。

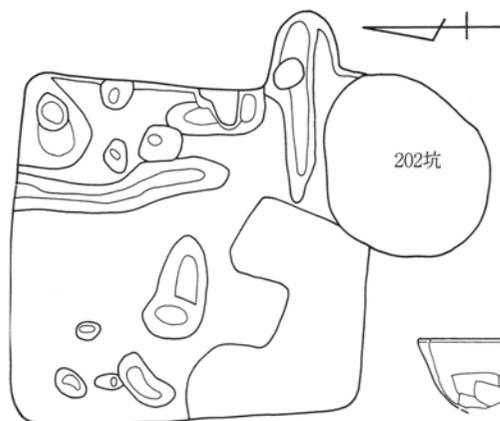


第78図 6-2-8号住居と出土遺物(その2)

があったが、この中には土師器坏(1~4)や須恵器の坏(5~7)・小瓶(8)・甕片(9)や敲石(10)があった。床近くから出土したこうした遺物の所見から本住居は9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径: 81×268cm 深さ: 6cm

〔竈〕 幅: 81cm 奥行き: 78cm



〔左袖〕 幅: 26cm 長さ: 45cm

〔右袖〕 幅: 16cm 長さ: 35cm

〔竈掘り方〕 径: 40×42cm 深さ: 6cm

構造 横長の正方形に近い台形プランを呈する。浅い掘り方を暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。

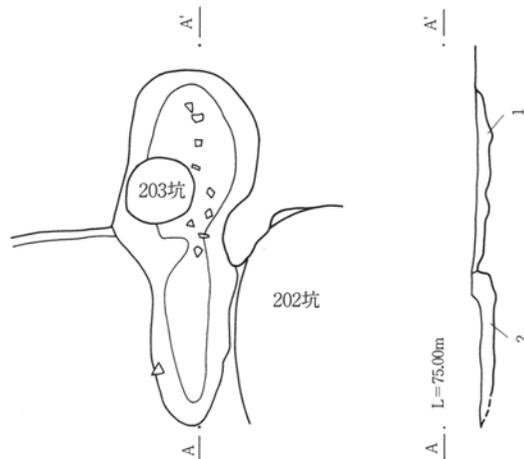
竈は東壁の南寄りに造られる。削平が進み掘り方に至っていたが、掘り方は円形を呈し、これを多量の焼土を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っているようである。その詳細は確認できなかったが、袖は燃焼部を包みこむように設置されている。

柱穴・貯蔵穴については確認されなかった。

(9) 6-2-9号住居(第79図、図版20・21・62)

概要 本住居は竪穴住居集中域中部に位置する。削平が進み掘り片面を確認できたに過ぎなかった。

本住居は6-2-28・44・50号住居と重複関係にあるが、新旧を特定することはできなかった。



(9号住居竈覆土)
1: 暗褐色土: 焼土・炭化物混入
2: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒混入

第79図 6-2-9号住居と出土遺物

また土師器坏（1）など土師器を中心に一定量の出土遺物を得たが、時期を特定するには至らず、概ね律令期の所産と判断されるに過ぎなかった。

規模 径：280×278cm

〔竈〕 幅：（58）cm 奥行：（139）cm

構造 本住居は既に掘り方面を露出する状態であったためその所見は多くないが、正方形に近い隅丸台形のプランを呈し、掘り方を有している。

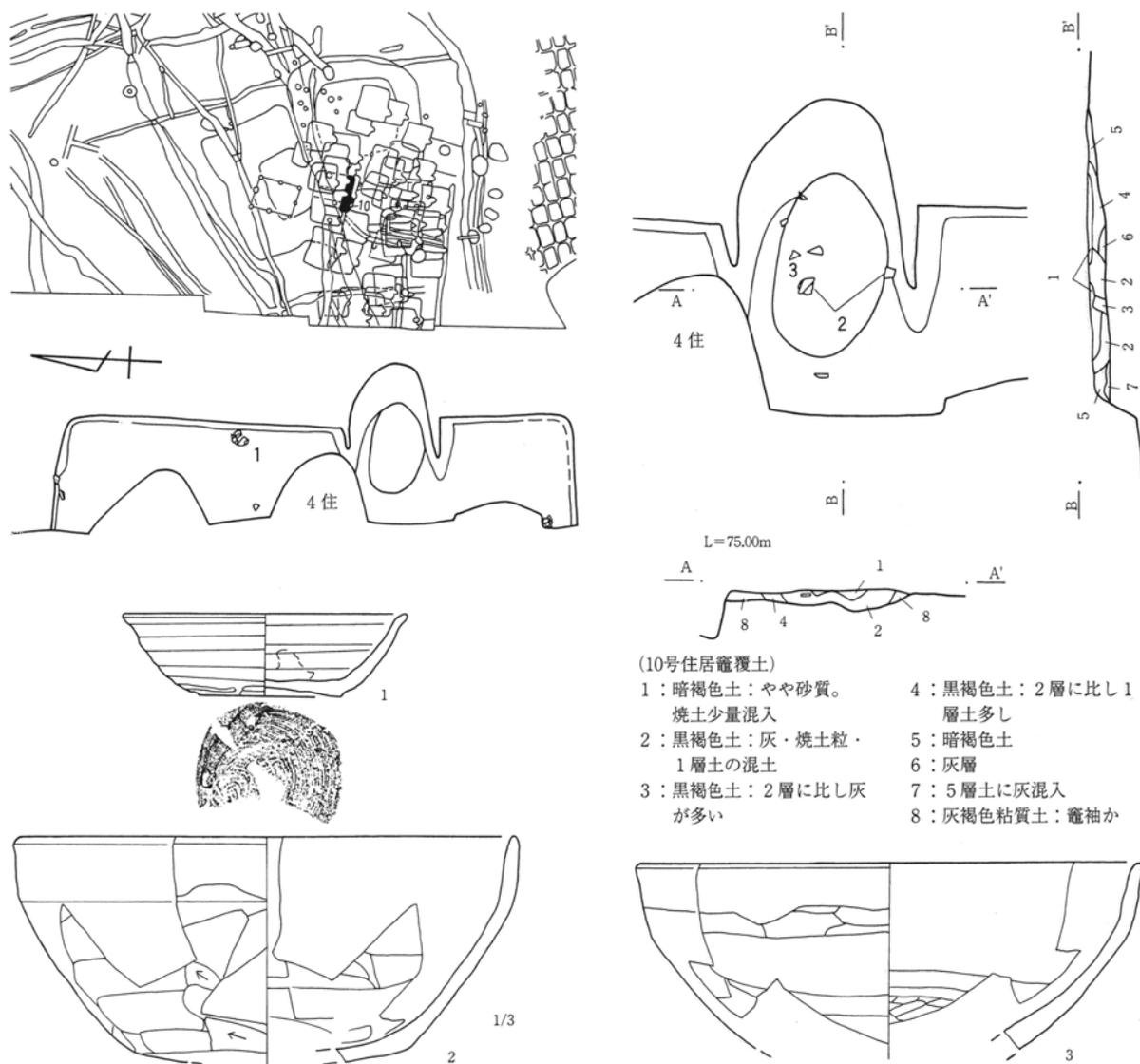
竈は東壁南端近くに在り、壁を削り込む掘り方をもち、焼土を含む土壌で埋め戻している。またその手前にも長円形プランの浅い土坑が掘削される。

尚、貯蔵穴と柱穴は特定できなかった。

(10) 6-2-10号住居（第80・81図、図版21・62）

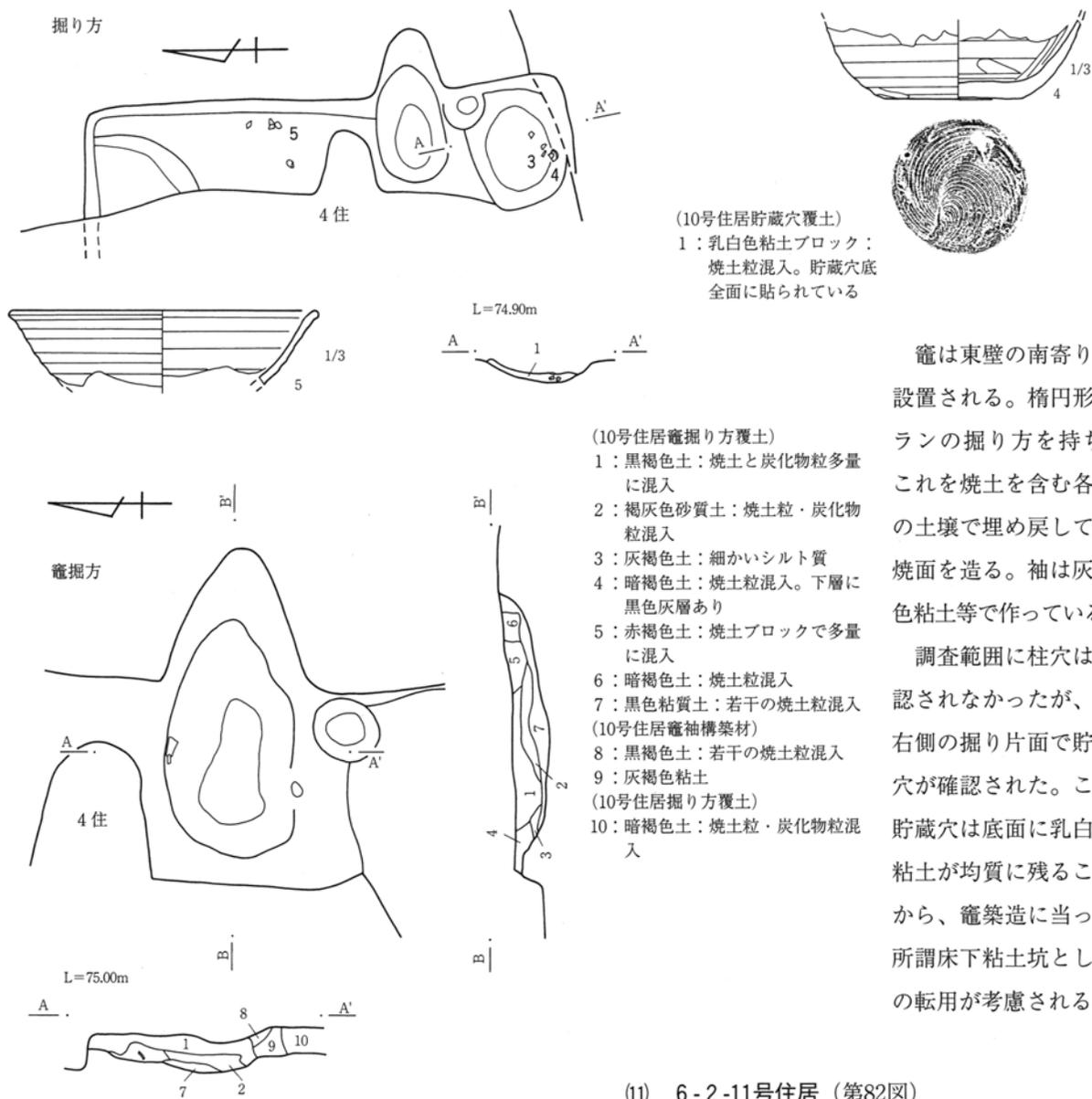
概要 本住居は堅穴住居集中域中西部に位置する。6-2-3・5・6・28・41・50号住居と重複するが、41号住居に切られる他は遺構の調査では新旧を特定はすることはできなかった。

本住居からは古墳時代前期以降の土器の出土が見られた。この中には床面で須恵器坏（1）、竈等から流れ込みの土師器碗（2・3）、掘り方面と貯蔵穴から須恵器坏（4・5）の出土が見られた。本住居は後述の貯蔵穴の状態から建替えが確認されるが、建替え前後合わせた住居の使用期間は出土遺物から9世紀後半の中で行われていることが確認される。



第80図 6-2-10号住居と出土遺物（その1）

第2章 発見された遺構と遺物



(10号住居貯蔵穴覆土)
1: 乳白色粘土ブロック;
焼土粒混入。貯蔵穴底
全面に貼られている

(10号住居竈掘り方覆土)
1: 黒褐色土: 焼土と炭化物粒多量
に混入
2: 褐灰色砂質土: 焼土粒・炭化物
粒混入
3: 灰褐色土: 細かいシルト質
4: 暗褐色土: 焼土粒混入。下層に
黒色灰層あり
5: 赤褐色土: 焼土ブロックで多量
に混入
6: 暗褐色土: 焼土粒混入
7: 黒色粘質土: 若干の焼土粒混入
(10号住居竈袖構築材)
8: 黒褐色土: 若干の焼土粒混入
9: 灰褐色粘土
(10号住居掘り方覆土)
10: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒混
入

竈は東壁の南寄りに設置される。楕円形プランの掘り方を持ち、これを焼土を含む各種の土壌で埋め戻して燃焼面を造る。袖は灰褐色粘土等で作っている。調査範囲に柱穴は確認されなかったが、竈右側の掘り片面で貯蔵穴が確認された。この貯蔵穴は底面に乳白色粘土が均質に残ることから、竈築造に当って所謂床下粘土坑としての転用が考慮される。

第81図 6-2-10号住居と出土遺物 (その2)

規模 径: 432×(100) cm 深さ: 6 cm

〔竈〕 幅: 100cm 奥行: 94cm

〔左袖〕 幅: 24cm 長さ: (49) cm

〔右袖〕 幅: 28cm 長さ: 52cm

〔竈掘り方〕 径: 102×55cm 深さ: 10cm

〔貯蔵穴〕 径: 105×(79) cm 深さ: 18cm

構造 本住居はその多くが削られていたため、その形状は詳らかでないが、プランは正方形か長方形を呈するものと思慮される。

本住居は掘り方を有し、これを埋めて床面を造る。

(11) 6-2-11号住居 (第82図)

概要 本住居は竪穴住居集中域中東部に在り、6-2-7・45・57号住居と重複する。このうち7号住居を切るものの45・57号住居との新旧関係は不明。

出土遺物も無く、時期も不特定で、竈を有することから概ね6世紀以降の所産とできるだけである。

本住居は竈掘り方の一部が確認されただけで、規模・形状・構造は殆ど不明である。

(12) 6-2-12号住居 (第82図、図版21)

概要 本住居は竪穴住居集中域南西部に位置する。6-2-2・21号住居と重複するが、本住居は21号住居に切られ、2号住居よりは古いものと認識される。

第2節 6区の遺構と遺物

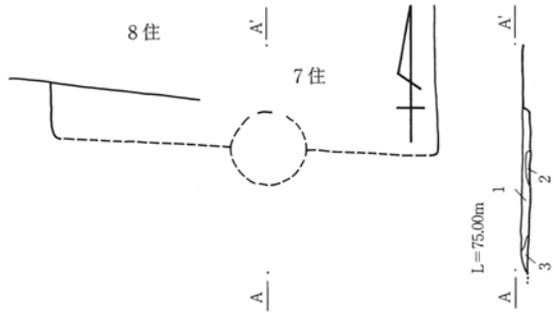
土師器片を中心に一定量の遺物が出土したが、本住居の時期は特定できなかった。尚、重複関係から本住居は9世紀後半以前の所産として把握される。

規模 径：292×350cm 深さ：3cm

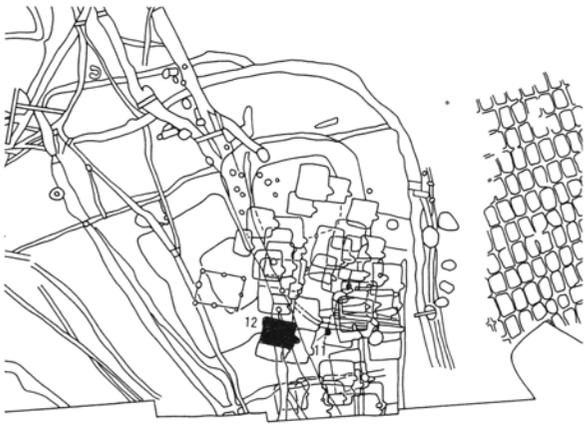
〔竈〕 幅：(78)cm 奥行：77cm

構造 プランはやや縦長の隅丸方形を呈する。

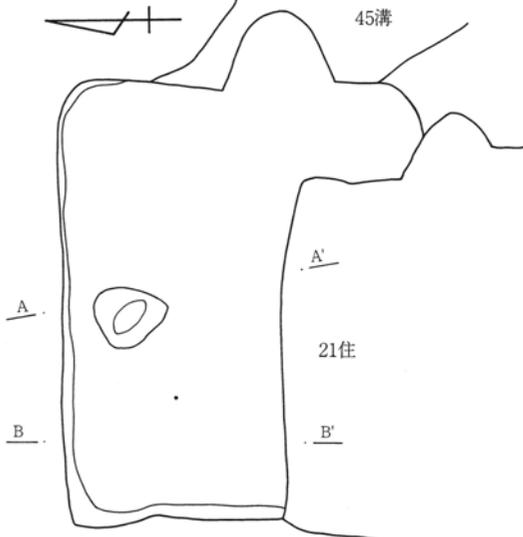
浅い掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。



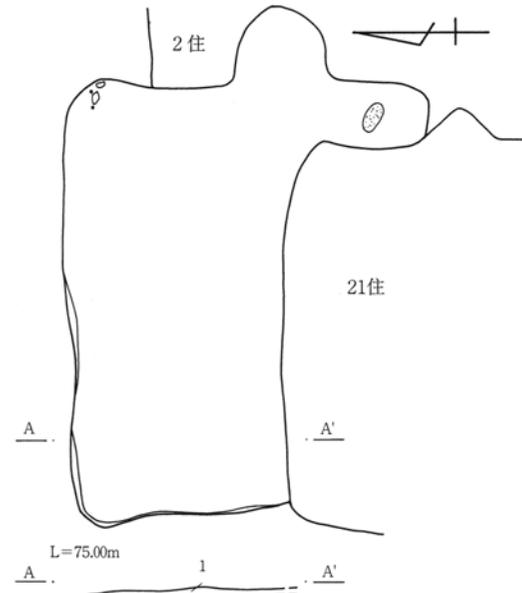
- (11号住居竈掘り方覆土)
 1：暗褐色土：焼土と灰褐色粘質土含む
 2：暗黄褐色ブロック
 (11号住居掘り方か)
 3：黒褐色土ブロック



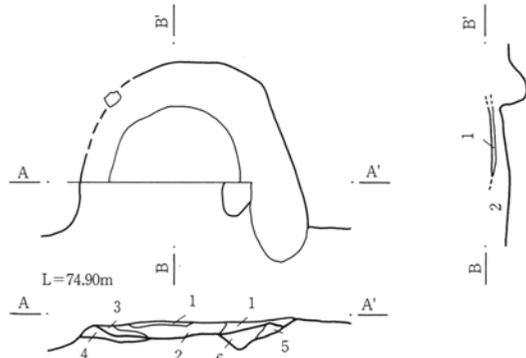
掘り方



- (12号住居掘り方覆土)
 1：暗褐色土：少量の焼土粒と黒褐色土含む
 2：黒褐色土：As-Cと少量の白青色土を含む



- (12号住居覆土か)
 1：暗褐色土：少量の焼土粒・黒褐色土・褐色土含む



- (12号住居竈覆土)
 1：暗褐色土：少量の焼土粒と黒褐色土含む
 2：暗褐色土：少量の焼土粒・黒褐色土・褐色土含む
 3：黒褐色土：灰多く含む。焼土含む。
 (12号住居竈袖構築材)
 4：黒褐色土：黄褐色砂混入
 5：黒褐色土：5層に比し黄褐色砂多し
 (12号住居竈掘り方覆土)
 6：暗褐色土：やや砂質

第82図 6-2-11号住居及び6-2-12号住居

第2章 発見された遺構と遺物

竈は掘り方を有する。袖は黒褐色土で造られるが、中央右寄りの4層土の充填する窪みは袖石の抜き取り痕の可能性を有する。

尚、床面に於いても掘り方面に於いても柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。

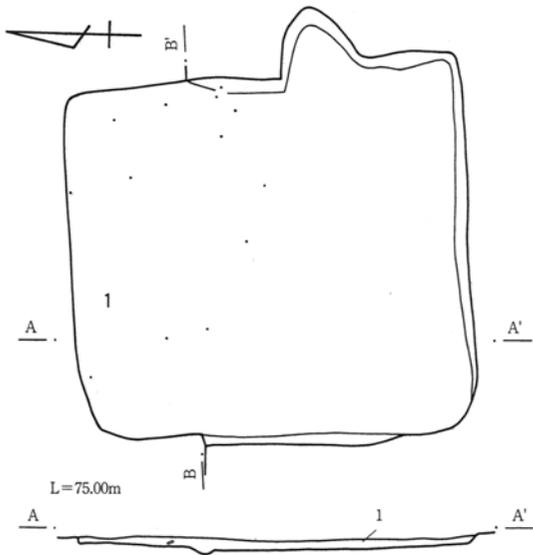
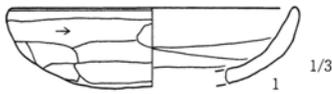
(13) 6-2-13号住居 (第83図、図版21・62・63)

概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に位置し、6-2-4・5・66号住居と重複する。遺構面で新旧は特定できなかったが、4号住居より古く、66号住居より新しいものと解釈される。

本住居では古墳時代前期以降律令期の土師器を中心に多くの出土遺物が得られたが、床上からは土師器坏(1)や用途不明の鉄製品(2)の出土があり、掘り片面では床下土坑から須恵器双耳壺(3)、6-2-45号と位置からは土師器甕片(4)の出土を見ている。こうした遺物から本住居は9世紀前半期の所産として把握される。

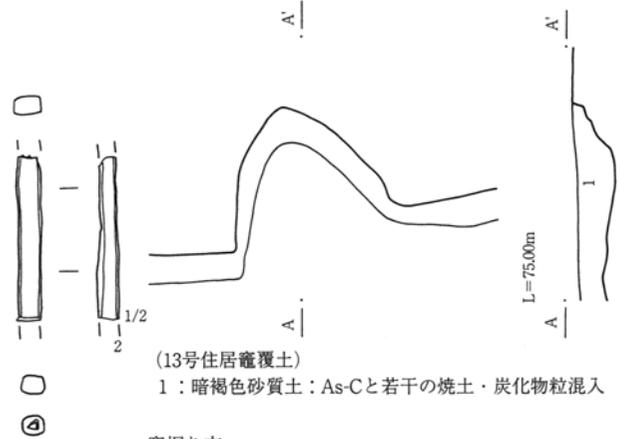
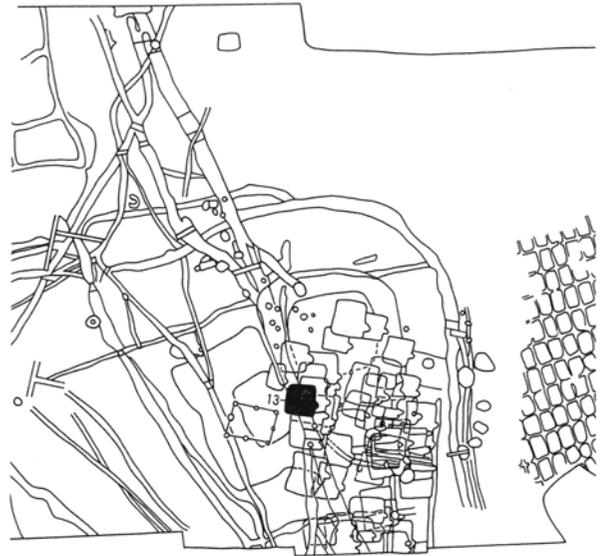
規模 径：315×288cm 深さ：6cm

[竈] 幅：(60)cm 奥行き：(68)cm



(13号住居竈覆土)

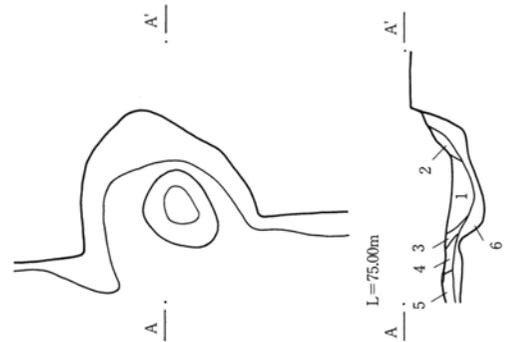
- 1：黒褐色土：黒色土、黄褐色砂混入。白色軽石含む
- 2：黒褐色土：下位の45号溝埋没土、Hr-FA少量混入



(13号住居竈掘り方)

- 1：暗褐色砂質土：As-Cと若干の焼土・炭化物粒混入

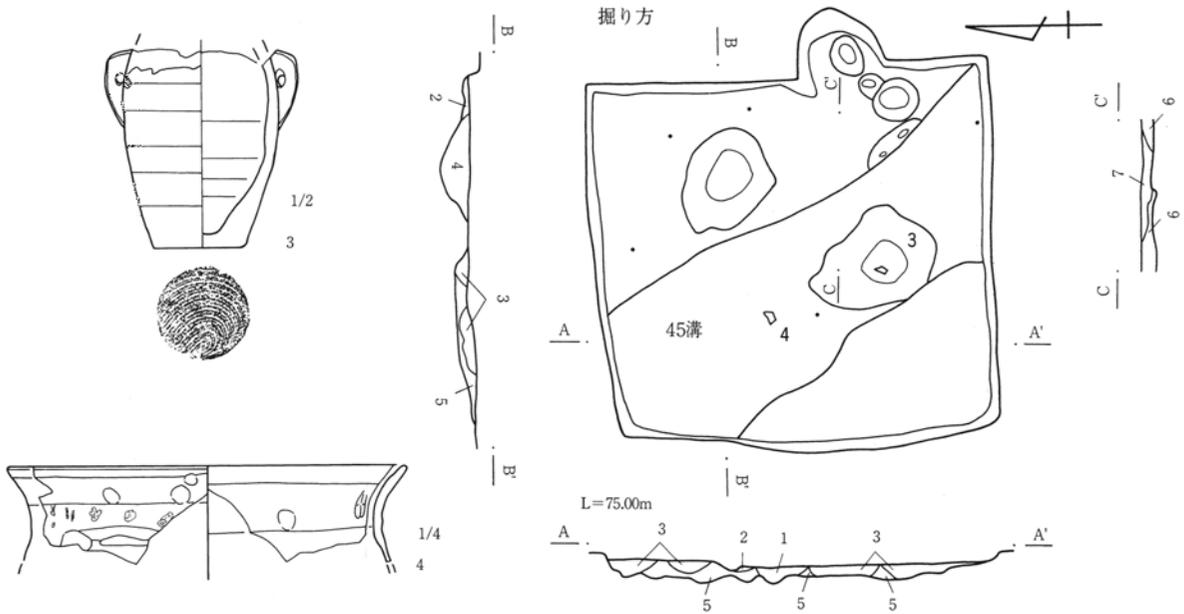
竈掘り方



(13号住居竈掘り方覆土)

- 1：黒褐色砂質土：As-Cと焼土、炭化物粒混入
 - 2：暗褐色土：焼土・炭化物粒混入。粘性あり
- (13号住居掘り方覆土)
- 3：黒褐色土：黄褐色粘土混入。貼床か
 - 4：褐色粘質土：貼床
 - 5：褐色土：焼土・炭化物粒混入
 - 6：黒褐色土：下位の45号溝覆土(黄褐色土)混入

第83図の1 6-2-13号住居と出土遺物



構造 本住居は隅丸方形を呈する。

掘り方を有褐色土等で埋め戻して床を造っている。

竈は東壁南寄りに位置し、掘り方を有するがその構造を詳らかにすることはできなかった。

尚、柱穴貯蔵穴を確認することはできなかった。

(13号住居掘り方覆土)

- 1：黒褐色土：黒色土混入
 - 2：黒色土：もろく崩れやすい
 - 3：褐灰色土：下位の45号溝覆土（黄褐色砂）、白色軽石混入
 - 4：褐灰色土：焼土粒・白色軽石少量混入
 - 5：明黄褐色土：砂と3層土の混土層
 - 6：灰褐色土：黄褐色砂混入
- (13号住居床下粘土坑覆土)
- 7：褐灰色土：焼土と炭化物混入

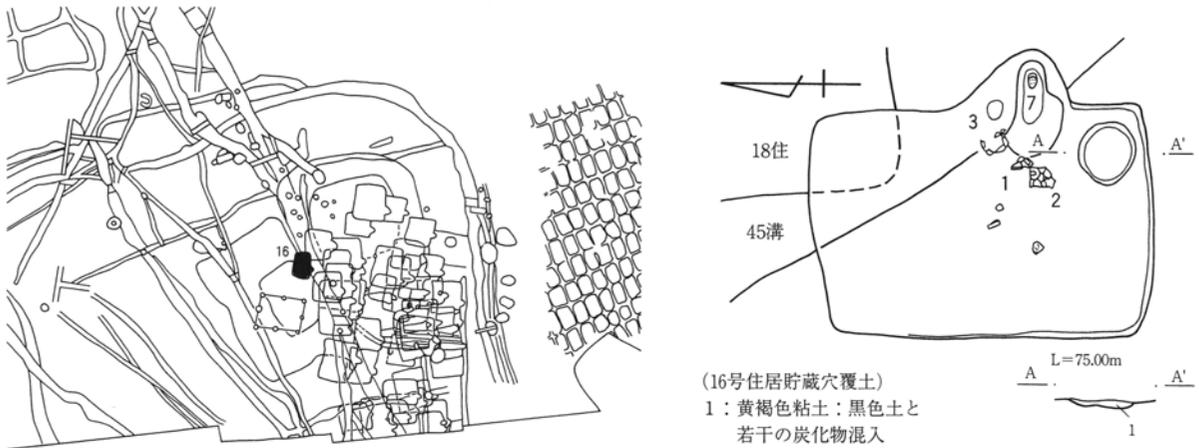
第83図の2 6-2-13号住居と出土遺物

られた土師器甕（3）があり、竈内より須恵器高台付碗（4）、また覆土中より土師器坏（1・2）の出土を見た。こうした出土遺物から、本住居は9世紀後半期の所産として把握される。

本住居は削平が進み、地山層が表出している箇所もあるため、地床であったか掘り方を持つものであったかなど確認できなかった要素も多かった。

(14) 6-2-16号住居（第84・85図、図版22・63）
概要 本住居は竪穴住居集中域北西隅部に位置する。6-2-18・62号住居と重複するが、新旧は特定できなかったものの62号住居よりは新しい。

土師器甕片を中心とした遺物が出土したが、竈前より土師器台付甕（1）、土師器甕（2）が出土し、竈左袖の袖材としての使用が考えられる逆位に据え



(16号住居貯蔵穴覆土)

- 1：黄褐色粘土：黒色土と若干の炭化物混入

第84図 6-2-16号住居（その1）



(16号住居竈覆土) (左図)
 1: 暗褐色粘質土: 焼土粒混入。天井材の可能性あり
 2: 黒褐色灰層: 下面が燃烧面
 3: 灰黄褐色土: 明黄褐色細粒質土ブロックで混入。天井材の可能性あり

(16号住居竈覆土) (右図)
 1: 暗褐色土: 暗褐色粘質土・黄褐色細粒質土・黒色土ブロックで混入し若干の焼土粒混入

規模 径: (312) × 182cm 深さ: 7cm

〔竈〕 幅: (78) cm 奥行: 94cm

〔貯蔵穴〕 径: 45 × 50cm 深さ: 6cm

構造 本住居は横長の長方形プランを呈する小型の住居である。

上述のように掘り方の有無や、地床であったか否かを確認することはできなかった。

竈は東壁のやや南寄りに設けられている。壁面に1/3程が入り込む楕円形プランの掘り方を掘削し、奥寄りに支脚かとも思われる河床石が立てられる。この掘り方を暗褐色土等で埋め戻して燃烧面を造る。上位構造は不明だが、燃烧面両側の小ピットが河床石を用いた袖の芯材の存在を窺わせ、また逆位の土師器甕も袖の芯材の可能性を有する。袖・天井は暗褐色粘質土等で作られた可能性がある。

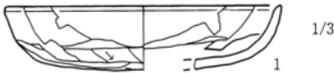
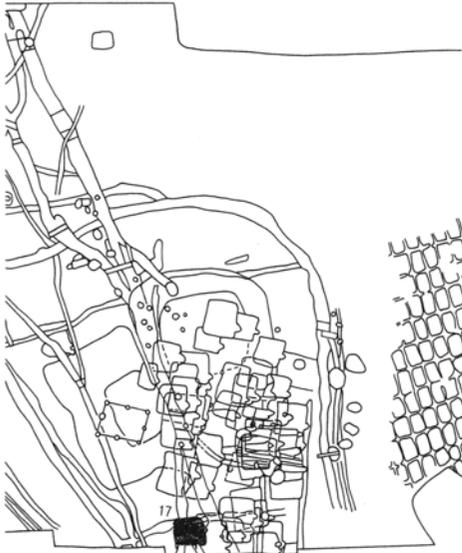
柱穴は確認されなかったが、竈右側に円形様のプランを持つ浅い貯蔵穴が確認されている。

第85図 6-2-16号住居(その2)と出土遺物

(15) 6-2-17号住居(第86図、図版22・23・63)

概要 本住居は堅穴住居集中域南西隅部に位置する。6-2-1・22号住居と重複し、22号住居に切られ、恐らく1号住居も本住居より新しい。

掘り方だけの調査であったが、土師器坏(1)を含む若干の土師器片での時期特定は難しく、重複等で概ね9世紀前半期の所産として把握できている。

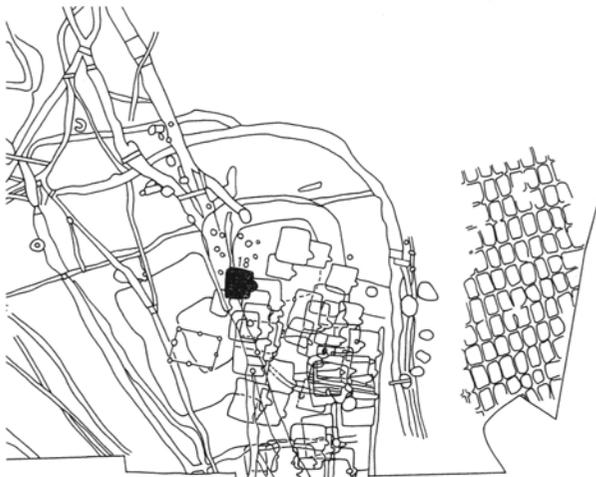


規模 径：(302) × (312) cm
 〔竈〕 幅：(66) cm 奥行き：(35) cm
 〔貯蔵穴〕 径：(45) × (50) cm

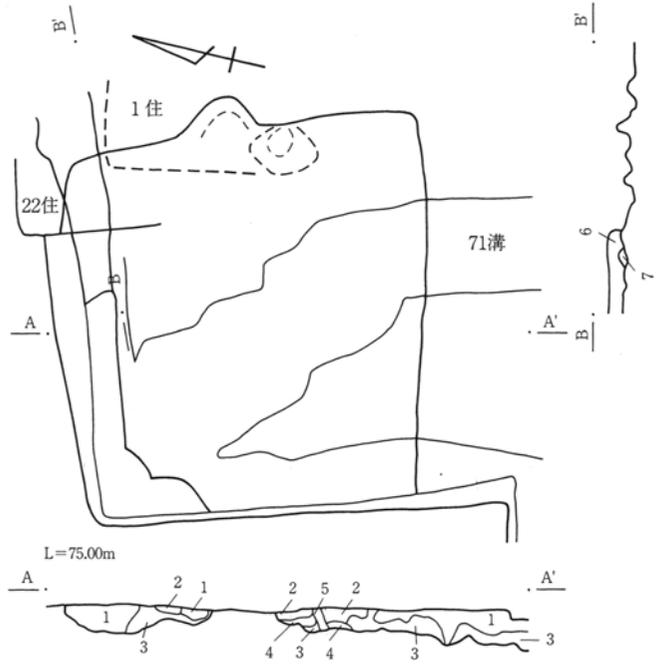
構造 本住居は方形のプランを呈する。
 掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻して床を造っている。

竈は東壁中央付近にあるが、その残欠を確認しただけで構造は詳らかでない。

また、柱穴は確認されず、竈右側に貯蔵穴の残欠と思われるものを確認している。



第87図 6-2-18号住居 (その1)



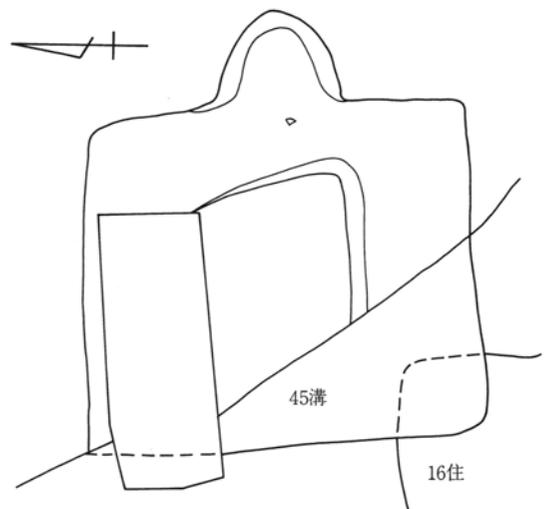
(17号住居掘り方覆土)
 1：黒褐色土：やや砂質。白色軽石混入
 2：にぶい黄褐色砂質土：71号溝覆土・砂混入
 3：黒褐色土：やや砂質。白色軽石混入
 4：黒褐色砂：71号溝覆土混入
 5：黒色土
 6：灰黄褐色土：やや砂質。白色軽石混入
 7：黒褐色砂質土：下層の黒色土に6層土混入

第86図 6-2-17号住居と出土遺物

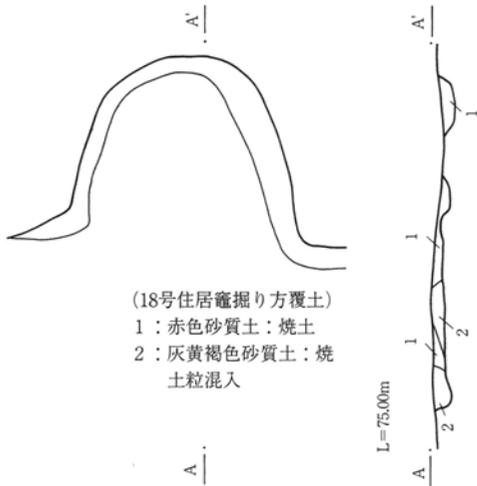
(16) 6-2-18号住居 (第87・88図、図版22)

概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に在る。遺存状況は悪く、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

6-2-1・16・29号住居と重複するが、その新旧は特定できず、また若干の土師器片等を出土したも



第2章 発見された遺構と遺物



(18号住居竈掘り方覆土)
1: 赤色砂質土: 焼土
2: 灰黄褐色砂質土: 焼土粒混入

第88図 6-2-18号住居 (その2)

の、概ね律令期の所産とできるだけ時期も特定できなかった。

規模 径: (313) × (268) cm

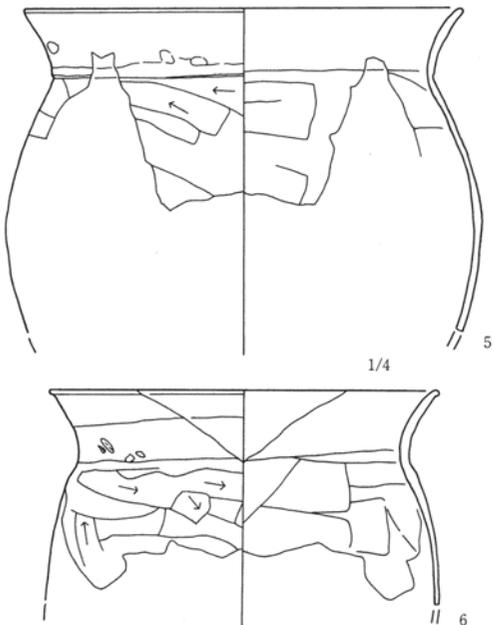
[竈] 幅: (120) cm 奥行き: (76) cm

構造 本住居は掘り方の調査に留まったため、住居構造は殆ど明らかにできなかった。

本住居は正方形のプランで掘り方を有する。

竈は東壁中央に作られ、掘り方を焼土を含む灰黄褐色砂質土で埋め戻している。

柱穴、貯蔵穴等は確認されなかった。



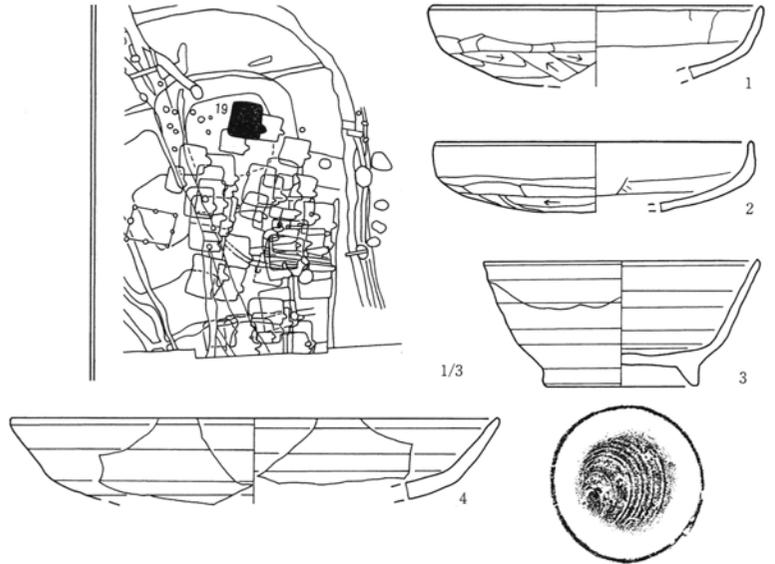
(19号住居覆土)
1: 黒褐色砂質土: 焼土粒・灰色土混入

第89図の1 6-2-19号住居と出土遺物

(17) 6-2-19号住居(第89図、図版22・23・63・64)

概要 本住居は竪穴住居集中域北端部に位置する。6-2-20・26号住居と重複するが、両者に対して本住居の方が新しい。

本住居からは土師器坏・甕片を中心に多くの出土遺物があったが、床面近くでは土師器坏(1・2)、須恵器高台付碗(3)、須恵器(盤)(4)や土師器甕



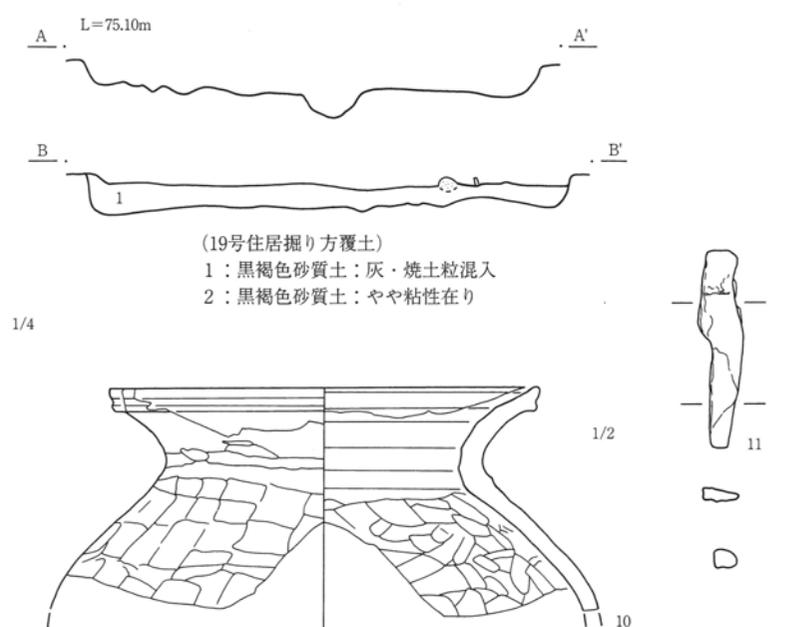
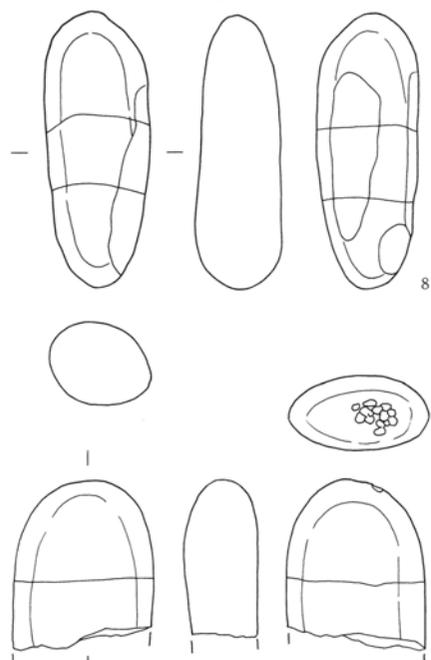
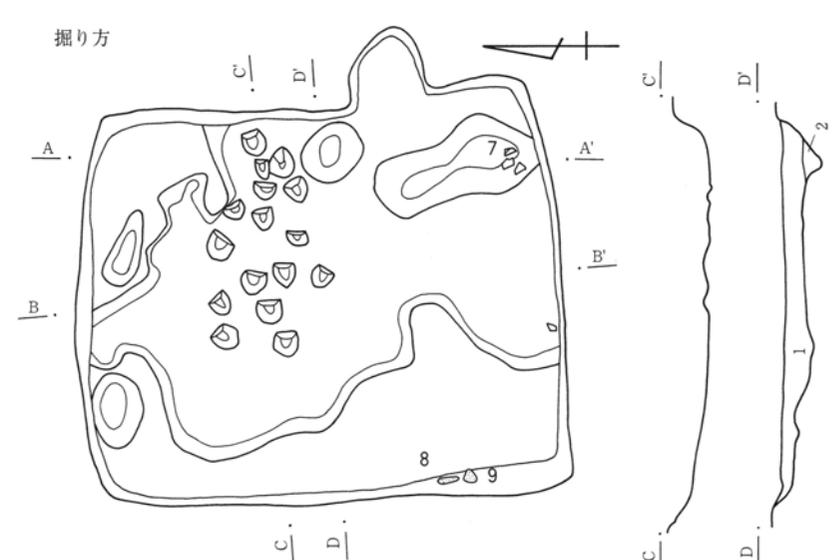
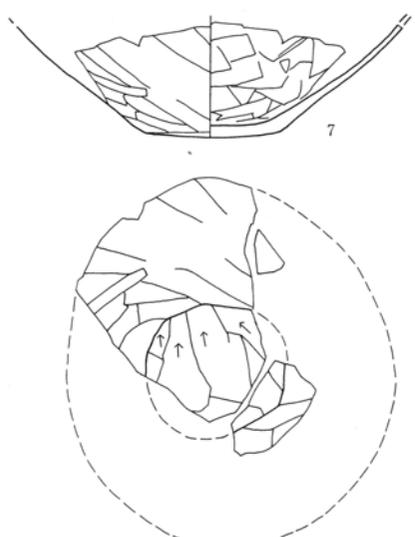
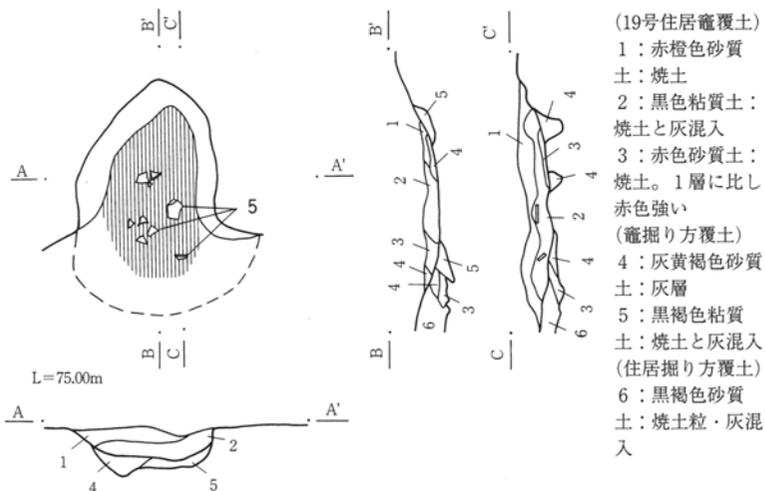
(5・6)、掘り方では土師器甕(7)や磨石(8)、敲石(9)、覆土中には須恵器甕(10)や刀子(11)などが見られた。こうした出土遺物から本住居は8世紀後半以降に建築され、概ね9世紀前半期に使用されたものと判断される。

規模 径：388×321cm

〔竈〕 幅：(73) cm 奥行き：92cm

構造 本住居は横長の長方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを黒褐色砂質土で



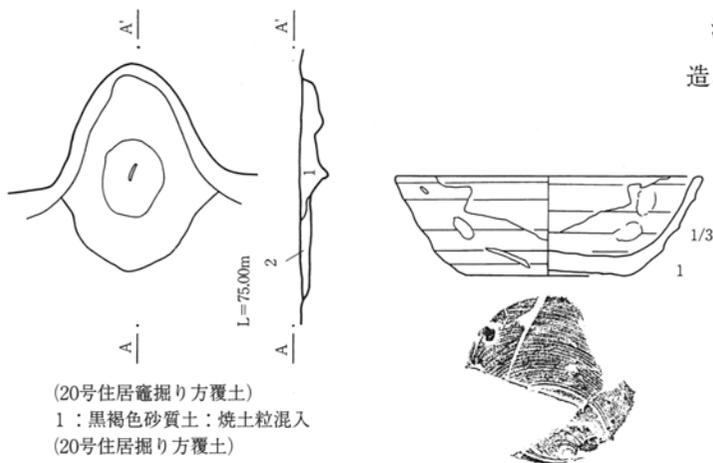
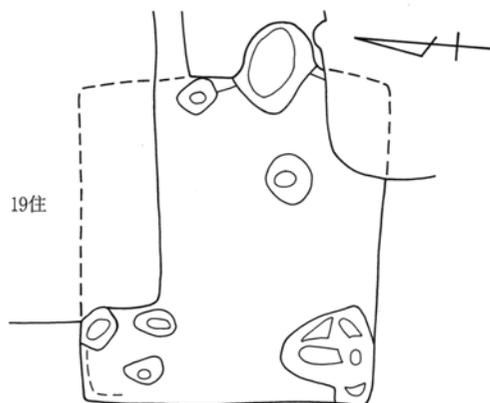
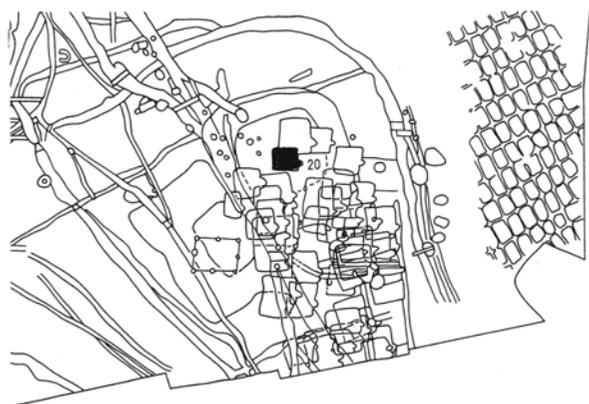
第89図の2 6-2-19号住居と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

埋め戻して床を造っている。

竈は東壁南寄りに造られ、浅い掘り方を灰黄褐色砂質土等で埋め戻して燃烧部としている。袖や天井の構造は不明。

掘り方面の竈右側に貯蔵穴の可能性を持つ窪みが見られたが、その可否を特定することはできなかった。また柱穴も確認されなかった。



(20号住居竈掘り方覆土)
1：黒褐色砂質土：焼土粒混入
(20号住居掘り方覆土)
2：黒褐色砂質土

第90図 6-2-20号住居と出土遺物

(18) 6-2-20号住居 (第90図、図版23・64)

概要 本住居は竪穴住居集中域北端近くに位置し、重複する6-2-19号住居に切られている。

本住居からは須恵器坏(1)や土師器坏・甕・高坏片等若干の遺物が出土している。殆ど掘り方面のみの調査となったため明確ではないが、こうした出土遺物から概ね9世紀後半の所産と把握している。

規模 径：231×260cm

[竈] 幅：(70)cm 奥行き：82cm

構造 本住居は若干縦長の方形プランを呈する。

掘り方を有する。

竈は東壁やや南寄りに設けられる。浅い播鉢様の掘り方を持ち、これを黒褐色土で埋め戻して燃烧面を造っている。袖や天井の構造は分からなかった。

また、柱穴や貯蔵穴も特定できなかった。

(19) 6-2-21号住居 (第91図、図版64)

概要 本住居は竪穴住居集域南西部に位置する。

6-2-2・12号住居と重複するが、調査順位から2号住居の方が新しいものと思慮されるものの、その新旧を特定することはできなかった。

本住居からは墨書のある坏(1)初め土師器坏・甕、須恵器碗等の破片類が出土したが時期特定には至らなかった。概ね9世紀後半頃の所産と想定される。

規模 径：262×318cm

構造 本住居は縦に長い隅丸長方形プランを呈する。

浅い掘り方を有し、暗褐色土等で埋め戻して床を造る。掘り方北東部には径100×85cm、深さ57cm

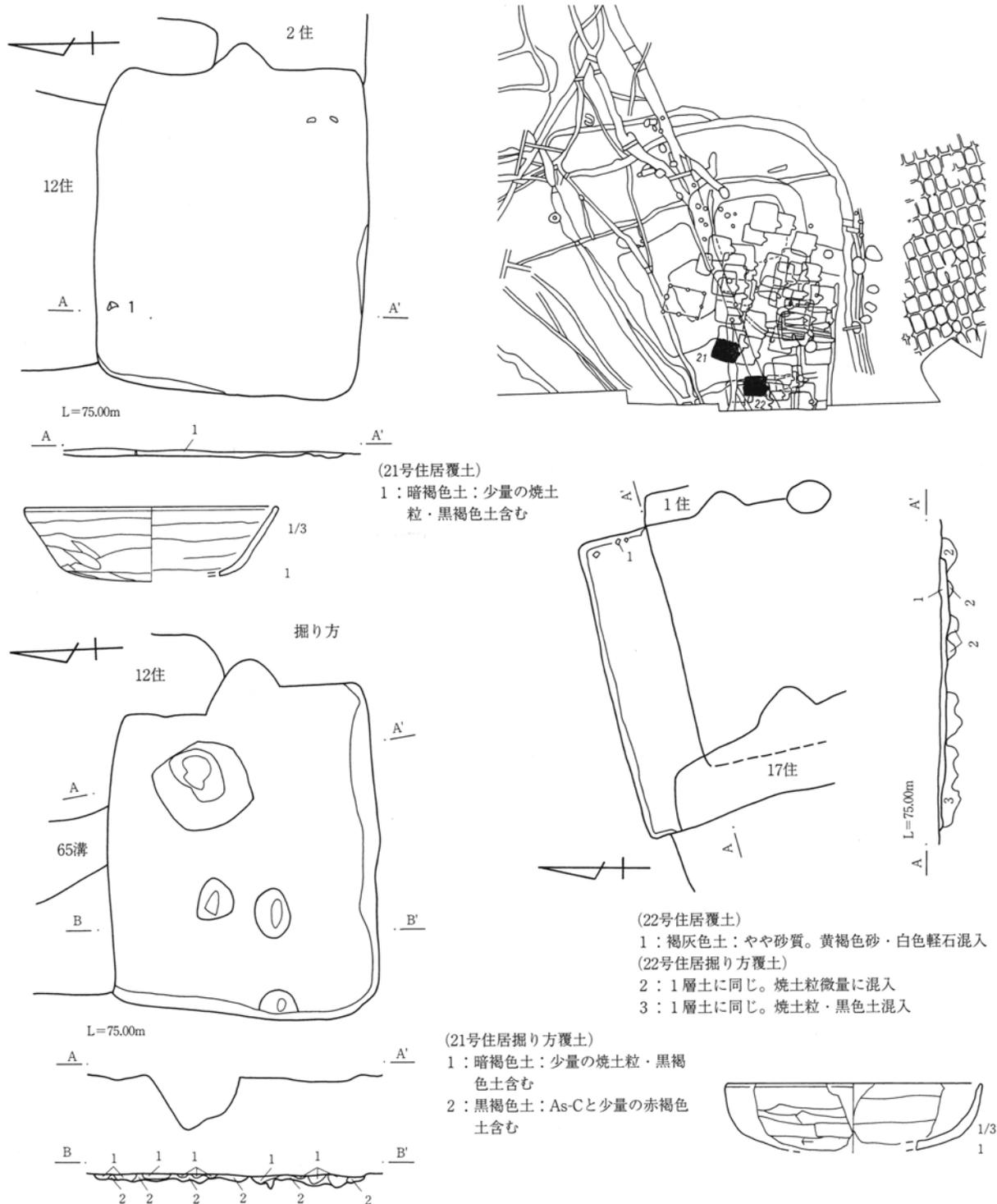
を測る土坑が掘削されるが、性格等は不明。

竈は東壁中央付近にあるが、詳細は不明。尚、柱穴・貯蔵穴は特定されなかった。

(20) 6-2-22号住居

(第91図、図版22・23・64)

概要 本住居も竪穴住居集中域南西部に位置し、6-2-17号住居を切るもの6-2-1・30号住居との新旧関係は特定できなかった。但し、調査順位から1・17号住居よりは古



第91図 6-2-21号住居(左)・22号住居(右)と出土遺物

く、30号住居よりは新しい可能性を有する。

本住居からは土師器坏(1、他)・甕等若干の遺物の出土を見たが、時期特定には至らず、概ね平安期の所産として把握されるに過ぎなかった。

規模 径: 210cm以上×292cm

構造 本住居の全容は不明瞭だが、凡そ方形プランを呈するものと思慮される。

掘り方を有し、褐灰色土で埋め戻して床を造る。竈は東壁中程付近にあるが詳細は不明。

また、柱穴・貯蔵穴も確認することはできなかった。

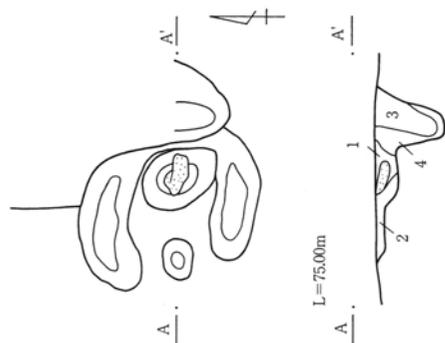
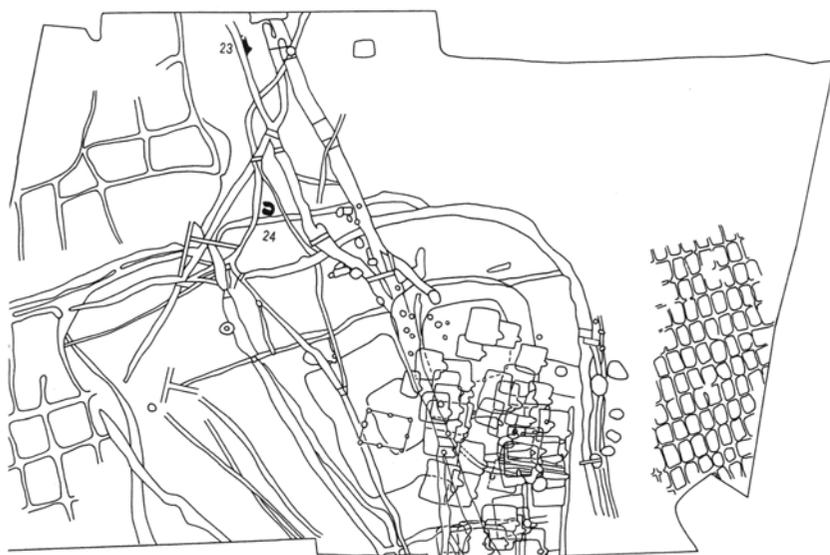
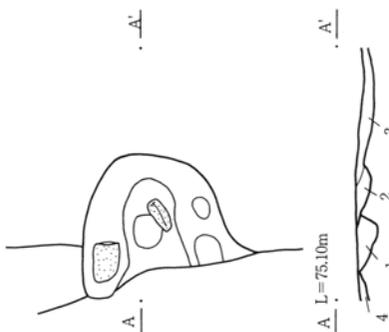
第2章 発見された遺構と遺物



54溝

(土坑様の遺構覆土)

- 1: 褐灰色砂質土: As-C・Hr-FP混入
(23号住居竈掘り方覆土)
- 2: 黒褐色土: 焼土・炭化物粒を混入する
- 3: 褐灰色土: 焼土粒混入
(54号溝覆土)
- 4: にぶい黄橙色土: 細粒のシルト質



第92図 6-2-23号住居・24号住居(上)・(下)

(24号住居)

(竈掘り方覆土)

- 1: 暗褐色土: As-C・焼土・炭化物粒混入
(住居掘り方覆土)
- 2: 黒褐色土: As-Cと若干の焼土粒混入。やや粘性あり
〔ピット覆土か〕
- 3: 褐色土: As-C・Hr-FA粒混入
- 4: にぶい黄橙色砂層

(21) 6-2-23号住居 (第92図、図版23)

概要 本住居は6区北西部北端近くに単独で位置する。遺構の遺存状況は悪く、更に6-2-54号溝や攪乱によって壊されるため、竈とその周辺の掘り方を

確認できたに過ぎなかった。

出土遺物は無く、竈の存在から古墳時代後期以降の所産とできるだけ、時期の想定もできなかった。

規模 残存径: 216×24cm

〔竈〕 幅: (59) cm 奥行き: 54cm

構造 遺存状況が悪いためプランは不明である。

竈は東壁に設けられ、掘り方は焼土を含む黒褐色土で埋め戻されている。袖石やその痕跡と思われる焼土ブロックの入る箇所が残る。また支脚らしい礫もあった。尚、柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

(22) 6-2-24号住居

(第92図、図版23)

概要 本住居も堅穴住居集中域からはずれた6区西南部に位置している。遺構の遺存状況は悪く、竈付近の掘り方面の一部を調査できたに過ぎなかった。

出土遺物はなく、竈の存在から古墳時代後期以降の所産として確認できたに過ぎなかった。

規模 〔竈〕 幅: 72cm 奥行き: 65cm

構造 本住居のプランや掘り方の有無は確認できなかった。

竈は東壁に作られ、掘り方は黒褐色土で埋め戻している。燃焼部を包む袖の設置痕と思われる堀込みが在り、奥寄りに支脚の設置痕らしいピットと自然石が確認されている。

尚、柱穴・貯蔵穴は確認されていない。



(23) 6-2-25号住居 (第93図、図版24)

概要 本住居は6区中西部中程に位置するが、遺存状況は悪く掘り方面のみの調査に留まった。
6-2-63号溝に切られるが、他の竪穴住居との切り合いはなかった。

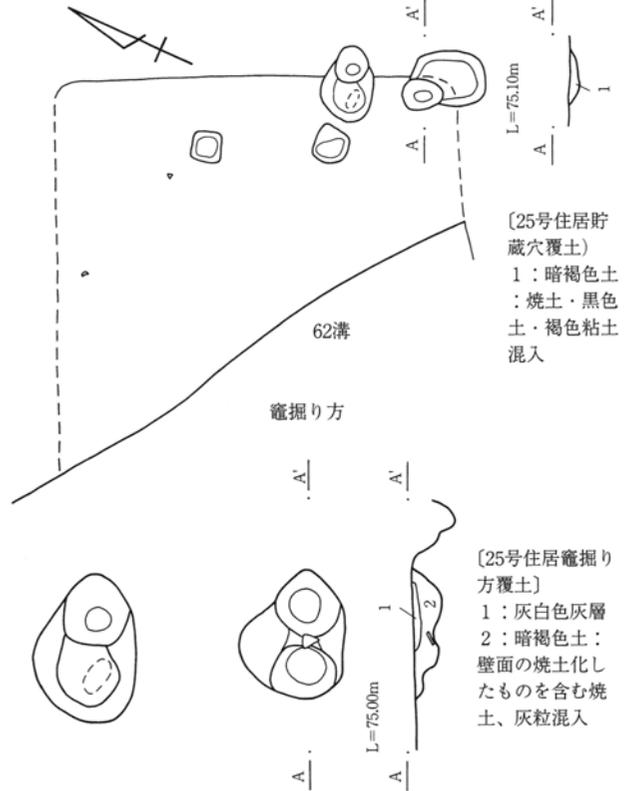
出土遺物は土師器坏片2片のみで、概ね律令期の所産として把握できたに過ぎなかった。

規模 径：340×(331) cm

[竈] 幅：(41) cm 奥行き：(51) cm

[貯蔵穴] 径：60×43cm 深さ：5 cm

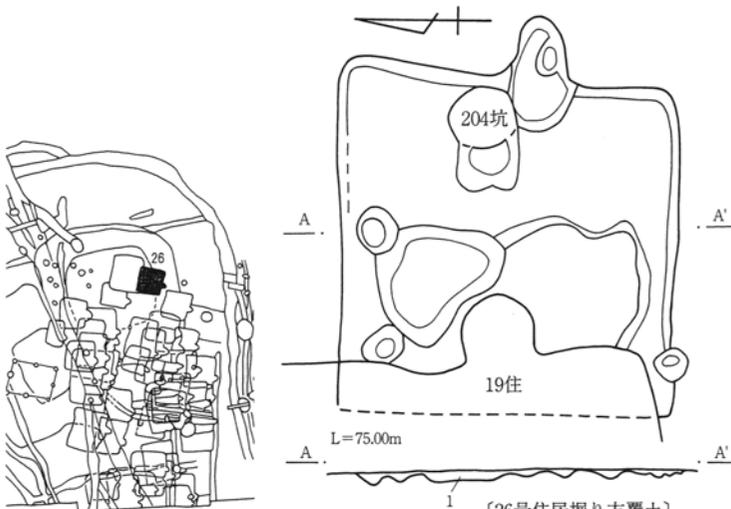
構造 本住居は縦長長方形プランで掘り方を有する。



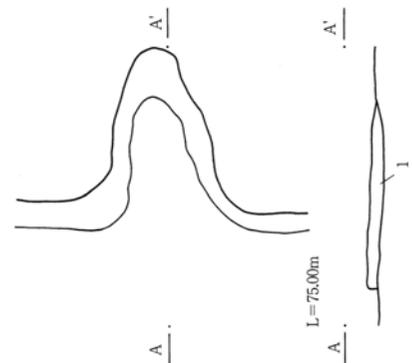
第93図 6-2-25号住居

竈は浅い楕円形プランの掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して焼成面を造っている。上位の構造は不明。

柱穴は見られなかったが、竈右側に隅丸方形プランの貯蔵穴の残穴が確認された。これによって住居の範囲は図示したものより一回り大きくなることが確認された。



[26号住居掘り方覆土]
1：黒褐色砂質土：焼土粒少々混入



[26号住居竈掘り方覆土]
1：黒褐色砂質土：極少量の焼土粒・灰粒混入

第94図 6-2-26号住居

第2章 発見された遺構と遺物

(24) 6-2-26号住居 (第94図、図版24)

概要 本住居は竪穴住居集中域北端部に位置する。6-2-19号住居と重複するが、本住居の方が古い可能性を想定している。

本住居からは土師器を中心に若干の出土遺物を得たが、時期特定には至らず、律令期の所産として把握されたに過ぎなかった。

尚、本住居は遺存状態が悪く、掘り方面を調査できずに過ぎなかった。

規模 径：270×261cm

〔竈〕 幅：(70) cm 奥行き：(73) cm

構造 本住居は隅丸方形のプランを呈する。

掘り方を有し、これを黒褐色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

東壁中央やや南寄りに竈を作る。竈は掘り方を有するが、全体構造の詳細は不明である。

柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

規模 径：295×276cm

〔竈〕 幅：(62) cm 奥行き：(87) cm

構造 本住居は横長の隅丸長方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを黒褐色砂質土で埋め戻して床を造っている。

竈は東壁中央に設けられる。壁のラインを跨いで楕円形様プランの浅い掘り方を掘削して焼土を含む黒褐色砂質土で埋め戻して燃焼面を造っているが、上位構造は不明である。

尚、柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

(26) 6-2-28号住居 (第96図、図版24・64)

概要 本住居は竪穴住居集中域やや北寄りに位置している。6-2-9・10・34・37号住居と重複関係にあるものの遺構からは新旧を特定することはできなかった。しかし乍、出土遺物によって本住居は9・34号住居よりは新しいものと判断される。

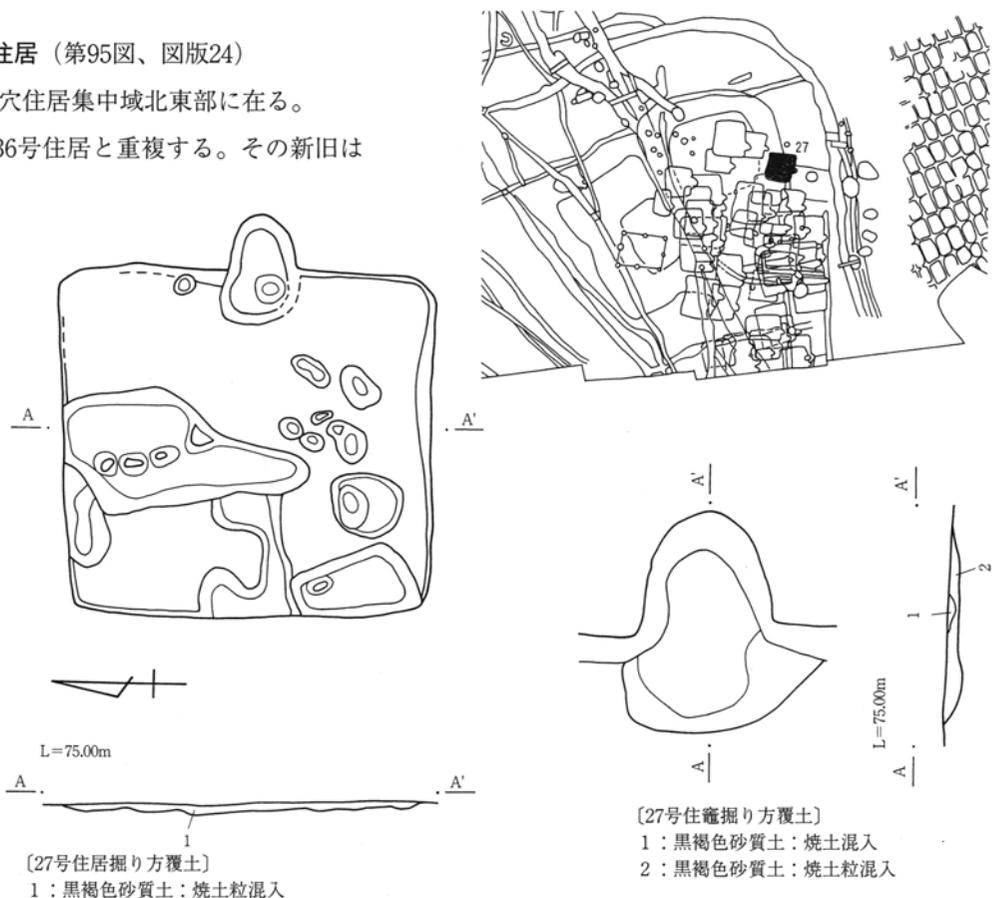
(25) 6-2-27号住居 (第95図、図版24)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部に在る。

本住居は6-2-36号住居と重複する。その新旧は確認できなかったが、確認順位から本住居の方が新しいものである可能性を有している。

本住居からは土師器を中心に若干の土器片が出土しているが、その時期を特定することはできず、僅かに律令期の所産として把握することができたに過ぎなかった。

本住居からは土師器を中心に若干の土器片が出土しているが、その時期を特定することはできず、僅かに律令期の所産として把握することができたに過ぎなかった。



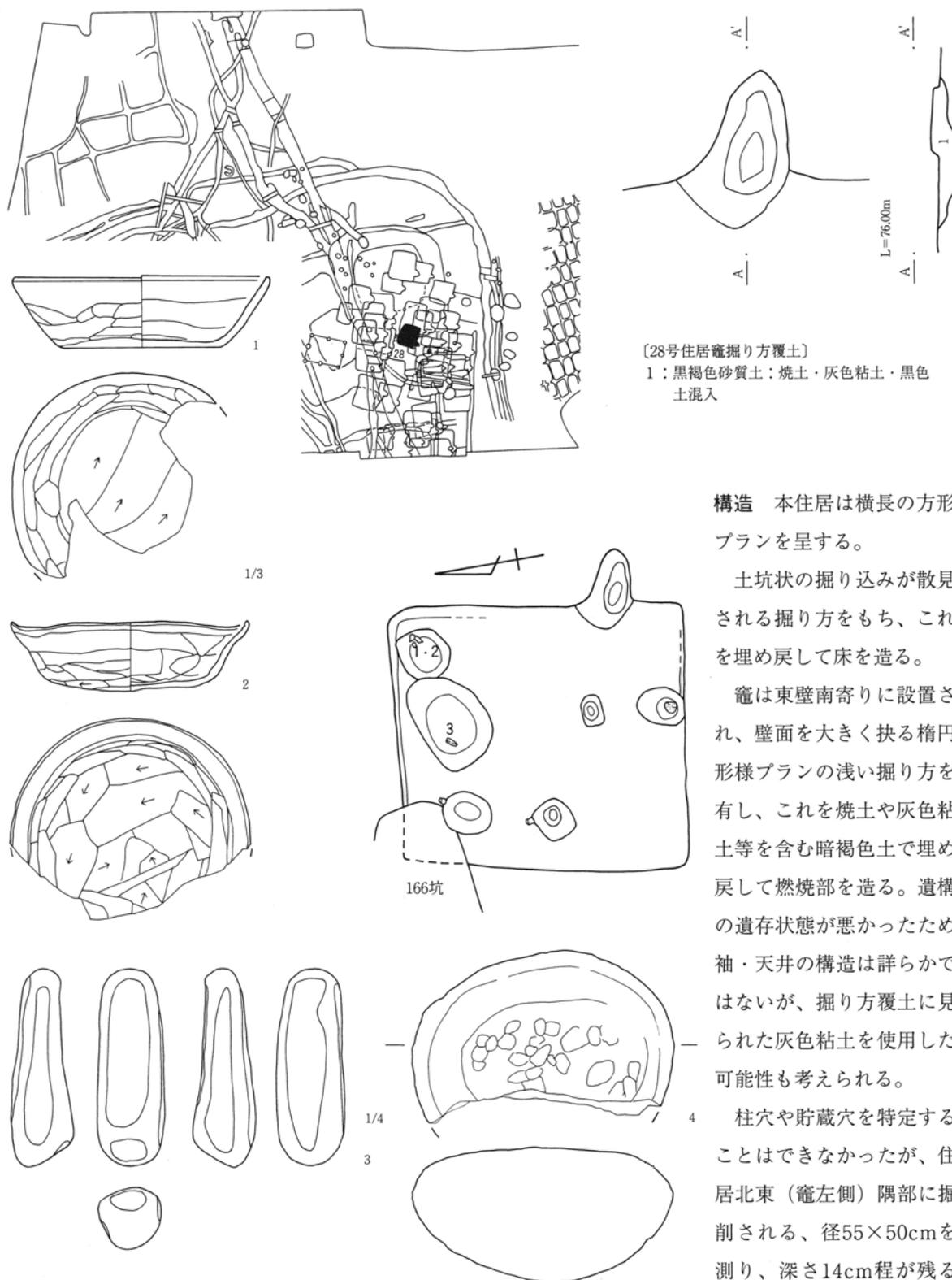
第95図 6-2-27号住居

本住居（掘り方）からは土師器坏（1・2）などの土師・須恵器片や砥石に使用された自然石（3）、或いは台石（4）が出土している。こうした出土遺物

から本住居は9世紀後半期の所産として把握される。

規模 径：286×260cm

〔竈〕 幅：（56）cm 奥行き：（78）cm



〔28号住居竈掘り方覆土〕

1：黒褐色砂質土：焼土・灰色粘土・黒色土混入

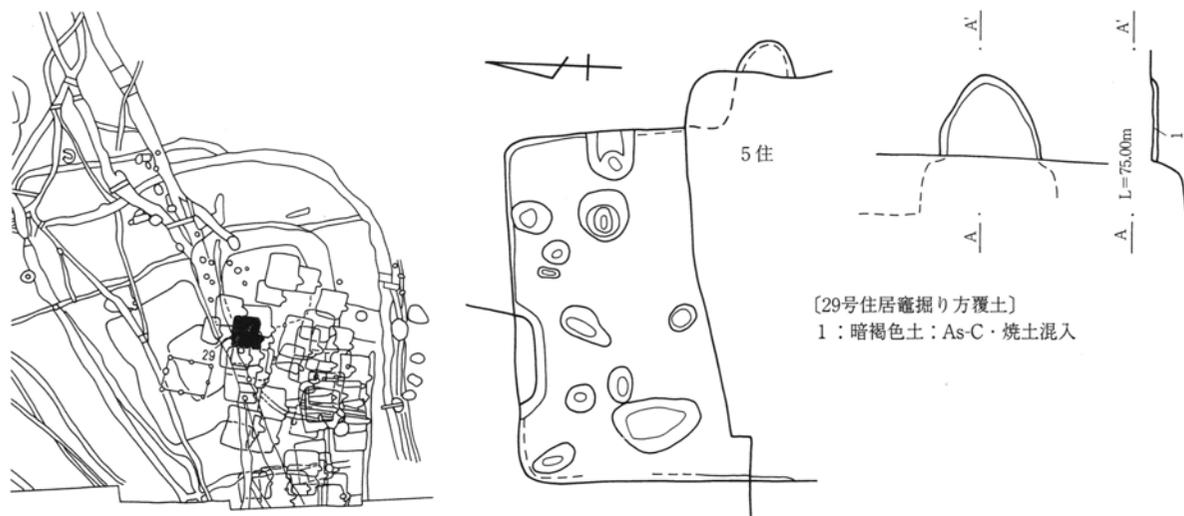
構造 本住居は横長の方形プランを呈する。

土坑状の掘り込みが散見される掘り方もち、これを埋め戻して床を造る。

竈は東壁南寄りに設置され、壁面を大きく挟る楕円形様プランの浅い掘り方を有し、これを焼土や灰色粘土等を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼部を造る。遺構の遺存状態が悪かったため袖・天井の構造は詳らかではないが、掘り方覆土に見られた灰色粘土を使用した可能性も考えられる。

柱穴や貯蔵穴を特定することはできなかったが、住居北東（竈左側）隅部に掘削される、径55×50cmを測り、深さ14cm程が残る土坑がその可能性を有する。

第96図 6-2-28号住居と出土遺物



第97図 6-2-29号住居

(27) 6-2-29号住居 (第97図、図版25)

概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に位置する。

6-2-5・18・33号住居と重複し、遺構確認順位から見ると5号住居より古く、8世紀以前のものとなる可能性も有するが、各住居に対しその新旧は明瞭ではない。

本住居からは土師器片を中心に若干の出土遺物を得たが時期特定には至らず、律令期の所産として把握できたに過ぎなかった。

規模 径：(228)×278cm

[竈] 幅：(44) cm 奥行き：(28) cm

構造 本住居は横長の長方形プランを呈するものと想定され、掘り方を有する。

竈は東壁に設けられている。竈はその多くを5号住居(の建築或いはその調査)によって壊されているため、全容は詳らかでないが、掘り方は焼土を含む暗褐色土で埋め戻している。

柱穴や貯蔵穴を明瞭に確認することはできなかったが、床下に見られたピット様の掘り込みのうちP1(径40×39cm、深さ29cm)とP2(径26×20cm、深さ8cm)は位置的に柱穴の可能性を有するものである。特にP1は底面に柱の荷重に伴う塑性変形と判断される径21×14cmの落ち込みが見られる。またP2の規模もP1の柱の当り痕に準じるため、柱を設置した痕跡の可能性を有する。

(28) 6-2-30号住居 (第98図、図版25・28・65)

概要 本住居は竪穴住居集中域南部の中程に位置している。

6-2-1・22・31・39・40・49号住居と重複する。31号住居を切るものの、他の住居との新旧は遺構の上では特定できなかった。

本住居では掘り方で須恵器蓋片(1)が出土するなど、若干の土師器片や流れ込みの軟質陶器片を確認したものの時期特定には至らなかった。但し本住居は後述の31号住居を切ること等から、概ね9世紀以降の所産としては把握されるものである。

規模 径：(260)×366cm

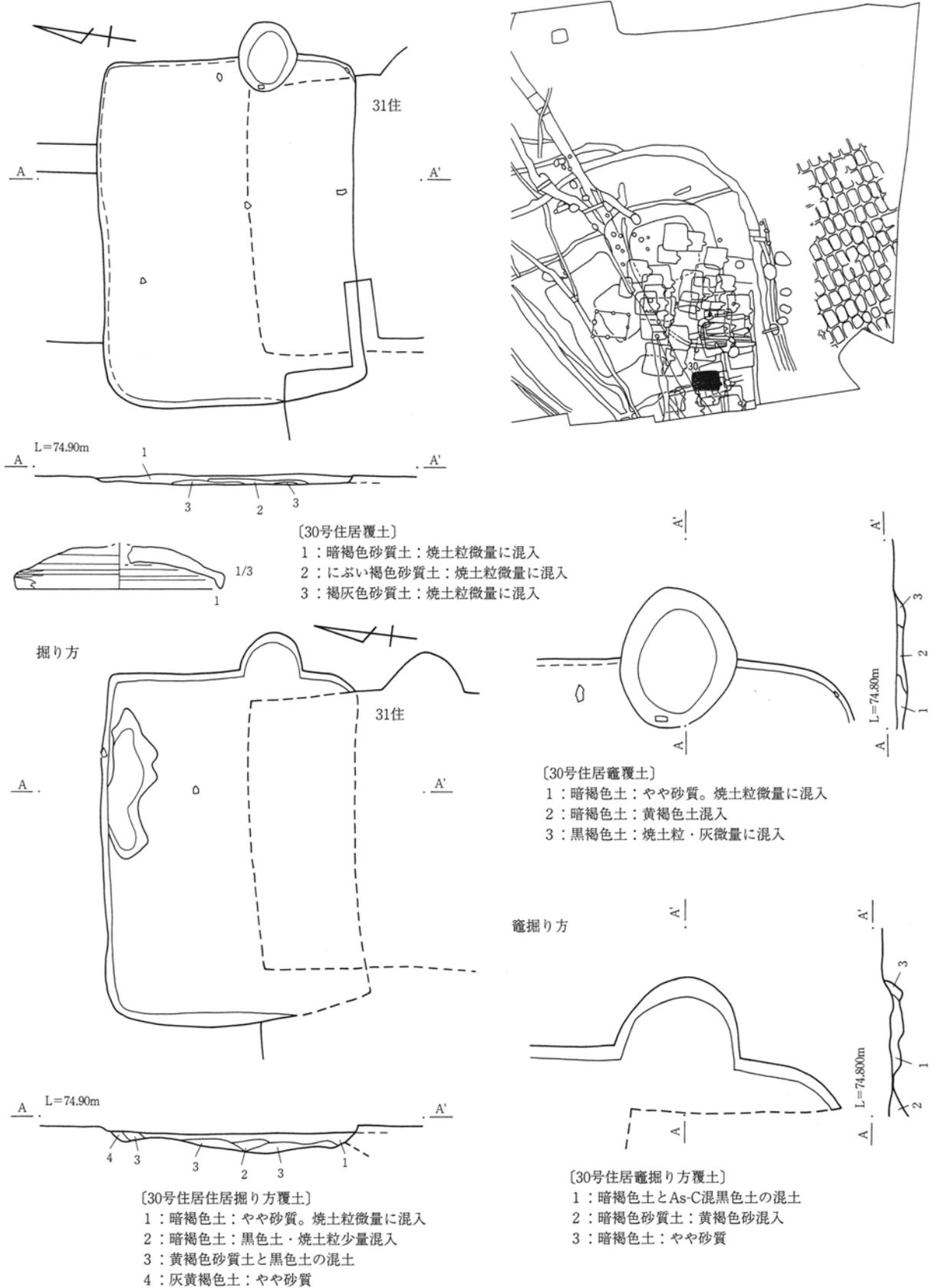
[竈] 幅：(59) cm 奥行き：(72) cm

構造 遺存状況が良好ではなかったため、その構造を明瞭にすることはできなかったが、本住居は縦長の隅丸長方形プランを呈する。

北壁東寄りに浅い帯状の掘り込みを持つ掘り方を有し、これを暗褐色土等種々の土壌で埋め戻して床面を作り出している。

竈は東壁南寄りに設置される。壁のラインを跨いで掘削される浅い掘り方を有し、これを暗褐色土等の土壌で埋め戻して楕円形プランの燃焼面を作り出している。袖や天井等の構造は不明である。

尚、柱穴・貯蔵穴は床面に於いても掘り方面に於いても確認することはできなかった。



第98図 6-2-30号住居と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

(29) 6-2-31号住居 (第99・100図、図版25・65)

概要 本住居は竪穴住居集中域南端部に位置する。

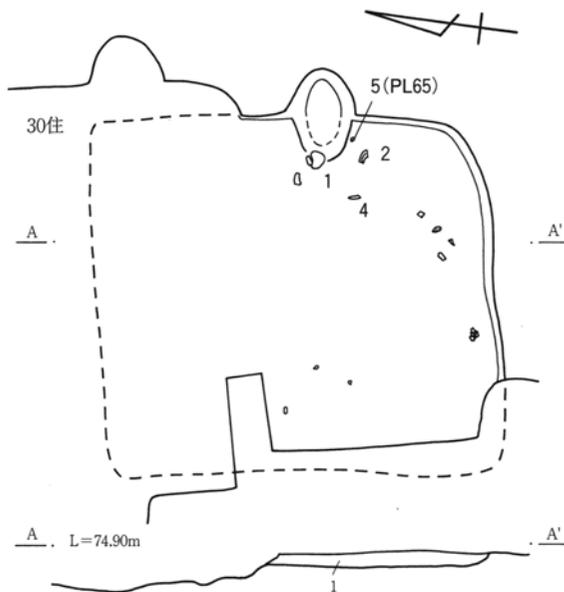
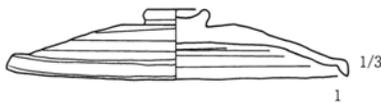
6-2-1・30・39・40・63号住居と重複し、遺構からは30号住居に切られることを確認している。

本住居からは土師器を中心、床面では須恵器蓋(1)、掘り方からは土師器坏(2)、馬具の具(3)、用途不明の鉄製工具(4)の出土があり、竈材に使用されたらしい土師器甕片(6)の出土も見られた。坏・蓋の所見から本住居は9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径：(308) × (286) cm

〔竈〕 幅：(55) cm 奥行き：47cm

〔貯蔵穴〕 径：58×44cm



〔31号住居覆土〕

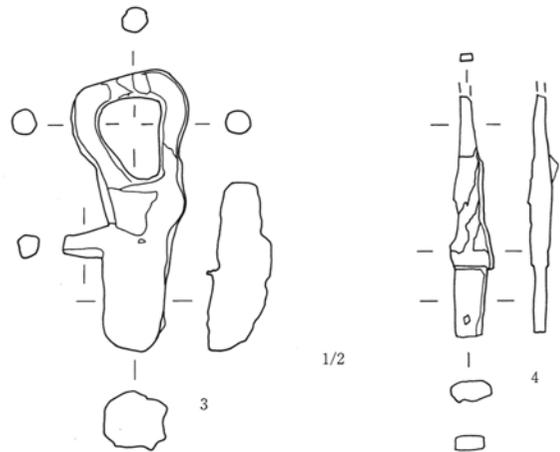
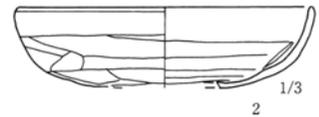
1：にぶい黄褐色砂質土：焼きと炭を混入する

構造 本住居はやや横長の隅丸方形を呈する。

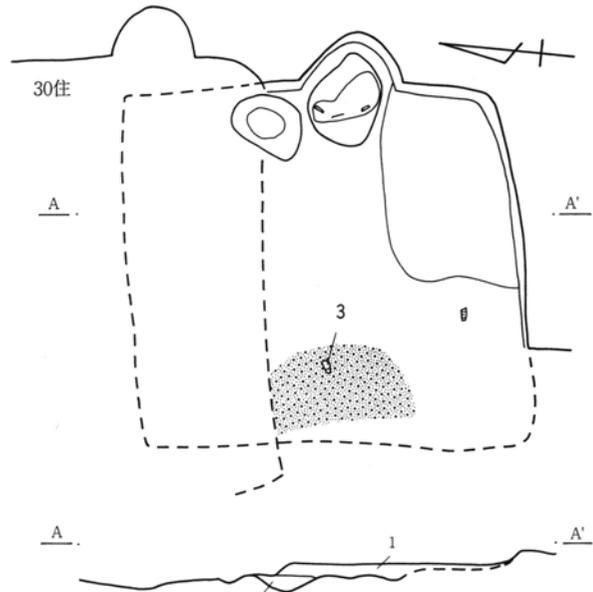
掘り方を褐灰色土等で埋め戻して床を造っている。

竈は東壁中央やや南寄りに造られ、楕円形プランの浅い掘り方を焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。尚、袖・天井の構造は不明。

柱穴はないが、貯蔵穴と想定される土坑が床面に於いて確認されている。床面からの深さは14cm。



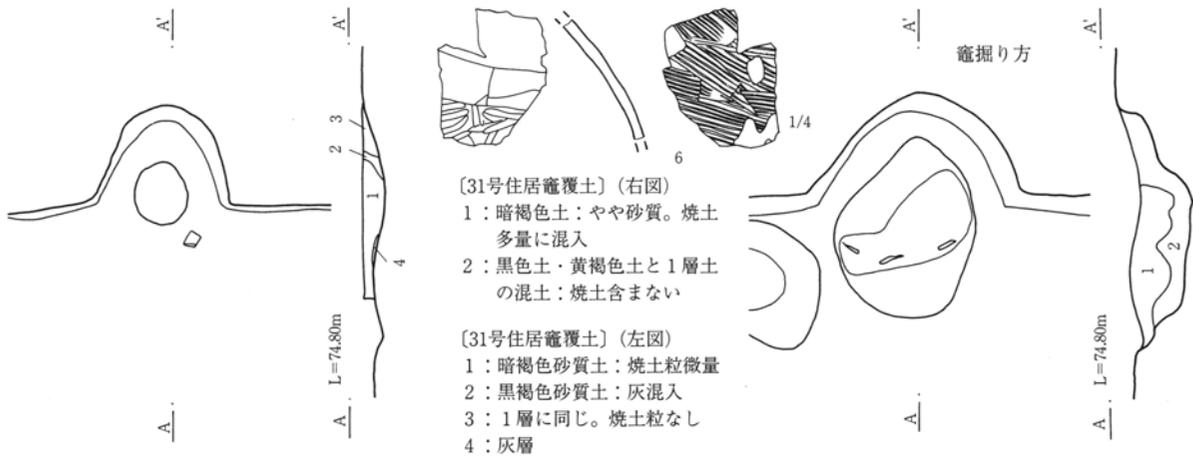
掘り方



〔31号住居掘り方覆土〕

1：褐灰色土：やや砂質
2：黄褐色砂質土：黒色土ブロック状に混じる

第99図 6-2-31号住居と出土遺物 (その1)



第100図 6-2-31号住居と出土遺物 (その2)

(30) 6-2-32号住居 (第101図、図版25・26・65)

概要 本住居は竪穴住居集中域南端部に位置し、遺存状態は不良で、6-2-34・36・37・38・42・53号住居と重複するが新旧は特定できなかった。

本住居では土師器片を中心に遺物の出土があった。時期特定はできなかったが、土師器坏(1)等の出土から推して9世紀前半前後の所産と想定している。

規模 径: 262×(243) cm

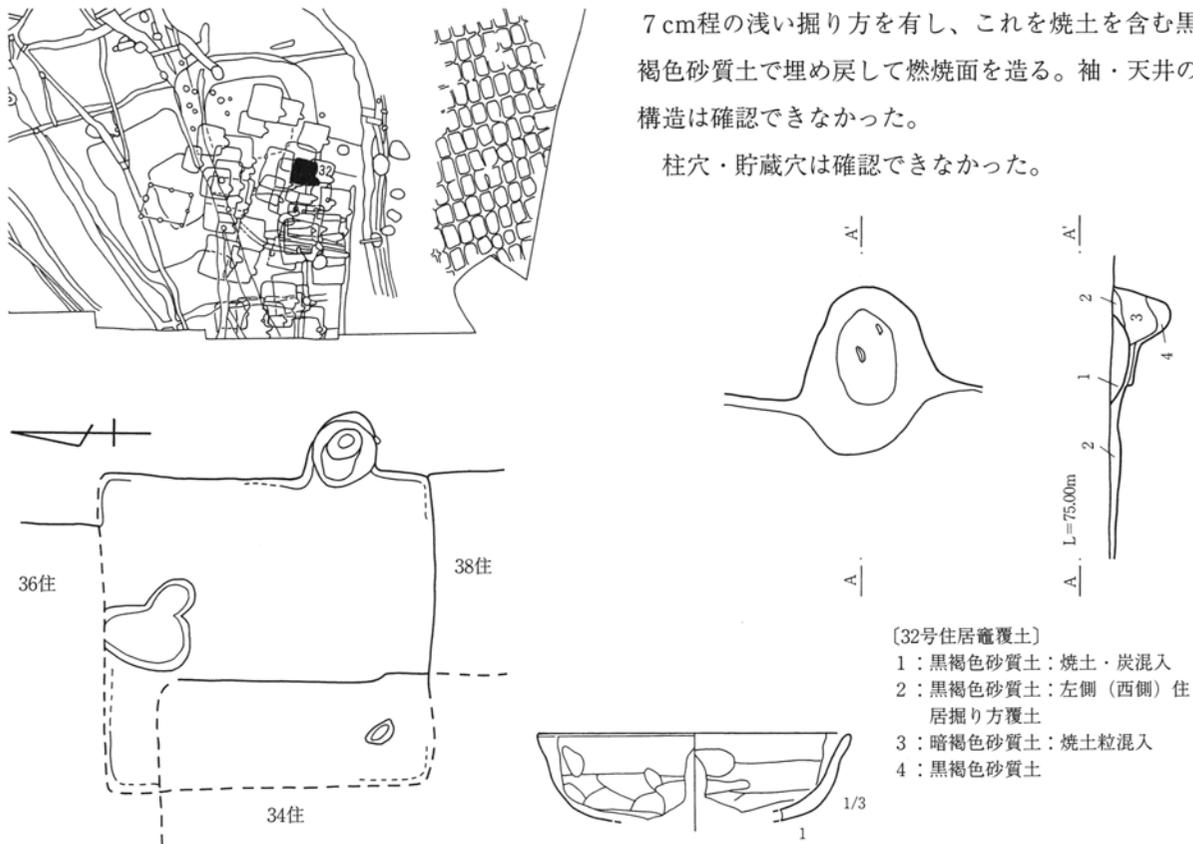
[竈] 幅: (66) cm 奥行き: 66cm

構造 本住居はやや横長の方形プランを呈する。

浅い掘り方を有するようで、これを黒褐色砂質土で埋め戻して床を造っている。

竈は東壁南寄りに設置される。壁を掘り込んだ位置を中心に奥側に23cm程の掘り込みを持つ、深さ7cm程の浅い掘り方を有し、これを焼土を含む黒褐色砂質土で埋め戻して燃焼面を造る。袖・天井の構造は確認できなかった。

柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。



第101図 6-2-32号住居と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

(31) 6-2-33号住居 (第102図、図版27・65)

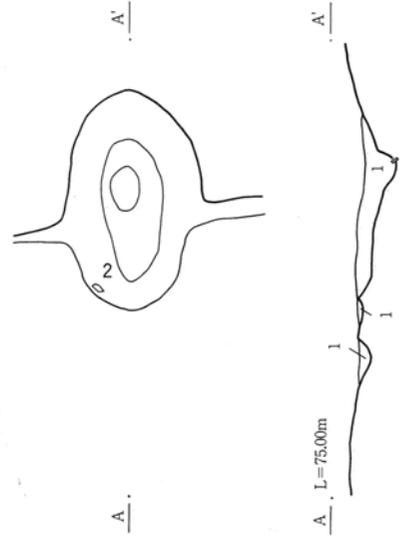
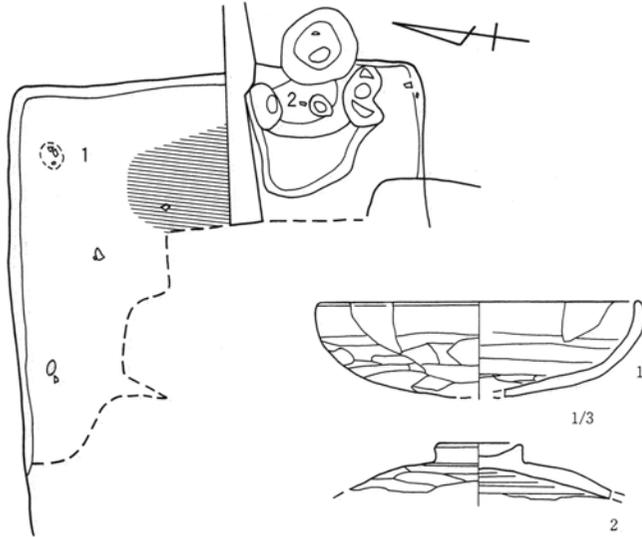
概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に在るが、周囲の竪穴住居と一括で掘削しているため確認状態は良くない。また6-2-5・18・29・52号住居と重複するが、遺構面で新旧は特定できなかった。

本住居では床上から土師器杯(1)、覆土中から須恵器蓋(2)等の土師器を中心とした遺物が出土した。明確ではないがこれらの出土遺物から本住居は概ね9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径：316×(318) cm

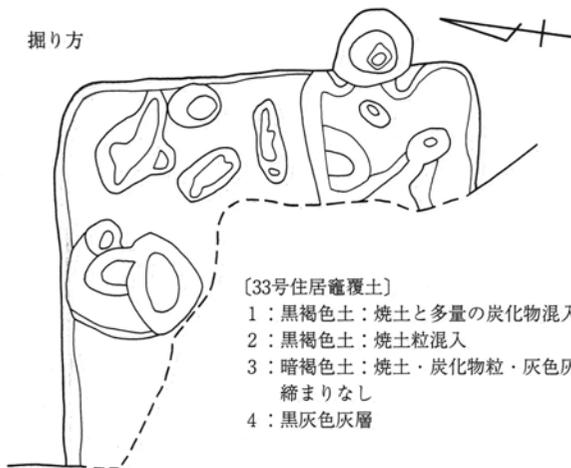
〔竈〕 幅：103cm 奥行き：95cm

構造 本住居の全容は詳らかでないが、縦長の隅丸長方形プランを呈し、掘り方を有している。

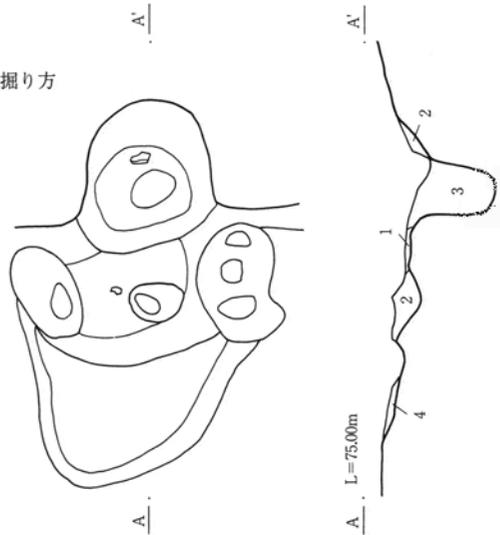


〔33号住居竈覆土〕
1：暗褐色土：焼土・炭化物粒混入

掘り方

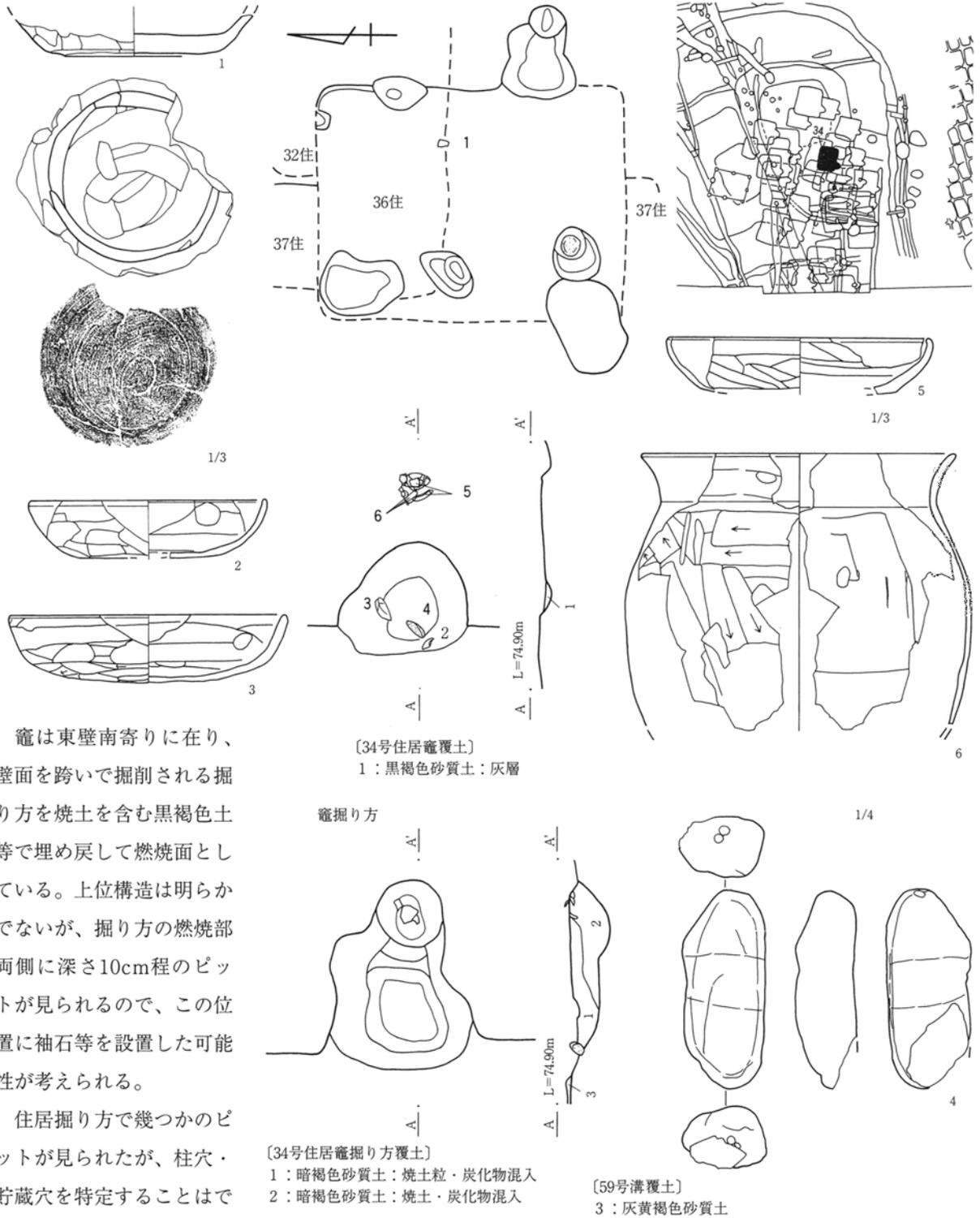


竈掘り方



〔33号住居竈覆土〕
1：黒褐色土：焼土と多量の炭化物混入
2：黒褐色土：焼土粒混入
3：暗褐色土：焼土・炭化物粒・灰色灰混入。
締まりなし
4：黒灰色灰層

第102図 6-2-33号住居と出土遺物

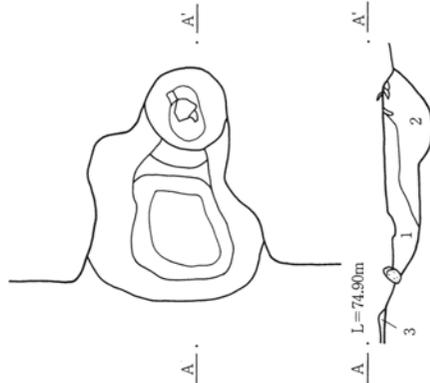


竈は東壁南寄りに在り、壁面を跨いで掘削される掘り方を焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して焼面としている。上位構造は明らかでないが、掘り方の焼面両側に深さ10cm程のピットが見られるので、この位置に袖石等を設置した可能性が考えられる。

住居掘り方で幾つかのピットが見られたが、柱穴・貯蔵穴を特定することはできなかった。

[34号住居竈覆土]
1：黒褐色砂質土：灰層

竈掘り方



[34号住居竈掘り方覆土]
1：暗褐色砂質土：焼土粒・炭化物混入
2：暗褐色砂質土：焼土・炭化物混入

[59号溝覆土]
3：灰黄褐色砂質土

第103図 6-2-34号住居と出土遺物

(32) 6-2-34号住居(第103図、図版26・27・65・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域北部に位置するが、一部を除いて掘り片面の調査となっている。

6-2-9・29・36~38号住居と重複するが、遺構

面では新旧を特定することはできなかった。

本住居からは若干の遺物出土があったが、掘り方で須恵器坏(1)、竈の焼面から土師器坏(2・3)と支脚に転用されたと判断される敲石

第2章 発見された遺構と遺物

(4)、煙道に伴うと判断される土師器の坏(5)と甕(6)などが見られた。こうした遺物から本住居は9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径：300×226cm

〔竈〕 (本体)幅：(82)cm 奥行き：93cm

(煙道)幅：31cm 奥行き：43cm

構造 本住居は横長の隅丸方形プランを呈し、掘り方を有する。

竈は東壁の南寄りに設けられる。壁面を入り込んだ位置を中心とした隅丸台形プランの掘り方が掘削され、壁を削り込む煙道が掘削される。煙道は奥壁手前に径31×33cmの柱穴状の掘り込みが設けられ、その上位は土師器甕等を据えて擁護している。

尚、掘り方面には掘り込みが散見されたが、柱穴・貯蔵穴は特定できなかった。

(33) 6-2-35号住居(第104図、図版26・27・66)

概要 本住居は掘り方面を調査した本住居は竪穴住居集中域中部に在る。6-2-8・9・43~36号住居と重複するが、新旧を明確には特定できなかった。

本住居からは須恵器碗(1)等を含む若干の出土遺物を得たが、時期特定には至らず、律令期の所産として把握されるに過ぎなかった。

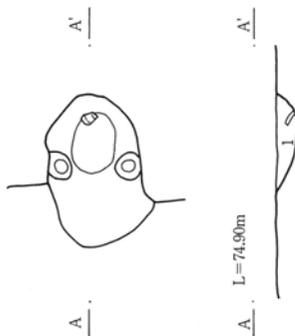
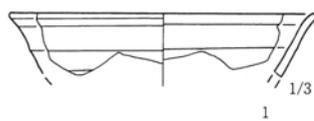
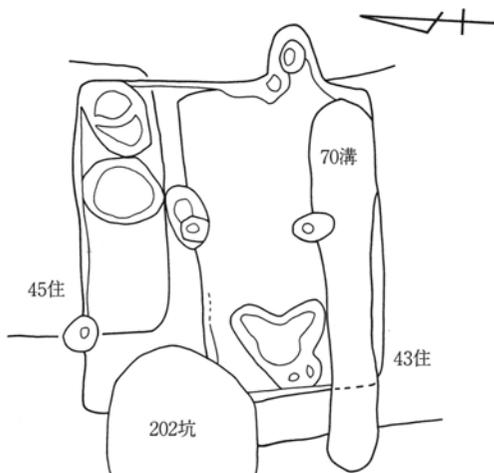
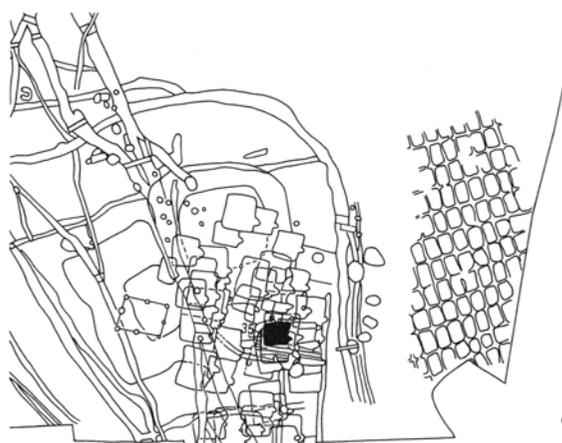
規模 径：(237)×250cm

〔竈〕 幅：(42)cm 奥行き：60cm

構造 本住居のプランは隅丸方形で、掘り方を持つ。

竈は東壁南寄り壁を跨いで楕円形プランの掘り方を掘削し、暗褐色土等で埋め戻している。上位の構造は不明だが、壁面外側の左右両側に在る径10cm程の浅い落ち込みに袖材等の設置が窺われる。

柱穴や貯蔵穴は確認されなかった。



〔35号住居竈掘り方覆土〕
1：暗褐色土・黄褐色土と若干の焼土粒・炭化物粒混入

(34) 6-2-36号住居(第105図、図版26・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域中部に位置し、6-2-27・32・34・37・53号住居と重複する。しかし、遺構としてその新旧を特定することはできなかった。

土師器を中心に若干の出土遺物を得たが、概ね律令期の所産として把握できたに過ぎなかった。竈掘り方からも編み石(1)が出土している。

規模 径：(320)×325cm

〔竈〕 径：(78)×46cm

〔貯蔵穴〕 径：38×70cm

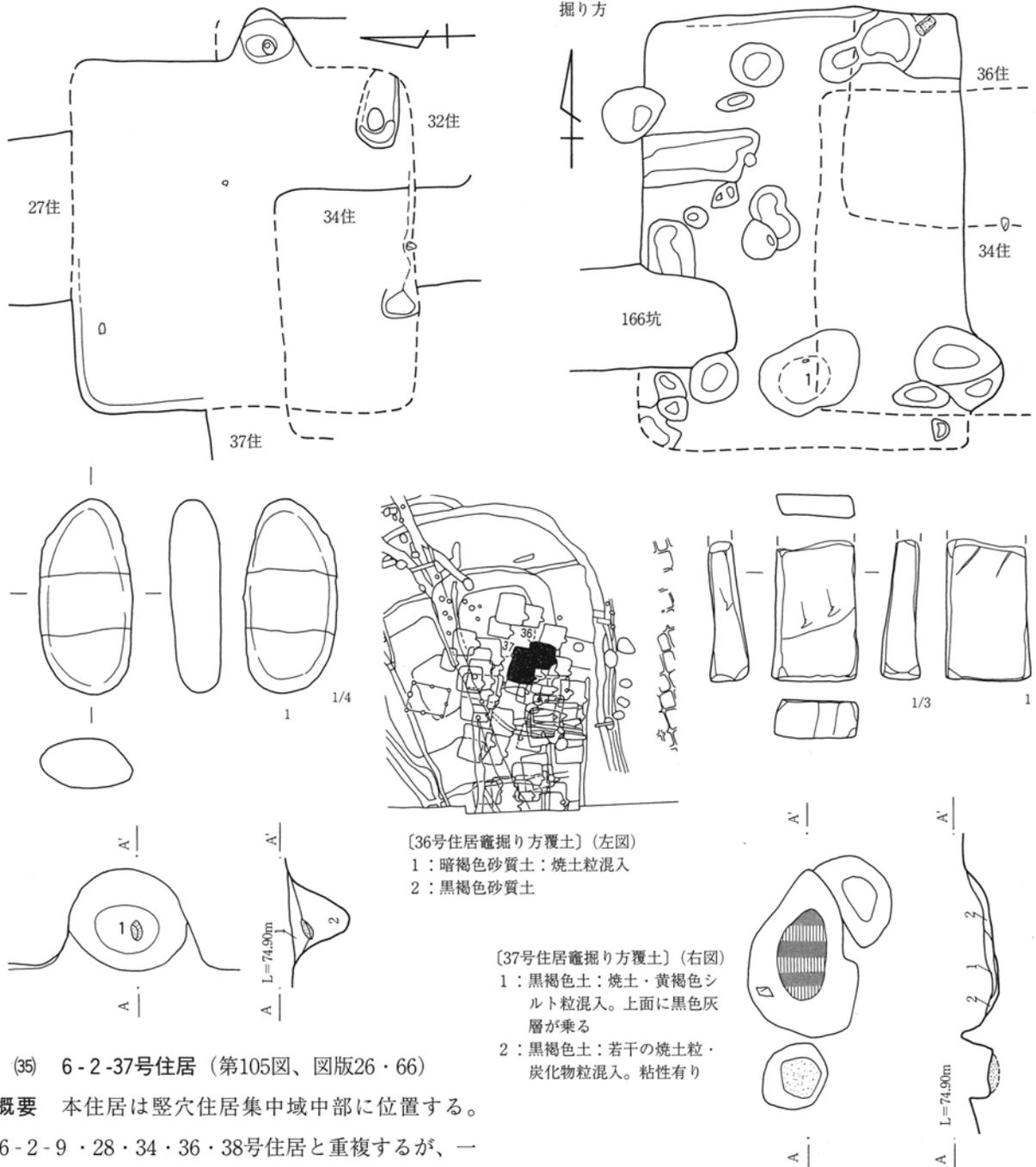
深さ：8cm

構造 本住居のプランは隅丸方形で、掘り方を有する。

竈は東壁中央やや南寄りに在り、壁面より奥に横長の楕円形プランの掘り込みを有する。掘り方中央から出土したこも編み石は支脚としての使用が考慮される。

尚、柱穴は確認できなかったが、貯蔵穴は竈右側に確認されている。

第104図 6-2-35号住居と出土遺物



〔36号住居竈掘り方覆土〕(左図)
 1: 暗褐色砂質土: 焼土粒混入
 2: 黒褐色砂質土

〔37号住居竈掘り方覆土〕(右図)
 1: 黒褐色土: 焼土・黄褐色シルト粒混入。上面に黒色灰層が乗る
 2: 黒褐色土: 若干の焼土粒・炭化物粒混入。粘性有り

(35) 6-2-37号住居 (第105図、図版26・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域中部に位置する。6-2-9・28・34・36・38号住居と重複するが、一括で掘削しているため新旧は特定できなかった。

本住居からは砥石(1)の他、僅かな量の土師器片が出土したが、概ね律令期の所産として把握できるだけで時期特定には至らなかった。

尚、本住居の調査は掘り方面に限られている。

規模 径: 406×302cm

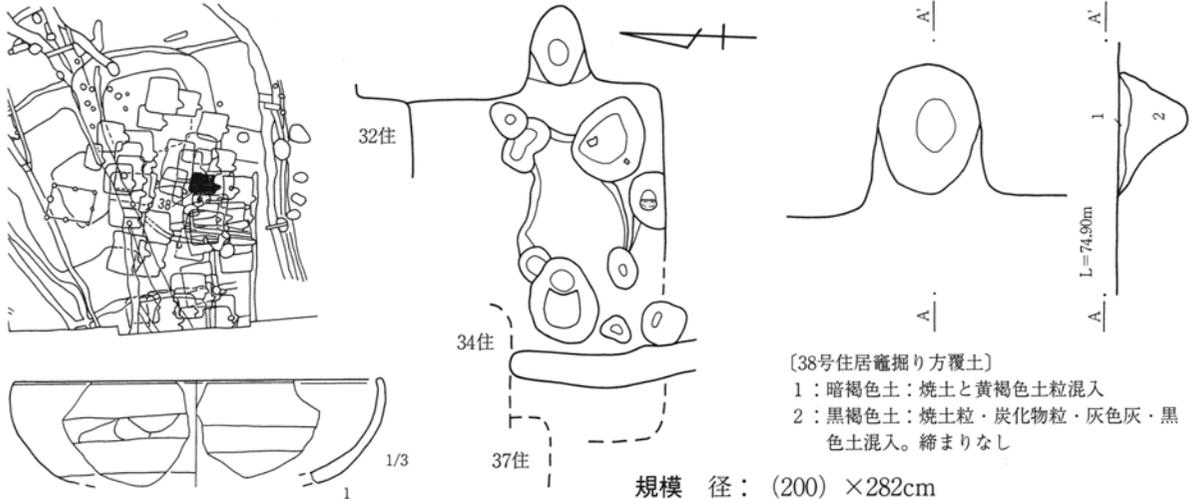
〔竈〕 幅: (50) cm 奥行: 77cm

構造 本住居は横長の隅丸長方形プランを呈し、掘り方を有する。

第105図 6-2-36号住居(左)・37号住居(右)と出土遺物

竈は東壁南寄に設けられ、壁を若干跨ぐ楕円形様のプランを呈する掘り方を掘削する。これを焼土の入る黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼面には焼土化も見られる。上位構造は不明だが、燃焼部手前に石が置かれている。

本住居の掘り方面には多数のピット様の掘り込みが見られるが、柱穴・貯蔵穴は特定できなかった。



第106図 6-2-38号住居と出土遺物

(36) 6-2-38号住居 (第106図、図版26・66)

概要 竪穴住居集域中東部に在る本住居は6-2-32号住居等と一括で掘削し、且つほぼ掘り方面の調査に留まったため全容は詳らかでない。6-2-9・32・34・42・45号住居と重複するが、新旧不特定。

また坏(1)等の土師器を中心に若干の出土遺物を得たが、9世紀前半前後の所産と想定されるだけで時期特定には至らなかった。

規模 径：(200)×282cm

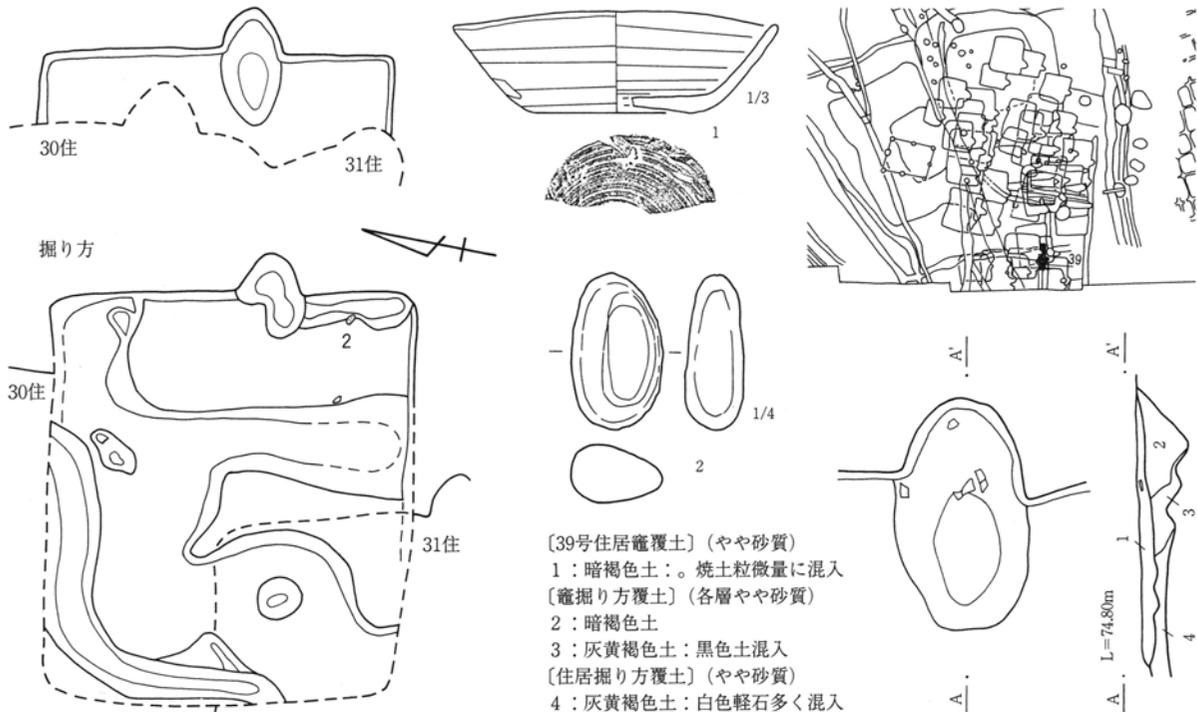
[竈] 幅：(52)cm 奥行：(55)cm

構造 上述のように本住居は遺存状態が悪いため、その構造も不明な点が多いが、プランは横長の隅丸方形を呈するものと判断され、掘り方を有する。

竈は東壁南寄りに造られ、壁を掘り込んで掘削されたピット状の掘り方を焼土や灰を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。上位の構造は確認できなかった。

尚、柱穴・貯蔵穴は明確には特定できなかった。

[38号住居竈掘り方覆土]
1：暗褐色土：焼土と黄褐色土粒混入
2：黒褐色土：焼土粒・炭化物粒・灰色灰・黒色土混入。締まりなし



第107図 6-2-39号住居と出土遺物

[39号住居竈覆土](やや砂質)
1：暗褐色土：。焼土粒微量に混入
[竈掘り方覆土](各層やや砂質)
2：暗褐色土
3：灰黄褐色土：黒色土混入
[住居掘り方覆土](やや砂質)
4：灰黄褐色土：白色軽石多く混入

(37) 6-2-39号住居 (第107図、図版26・28・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域南端近くに位置する。

6-2-30・31・48・49・56・63号住居と重複するが、新旧は特定できなかった。また東寄りて床を確認したが多くは掘り方面の調査に留まった。

本住居からは土師器・須恵器や磨石(2)など若干の出土遺物を得たが、覆土中出土の須恵器坏(1)から概ね9世紀後半頃の所産と想定される。

規模 径：288×326cm

〔竈〕 幅：(52) cm 奥行き：91cm

構造 本住居は縦長の隅丸方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを灰黄褐色土等で埋め戻して床を造る。尚、掘り片面中南部にも竈跡を認識している。

竈は東壁中央やや南寄りに在り、壁面を跨ぐ楕円形プランの掘り方を焼土を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。上位の構造は確認できなかった。

柱穴、貯蔵穴はなかった。

(38) 6-2-40号住居

(第108図、図版28・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域南端近くに位置する。

6-2-1・22・30・31・61・63号住居と重複し、確認順位から1号住居よりは古くなる可能性を有するが他の住居と一括で掘削したため全容は詳らかでない。また、住居南西側は6-1-45号溝に大きく切られている。

本住居からは土師器片を中心に若干の出土遺物を得

たが、このうち竈掘り方出土の土師器甕(1)によって9世紀前半期の所産として把握される。

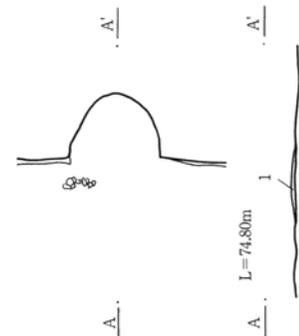
規模 径：242×(222) cm

〔竈〕 幅：(42) cm 奥行き：(43) cm

構造 本住居は縦長の隅丸長方形プランを呈し、掘り方を有する。

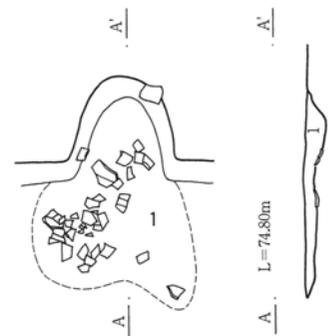
竈は東壁南寄りに設置される。土師器甕片の散乱する掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。上位構造は不明。

また、柱穴・貯蔵穴も確認できなかった。

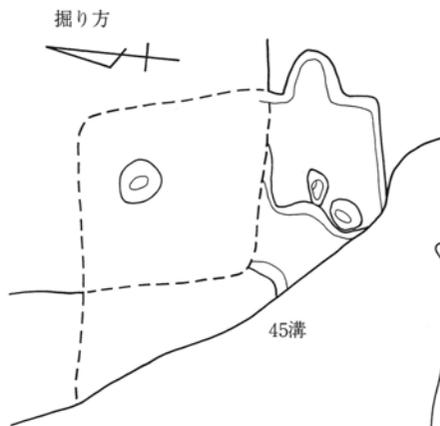


〔40号住居竈覆土〕
1：灰褐色土：焼土多量に混入

竈掘り方



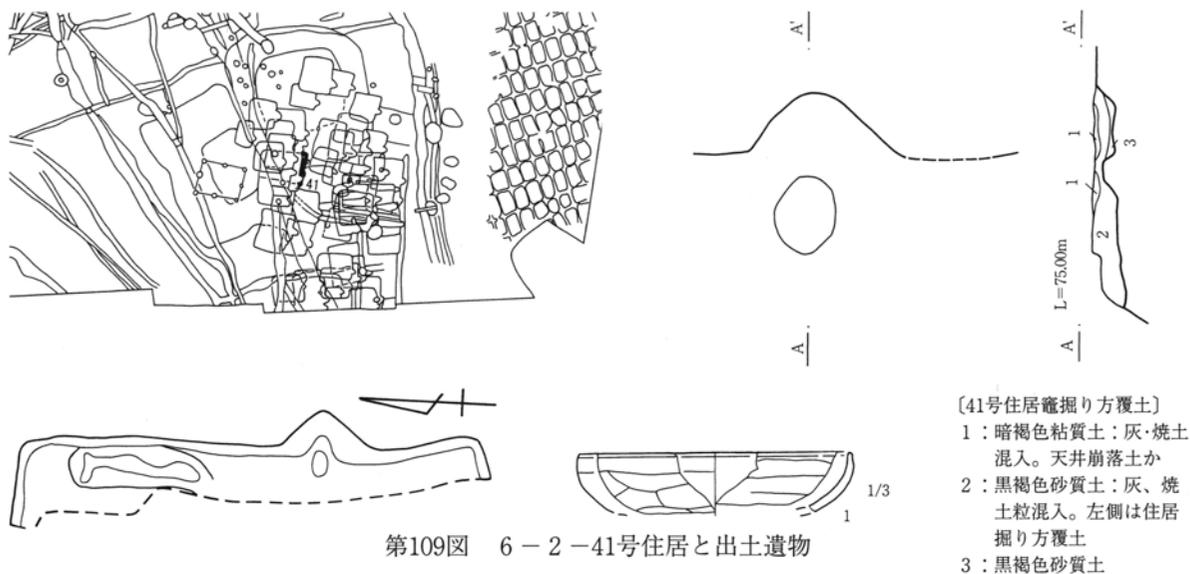
〔40号住居竈覆土〕
1：黒褐色土：黒色土・黄褐色土・砂の混土。灰と微量の焼土粒混入



第108図 6-2-40号住居と出土遺物

1/4 1

第2章 発見された遺構と遺物



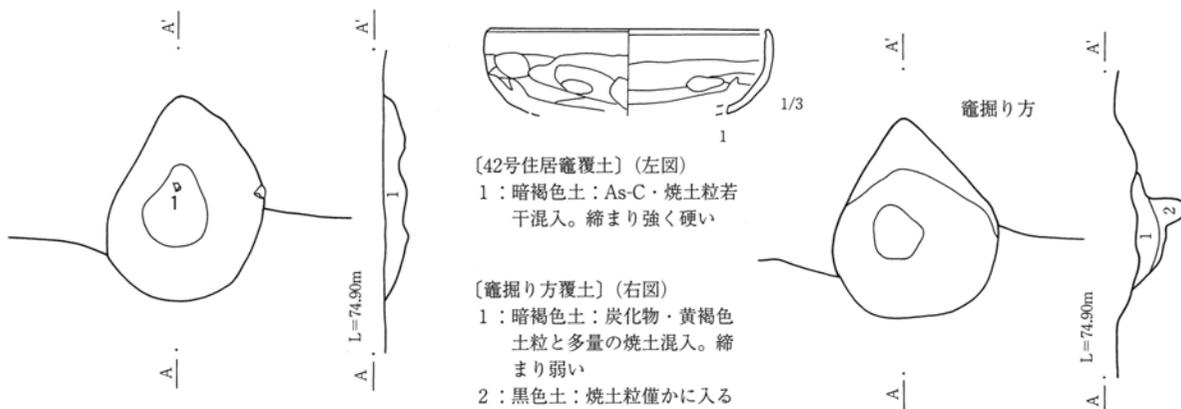
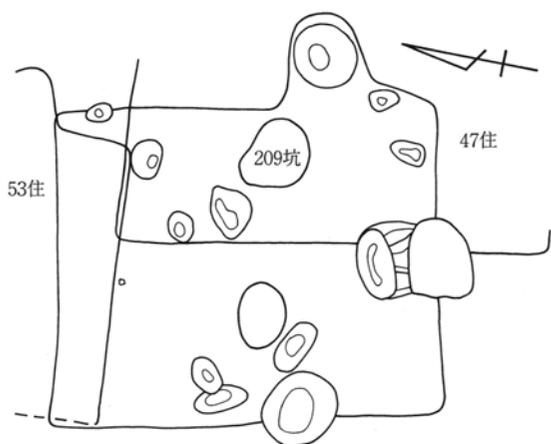
第109図 6-2-41号住居と出土遺物

- 〔41号住居竈掘り方覆土〕
 1：暗褐色粘質土：灰・焼土混入。天井崩落土か
 2：黒褐色砂質土：灰・焼土粒混入。左側は住居掘り方覆土
 3：黒褐色砂質土

(39) 6-2-41号住居 (第109図、図版28・66)
概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に在り、掘り方を調査した。6-2-3・4・5・10・13・50・52号住居と重複し、確認順位から3・4・10号住居の

方が新しい可能性もあるが新旧は確認できなかった。
 本住居からは坏(1)等の土師器を中心に若干の遺物が出土したが、9世紀前半頃中心の律令期の所産とできるだけ、明確な時期は特定できなかった。

規模 径：378×(87) cm
 〔竈〕 幅：(61) cm 奥行き：(63) cm



- 〔42号住居竈覆土〕 (左図)
 1：暗褐色土：As-C・焼土粒若干混入。締まり強く硬い

- 〔竈掘り方覆土〕 (右図)
 1：暗褐色土：炭化物・黄褐色土粒と多量の焼土混入。締まり弱い
 2：黒色土：焼土粒僅かに入る

第110図 6-2-42号住居と出土遺物

構造 本住居は一部を調査しただけなので、遺構の全容は不明だが、プランは方形を呈するようである。

掘り方を有し、黒褐色砂質土等で埋め戻している。

竈は東壁の中央寄りやや南側に設けられる。壁を跨いで浅い掘り方が掘削され、これを灰や焼土を含む黒褐色砂質土等で埋め戻して焼面を作っている。上位構造は確認できなかった。

また、柱穴・貯蔵穴も確認できなかった。

(40) 6-2-42号住居 (第110図、図版29・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部に位置する。竈を除いて掘り片面の調査に終わっている。

6-2-32・38・44・45・47・53号住居と重複するが一括で掘削しているため新旧は特定できなかった。

本住居からは坏(1)等の土師器を中心に若干の出土遺物を得たが9世紀前半頃を中心とする律令期の所産とできるだけで時期特定には至らなかった。

規模 径：301×264cm

〔竈〕 幅：(62) cm 奥行：80cm

構造 本住居は横長の隅丸方形プランを呈し掘り方を有する。

竈は東壁南寄りに設けられ掘り方を焼土を多く含む暗褐色土等で埋め戻して焼面を作っている。尚、袖や天井の上位構造は確認できなかった。

また柱穴や貯蔵穴も特定できなかった。

(41) 6-2-43号住居 (第111図、図版29)

概要 掘り方の調査であった本住居は竪穴住居集中域中南部に位置し、6-2-7・8・35・57号住居と重複するが、確認順位から7・8号住居の方が新しい可能性を持つものの新旧は特定できなかった。

本住居からは土師器片を中心とした遺物の出土を見たが、時期特定には至らず、平安時代を中心とする律令期の所産とできるに過ぎなかった。

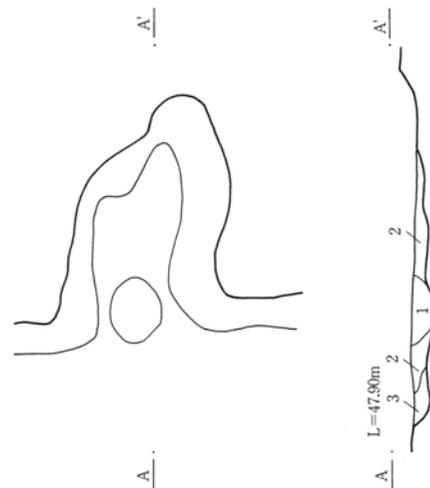
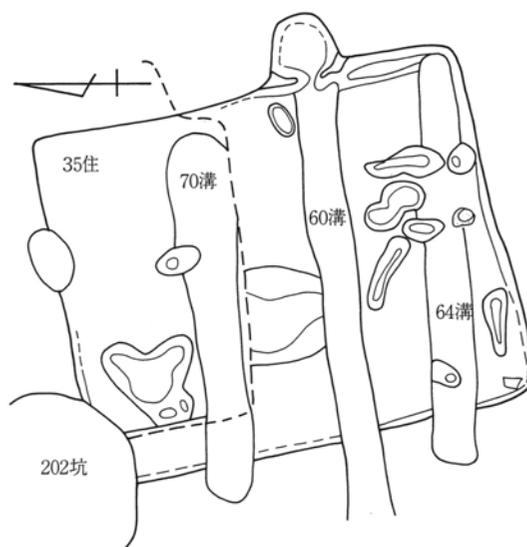
規模 径：354×290cm

〔竈〕 幅：(70) cm 奥行：99cm

構造 本住居は横長の隅丸方形プランを呈し掘り方を有する。

竈は東壁のやや南寄りに設置され、壁面を掘り込む浅い掘り方を焼土を含む暗褐色土等の土壌で埋め戻して焼面を作っている。上位の構造は不明。

また柱穴・貯蔵穴も確認できなかった。



〔43号住居竈掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：As-C・焼土・炭化物粒混入
- 2：暗黒褐色土：As-C、焼土粒・炭化物粒混入
- 3：黒褐色土：As-Cと若干の焼土粒・炭化物粒混入

第111図 6-2-43号住居

第2章 発見された遺構と遺物

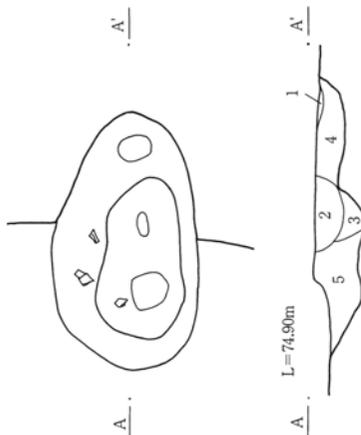
(42) 6-2-44号住居 (第112図、図版29・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域中東部に位置する。6-2-202・207号土坑や溝に切られるなど遺存状況は悪く、竈を除いて掘り方面の調査に止まった。

6-2-7・8・9・35・42~47号住居と重複するが、確認順位から7~9号住居が新しい可能性を持つものの新旧を特定することはできなかった。

坏(1)等、律令期の土師器片を中心とした若干の出土遺物を得たが、時期特定には至らず、9世紀後半頃の律令期の所産と認識できるに過ぎなかった。

規模 径：348×362cm



[44号住居竈覆土]

- 1：暗褐色土：As-Cと多量の焼土混入
- 2：暗褐色土：As-C・焼土・炭化物粒混入
- 3：黒褐色土：焼土粒・炭化物粒混入。締まり弱い
- 4：暗褐色土：As-C・焼土粒・炭化材粒・黒色土混入
- 5：暗褐色土：As-C・焼土粒・炭化物粒・黄褐色粒混入。締まり弱い

[竈] 幅：(74) cm 奥行き：103cm

構造 本住居は正方形に近い台形のプランを呈し、掘り方を有する。

竈は東壁の南寄りに作られ、壁を跨ぐ浅い掘り方が掘削され、これを黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。尚、上位の構造は確認できなかった。

また柱穴、貯蔵穴も確認できなかった。

(43) 6-2-45号住居 (第113図、図版29)

概要 本住居は竪穴住居集中域中程に在るが、掘り方面を調査できたに過ぎなかった。

本住居は6-2-9・35・38・42・44・47号住居と重複するが、確認順位から9号住居より古くなる可能性はあるものの新旧は不明である。

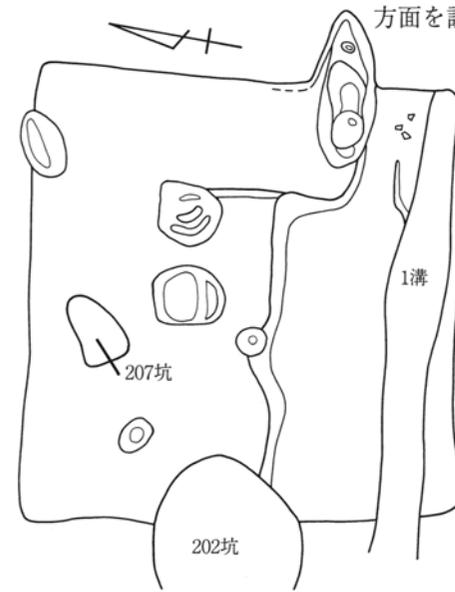
本住居からは土師器片が僅か11点出土ただけで時期は特定できず、律令期の所産として把握されるに過ぎなかった。

規模 径：283×220cm

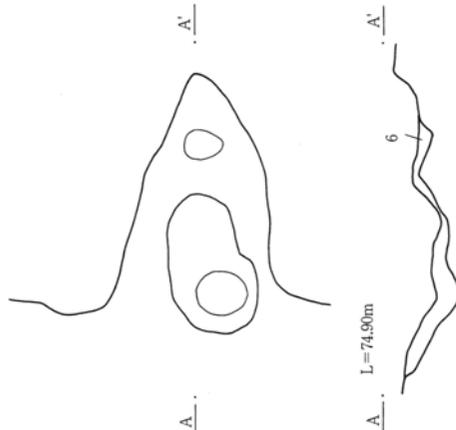
[竈] 幅：(47) cm 奥行き：62cm

[貯蔵穴] 径：48×66cm 深さ：(13) cm

構造 横長の隅丸台形プランを呈し、掘り方を持つ。

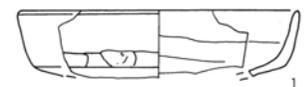


竈掘り方

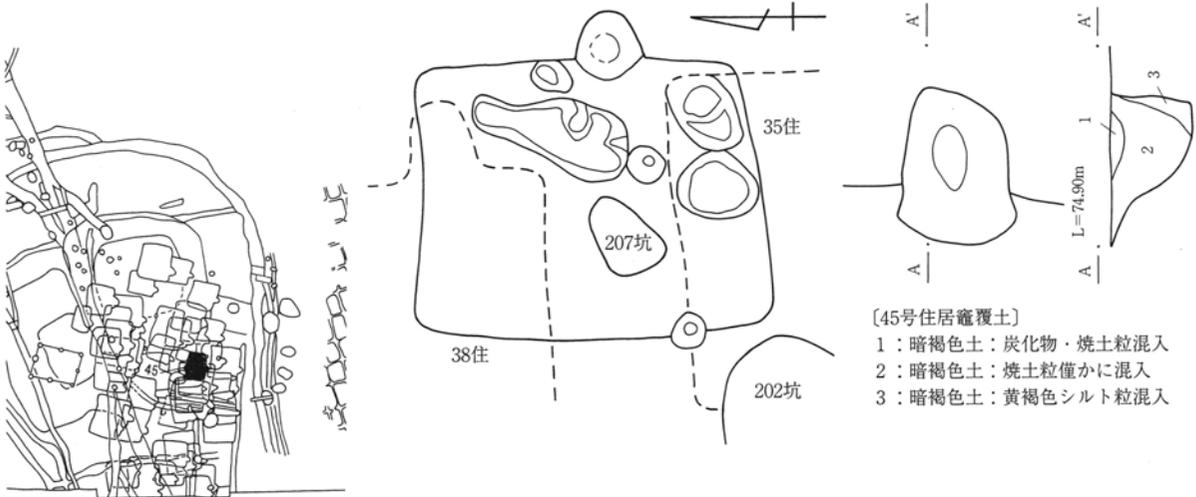


[44号住居竈掘り方覆土]

- 6：黒褐色土：黄褐色土・炭化物と僅かに焼土粒を混入する



第112図 6-2-44号住居と出土遺物



第113図 6-2-45号住居

竈は東壁中央やや南寄りに設置され、柱穴状の掘り方を焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。上位構造は不明。

柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅に貯蔵穴と認識される掘込みを確認している。

(44) 6-2-46号住居 (第114図、図版29・30・66)

概要 本住居は竪穴住居集中域中東部に位置する。

6-2-7・8・35・43・45・47・51・62号住居と重複するが、新旧は明確には特定できなかった。

本住居からは土師器を中心に若干の出土遺物を得

たが、灰釉陶器広口瓶(1)が覆土中にあることから9世紀以降の所産と想定される。また何らかの鉄製品の可能性を持つ鉄滓(2)も出土している。

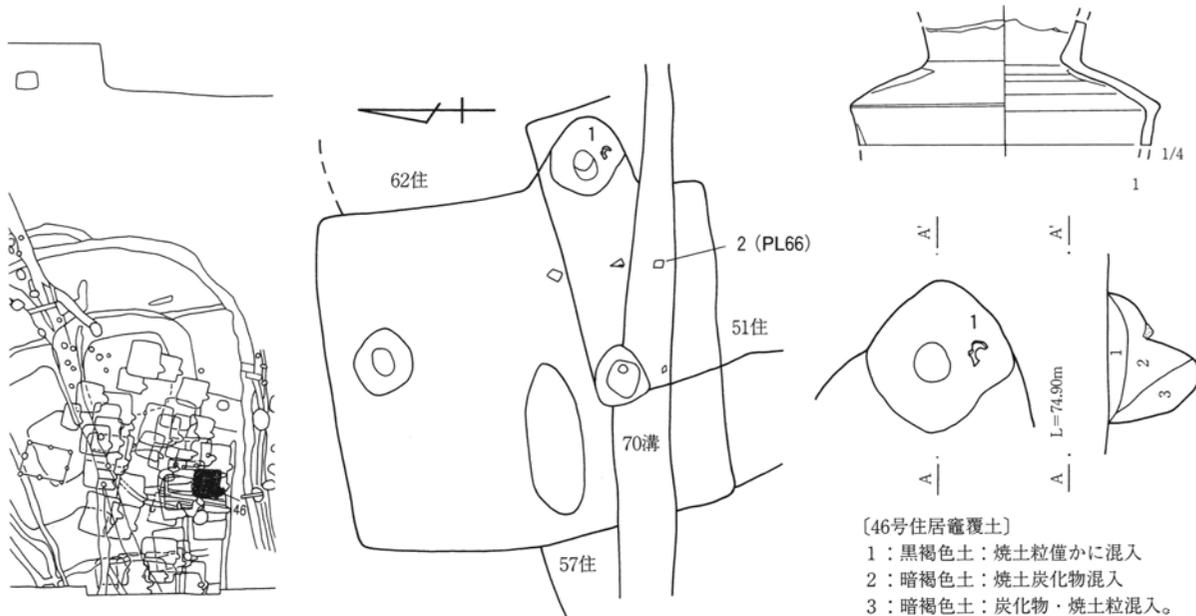
規模 径：348×362cm

〔竈〕 幅：(74)cm 奥行き：103cm

構造 本住居は横長の方形プランを呈し、掘り方を有する。

竈は東壁南寄りに作られ、壁を跨いで柱穴様の掘り方が掘削され、これを暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。上位の構造は不明。

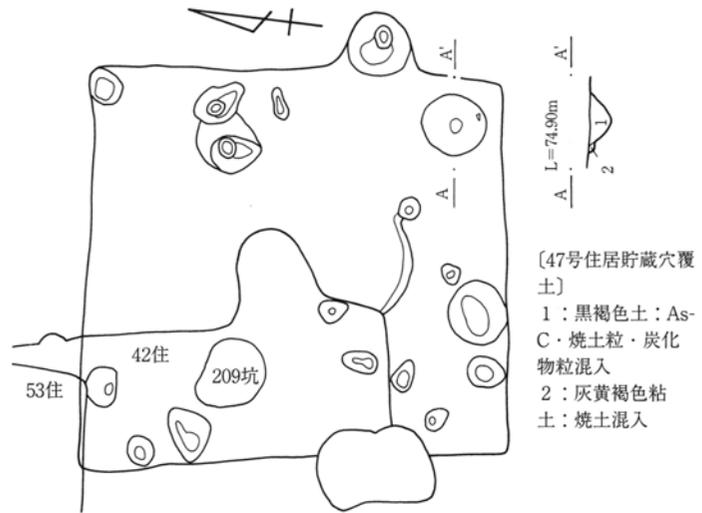
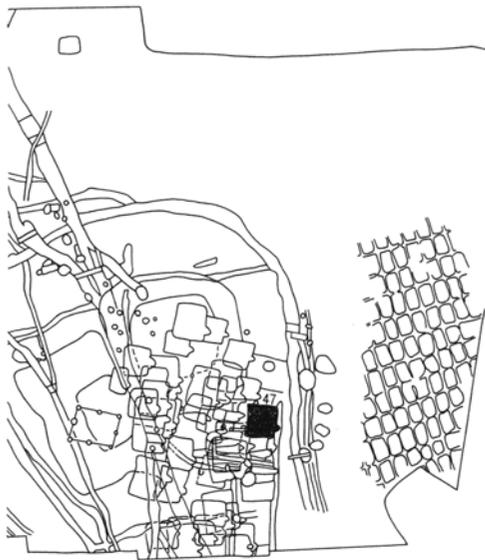
柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。



第114図 6-2-46号住居と出土遺物

〔46号住居竈覆土〕

- 1：黒褐色土：焼土粒僅かに混入
- 2：暗褐色土：焼土炭化物混入
- 3：暗褐色土：炭化物・焼土粒混入。炭化物斜めに落ちる



(45) 6-2-47号住居 (第115図、図版30)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部に位置し、掘り方を調査した。

6-2-7・8・42・44・45・46・53・62号住居と重複するが、遺構確認の順位から7・8号住居より古い可能性はあるものの、その新旧を特定することはできなかった。

本住居では土師器片僅か22片を出土しただけで、概ね律令期の所産として把握することはできるものの時期の特定には至らなかった。

規模 径：340×320cm

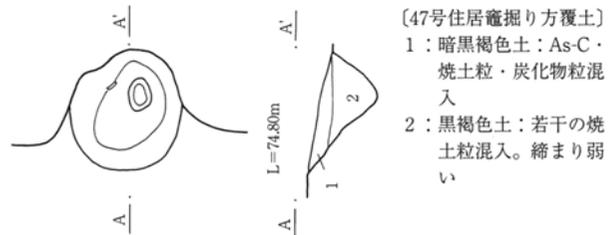
〔竈〕 幅：(59) cm 奥行：47cm

〔貯蔵穴〕 径：50×46cm 深さ：40cm

構造 本住居は正方形に近い台形の方形プランを呈し、掘り方を有する。

竈は東壁の南寄りに設置される。壁面を削りこむ位置に径44×48cm、深さ28cmを測る逆烏帽子状の掘り方を掘削し、これを焼土を含む黒褐色土等の土壌で埋め戻して燃焼部を造っている。尚、袖、天井等の上位の構造については確認することができなかった。

また柱穴を特定することはできなかったが、竈右側の住居南東隅部に挿鉢状のしっかりした掘り方を持つ貯蔵穴を確認している。



第115図 6-2-47号住居

(46) 6-2-48号住居 (第116図、図版30・32・66・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部南端に位置し、南側が調査区外に出ている。

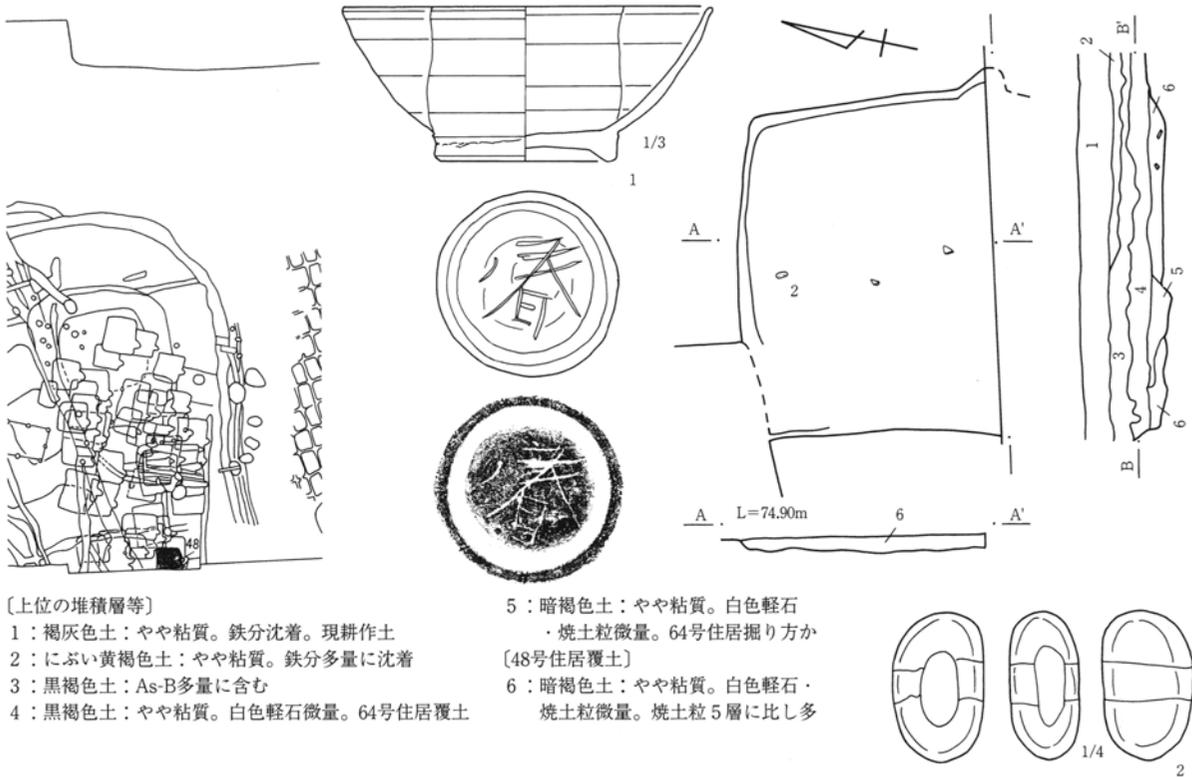
本住居は6-2-31・39・56・63・64号住居と重複するが、64号住居に切られ、56・63号住居を切っている。しかし31・39号住居との新旧は遺構の上では明瞭ではなかったのであるが、出土遺物の比較から31号住居よりは新しいものと思慮される。

本住居からは土師破片を中心に磨石(2)など一定量の遺物の出土が見られた。これらのうち覆土中から底面に「春」字の刻書のある須恵器高台付碗(1)が出土していることから、本住居は概ね9世紀後半前後の律令期の所産と判断している。

規模 径：(226)×276cm

〔竈〕 幅：(50) cm 奥行：78cm

構造 本住居は一部が調査区外に出ているため、その全容は詳らかでないが、方形のプランを呈するものと判断される。



[上位の堆積層等]

- 1：褐灰色土：やや粘質。鉄分沈着。現耕作土
- 2：にぶい黄褐色土：やや粘質。鉄分多量に沈着
- 3：黒褐色土：As-B多量に含む
- 4：黒褐色土：やや粘質。白色軽石微量。64号住居覆土

- 5：暗褐色土：やや粘質。白色軽石・焼土粒微量。64号住居掘り方か
- [48号住居覆土]
- 6：暗褐色土：やや粘質。白色軽石・焼土粒微量。焼土粒5層に比し多

掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻して床面を造っている。

竈は東壁に作られ、壁面を少し削りこむ楕円形プランの掘り方を黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。尚、上位の構造は不明である。

尚、調査範囲で柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

(47) 6-2-49号住居 (第117図、図版30)

概要 本住居は竪穴住居集中域中南部に位置する。東部の一部を除いて掘り方面のみを調査した。また、竈部分も6-2-208号土坑が壊しており、遺存状態は良好とは言い難かった。

6-2-30・31・39・56・61号住居と重複するが、新旧を明らかにすることはできなかった。

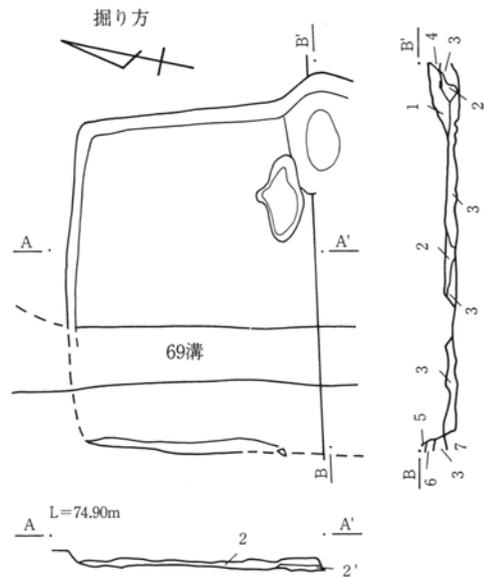
本住居からは土師器片を中心に若干の出土遺物を得たが、時期の特定には至らず、概ね律令期の所産として把握されるに過ぎなかった。

規模 径：250×268cm

[竈] 幅：(70) cm 奥行き：(79) cm

構造 本住居は正方形に近い台形プランを呈する。

掘り方を有し、これを埋め戻して床を作っている。



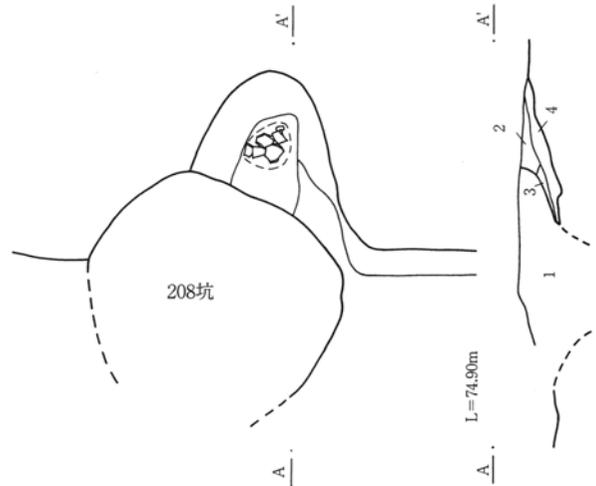
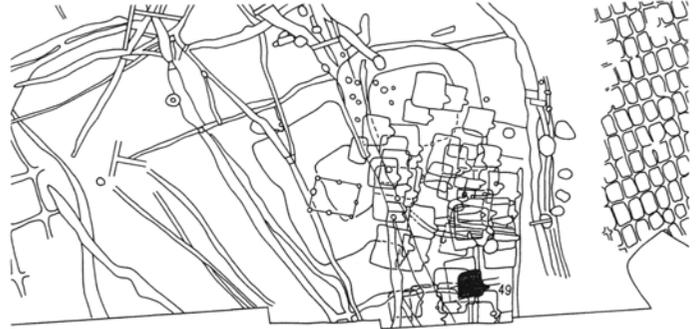
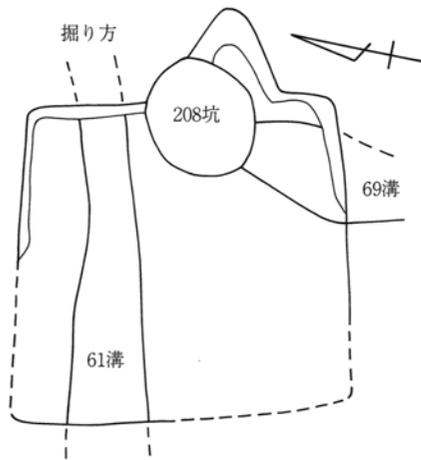
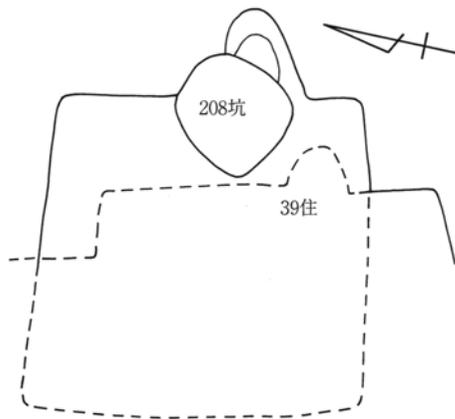
[48号住居掘り方覆土] (56・63号住居掘り方も含む)

- 1：暗褐色土：やや粘質。白色軽石・焼土粒微量に混入
- 2：黒褐色土：炭化物或いは黄褐色土微量に混入
- 2'：黒褐色土：黄褐色土多量に混入
- 3：灰黄褐色土：2層土に褐色粘質土混入

[地山層]

- 4：黒褐色土：やや粘質。炭化物微量に混入 (56号住居覆土)
- 5：暗褐色土：やや粘質。白色軽石微量に混入 (63号住居覆土)
- 6：5層に同じだが軽石多い (63号住居覆土)
- 7：5層に同じだが軽石多い (63号住居掘り方覆土)

第116図 6-2-48号住居と出土遺物



- 〔208号土坑覆土〕
 1：黒褐色土：やや砂質
 〔49号住居竈覆土〕
 2：黒褐色土：やや砂質。焼土多量に混入
 3：焼土と灰の混土層
 4：黒褐色土：やや砂質。焼土微量に混入

竈は東壁南寄りに位置する。壁面を跨いで浅い掘り方が掘削され、これを黒褐色土等で埋め戻して燃烧部を造っている。尚、壁天井等上位の構造を確認することはできなかった。

また、床面に於いても柱穴や貯蔵穴を確認することはできなかった。

(40) 6-2-50号住居 (第118図、図版31)

概要 本住居は竪穴住居集中域中央部に位置している。遺構の遺存状況は悪く、西半部は欠落し、東半部も掘り方面の調査に止まっている。

本住居は6-2-6・9・28・41号住居と重複する。遺構確認の順位から6・9号住居が本住居を切る可能性はあるものの、その新旧を特定することはできなかった。

本住居からは僅かに土師器9片と須恵器5片が出土したものの時期特定には至らず、概ね律令期の所産として把握されるに過ぎなかった。

第117図 6-2-49号住居

規模 径：398×(343) cm

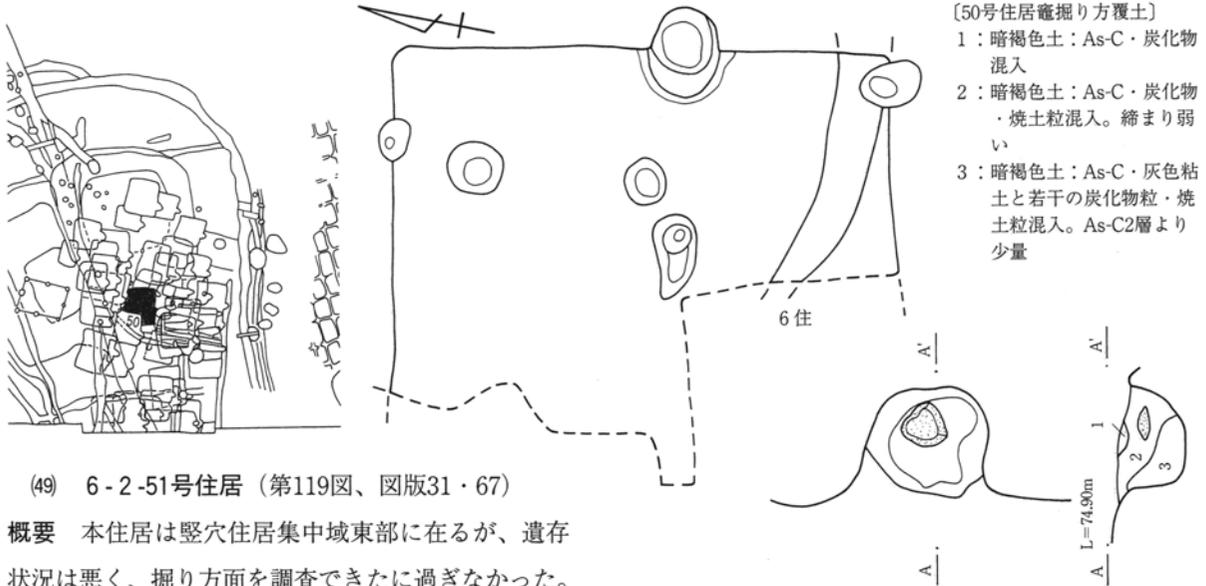
〔竈〕 幅：(63) cm 奥行き：44cm

構造 上述のように本住居は全体を調査できなかったため、住居の全容は詳らかでないが、概ね隅丸方形のプランを呈するものと判断され、掘り方を有している。

竈は東壁中央付近に設置され、壁面を跨いで円形様のプランを呈する柱穴状の掘り方を掘削し、これを炭化物や焼土を含む暗褐色土等の土壌で埋め戻して燃烧面を作っている。上位の構造は不明。尚、掘り方の中位に扁平な円礫が据えられている。

掘り方面には幾つかのピットが散見されたが、柱穴や貯蔵穴を特定することはできなかった。

第2節 6区の遺構と遺物



(49) 6-2-51号住居 (第119図、図版31・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域東部に在るが、遺存状況は悪く、掘り方を調査できずに過ぎなかった。

また、重複する6-2-8・46・57・60号住居との新旧関係を特定することはできなかった。

本住居からは土師器を中心とした遺物の出土があったが、明確な時期特定には至らず、覆土中に土師器坏(1)の出土などから、本住居は概ね9世紀中葉前後の律令期の所産として把握されるに過ぎない。

規模 径：340×238cm

[竈掘り方] 径：41×62cm 深さ：28cm

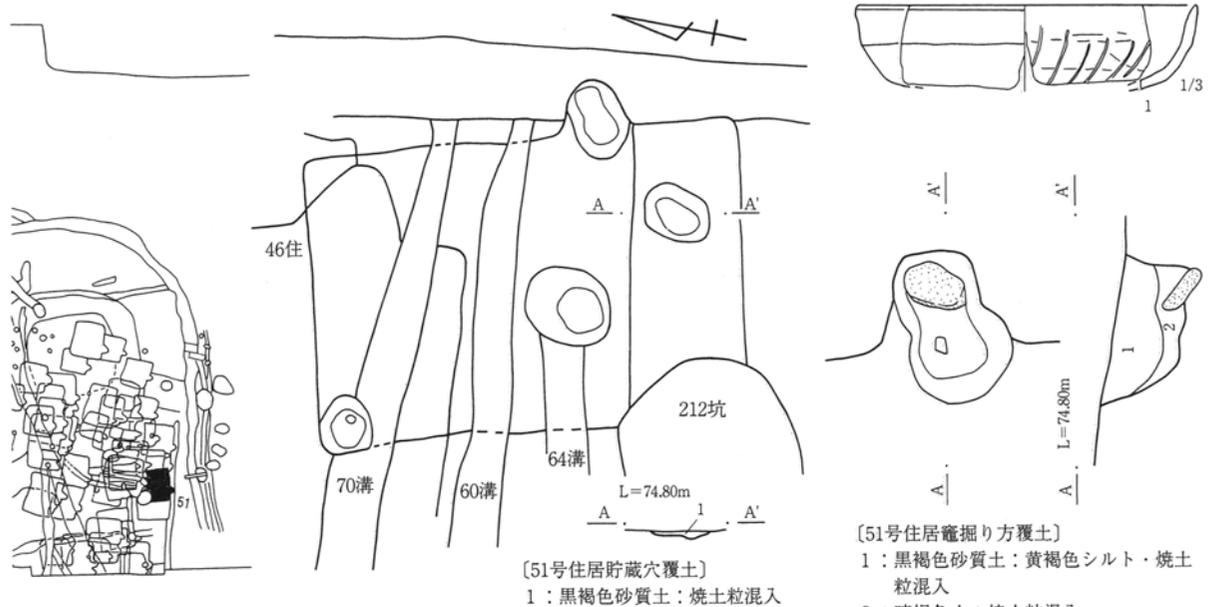
[貯蔵穴] 径：54×40cm 深さ：8cm

第118図 6-2-50号住居

構造 本住居は横長の隅丸方形プランを呈し、掘り方を有する。

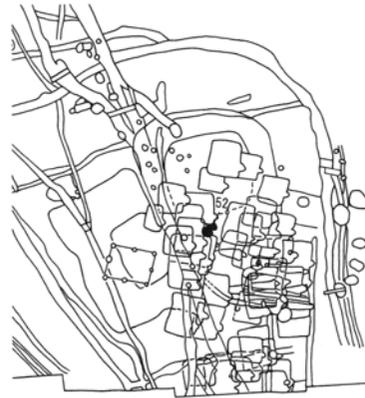
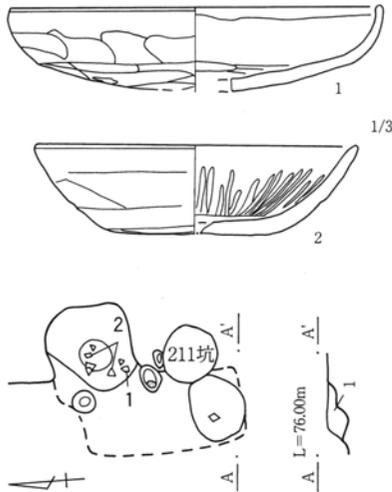
竈は東壁南寄りに設置され、壁面を削りこむ柱穴様の掘り方を掘削し、これを焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。上位の構造は不明。

また、柱穴は確認できなかったが、竈右側手前に隅丸長方形プランの浅い貯蔵穴を確認している。

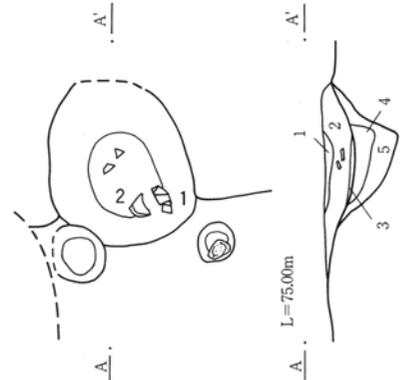


第119図 6-2-51号住居と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物



〔52号住居貯蔵穴覆土〕
1：暗褐色土：焼土粒・炭化物を混入する



〔52号住居竈覆土〕
1：暗褐色砂質土：焼土・灰を混入する
2：黒褐色砂質土：焼土・灰を混入する
3：黒色灰層
〔竈掘り方覆土〕
4：黒褐色砂質土：焼土・炭化物混入
5：暗褐色砂質土：僅かに焼土粒混入

(50) 6-2-52号住居 (第120図、図版31・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域北西部に在るが、竈とその周辺部分を調査できたに過ぎなかった。

本住居は6-2-5・10・29・33・41号住居と重複するが、遺構からは新旧を明確にできなかった。

本住居からは若干の土師器片の出土を見たが、竈から出土した土師器坏(1・2)によって、本住居は概ね9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径：(161) × (120) cm

〔竈〕 幅：(70) cm 奥行き：68cm

〔貯蔵穴〕 径：42×54cm 深さ：12cm

構造 本住居は遺存状況が悪く住居の形状は特定できなかったが、掘り方を有する。

竈は東壁に設置され、壁面を抉って掘削した掘り方を焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。上位の構造は確認できなかった。

また柱穴・貯蔵穴も確認できなかった。

(51) 6-2-53号住居

(第121図、図版32)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部に位置し、掘り方を有する。

6-2-32・36・42・47・59号住居と重複するが、新旧は特定できなかった。

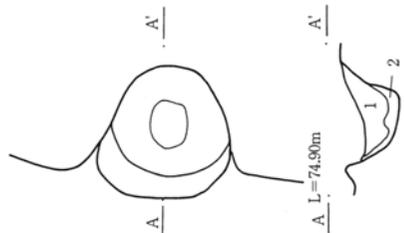
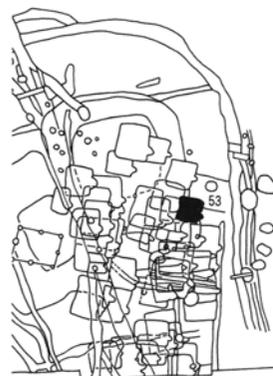
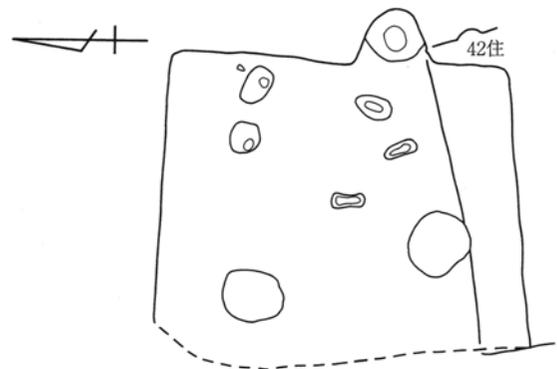
本住居の出土遺物は土師器3片だけで、概ね律令期の所産とできるに過ぎなかった。

第120図 6-2-52号住居と出土遺物

規模 径：296 × (246) cm

〔竈〕 幅：(63) cm 奥行き：53cm

構造 本住居は台形様のプランで、掘り方を有する。竈は東壁やや南寄りに設けられ、壁面を削り込む



〔53号住居竈掘り方覆土〕
1：暗褐色土：焼土粒・炭化物混入
2：黒褐色土：焼土粒・炭化物粒僅かに混入

第121図 6-2-53号住居

横長楕円形プランの柱穴状の掘り方を掘削し、焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して焼土面を作る。上位の構造は不明。

また柱穴・貯蔵穴も不明であった。

(52) 6-2-54号住居

(第122図、図版32)

概要 本住居は竈のみを確認している。記録に不備があり正確な位置は

特定できないが、概ね竪穴住居集中域中西部の6-2-4号住居南西寄りに位置するものと想定される。本住居からは土師器7片を出土したが、時期特定には至らず、概ね律令期の所産とできるだけである。

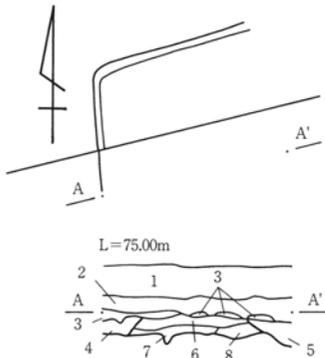
規模 [竈] 幅：(55) cm 奥行：68cm

構造 住居本体の構造は不明。

竈は東竈で、柱穴の上位を壊して隅丸方形プランの掘り方を掘削し、焼土や炭化物を含む暗褐色土で埋め戻して焼土面を作る。上位構造は不明。

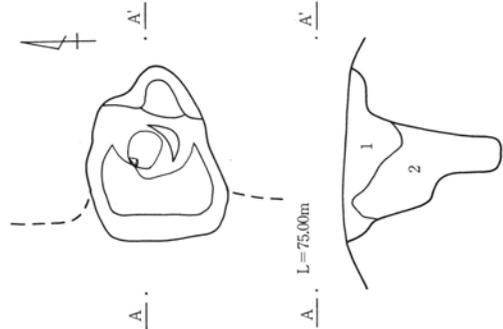
(53) 6-2-55号住居 (第123図、図版32)

概要 本住居は竪穴住居集中域南東隅部に在り、東側は中世の溝等に切れ、南側は調査区外に出る。



[表土・他遺構覆土他]

- 1：褐灰色土：やや粘質。鉄分沈着（現耕作土）
 - 2：にぶい黄褐色土：やや粘質。鉄分多量に沈着
 - 3：黒褐色土：As-B多量に含む（中世耕作土か）
 - 4：黒褐色土：やや粘質。白色軽石微量に混入（64号住居覆土）
 - 5：暗褐色土：やや粘質。白色軽石7層よりは多く混入（溝覆土か）
- [55号住居覆土]
- 6：暗褐色土：やや粘質。白色軽石と焼土粒微量に混入
 - 7：暗褐色土：やや粘質。白色軽石微量に混入
 - 8：灰黄褐色土：やや砂質。黄褐色砂微量に混入



[54号住居竈掘り方覆土]

- 1：暗褐色土：焼土粒・炭化物混入 [柱穴覆土か]
- 2：黒褐色土：黒色土・黄褐色土と焼土粒混入

第122図 6-2-54号住居竈

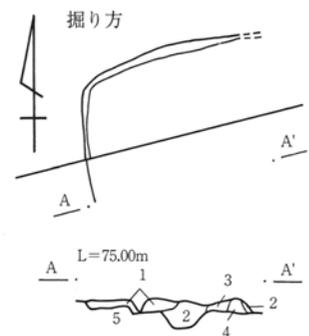
本住居は重複する6-2-64号住居に切られている。本住居からは土師器片僅か3片が出土しただけで時期特定には至らず、概ね律令期の所産として把握されるに過ぎなかった。

規模 径：(100) × (140) cm

構造 本住居はその一部を調査できたに過ぎないが、隅丸方形のプランを呈するものと判断される。

掘り方を有し、これを灰黄褐色等種々の土壤で埋め戻して床面を作っている。

竈、柱穴、貯蔵穴等は確認できなかった。

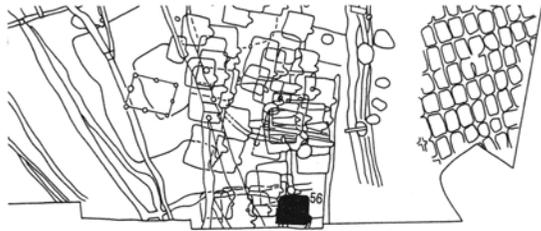


[55号住居掘り方腹土]

- 1：灰黄褐色土：やや砂質。黄褐色砂微量混入（床土-8層に同じ）
 - 2：黒色土：やや砂質。As-C微量に混入
 - 3：にぶい黄褐色砂質土：粒子細かい
 - 4：にぶい黄褐色砂質土：3層土に比し粒子粗い
- [地山層]
- 5：にぶい黄褐色土：やや砂質。Hr-FAと黒色土混入

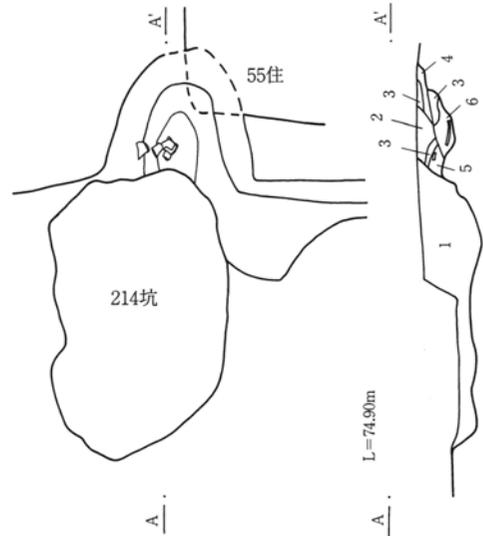
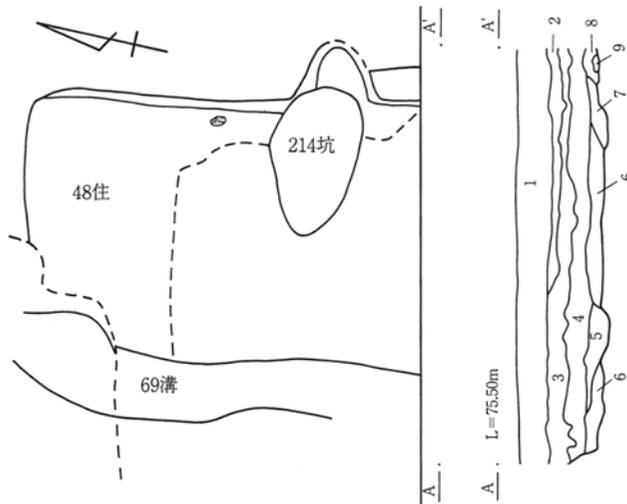
第123図 6-2-55号住居

第2章 発見された遺構と遺物



(54) 6-2-56号住居 (第124図、図版32・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域南東隅部に位置する。住居南寄りには調査区外に出て調査することはできず、竈は6-2-214号土坑に左袖部分が壊されている。



〔表土・他遺構覆土他〕

- 1: 褐灰色土: やや粘質。鉄分沈着 (現耕作土)
- 2: にぶい黄褐色土: やや粘質。鉄分多量に沈着
- 3: 黒褐色土: As-B多量に含む (中世耕作土か)
- 4: 黒褐色土: やや粘質。白色軽石微量に混入 (64号住居覆土)
- 5: 暗褐色土: やや粘質。白色軽石と微量の焼土粒混入 (69号溝覆土)
- 6: 5層に同じだが、焼土粒は5層に比し多い (48号住居覆土)
- 7: 6層に同じだが、焼土粒は6層に比し多い (48号住居覆土)

〔214号土坑覆土〕

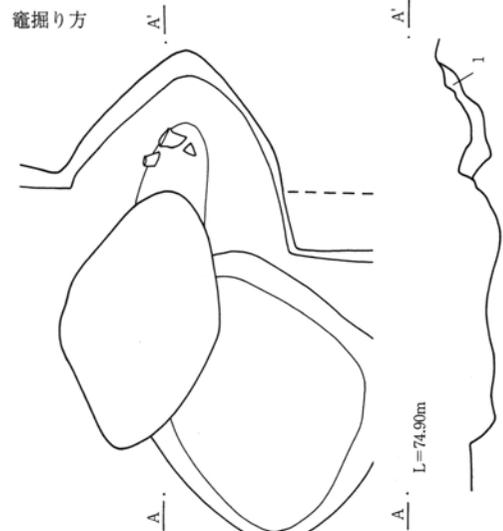
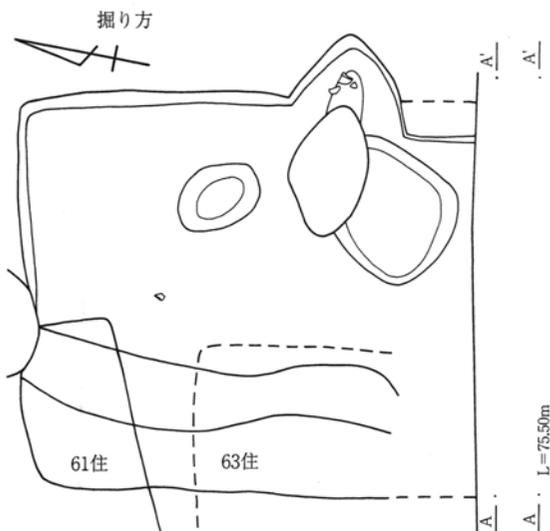
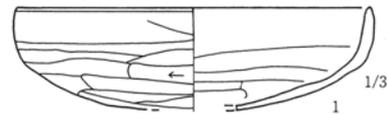
- 1: 黒褐色土: やや砂質。焼土粒少量混入

〔56号住居竈覆土〕

- 2: 暗褐色土: やや砂質。焼土粒少量混入
- 3: 焼土ブロック
- 4: 灰層
- 5: 2層に同じだが、焼土粒は含まない
- 6: 灰層: 焼土粒含む

〔56号住居覆土〕

- 8: 黒褐色土: やや粘質。炭化物微量に混入
- 9: 灰黄褐色粘質土



〔56号住居掘り方覆土〕

- 1: 黒褐色土: やや粘質。炭化物微量に混入。住居床上8層に同じだが8層に比し炭化物多い
- 2: 灰黄褐色土: やや粘質。住居床上8層土に褐色粘質土混入

〔56号住居竈掘り方覆土〕

- 1: 暗褐色土: やや砂質。黒色土を混入する

第124図 6-2-56号住居と出土遺物

6-2-39・48・49・63・64号住居と重複するが、48・64号住居に切られているのを確認した。

本住居からは土師器を中心に若干の出土遺物を見たが、竈出土の土師器坏(1)等から、本住居は概ね9世紀前半期の所産として把握することができよう。

規模 径：(352)×316cm

〔竈〕 幅：(95)cm 奥行き：98cm

〔右袖〕 幅：(49)cm 長さ：45cm

構造 本住居は横長の長方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを黒褐色土等の土壤で埋め戻して床面を作っている。

竈は住居東壁の恐らくやや南寄りに作られている。壁面を跨いで掘り方が掘削され、これを暗褐色土で埋め戻して燃烧部を作っている。右袖はやや幅広であるが、使用した土壤の記録は残せなかった。

尚、貯蔵穴や柱穴は確認されなかった。

(55) 6-2-57号住居 (第125図、図版33・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域中南部に位置する。溝等に切れ、遺存状況はあまり良好ではない。

6-2-7・8・35・43号住居と重複するが、遺構としては新旧を特定することはできなかった。

本住居からは土師器を中心に若干の出土遺物があったが、住居北東隅部から9世紀後半期の須恵器坏(1)が出土したことから、概ね当概期の所産として把握している。

規模 径：360×354cm

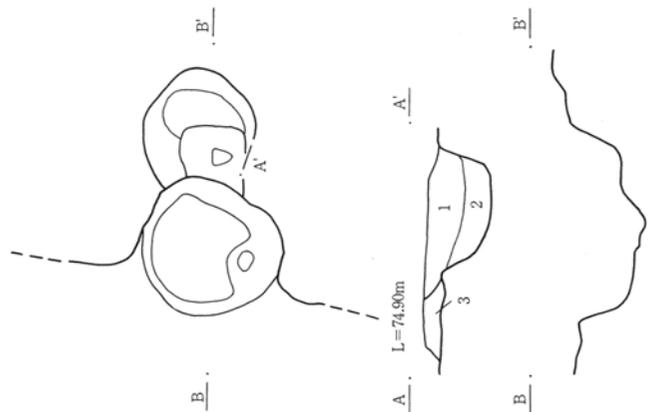
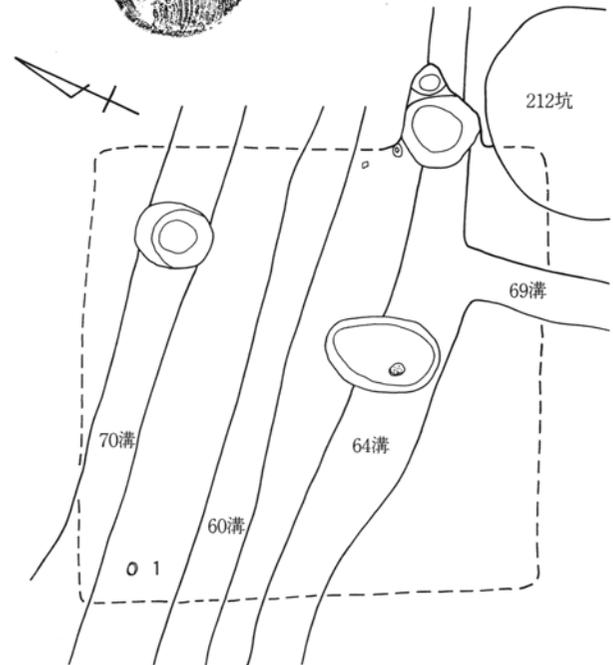
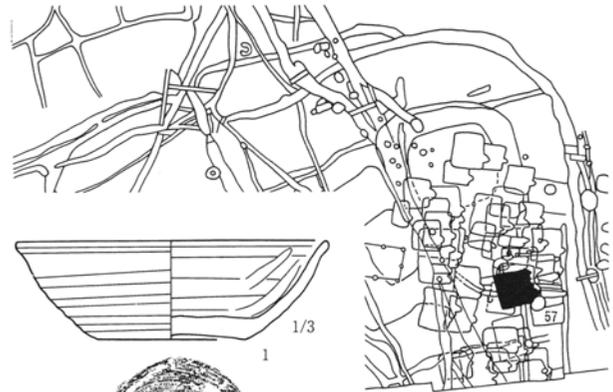
〔竈〕 幅：(66)cm 奥行き：80cm

構造 本住居は正方形のプランを呈する。

掘り方を有し、これを暗褐色砂質土等の土壤で埋め戻して床面は造られている。

竈は東壁南寄りに設置され、壁を跨いで掘削される円形プランで柱穴状の掘り方を掘削し、これを焼土を含む暗褐色砂質土等で埋め戻して燃烧部を作っている。煙道部にも柱穴状の掘り込みが見られ、階段状を呈している。

尚、堀方面には土坑状の掘り込みも見られたが、柱穴・貯蔵穴は明確には特定できなかった。



〔57号住居竈掘り方覆土〕

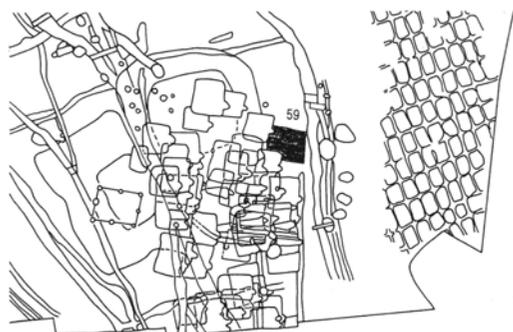
1：暗褐色砂質土：炭化物・焼土混入

2：黒褐色砂質土：炭化物・焼土粒混入

〔住居掘り方覆土〕

3：暗褐色砂質土：焼土粒混入

第125図 6-2-57号住居と出土遺物



(56) 6-2-59号住居 (第126図、図版33・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域北東部に位置する。東部を溝等に切れ遺存状況は良好でなく、その範囲を確認できたに過ぎない。

6-2-27・53号住居と重複するが新旧は特定できなかった。

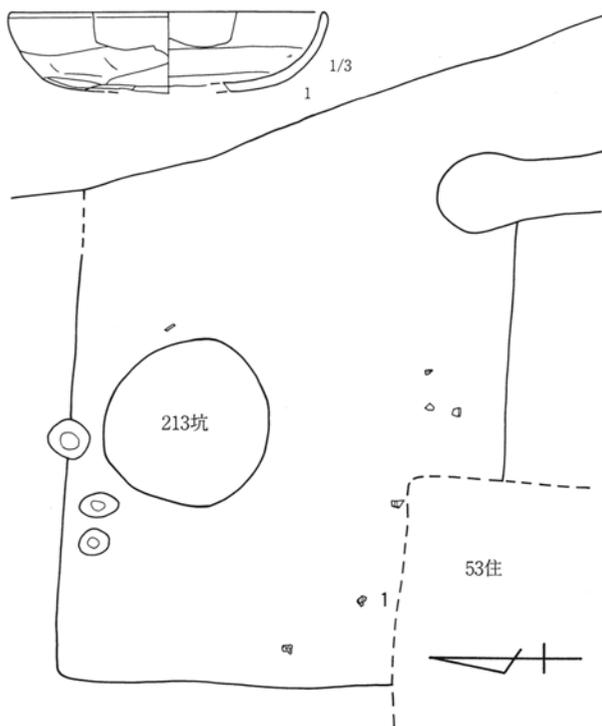
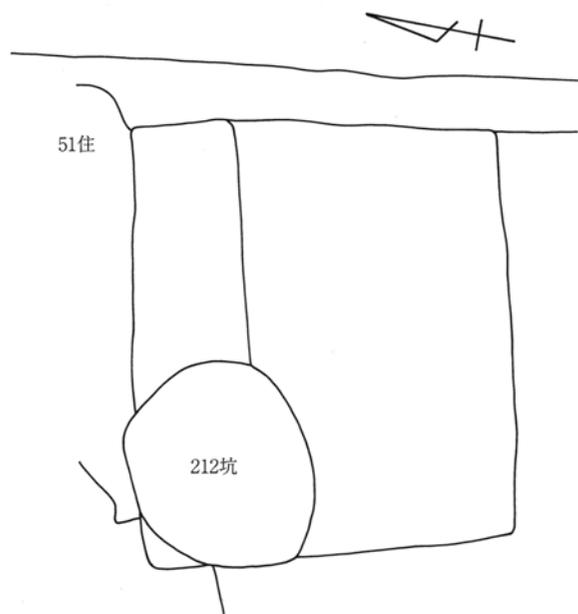
土師器を中心に若干の出土遺物を得たが、このうち土師器坏(1)の出土から、本住居は概ね9世紀前半期の所産として把握される。

規模 径: 342×(384) cm

構造 本住居は東側を欠いているが、縦長の長方形のプランを呈する。

恐らく掘り方を有すると思われるが不詳。

竈は東側に設けられたと推定されるが確認できず、柱穴、貯蔵穴等も確認できなかった。

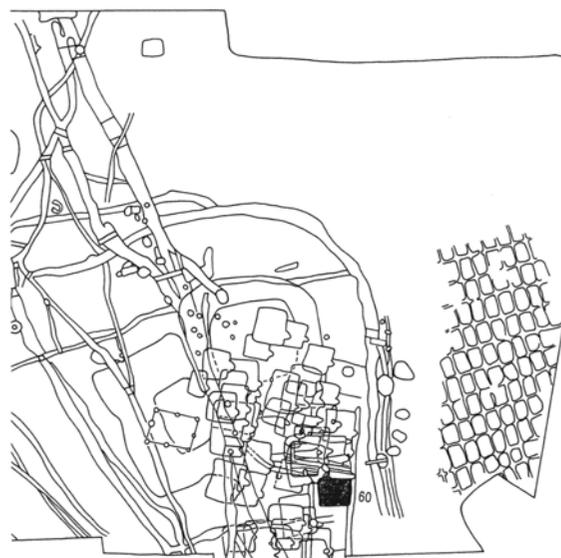


第126図 6-2-59号住居と出土遺物

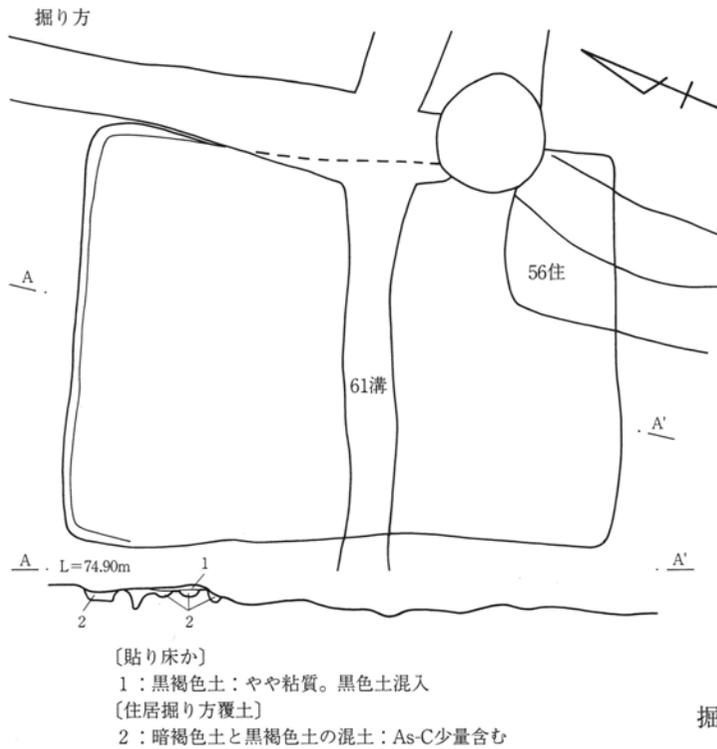
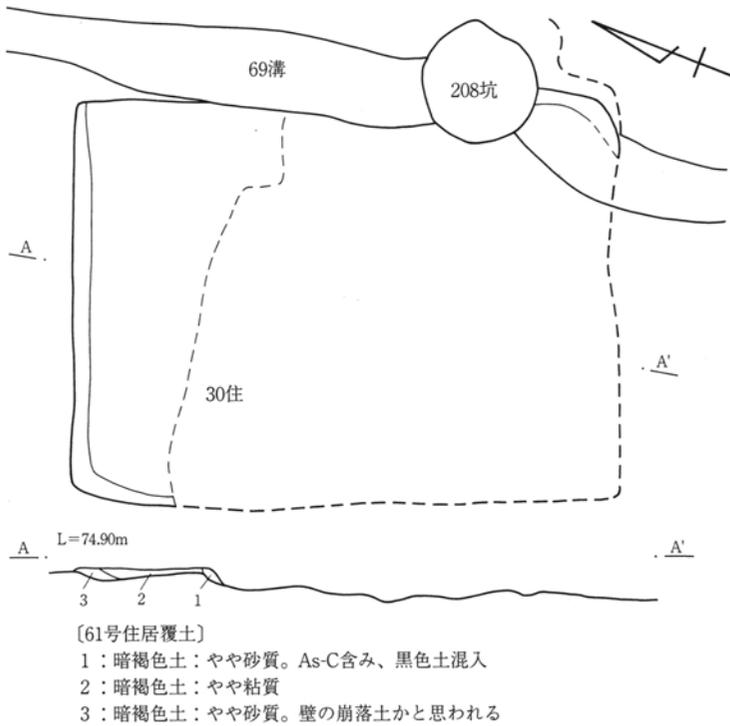
(57) 6-2-60号住居 (第127図、図版33)

概要 本住居は竪穴住居集中域南東部に位置する。東部を中世の溝等に切れ欠いており、掘り方面に於いて範囲を確認できたに過ぎなかった。

本住居は6-2-8・51・57号住居と重複するが、遺構調査では新旧を特定することはできなかった。

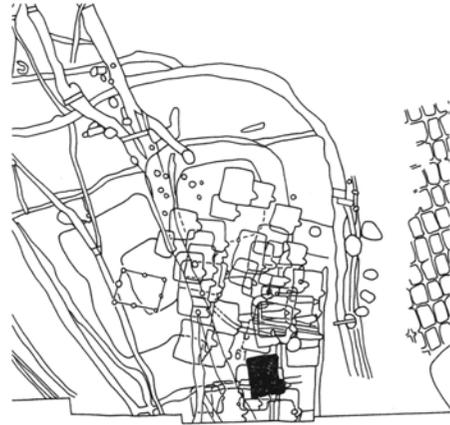


第127図 6-2-60号住居



第128図 6-2-61号住居

出土遺物は無く、竈も確認できなかったが、遺構の状況から古墳時代後期以降の住居と想定され、重複状況から推して概ね律令期の所産としたい。



規模 径：300×(348) cm

構造 本住居は東側を欠くが、縦長の長方形のプランを呈するものと判断され、掘り方を有する。

竈は東壁に設置されたと推定されるが確認できなかった。また、柱穴・貯蔵穴等も確認できなかった。

(58) 6-2-61号住居

(第128図、図版33)

概要 本住居は竪穴住居集中域南部にあり、重複する他の住居の調査に伴って過半を掘削したため、遺存状況は良くない。

本住居は6-2-30・31・39・49号住居と重複するが、遺構確認順位から本住居の方が古い可能性を持つものの、その新旧を明確にすることはできなかった。

本住居は土師器坏片4片を出土しただけで、時期の特定はできず、概ね律令期の所産として把握できるに過ぎなかった。

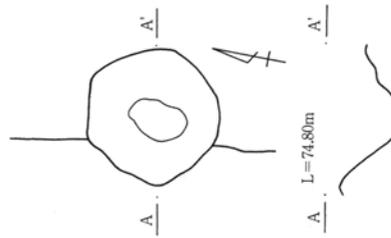
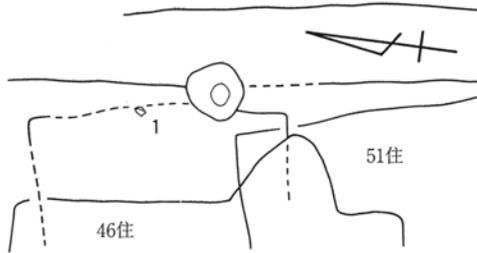
規模 径：300×(348) cm

構造 横長の隅丸方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを暗褐色土と黒褐色土で埋め戻し、黒褐色土で貼り床を施している。

竈は東壁の南寄り設置と推定されるが、当該位置には6-2-208号土坑が掘削されているため、確認することはできなかった。

尚、柱穴や貯蔵穴は確認することができなかった。



第129図 6-2-62号住居と出土遺物

(59) 6-2-62号住居 (第129図、図版33・67)

概要 本住居は竪穴住居集中域中東部に位置する。

6-2-46・47・51号住居と重複するが、新旧を特定することはできなかった。

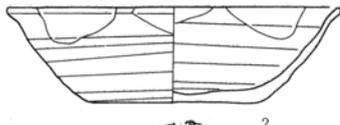
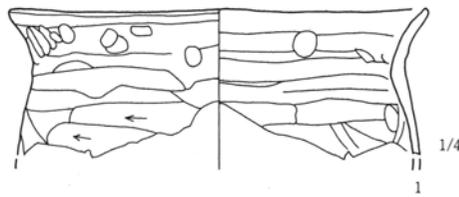
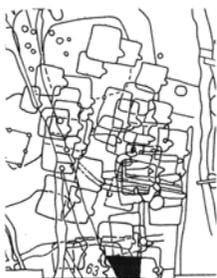
出土遺物は須恵器甕片1片(1)だけで時期特定には至らず、律令期の所産とできたに過ぎなかった。

規模 径:202×(63)cm

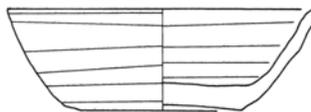
構造 遺存状況が不良なため明瞭でないが、プランは概ね方形で、掘り方も有したもの判断される。

竈は東壁南寄りに設置され、壁面を削り込む播鉢形の掘り方を有し、これを埋め戻して燃焼面を形成している。袖等上位の形状は確認できなかった。

尚、柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。



1/3

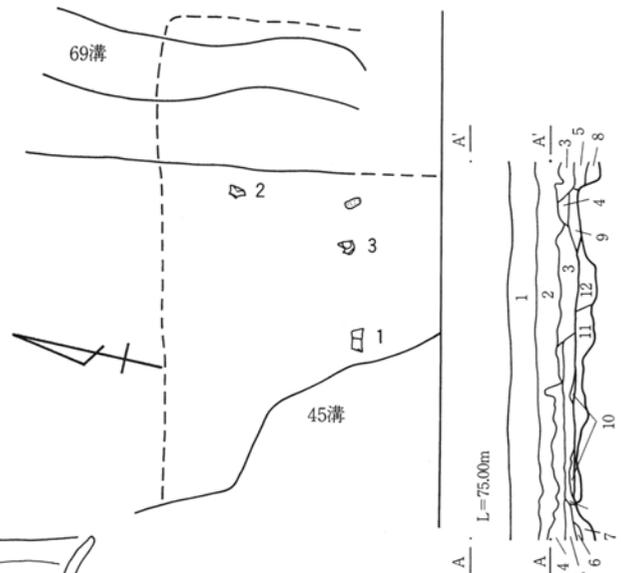


3

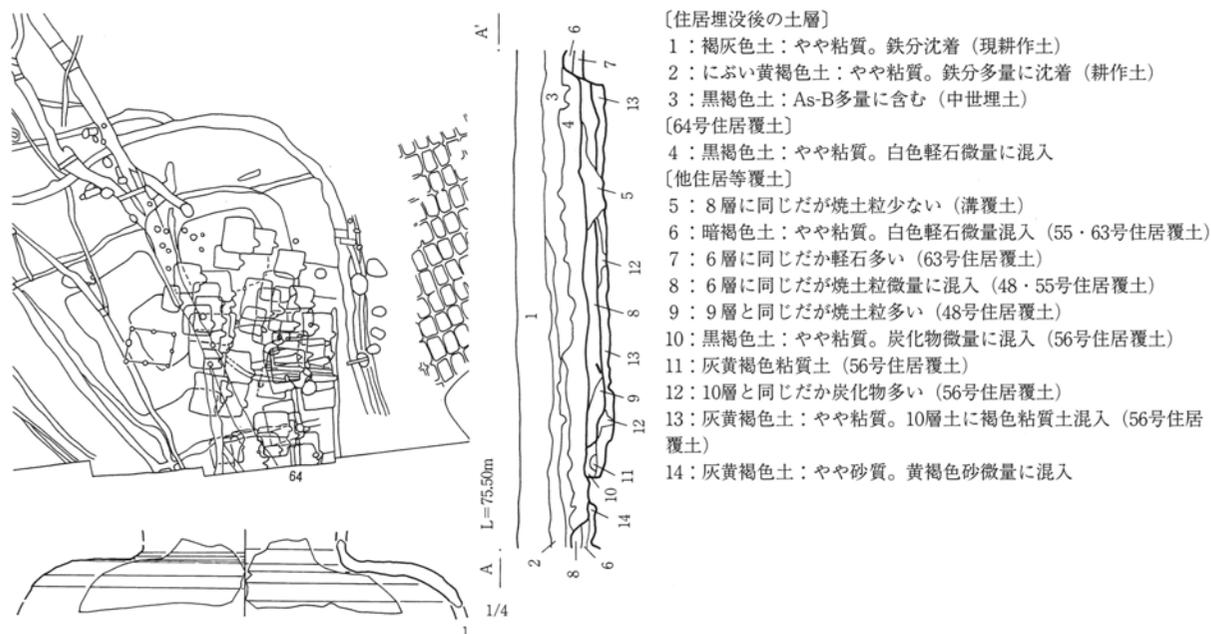


[63号住居埋設後の土層]

- 1: 褐灰色土: やや粘質。鉄分沈着(現耕作土)
- 2: 黒褐色土: As-B多量に含む(中世埋土)
- 3: 黒褐色土: やや粘質(64号住居・溝等覆土)
- 4: 9層に同じ。軽石微量に混入(律令期埋土)
- 5: 4層に同じ。焼土粒微量(1・48号住居覆土)
- 6: 炭化物層:(1号住居覆土)
- 7: 11層土に同じ(1号住居覆土)
- 8: 灰黄褐色土: やや粘質。黒褐色土に褐色粘質土混入(56号住居覆土)
- [63号住居覆土]
- 9: 暗褐色土: やや粘質。白色軽石8層に比し多い
- 10: 炭化物層
- [63号住居掘り方覆土]
- 11: 灰黄褐色土: やや砂質。黄褐色土等混入
- 12: 3層土と11層土の混土



第130図 6-2-63号住居と出土遺物



第131図 6-2-64号住居と出土遺物

本住居では土師器甕（1）、須恵器坏（2・3）等若干の出土遺物を得たが、これらの所見から本住居は概ね9世紀前半期の遺構として把握される。

規模 径：（382）×（244）cm

構造 遺存状況が悪かったため明瞭ではないが、そのプランは概ね方形を呈するものと思慮される。

掘り方を有し、これを灰黄褐色土等で埋め戻して床を造っている。

竈及び柱穴や貯蔵穴は確認できなかった。

(61) 6-2-64号住居（第131図、図版67）

概要 本住居は堅穴住居集中域南端部に位置する。遺構確認面より浅い位置に在り、断面で確認した。

6-2-48・55・56・63号住居と重複するが、何れの住居に対しても本住居の方が新しい。

本住居からは8世紀代の所産と思われる須恵器短頸壺片（1）が出土しているが、遺構の切り合い関係等から、概ね9世紀後半以降所産として把握される。

規模 東西長：373cm

構造 本住居のプラン等の形状や竈・柱穴・貯蔵穴の有無を確認することはできなかった。

また掘り方は認められなかったが、45・56号住居の覆土がその機能を担っている。

(62) 6-2-65号住居（第132・133図、図版34・67・68）

概要 本住居は堅穴住居集中域の北端部、6区中部東寄りに位置している。

本住居は6-2-18号住居等律令期の住居群に切られている一方、本住居と同時期の6-2-66号住居と重複しており、これを切っている。

本住居では住居本体部分では上位から掘り込まれる平安期の堅穴住居に依拠する土師器片等の出土遺物もあったが、本住居に伴うものとしては住居本体の他、主には周溝部から出土の遺物があり、その所見から3世紀末葉という時期が与えられている。これらの中には東海地方からの影響の見られる土師器高坏（1・2）・台付甕（3）・瓢壺（5）、南関東の影響の見られる土師器台付甕（4）、北陸或いは東関東の影響を受けていると見られる土師器甕（6・7）が見られた。また、縄文時代に拘るとされる剥片の剥離痕の見られる石核（8・9）も出土している。

本住居は遺構の遺存状況が悪く、上位が大きく壊されて溝遺構のみが比較的良好に確認されている。このため周溝墓の可能性も考慮されたのであるが、7区の遺構の状況に照らして「周溝を持つ建物」と判断したものである。尚、本住居が堅穴住居か平地式の住居であったかは確認できなかった。

第2章 発見された遺構と遺物

規模 径：1428×1288cm

(住居本体) 径：957×836cm

(周溝) 幅：268cm 深さ：
39cm

(入口) 幅：177cm

(216号土坑) 径：50×46cm
深さ：20cm

(217号土坑) 径：55×52cm
深さ：25cm

(218号土坑) 径：60×59cm
深さ：24cm

(219号土坑) 径：48×39cm
深さ：23cm

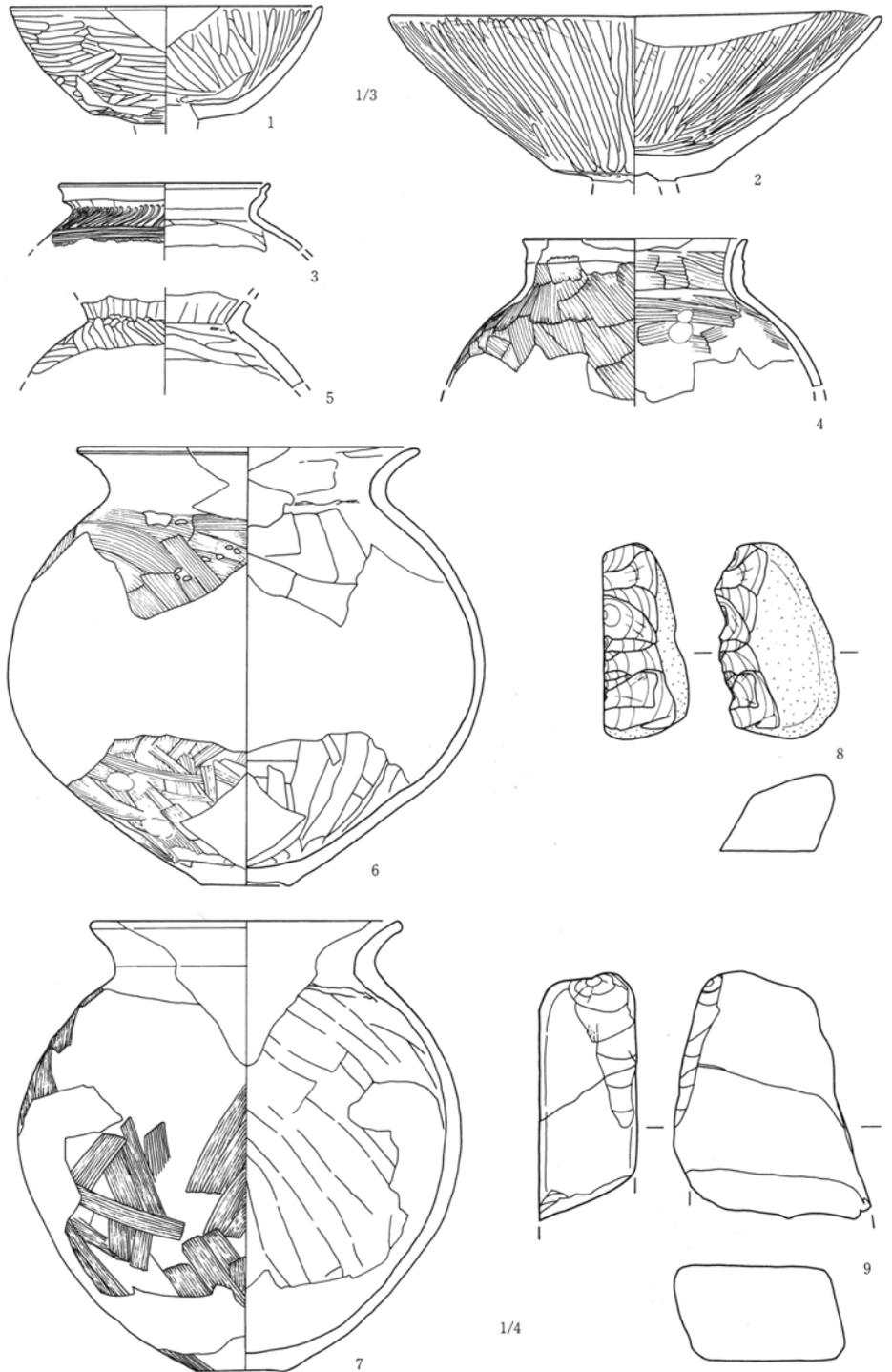
構造 本住居は後世の竪穴住居建設に伴う掘削等で壊されているため遺存状況が悪く、主に周溝部のみの確認、調査となったために住居全体の状況は詳らかでない。また本住居は周溝を伴う竪穴住居として調査・整理作業を進めてきたが、壁体を周堤とする平地式住居である可能性も考慮されるものである。

プランは概ね隅丸方形状を呈しているが、掘り方の有無は特定できなかった。

住居本体の周囲には幅広の溝が掘削されるが、住居南辺中央は土橋状の掘り残しがあり、この部分が入り口部と認識される。尚、溝の掘削形態は箱堀状を呈している。

住居本体である内部の状況については、床面が確認されなかったため不明であるが、土坑として処理した住居本体北西部の6-2-216～219号の4基の土坑は本住居に伴う柱穴等である可能性を有している。

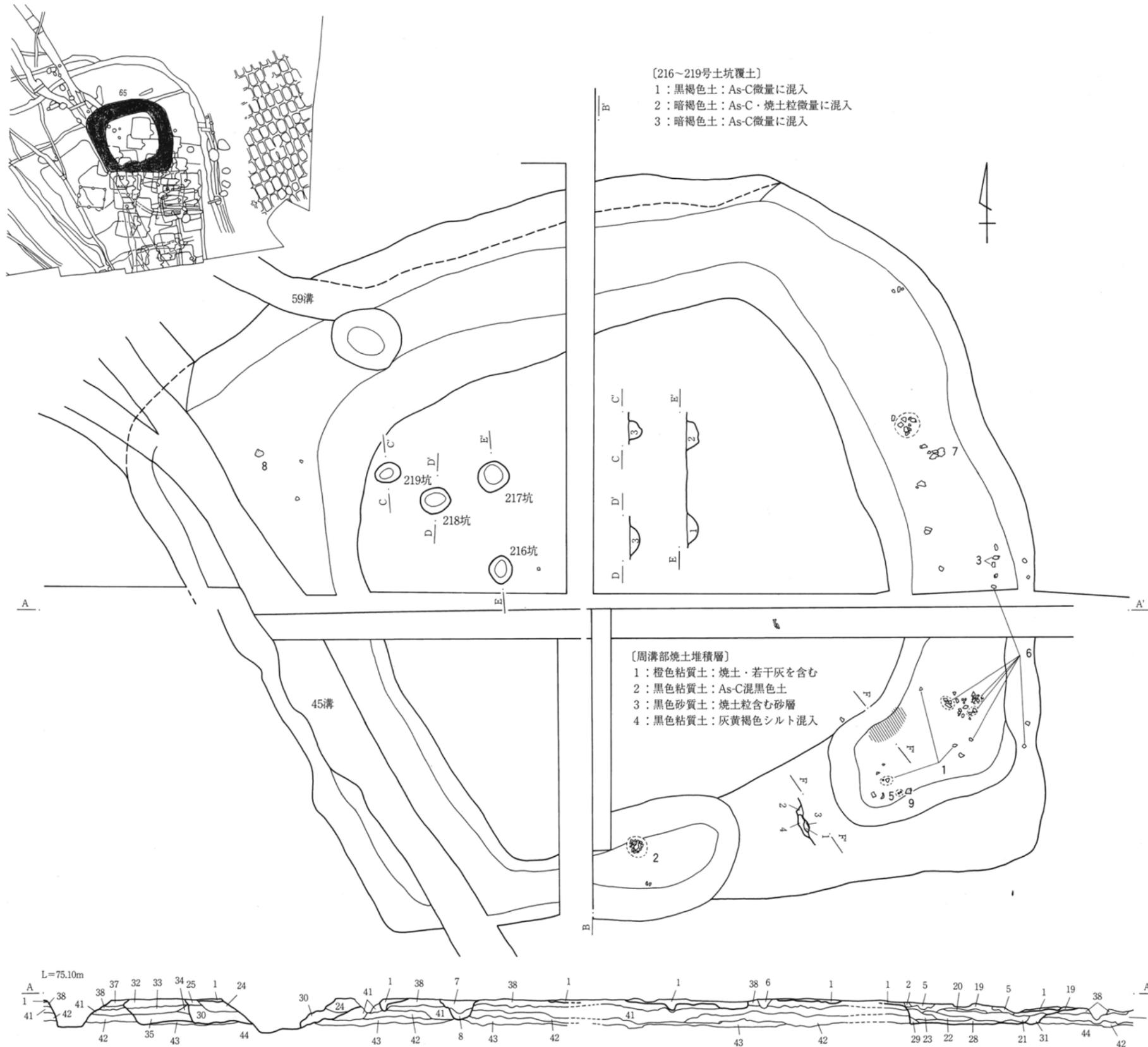
また、上屋構造も不明であった。



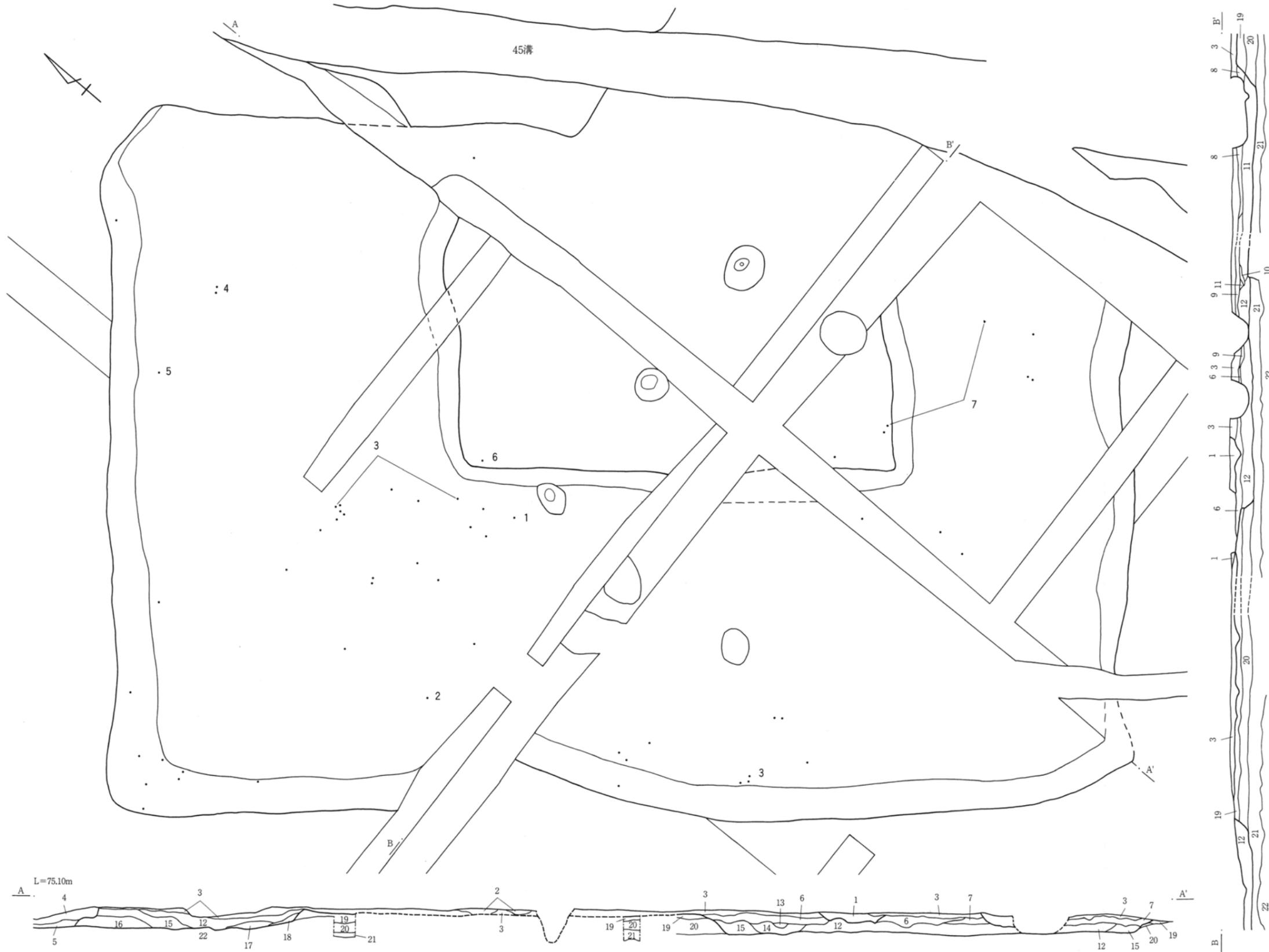
第132図 6-2-65号住居と出土遺物

(63) 6-2-66号住居(第134・135図、図版34・35・69)

概要 本住居は竪穴住居集中域の中西部に位置する。本住居も6-2-65号住居同様、6-2-13号住居等の等律令期の住居群に切られ、同時期の65号住居にも切られている。

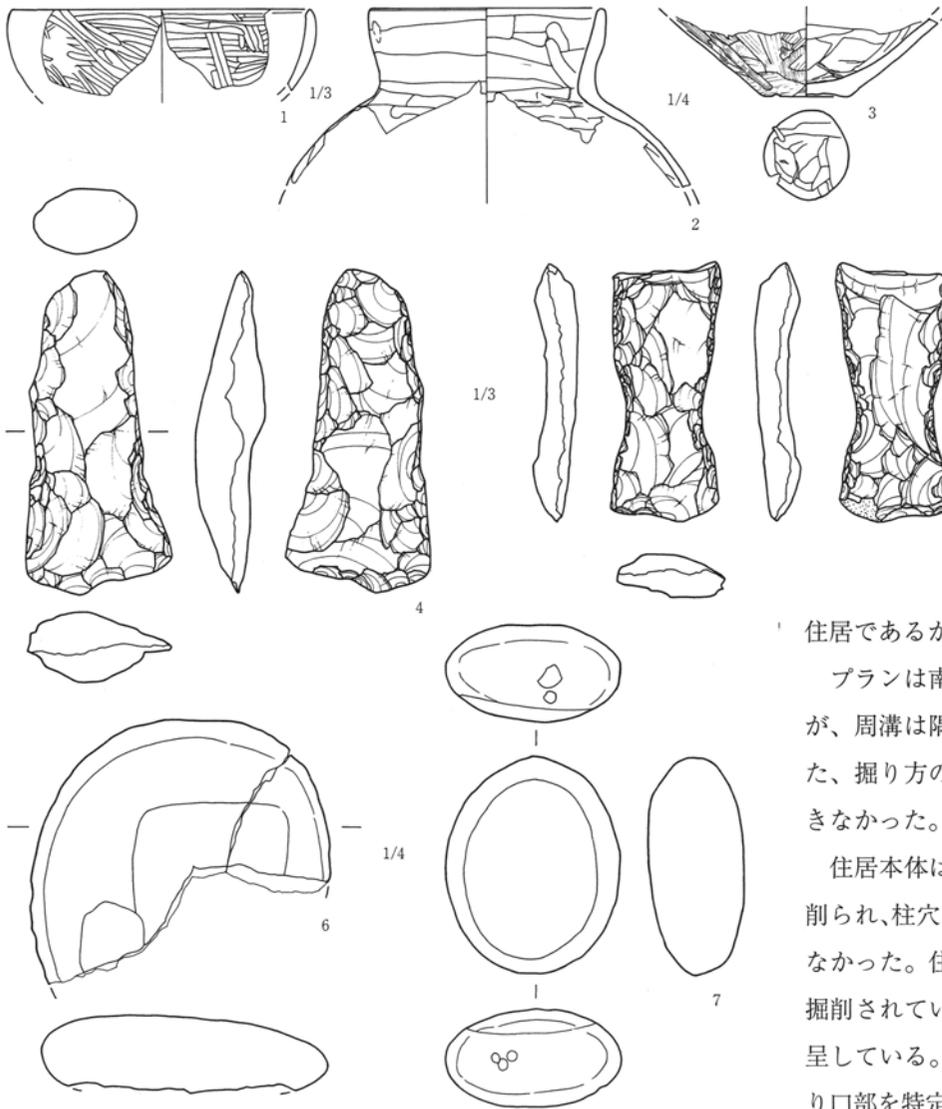


第133図 6-2-65号住居



- [66号住居埋没後の土層]
 [平安時代の竪穴住居覆土]
 1: 黒色粘質土: As-C混入
 [As-C降下後の覆土]
 2: 暗褐色粘質土: 平安時代住居覆土に類似
 3: 黒色粘質土: As-C混黒色土
 [65号住居周囲溝覆土]
 4: 黒褐色粘質土: 基褐色シルト混入。崩落土
 5: 黒褐色粘質土: 僅かにAs-C混入
 [66号住居周囲溝覆土]
 6: 黒褐色粘質土: 褐灰色シルト混入
 7: 黒色粘質土: 黄褐色・褐灰色粘質シルト混入
 8: 黒褐色粘質土: 褐灰色シルト粒を含む
 9: 黒褐色粘質土: 褐灰色シルト含む
 10: にぶい黄褐色粘質土: ブロック状
 11: 黒褐色粘質土: 黄褐色シルト粒を含む
 12: 暗褐色粘質土: 黄褐色・褐灰色シルト混入。やや砂質感あり
 13: 褐灰色粘質土: 崩落土中のシルトブロック
 14: 黒褐色粘質土: 僅かに褐灰色シルト混入。砂質感あり
 15: 黒褐色粘質土: 黄褐色・褐灰色シルト混入
 16: 黒褐色粘質土: 15層に比し黄褐色シルト多く混入
 17: 黒褐色粘質土: やや砂質感あり。僅かに黄褐色シルト混入
 18: 黒褐色粘質土: 内側からの崩落土 [地山層土]
 19: 黒色粘質土: As-C混土下位の黒色土
 20: 黒褐色粘質土: やや砂質。黄褐色シルト混入
 21: 黒褐色粘質土: 粘性強い
 22: 黒褐色粘質土: 灰オリーブ色シルト混入

第134図 6-2-66号住居



規模 径：1128×
1504cm
(住居本体) 径：
521×712cm
(周溝) 幅：483cm
深さ：22cm
構造 本住居は遺
存状況が悪く、周
溝部を中心とした
調査となったため
全体の状況は詳ら
かではない。また
竪穴住居か平地式

住居であるかも特定できなかった。

プランは南北に長い長方形を呈するが、周溝は隅丸方形を呈している。また、掘り方の有無を特定することはできなかった。

住居本体は床面と想定される箇所も削られ、柱穴、貯蔵穴、炉等は確認できなかった。住居の周囲には幅広の溝が掘削されているが、この溝は箱堀状を呈している。尚、65号住居のように出入り口部を特定することはできなかった。

第135図 6-2-66号住居と出土遺物

住居本体部分からは上位の平安期の竪穴住居に伴うものを含む土師器片等若干の出土遺物があったが、本住居に伴うものでは周溝部から土師器の高坏(1)や壺(2)・甕(3)等の出土があり、その所見から3世紀末葉という時期が与えられる。また、縄文時代に拘る打製石斧(4・5)、或いは磨石(7)、中世の礎石の可能性もある磨石(6)も見られた。

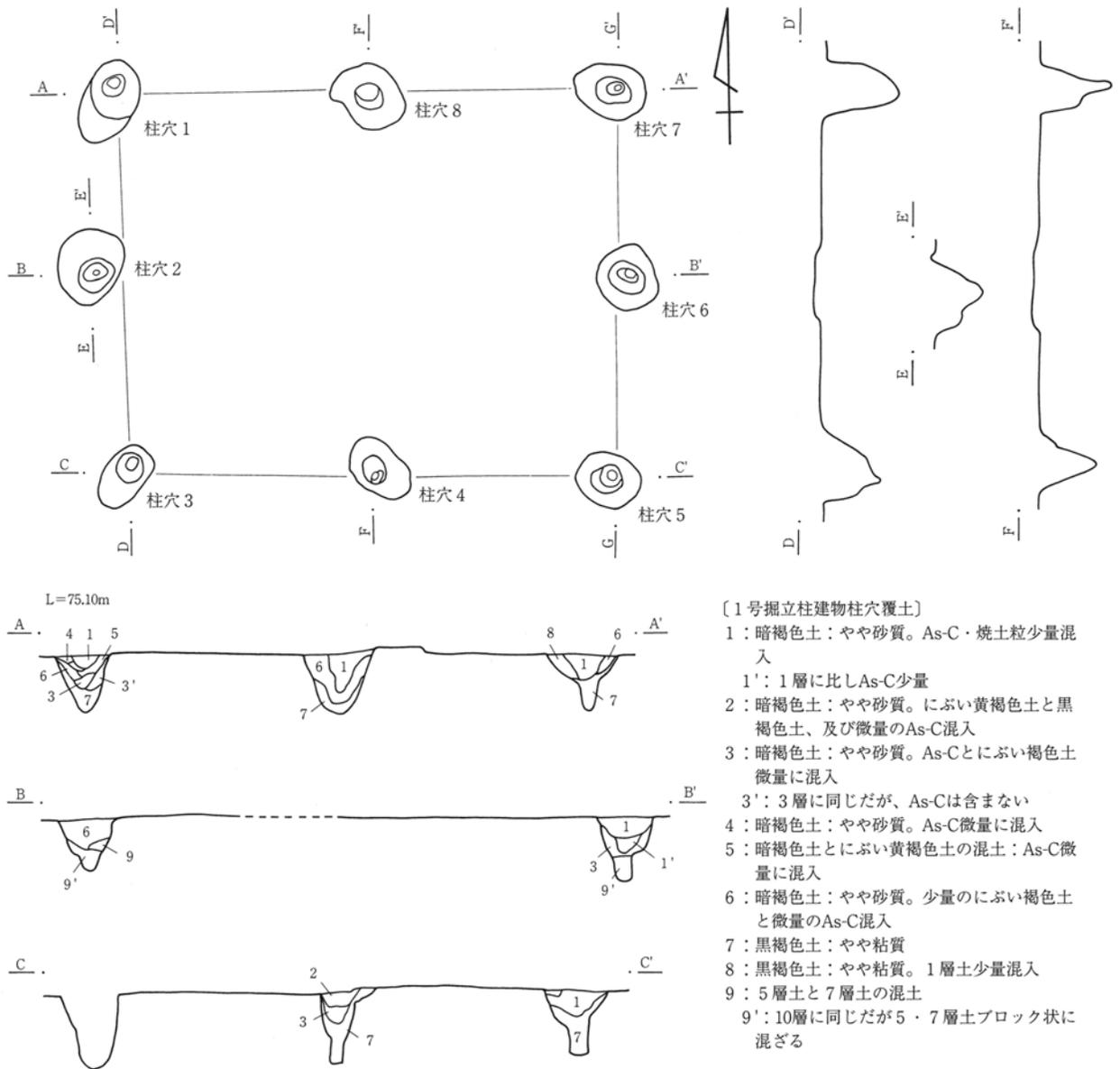
本住居も65号住居同様遺存状況が悪く、周溝のみが比較的良好に遺存していたのであるが、やはり7区の遺構の状況に照らして「周溝を持つ建物」と判断したものである。本住居が竪穴住居か平地式の住居かは判断できなかった。

(64) 6-2-1号掘立 (第136図、図版35)

概要 本建物は竪穴住居集域の中西部の西側に位置し、6-2-66号住居の南西部を切って建てられている掘立柱建物である。

本建物の建築、使用、廃絶の時期は明瞭ではないが、8基ある柱穴のうちPit 3を除く各柱穴からは若干量ではあるが律令期を中心とする時期の土師器の坏・甕片等が出土している。また建物が棟通りに柱を有する2×2間の建物であること、柱穴の規模が中世のそれに比較して大きく律令期の傾向を有していること、そして中世遺構の確認面では確認されていなかったことなどの状況から、概ね本建物は律令期(平安期頃)の所産として把握されると判断さ

第2章 発見された遺構と遺物



第136図の1 6-2-1号掘立柱建物

れるものである。

本建物の用途は特定できなかったが、後述の状況から高床の建物であった可能性が考慮されるが、構造上倉庫として使用したか否かは不明である。

尚、柱穴のうち柱穴1・4・5・6・7・8はその形状から推して、下位の掘削が柱痕の範囲に止まっているように見受けられることから、掘削が不足している可能性のあることを報告しておく。

規模 径：526×393cm

- (柱穴1) 径：76×47cm 深さ：64cm
- (柱穴2) 径：68×57cm 深さ：45cm
- (柱穴3) 径：59×36cm 深さ：68cm
- (柱穴4) 径：63×40cm 深さ：68cm
- (柱穴5) 径：58×46cm 深さ：59cm
- (柱穴6) 径：55×50cm 深さ：58cm
- (柱穴7) 径：65×50cm 深さ：56cm
- (柱穴8) 径：62×54cm 深さ：57cm

いのものが多いように見受けられた。尚、その径は10～20cmを測り、平均で15.06cmであった。

また本建物の上屋構造は不明であるが、柱穴2・3の底面には塑性変形と見られる窪みが見られた。これが(掘削が足りないと思慮される)他の柱穴にも見られたとするならば、石守の値(石守1986)に照らして1本の柱に対する荷重は140km程となり、建物の総重量は1tを上回るものとなるため本建物は高床建物であった可能性も考慮できるのではあるが、総柱の建物ではないため、倉庫ではなかったものと判断している。

(65) 6-2-1・2・3・4号道(第137図、図版35・36)

概要 6-2-1～4号道は6区南西部に在り、西から1・2・3・4号道の順に、1号道と2号道が6m程、2号道と3号道が1.5～4m程、3号道と4号道は6m以上隔たって位置している。尚、その配置は角度の差はあるが概ね並行に近いものである。

2号溝が6-2-50号溝、4号道が6-2-51・60号溝と重複するが、4号溝が51号溝を切ることが確認されただけで、他の新旧は確認できなかった。

1・2・3・4号道の時期は特定できなかったが、4号道は51号溝との関係から概ね律令期の所産と判断され、1号道も6世紀の水田を切り、その走行の近似から、1～3号道も7世紀以降の所産として把握し得るものである。一方、1～4号道は竪穴住居の集中域から最も近い4号道でも5m以上離れていて直接的な関連は認められず、律令期の竪穴の軸方向に対して1～4号道の軸方向は西に傾いているため条里にも依拠していない。従って、条里設置前の遺構である可能性が考えている。

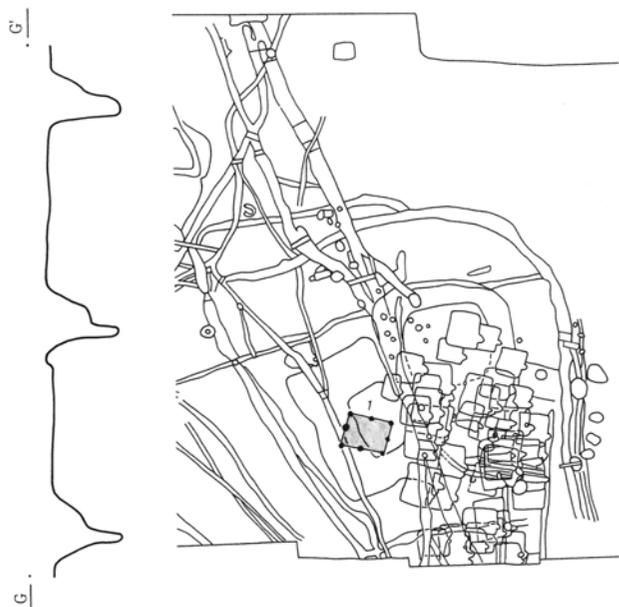
1～4号道は何れも浅い溝遺構であるが、覆土が硬く締まることから道路として認識したものである。

規模 (1号道) 長さ:19.7m 幅:104cm 深さ:5cm

(2号道) 長さ:19.3m 幅:50cm 深さ:4cm

(3号道) 長さ:19.5m 幅:60cm 深さ:5cm

(4号道) 長さ:25.8m 幅:112cm 深さ:7cm



第136図の2 6-2-1号掘立柱建物

(建物) 桁行:442cm 梁行:341cm

(桁間) 長さ:207～222cm

平均:215.25cm (標準偏差値:6.65)

(梁間) 長さ:164～178cm

平均:170.25cm (標準偏差値:5.91)

構造 本建物はほぼ真の東西が長い、即ち東西方向に棟方向を持つ2×2間の掘立柱建物である。その柱間は桁間が平均215cmと梁間が平均170cmと桁間が梁間に対して45cm程長い規格を有する。

建物全体のプランはほぼ長方形を呈するが、柱の配置は棟通りにある柱穴2・6がそれぞれ建物四隅の柱穴(柱穴1・3、柱穴7・5)を結ぶラインより柱穴4が22cm、柱穴5が13cm程外側に開いており、僅かに六角形を呈するような形状となっている。

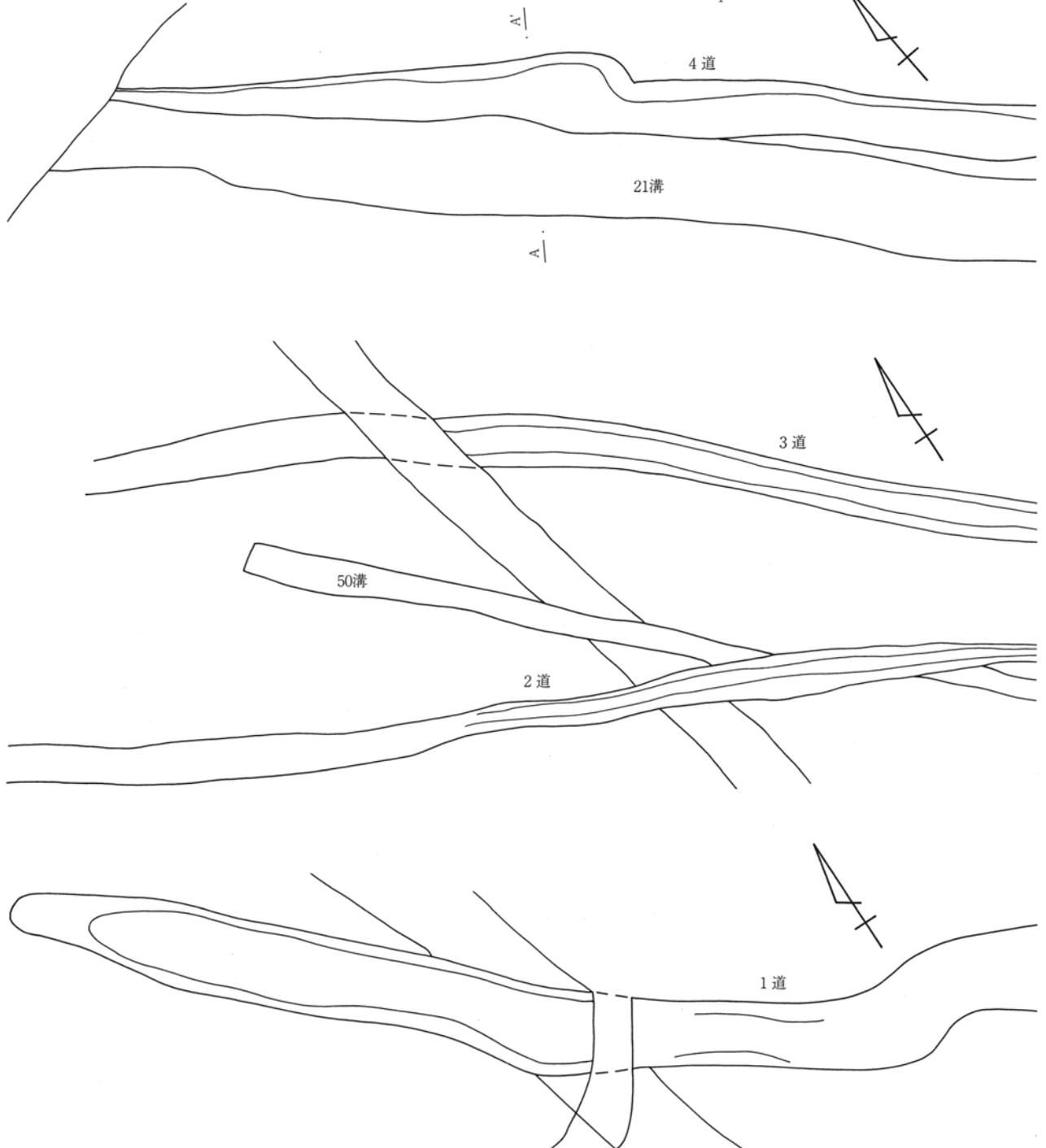
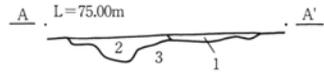
本建物の柱穴は大きく見ると柱穴1・3・4・7が楕円形様の、他の柱穴が隅丸方形様のプランを呈している。柱穴の径は平均55.38cm(標準偏差値5.30)、深さは59.3cm(標準偏差値7.52)と比較的しっかりした形状をしている。

また底面に残る柱痕の形状は円形から隅丸形状を呈するなど明瞭ではなかったが、比較的方形に近

第2章 発見された遺構と遺物



- [4号道覆土]
- 1：灰黄褐色土：Hr-FA層上の土にAs-C・Hr-FP密に混入。締まり強い
- [51号溝覆土]
- 2：灰黄褐色土：Hr-FA層上の土にAs-C・Hr-FP混入するが、1層に比しまばらである
- [地山]
- 3：黒褐色土：褐色砂ブロック混入。締まりなし



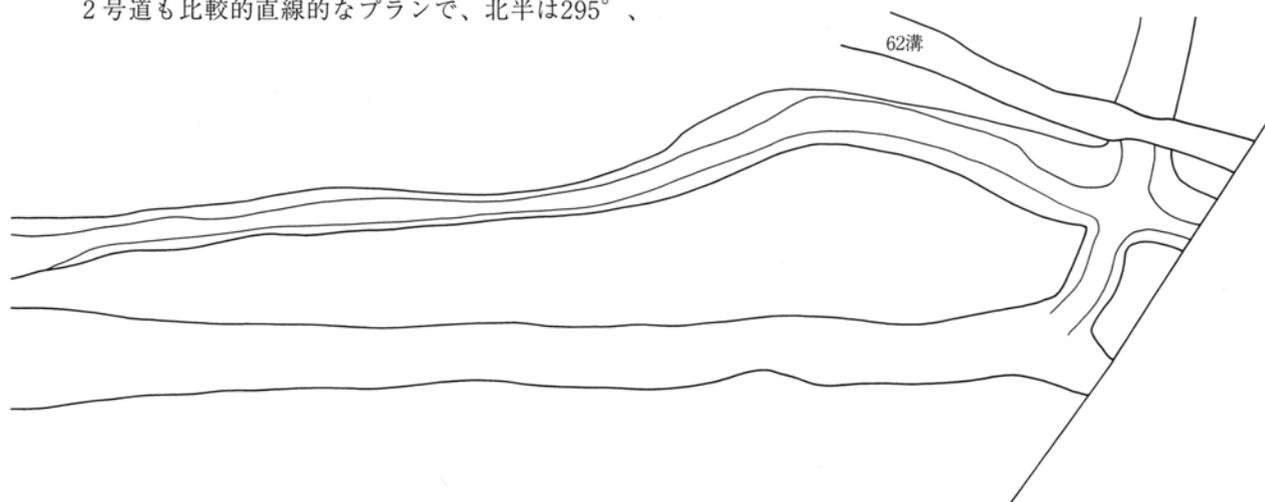
第137図の1 6区2面の道遺構

構造 上述のように1～4号道は浅い溝状の形態を有するが、覆土は難く締まり、踏み固められて道路面が形成されていたものと思慮される。

1号道は比較的直線的なプランを呈し、真北に対して北半は315°、南半は300°に走行の方向を取る。

2号道も比較的直線的なプランで、北半は295°、

南半は300°に、3号道の非常に緩やかなS字状の走行を見せ、概ね北半は300°、南半は290°に走行を取る。4号道は全体的には315°に走行の方向を取る直線的なプランを呈するが、調査区南端近くで290°、330°とクランク状に走行を変じている。



(66) 6-2-45号溝 (第138図、図版36・69)

概要 本溝は6区中部を北北西-南南東に横切る比較的大きな溝遺構である。

本溝は6区2面の竪穴住居集中域の西寄りを通過して6-2-1号住居等と重複するが、本溝の方が古い。また6-2-54～56・65・67・71号溝等と重複するが、54号溝に切られる以外新旧は特定できなかった。

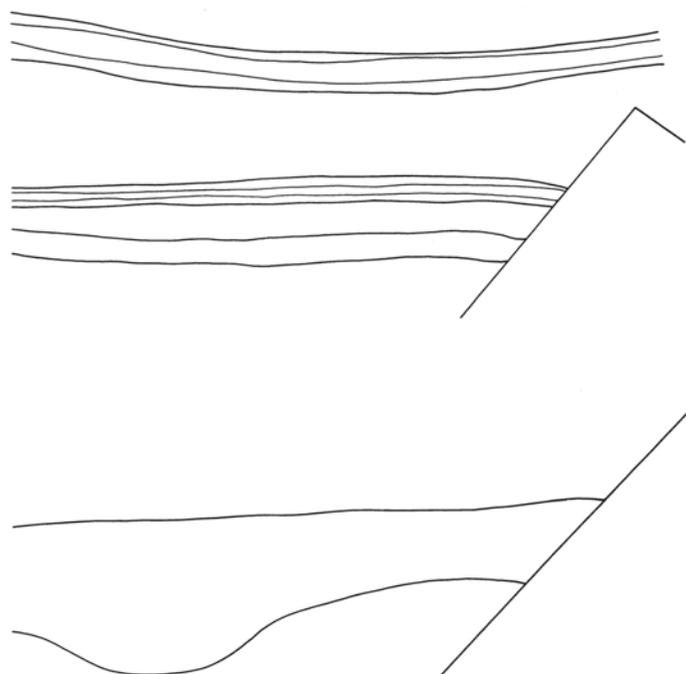
本溝からは坏(1)等の土師器を中心にスラグらしきもの(2、図版69)など若干の出土遺物を得たが、時期の特定には至らなかった。しかし竪穴住居群より古く、その走行が竪穴住居の軸方向と異なること、覆土が小区画水田を被覆するHr-FA・Hr-FP泥流層土に類似することから、古墳時代後期以降、条里区画設定以前の律令期の所産として把握される。

尚、本溝は覆土中のシルト(8層)を挟んだ砂層(7層)の存在と走向の方向から小区画水田に伴う水路として使用されたものと判断される。

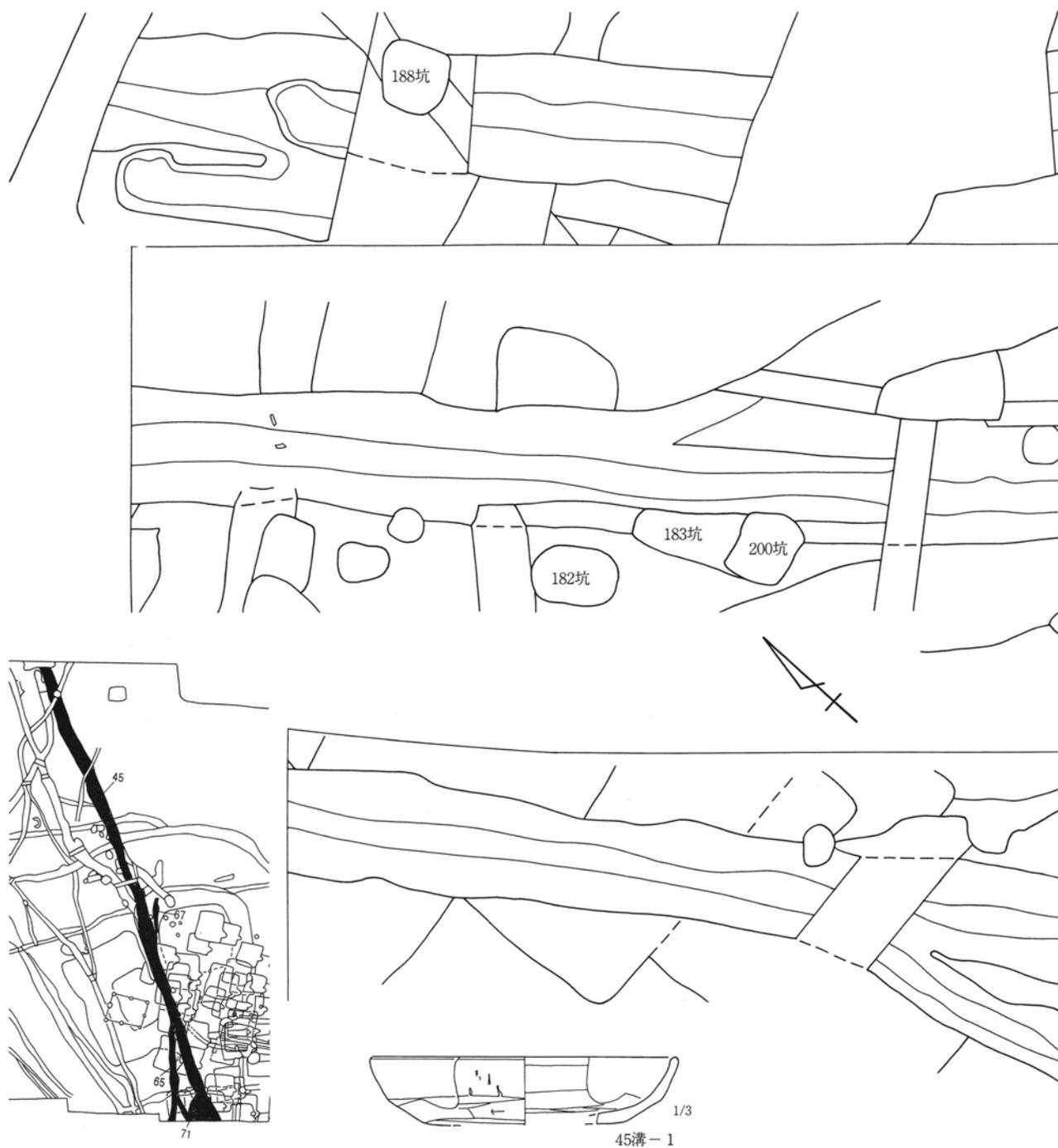
規模 長さ:62.4m 幅:160cm 深さ:48cm

構造 本溝は北西-南東方向に走行を取り、直線的なプランを呈する。

その掘削形態は箱掘状を呈するが壁面は若干開く。



第137図の2 6区2面の道遺構



第138図の1 6-2-45号溝と出土遺物

(67) 6-2-65・67・71号溝

(第138図、図版37)

6-2-67号溝は6区中部、6-2-65・71号溝は6区中南部に在って、65・67号溝は6-2-45号溝から、71号溝は65号溝から分岐するように位置している。

65・71号溝は重複する6-2-17号住居等の竪穴住居よりは古い。一方65・67号溝は54号溝等と重複す

るが新旧関係は特定できなかった。

これらの溝からの出土遺物無く、時期特定には至らなかったが、65・71号溝は17号住居等より古いため概ね9世紀前半の所産と考えられ、各溝共その走行は条里に依拠していない。

尚、これらの溝の掘削目的も特定することはできなかった。

第2節 6区の遺構と遺物

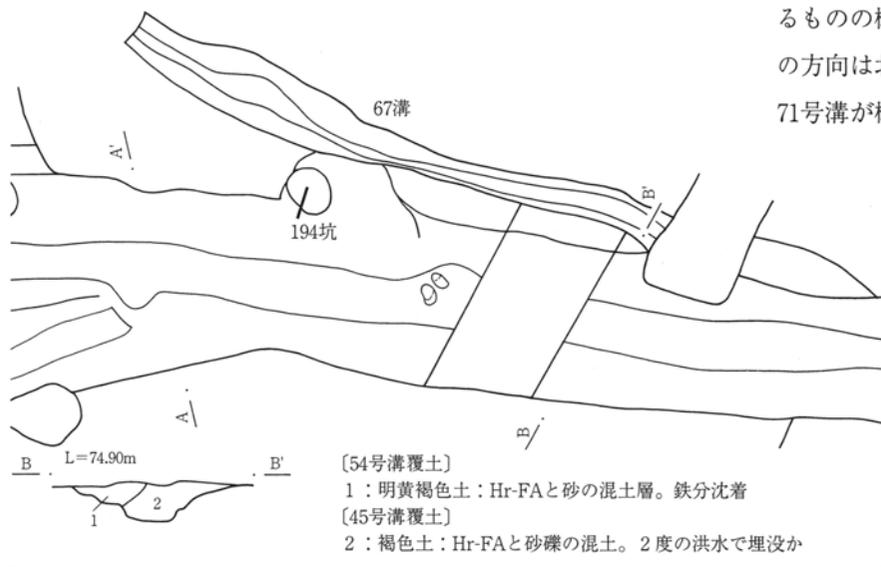
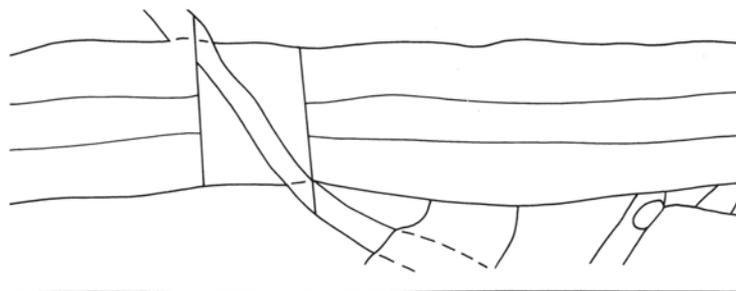
規模 (65号溝) 長さ:12.4m 幅:64cm
深さ:25cm

(67号溝) 長さ:6.0m 幅:32cm 深さ:18

(71号溝) 長さ:3.6m 幅:56cm 深さ:10cm

構造 65・37・71号溝は何れも若干の蛇行するものの概ね直線的なプランを呈する。走行の方向は北に対して65・67号溝が概ね340°、71号溝が概ね315°を向く。

掘削形態は65・71号溝が箱堀状、67号溝は部分により箱堀状または薬研堀状を呈する。

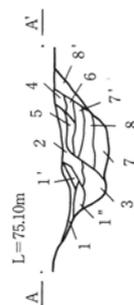
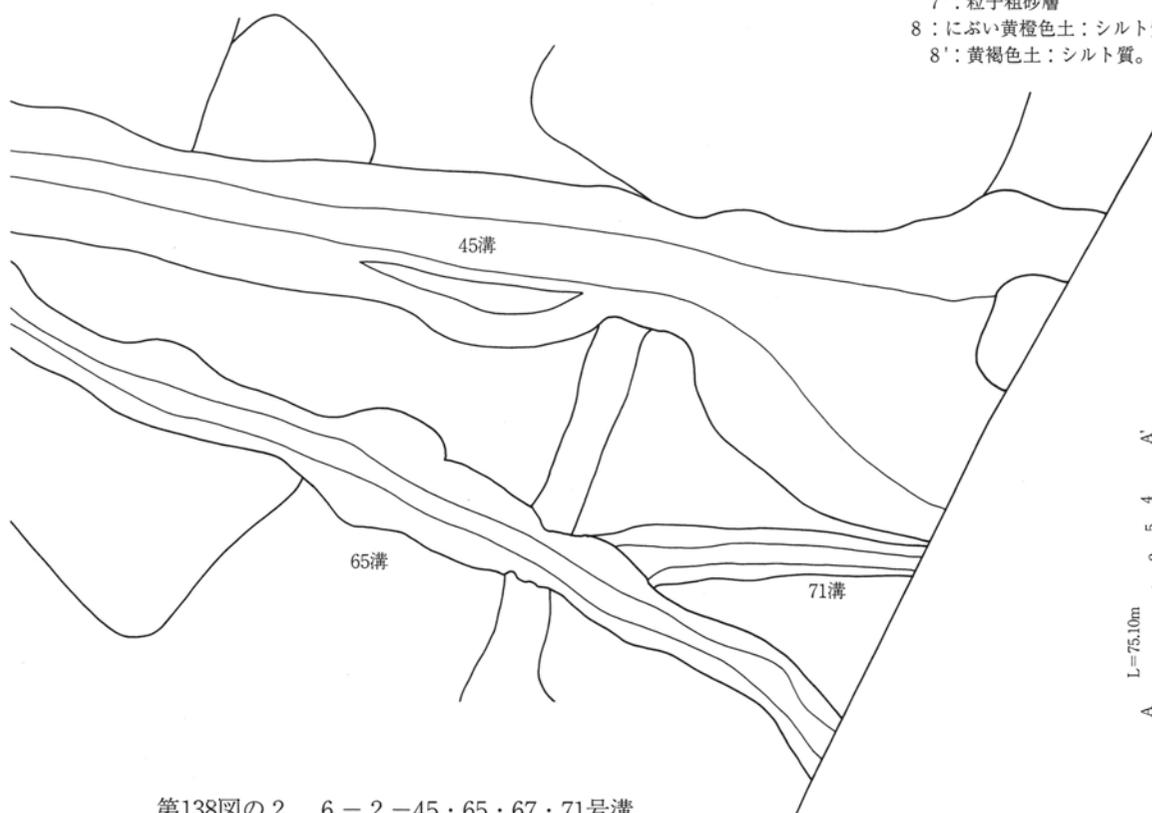


[54号溝覆土]

- 1: にぶい黄褐色土: シルト質
- 1': 細粒の砂含む 1" : 1'層の細砂
- 2: 灰黄褐色土: シルト質
- 3: 灰黄褐色土: 1 (・1'・1")・2層
土黒色土等多く混入

[45号溝覆土]

- 4: 灰黄褐色土: シルト質。Hr-FP混入
- 5: 灰黄褐色砂: 細粒の砂層
- 6: 黄褐色土: シルト質。Hr-FP混入
- 7: 灰黄褐色砂質土: 固く締まる
- 7': 粒子粗砂層
- 8: にぶい黄橙色土: シルト質
- 8': 黄褐色土: シルト質。8層と同時期



第138図の2 6-2-45・65・67・71号溝

(68) 6-2-46・47・48・52号溝

(第139図、図版36・69)

6-2-46・47・48・52号溝は6区西部に位置するが、48号溝が6-2-49・53号溝を切る以外、重複する各溝との新旧は特定できなかった。

47・48号溝に出土遺物は無く、46・52号溝からは6世紀前半期の坏(52溝-1)を含む若干の土師器片を出土したが時期は特定でき

なかった。しかしHr-FA泥流で埋没した溝のうち47号溝は南西でのHr-FA下水田への給水の想定から6世紀初頭の所産、46号溝はその復旧水田の可能性が

考えられる。48・52号溝も46・47号溝との流路の近似から、律令期以前の水路の可能性を考えたい。

規模 (46号溝) 長さ:22.4m 幅:120cm 深さ:5cm

(47号溝) 長さ:19.6m 幅:80cm 深さ:6cm

(48号溝) 長さ:43.3m 幅:64cm 深さ:18cm

(52号溝) 長さ:20.0m 幅:32cm 深さ:10cm

構造 46・47・48・52号溝は何れも緩やかに蛇行するが、大きくは南西-北東方向に走行し、48・52号溝は東端で大きく弧を描いて北に走行を变ずる。

これらの溝の掘削形態は浅い箱堀状を呈する。

(69) 6-2-49号溝 (第139図、図版36)

本溝は6区西部に在って6-2-47・48・52~54号溝と重複するが、このうち48号溝を切り、53・54号溝に切られている。

本溝の掘削意図は不明で、遺物も土師器坏片1片が出土しただけで時期は不特定であったが、覆土の観察等からHr-FA泥流による埋没を確認した。

規模 長さ:36.9m 幅:80cm 深さ:18cm

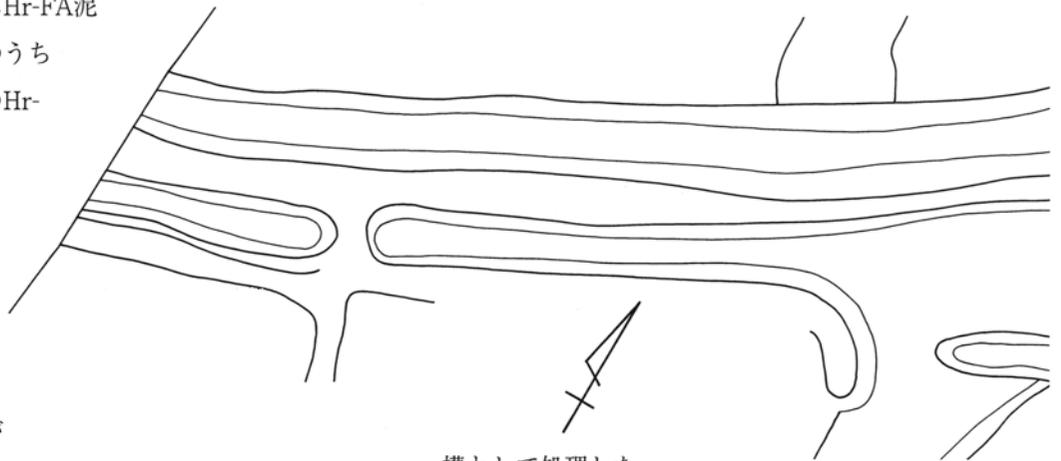
構造 本溝は北東-南西方向に走行を取る直線的プランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈し壁面はやや立つ。

(70) 6-2-53・63号溝

(第139・141図、図版36・37)

6-2-53・63号溝は6区中部西寄りに在り、別遺



構として処理したが、その位置関係から同一の溝と判断した。両者は数条の溝と重複し、6-2-48・62号溝を切っている。尚、62号溝との時期差はあまりない。

第139図の1 6-2-46・47・48・52号溝

の遺物の出土は見られなかったが、重複する48・62号溝との関係から、古墳時後期以降、概ね律令期以前の所産として把握したい。

尚、53・63号溝の掘削意図は特定できなかった。

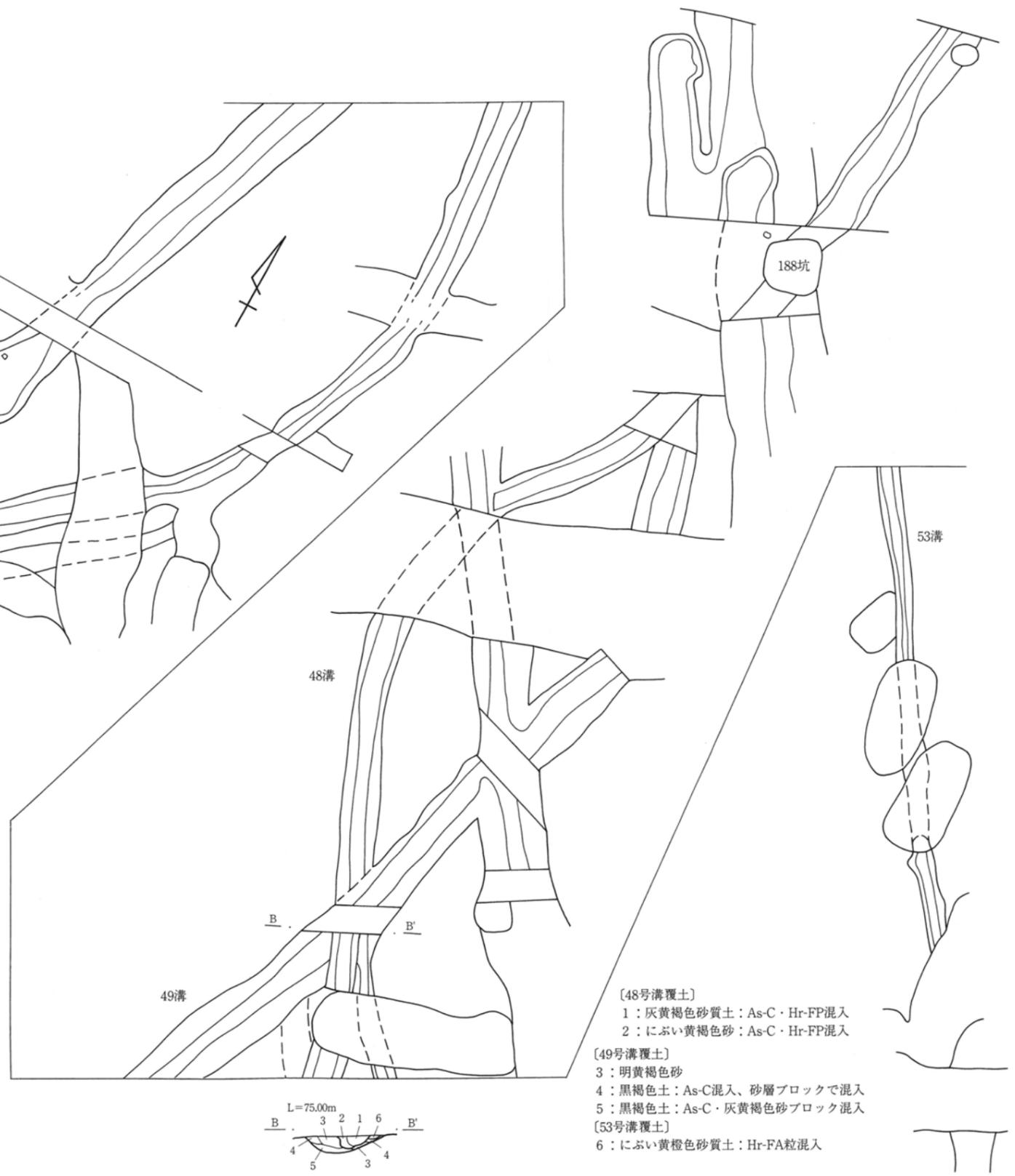
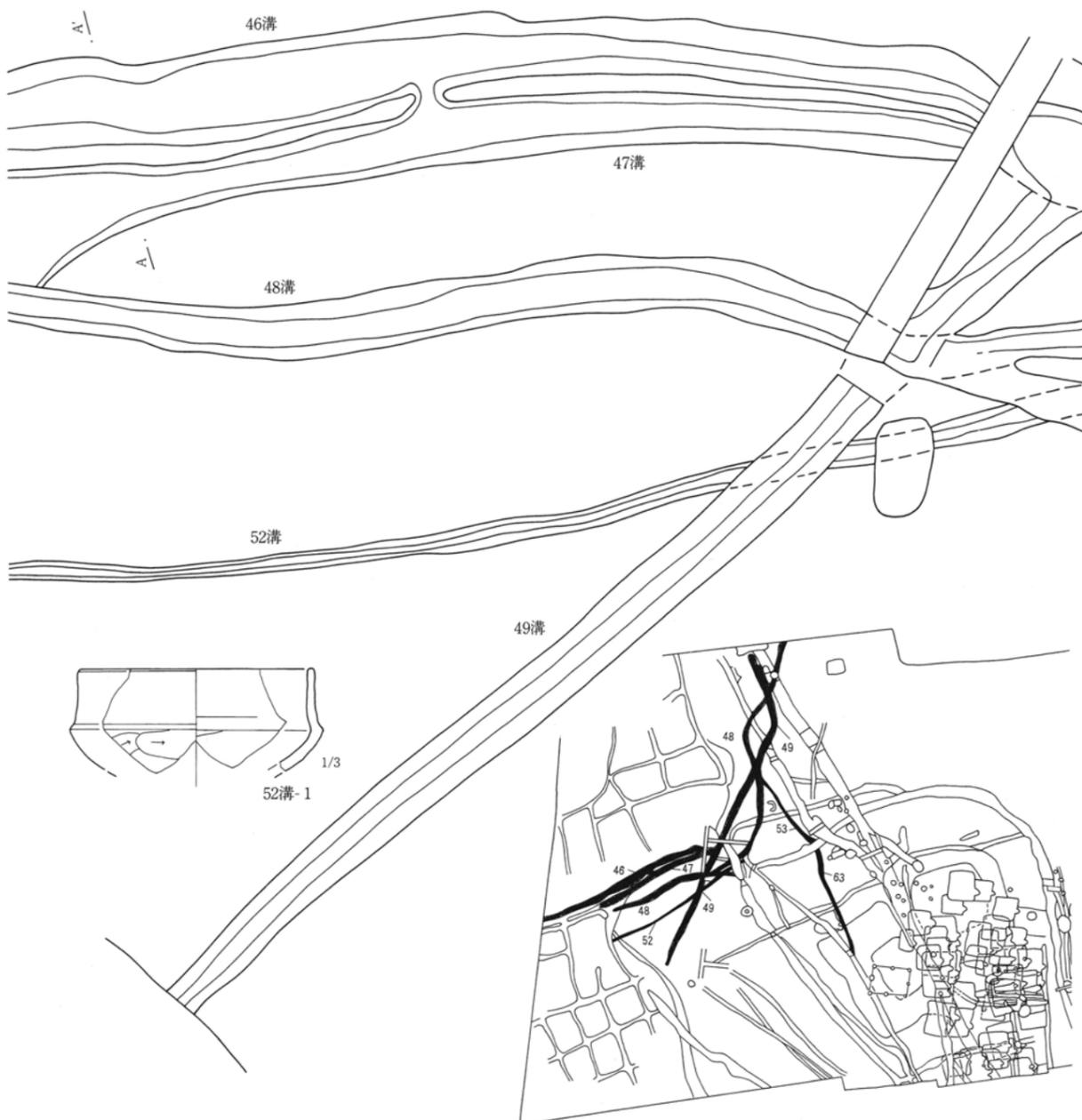
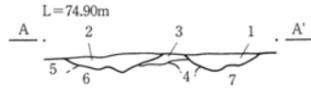
規模 (53号溝) 長さ:8.8m 幅:32cm 深さ:5cm

(63号溝) 長さ:15.2m 幅:50cm 深さ:41cm

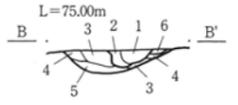
構造 53・63号溝は北西-南東に走行を取って連なるように在るが、63号溝は北西端近くで折れを持ち、やや西に触れる。共にプランは直線的である。

両溝の掘削形態はやや薬研堀状を呈する。

- [47号溝覆土]
 1：黄橙色砂：As-C・Hr-FP・Hr-FA粒混入
 [46号溝覆土]
 2：明黄褐色砂：As-C・Hr-FP・Hr-FA混入。砂の粒径は1層に比し大きい
 [地山]
 3：にぶい黄褐色砂質土：As-C・Hr-FP・Hr-FA粒混入
 4：黒褐色土：黒褐色シルトと川砂を互層に混入
 5：灰黄褐色粘質土：As-C混入
 6：にぶい黄褐色砂質土：As-C・Hr-FA混入
 7：黒褐色粘質土：As-C混入



- [48号溝覆土]
 1：灰黄褐色砂質土：As-C・Hr-FP混入
 2：にぶい黄褐色砂：As-C・Hr-FP混入
 [49号溝覆土]
 3：明黄褐色砂
 4：黒褐色土：As-C混入、砂層ブロックで混入
 5：黒褐色土：As-C・灰黄褐色砂ブロック混入
 [53号溝覆土]
 6：にぶい黄橙色砂質土：Hr-FA粒混入



第139図の2 6-2-46・47・49・52・53号溝



(71) 6-2-50号溝 (第140図)

本溝は6区南部やや西寄りに位置しており、6-2-2号道と重複しているが、その新旧を特定することはできなかった。

本溝からの出土遺物は無く、時期の特定もできなかったのであるが、近接する6-2-3号道に近似した走行の方向を示し、その方向が条里方眼に依っていないことから3号道と同じく7世紀以降、律令期の所産として把握し得るものと判断される。

尚、本溝の掘削意図等は把握されなかったが、その掘削の深さから推して道遺構であった可能性も思慮される。

規模 長さ：16.0m 幅：56cm 深さ：3cm

構造 本溝は南西方向に膨らむごく緩やかな弧状のプランを呈しているが、その走行は概ね北西-南東方向に取っている。

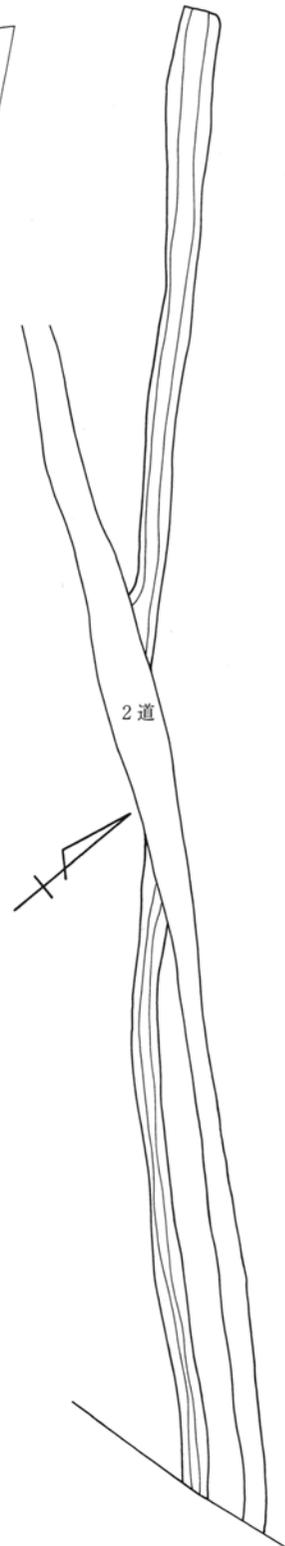
掘削形態は中程で交差する2号道との交差点より北側は箱堀状を呈し、南側は薬研堀状を呈する。

(72) 6-2-51・62号溝 (第141図、図版36)

6-2-51・62号溝は6区中央のやや西寄りに位置する。両号溝は重複しているが新旧は特定できなかった。また51号溝は6-2-4号道に切られており、62号溝は6-2-63号溝に切られている。

両溝のうち62号溝からは僅かに平安期の須恵器碗片1片が出土したのみで、51号溝からは土師器片を中心とした(上位面から混入した陶器片1片も含む)若干量の出土遺物があったものの時期特定には至らなかった。また51号溝の覆土はHr-FA上の土壌であったが、出土遺物等も勘案して両溝は概ね律令期の所産として把握される。しかしその走行は条里方眼に依拠したものではないため、律令期中でもやや古い時期の所産である可能性が考えられる。

尚、両溝の掘削意図については把握されなかった。



第140図 6-2-50号溝

第2章 発見された遺構と遺物

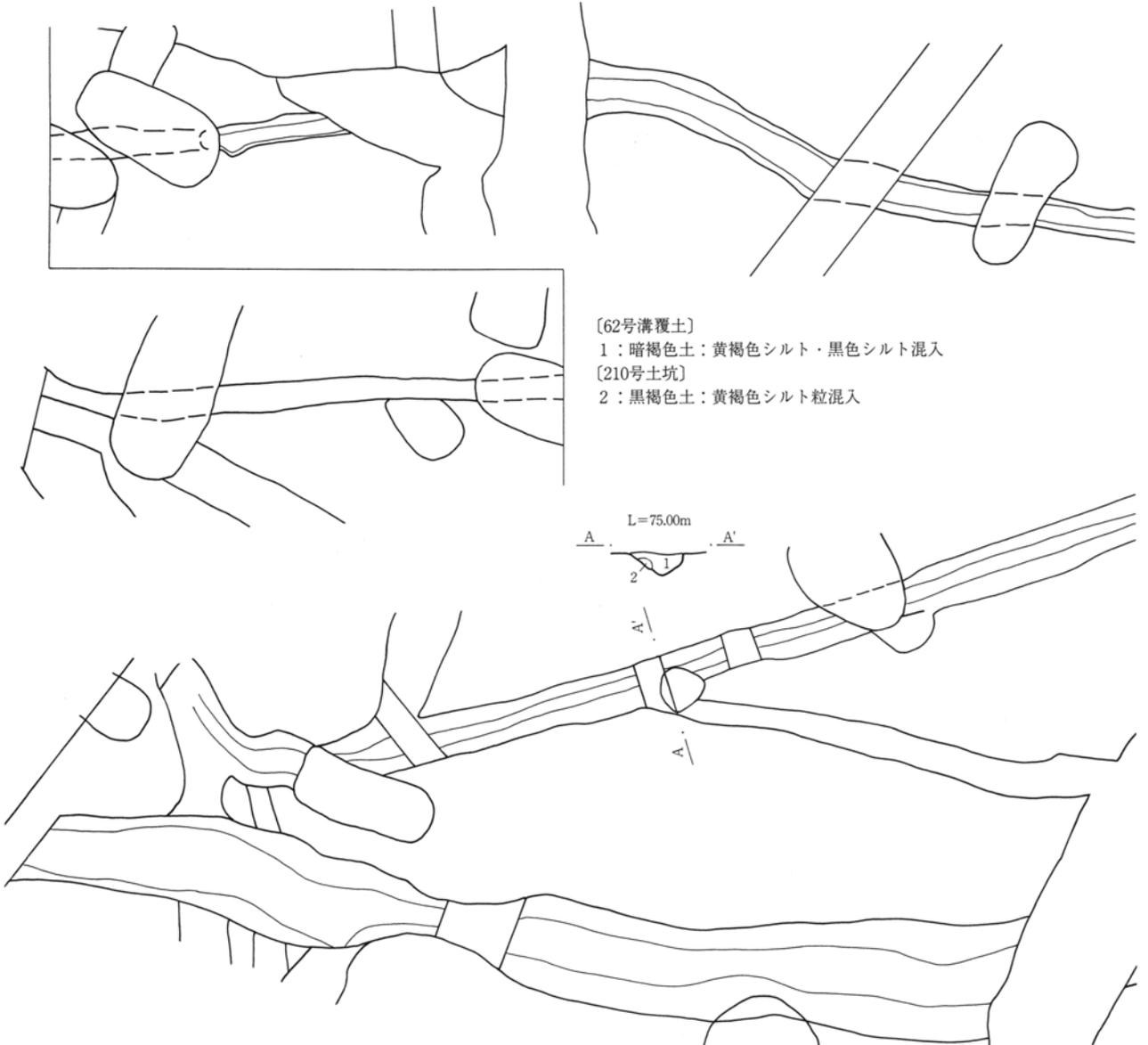
規模 (51号溝) 長さ: 37.0m 幅: 96cm 深さ: 17cm

(62号溝) 長さ: 36.3m 幅: 67cm 深さ: 23cm

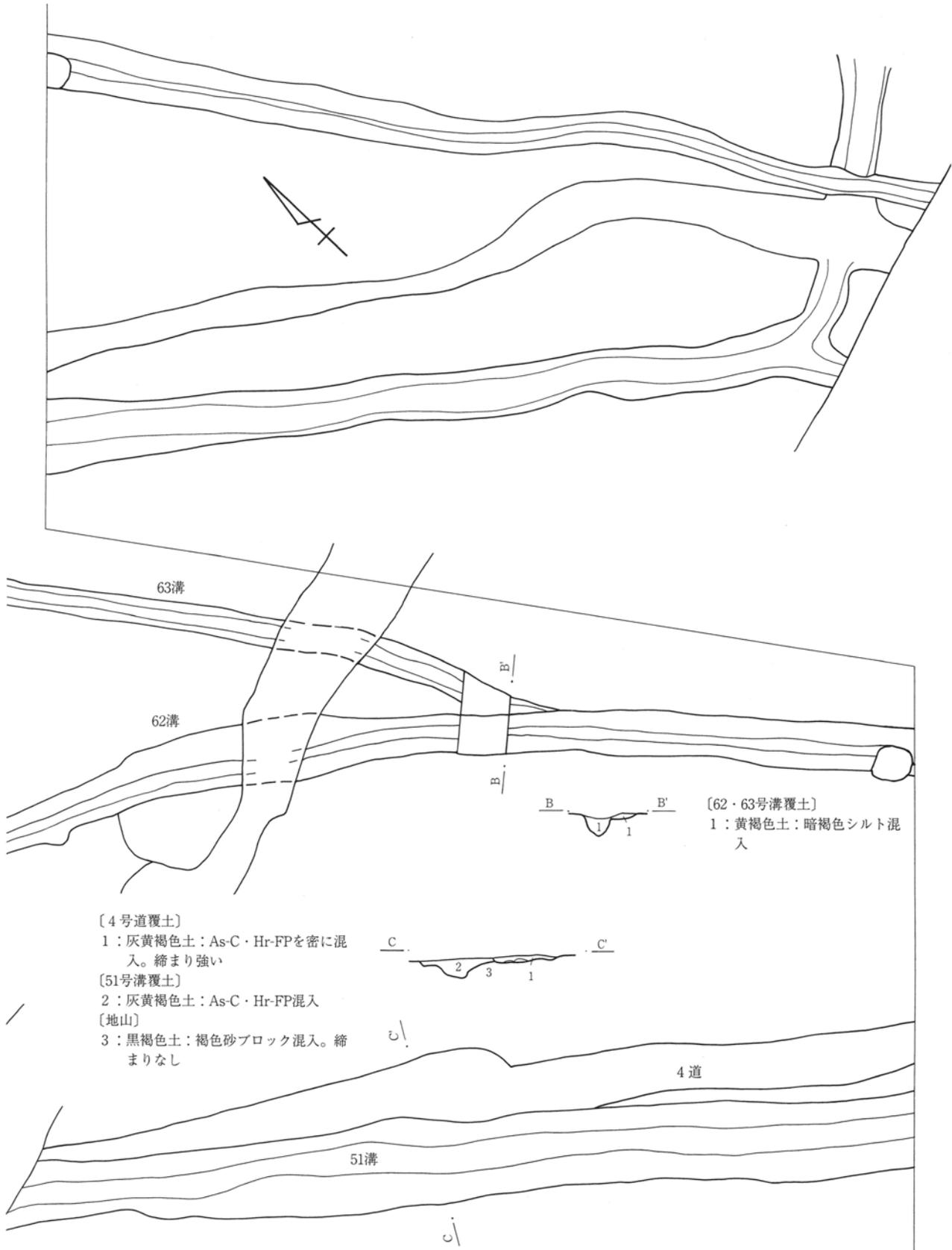
構造 51号溝は南西側に膨らむ弧状の、62号溝は北東側に「へ」字状に張り出すプランを呈するが、走行は何れもおむね北西-南東方向を向いている。

51号溝の掘削形態は箱堀状を呈し、壁はやや開き気味である。62号溝は薬研究堀状を呈している。

(6-2-63号溝は164頁に記載)



第141図の1 6-2-51・62・63号溝



第141図の2 6-2-51・62・63号溝

第2章 発見された遺構と遺物

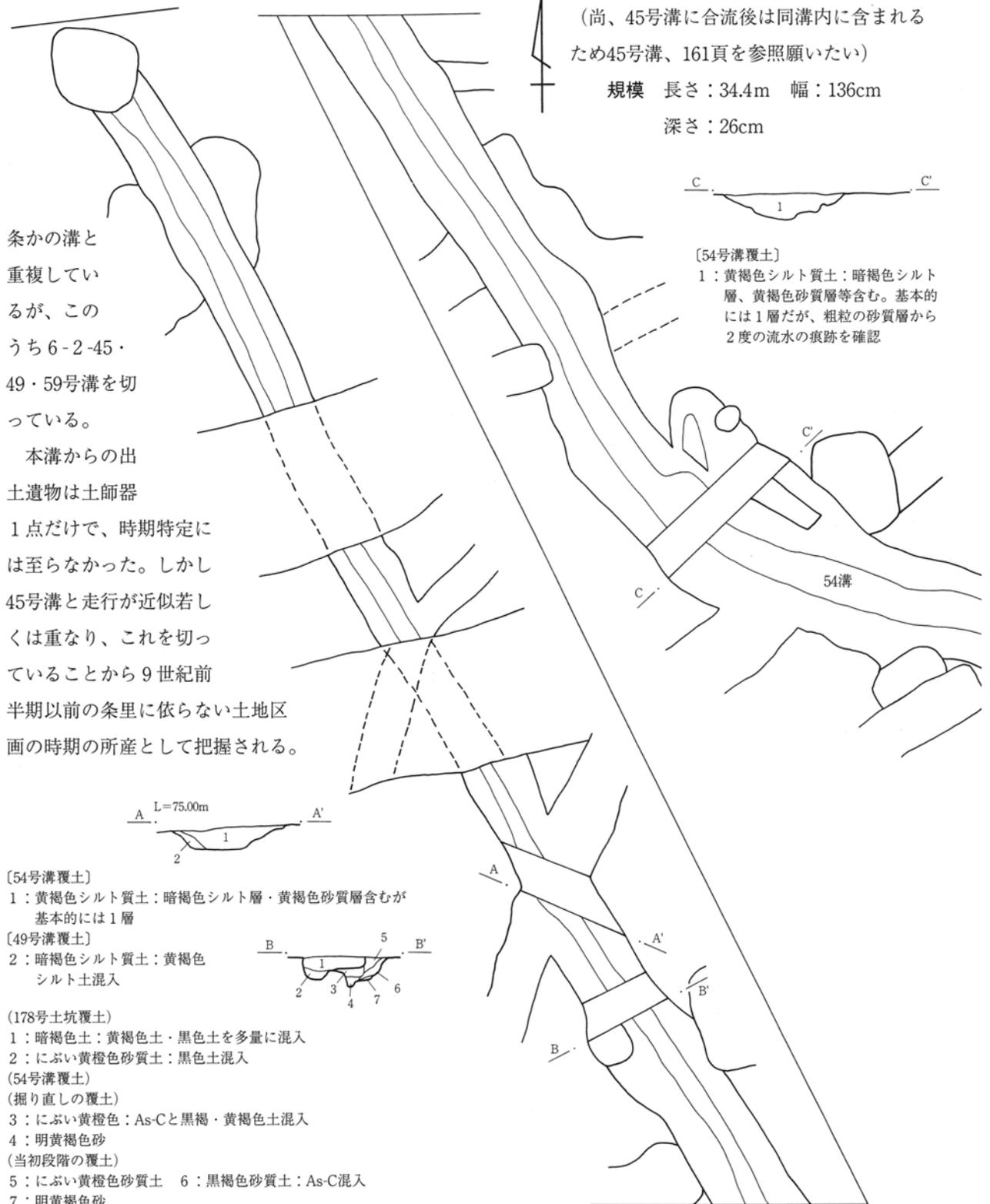
(73) 6-2-54号溝 (第142図、図版36・38)

本溝は6区中部北半に位置し、6-2-65号溝等何

本溝の掘削意図については、覆土中の砂層(1"層)の存在等から45号溝同様水路として使用されたものと判断している。

(尚、45号溝に合流後は同溝内に含まれるため45号溝、161頁を参照願いたい)

規模 長さ：34.4m 幅：136cm
深さ：26cm



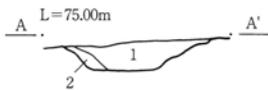
条かの溝と重複しているが、このうち6-2-45・49・59号溝を切っている。

本溝からの出土遺物は土師器

1点だけで、時期特定には至らなかった。しかし45号溝と走行が近似若しくは重なり、これを切っていることから9世紀前半期以前の条里に依らない土地区画の時期の所産として把握される。

[54号溝覆土]

1：黄褐色シルト質土：暗褐色シルト層、黄褐色砂質層等含む。基本的には1層だが、粗粒の砂質層から2度の流水の痕跡を確認

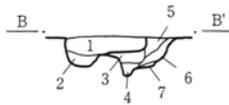


[54号溝覆土]

1：黄褐色シルト質土：暗褐色シルト層・黄褐色砂質層含むが基本的には1層

[49号溝覆土]

2：暗褐色シルト質土：黄褐色シルト土混入



(178号土坑覆土)

1：暗褐色土：黄褐色土・黒色土を多量に混入
2：にぶい黄橙色砂質土：黒色土混入

(54号溝覆土)

(掘り直しの覆土)

3：にぶい黄橙色：As-Cと黒褐・黄褐色土混入

4：明黄褐色砂

(当初段階の覆土)

5：にぶい黄橙色砂質土 6：黒褐色砂質土：As-C混入

7：明黄褐色砂

第142図の1 6-2-54・59・66号溝

第2節 6区の遺構と遺物

(74) 6-2-59号溝 (第142図)

本溝は6区中部に位置し、6-2-54・66号溝と重複する。54号溝よりは新しいが、66号溝との新旧は特定できなかった。

出土遺物は土師器坏片1片のみで時期は特定できなかったが、重複する54号溝との関係から律令期のうち条里による土地区画以前の所産として把握される。

尚、掘削意図は特定できなかった。

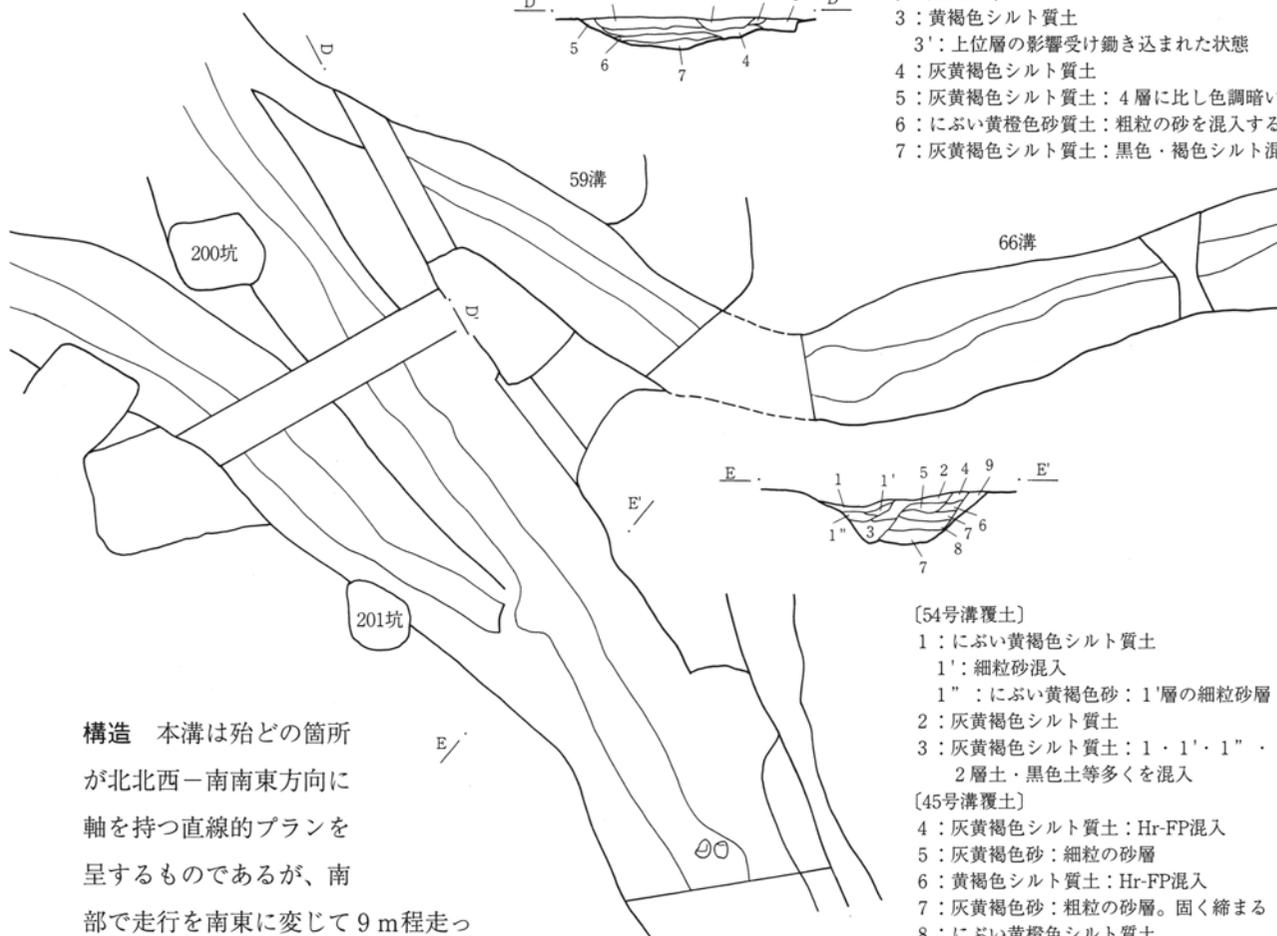
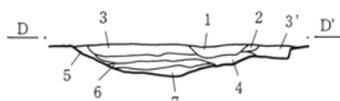
規模 長さ：18.2m 幅：(北半) 64cm (南半) 248cm 深さ：35cm

[59号溝覆土]

- 1：にぶい黄褐色砂質土
- 2：黒色粘質土：As-C混黒色土

[45号溝覆土]

- 3：黄褐色シルト質土
- 3'：上位層の影響受け鋤き込まれた状態
- 4：灰黄褐色シルト質土
- 5：灰黄褐色シルト質土：4層に比し色調暗い
- 6：にぶい黄橙色砂質土：粗粒の砂を混入する
- 7：灰黄褐色シルト質土：黒色・褐色シルト混入



[54号溝覆土]

- 1：にぶい黄褐色シルト質土
- 1'：細粒砂混入
- 1''：にぶい黄褐色砂：1'層の細粒砂層

- 2：灰黄褐色シルト質土
- 3：灰黄褐色シルト質土：1・1'・1''・2層土・黒色土等多くを混入

[45号溝覆土]

- 4：灰黄褐色シルト質土：Hr-FP混入
- 5：灰黄褐色砂：細粒の砂層
- 6：黄褐色シルト質土：Hr-FP混入
- 7：灰黄褐色砂：粗粒の砂層。固く締まる
- 8：にぶい黄橙色シルト質土
- 9：黄褐色シルト質土：8層と同時期と考える

構造 本溝は殆どの箇所が北北西-南南東方向に軸を持つ直線的プランを呈するものであるが、南部で走行を南東に変じて9m程走った後、45号溝に合流するように再び走行を北北西-南南東方向に変ずる。

掘削形態は箱堀状を呈し、流水の合った割には整った形状を呈するが、壁面はやや開き気味である。

第142図の2 6-2-54・59・66号溝

第2章 発見された遺構と遺物

構造 本溝は54号溝の中に延び、概ね北西-南東に走行を取る蛇行したプランを呈する。

掘削形態は北半部では薬研堀状、南半部では箱掘状を呈するが、その規模は後者で大きい。

(75) 6-2-66号溝 (第142図)

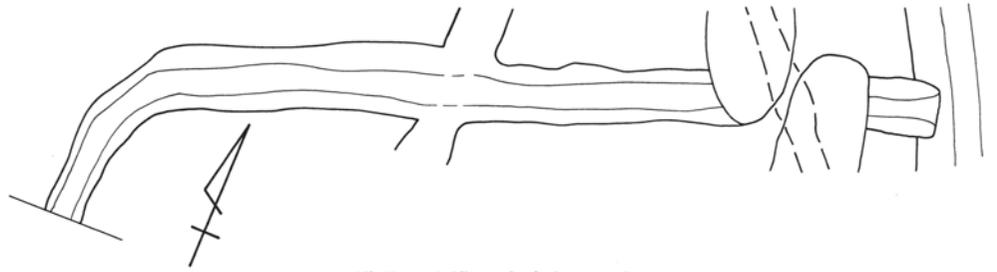
本溝は6区中部に在り、西半は6-2-59号溝の中心軸に重なり、東端で6-2-56号溝に突き当たるが、両溝との新旧は特定できなかった。

本溝からの出土遺物は無く、覆土の記録も残せなかったため時期の(✓)

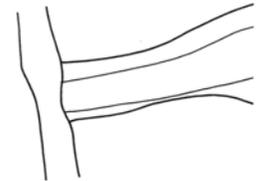
特定には至らなかった。また、走行も条里方眼に依拠しては無いが、竪穴住居集中域の北側を、これを避けるように通るので竪穴住居群と同じ9世紀頃の所産である可能性を考慮している。

尚、本溝の掘削意図は特定できなかったのであるが、56号溝に接続していたとするならば竪穴住居群との関連から水路としての可能性も考えられる。

規模 長さ：10.2m 幅：40cm 深さ：20cm



構造 本溝は東半部では概ね西南西-東北東、西半部では東西方向に走行を取る。またそのラインは僅かに屈曲するが直線的である。



第143図の1

本溝の掘削形態は概ね箱掘状を呈するが、66号溝との接合付近では薬研堀状を呈している。



(76) 6-2-55号溝 (第143図、図版69)

本溝は6区中西部北寄りに位置する。6-2-45・51・56号溝等と重複するが、何れの溝との新旧も特定できなかった。

本溝からは鎌(1)が出土しているが、時期特定には至らなかった。しかし6-2-66号溝と平行な走行を見せることから9世紀の所産である可能性も考慮される。

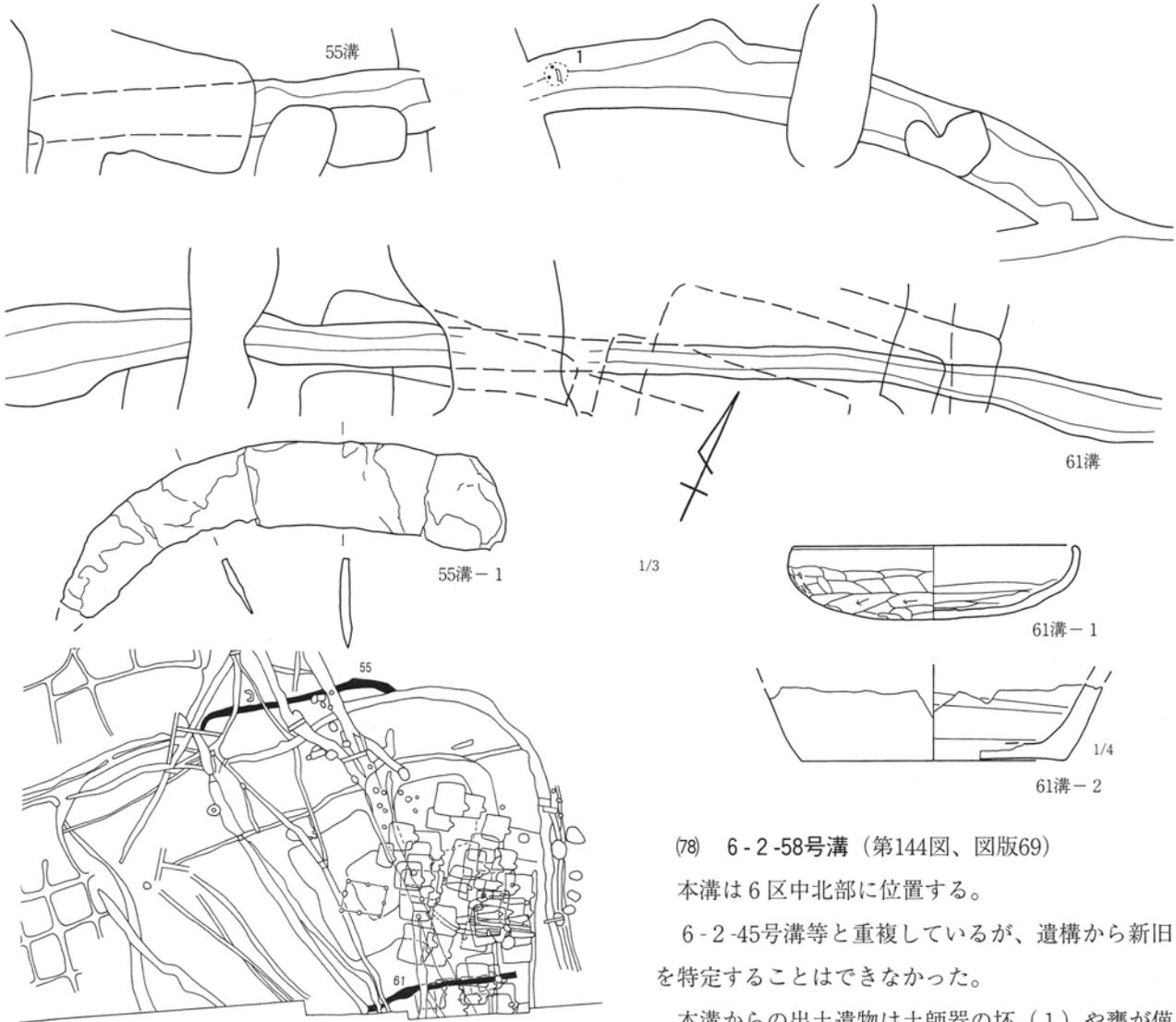
尚、本溝の掘削意図を特定することはできなかった。

規模 長さ：24.0m 幅：80cm 深さ：15cm

構造 本溝は主軸が東北東-西南西を向く。鋸状のプランを呈するが、西端で51号溝に続き、東端で56号溝から分岐する可能性を有する。

掘削形態は概ね箱掘状を呈している。

(✓) 第142図の3 6-2-59・66号溝



第143図の2 6-2-55・61号溝と出土遺物

(77) 6-2-61号溝 (第143図、図版69)

本溝は6区中南端のやや東寄りに位置する。

6-2-45・51・65号溝等と重複するが、遺構からは新旧を特定することはできなかった。

坏(1)等の若干の土師器や須恵器甕片(2)の出土から、本溝は概ね8世紀後半以降の所産として把握される。

尚、本溝の掘削意図でできなかった。

規模 長さ：15.2m 幅：64cm 深さ：20cm

構造 本溝は北に緩やかに膨らむ弧状のプランを呈し、概ね東北東-西南西に走行を取っている。

掘削形態は概ね箱堀状を呈する。

(78) 6-2-58号溝 (第144図、図版69)

本溝は6区中北部に位置する。

6-2-45号溝等と重複しているが、遺構から新旧を特定することはできなかった。

本溝からの出土遺物は土師器の坏(1)や甕が僅かにあったに過ぎないが、その走行が律令期の堅穴住居の軸方向にほぼ一致することを併せて考慮すると、本溝は概ね9世紀後半頃の所産として把握することができるものと思慮される。

尚、本溝の掘削意図を明確にすることはできなかった。

規模 長さ：15.2m 幅：64cm 深さ：20cm

構造 本溝は中位が若干西に膨らむ弓なりのプランを呈するものの、その走行は凡そ南北方向にある。

掘削形態は箱堀状を呈している。

(79) 6-2-56号溝 (第144図、図版69・70・110)

本溝は6区中央部から東南部にかけて位置する。

6-2-59号住居や6-2-45・55・66号溝等の溝遺

第2章 発見された遺構と遺物

構と重複しているが、遺構から新旧を特定することはできなかった。

本溝からは坏（1・2）等土師器を中心とする若干の出土遺物を得たのであるが、凡そ区南東部に集中する律令期の竪穴住居群を包むように掘削されていることを併せて考えると、本溝は概ね8世紀後半～9世紀の所産として把握されるものと判断される。

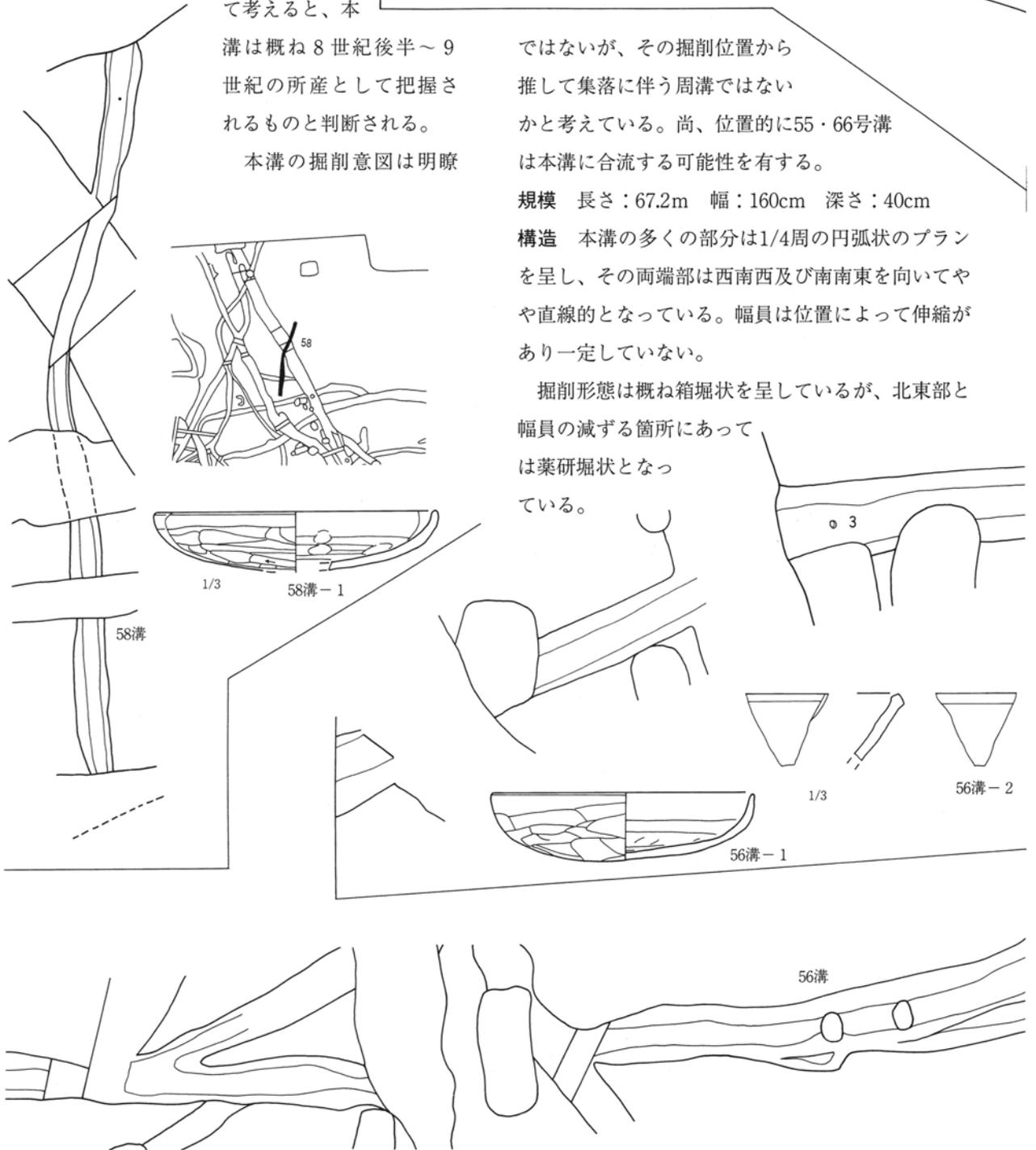
本溝の掘削意図は明瞭

ではないが、その掘削位置から推して集落に伴う周溝ではないかと考えている。尚、位置的に55・66号溝は本溝に合流する可能性を有する。

規模 長さ：67.2m 幅：160cm 深さ：40cm

構造 本溝の多くの部分は1/4周の円弧状のプランを呈し、その両端部は西南西及び南南東を向いてやや直線的となっている。幅員は位置によって伸縮があり一定していない。

掘削形態は概ね箱堀状を呈しているが、北東部と幅員の減ずる箇所にあつては薬研堀状となっている。



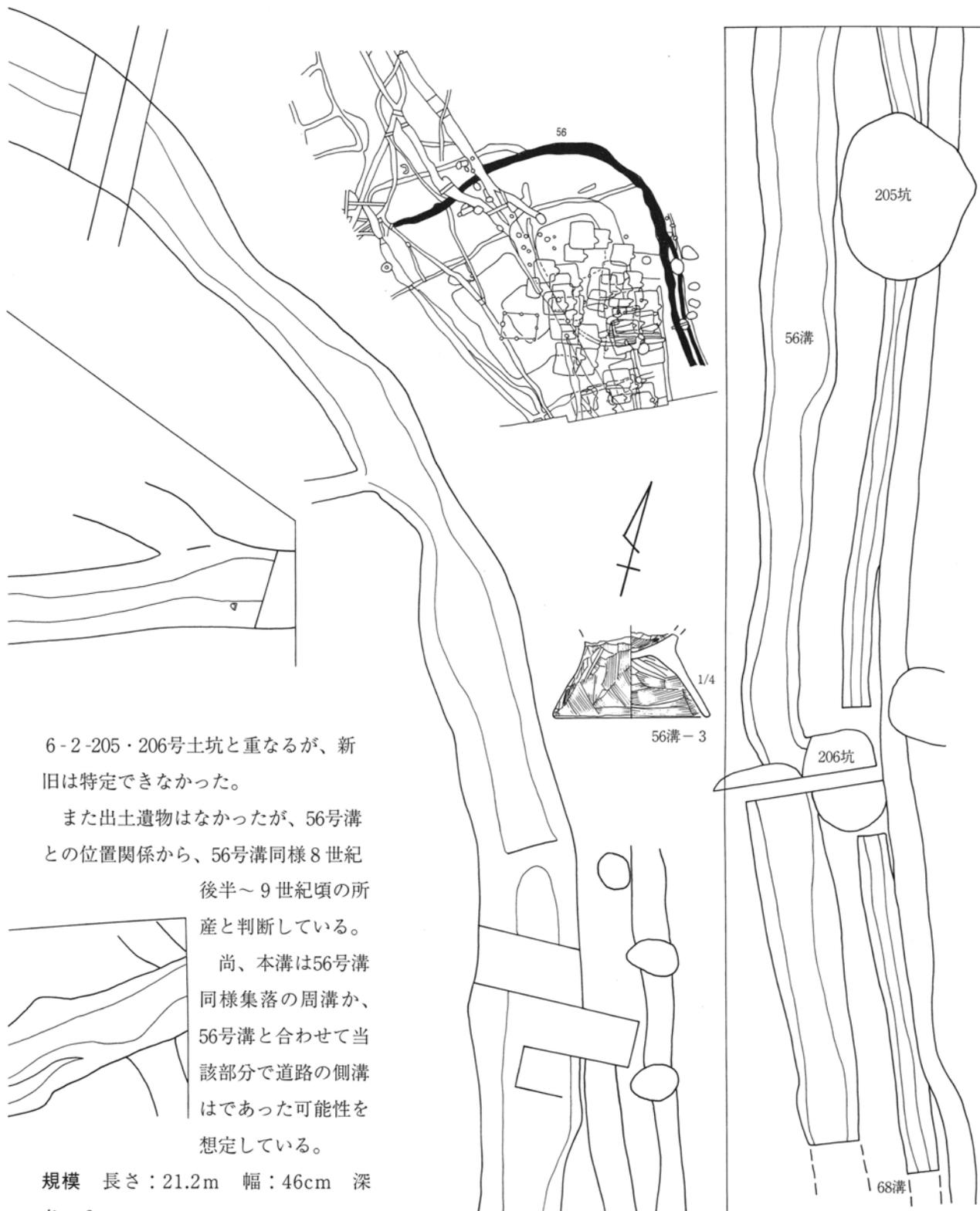
第144図の1 6-2-56・58号溝と出土遺物

(80) 6-2-68号溝 (第144図)

本溝は6区東南部に位置し、6-2-56号溝の1.5m東に並走するように掘削されている。(ノ)

に走行する直線的プランを呈し、2箇所で緩やかなへ字状に屈曲する。

掘削形態は概ね箱堀状を呈している。



6-2-205・206号土坑と重なるが、新旧は特定できなかった。

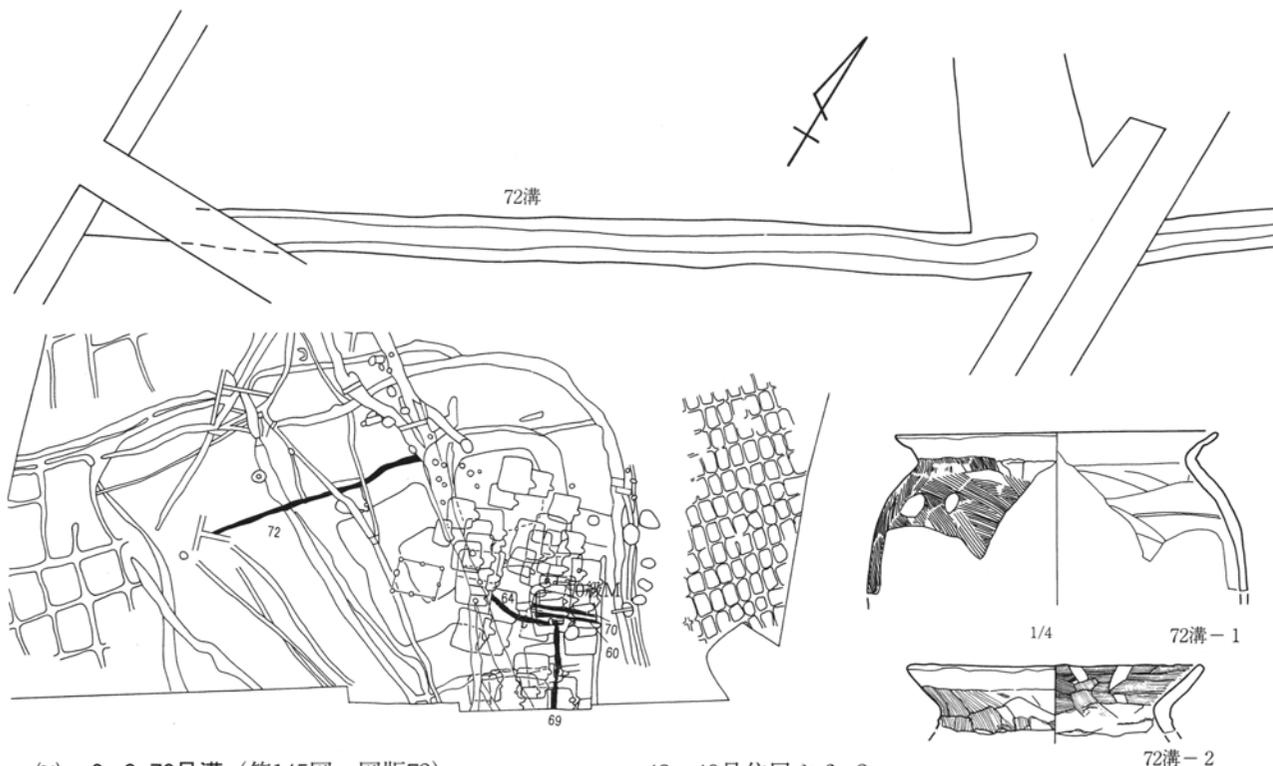
また出土遺物はなかったが、56号溝との位置関係から、56号溝同様8世紀後半～9世紀頃の所産と判断している。

尚、本溝は56号溝同様集落の周溝か、56号溝と合わせて当該部分で道路の側溝はであった可能性を想定している。

規模 長さ：21.2m 幅：46cm 深さ：6cm

構造 本溝は凡そ北北西-南南東(ノ)

第144図の2 6-2-56・68号溝



(81) 6-2-72号溝 (第145図、図版72)

本溝は6区中部西寄りに位置する。6-2-51・72号溝等と重複するが、遺構の上では新旧を特定することはできなかった。

本溝からは土師器を中心とした遺物の出土が見られたが、このうち東半部からは3世紀末葉の土師器甕(1~5)・小型壺(6)の出土が見られた。本溝からは後世の遺物の出土も見られたが、覆土中の攪乱もあり、また走行の方向が同時期の6-2-65・66号住居の軸方向に近似し、後述する6区西部のHr-FA下水田の畦の延長線上に在ることなどから、本溝は古墳時代後期初頭以前、恐らくは上述の遺物から与えられる3世紀末の所産であると判断される。

尚、本溝の掘削意図は特定できなかった。

規模 長さ：25.4m 幅：48cm 深さ：31cm

構造 本溝は若干の蛇行が見られるものの概ね直線的なプランを呈し、その走行は東北東-西南西を向いている。

本溝の掘削形態は箱堀状を呈する。

(82) 6-2-69号溝 (第145図)

本溝は6区東部の西南に位置する。6-2-39・

43・49号住居や6-2-

208号土坑と重なり、208号土坑には切られるが、竪穴住居との新旧は特定できなかった。

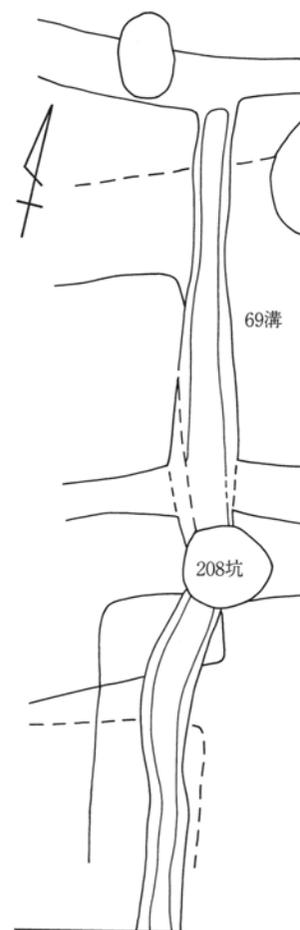
出土遺物は無く、土層の記録も取れなかったため時期は不特定だが、208号土坑に切ること、走行が律令期の竪穴住居の軸方向に近似することから8世紀以前の律令期の所産と判断した。

尚、本溝の掘削意図は特定されなかった。

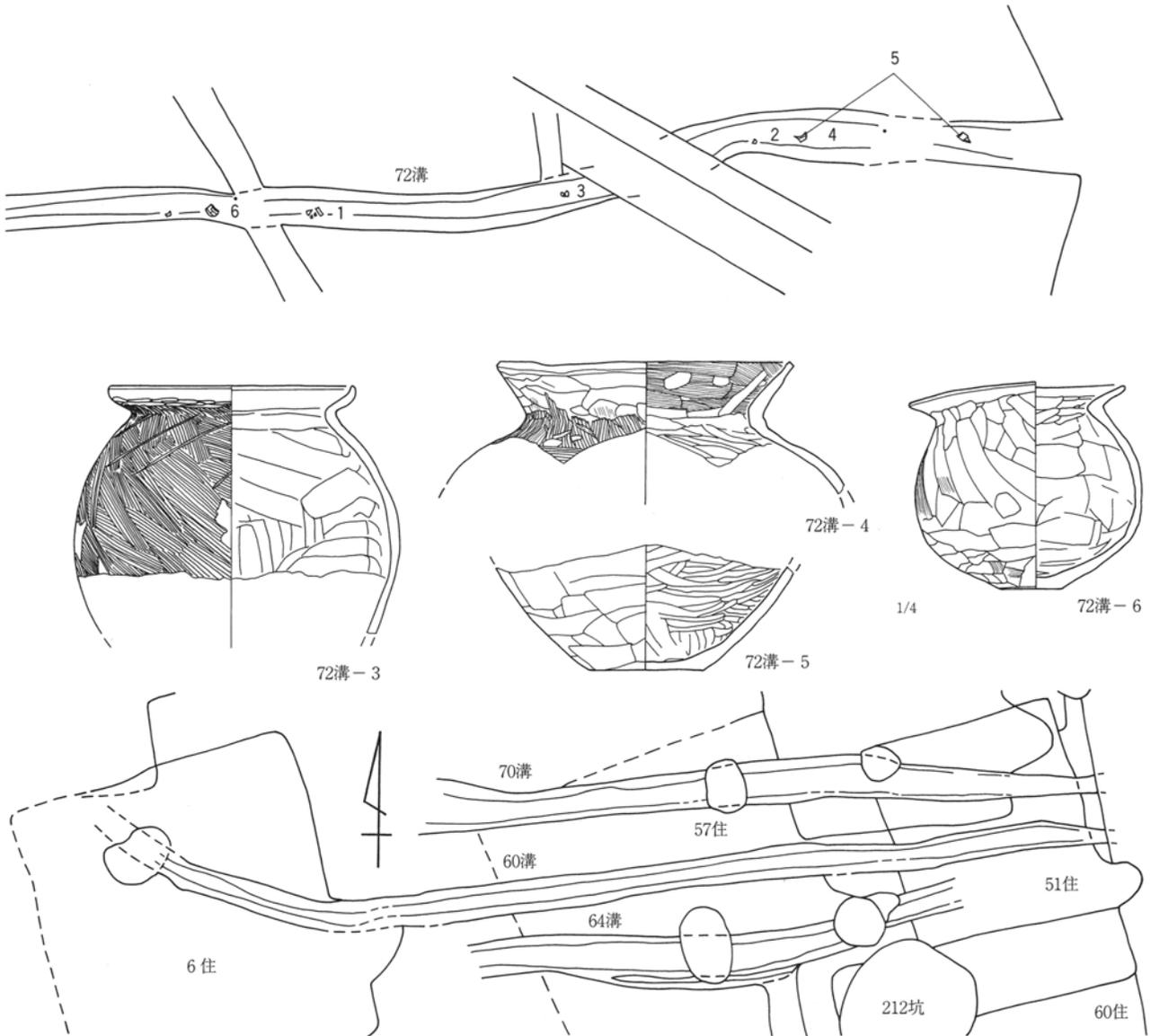
規模 長さ：8.8m 幅：56cm 深さ：9cm

構造 本溝は108号土坑と重なる付近でやや東に振れるものの、概ね南北走行の直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈している。



第145図の1



第145図の2 6-2-60・64・69・70・72号溝と出土遺物

(83) 6-2-60・64・70号溝

(第145図)

6-2-60・64・70号溝は6区中南部東寄りに位置する。6-2-6・51・57号住居等の竪穴住居と重複するが、60号溝が6号住居を切ることを確認した以外、新旧を特定することはできなかった。

これらの溝からの出土遺物はなく時期も特定できなかったが、60号溝は6号住居を切ることから9世紀以降の律令期の所産と判断され、64・70号溝も60号溝にほぼ並行な位置関係で掘削され、律令期の竪穴住居の軸方向に近似した走向を取ることから、同

時期の所産と想定される。

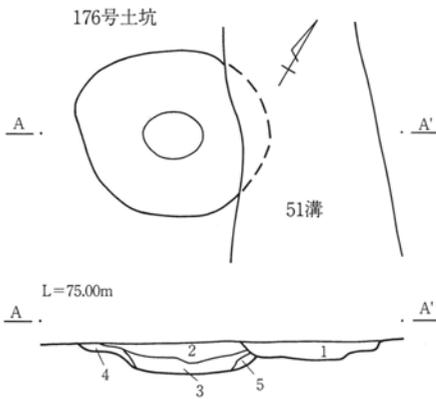
規模 (60号溝) 長さ：13.7m 幅：40cm 深さ：10cm

(64号溝) 長さ：8.9m 幅：60cm 深さ：8cm

(70号溝) 長さ：7.5m 幅：56cm 深さ：13cm

構造 60・64・70号溝は概ね走向を東西取る。60号溝は東半の64・70号溝と並行に在る箇所では直線的であるが、西半部では弧を描いて走向を北西に変ずる。64号溝は極く緩やかな蛇行を見せ、70号溝は直線的なプランを呈する。

掘削形態は何れも箱堀状である。



- [51号溝覆土]
 1：灰黄褐色砂質土：As-C・Hr-FP混入
 [176号土坑覆土]
 2：暗褐色土：As-C・Hr-FP・黄褐色粘質土（Hr-FA混土か）混入
 3：にぶい黄褐色粘質土：黄褐色シルト粒多く混入（Hr-FA泥流）
 4：灰黄褐色土：As-C混土。Hr-FAブロック少量混入
 5：黒褐色土：As-C混土

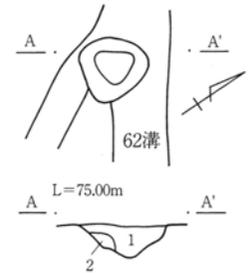
(84) 6区2面西部の土坑群

(第146図、図版37・38)

6区2面西部南半北東寄りには、6-2-176・177・210・220・221号土坑の5基の土坑が在る。6区2面の土坑は長短軸径の合計が150cmと200cmを境に大型・中型・小型に分けられるが、西部の土坑は大型1基、中・小型各2基である。

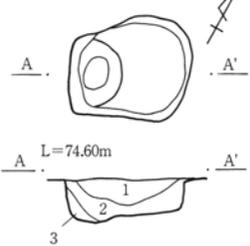
西部所在土坑に出土遺物はなく、掘削意図も分からなかった。何れも古墳時代～律令期の所産だが、176号土坑は律令期の6-2-51号溝、210号土坑は平

210号土坑

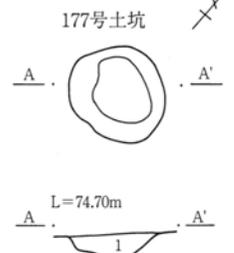


- [62号溝覆土]
 1：暗褐色土：黄褐色シルト・黒色シルト混入
 [210号土坑]
 2：黒褐色土：黄褐色シルト粒混入

220号土坑



- [220号土坑覆土]
 1：黒褐色土：As-C混入。粘性有
 2：黒色土：As-C多く混入。ザラつく
 3：黒褐色土：As-C少量混入。地山層土粒混入。ザラつく



- [177号土坑覆土]
 1：灰黄褐色砂質土：As-C・Hr-FP混入

安期の6-2-62号

溝に切られ、覆土から

176・177号土坑は

古墳時代後期以降の

所産と確認している。

規模 (176号土坑)

径：152×140cm

深さ：25cm

(177号土坑)

径：76×76cm 深さ：12cm

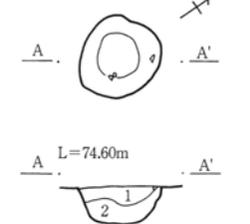
(210号土坑) 径：48×44cm 深さ：32cm

(220号土坑) 径：96×72cm 深さ：32cm

(221号土坑) 径：64×64cm 深さ：30cm

構造 西部所在土坑のプランは211号土坑が円形、177号土坑が楕円形、210・220号土坑が隅丸方形、

221号土坑



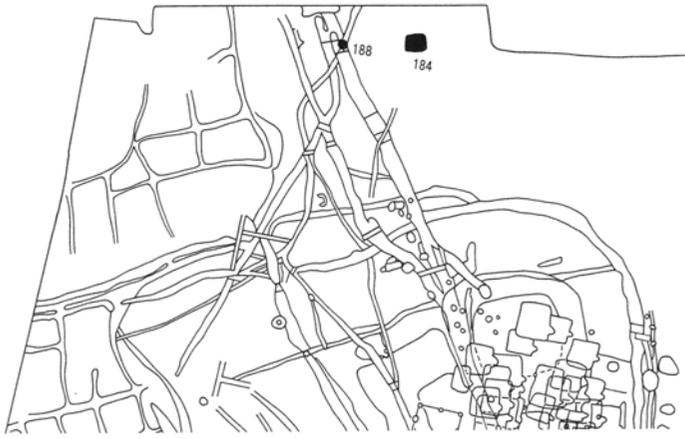
- [221号土坑覆土]
 1：黒褐色粘質土：As-C混入
 2：黒色粘質土：As-C少量混入。ブロックで粘土化

第146図 6区2面西部の土坑群

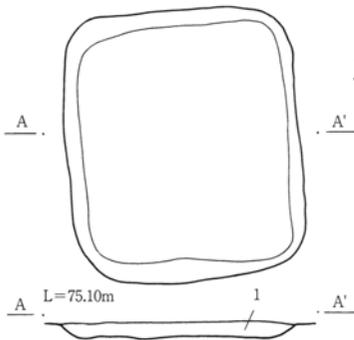
第2節 6区の遺構と遺物

構造 184・188号土坑は何れも方形状のプランを呈する。

共に箱堀状を呈するが、184号土坑の壁面はやや開き気味である。



184号土坑



188号土坑



〔184号土坑覆土〕

1：灰褐色土・黒色土・白色軽石混入

第147図 6区2面北部の土坑群

176号が長方形を呈する。

掘削底面は176号土坑が丸底状を呈するが、他の土坑は概ね平底を呈する。壁面は176号土坑は開いており、220号土坑は垂直である。

(85) 6区2面北部の土坑群

(第147図、図版39)

6区2面北部中程の1面の6-1-1屋敷内の位置には6-2-184・188号の2基の土坑が在る。前者は中型に属し、後者は大型だが6区2面で最も大きい。

両土坑共出土遺物はなく、古墳時代以降律令期までの所産として把握されるに過ぎなかった。

尚、掘削意図の特定には至らなかった。

規模 (184号土坑) 径：216×184cm 深さ：30cm
(188号土坑) 径：88×84cm 深さ：20cm

(86) 6区2面中部の土坑群

(第148～150図、図版39～41・70)

中部では北寄りに6-2-181・～183・185～187・189・190・197・198・200号土坑、中程に191～196・216～219号土坑、南寄りに173・174・202～204・207～209・211～214号土坑の合わせて34基の土坑を発見、調査した。

中部では小型の土坑を20基、中型を9基、大型を5基数えたが、北寄りでは11基中7基が中型で、中程では11基全てが小型のものであった。

これらは古墳時代～律令期の所産

であるが、このうち183・202・207・213・214・216～219号土坑は若干量乍ら土師器・須恵器或いは灰釉陶器の破片類を出土したため律令期の所産、特に202号土坑は土師器坏(1)の所見から8世紀後半以降、213号土坑は6-2-59号住居との重複関係から9世紀前半以降と判断される。また覆土から183・202号土坑は古墳時代後期以降と判断される。

中部の土坑群の掘削意図は全体に不明瞭だが、202号土坑は底面に乳白色シルトが張り付くように遺ることから何れかの堅穴住居の床下粘土土坑に、また173・174・194号土坑は柱穴になる可能性を有する。

規模 〔北寄りの土坑群〕

(181号土坑) 径：100×96cm 深さ：25cm

(182号土坑) 径：108×72cm 深さ：19cm

(183号土坑) 径：212×96cm 深さ：13cm

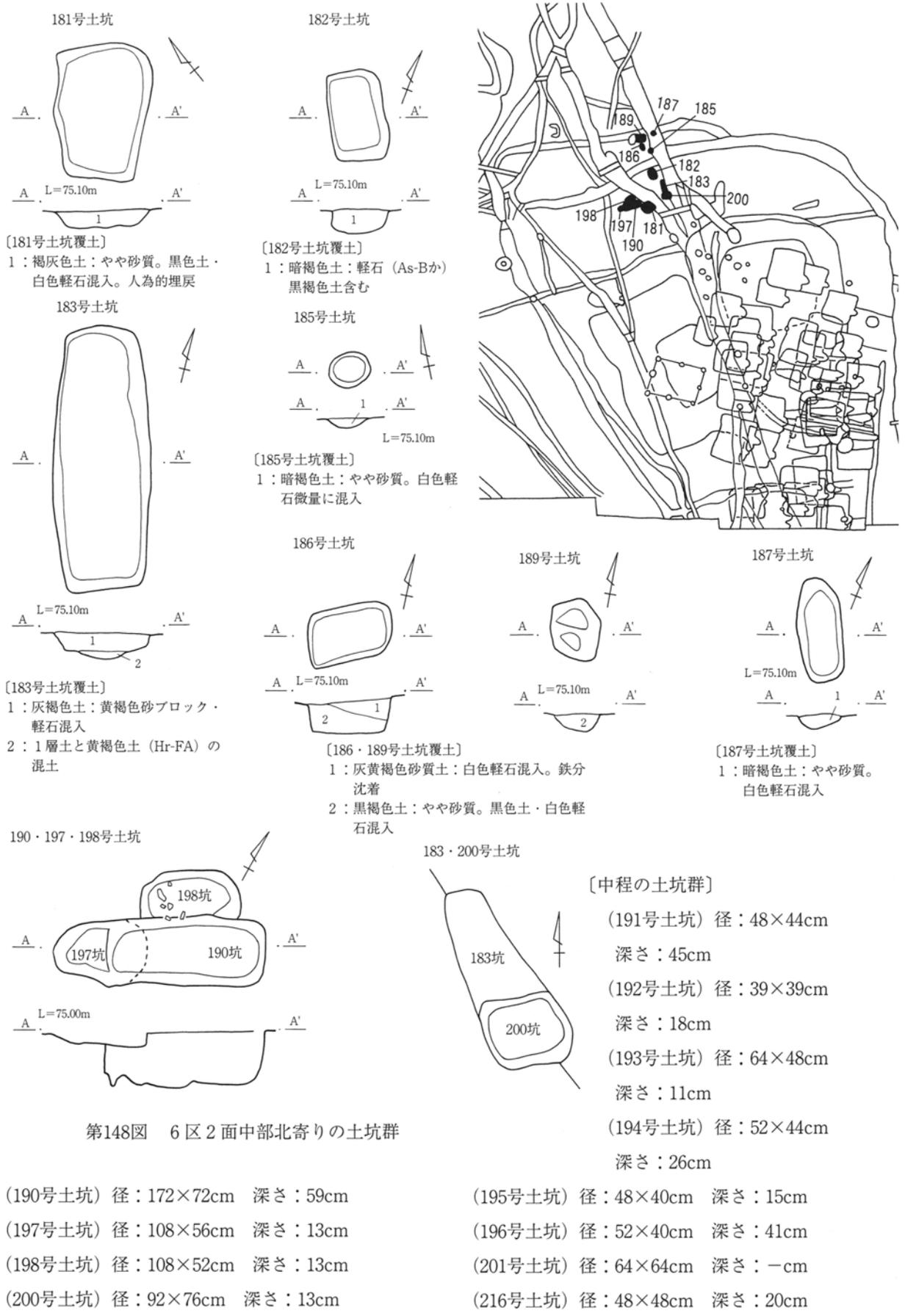
(185号土坑) 径：64×44cm 深さ：8cm

(186号土坑) 径：92×68cm 深さ：31cm

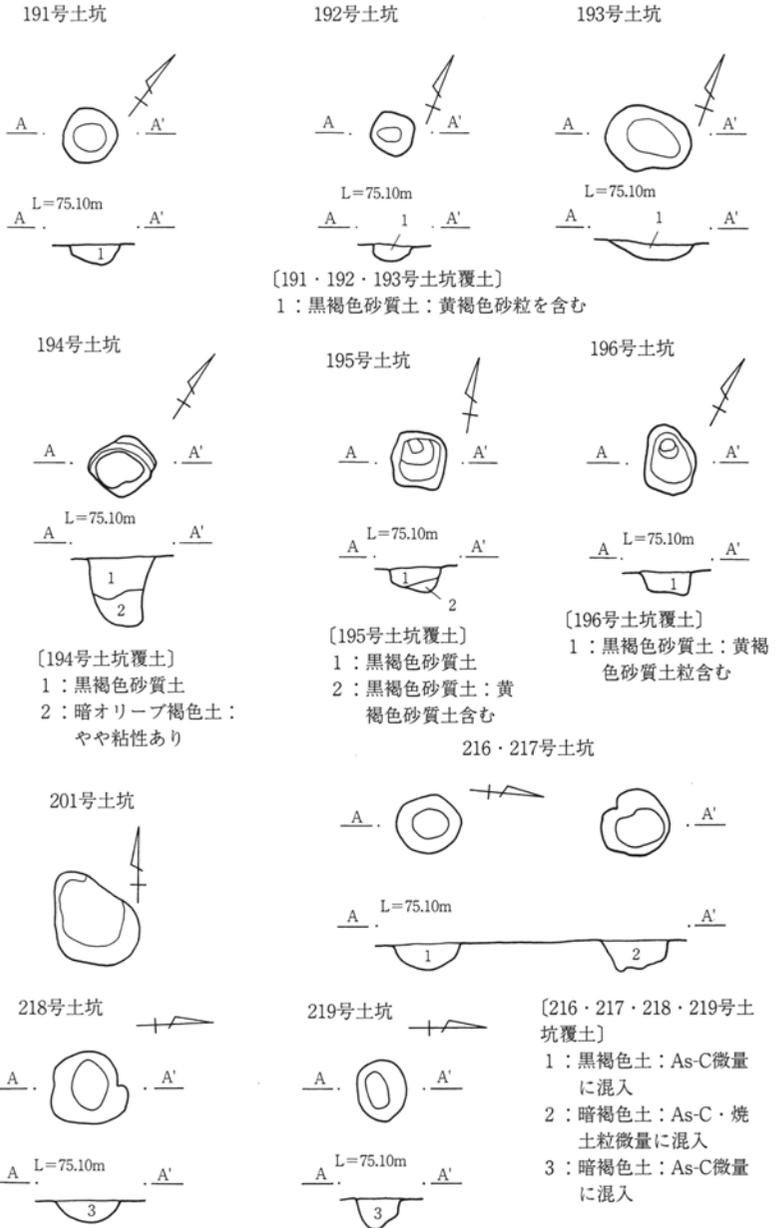
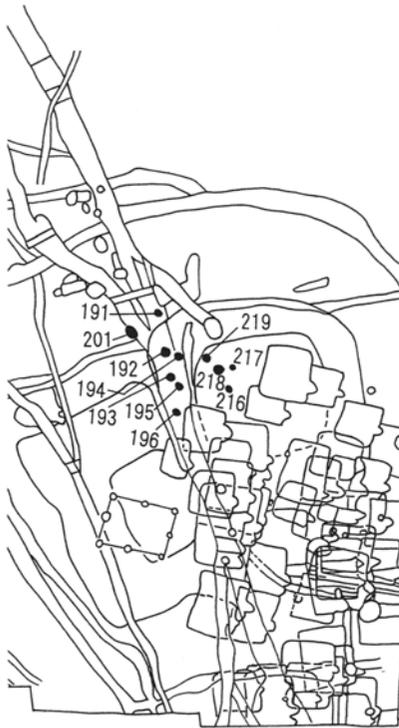
(187号土坑) 径：116×48cm 深さ：18cm

(189号土坑) 径：66×54cm 深さ21cm

第2章 発見された遺構と遺物



第148図 6区2面中部北寄りの土坑群



(217号土坑) 径：52×52cm

深さ：25cm

(218号土坑) 径：60×48cm

深さ：24cm

(219号土坑) 径：48×40cm

深さ：23cm

[南寄りの土坑群]

(173号土坑) 径：52×44cm

深さ：18cm

(174号土坑) 径：48×48cm

深さ：4cm

(202号土坑) 径：156×124cm

深さ：16cm

(203号土坑) 径：24×24cm 深さ：20cm

(204号土坑) 径：56×52cm 深さ：47cm

(207号土坑) 径：64×40cm 深さ：29cm

(208号土坑) 径：92×84cm 深さ：122cm

(209号土坑) 径：56×48cm 深さ：16cm

(211号土坑) 径：44×44cm 深さ：36cm

(212号土坑) 径：160×152cm 深さ：30cm

(213号土坑) 径：136×124cm 深さ：7cm

(214号土坑) 径：108×68cm 深さ：24cm

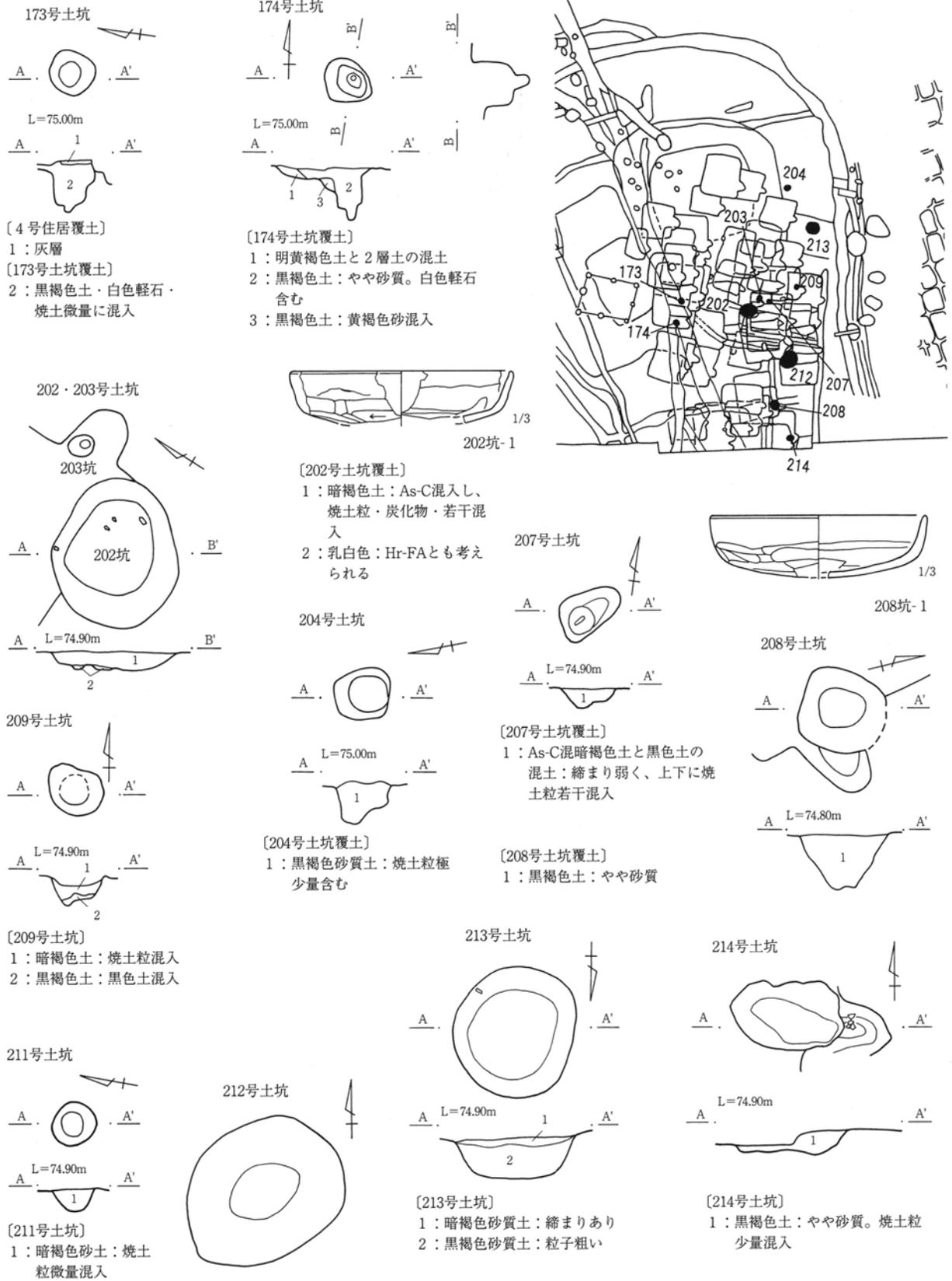
第149図 6区2面中部中程の土坑群

構造 プランは191・213・216・211号土坑が円形、185・197・201・203・207・209・212・214・219号土坑が楕円形、187・198号土坑が長円形、200号土坑が方形、173・174・192～196・202・204・208・217・218号土坑が隅丸方形、181～183・186・189・190が長方形を呈する。概して北寄りに長方・長円形、中程に隅丸方形、南寄りに楕円形が多い。

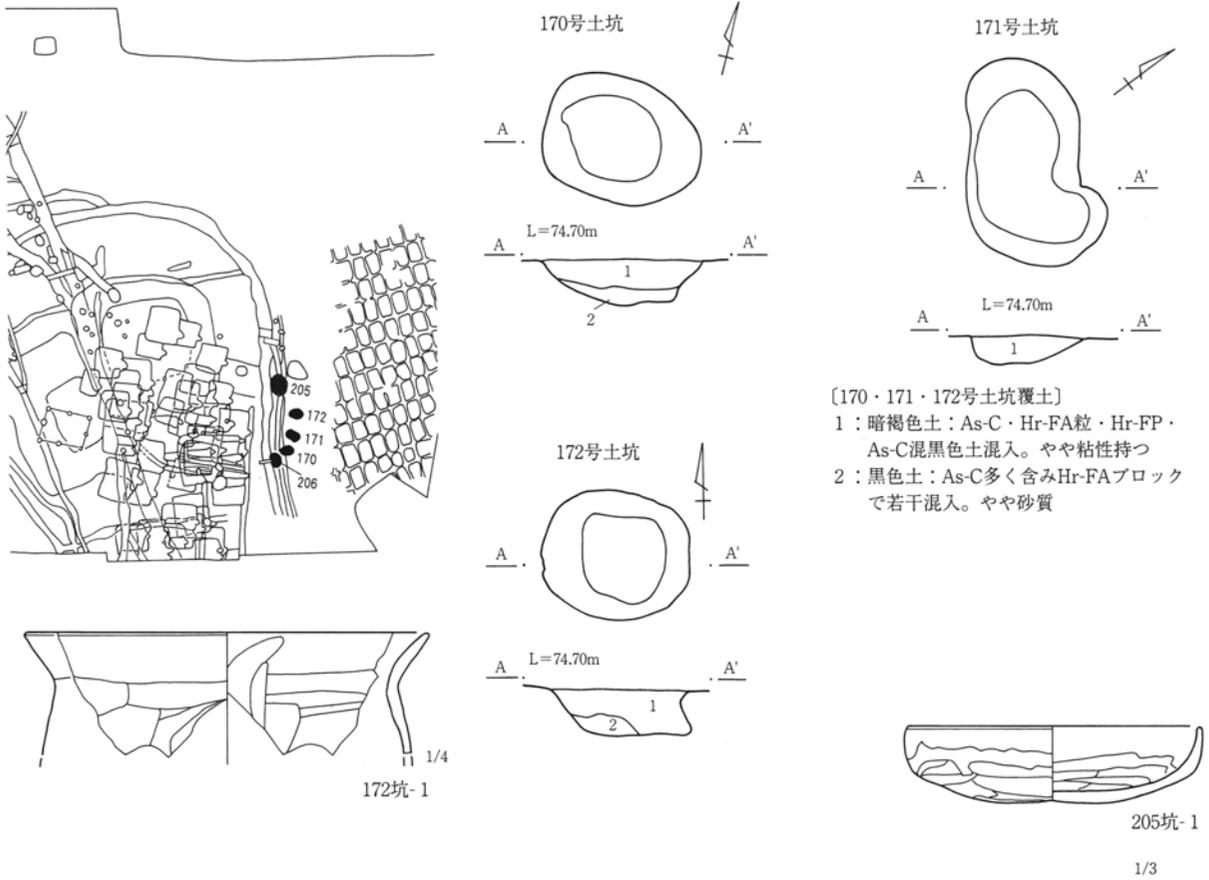
形態は箱形のものが多かったが、小型を中心とした187・189・193・216・218・219・211号土坑に丸

第2章 発見された遺構と遺物

底で、壁の開き気味のものが見られた。



第150図 6区2面中部南寄りの土坑群と出土遺物



⑧ 6区2面東部の土坑群

(第151図、図版37・38・40・70)

東部では上述の中部南寄りの土坑群に近い箇所に、6-2-170～172・205・206号の5基の土坑が位置している。5基の土坑は全て大型のもので、特に205号土坑は北部の6-2-184号土坑に次いで大きい。

これらの土坑の時期は特定できなかったが、172号土坑は土師器甕(1)、205号土坑からは土師器坏(1)や大型の須恵器蓋(2)の出土から172・205号土坑は概ね8世紀後半以降の律令期の所産と判断され、171・170号土坑は覆土の観察所見から古墳時代後期～平安時代の所産、176号土坑は2面の時期から凡そ古墳時代～平安時代の所産と判断される。

尚、掘削意図については特定できなかった。

- 規模 (170号土坑) 径：120×112cm 深さ：33cm
 (171号土坑) 径：164×88cm 深さ：22cm
 (172号土坑) 径：116×104cm 深さ：40cm
 (205号土坑) 径：216×168cm 深さ：18cm
 (206号土坑) 径：136×96cm 深さ：37cm

第151図 6区2面東部の土坑群と出土遺物

構造 東部の土坑のプランは170・171・205号土坑は楕円形を呈し、172・206号土坑は隅丸方形を呈している。

掘削形態は凡そ箱形を呈するが、170号土坑は丸底気味で、172号土坑は袋状を呈する箇所がある。

第2章 発見された遺構と遺物

(88) 6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田

(第152図、図版42・43)

概要 本水田址は6区南西部に位置する。

記録に不備はあるが、6-2-2号FA・FP泥流下水田同様6世紀後半以降、条里区画施行以前の所産と判断される。畦畔は一致しないが大きな区画や水田址全体の輪郭等が後述するHr-Fa下水田に重なるため、同水田の復旧水田と解釈される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

[確認範囲] : 16.0×22.4m

[水田区画径] 1 : (147) × (344) cm

2 : (132) × 453cm 3 : 362×436cm

4 : 364×511cm 5 : (452) × (228) cm

6 : 369×492cm 7 : 375×433cm

8 : (71) × (216) cm 9 : 388×988cm

10 : 431×412cm 11 : (156) × (258) cm



第152図の1 6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田 (S=1/200)

- 12 : (82) × 432cm 13 : (80) × (60) cm
 14 : 444 × 664cm 15 : (376) × 280cm
 16 : 292 × 564cm 17 : (497) × (323) cm
 18 : 373 × (552) cm 19 : (120) × (564) cm
 [畦畔] 下幅 : 77cm以下

構造 本水田址は小区画水田と認識され、大きくは区画1~12と13~19に二分される。軸方向は前者がN330°、後者がN340°程と若干異なり、プランも

前者が方眼様であるのに対し、後者は地形による制約か畦畔のラインに湾曲や蛇行が見られた。尚、区画14・15・17・19は細分の可能性を有する。

通水は南北の列毎に北から南に通したと想定されるが、区画1~12と区画13~19での通水が連続しない可能性も有する。



(89) 6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田

(第153図、図版42・43)

概要 本水田址は6区北西部、6-2-47号溝を挟んで6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田の北側に位置し、6-2-46号溝を南限とする胃袋形の谷地形を仕切るように造られている。

Hr-FA・FP泥流で被覆されていることから6世紀後半以降、条里区画が施される以前の所産と判断されるが、全体の輪郭や確認範囲が近似することから、本水田址も1号Hr-FA・FP泥流下水田と同様にHr-FA下水田埋没後の復旧水田と解釈される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)
 [確認範囲] : 26.7×24.8m

- [水田区画径]
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 : (191) × (620) cm | |
| 2 : (579) × (636) cm | 3 : (503) × (636) cm |
| 4 : 440 × 405cm | 5 : (1184) × (504) cm |
| 6 : 617 × 416cm | 7 : 648 × (388) cm |
| 8 : 650 × 484cm | 9 : 505 × 645cm |
| 10 : 155 × 656cm | 11 : (315) × (592) cm |

[畦畔] 下幅 : 116cm以下

[水口幅] 水田面5-10間 : 上幅 : 72cm

構造 遺存状況は良好でないが、本水田址は小区画水田である。水田区画は11面を数えたが、区画5・11は更に細分される可能性を有し、区画9・11の東

側と区画1・2・3・5の南側には区画10と同様帯状の区画の存在が想定される。各区画のプランは方形を基本としつつも、地形に左右されて一定ではない。通水の経路は区画10→5の通水が確認されただけで特定できなかったが、概ね上流側(北端)区画11から下流側の区画1の方向に順じ長されたものと想定される。



第152図の2 6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田 (S=1/200)



第153図の1 6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田 (S=1/200)

(90) 6-2-1号Hr-FA下水田

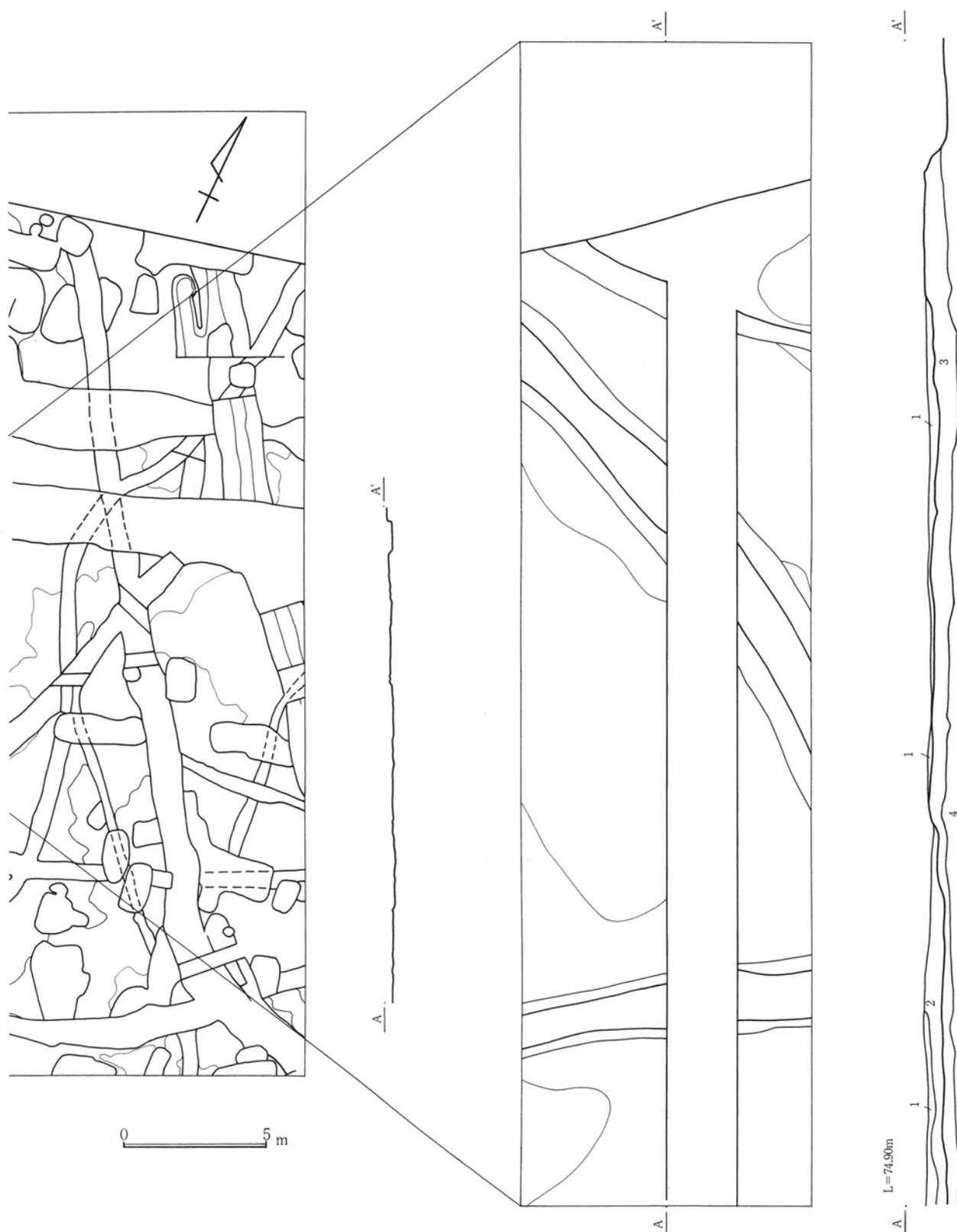
(第154図、図版44)

概要 本水田址は6区南西部、6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田の下面に在る6世紀初頭榛名山ニッ岳噴出のHr-FAに覆われた小区画水田で、20~30m

幅の浅い谷地に造られている。

23面を数えた水田区画のうち区画20・21では東から西に歩く、歩幅は45~50cm程のヒトの足跡5列と不定方向の足跡残されている。

尚、本水田址への給水は6-2-46号溝から行われ



〔Hr-FA・Hr-FP泥流層〕

- 1：黄褐色粘質土：細粒のシルト質。暗褐色・褐色シルト粒等含む
- 2：灰黄褐色砂質土：細粒。黄褐色シルトやテフラ（Hr-FA・Hr-FPと認識）混入

〔Hr-FA・Hr-FP泥流下水田耕土・地山〕

- 3：黒色粘質土：As-C混土下の黒色土。若干の黄色シルト混入
- 4：極暗褐色粘質土：にぶい黄褐色砂質土含む。粘性強い

第153図の2 6-2-2号Hr-FA・FP泥流下水田（S=1/200, S=1/40）

第2章 発見された遺構と遺物

たものと判断されている。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕：28.3×27.0m

〔水田区画径〕 1：(74) × (261) cm

2：(176) × (42) cm 3：(394) × (68) cm

4：(118) × (139) cm 5：696×429cm

6：197×434cm 7：428×442cm

8：(136) × (360) cm 9：(114) ×1013cm

10：478×964cm

12：464×520cm

14：(193) × (152) cm

16：293×436cm

18：(140) × (281) cm

20：672×1052cm

22：281×232cm

〔畦畔〕 下幅：65cm以下

11：271× (496) cm

13：252×567cm

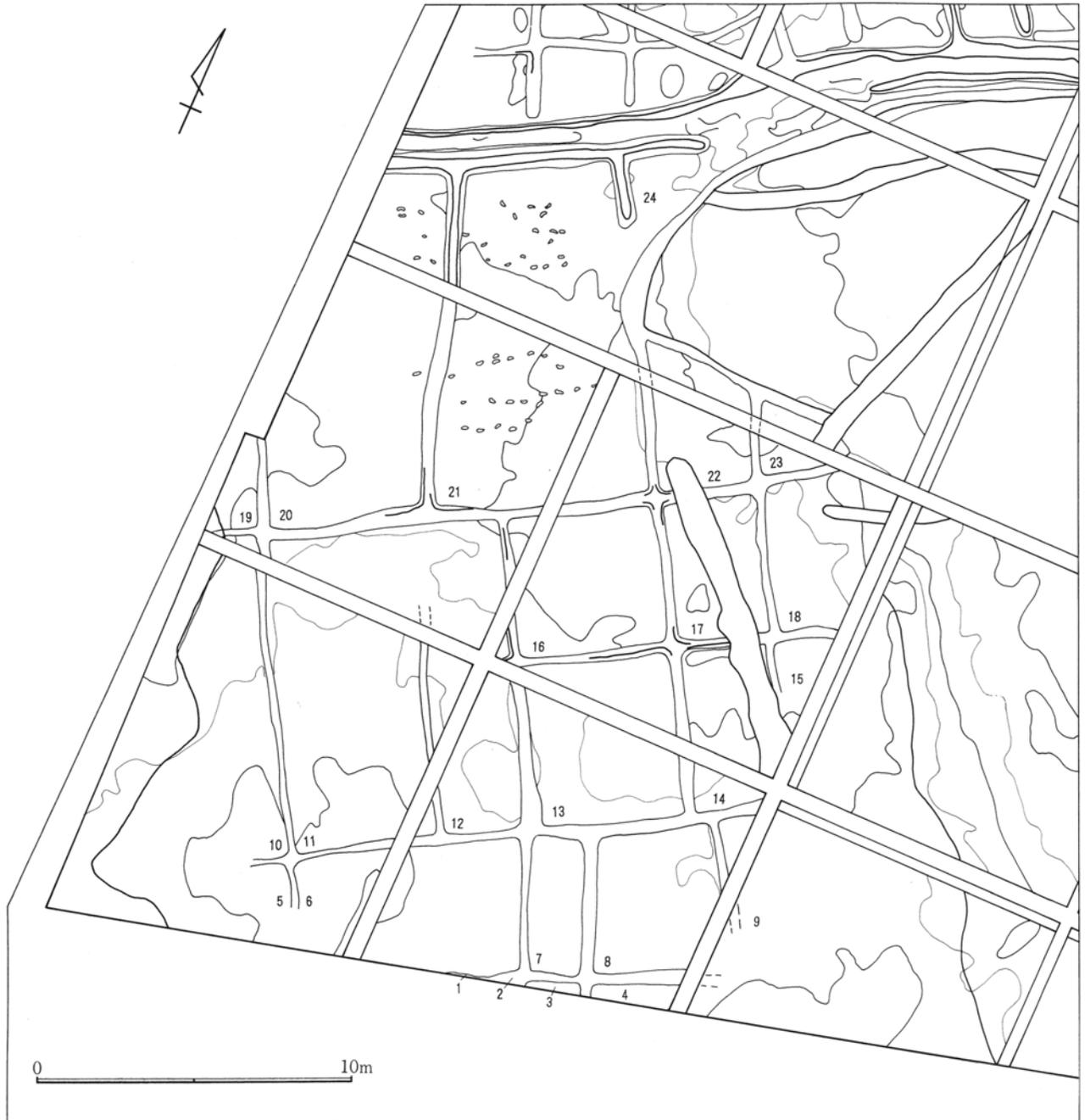
15：462×448cm

17：301×486cm

19：490×1095cm

21：305×473cm

23：(259) × (204) cm



第154図の1 6-2-1号Hr-FA下水田 (S=1/200)



第154図の2 6-2-2号Hr-FA下水田 (S=1/200)

構造 本水田址は畦畔の連続性から区画1～8、区画9～17、区画18～23に大別され、通水もそれぞれに行われたと思慮される。尚、区画9～11と19・20は細分される可能性を有する。

また谷地形のためか区画は均一ではなかったが、区画17を基準とすると1/2 (区画7等)、2倍 (区画16や縦長の区画12等) のものや4倍 (区画11) の区画がなど一定の規格性が認められた。

(9) 6-2-2号Hr-FA下水田

(第154図、図版45)

概要 本水田址は6世紀初頭のHr-FAに被覆された小区画水田で、6区北西部に位置する。6-2-1号Hr-FA・FP泥流下水田に重なり、6-2-46号溝を挟んで南側に位置する1号Hr-FA下水田に続く幅17m以下の谷地形を区画するようにして造られている。

第2章 発見された遺構と遺物

通水は基本的には北から南の区画へ行われたものと想定されるが、水口を見ると区画28からは南の区画27と西の区画23から更に区画18へ、南端の46号溝沿いでは東から西への通水が確認されるなどその経路は複雑である。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)
〔確認範囲〕：28.2×26.4m

〔水田区画径〕	1 : (156) × 223cm	
2 : (157) × (506) cm	3 : (114) × (304) cm	
4 : 225×233cm	5 : 267×424cm	
6 : 205×388cm	7 : 479×188cm	
8 : 397×390cm	9 : 308×483cm	
10 : 190×186cm	11 : 227×255cm	
12 : 238×531cm	13 : 268×231cm	
14 : 244×272cm	15 : 217×395cm	
16 : 186×365cm	17 : 157×282cm	
18 : 130×301cm	19 : 200×319cm	
20 : 228×330cm	21 : 202×345cm	
22 : (342) × (415) cm	23 : 320×346cm	
24 : 280×212cm	25 : 216×323cm	
26 : 340×344cm	27 : 178× (169) cm	
28 : 180×147cm	29 : 192×184cm	
30 : 204×268cm	31 : 174×329cm	
32 : (138) × (146) cm	33 : 214× (221) cm	
34 : 182×124cm	35 : 148×520cm	
36 : (30) ×—cm	37 : (230) × (252) cm	
38 : 259×128cm	39 : (200) ×392cm	
40 : 416×381cm	41 : (336) ×359cm	
42 : 196×368cm	43 : 298× (439) cm	
44 : 280×381cm	45 : 246× (410) cm	

〔畦畔〕 下幅：59cm以下

〔水口幅〕	水田面1-4間：上幅：(22) cm
	水田面4-7間：上幅：(28) cm
	水田面10-13間：上幅：(29) cm
	水田面17-22間：上幅：45cm
	水田面18-23間：上幅：(88) cm
	水田面23-28間：上幅：29cm
	水田面27-28間：上幅：(27) cm

構造 本水田址の区画は45面を数えたが、その連続性から区画1-39と区画40-45に大別される。

前者は南北の畦を約2.1m幅での設定が窺われるが、地形の制約から区画7-9や22-25では扇形に広がり、逆に区画17-21ではその幅が狭まっている。また東西の畔は直線的な配置が窺われるが地形的に無理が生じ、東では南北に狭く、西側では広くなる傾向がある。後者は東西3m程、南北4m程を測る比べて均一の区画として設定されている。

(92) 6-2-3号Hr-FA下水田

(第155図、図版46)

概要 本水田址は6区南東隅部に位置するHr-FAに被覆された極小区画水田である。

通水は水口の位置等から北西-南東列毎に南東方向に行われたと判断される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)
〔確認範囲〕：23.0×29.0m

〔水田区画径〕	1 : (54) × (69) cm
2 : (36) × (31) cm	3 : (64) × (48) cm
4 : (75) × 186cm	5 : 112×256cm
6 : (76) × 197cm	7 : 140×220cm
8 : 153×254cm	9 : 164×195cm
10 : 138×202cm	11 : (65) × 216cm
12 : 149× (202) cm	13 : 132×224cm
14 : 139×196cm	15 : 135×206cm
16 : 136×229cm	17 : 124×220cm
18 : (64) × (57) cm	19 : (36) × (86) cm
20 : 150×170cm	21 : 139×230cm
22 : 142×202cm	23 : 144×220cm
24 : 120×204cm	25 : 143×226cm
26 : 136×224cm	27 : (164) × 233cm
28 : (91) ×—cm	29 : (46) × (137) cm
30 : 112× (139) cm	31 : 240×156cm
32 : 140×224cm	33 : 132×194cm
34 : 132×224cm	35 : 137×202cm
36 : 143×226cm	37 : 136×220cm
38 : 136×248cm	39 : 143×209cm

第2章 発見された遺構と遺物

40 : (140) × 222cm	41 : 136 × (137) cm
42 : 132 × (182) cm	43 : 123 × 148cm
44 : 128 × 209cm	45 : 148 × 194cm
46 : 137 × 203cm	47 : 146 × 211cm
48 : 140 × 228cm	49 : 141 × 224cm
50 : 136 × 221cm	51 : 139 × 204cm
52 : 147 × 138cm	53 : 140 × (136) cm
54 : (112) × (211) cm	55 : (168) × 162cm
56 : 139 × 218cm	57 : 128 × 199cm
58 : 148 × 208cm	59 : 147 × 184cm
60 : 144 × 232cm	61 : 125 × 216cm
62 : 128 × 224cm	63 : 128 × (216) cm
64 : 126 × 224cm	65 : 144 × (115) cm
66 : (139) × 212cm	67 : 137 × 183cm
68 : 131 × 204cm	69 : 133 × 181cm
70 : 124 × 225cm	71 : 136 × 264cm
72 : 144 × 223cm	73 : 152 × (128) cm
74 : 148 × 227cm	75 : 145 × (100) cm
76 : (12) × (136) cm	77 : 145 × (190) cm
78 : 131 × 204cm	79 : 136 × 180cm
80 : 136 × 179cm	81 : 142 × 232cm
82 : 124 × 208cm	83 : 128 × 223cm
84 : 136 × (204) cm	85 : (71) × (158) cm
86 : (158) × 191cm	87 : (236) × 199cm
88 : 131 × 216cm	89 : 118 × 223cm
90 : 131 × 216cm	91 : 141 × 224cm
92 : 128 × (99) cm	93 : (116) × 244cm
94 : (74) × 211cm	95 : 125 × 200cm
96 : (48) × 228cm	97 : (40) × (64) cm

〔畦畔〕 下幅：27cm以下

〔水口幅〕 水田面50-51間：上幅：(22) cm
水田面60-61間：上幅：(16) cm

構造 本水田址は上下に圧平されて遺存状況は良好ではないが、北西-南東方向に1.4~1.6m間隔に直線的な畦を設け、この間を南西-北東方向の畔で区切って比較的整った方眼状のプランを見せている。

個々の水田区画はN33°に長軸を取る長方形プランを呈し、内径は平均で140×210cmを測った。

(93) 6-2-1号As-C混土水田

(第156図、図版)

概要 本水田址は6区東部に位置している。前述の6-2-3号Hr-FA下水田の下位層に於いて発見、調査された水田址であるが、使用面は既に失われて確認することはできず、耕土を取り除いたところで畦畔の痕跡、所謂擬似畦畔を確認した。

本水田址はその形状から推して谷地形を利用して造られたものと思慮されるが、その範囲は南・北・東の三方には広がるものの、西側はこれ以上広がらないようである。尚、西側には水路の隣接した可能性も考慮される。本水田址は小区画水田に区分されるもので、水田区画25面を数えることができた。

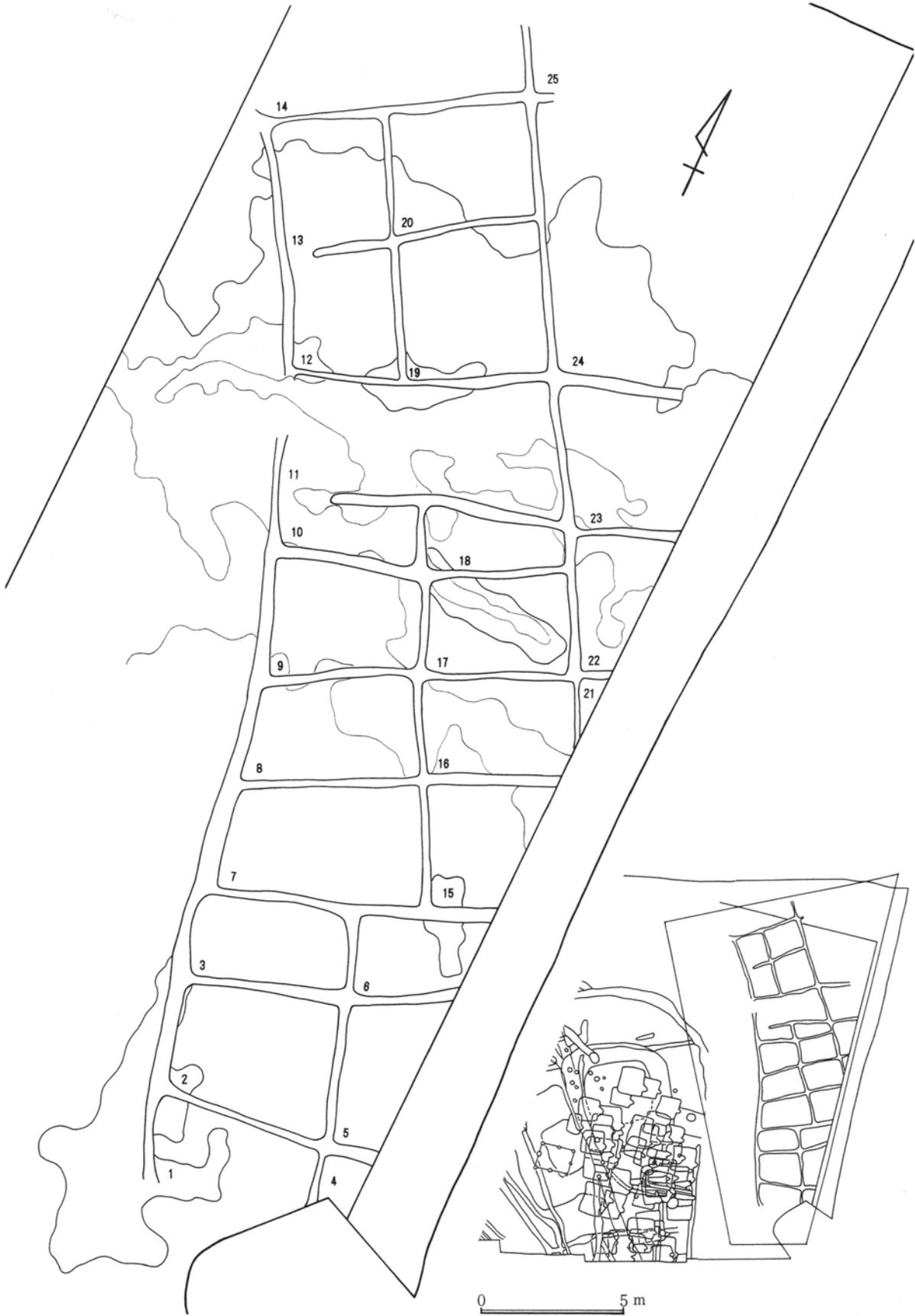
出土遺物は確認されず、開削時期や使用期間は特定されなかったが、As-C混土を耕作土としていること、及び3号Hr-FA下水田の下位に確認されたことから古墳時代前・中期の所産として把握される。

尚、通水は水口の位置や土地の傾斜から南北列毎に行われたと判断されるが、区画1~6と区画7~25では畦畔の不連続性から別の通水経路を持っていたものと思慮され、後者は更に区画11・23で更に分かれていた可能性も考慮される。

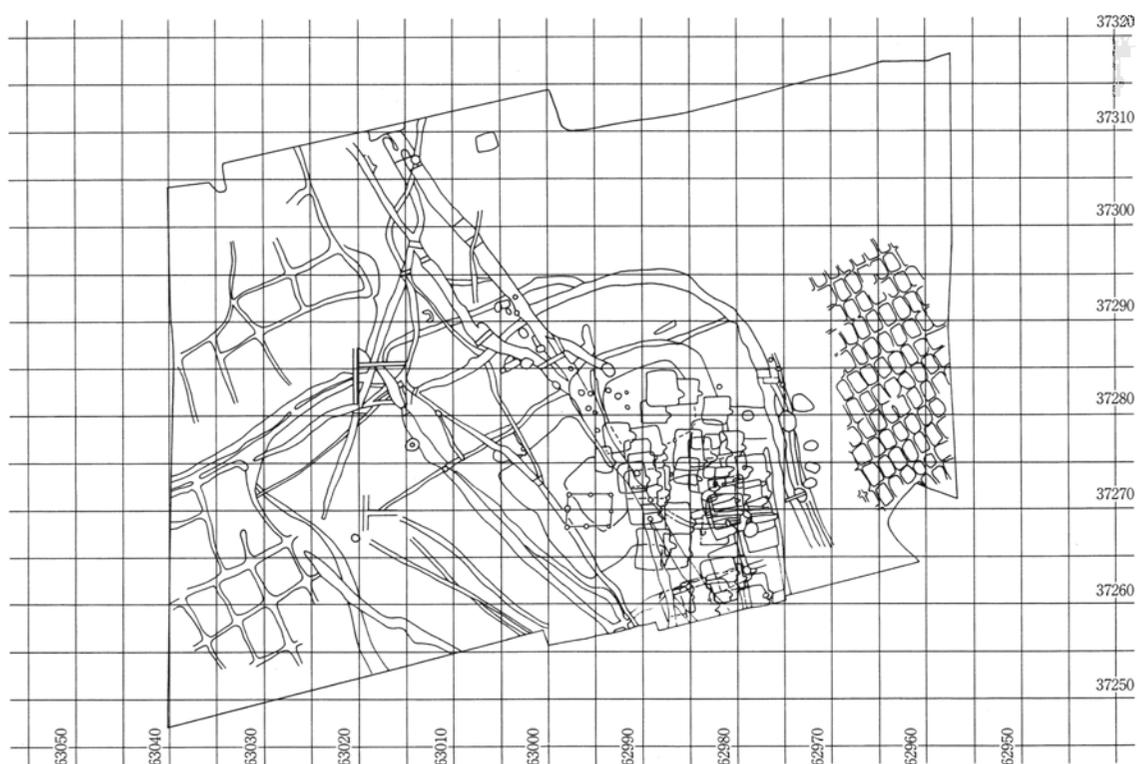
規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)
〔確認範囲〕：14.4×39.9m

〔〔水田区画径〕	1 : 584 × (307) cm
2 : 555 × 473cm	3 : 552 × 284cm
4 : (168) × (206) cm	5 : (351) × (544) cm
6 : (450) × 280cm	7 : 712 × 407cm
8 : 628 × 360cm	9 : 520 × 415cm
10 : 494 × 232cm	11 : 992 × 488cm
12 : 368 × 419cm	13 : 394 × 452cm
14 : (946) × (218) cm	15 : (446) × 426cm
16 : 532 × 340cm	17 : 500 × 352cm
18 : 488 × 229cm	19 : 486 × 529cm
20 : 495 × 424cm	21 : (100) × (244) cm
22 : (744) × 473cm	23 : (424) × 488cm
24 : (427) × (956) cm	25 : (73) × (224) cm

〔畦畔〕 下幅：cm以下



第156図 6-2-1号As-C混土水田 (S=1/200)



第157図 6区グリッド設定図

構造 上述のように本水田址は所謂擬似畦畔の存在によって確認された水田址であったため全容は詳らかでないが、6区中部から7区中・東部の微高地に対する60m幅程の低地部に造られている。本水田址の西側畦畔のラインは自然で、その西側に全く畦畔が確認されないため、ここが西際と判断される。

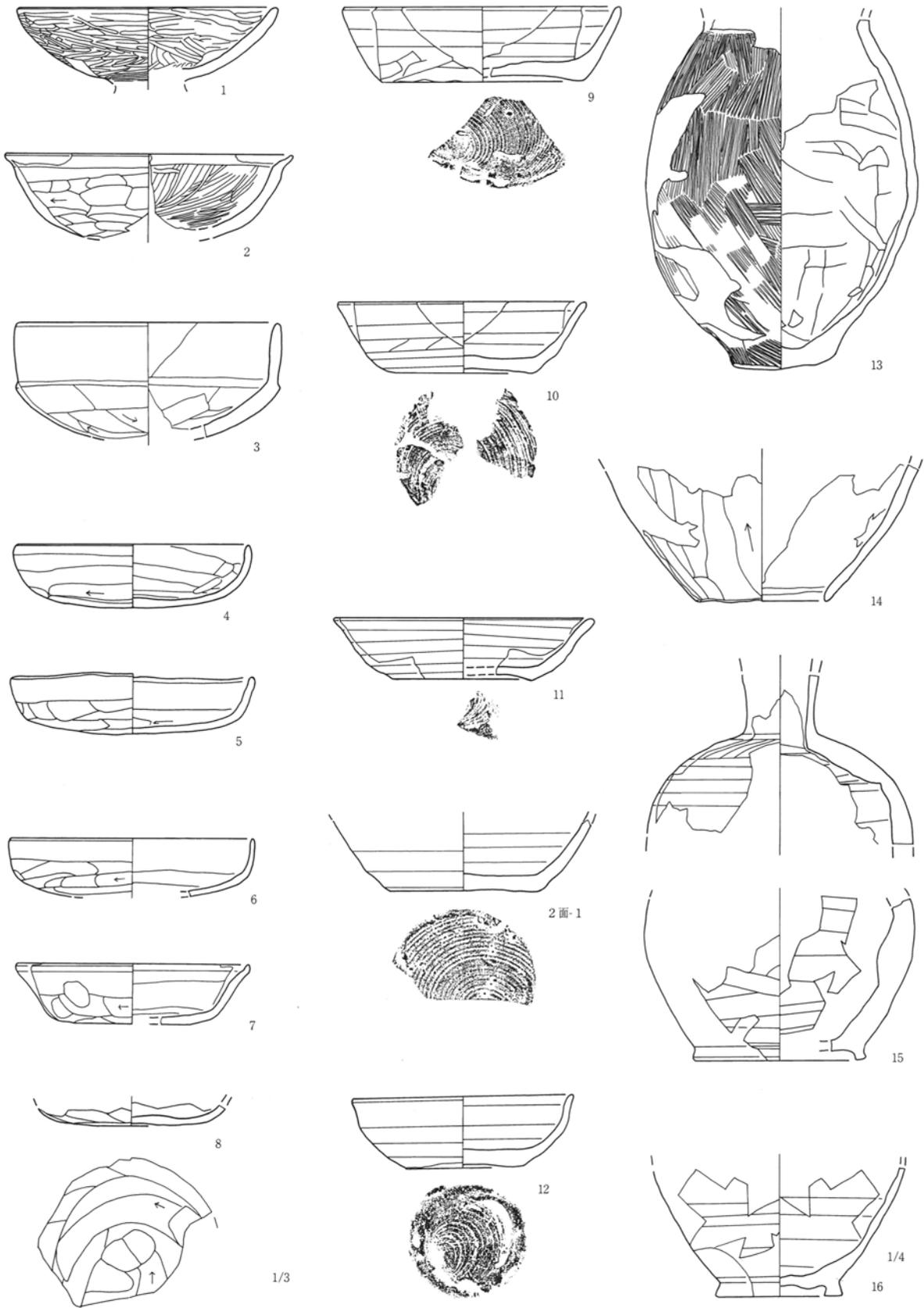
本水田址は基本的に5～6m間隔に北西-南東走向の畦を設置し、その間を2～5m間隔に仕切って小区画を造っている。また大畦畔は確認されないが、南寄りの区画3・6と区画7・15の間には北西-南東そこうの畦のラインにズレがあり、ここが大区画の境になるものと判断される。尚、小区画のプランは横長の長方形のものが多く、正方形プランのものや地形による歪みを補正するように設けられた台形プランのものもある。

尚、区画10と11の間には216cm、12と13の間には87cmの幅で、それぞれの西寄りには、水口の痕跡かと思われる畔の切れ目が残る。

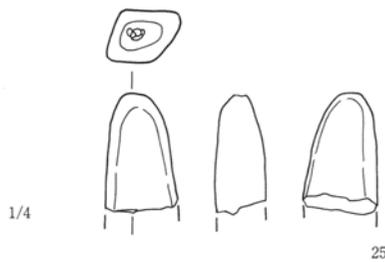
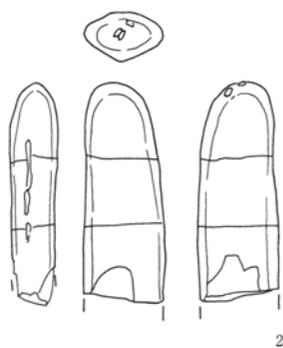
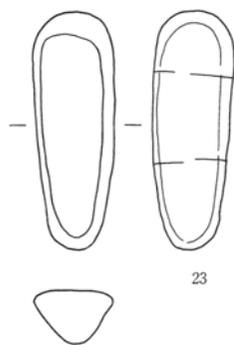
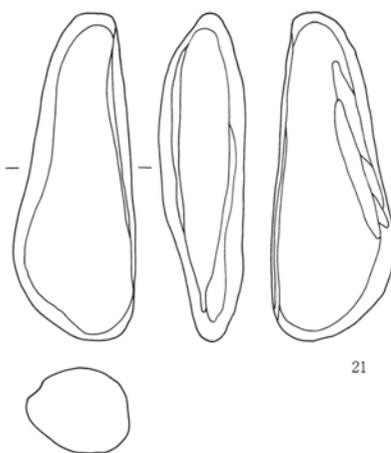
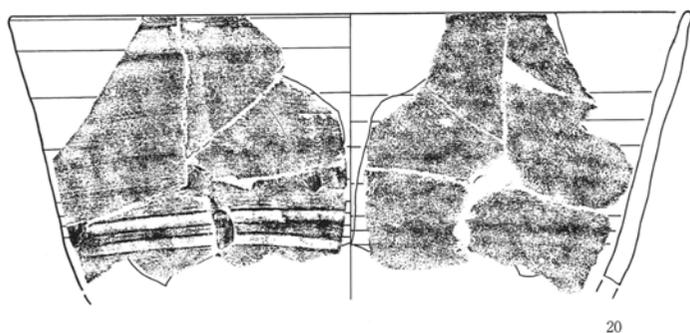
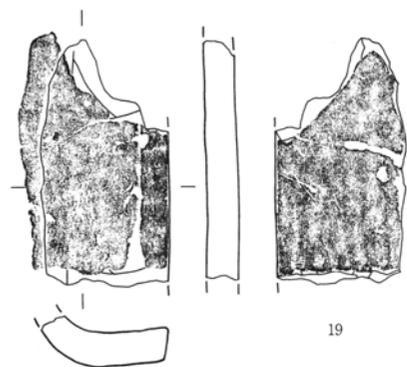
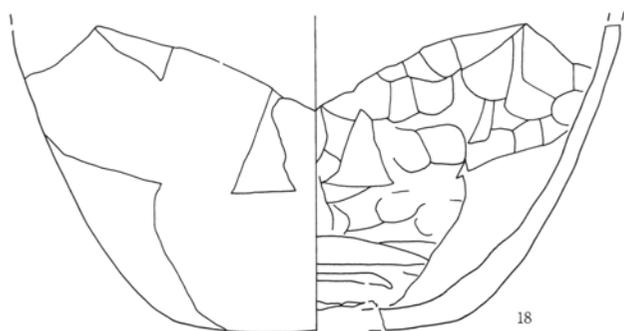
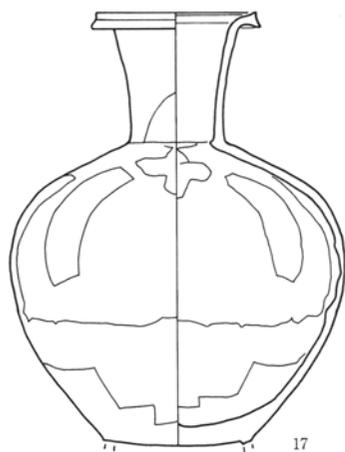
(94) 6区2面遺構外の出土遺物

(第158～160図、図版71～73)

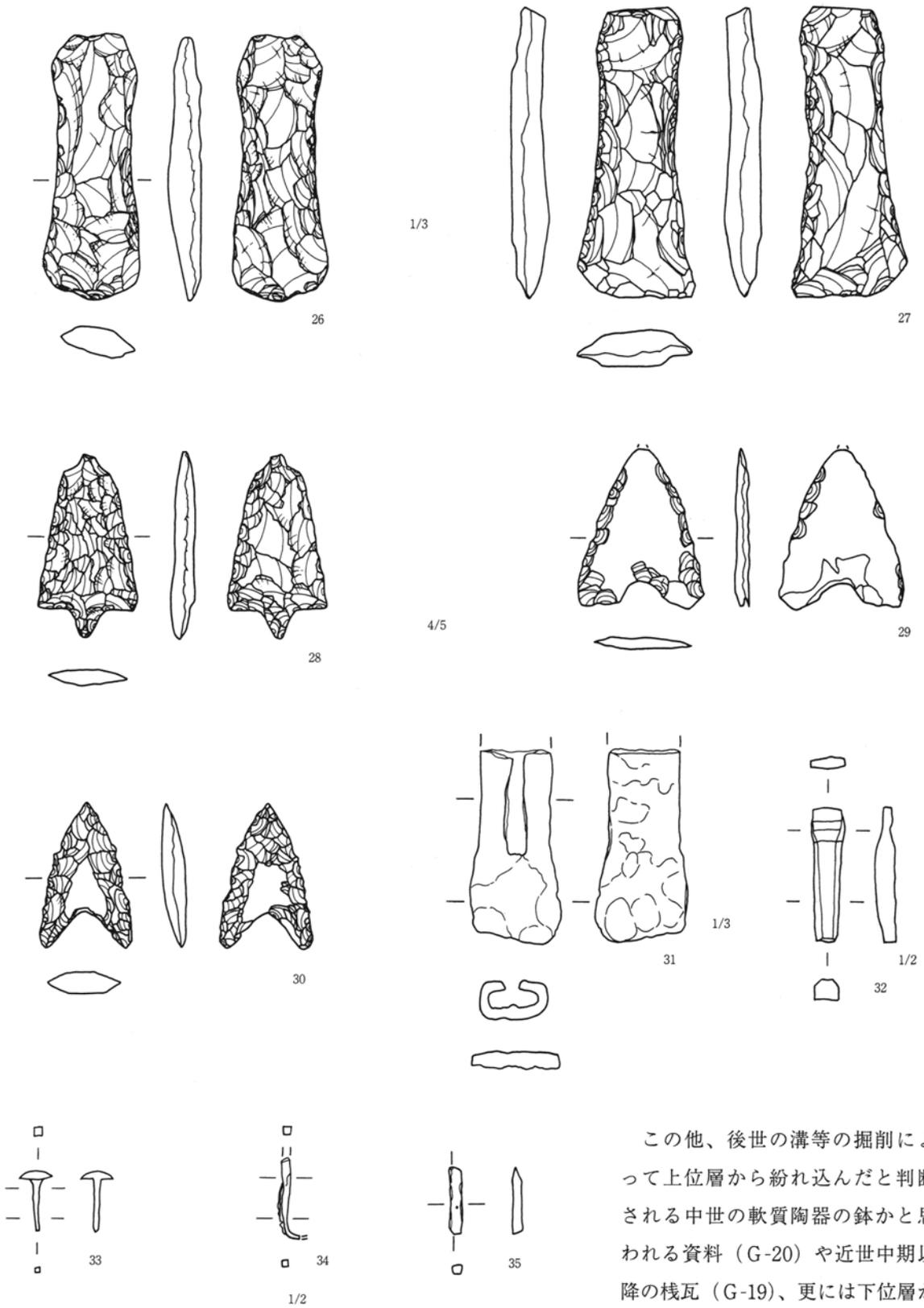
概要 6区2面に於いては、遺構外の出土遺物として、古墳時代から律令期に至る時期の土師器片を中心とした多数の出土遺物を得たが、この中には4世紀の土師器器台(G-1)、5世紀の土師器甕(G-13)、6世紀の土師器の坏(G-2)・坏(G-3)・甑(G-14)、8世紀の土師器坏(G-4・5)や須恵器坏(G-9)、9世紀の土師器坏(G-6～8)や須恵器の坏(G-10・11・2面-1)・高台付碗(G-12)・長頸壺(G-15)・甕(G-18)、灰釉陶器長頸部壺(G-16・17)なども見られた。このうち特にG-16の長頸壺は原始灰釉であり特筆される。またこれらと同時期の所産である可能性を持つ川床石をそのまま使用した砥石(G-21～24)や有袋式の斧(G-31)、玄能からの転用の可能性が考慮される柄穴のない小型の金鍬(G-32)、鉄鋌(G-33)或いは角釘(G-34・35)などの出土も見られた。



第158図 6区2面遺構外の出土遺物（その1）



第159図 6区2面遺構外の出土遺物（その2）



第160図 6区2面遺構外の出土遺物（その3）

この他、後世の溝等の掘削によって上位層から紛れ込んだと判断される中世の軟質陶器の鉢かと思われる資料（G-20）や近世中期以降の棧瓦（G-19）、更には下位層からの打製石斧（G-26・27）、石鏃（G-28～30）、或いは敲石（G-24・25）などの出土も見られた。

6-6 6区3面の調査

(1) 遺構確認調査 (第161図)

概要 6区に於いては2面の調査終了後As-C混黒色土層下の黒色土下面、即ち褐色土の上面を以って第3面の確認面とし、遺構確認の調査を行った。調査範囲は6区のうち中部の微高地を中心とする区域、1,400m²程である。

遺構確認の結果、調査範囲の南東部に於いてAs-C混黒色土を覆土とするものと2面の掘り残しのピット合わせて8基確認した他、調査範囲全体で後述する風倒木群を確認した。

このうちピットは記録に不備があるため、「←」で示したピットが遺物の出土から上位面の所産と判断される他は、上位面の掘り残しかAs-C混黒色土を覆土とするものか、或いは人為的か立木や根の痕跡かを特定することもできなかった。尚、これらのピットは径10~30cm程、深さは8~34cm(平均19cm)を測った。

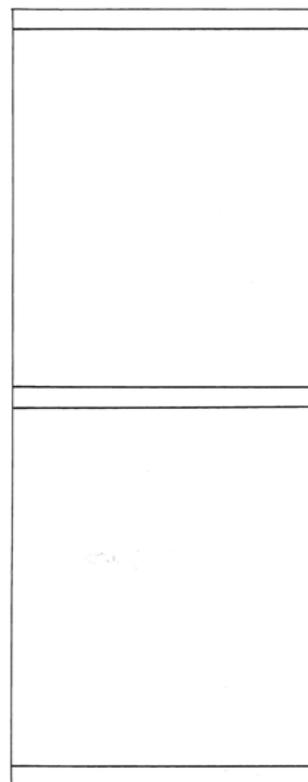
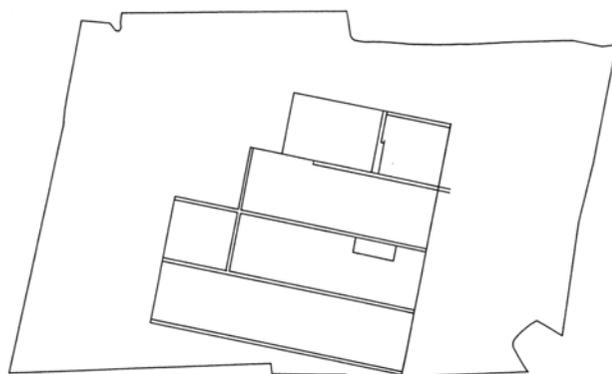
上記のピットと風倒木以外、3面に於いては明確な遺構は確認されなかったため、3面の調査は調査範囲の確認調査に留め、一部に於いて下位層も含めた堆積土壌の観察を行った上で調査を完了した。

(2) 風倒木痕 (第161・162図、図版47)

概要 6区3面では風倒木痕37基を確認した。これらは調査範囲のほぼ全体に分布していたが、大きくは北部、南東部、南西部の3グループに分けられ、北部に17基、南東部に4基、南西部に16基を数えた。尚、これらの風倒木痕に対しては調査期間に鑑みて、南西の風倒木群の中程に位置する1基のみ断面観察を行うに留め、本格的な掘削等は行わなかった。また、断面観察を行った1基以外の風倒木痕に対してはプランとその位置を記録するに止めた。

さて、断面観察を行った風倒木痕からの出土遺物はなく、覆土の観察から弥生時代以前の完新世の所産とできるだけ、詳細な時期は特定できなかった。尚、倒木方向は断面の状態から西向きと判断された。

また、他の風倒木痕については上述のように覆土の確認も行われず、確認面の状態の記録も充分ではなく且つ、出土遺物も見られなかったため倒木時期も古墳時代前期以前の所産とできるだけ細かくは特定できなかった。また倒木の方向も特定することはできなかった。

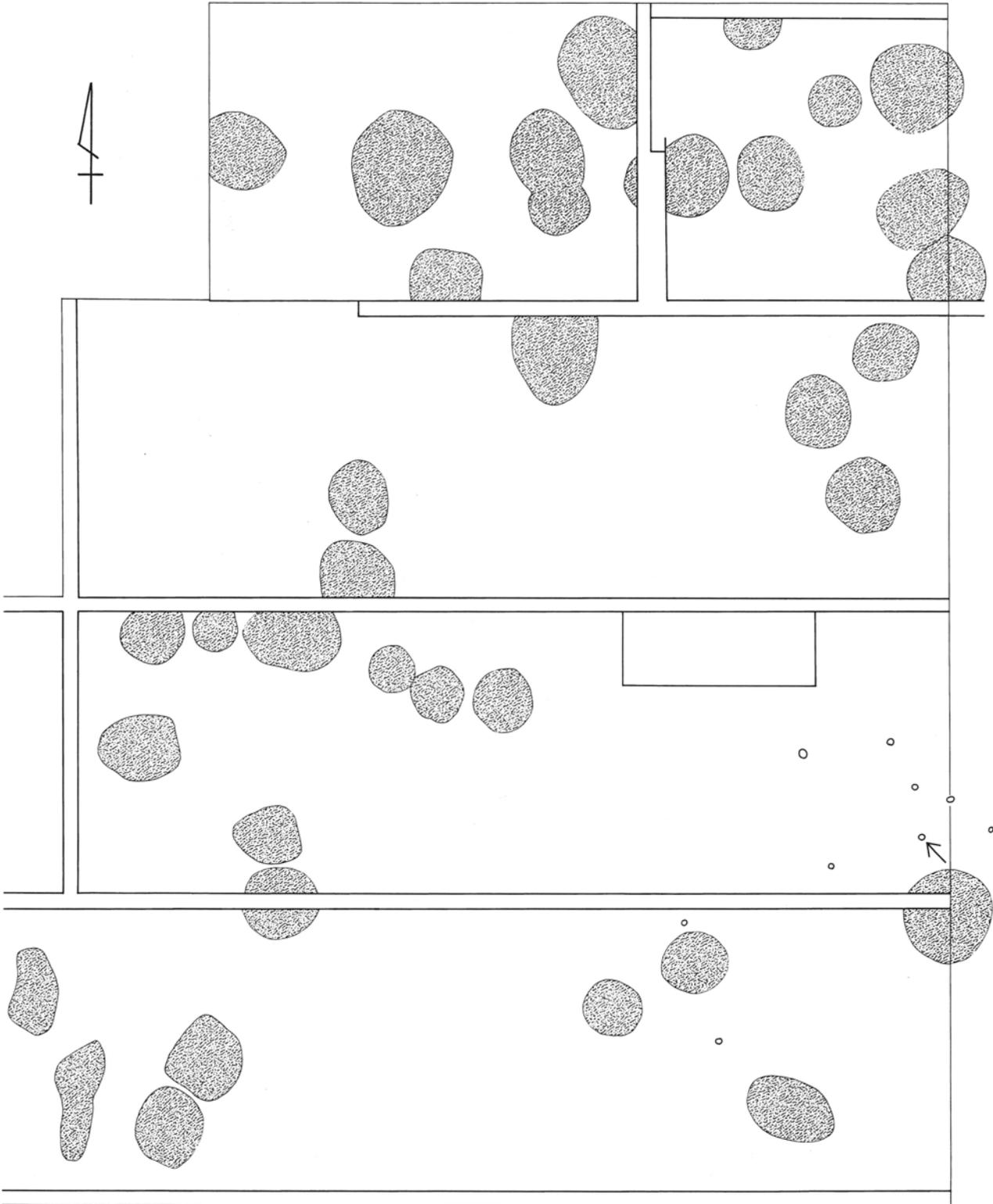


第161図の1 6区3面全体図

(3) 下位層の確認 (第162図、図版47)

概要 6区3面では調査範囲の中央やや南西寄り1ヶ所と東寄りの2箇所を下位層に対する掘削と土層

の観察を行った。その結果、最終的に表土層から洪積層中までの土層を観察できたが、特に微高地部では前橋泥炭層までの土層を確認することができた。



第161図の2 6区3面全体図 (S=1/200)

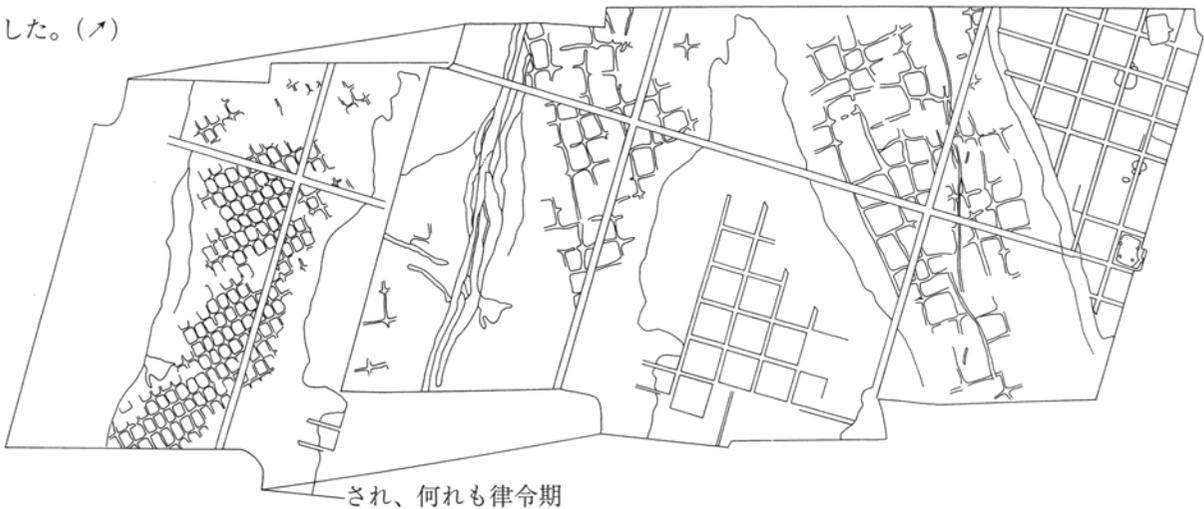
第3節 7区の遺構と遺物

7-1 7区の調査概要

7区はA状に谷地形が入り、3面の調査を実施した。

1面では天仁元年埋没のAs-B(1108)水田、平安時代末葉～江戸時代中期の道路11条、溝14条、土坑9基、耕作痕と水田面、近世後期以降の溝10条、土坑2基等を調査したが、全ての道路と溝11条、土坑5基、耕作痕と水田址1面は中世の所産であった。尚、中世の土坑2基は処理の都合から3面に報告することとした。(ノ)

2面では6世紀以降の竪穴住居6軒、溝10条、Hr-FA・FP泥流埋没水田とHr-FA下水田を調査したが、竪穴住居3軒は概ね8世紀末葉～9世紀(前半期)の所産と確認(ノ)



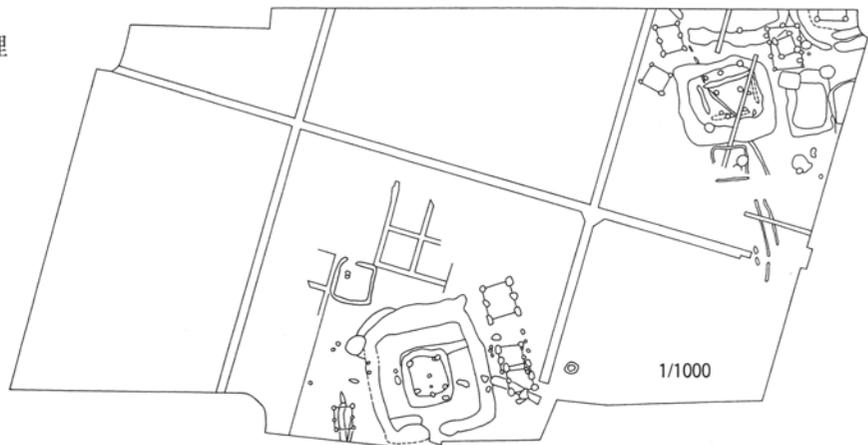
され、何れも律令期

の溝のうち7条は9世紀頃の所産と確認した。

尚、図面記録のない14号住居は写真だけを掲載し、2面に属すべき土坑1基と律令期の溝1条と井戸1基は処理の都合から3面の項に含めた。

3面では3世紀末葉から5世紀の周溝を持つもの4軒を含む竪穴住居6軒、平地式住居2棟掘立柱建物8棟、溝1条、竪穴状遺構1基、土坑11基、井戸2基を調査した。(ノ)

このうち全ての竪穴住居、平地式住居はと土坑2基、井戸1基は3世紀末葉の所産であった。



1/1000

7-2 7区1面の遺構と遺物

(1) 7区1面の道路遺構

(第163・164図、図版74)

概要 7区中南部に於いては1～11号の11条の道遺構を調査した。このうち2・3号道、5・10号道、6・10号道、7・8号道は重複或いは分岐するものであるが、その新旧は特定できなかった。尚、8号道はその位置から11号道に続く可能性を有する。

これらの道のうち2・5号道からは須恵器片等の出土を見たが、2・5号溝を含め時期の特定には至らなかった。しかし記録が不十分で詳らかではないが、覆土から7・10号道は11世紀初頭、8号道は概ね中世の所産と認識される。他の道の時期は不明だが、何条かはAs-Bで被覆された可能性があり、また7・8・10号道

との走行の近似からこれらは概ね中世の所産と推定している。

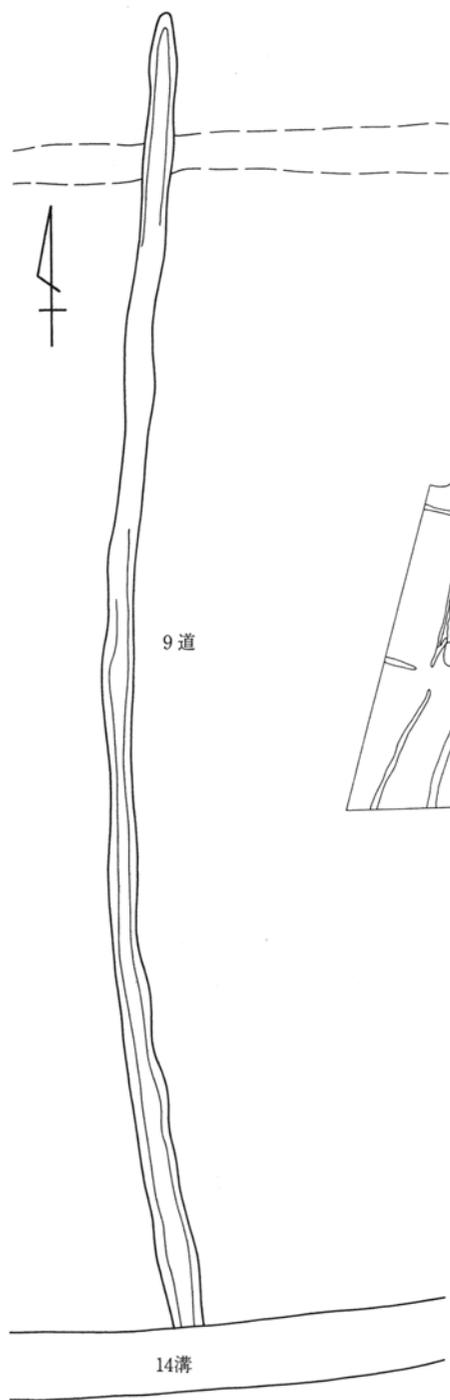
1～11号道はその規模から農道と認識される。その

設置は5・8・9・11号道がやや条里方眼を意識しているように窺えるものの、全体としては地形に合わせた設置となっている。

規模 (1号道)長さ:13.8m 幅:56cm 深さ:4cm
(2号道)長さ:12.2m 幅:72cm 深さ:5cm
(3号道)長さ:(4.2m) 幅:56cm 深さ:9cm
(4号道)長さ:(5.6m) 幅:48cm 深さ:2cm
(5号道)長さ:(5.0m) 幅:40cm 深さ:2cm
(6号道)長さ:(5.0m) 幅:72cm 深さ:5cm
(7号道)長さ:13.8m 幅:72cm 深さ:6cm
(8号道)長さ:(25.1m) 幅:88cm 深さ:9cm

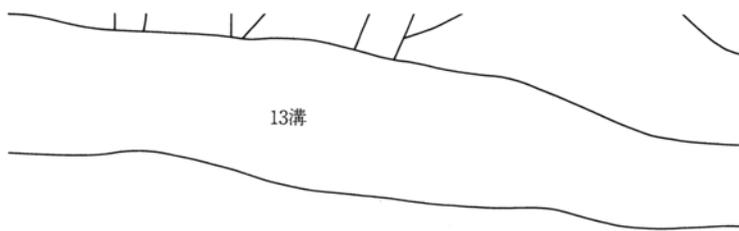


第163図の1 7-1-7・8号道



構造 道遺構の走行の方向は大きくは1・2・4・6・7号道と3・5・8～11号道とに分けられ、前者は北東-南西方向、後者は南北方向に取る。またプランは短く直線的な3・11道を除き、他は8・9道が西に膨らみを持つ以外は東乃至南東に膨らみを持つ弧状のプランを描いている。

その形態は何れも通行による自然の沈降による浅い溝状を呈し、側溝等は伴わない。



(9号道) 長さ：14.0m 幅：36cm
深さ：2cm

(10号道) 長さ：(8.4m) 幅：88cm
深さ：12cm

(11号道) 長さ：3.2m 幅：64cm
深さ：8cm

第164図 7-1-9・11号道

第3節 7区の遺構と遺物

(2) 7-1-1号溝 (第165図、図版74)

概要 本溝は7区北東部に位置する。

7-1-2・4号溝と重複するが、本溝の方が新しい。また本溝は東側に於いて第3分冊で報告する予定の8区1面の3号溝(8-1-3号溝)に接続している。

本溝からは古墳時代以降の土師器片等の出土遺物を得られたのであるが、本溝は昭和40年代の圃場整備時に一気に埋められており、概ね近代以降の所産として把握されるものであった。

また底面近くには“のろ”状に土壤の堆積があったため、圃場整備以前は窪地となっており、また滞水のあったことが窺われるのであるが、本溝は水路ではなく区画溝として把握されるものである。

規模 長さ：53.7m 幅：144cm 深さ：48cm



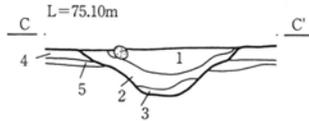
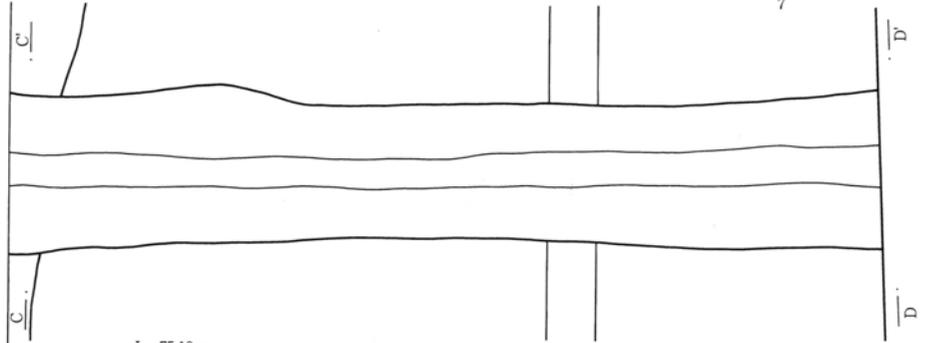
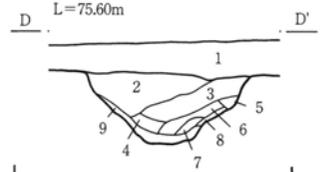
第165図の1 7-1-1号溝

第2章 発見された遺構と遺物

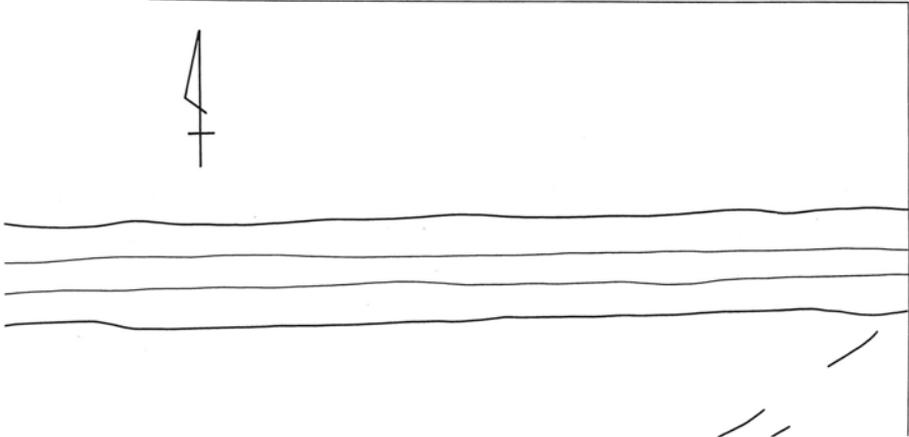
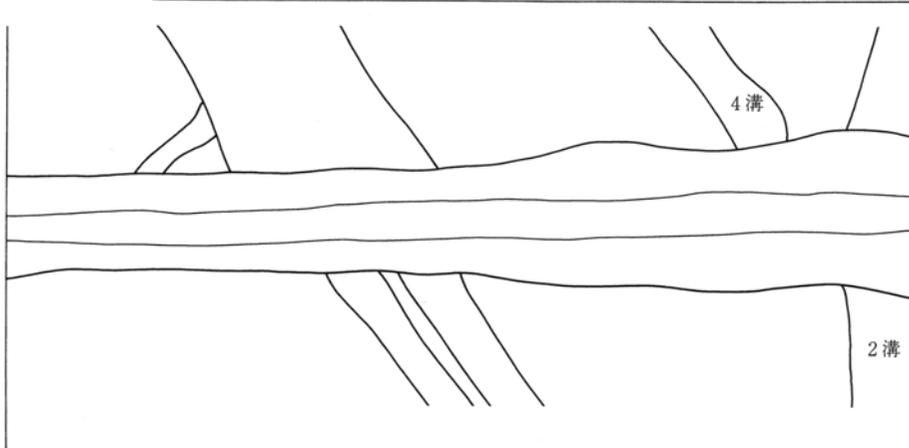
構造 本溝は北側が路線外に出ているためその全容は詳らかでないが、7区内ではL字状のプランを呈し、8-1-3号溝と合わせると鋸形のプランとなっている。その走行は東西及び南北を向く。

掘削形態は箱堀状を呈している。また底面を観察するとL字コーナー部分が尤も高く、北及び東側に向かって傾斜しているが、通水は東側が多かったものと認識される。

[現耕作土] 1：褐灰色土
 [1号溝覆土] 2：褐灰色土：As-Aと礫ビニールなど混入
 3：褐灰色土：As-Aと黄褐色シルト粒混入 4：褐灰色土：礫・ビニール混入。3層に比し粘性有り 5：褐灰色土：As-Aと小礫混入 6：灰黄褐色土：僅かにAs-A混入。粘性有り 7：黒褐色土：褐灰色シルト混入 8：黒褐色土：僅かに褐灰色シルト混入。7層に比し粘性有り 9：灰黄褐色土：褐色シルト混入。底面にのろ状に堆積



[1号溝覆土]
 1：褐灰色砂質土：As-A混入、大礫とビニール等混入 2：褐灰色砂質土：As-A混入
 3：褐灰色粘質土：As-C混黒色土混入
 [2号溝覆土] (As-A多く混入)
 4：褐灰色土 5：褐灰色土：4層土とAs-C混黒色土混入



第165図の2 7-1-1号溝

(3) 7-1-5・11号溝 (第166・167図、図版74)

概要 7-1-5・11号溝は7区北東部に位置する。5号溝は低地部と微高地の境付近に掘削され、11号溝はその15m程東に平行な位置に掘削される。

5号溝からは多くの、11号溝からは若干量の古墳時代以降の土師器・須恵器片等出土した。しかし5号溝は覆土にAs-Bを多量に含むことからAs-A降下後比較的早い段階の所産、11号溝は中世の洪水層土や耕作土より古い時期の所産として把握される。

両溝共に流水の痕跡も確認されず、掘削目的を特定することはできなかった。

規模 (5号溝) 長さ：18.6m 幅：64cm 深さ：8cm

(11号溝) 長さ：16.6m 幅：64cm 深さ：17cm

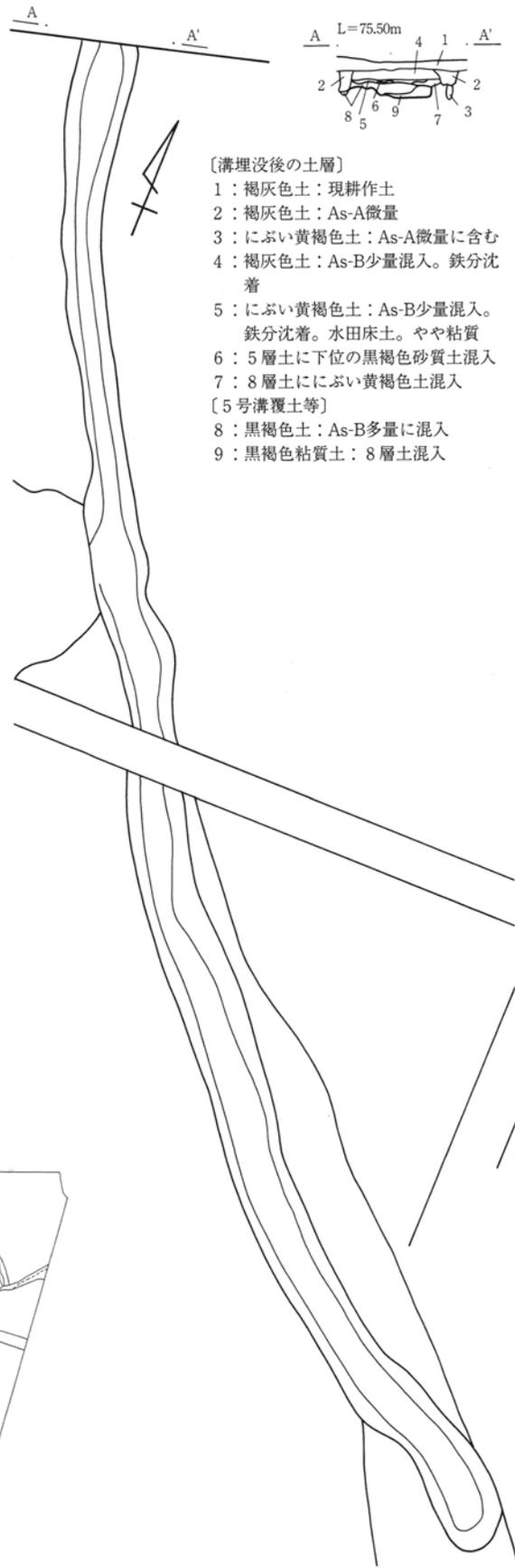
構造 5・7号溝は北北西から北東に走行する西に膨らむ弧状のプランを呈する。

5号溝は箱堀状、11号溝はやや薬研堀に近い掘削形態を呈するが、共に幅員には凹凸がある。

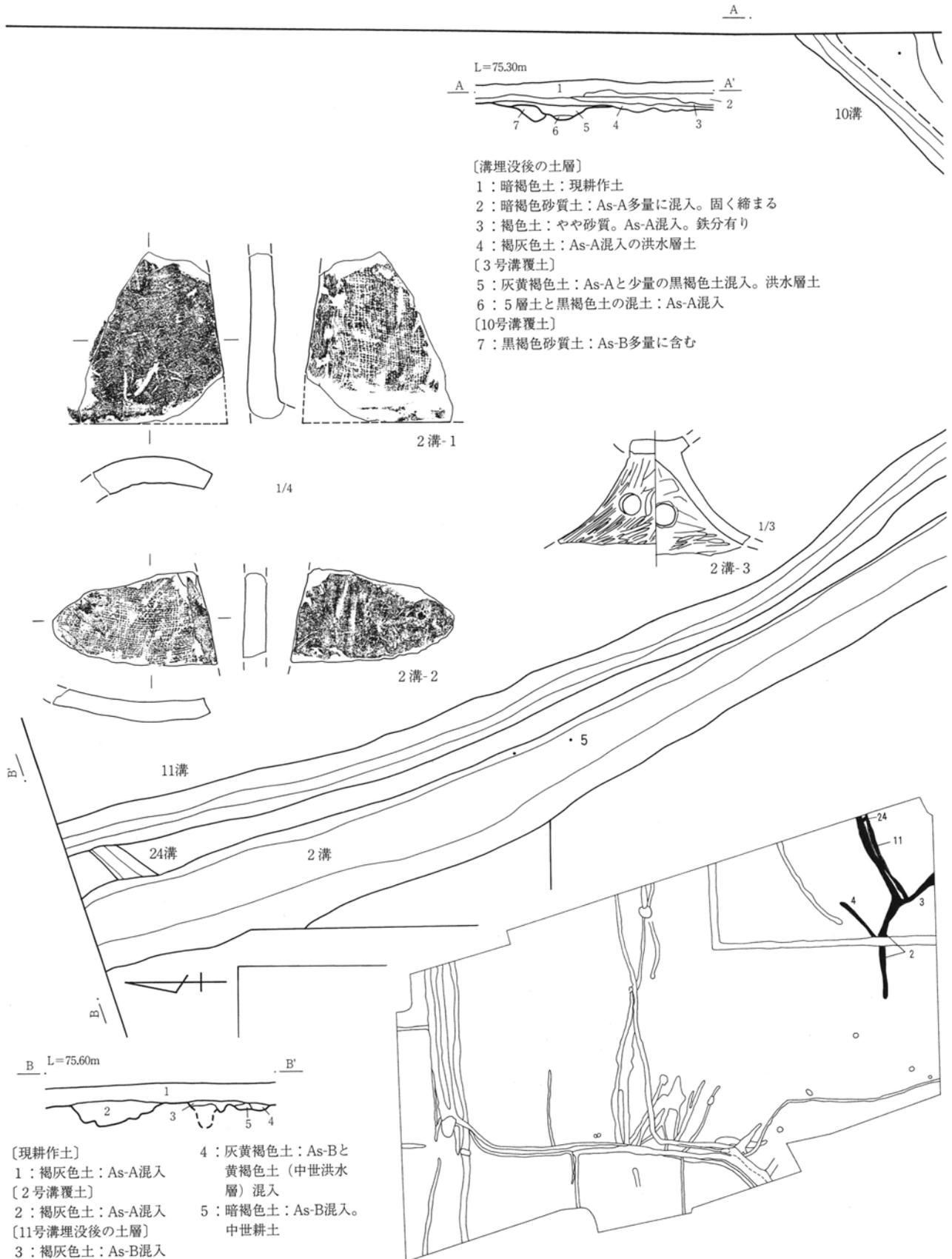
(4) 7-1-2・3・10号溝 (第167図、図版74・87・110)

概要 7-1-2・3号溝は7区北東部に位置する。3条の溝は重複するが、2・3号溝の新旧等は確認できなかったが、両溝は10号溝より新しい。

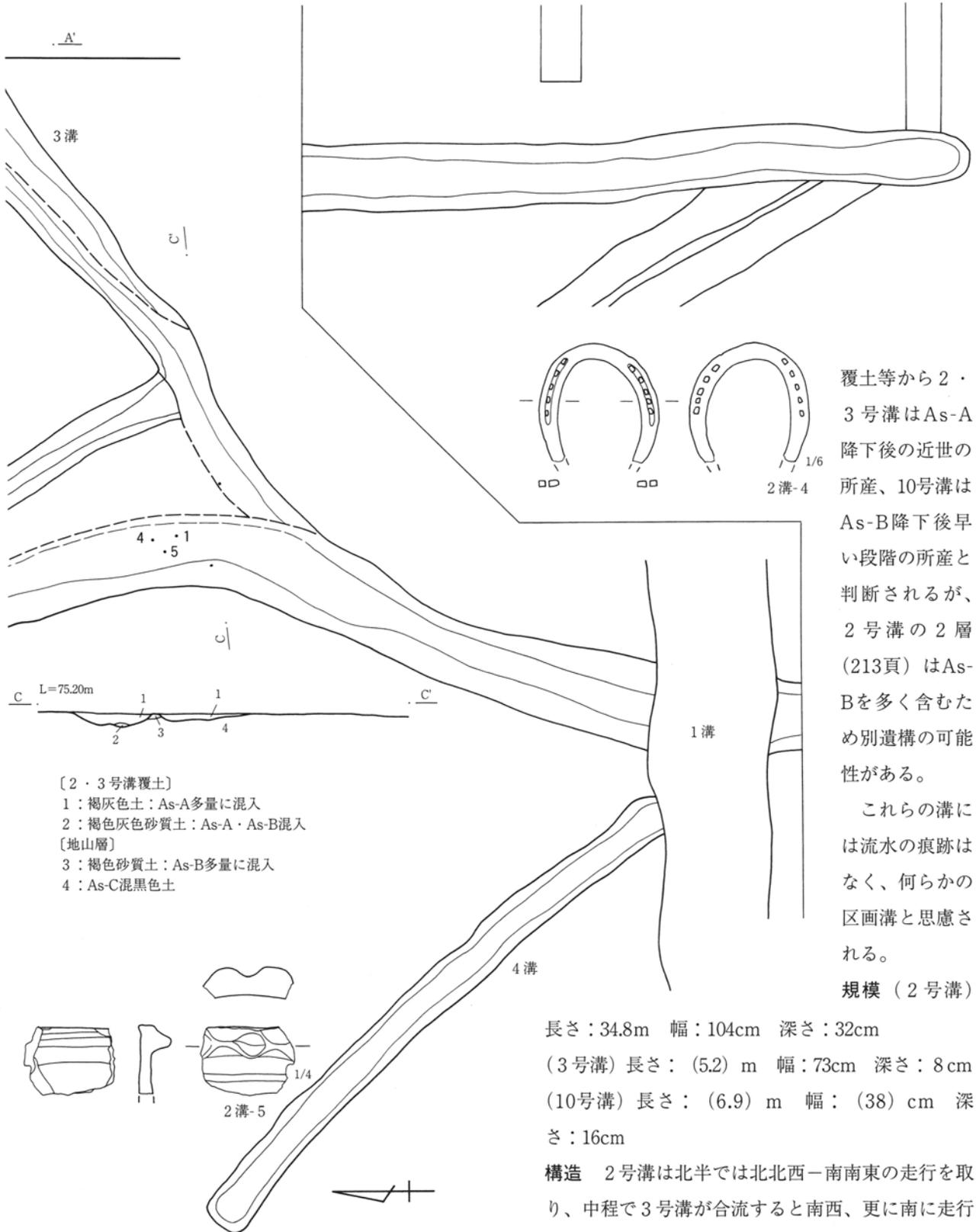
10号溝に出土遺物はなく、2・3号溝からは古墳時代以降の土師・須恵器片等出土したが、2号溝に多く、律令期の軒丸瓦(1)や女瓦(2)、4世紀の土師器高杯(3)或いは馬蹄(4)も見られた。尚、



第166図 7-1-5号溝



第167図の1 7-1-2・3・10・11・24号溝と出土遺物



覆土等から2・3号溝はAs-A降下後の近世の所産、10号溝はAs-B降下後早い段階の所産と判断されるが、2号溝の2層(213頁)はAs-Bを多く含むため別遺構の可能性はある。

これらの溝には流水の痕跡はなく、何らかの区画溝と慮される。

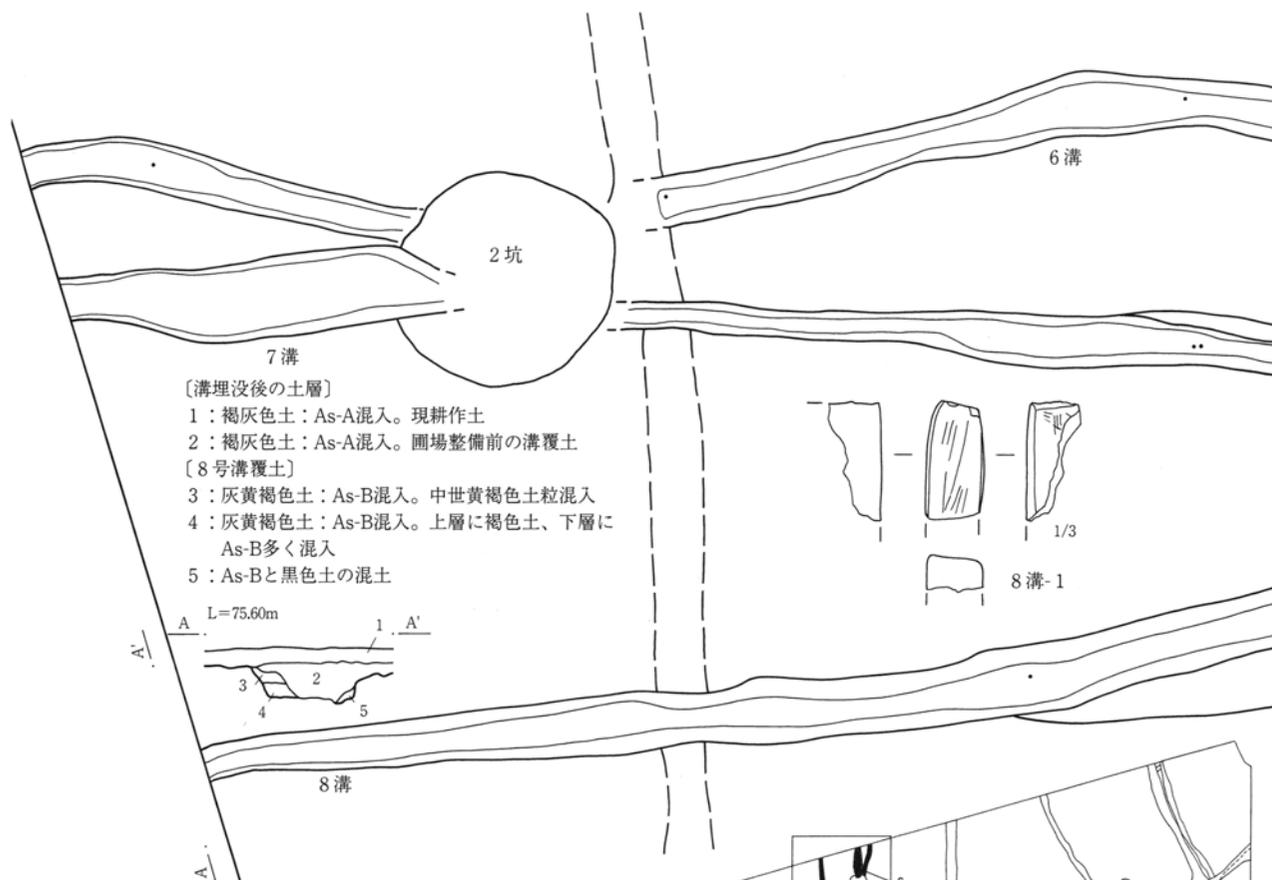
規模(2号溝)

長さ：34.8m 幅：104cm 深さ：32cm
 (3号溝) 長さ：(5.2) m 幅：73cm 深さ：8cm
 (10号溝) 長さ：(6.9) m 幅：(38) cm 深さ：16cm

構造 2号溝は北半では北北西-南南東の走行を取り、中程で3号溝が合流すると南西、更に南に走行を変ずる。そのプランは北半では西に膨らむ弧状を呈し、南半ではく字状を呈する。3・10号溝は北東-南西走行の直線的なプランを呈する。

掘削形態は共にやや薬研堀に近い箱堀状を呈する。

第167図の2 7-1-2・3・4・10・11号溝と出土遺物



(5) 7-1-4・24号溝(第167図、図版74)

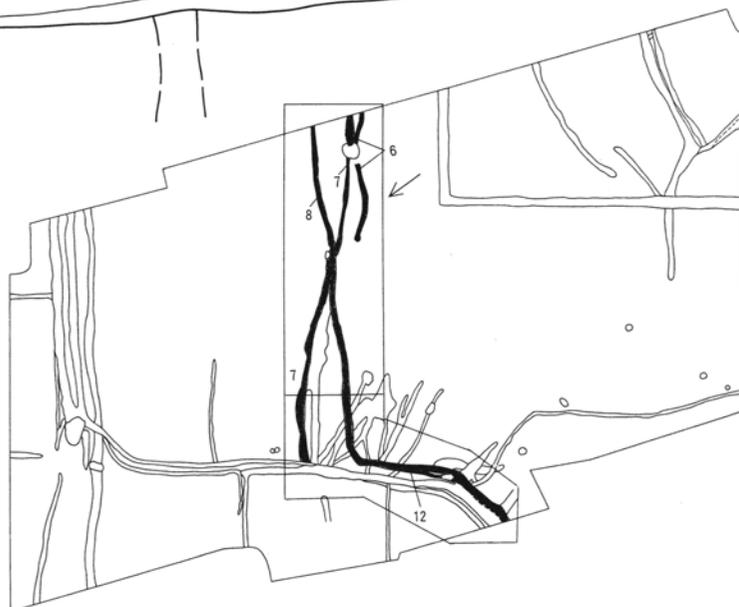
概要 7-1-4・24号溝は7区北東部に位置する。4号溝は7-1-1号溝と重複し、24号溝は7-1-2・11号溝と切り合うが、共に新旧を特定することはできなかった。

4号溝からは古墳時代～律令期の所産である若干の遺物を得たが、時期の特定には至らなかった。また4・24号溝は覆土の記録も残せなかったため、凡そ中世以降の所産として把握できるに過ぎなかった。

両溝の掘削意図も特定することはできなかった。

規模 (4号溝)長さ：8.5m 幅：60cm 深さ：8cm
(24号溝)長さ：(0.8)m 幅：40cm 深さ：8cm
構造 4号溝は北西―南東方向に走行を取り、24号溝は東北東―西南西に走行を取って共に直線的なプランを呈する。

4・24号溝の掘削形態は箱堀状を呈する。



第168図の1 7-1-6～8号溝と出土遺物(その1)

(6) 7-1-6・7・8・12号溝

(第168・169図、図版74・87・110・111)

概要 7-1-6～8・12号溝は7区中部に位置する。

7号溝は6・8号溝と交差し8号溝は12号溝と並走するように重なるが、何れも新旧を特定することはできなかった。また、7・8号溝は7-1-8号道と、7号溝は7-1-14号溝と重複するがこちらも新旧を特定することはできなかった。